科目コード	アメリカの文化と言語Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1091		１年	ＳＲ
教員名	小笠原眞紀、緒方玲子、志手和行、高橋みどり、茂木隆資、山口敬雄		

科目概要

これからの国際社会に対応していくためには世界的公用言語である英語でのコミュニケーション能力が必要である。高校までの暗記を中心とした受験英語や学習とは違い、表現力を重視した、読む・書く・聴く・話す、の四技能を養い、実用的な英語を使いこなすためには、日本語とは異なる英語の言語学的特徴（発音、文法、語法等）を理解することが大切である。また、英語という言語の背景にある、主にアメリカを中心とした英語圏の文化の理解にも重点を置く。

学修内容

1	学修の始めに、レポート設題と科目終了試験学修のポイントを熟読すること。 この科目は、レポート、科目終了試験ともに、まず英文テキストの日本語での要約が求められる。自習作業での翻訳作成のほかに、スクーリング授業での教員や他の学生の日本語訳も参考にして、レポート設題と科目終了試験学修のポイントの章を日本語訳する。さらにその翻訳の文章のポイントを絞って、「要約」を作成する。レポートには、まずこの「要約」を記述し、そのあとに設題の後半に求められている意見を論述する。
2	［レポート設題の求める解答記述の作成に際して］ 【設題１】８章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。 まず、英文テキストの「要約」記述に際しては、テキスト p.72 の注を活用し、また以下のキー・ワードの訳に注意すること。 civil rights movement=公民権運動　racist=人種差別主義者（race=人種、racism=人種差別主義）　nonviolent=非暴力 segregate=人種分離（人種隔離）する　bus boycott=バス乗車拒否運動（バスボイコット）　racial inequality=人種的不平等　“I Have a Dream”=「私には夢がある」　civil Rights legislation=公民権法　national holiday=国の祝日
3	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その 1］ アメリカの奴隷制は、南部の州を中心として広がりつつあった。同じアメリカ国内でありながら、なぜ東部や北西部の州では奴隷制がなく、南部諸州に集中して施行されたのか、それら南部の州の社会的特徴を調べ、理由を考えると良い。 またアメリカの歴史における人種差別の推移（イギリス植民地からの独立と奴隷制施行→南北戦争→奴隷解放→南部の州での人種分離法制定と黒人の人権弾圧→黒人を中心とする公民権運動の台頭→公民権法の成立）を調べて理解すること。
4	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その 2］テキスト p.27、28～30 行を参照。 キング牧師は、インド独立運動の中心人物ガンジーに深く傾倒し、彼の「非暴力・不服従」にならい、自身の公民権運動を推進した。またキリスト教の「愛」（アガペと呼ばれる無償の愛、自己犠牲の愛）を説くことによって、黒人達の精神的支えとなり、運動をまとめることに成功した。これらのキング牧師の思想、運動遂行の方法などを調べ、具体的に説明すると良い。
5	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その 3］ キングの努力により公民権法が成立し、アメリカにおける人種差別は法律上、形式上は消滅した。しかし、オバマが黒人初の大統領となった今でも、社会の深層や人間の心理にはいまだに人種差別は残っている。これを解消するにはどうしたらよいか、今後の課題は何か、など、学んだこと、理解したことを踏まえて、意見をまとめると良い。
6	［科目終了試験学修のポイント 1］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.69-70 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 childish=子供じみた、子供っぽい　childlike=子供らしい　New England=ニューイングランド（アメリカ東部カナダ寄りの地方）　genetically-altered=遺伝子操作された　running amok=荒れ狂い走り回る　Jew=ユダヤ人
7	［科目終了試験学修のポイント 1］について　［その 2］ スピルバーグの生い立ち、家庭環境などが、映画の内容にどのように反映されているか、彼の制作する映画の特徴特徴等を中心に調べると良い。また、スピルバーグは、ふたつの異なる傾向（ひとつは娯楽性の強いもの、もうひとつは社会的問題を提起するもの）の映画を制作しているが、テキストに出てくる映画のタイトルの中から(あるいは、これまでのスピルバーグの話題作の中から)、実際に鑑賞してみる。

8	［科目終了試験学修のポイント 2］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.71-72 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 role model=役割モデル(誰もがあこがれ、まねをしたがる存在)、Colonel Tom Parker=実際に colonel(大佐)であるわけではなく、アメリカでは熟年の人柄の良い男性をこのように呼んで敬愛の情を表す。、Timid TV censors=小心(臆病)なテレビ番組検閲官(アメリカは日本よりテレビ番組の内容の検閲が厳しい)、drafted=徴兵される(当時アメリカには徴兵制があり、若い男性は 2 年間の軍隊入隊が義務であった)、mansion=大邸宅(日本語の「マンション」とは違う)、gold singles, gold albums=100 万枚以上の売上を「ゴールド」と称する、Native American=「アメリカインディアン」の PC 表現
9	［科目終了試験学修のポイント 2］について　［その 2］ エルヴィス・プレスリーがロックン・ロールを生み出し人気を博した 1950～1960 年代は、第二次世界大戦終結後、アメリカが経済的繁栄を謳歌し物質的な豊かさが国民に行き渡った時代であった。一方で若者達は伝統的な道徳や既成概念に縛られた社会にストレスを感じ、そのはけ口をさがしていた。また当時は黒人を中心とする公民権運動が盛んな時期でもあった。これらの社会背景をふまえて、プレスリーの音楽の意義について考える。
10	［科目終了試験学修のポイント 3］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.73-74 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 rejected for military service=兵役を拒否されて(当時アメリカでは兵役があった)、cover(ing)=報道する、 best-known=最もよく知られる、tribute=捧げ物／貢ぎ物、big-game hunting=(サイや鹿などの)大きな獲物をねらう狩り、 prose=散文(対義語は「韻文」)、code=規律／規範、measure=(人間や物事をはかる)評価の基準
11	［科目終了試験学修のポイント 3］について　［その 2］ ヘミングウェイは、第一次、第二次世界大戦を始めとして、ヨーロッパの大きな戦争のほとんどを自身の目で見て、その体験を心に刻み、それをもとにして小説を執筆した。また、当時物質文明を誇り、自動車やテレビ、大型冷蔵庫などの大量生産の工業製品があふれるようになったアメリカ社会を、国外から冷徹にシニカルな目で眺め、戦争によって人生の価値観を打ち砕かれた「失われた世代(=Lost Generation)」を代表する。彼の 1 作を選び、そのテキストにあるヘミングウェイの文体の特徴（p.31、65～69 行）を実感するのもよい。
12	［科目終了試験学修のポイント 4］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト p.80 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 as common as～=～と同じほど普通(一般的、当たり前)の、available=使用(利用)可能な、teaching tool=教材、 keep track of～=～を管理する、natural=生まれつきの／生来の、SAT=Scholastic Assessment(Aptitude) Test、 on paper=書類上は、matter=重要(重大)なことと思う、power=権力
13	［科目終了試験学修のポイント 4］について　［その 2］ パソコンを中心とする今日の IT 技術の発展は、ゲイツの存在なくしては達成されなかったと言ってよい。我々は現在、その恩恵に浴し、便利な日常生活を送っている。しかし、この状況を無批判に受け入れて、情報の波に押し流されていいものだろうか。インターネットを始め、今日我々の身の回りにある IT 技術のプラス面、マイナス面をよく考え、ネット依存や情報格差の問題にも考察を深めるとよい。なお、ゲイツは現在、妻メリンダとともにチャリティ事業に専念している。
14	［科目終了試験学修のポイント 5］について　［その 1］ まず、英文テキストの要約に際しては、テキスト pp.82-83 の注を活用し、また以下の単語の訳に注意すること。 social reformer=社会の改革者、landed=(仕事を)得る／(仕事に)つく、article=記事、national=全国的な、piece=作品、 marital status=婚姻上の立場(既婚か未婚か)、traditional family values=(男性が働き、女性が家庭を守るという)伝統的な家族の価値観、disarm=(武装解除させるように)相手の心を開かせる／和らげる、humanize=人間的にする、sex=性別
15	［科目終了試験学修のポイント 5］について　［その 2］ 自由と平等を標榜するアメリカも、社会構成の基本は「男社会」であった。いまもその名残はいろいろな場面にあるものの、女性解放運動、フェミニズム運動を経て、今では相当程度女性の社会進出が達成されている。その陰には、グロリア・スタイネムのような社会活動家の努力があった。女性たちが今当然のように行使している職場や学校、家庭での、男性と同等のさまざまな権利を獲得するために、彼女たちは戦ってきたのである。人種差別を解消するための公民権運動から、性差別解消のための女性解放運動が生まれた歴史の流れを調べ、女性の社会進出を阻んでいる「ガラスの天井(glass ceiling)」についても考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 8章「Martin Luther King, Jr.」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

公民権運動とは1950年代のアメリカにおいて、黒人を中心に始められた人種差別撤廃運動である。Martin Luther King,Jr.がアメリカにおける人種差別において、公民権運動の指導者としてどのように貢献したか。また、彼の掲げた「非暴力」そして、不朽の名演説「私には夢がある(I Have a Dream)」は、人々にどのようなメッセージを投げかけたのか。Martin Luther King, Jr.の思想が人種差別思想や米国憲法修正に与えた影響について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．英文を日本語で要約せよ。さらに、Steven Spielbergの作品を1つ挙げてあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

スピルバーグの人となりと、彼の映画制作に向かう姿勢を理解し、具体的に説明できるよう理解を深める。単純な映画の感想文に陥らないようにすること。

2．英文を日本語で要約せよ。さらに、Elvis Presley に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

当時のアメリカの社会状況をよく理解した上で、音楽史上におけるプレスリーのロックン・ロールの位置づけを考察する。また、あまりに早い最期を遂げたプレスリーの「有名人の孤独」についても考える。

3．英文を日本語で要約せよ。また、本文70行目以降に述べられているHemingwayの描く heroes や courage に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

ヘミングウェイは幾多の戦争を取材し、多くの人々の死を目の当たりにした。その経験から、「英雄とは」「勇気とは」「死が迫る時にどう対処するか」という独自の哲学を深めた、「失われた世代」の代表的小説家である。テキストp.31、64～79行をじっくり読んで分析し考えること。

4．英文を日本語で要約せよ。さらに、Gatesに対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

現在のIT社会を築き上げた功労者であり、また新しい問題点を作り出した人物でもある。パソコンとインターネットの普及から派生する諸問題に対する解決策、対応策を考えると良い。

5．英文を日本語で要約せよ。さらに、Gloria Steinem が行った活動に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

アメリカの公民権運動から派生した女性解放運動において、グロリア・スタイネムの果たした役割を考えること。職場における賃金や昇進などの男性と平等な権利の獲得のみでなく、女性を性的対象としか考えない行為を糾弾したり、人工妊娠中絶の権利を主張するなど、女性の性的平等の獲得にも行動を起こしたことに目を向けるとよい。

6．英文を日本語で要約せよ。また、Carnegieの実業家および社会・慈善事業家としての人物像に対するあなたの印象を述べよ。

＜ポイント＞

カーネギーが「成功の夢」を実現する背景には、宗教的迫害、飢饉、貧困などの理由からアメリカへ移民する人が多かったこと、個人の能力や努力がアメリカ社会では評価されること、機会の平等がアメリカ社会の伝統的な信念・理念であることなどが存在することを考慮に入れておかなければならない。

教科書

ピーター・セラフィン、根間弘海『Twenty American Heroes』三修社。

参考文献

梶原寿『マーティン＝L＝キング』 清水書院。
コレッタ・スコット・キング、梶原寿、他『キング牧師の言葉』日本基督教団出版局。
辻内鏡人、他『キング牧師』岩波ジュニア新書。

科目コード	アメリカの文化と言語Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1101/1103		1101：２年 1103：１年	ＳＲ
教員名	緒方玲子、志手和行、茂木隆資		

科目概要

読解力、作文力、聴解力、会話力の四技能を、さらに向上させ、また、表現力の幅を広げるために様々なテーマの英文に数多く触れていく。内容は、アメリカの多種多彩な社会問題、歴史的背景を持つ問題で、日本との比較においても興味深いものである。またテキストの英文を通して、英語の言語学的な特徴（発音、文法、語用法等）や、アメリカの文化、社会事情に精通することをめざす。異文化理解を深めるための、手がかりをつかむことを目標とする。

学修内容

1	学修の始めに、レポート設題と科目終了試験学修のポイントを熟読すること。 この科目は、レポート、科目終了試験ともに、まず英文テキストの日本語での要約が求められる。自習作業での翻訳作成のほかに、スクーリング授業での教員や他の学生の日本語訳も参考にして、レポート設題と科目終了試験学修のポイントの章を日本語訳する。さらにその翻訳の文章のポイントを絞って、「要約」を作成する。レポートには、まずこの「要約」を記述し、そのあとに設題の後半に求められている意見を論述する。
2	［レポート設題の求める解答記述の作成に際して］ 【設題１】UNIT 7 「Dr. Jack Kevorkian」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。 まず、英文テキストの「要約」記述に際しては、テキスト p.31 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.30 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、安楽死　2、尊厳死　3、医療的処置（治療）　4、死ぬ権利　5、内科医　6、末期患者　7、致死量 8、援助された自殺、自殺幇助　9、耐えられない痛み　10、有罪
3	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その 1］ このレポートのテーマは、「安楽死」である。治療の見込みがなく、末期の苦しみの中にある患者が、その苦痛から解放されるために死を望む行為は、果たして認められるのか。また本来は命を助ける医師がそれを補助するのは倫理にかなうのか。最期の決断をするのは誰か（医師か、患者本人か、患者の家族か）。（テキスト p.31、14～18 行）これらの問題を考察し、論述する。 テキストでは、まずオランダの例が紹介されている。オランダで安楽死が法制化された経緯、社会事情、国民の意識などを調べるとよい。
4	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その 2］ 次にテキストでは、アメリカの「死ぬ権利」の運動家として有名な医師ケボーキアンを取り上げ、彼の行為の内容を紹介している。自殺マシーンを作り、患者本人の意志で致死量の薬物を投与できるようにしたこと、100 人以上もの患者の自殺を手助けしたこと（テキスト p.31、5～10 行）は、当時アメリカでは大変ショッキングなこととして受け止められ、大きな 議論を巻き起こした。このケボーキアンの行為を、どう思うか、また彼の行為の影響はどのようなものか、考察すること。
5	レポート設題の学修のポイント意見の論述　［その 3］ 日本では、安楽死の問題はどのように考えられているだろうか。社会的な状況としては、医学、医療の進歩により、高齢化が急速に進む一方で、ガンやエイズなどの重篤な病気による問題も大きい。また日本では、欧米のように「個人の決定権」や「個の自立」の意識はそれほど強くはなく、患者が末期の状況では家族が本人に代わってさまざまな決定を行うことも ある。実際に過去には安楽死を実行したことが事件として裁判にかけられた例もいくつかある。具体的な裁判例を調べ、欧米での安楽死についての世論の流れがどのように影響しているか、また日本人のメンタリティとどのように折り合えるか、あるいは安楽死が刑事訴追されない要件はなにか、よく調べ考察するとよい。 さらに、安楽死と尊厳死はよく混同されやすいが、別のものである。それぞれの定義や内容を良く調べ、分けて考え、論じること。
6	［科目終了試験学修のポイント 1］について　［その１］ まず、テキスト英文の「要約」に際しては、テキスト p.15 下部の Notes を活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.14 のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、世論　2、タバコの広告　3、妊婦　4、胎児　5、タバコ規制　6、身元証明　7、その法律を破る、その法律に違反する　8、重い罰金　9、再犯者　10、喫煙場所

7	［科目終了試験学修のポイント1］について　［その2］ アメリカでは、1960年代からタバコの健康に対する影響が認識され、厳しい規制が行われ始めた。現在では、この影響は欧米のみならず世界の趨勢となり、禁煙、分煙の流れは強まっている。このことは、喫煙者本人の健康被害のみならず、受動喫煙の害が知られるに及んで、より加速の傾向である。これらを踏まえて、タバコ規制についての意見をまとめる。その際、タバコに対する、単純な「好き・きらい」を考えるのではなく、科学的なデータや事実を挙げて具体的に考察すること。
8	［科目終了試験学修のポイント2］について　［その1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキストp.47下部のNotesを活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.46のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、自動車　2、画期的な出来事　3、車のディーラー　4、運転免許　5、公共交通　6、戦後の経済的豊かさ 7、ステーション・ワゴン　8、ドライブ・イン・ムービー　9、オフ・ロード車　10、運転の状況（条件）
9	［科目終了試験学修のポイント2］について　［その2］ アメリカは、車社会である。国土は日本の25倍の広さで、電車やバスなどの公共交通で移動し生活できるのは、東海岸と西海岸のいくつかの大都市のみであり、その他の地域では自動車はまさに生活の「足」である。車はアメリカ人の生活や精神構造に深く根付き、影響を与えてきている。このことに大きく寄与したのが、「アメリカに車輪をつけた男」と呼ばれるフォードであった。彼の業績を調べ、あわせて第二次世界大戦後に進んだ職住分離（テキストp.47、9～13行）によって加速された車社会アメリカの歴史を調べると良い。
10	［科目終了試験学修のポイント3］について　［その1］ まず、テキスト英文の「要約」に際しては、テキストp.51下部のNotesを活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.50のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、政敵　2、弾劾する　3、反対者、敵対者　4、マス・メディア　5、その話を報道する　6、辞任する 7、弾劾　8、連邦選挙法　9、アメリカ議会（国会）　10、面目を失った男たち
11	［科目終了試験学修のポイント3］について　［その2］ テキストでは、クリントン元大統領のセクシャル・スキャンダルと、それを報じた当時のマスコミの対応を、1974年当時のニクソン大統領が辞任に追い込まれたウォーターゲート事件と比較し、紹介している。国を代表するリーダーのスキャンダルをマスコミがどのように扱うかは、国により傾向が異なるので、フランスやイタリアなどのヨーロッパの国と比較してみると良い。また、アメリカのような大統領制の国と、日本のような議院内閣制の国とを比較し、それぞれの特徴を挙げて政策決定のプロセスや権力行使の内容を調べ参考にすること。
12	［科目終了試験学修のポイント4］について　［その1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキストp.67下部のNotesを活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.66のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、友情　2、盲導犬　3、高齢者、年配者　4、神経に関わる問題　5、療法　6、無条件(無償)の愛　7、受け入れること、受容　8、ケアすること、気遣い、思いやり　9、養老院　10、細菌
13	［科目終了試験学修のポイント4］について　［その2］ 動物は古くから人間の生活と深い関わりを持ってきた。ペットはもちろん、最近では介助犬が障がい者の生活を援助すること、イルカなどがセラピーに大きな役割をはたすことなどが知られている。このような具体例を調べてまとめてみる。 また、盲導犬のように一生を通して飼い主（障がい者）のために24時間緊張して仕事をすることは、動物にとってどのような影響があるか、考えてみると良い。
14	［科目終了試験学修のポイント5］について　［その1］ まず、英文テキストの「要約」に際しては、テキストp.75下部のNotesを活用するとよい。また日本語訳の助けとなるよう、p.74のキー・ワードの訳を以下に示す。 1、報道官　2、一生身体障害（者）となる　3、書類に記入する　4、銃火器を所有する　5、銃を所有する権利 6、圧制的な　7、保障される　8、提唱者、主唱者　9、暴力犯罪、凶悪犯罪　10、学校での銃撃（事件）
15	［科目終了試験学修のポイント5］について　［その2］ 銃規制は、アメリカにおいて最も解決困難な社会問題のひとつである。それは、歴史的、社会的なさまざまな要因により、解決には至っていない。テキストに紹介されている「ブレイディ銃規制法」とその内容を調べ、なぜアメリカで銃規制が進まないかを分析する。アメリカ建国のプロセス、フロンティアによる西武開拓の歴史、凶悪犯罪が多発し護身を要する現実、強力なロビー団体であるNRA（全米ライフル協会）の存在なども調べてみると良い。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 UNIT７「Dr. Jack Kevorkian」について日本語で要約せよ。さらに、内容についてあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

Dr. Jack Kevorkian は、アメリカ、ミシガン州の医師である。彼は、終末期を迎えたある患者に対しての安楽死の幇助(ほうじょ)の罪に問われ、裁判の結果、10～25 年の有罪判決が下った。Dr. Kevorkian は、病気の人々の尊厳死を強調し、彼らを耐え難い痛みから解放することを主張している。人間の命に対して最後の決定を下せるのは、医師か、患者自身か、それとも患者の家族なのか、医の倫理とは何かを考察する。

科目終了試験学修のポイント

１．UNIT３の英文を日本語で要約せよ。さらに、Tobacco Regulations in the U.S.に対するあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

タバコ規制についての意見をまとめる。その際、タバコに対する、単純な「好き・きらい」を考えるのではなく、科学的なデータや事実を挙げて具体的に考察すること。日米のタバコ規制の比較も興味深い。

２．UNIT１１の英文を日本語で要約せよ。さらに、America's Car Culture に対するあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

車社会アメリカの状況を理解し、さらにその要因を分析する。生活に車が深く根付いているアメリカと、公共交通が発達している日本との比較を考える場合は、日本でも過疎化などによりアメリカに近い車社会になっている地方都市があることに注意すること。

３．UNIT１２の英文を日本語で要約せよ。さらに、The Impeachment of President Clinton に対するあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

国家の指導者のスキャンダルと報道との関係を、具体的なケースを挙げて事件の内容、政治体制、国民性などに分けて分析する。また、国のリーダーとしてどのような資質が求められるかについても考える。

４．UNIT１６の英文を日本語で要約せよ。さらに、Animal Assisted Therapy に対するあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

動物と人間とのかかわりの歴史、セラピーやペットとしての動物の役割についてまとめる。

５．UNIT１８ の英文を日本語で要約せよ。さらに、Gun Control and the Brady Law に対するあなたの考えを述べよ。

＜ポイント＞

アメリカの銃規制について、歴史的要因、社会的要因、政治的要因などを分析する。また、厳しく銃刀規制が行われている日本との比較をするのも良い。

教科書

ピーター・セラフィン、奥田隆一『Celebration of America 』三修社。

参考文献

アルフォンス・デーケン『死とどう向き合うか』日本放送出版協会。
柏木哲夫『NHK 人間大学　死を看取る医学』日本放送出版協会。
福本博文『リヴィング・ウィルと尊厳死』集英社新書。
保阪正康『安楽死と尊厳死』講談社現代新書。

科目コード	音楽科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4220		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、松本岳志		

科目概要

本講義では、「音楽」「音楽Ⅱ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能を踏まえ、小学校における音楽指導の意義について理解した上で、豊かな音楽表現者として、また児童の表現力を引き出す指導者としての能力を養う。具体的には、児童を対象とした音楽指導について実践的に学ぶことを通して、小学校音楽科における指導で必要とされる知識・技能を習得し、自ら授業を構成することができるための能力を養う。

「指導法」の講義であるので、子どもに教えるのに必要な音楽理論や楽器演奏等の基礎技能が習得できていなければ、講義内容を十分に研究・理解することは不可能である。「音楽」「音楽Ⅱ」を履修して基礎を理解した後、本講義を受講されたい。

学修内容

1	小学校音楽科の学校教育全体の中での位置づけと、生涯にわたる音楽的発達の特性を確認すると共に、小学校音楽科の目標と理念を理解する。【科目終了試験学修のポイント１・２】
2	「音楽教育の歩み」を概観することで、現行学習指導要領で示された目標や内容の根拠を教科書（最新　初等科音楽教育法〔改訂版〕）pp.218～221 等で理解する。
3	音楽科の指導内容である「A表現」と「B鑑賞」及び「共通事項」について、教科書 pp.14-25 等で理解する。 その際、指導内容と共通事項との関連性について深く理解する。
4	「音楽科の学習指導計画」について、教科書 pp.26～35 等で理解する。 その際、「主題による題材構成」と「楽曲による題材構成」を踏まえ、年間指導計画や学習指導案の立案の在り方を理解する。
5	「音楽学習の評価」について、教科書 pp.36～45 等で理解する。 その際、教育評価の意義や種類、評価の過程といった基本的な評価の意味【科目終了試験学修のポイント５】をおさえた上で、音楽科の評価の観点に基づいた評価方法の理解を深める。
6	音楽科の授業を進めるに当たって、「音楽的発達」や「教材研究の視点」を、教科書 pp.46～49 等で理解する。 その上で、教科書に示された教材研究の課題例に取り組み、理解を深める。
7	「歌唱の学習と指導」【レポート設題】について、教科書 pp.50~59 等で理解する。 特に、歌う喜びを味わうとともに、音楽活動をする意義や音楽と共に生きることの意味をとらえた歌唱の指導法を探求する。
8	「器楽の学習と指導」について、教科書 pp.60~81 等で理解する。 多様な音楽表現との出会いをつくることと、演奏技能の習得を図ることで、児童の音楽表現への関心意欲を高め、確かな音楽の力を培う指導法【科目終了試験学修のポイント３】を探る。
9	「音楽づくりの学習と指導」について、教科書 pp.82~91 等で理解する。 A表現の活動の中に取り入れられた経緯をつかむことで、音楽づくりの意義の理解を深める。また、共通事項との関連を図り、音楽の仕組みに着目した指導法を探る。
10	「鑑賞の学習と指導」【科目終了試験学修のポイント４】について、教科書 pp.92~105 等で理解する。 音楽へのアプローチの方法の習得、表現活動の質的向上、音楽文化の多様な価値の理解等の視点で指導法を探る。
11	「表現と鑑賞の関連」について、教科書 pp.106~114 等で理解する。 その際、その関連における共通事項の扱いや活用の方法を探る。
12	「音楽科の今日的課題」のうち、多様な音楽文化と校種間の連携について、教科書 pp.118~123 等で理解する。その際、音楽科における学力とは何かを踏まえて理解を深めるようにする。
13	「音楽科の今日的課題」のうち、音楽科と他の教科等との関連、特別支援教育と音楽教育、音楽科における言語活動の充実【科目終了試験学修のポイント６】等について、教科書 pp.124~134 等で理解する。
14	「共通教材」について、教科書 pp.136~197 等を参考にして研究する。 その際、楽曲の特徴を生かした歌唱法や伴奏法、指揮法も習得できるようにする。
15	本講義の学修内容１～１４を踏襲した授業が実践できるよう、受講者間で模擬授業を行う。 その際、ねらいの明確化を図った学習指導案を作成し実践すると共に、授業分析も丁寧に実施する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】小学校における歌唱指導について述べよ。

＜ポイント＞

小学校音楽科の歌唱指導について、平成29年告示の学習指導要領をまとめる。また、低学年・中学年・高学年それぞれの指導における留意点（変声期の指導も含む）、歌唱に苦手意識の強い児童に対する指導における留意点等について考察・論述する。

文献を引用する場合には、引用部分（文中）に出典を明記のこと。

科目終了試験学修のポイント

1．小学校における音楽科教育について

＜ポイント＞

「音楽を愛好する心情」・「音楽に対する感性」・「音楽活動の基礎的な能力」の三者を関連させた指導の在り方を探る。

2．音楽科における基礎･基本について

＜ポイント＞

学習指導要領に示された音楽科の目標と各学年の目標から、音楽科における基礎的・基本的な事項を洗い出す。

3．リコーダーの指導について

＜ポイント＞

リコーダーの教育的特性をとらえた段階的な指導の在り方を探る。

4．鑑賞指導のあり方について

＜ポイント＞

音楽への情動的に交感する側面と、その音楽についての知的理解を目指す側面とをかかわらせた指導の在り方を探る。

5．音楽科における指導と評価の一体化について

＜ポイント＞

授業の計画・実践・評価・改善という一連の段階を通して、音楽科の目標に迫る方策を練る。

6．音楽科における言語活動の充実について

＜ポイント＞

共通事項をおさえた表現や鑑賞の活動を通して、「総則」に示された各教科等における言語活動の充実の具体化を図る。

教科書

初等科音楽教育研究会『小学校教員養成課程用最新初等科音楽教育法2017告示「小学校学指導要領」準拠』音楽之友社。

参考文献

伊藤英造『音楽の薦め』ヤマハミュージックメディア。
梅本堯夫『子どもと音楽』東大出版会。
小原光一『小学校音楽科 新学習指導要領ガイドブック』教育芸術社。
熊木眞見子、他『子どもの豊かさに培う共生・供創の学び』東洋館出版社。
高須一、他『小学校音楽科の授業づくり 低学年編／中学年編／高学年編』明治図書。
宮野モモ子、他『小学校新学習指導要領Q＆A 音楽編』教育出版。
ヤマハ音楽振興会音楽研究所『音楽は子どもに何を与えられるか』ヤマハ音楽振興会。

科目コード	音楽演習（２単位）	登録年次	履修方法
6910		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、松本岳志、本野洋子		

科目概要

１．「音楽演習」では「音楽表現」、「音楽表現Ⅱ」で習得した技術の上に立って、保育現場の長期、短期の指導計画に音楽的活動を適切に盛り込むことができるようになるため、あらためて保育における音楽活動に関わる知識と技術を磨く。子どもが歌うとはどういうことか理解し、適切に教材を選ぶため、子どもの歌の特徴を理解し、正しく歌い、演奏し、楽器で遊び、身体で表現する。ピアノの弾き歌いおよび楽器の演奏と合奏の技術をさらに高め、表現の指導法についても深めていく。それらの学習を通して、個人の素養と、より高い保育･教育実践に必要な知識や技能を習得する。

２．スクーリング受講前に、教科書から子どもの歌を 4～5 曲選曲し（「音楽表現」「音楽表現Ⅱ」の課題曲、及び各自がこれまで弾いたことのある曲は除く）、それらを十分に練習しておくこと。スクーリング内で、それらの曲の個別レッスンを行う。

学修内容

1	○本科目の概要と学習目標 弾き歌い課題提示：それぞれの学生の進路および進度に見合った課題を課す。 子どもの歌の特徴を実際の歌唱を通して体得する。
2	○子どもの歌の歌唱を通し、子どもの発声についてのメカニズムを知り、正しい発声の仕方を体得する。 ○個人指導を中心とした弾き歌い① 子どもの興味・関心・季節を考慮しながら各学生が希望する現場でよく使われている曲を選び順次レパートリーを増やしていくようにする。
3	○子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する。 ○個人指導を中心とした弾き歌い② 子どもの興味・関心を考慮しながら、各学生が希望する現場でよく使われている曲を選ぶこと。
4	○子どもの歌歌唱を通し、子どもの発声について自身が正しい発声で歌えるよう体得する。 ○個人指導を中心とした弾き歌い③ 少々間違っても絶対に止まったり、弾き直したりしないことに留意する。また、楽譜通りの伴奏が困難な学生は、コードによる伴奏を試みる。
5	○旋律を奏でられる楽器の演奏練習、および指導法① 簡易楽器の中で、幼児教育の現場で使われている旋律 楽器を中心に演奏し、音の出し方や美しく出す方法、特別な技術などを指導する練習を行う。
6	○旋律を奏でられる楽器を主とした合奏練習、および指導法② 各グループのアンサンブル練習を行う。その際、ただ単に音を出すだけでなく、美しく音楽作りができるよう考える。
7	○旋律を奏でられる楽器を主とした合奏発表と鑑賞 各グループの発表と、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表を行う。
8	○個人指導を中心とした弾き歌い④ 少々間違っても絶対に止まったり、弾き直したりしないことに留意する。また、楽譜通りの伴奏が困難な学生は、コードによる伴奏を試みる。
9	○個人指導を中心とした弾き歌い⑤ 少々間違っても絶対に止まったり、弾き直したりしないことに留意することを今回も徹底する。
10	○手作り楽器の作成、および指導法① 手作り楽器のポイントを説明。各学生が与えられた素材をどう工夫して音にしていくかを考える。
11	○手作り楽器の作成、および指導法② 手作り楽器の中で、特に旋律を出せる楽器の制作およびそれらの楽器を使ったパフォーマンスを考える。
12	○手作り楽器での合奏練習と身体表現 それぞれが制作した楽器を使い、歌や身体活動を伴う小さなパフォーマンスを入れながらグループで合奏練習を行った後発表する。また、それを聴いた他のグループの学生の感想・意見などの発表も行う。
13	○個人指導を中心とした弾き歌い⑥ 歌いながら伴奏をするなかで、しっかり声を出し、少々間違っても絶対に止まったり、弾き直したりしないことに今回も留意する。
14	○科目終了試験に向けて 「聞こえてくる音」と「聴こうとする音」について考え、日常的に溢れている音(楽)を子どもが音楽的表現するための保育者の適切な援助についてディスカッションを行う。
15	スクーリングのまとめと、科目終了試験に向けての準備

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子どもに歌唱指導を行うにあたっての留意点を述べよ。

＜ポイント＞

保育の現場では、歌唱は表現活動の中に位置づけられている。幼稚園教育要領や、保育所保育指針における領域「表現」を参考にして、具体例を出しながら、指導の仕方、留意点などを述べること。単に技術的な面だけでなく、表現活動、コミュニケーション活動という観点からどのように指導していくかを述べること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした試験を行う。**※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。**

1．聴くことと奏でることについて

＜ポイント＞

「聞こえてくる音」と「聴こうとする音」に繊細な感覚を研ぎ澄ませ、日常的に溢れている音から子どもが音楽的表現するための保育者の適切な援助について論述すること。

2．幼児用打楽器の種類と奏法について

＜ポイント＞

幼児用打楽器について、その種類を有音程打楽器と無音程打楽器に分類し、それぞれの楽器の奏法及び留意点について述べるとともに、楽器の安全性に留意し、子どもたちの興味・関心を引き出す援助に関して、具体的な例を出しながら、自由な発想で楽しく演奏できる音楽的環境を整える方法について論述すること。

教科書

松本岳志 著 『保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合』 株式会社みらい。

参考文献

二宮紀子著 『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』 音楽之友社。
東京福祉大学編 『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著 『これだけは歌って弾こう 子どもの歌 厳選50曲』 共同音楽出版社。
小林美実 監修 『こどものうた100』 チャイルド本社。

科目コード	音楽基礎Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6580		１年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、高木麻衣子、花井淑、松本岳志、村田羊子		

科目概要

１．本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。
なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験が行われる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について
① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、該当する課題曲すべてを自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
『標準バイエルピアノ教則本』より
・35 番　ハ長調　4/4 拍子
・37 番　ト長調　3/4 拍子
・39 番　ト長調　4/4 拍子
・46 番　ハ長調　4/4 拍子
・49 番　ハ長調　3/4 拍子

●B群（ピアノ経験者）
『標準バイエルピアノ教則本』より
・55 番　ハ長調　4/4 拍子
・59 番　ハ長調　3/8 拍子
・66 番　ハ長調　6/8 拍子
・73 番　ハ長調　4/4 拍子
・77 番　ハ長調　3/4 拍子

② 本学から配付された教科書『標準バイエルピアノ教則本』を使用する。
③ 暗譜演奏である必要はない。
④ 選択した群の中から、スクーリング中に指定された１曲を演奏する。
⑤ ピアノ教師等に定期的（週１回等）に通って、事前に十分な練習を行ってくること。特にピアノの初心者については、音符の正しい読み方、演奏時の体の姿勢、運指などについて、自己流で学ぶことは非常に効率が悪い。正しい練習を積み重ねることが極めて大切である。ピアノの実技課題を練習せずにスクーリングに参加した場合、もしくはピアノ実技試験における評価が低い場合、単位修得は不可となる。

３．科目終了試験について
スクーリング時に音楽理論の筆記試験を行う。**※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。**

学修内容

1	○スクーリングにおける学修内容と科目終了試験について 本科目の概要を理解する。特に、２冊の教科書である『標準バイエルピアノ教則本』（以下、「バイエル」と略記）および『新　保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』（以下、「音楽表現」と略記）を活用しながら、理論と実技を体験的に学び終了試験に備える。
2	○バイエル３５番、または５５番 ３５番：開始位置に注意。拍子を意識して、４分音符の拍の刻みが揺れないよう気をつけて練習すること。 ５５番：右手をなめらかに、左手はそれを妨げないようにレガートに弾くこと。特に、４小節目左手の音域移行をスムーズに。
3	○バイエル３７番、または５９番 ３７番：開始位置に注意。３拍子の流れに乗って３拍目から１拍目に戻るときに間があいてしまわないように。 ５９番：左手の分散和音型伴奏形に慣れること。１７小節目から左手のポジション移動と分散和音の変化に注意。
4	○バイエル３９番、または６６番 ３９番：３７番と開始位置は同じ。特に左手がスムーズに弾けるように、よく練習すること。最後の２小節は左右をしっかり揃えて。 ６６番：右手はスラーによるまとまりを意識してやわらかく、左手の分散和音は粒を揃えてなめらかに弾くこと。
5	○バイエル４６番、または７３番 ４６番：右手はなめらかに、４拍子が揺れないよう左手の４分音符をしっかり刻むこと。８小節目右手のタイも拍がずれてしまわないよう注意すること。 ７３番：右手のミ・ド・シ・レ・という旋律が聴こえるように。７小節目の半音進行の指使いに注意。
6	○バイエル４９番、または７７番 ４９番：左手の主要３和音の分散形による伴奏(ドミソ、シレソなど)を意識して練習するように。これらの伴奏形をしっかり理解できるとその後の弾き歌いにおけるコードネームの理解へとつながっていく。 ７７番：３拍子をしっかり意識して弾くこと。小節ごとに左右交互に出る８分音符が均一になるように。中間部の臨時記号にも注意。

7	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論１「五線譜の読み方」　＊「音楽表現」pp. 2-5 五線の線と間、音部記号と大譜表、小節・縦線・終止線、音名、変化記号、派生音について理解する。
8	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論２「音符・休符、リズム・拍」　＊「音楽表現」pp. 5-12 音符や休符の種類と名前と長さ、拍子と拍子記号、リズムについて、具体的な譜例を通して理解する。
9	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論３「さまざまな用語と記号」　＊「音楽表現」pp. 12-26 強弱記号、速度記号、発想記号、奏法上の記号、反復記号、音程について、具体的な譜例を通して理解する。
10	○ピアノ個人レッスン ○音楽理論４「音階と調」　＊「音楽表現」pp. 26-29 長音階と短音階、長調と短調、調号、移調、転調について、実際に五線紙に書きながら理解する。
11	○簡単な伴奏での弾き歌い　＊「音楽表現」pp. 58-61 「メリーさんのひつじ」「ぶんぶんぶん」の左手は全小節とも単音伴奏で、ドまたはソのみ。「ロンドン橋」は重音伴奏。「ジングルベル」「どんぐりころころ」「大きな栗の木の下で」の左手は２小節ごとの同音型の繰り返しの曲。右手はいずれも旋律を弾く。前奏はいずれも最後の２または４小節を弾くとよい。ゆっくりでもよいから弾き歌いに努めること。
12	○コードネームによる和音伴奏での弾き歌い　＊「音楽表現」pp. 62-78 コードネームについて知り、「かえるの合唱」や「ちょうちょう」「きらきら星」などを、コードネームを見ながら和音や分散和音による伴奏型を工夫しながら弾き歌いに挑戦する。「むすんでひらいて」「手をたたきましょう」「チューリップ」「たなばたさま」「山の音楽家」「線路は続くよどこまでも」などから好きな曲を選んで練習すること。
13	○レポート設題に向けて 設題にある「わらべうた及び明治期，大正期，昭和初期，戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1～２曲ずつを取り上げ，それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら考える。
14	○スクーリング修了試験の準備 「バイエル」のA群・B群の課題曲（５～６曲）の中からそれぞれ指定された１曲を練習すること。
15	○科目終了試験の準備 音楽理論の筆記試験に向けてのまとめ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 わらべうた及び明治期，大正期，昭和初期，戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1～2曲ずつを取り上げ，それらの歌の特徴について，歴史的背景に触れながら述べよ。

＜ポイント＞

日本古来より伝承されてきたわらべうたと、西洋音楽理論に則って作られてきた明治期以降の子どもの歌の作曲の経緯の相違を考えるとともに、明治期以来の子どもの歌も、作曲された曲が歴史的背景によって明確な特徴のあることを、実際にその時代の曲を取り上げながら考察する。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。**※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。**

1．音楽の指導に必要な基礎事項（五線譜、音部記号と音名および階名、音符と休符）について

＜ポイント＞

① 線譜の線や間の名前、ト音記号・ヘ音記号、大譜表、音名、階名など。

② 音符と休符の長さと意味。

2．基本的事項（拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方）について

＜ポイント＞

① 拍と拍子の意味。

② 拍子の種類と、それらの拍子の曲を指揮するときの指揮棒の振り方。

3．音程について

＜ポイント＞

音程の度数の数え方と種類。

4．音階(長音階、短音階)と調について

＜ポイント＞

長音階と短音階、調号と調名、音階各音の名称。

5．主要三和音とその連結について

＜ポイント＞

三和音とその種類、和音の基本形と転回形、主要三和音の連結によるカデンツ。

6．楽譜に用いられる記号と標語について

＜ポイント＞

① 速度標語・記号の読み方と意味。

② 強弱記号の読み方と意味。

③ 発想標語の読み方と意味。

④ 奏法を示す標語・記号の読み方と意味。

⑤ 反復記号・略記法。

教科書

石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。

岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選 50 曲」共同音楽出版社。

小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。

初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017 年告示小学校学習指導要領 準拠』 音楽之友社。

科目コード	音楽基礎Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6590		１年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、高木麻衣子、花井淑、原久美子、松本岳志、村田羊子		

科目概要

１．「音楽基礎Ⅰ」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い（ピアノ伴奏をしながら歌う）等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。

「音楽基礎Ⅰ」で理論・実技等の基礎を学んだ後、本科目を履修することが望ましい。

なお、スクーリング修了試験では、、ピアノ実技試験がなされる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について

① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、その中から２曲選び、自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）

『標準バイエルピアノ教則本』より

・55 番　ハ長調　4/4 拍子
・59 番　ハ長調　3/8 拍子
・66 番　ハ長調　6/8 拍子
・76 番　ト長調　4/4 拍子
・78 番　ト長調　6/8 拍子

●B群（ピアノ経験者）

『標準バイエルピアノ教則本』より

・80 番　ニ長調　3/4 拍子
・88 番　ト長調　4/4 拍子
・93 番　イ短調　6/8 拍子
・96 番　ヘ長調　3/8 拍子
・100 番　ヘ長調　3/8 拍子
・102 番　ヘ長調　4/4 拍子
・104 番　ヘ長調　3/8 拍子

② 本学から配付された教科書『標準バイエルピアノ教則本』を使用する。

③ 暗譜演奏である必要はない。

④ 選択した曲の中から、スクーリング中に指定された１曲を演奏する。

⑤ ピアノ教室等に定期的（週１回等）に通って、十分に練習した後にスクーリングを受講のこと。片手でしか弾けない等、練習不十分でスクーリングに参加した場合、もしくはピアノ実技試験における評価が低い場合には、（２）の課題における評価が高くとも単位修得は不可となる。

学修内容	
1	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』については、ピアノ初心者とピアノ経験者で、スクーリング修了試験の時の課題が異なる。どちらの課題が自分が勉強するのに適しているか、実際に各課題番号の曲を弾いてみて、決めること。科目終了試験の弾き歌いに向けて、どのような曲が課題となっているかを、実際に弾いてみて、自分が弾けそうな曲から、弾く練習を始める。また、慣れるためにも声を出して歌いながらピアノ伴奏をする必要がある。
2	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
3	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
4	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
5	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
6	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
7	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
8	『ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
9	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
10	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
11	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
12	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習 レポート設題について考えてみる。
13	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
14	ピアノ演奏及び弾き歌い個人レッスン① 『標準バイエルピアノ教則本』より各個人の進度に応じた曲を練習 科目終了試験の９曲の『子どもの歌』より各個人の進度に応じた曲を練習
15	スクーリング修了試験の準備、授業のまとめ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育・教育等の現場における音楽活動（園行事、学校行事等を含む）がなぜ必要なのかを述べよ。

＜ポイント＞

まず「保育・教育等の現場における活動（園行事、学校行事等を含む）」を挙げてみる。
次に、音楽指導の際に必要と思われる事項(音楽理論、発達段階、年齢区分、行事との関連など)をまとめる。
そうすることによって、具体的に挙げた音楽活動とその音楽活動が行われる事由が明らかになり、音楽活動の必要性にまで言及することができる。

科目終了試験学修のポイント

1．ピアノ弾き歌いの実技試験を行う。以下の9曲のうち、試験当日に指定される2曲を演奏する。

・「ぞうさん」　・「アイアイ」
・「さんぽ」　・「おもちゃのチャチャチャ」（3番は歌わなくてよい）
・「もりのくまさん」　・「ふしぎなポケット」
・「いぬのおまわりさん」　・「カレンダーマーチ」
・「あめふりくまのこ」

2．留意事項

①楽譜は『保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』を使用する。
②原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。
③暗譜演奏である必要はない。
※実技試験合格のためには、「音楽基礎Ⅱ」のスクーリングを受講してから受験するのが望ましいといえます。
※科目終了実技試験を申込む際には、専用の申込書をご使用ください。

教科書

石橋裕子、他『新 保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。
楽譜：『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。

参考文献

二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著「これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲」共同音楽出版社。
小林美実監修『こどものうた１００』チャイルド本社。
初等科音楽教育研究会編『小学校教員養成課程用 最新 初等科音楽教育法 2017年告示小学校学習指導要領 準拠』音楽之友社。

実技試験について

＜弾き歌いの目的＞

弾き歌いは、何のため、誰のために弾き歌いをするかである。

将来幼児教育・学校教育の現場に立とうと思われている皆さんは、目の前に子どもたちがいることを想像すること。

＜弾き歌いとは＞

弾き歌いは自分の弾く伴奏に乗って歌を聴かせることである。伴奏が完璧でも、声が小さくてピアノの音にかき消されているようでは、弾き歌いとはいえない。また、歌が完璧でもピアノがおぼつかなければ、これも弾き歌いとはいえない。歌とピアノのコンビネーションなのである。

＜どのような伴奏が求められるか＞

幼児教育・学校教育の現場で子どもたちが先生の演奏を聴いて、一緒に子どもたちが歌えるためには、最低限、次のことはできるようにする。

（1）前奏でつっかえたり、止まったりしないこと。

（2）途中で止まらないこと。何度も弾き直していては、音楽の流れが止まり、子どもたちに良質な音楽活動を望めない。

（3）歌は言葉が明瞭であること。歌詞を見なくても歌えること。

＜弾き歌いのピアノ伴奏の方法＞

これには何種類かある。

（1）右手が歌のメロディになっているもの

スクーリングで使用されている楽譜は主にこれらである。これは、子どもたちがより歌いやすいようにメロディが右手に入っている。

（2）コード奏法

歌曲の伴奏のように、メロディはなく、和音の伴奏や歌を引き立たせるために曲想に添って、和音伴奏や、アルペジオ奏法などになったものもある。シューベルトは「のばら」や「アヴェマリア」等、実に多くの歌曲を作曲したが、その伴奏譜は右手にメロディがない。歌と伴奏がかけあいながら一つの音楽になっている。

現代では、コード奏法と言って、子どもの歌もギターの伴奏のように和音だけで弾くことができる。これは子どもたちがその歌をよく知っていれば、前奏部分を右手でメロディを弾き、あとは、コード奏法にしても歌える。

＜試験ではどちらの伴奏形が良いのか＞

ピアノは両手を使う楽器として作られているので、片手だけ、しかもメロディのみでは音が貧弱である。脳梗塞で右手が麻痺し、左手だけのピアニストもいるが、高度なテクニックを要する。皆さんは両手で弾いてピアノの広い音域から音の美しさを聴かせてほしい。

多くの受験生が上記（1）の指定された楽譜通りに練習してくるが、中には簡単な楽譜の人もいるし、難しい部分を少し簡単に直して弾く人もいる。

伴奏を簡単にすることで、音楽の流れが損なわれないで済むのなら、難しい部分を間違えて何度も弾き直して音楽の流れが中断するよりも、そのほうが良いだろう。

アナウンサーは間違えれば言い直しができる。しかし、演劇や音楽はいったん間違えても流れを止めることはできない。止めたら音楽が死んでしまう。舞台俳優が「今、間違えたのでもう一度最初から言います」などという芝居は、練習ならまだしも本番では見たことがない。音楽も同様なので、子どもたちの前で弾き直さないように練習を積んでほしい。

＜評価＞

子どもに良質の弾き歌いを提供できるかどうかである。あなたの歌（音の波）が聴く人の心に届くと、その波は聴く人の心を波打たせる。心をこめて歌ってほしい。

そしてピアノはその歌を乗せる伴奏である。邪魔をせず、しっかりと歌を支えてほしい。

科目コード	音楽表現（２単位）	登録年次	履修方法
6890		１年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、高木麻衣子、花井淑、松本岳志、村田羊子		

科目概要

１．本科目では、楽譜を読む、音を奏でる、リズムを打つといった音楽の基礎知識、技術を身につけ、対象者に合わせた音楽活動について考察する。また、保育・教育・福祉等の現場に即した音楽活動について体験的な学習をする。
なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験が行われる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について
① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、該当する課題曲６曲全てを自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
- おててをあらいましょう
- 幸せなら手をたたこう
- ちょうちょう
- チューリップ
- ぶんぶんぶん
- きらきらぼし

●B群（ピアノ経験者）
- おべんとう
- おかえりのうた
- シャボン玉
- 思い出のアルバム
- あめふりくまのこ
- めだかの学校

② 本学から配付された教科書『保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合』を使用する。
③ 暗譜演奏である必要はない。
④ 選択した群の中から、スクーリング中に指定された２曲を演奏する（前奏や歌を含む）。
⑤ スクーリング受講前に、スクーリング修了試験の課題曲を十分な練習を行ってくること。ピアノの実技課題曲を練習せずにスクーリングに参加した場合、もしくはピアノ実技試験における評価が低い場合、単位修得は不可となる可能性がある。

３．科目終了試験について
スクーリング時に音楽理論の筆記試験を行う。**※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。**

学修内容

1	○オリエンテーション：スクーリングにおける学修内容と科目終了試験に関する確認。 ○楽典①：第１章「音の高さ」（教科書 pp. 11～24） 五線と加線、音部記号、音名と階名、オクターヴ、半音と全音、変化記号、変化記号の有効範囲について理解する。
2	○楽典②：第２章「音の長さ」（教科書 pp. 26～30） 音符、休符、付点等々について理解する。
3	○楽典③：第３章「拍子とリズム」（教科書 pp. 32～36） 拍（ビート）、拍子記号、単純拍子、複合拍子、強起と弱起、シンコペーションについて理解する。
4	○楽典④：第３章「拍子とリズム」（教科書 pp. 37～42） 連符、テンポ、リズム等について理解する。
5	○楽典⑤：第４章「様々な記号・用語」（教科書 pp. 44～52） 反復記号、強弱記号、発想記号、奏法記号について理解する。
6	○楽典⑥：第５章「音階と調」（教科書 pp. 54～58） 音階とは、長音階、短音階、調号等について理解する。
7	○楽典⑦：第５章「音階と調」（教科書 pp. 64～68） 移調、転調、日本の音階等について理解する。
8	○子どもの歌弾き歌い個人レッスン ・A 群「おててをあらいましょう」調号に 2 箇所（ファとド）にシャープ（半音上げる）がついているので、気をつけて弾くこと。 ・B 群「おべんとう」：楽譜下に記載してあるリズムの注意点に気をつけて練習すること。
9	○子どもの歌弾き歌い個人レッスン ・A 群「幸せなら手をたたこう」：右手付点８分音符＋16 分音符の反復（スキップのリズム）に気をつけて練習すること。 ・B 群「おかえりのうた」：前奏の右手は１オクターヴ高い位置で弾きます。9 小節目は、右手と左手で鍵盤を弾くタイミングがずれるため、注意が必要。

10	○子どもの歌弾き歌い個人レッスン ・A群「ちょうちょう」：左手の8分音符を安定して弾けるように練習する。スラー（滑らかに）がついていない箇所は、軽快な感じになるように弾くこと。 ・B群「シャボン玉」：スタッカートの付いている前奏は軽やかに、その後も決して重い雰囲気にならないよう気をつけること。後奏までしっかりと弾けるように練習すること。
11	○子どもの歌弾き歌い個人レッスン ・A群「チューリップ」：左手4分音符の三和音を安定して弾けるように練習する。 ・B群「思い出のアルバム」：6/8拍子を常に感じながら、左手の8分音符を正確に弾けるように練習する。
12	○子どもの歌弾き歌い個人レッスン ・A群「ぶんぶんぶん」：左手4分音符の三和音は力強く、8分音符はスラーが付いているので滑らかに弾くこと。 ・B群「あめふりくまのこ」：冒頭「優しく話しかけるように」の指示を意識して弾くよう心がけること。反復記号に気をつけ、間奏とCodaも含めて練習しておくこと。
13	○子どもの歌弾き歌い個人レッスン ・A群「きらきらぼし」：左手8分音符を安定して弾けるように練習すること。反復記号に気をつけること。 ・B群「めだかの学校」：強弱記号を意識して、表情豊かに弾き歌いできるよう練習すること。左右に出てくる重音、右手のアルペジオ、ペダル等々に気を付けること。
14	○レポート設題に向けて 設題にある「わらべうた及び明治期，大正期，昭和初期，戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から 1～2曲ずつを取り上げ，それらの歌の特徴について、歴史的背景に触れながら考える。
15	○スクーリング修了試験及び科目終了試験に向けて 当日指定された子どもの歌2曲を、人前で発表できるようにする。音楽理論の筆記試験に向けてのまとめ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】わらべうた及び明治期，大正期，昭和初期，戦後のそれぞれの時期に作曲された子どもの歌の中から1～2曲ずつを取り上げ，それらの歌の特徴について，歴史的背景に触れながら述べよ。

＜ポイント＞

日本古来より伝承されてきたわらべうたと、西洋音楽理論に則って作られてきた明治期以降の子どもの歌の作曲の経緯の相違を考えるとともに、明治期以来の子どもの歌も、作曲された曲が歴史的背景によって明確な特徴のあることを、実際にその時代の曲を取り上げながら考察する。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング授業後に、下記内容を中心とした音楽理論の試験を行う。**※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。**

1．音楽の指導に必要な基礎事項（五線譜、音部記号と音名および階名、音符と休符）について

＜ポイント＞

① 線譜の線や間の名前、ト音記号・ヘ音記号、大譜表、音名、階名など。

② 音符と休符の長さと意味。

2．基本的事項（拍と拍子、拍子の種類と指揮棒の振り方）について

＜ポイント＞

① 拍と拍子の意味。

② 拍子の種類と、それらの拍子の曲を指揮するときの指揮棒の振り方。

3．音程について

＜ポイント＞

音程の度数の数え方と種類。

4．音階(長音階、短音階)と調について

＜ポイント＞

長音階と短音階、調号と調名、音階各音の名称。

5．楽譜に用いられる記号と標語について

＜ポイント＞

① 速度標語・記号の読み方と意味。

② 強弱記号の読み方と意味。

③ 発想標語の読み方と意味。

④ 奏法を示す標語・記号の読み方と意味。

⑤ 反復記号・略記法。

教科書

松本岳志 著『保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合』株式会社みらい。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著『これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲』共同音楽出版社。
小林美実 監修『こどものうた100』チャイルド本社。

科目コード	音楽表現Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6900		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、高木麻衣子、花井淑、原久美子、松本岳志、村田羊子		

科目概要

１．「音楽表現」で習得した音楽理論や楽器演奏等の基礎技能をふまえ、保育や教育の場において音楽を展開する上で必要とされる、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。具体的には、歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い（ピアノ伴奏をしながら歌う）等の技術を身につけるとともに、子どもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。
「音楽表現」で理論・実技等の基礎を学んだ後、本科目を履修すること。
なお、スクーリング修了試験では、、ピアノ実技試験がなされる。

２．スクーリング修了試験①「ピアノ実技試験」について
① ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、該当する課題曲４曲全てを自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
・おべんとう
・大きな栗の木の下で
・小ぎつね
・シャボン玉

●B群（ピアノ経験者）
・どんぐりころころ
・森のくまさん
・アイアイ
・ふしぎなポケット

② 本学から配付された教科書『保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合』を使用する。
③ 暗譜演奏である必要はない。
④ 選択した曲の中から、スクーリング中に指定された２曲を演奏する（前奏や歌を含む）。
⑤ 十分にスクーリング修了試験の課題曲を練習した後にスクーリングを受講のこと。片手でしか弾けない等、練習不十分でスクーリングに参加した場合、単位修得不可となる可能性がある。

３．スクーリング修了試験②「コードネームに関する試験」
※スクーリング修了試験は、スクーリングの授業が全て修了した時点で実施します。本科目の科目終了試験は、スクーリングとは別日に実施されます（シラバス内「科目終了試験学習のポイント」を参照のこと）。

学修内容	
1	○オリエンテーション：スクーリングにおける学修内容と科目終了試験に関する確認。 ○楽典①：第7章「和音と和声」（教科書 pp.76～78） 三和音と七の和音（四和音）について理解すること。
2	○楽典②：第7章「和音と和声」（教科書 p. 79，82，83） 和音の転回形、協和音と不協和音、非和声音等について理解すること。
3	○楽典③：第7章「和音と和声」（教科書 pp. 84～86） コードネームについて理解すること。
4	○楽典④：上記3の続きと教科書 pp. 87 の分散和音について理解すること。
5	○楽典⑤：コード伴奏の実践（教科書 pp. 234～242） 楽譜上のコードネームを見ながら、即興的に伴奏づけができるようになること。
6	○子どもの歌弾き個人レッスン ・A群「おべんとう」：楽譜下に記載があるリズムについて、よく注意して演奏できるようにする。 ・B群「どんぐりころころ」：左手にト音記号とヘ音記号両方出てくる。音の高さに気をつけること。左手の休符を意識すること。
7	○子どもの歌弾き個人レッスン ・A群「大きな栗の木の下で」：左手８分音符が乱れないよう繰り返し練習し、安定して弾けるようにすること。 ・B群「森のくまさん」：全体的に力強く元気良く弾くこと。右手点線内の音符は、弾いても弾かなくてもよい。
8	○子どもの歌弾き個人レッスン ・A群「小ぎつね」：左手に「sempre stacc.（常に短く切って）」とある。軽快な雰囲気になるように弾くこと。 ・B群「アイアイ」：アクセントの付いたリズムは、一音一音しっかりと弾くこと。後奏まで練習しておくこと。
9	○子どもの歌弾き個人レッスン ・A群「シャボン玉」：スタッカートのついている前奏は軽やかに、その後も決して重い雰囲気にならないよう気をつけること。後奏までしっかりと弾けるように練習すること。 ・B群「ふしぎなポケット」：テンポ変化に気をつけること、またその変化によって雰囲気を変えて演奏できるようにすること。後奏の半音階上行形を指定されたテンポ通りに弾けるよう練習すること。
10	○子どもの歌弾き歌いレッスン（科目終了試験に向けて） 「松ぼっくり」と「とんぼのめがね」
11	○子どもの歌弾き歌いレッスン（科目終了試験に向けて） 「雪」と「かわいいかくれんぼ」
12	○子どもの歌弾き歌いレッスン（科目終了試験に向けて） 「とけいのうた」と「山の音楽家」
13	○スクーリング修了試験①に向けて 当日指定された子どもの歌2曲を、人前で発表できるようにする。
14	○レポート設題に向けて 保育・教育の現場における音楽活動を通して、子どもたちに身につけてもらいたいことは何か考察する。
15	○スクーリング修了試験②に向けて コードネームについて総復習し、伴奏づけできるようにする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育・教育等の現場における音楽活動（園行事、学校行事等を含む）がなぜ必要なのかを述べよ。

＜ポイント＞

まず「保育・教育等の現場における活動（園行事、学校行事等を含む）」を挙げてみる。

次に、音楽指導の際に必要と思われる事項(音楽理論、発達段階、年齢区分、行事との関連など)をまとめる。そうすることによって、具体的に挙げた音楽活動とその音楽活動が行われる事由が明らかになり、音楽活動の必要性にまで言及することができる。

科目終了試験学修のポイント

1．ピアノ弾き歌いの実技試験を行う。以下の6曲のうち、試験当日に指定される2曲を演奏する。

・松ぼっくり
・とんぼのめがね
・雪
・かわいいかくれんぼ
・とけいのうた
・山の音楽家

2．留意事項

①楽譜は『保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合』を使用する。

②原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。その場合、アレンジが適切かどうか習っているピアノ教室の教師か、またはスクーリング担当教員に必ず確認すること。

③暗譜演奏である必要はない。

※実技試験合格のためには、「音楽表現Ⅱ」のスクーリングを受講してから受験すること。

※科目終了実技試験（実技試験）を申込む際には、専用の申込書をご使用ください。

教科書

松本岳志 著 『保育者・小学校教諭を目指す人のための音楽表現基礎 理論と実践の統合』 株式会社みらい。

参考文献

二宮紀子著『歌って弾いて書いてわかる子どもの歌・ピアノ伴奏のしくみ』音楽之友社。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規出版。
岡村弘、二宮紀子、杉原由利子編著『これだけは歌って弾こう　子どもの歌　厳選50曲』共同音楽出版社。
小林美実 監修『こどものうた100』チャイルド本社。

実技試験（科目終了試験）について

＜弾き歌いの目的＞

弾き歌いは、何のため、誰のために弾き歌いをするかである。

将来幼児教育・学校教育の現場に立とうと思われている皆さんは、目の前に子どもたちがいることを想像すること。

＜弾き歌いとは＞

弾き歌いは自分の弾く伴奏に乗って歌を聴かせることである。伴奏が完璧でも、声が小さくてピアノの音にかき消されているようでは、弾き歌いとはいえない。また、歌が完璧でもピアノがおぼつかなければ、これも弾き歌いとはいえない。歌とピアノのコンビネーションなのである。

＜どのような伴奏が求められるか＞

幼児教育・学校教育の現場で子どもたちが先生の演奏を聴いて、一緒に子どもたちが歌えるためには、最低限、次のことはできるようにする。

（1）前奏でつっかえたり、止まったりしないこと。

（2）途中で止まらないこと。何度も弾き直していては、音楽の流れが止まり、子どもたちに良質な音楽活動を望めない。

（3）歌は言葉が明瞭であること。歌詞を見なくても歌えること。

＜弾き歌いのピアノ伴奏の方法＞

これには何種類かある。

（1）右手が歌のメロディになっているもの

スクーリングで使用されている楽譜は主にこれらである。これは、子どもたちがより歌いやすいようにメロディが右手に入っている。

（2）コード奏法

歌曲の伴奏のように、メロディはなく、和音の伴奏や歌を引き立たせるために曲想に添って、和音伴奏や、アルペジオ奏法などになったものもある。シューベルトは「のばら」や「アヴェマリア」等、実に多くの歌曲を作曲したが、その伴奏譜は右手にメロディがない。歌と伴奏がかけあいながら一つの音楽になっている。

現代では、コード奏法と言って、子どもの歌もギターの伴奏のように和音だけで弾くことができる。これは子どもたちがその歌をよく知っていれば、前奏部分を右手でメロディを弾き、あとは、コード奏法にしても歌える。

＜試験ではどちらの伴奏形が良いのか＞

ピアノは両手を使う楽器として作られているので、片手だけ、しかもメロディのみでは音が貧弱である。脳梗塞で右手が麻痺し、左手だけのピアニストもいるが、高度なテクニックを要する。皆さんは両手で弾いてピアノの広い音域から音の美しさを聴かせてほしい。

多くの受験生が上記（1）の指定された楽譜通りに練習してくるが、中には簡単な楽譜の人もいるし、難しい部分を少し簡単に直して弾く人もいる。

伴奏を簡単にすることで、音楽の流れが損なわれないで済むのなら、難しい部分を間違えて何度も弾き直して音楽の流れが中断するよりも、そのほうが良いだろう。

アナウンサーは間違えれば言い直しができる。しかし、演劇や音楽はいったん間違えても流れを止めることはできない。止めたら音楽が死んでしまう。舞台俳優が「今、間違えたのでもう一度最初から言います」などという芝居は、練習ならまだしも本番では見たことがない。音楽も同様なので、子どもたちの前で弾き直さないように練習を積んでほしい。

＜評価＞

子どもに良質の弾き歌いを提供できるかどうかである。あなたの歌（音の波）が聴く人の心に届くと、その波は聴く人の心を波打たせる。心をこめて歌ってほしい。

そしてピアノはその歌を乗せる伴奏である。邪魔をせず、しっかりと歌を支えてほしい。

科目コード	会計学入門（２単位）	登録年次	履修方法
1920		１年	R
教員名	松原健治		

科目概要

企業の経営成績や財政状況を把握するためには財務諸表（貸借対照表、損益計算書など）を読み取る力が必要不可欠である。そのため、会計情報を利用するステークホルダー（利害関係者）には、会計の仕組みや専門用語の習得が求められる。そこで、会計学の基礎的な理論や現状について考察する。財務諸表を理解するために、会計の考え方や会計の基本的な構成要素である資産・負債・純資産（資本）・収益・費用などを学習する。

学修内容

1	会計の意義 ビジネスにおいて会計が必要とされる理由について考える。
2	会計の役割 金銭の出入りの記録と会計の機能を概観する。
3	会計制度の仕組み 利害関係者と株式会社との関係について考える。
4	複式簿記の仕組み（1）簿記の流れ 複式簿記のしくみを理解する。
5	複式簿記の仕組み（2）決算業務 決算書（財務諸表）の作成への過程を理解する。
6	財務諸表 貸借対照表と損益計算書を概観する。
7	流動資産 貸借対照表の資産の分類と流動資産の種類を理解する。
8	固定資産 貸借対照表の資産の分類と固定資産の種類を理解する。
9	純資産と負債 資金の調達源泉と貸借対照表（純資産と負債）について理解する。
10	収益と費用 収益の認識と測定、費用の認識と測定について理解する。
11	キャッシュ・フロー キャッシュ（現金及び現金同等物）の流れについて理解する。
12	財務状態 財務安定性について理解する。
13	収益性 収益性を表す指標について理解する。
14	原価構造 原価の分類方法、比率について理解する。
15	経営管理への役立ち 組織内部で使用される管理会計について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】会計を構成する基本的な要素（資産、負債、純資産、収益、費用）とはなにか、そして、会計にはどのような機能があるのか。

＜ポイント＞
企業の財政状態や経営成績は財務諸表によって表され、企業には会計責任があることを考える。

科目終了試験学修のポイント

1．貸借対照表と損益計算書の見方（読み方）について
＜ポイント＞
貸借対照表と損益計算書の内容と両者の関係を考える。

2．貸借対照表を構成する資産（流動資産、固定資産）について
＜ポイント＞
資産は流動資産と固定資産に分けられるが、両者の違いに注目しながら資産を考える。

3．貸借対照表を構成する純資産と負債について
＜ポイント＞
資金調達の方法の違いに留意しながら純資産と負債について考える。

4．利益の計算要素である収益と費用について
＜ポイント＞
収益と費用の認識、測定の基準、費用収益対応の原則を押さえる。

5．企業の資金状態の安定性について
＜ポイント＞
負債比率、自己資本比率、流動比率、当座比率から考える。

6．会計の視点からみた企業の持つ儲ける力について
＜ポイント＞
売上高利益率、総資産経常利益率、自己資本当期純利益率、売上高販管費率から考える。

教科書

朴大栄・小澤義昭・山田伊知郎 『新版　まなびの入門会計学』 中央経済社。

参考文献

千代田邦夫 『新版　会計学入門　第7版　会計・監査の基礎を学ぶ』 中央経済社。
片山覺・山内暁・髙久隆太・井出健治郎・成岡浩一・根岸亮平 『入門会計学　改訂版　決算書が読めるようになるエッセンス』 実教出版。

科目コード	カウンセリングの基礎（２単位）	登録年次	履修方法
2322/2325/2326		2325：３年 2322/2326：２年	2322/2325：ＳＲ 2326：Ｒ
教員名	秋山和寛、新井雅人、荒井理帆、鎌田依里、坪井菜奈子、中山麻子、野口理英子、橋本景子		

科目概要

カウンセリング自体が具体的にどのような環境・方法で、どんな人々を対象に行われ役立っているのかを理解するとともに、カウンセリングの基礎と応用、実技を学修する。子育て支援の一つの方法としてカウンセリングをどのように活用することができるのかを考察する。

学修内容

1	カウンセリングの定義（教科書 pp.1-14） ポイント：問題の解決だけでなく、人間の成長と自立を目指した援助であることを理解する。
2	カウンセリングの歴史（教科書 pp.24-49） ポイント：個人差の測定や職業指導から個人の全人的な発展を源とするカウンセリングと心理療法との違いについて理解する。
3	カウンセリングの倫理と枠組み（教科書 pp.51-70） ポイント：人生相談や教育相談とは異なり、枠組みの中でカウンセリングが行われることを理解する。
4	カウンセリングの流れとプロセスの中で起こる問題（教科書 pp.15-23、参考文献『カウンセリングの進め方』pp.224-254） ポイント：カウンセリングのプロセスの中で起こる、ラポールの形成、沈黙、転移・逆転移、そして終結に当たりクライエントに起こる不安について理解する。
5	アセスメント（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp.3-39） ポイント：観察・面接・テストによってクライエントを理解し治療に役立てることを理解する。
6	来談者中心療法（教科書 pp.72-92） ポイント：ロジャースの人間観を踏まえ、なぜカウンセラーの態度が重要であるかについて考察する。
7	面接の基本姿勢（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp.193-196） ポイント：マイクロカウンセリングのかかわり行動について理解する。
8	面接の基本的応答（参考文献『カウンセリング心理学ハンドブック下巻』pp.196-207） ポイント：マイクロカウンセリングにおける基本的かかわり技法について理解する。
9	行動療法（教科書 pp.94-114） ポイント：無意識のうちに学習した習慣行動による問題の理解とその対応について理解する。
10	認知行動療法（教科書 pp.114-119） ポイント：無意識のうちに身につけた偏った物事の捉え方による問題の理解とその対応について理解する。
11	精神分析（教科書 pp.120-133） ポイント：精神分析の基本的な考え方について理解する。
12	システムズ・アプローチ（教科書 pp.157-170） ポイント：問題や家族をシステムとして捉え、個人の行動や無意識ではなく、関係性の変化に注目する。
13	解決志向カウンセリング（教科書 pp.172-180） ポイント：問題ではなく、うまくいっているところに焦点を当てていくことに注目する。
14	折衷主義とまとめ（参考文献『カウンセリングの理論』pp.25-34） ポイント：折衷主義の長所と短所の両方に注目する。
15	クライエントの理解と児童生徒に関する諸問題（参考文献『エッセンス学校教育相談心理学』pp.69-162） ポイント：不登校、軽度発達障害、虐待、危機介入等のケースを通してクライエントを理解し、どのような援助が可能か考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】現代社会におけるカウンセリングの必要性について整理し、教師や保育士には何が必要かを述べよ。

＜ポイント＞

カウンセリングと心理療法の相違点をその歴史・課題から整理する。さらに現代の幼稚園や小学校での問題点を整理するとともに、教師や保育士のあり方について考察する。

科目終了試験学修のポイント

1．カウンセリングと心理療法について

＜ポイント＞

治療を中心とした心理療法に比べ、歴史的背景から予防・開発的な領域まで含むカウンセリングについて考察する。

2．人間成長理論について

＜ポイント＞

マズローやロジャーズの理論の根底にある「人間は生まれながらに自分と他人を成長させ幸福にする特性や能力を備えているとする性善説の人間観」について考察する。

3．クライエント中心カウンセリングの特徴について

＜ポイント＞

「受容」「共感」「自己一致」とはどういうものなのかを押さえた上で、この3つがなぜ重要であるのかについて考察する。

4．認知行動カウンセリングの特徴について

＜ポイント＞

習慣として身につけた行動や考え方が、生活を不自由にしていることを踏まえた上で、行動や考え方にどのようにアプローチするのかについて整理する。

5．カウンセリングの流れ（プロセスと留意点）について

＜ポイント＞

インテーク面接に始まり、クライエントの自己探索・自己理解・行動化のプロセスを踏まえ、それぞれの段階で起こりうる諸問題について考察する。

6．不適応行動を通してクライエントをどのように理解するかについて

＜ポイント＞

不適応行動の背景を含めクライエントを全人格的に理解し、その援助についても考察する。

教科書

楡木満生、他『カウンセリング心理学ハンドブック　上巻』金子書房。

参考文献

武田建『カウンセリングの進め方』誠信書房。
国分康孝『カウンセリングの理論』誠信書房。
松原達哉編『カウンセリング心理学ハンドブック　下巻』金子書房。
石川正一郎編『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。

科目コード	学習困難児指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4510/4511		4510：３年 4511：２年	4510：ＳＲ 4511：Ｒ
教員名	上田征三、酒井博美、須藤典征		

科目概要

保育や教育の場において、集団を基調としたこれまでの保育・教育の形に馴染まない子どもの割合が増えている。学習においては個々に特別なニーズを持ち、積極的で専門的な関与が必要な子どもたちである。これらの子どもたちが、生涯にわたって自ら学び、豊かに社会とかかわることを可能にするために、さまざまな「学習困難児」についての理論と実践を学ぶ。

学修内容

1	「障害児保育の振り返り：障害とは、その理解」 障害とは何か、障害があるとはどういうことなのか、障害の種類や原因、国際的な障害の捉え方、ノーマライゼーションの理念について学びながら、深く考える。
2	「発達障害及び学習困難児とは」 発達障害及び学習困難児とはどのような特性と発達課題がある子どもたちか、各ライフステージにおいてどのような支援が保育や教育、医療の分野から必要となるか考察する。
3	「保育所・幼稚園における特別なニーズのある子の現状と課題」 実習経験を踏まえ、保育所や幼稚園における学習に困難を要する発達障害や気になる子の実態と課題について明らかにする。
4	インクルーシブ保育・教育の在り方 インクルーシブ保育・教育とはどのような教育か。ノーマライゼーションの理念の浸透と共に世界的にインクルーシブ保育・教育が主流となる中、日本における現状と課題について理解する。
5	注意欠陥多動性障害（ADHD）①　特性の理解 注意欠陥多動性障害はどのような障害か、病理的背景や障害特性、医療的なニーズ、発達的ニーズについて深く理解し、保育・幼児教育の実践に活かせるよう学びを深める。
6	注意欠陥多動性障害（ADHD）②　支援における配慮点 注意欠陥多動性障害の特性を理解した上で、保育・幼児教育の現場におけるインクルーシブな環境下で発達を支援していくか、家庭との連携、地域との連携を含め考察する。
7	知的障害①　特性の理解 知的障害はどのような障害か、病理的背景や障害特性、医療的なニーズ、発達的ニーズについて深く理解し、保育・幼児教育の実践に活かせるよう学びを深める。
8	知的障害②　支援における配慮点 知的障害の特性を理解した上で、保育・幼児教育の現場におけるインクルーシブな環境下で発達を支援していくか、家庭との連携、地域との連携を含め考察する。
9	自閉症①　特性の理解 自閉症とはどのような障害か、自閉症スペクトラムの考え方も含め、病理的背景や障害特性、医療的なニーズ、発達的ニーズについて深く理解し、保育・幼児教育の実践に活かせるよう学びを深める。
10	自閉症②　支援における配慮点 自閉症の特性を理解した上で、保育・幼児教育の現場におけるインクルーシブな環境下で発達を支援していくか、家庭との連携、地域との連携を含め考察する。
11	個々の特性に応じた環境設定①　環境の工夫 保育・幼児教育のインクルーシブな環境下で、どのような環境づくりを工夫すれば、学習に困難を有する子ども達のニーズに応じた支援ができるか、具体的な方法を考察する。
12	個々の特性に応じた環境設定②　遊具・教材の工夫 個々の発達ニーズに応じた支援の実際には、発達段階やねらいに即した遊具・教材選びや使用の工夫が大事になる。各種遊具や教材には、それぞれ特性があること、子ども一人ひとりに合わせて工夫して用いることの意義について理解する。
13	遊具・教材を用いた支援の実際①　知覚を促す 知覚とは何か理解すると共に、聴知覚、視知覚等、様々な知覚を促す遊具・教材について学ぶと共に、実際の使用の仕方について学ぶ。
14	遊具・教材を用いた支援の実際②　認知・言語発達を促す 認知とは何か理解すると共に、認知や言語発達を促す遊具・教材について学ぶと共に、実際の使用の仕方について学ぶ。
15	動きを通した学習の支援 子どもは身体の動きを通して様々な経験と学習をしていく。なぜ様々な身体の動きを経験することが全人的な発達に必要なのか、実技を通して学んでいく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】保育あるいは教育の場における学習困難と適応困難との関係について、事例を挙げて説明せよ。

＜ポイント＞

保育や教育の場における適応困難（行動上の問題）の背景に、認知や言語の障害がしばしば伴うことはよく知られている。専門家としてどのような支援をするかを含んで考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１.「発達障害」の定義について

＜ポイント＞

「発達障害」定義については、教科書や参考文献３を参考に狭義的かつ広義的に説明できるようにする。

２．ADHD、知的障害、自閉症を含む各種の学習困難児の特性について

＜ポイント＞

ADHD、知的障害、自閉症の特性を踏まえた上で、学習困難を示す背景とその特性について示す。

３． 発達障害におけるインクルーシブ保育・教育の意義について

＜ポイント＞

教科書を参考にインクルーシブ保育・教育とは何か理解した上で、集団生活に適応しにくい発達障害の子どもの支援における意義を説明する。

４．発達障害の知覚特性について

＜ポイント＞

知覚とは何か、発達障害でみられる知覚特性やつまずきについて、視知覚、聴知覚等１例を挙げて説明するとよい。

５．遊具・教材と発達支援について

＜ポイント＞

遊具・教材とは何か、発達支援におけるその活用について、例を挙げて説明するとよい。（教科書と参考文献2）

６．個々の特性に合わせた環境設定について

＜ポイント＞

発達障害がある場合、園での生活環境を工夫することで生活習慣の確立や集団生活への適応につながることを述べる。例を挙げて説明するとよい。

教科書

尾崎康子、三宅篤子『知っておきたい発達障害の療育』ミネルヴァ書房。

参考文献

１．小林芳文、大橋さつき『遊びの場づくりに役立つムーブメント教育・療法』明治図書。

２．立松英子『発達支援と教材教具Ⅱ－子どもに学ぶ行動の理由－』ジアース教育新社。

３．小池敏英、他『知的障害の心理学－発達支援からの理解－』北大路書房。

４．小貫　悟『LD のある子への学習指導　適切な仮説に基づく支援』金子書房。

科目コード	家族援助論（２単位）	登録年次	履修方法
7060		３年	R
教員名	氏家博子、小笠原眞紀、田中利則		

科目概要

家族の意味（定義）、機能、家族をとりまく社会的状況と支援体制及び今日における家族生活について概説し、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、子育て支援の基礎となる家族への援助方法及び関係機関との連携について理解する。

学修内容

1	子どもと家族の変化 （家族を取り巻く地域社会の変化、少子高齢化、出生率減少、未婚化晩婚化）
2	家族援助の形態と機能の変化 （家族援助が求められる背景、家族援助の理念・構造・技術）
3	子どもと家族の関係 （家族の形態と機能、親になるプロセス、幼児期の子どもと家族、学童期の子どもと家族）
4	保育士による家族援助 （家族援助における保育士の役割、保育所・児童福祉施設の利用家庭への援助）
5	家族援助に関わる法・制度 （子ども・子育てに関する法律と制度、子育て支援施策の計画、保育所保育指針、幼稚園教育要領）
6	子どもと家族を支える機関や人 (1) （児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室、行政、保健所、児童福祉施設、児童家庭支援センター）
7	子どもと家族を支える機関や人 (2) （家庭裁判所、教育機関、認定こども園、主任児童委員、社会福祉協議会、子育てサロン、子育てサークルなど）
8	子どもと家族を支援するサービス （保育所における保育サービス、子育て短期支援事業、幼稚園における預かり保育事業、認可型・訪問型保育サービス）
9	保育所・幼稚園における家族援助 （保育所・幼稚園における家族援助の姿勢・方法・手段）
10	保育所・幼稚園における家族援助の実際 （障害のある子どもと親への支援、虐待家族への支援、ひとり親家庭への支援、支援の視点からの保育業務の再検討）
11	在宅子育て家庭への支援 （在宅子育て家庭支援の対象と役割、在宅子育て家庭支援活動の実際、特別なニーズをもつ親子への支援）
12	要保護児童とその家族への援助 （入所児童の家族の関係と援助姿勢、乳児院・児童養護施設、母子生活支援施設における家族援助）
13	家族への個別援助の展開 （家族援助の展開過程、援助計画の作成・実施・評価と終結、記録）
14	地域子育て支援センターの役割と支援の実際 （地域子育て支援センターの役割と事業内容）
15	家族援助や地域の子育て支援の実際 （電話相談、児童虐待への援助、障害のある子どもへの援助、地域子育て支援センターにおける支援）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子育てに求められる支援とその背景について述べよ。

＜ポイント＞

1．子育て支援を必要とする背景について、社会の変化、親の生活の変化、子どもの生活の変化、親子関係の変化など、多様な側面から検討する。

2．1をふまえ、現代の子育て支援はどのような視点に立って行う必要があるかを述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．家族機能の変化について

＜ポイント＞

W.F. オグバーンが唱える家族機能は、近代化とともに縮小してきた。しかしながら家族機能の縮小は、家族機能遂行の負担が軽くなることを意味していない。核家族が主流の今日、高齢者の介護、子供の養育など、潜在的機能ストレスを抱えているのが現代家族である。

2．育児不安の要因について

＜ポイント＞

現代の親世代は親になる前に小さな子どもを世話する経験が少ないなど、親になる上で必要とする経験が不足しており、また前の世代からの伝達もされにくくなっており、子育てのイメージと現実に乖離が生じる要因となっている。専業主婦に多い子育てストレスや、ストレスから虐待へとつながる可能性もある。

3．出生率減少の要因について

＜ポイント＞

少子化の要因として、結婚観や価値観の多様化を背景にする晩婚化と未婚率の上昇、夫婦の出生率の低下が指摘されている。

4．仕事と子育てを両立させる方策について

＜ポイント＞

1990(平成 2)年の「1.57 ショック」以降、わが国において仕事と子育ての両立支援など、子どもを育てやすい環境づくりに向けての施策展開がなされてきた。今日に至るまでの少子化対策の経緯について、まとめること。

5．未婚化・晩婚化の要因について

＜ポイント＞

少子化の背景として、女性の未婚化・晩婚化が指摘されている。未婚化は、婚姻関係や子育てに束縛された生活よりも、一人の女性として自立を志向するというものである。また晩婚化については、女性の高学歴化の結果、継続して安定した職業に就きたいという希望が増加し、職業的安定は経済的安定をもたらし、女性の社会的地位が相対的に上昇することとなり、晩婚化の要因となっている。

6．地域子育て支援事業について

＜ポイント＞

就労の有無に関わらず、子育て家庭を地域で支え、孤立した育児をなくしていくための地域子育て支援事業が行われている。地域子育て支援センター、つどいの広場、ファミリー・サポート・センターなどについても触れること。

教科書

橋本真紀、山縣文治 『よくわかる家庭支援論』 ミネルヴァ書房。

参考文献

岡本祐子、他『人間生活学　生活における共生の理念と実践』北大路書房。
柏女霊峰、他『家族援助論』ミネルヴァ書房。
佐伯胖、他『ゆらぐ家族と地域』岩波書店。
畠中宗一『家族支援論　なぜ家族は支援を必要とするのか』世界思想社。
湯沢雍彦『データで読む家族問題』日本放送出版協会。

科目コード	家庭（２単位）	登録年次	履修方法
4300		２年	R
教員名	浅井恭子、石橋和子、杉山憲江		

科目概要

小学校における「家庭科」は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活に焦点をあて、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てることを目標としている。

本科目では、小学校の「家庭科」の授業を展開する上で必要となる、学習指導の要点や留意点、題材構成のあり方などについて学修する。

学修内容

1	家庭科教育の変遷について概略を理解する。 特に、S22 年学習指導要領･S33 年改訂学習指導要領･H1 年改訂学習指導要領･H11 年改訂学習指導要領･H23 年改訂学習指導要領･H29 年告示学習指導要領
2	H29 年告示小学校学習指導要領における教科目標について理解する。 教科目標及び内容項目構成について考察する。　教科書 pp. 12～16 参照
3	A「家族・家庭生活」の題材の取り上げ方、構成、指導上の要点などを学び、指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 20～31 参照
4	B「衣食住の生活」における学修内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 32～63 参照
5	家庭科で実習指導を行う際に配慮すべき点について 実習には調理・製作・洗濯などが含まれます。　H29 年告示小学校学習指導要領 pp. 35･47、pp. 81～83 参照
6	なべによる炊飯、だしからとるみそ汁の実習をし、だしの取り方など日本の伝統的な食文化の大切さを学ぶ。 米の栄養・吸水時間・きり方の名前・だしのとり方に対する知識理解
7	B「衣食住の生活」（4）衣服の着用と手入れ（5）生活を豊かにするための布を用いた制作における内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 49～57 参照
8	洗濯、特に手洗いのしかたを実習し、基礎基本を学ぶ。 洗濯の仕方・布の扱い方・取り扱い表示についての知識を理解し、指導上の留意点を獲得する。
9	小学校家庭科における手縫いの実習をし、基礎基本を学ぶ。 なみ縫い･纂縫い･返し縫い、ボタンの付け方などの技能を確実にし、指導上の留意点を理解する。
10	小学校家庭科におけるミシン縫いの実習をし、基礎基本を学ぶ。 糸のかけ方・針のつけ方・アイロンのかけ方などの技能を確実にし、指導上の留意点を理解する。
11	B「衣食住の生活」における（6）快適な住まい方について内容を学び、題材構成や指導上の留意点を理解する。 教科書 pp. 58～63 参照
12	C「消費生活・環境」 環境に配慮するための知識を理解し、指導上の留意点を獲得する。 クリーンコンシューマー・４R・エコに関係するマーク・グリーンカーテンなどの知識を理解し、指導上の留意点を理解する。
13	指導計画作成における題材構成や教材選びについての留意点を考察し、指導上の配慮事項について学びを深める。 教科書 pp. 71～81 参照
14	上記 13 で学習したことを基に自分なりの単元(題材)を構想し、学習展開を考える。
15	自分の生活する地域の素材に目を向け、地域性を取り入れようとするとき、どんな題材や素材があるのか、どのように小学校家庭科授業にとりいれたらよいか工夫を考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】家庭科における題材・教材選びの留意点と具体的な学習展開について述べよ。

＜ポイント＞

小学校家庭科では「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成を目指す」ことに留意し、題材構成・教材選びの視点を整理するとともに、具体的にどのような学習展開が考えられるかを構想すること。

科目終了試験学修のポイント

1．A「家族・家庭生活」に関する内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編の学修内容領域区分におけるAの位置づけを理解した上で、B～Cとの題材構成を考察する。題材の取り上げ方、構成、指導上の要点を掴む。

2．B「衣食住の生活」(1) 食事の役割 (2) 調理の基礎 (3) 栄養を考えた食事の内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.34-48を熟読し、それを基に指導における留意点を考察してほしい（食事の役割・調理の基礎・栄養を考えた食事・調理の基礎）。

3．B「衣食住の生活」(4) 衣服の着用と手入れ (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作の内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.49-57を熟読し、それを基に指導における留意点を考察してほしい(衣服の着用と手入れ・快適な住まい方・生活に役立つものの製作)。家庭生活を総合的に扱う指導。

4．C「消費生活・環境」の内容と指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.64-70を熟読し、それを基に指導における留意点を考察してほしい(物や金銭の使い方と買い物・環境に配慮した生活)。他教科との関連を考慮した指導。

5．実習指導を行う際に配慮すべき点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.81-83を基に考察する。小学校5･6年の実態を踏まえ、配慮点を述べること。食物アレルギーについても配慮すること。

6．わが国の伝統的食文化である「米飯及びみそ汁の調理とだし汁」の指導上の留意点について

＜ポイント＞

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編pp.42-43を読んだ上で、実習を基に日本の伝統食として「米飯及びみそ汁の調理」を指導する際の配慮点を述べる。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編』東洋館出版社。

参考文献

櫻井純子、他『小学校わたしたちの家庭科５・６』開隆堂出版。

内野紀子、他『小学校新学習指導要領の展開　家庭科編』明治図書。

科目コード	家庭科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4250		２年	ＳＲ
教員名	浅井恭子、石橋和子、杉山憲江		

科目概要

「家庭科」は社会の変化とともに、その意義や目標、教育内容を大きく変容させられてきた教科である。本科目ではそうした歴史の反省をふまえ、教科としての「家庭科」の意義と、小学校における「家庭科」の目標、内容、指導方法について習得する。また「家庭科」から総合的な学習の時間への提案についても学ぶ。

学修内容

1	急激な社会変化を生活の利便性・高齢社会・少子化・科学の発達・情報化の観点から考え、それによって変化している子どもの家庭生活・多様化した家族生活などを現状分析する。
2	H23 年改訂小学校学習指導要領の基となっている H20 年中央教育審議会答申を読み、これからの家庭科教育における課題を掴む。
3	H23 年改訂小学校学習指導要領家庭科において改訂された部分（教科目標の改訂された文言、小中の連携、学習内容区分Ａ～D、衣･食･住区分ではなく家庭生活を総合的に扱う)を把握し、これからの家庭科教育のあり方を理解する。
4	家庭科の学習特性とは 体験的･実践的活動を通して、生活する視点で、衣･食･住を対象とする家庭生活を総合的に捉える。学習を生活に活かす。
5	家庭科の学習指導のあり方の特質について 児童実態･地域実態などの日常生活に合う題材、学習意欲(意識的自己形成)、学習したことを生活する力へ転化できる、実生活に活かす←家庭の協力、体験的･実践的活動の工夫
6	家庭科の学習内容が大綱的に示されていることについて ・家庭生活を総合的に扱い、題材構成により地域実態・児童実態に即した学習を計画できること ・2 年間を見通したストーリー性のある学習を計画できること ・H23 年改訂により A～D の学習内容の小中の系統性を踏まえ、生きる力の育成につながること ・伝統文化の継承として「ご飯とみそ汁」だけが指定されていること
7	小学校の家庭科における「基礎・基本」について 体験的･実践的活動を通した授業　　思考→習得→活用→探究　　思考力・判断力・表現力→主体的学習 言語活動の充実 ← 集団学習 ＝ 相互の学びあい
8	家庭科における実践的な態度の育成 生活する視点で地域実態・児童実態に即した題材・教材を見極め、身につけたい資質能力を明らかにする授業 体験的･実践的活動を工夫し、学習したことを家庭生活で活用したり応用したりできるような働きかける指導の計画
9	家庭科における評価 4 観点別による評価（関心･意欲･態度、創意工夫、技能、知識理解）　評価方法(観察・発表・作品・自己評価・活動の様子)
10	家庭科と総合的な学習の時間との関連について H23 年改訂小学校学習指導要領総則 pp.44～45 をよく読み、学習対象･活動場所･学習方法などの視点から共通する点を掴む。
11	小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連 横断的視点（社会･理科・道徳）給食・清掃　　縦断的視点(生活・総合・4 学年までに学習)　　他教科との合科 小中の連携 A~D の学習内容項目←　H23 年改訂小学校学習指導要領家庭科 p.63(小学校・中学校家庭分野)
12	題材構成をした授業計画の構想１ 参考文献などの実践例から授業指導計画を学び、学習展開や題材構成についてポイントを理解する。
13	題材構成をした授業計画の構想２ 参考文献などの実践例から題材構成をし、授業指導計画の構想、学習指導案の作成ができる。
14	題材構成をした授業計画の構想３ 授業指導計画の中から本時の学習展開を構想し作成する。
15	1～3 回の内容を中心に設題１について文章化する。 社会変化→子どもたちの現状→食育、消費教育、環境、改訂の基本方針→これからの家庭科教育のあり方

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 今後の社会変化への対応を考慮した家庭科の学習について述べよ。

＜ポイント＞
中央教育審議会の答申（平成20年1月17日）等を参考にしながら、今後の急速な社会変化とはどのようなものであり、それへの対応として、家庭科の学習で育成すべき力とはどのようなものか、家庭科の学習内容はどうあるべきかについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．家庭科における実践的な態度の育成について
＜ポイント＞
・生活する視点で地域実態、児童実態に即した題材・教材を見極める。
・体験的・実践的活動を工夫する。
・学習したことを家庭生活で繰り返し実践される働きかけを大切にする(家庭での実践依頼と協力)。

2．家庭科の学習内容が大綱的に示されていることについて
＜ポイント＞
学修内容6を参照

3．小学校の家庭科における「基礎・基本」について
＜ポイント＞
学修内容7を参照

4．家庭科の学習方法の特質について
＜ポイント＞
学修内容5を参照

5．家庭科と「総合的な学習の時間」との関連について
＜ポイント＞
学修内容10を参照

6．小学校の家庭科と他教科との関連、中学校家庭科との関連について
＜ポイント＞
学修内容11を参照

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版。

参考文献

中間美砂子『小学校家庭科指導の研究』建帛社。
橋本郁『小学校新教育課程の解説　家庭』第一法規。
橋本郁、他『新しい教育課程と学習活動の実際』東洋館出版。

科目コード	家庭支援論（２単位）	登録年次	履修方法
6471		２年	R
教員名	青木正、小笠原眞紀、黒木豊域、田中利則、西村彩恵		

科目概要

家族の意味（定義）、基本的機能をおさえた上で、子どもの健全な発達や社会の発展のために果たす家庭の役割、子育て家族を取り巻く社会的状況の厳しさを学修し、家庭支援の必要性を理解する。家庭のニーズに応じた多様な子育て支援の方法、関係機関との連携などについて身近な地域（居住地）の実態を通して、保育者として可能な支援を考える。

学修内容

1	家族援助の対象と役割 家族援助が求められるようになった背景からその意義を理解する。次いで、家族援助がどういう概念であるか、その構造、理念、技術、サービスの形態、およびサービスの種類について理解を深める。
2	子どもと家族 家族の形態と子どもが生まれ育つ中で、家族がどのように機能し変化するかを学ぶ。 家族の形態、機能、取り巻く社会について理解を深める。また、親になるプロセスについて理解を深め、子どもの発達と親や家族のかかわりと影響について理解する。
3	保育士による家族援助 家族援助における保育士の役割と支援内容について 基本的な保育士の役割とは何かを踏まえ、家族援助における保育士の役割および倫理を学ぶ。また、保育所を利用する家庭や児童福祉施設を利用する家庭への援助についても学ぶ。
4	家族援助にかかわる法・制度 子ども・子育てに関わる法にはどのようなものがあるのだろうか。また、その他の法律で子育てに関する法律にはどのようなものがあるのだろうか、それぞれの制度および指針について理解を深める。保育所保育指針と幼稚園教育要領における子育て支援について学ぶ。
5	子どもと家族を支える機関や人 児童相談所、福祉事務所、家庭児童相談室、子ども家族福祉の行政、保健所と市町村保健センター、児童福祉施設、児童家庭支援センター、および家庭裁判所などの機関と人についてそれぞれの目的と内容を学ぶ。
6	子どもと家族を支える機関や人 教育関係機関、認定こども園、児童委員・主任児童委員、社会福祉協議会、子育てサロン、子育てサークル、子育てネットワークについて、それぞれの目的と内容を学ぶ。
7	子どもと家族を支援するサービス 子どもと家族を支援する社会資源としてのサービスにはどのようなものがあるのか理解を深める。 （保育所における保育サービス、子育て短期支援事業、幼稚園における預かり保育事業、認可外保育サービス、訪問型保育サービス、育児休業制度など。）
8	保育所・幼稚園における家族援助 保育所等における家族援助の在り方、方法、および手段について学ぶ。また、障害のある子ども、虐待家族、ひとり親家庭などの特殊なニーズへの支援について理解を深める。
9	在宅子育て家庭への支援 在宅子育て家庭への支援の対象や、各現場での支援について理解を深める。
10	在宅子育て家庭への支援 在宅子育て家庭への支援における情報収集から企画、実施、評価までを学ぶ。
11	要保護児童とその家族への援助 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、などにおける乳児児童とその家族への支援について、様々な現場の特徴を学ぶ。
12	家族への個別援助 家族の支援について、展開過程の各段階における留意点を学ぶ。①受理・情報収集と分析、②援助計画の作成、③援助活動の実施、④援助活動の評価と終結、⑤記録
13	家族援助や地域の子育て支援の実際 電話相談の事例や保育所における子どもの虐待への援助事例を読み、支援への理解を深める。
14	家族援助や地域の子育て支援の実際 障害のある子どもの事例や、地域子育て支援センターにおけるプログラム開発、子育てサークルの支援を研究し、支援への理解を深める。
15	家族援助や地域の子育て支援の実際 地域子育て支援センターにおける子育て支援、虐待を受けて児童養護施設に入所している子どもの事例、児童福祉施設に入所している子どもの家庭復帰の支援を研究し、それぞれへの理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　家庭支援の背景と意義及び支援の内容について述べよ。

＜ポイント＞
　家庭支援がなぜ必要になってきたのか、①その社会的背景について説明する。また、②その意義と構造、③具体的な支援内容について説明を行う。

科目終了試験学修のポイント

1．家庭機能の変化について
＜ポイント＞
　そもそも家庭の機能には、どのようなことがあったのか。また、それがどのような事柄が原因で、どのように変化したのかについて述べる。また、それに伴う課題について考察する。

2．少子化の要因と出生率の低下について
＜ポイント＞
　少子化および出生率が低下したことの要因は何かについて述べ、それがもたらす社会の変化についても考察する。

3．家庭支援に関わる法律・制度について
＜ポイント＞
　児童福祉六法やそのほかの重要な制度についてまとめる。

4．子どもと家庭を支える機関や人について
＜ポイント＞
　子どもと家庭を支える機関にはどのようなものがあり、どのような職員がどのような働きをするのかについてまとめる。

5．家庭支援における保育士の役割について
＜ポイント＞
　家庭支援を保育士が行うとする根拠となる法律を調べ、その役割を、方法や基本姿勢から述べる。

6．地域子育て支援事業について
＜ポイント＞
地域子育て支援事業とは何か、また、支援センターの役割や事業の課題についても述べる。

教科書

橋本真紀・ 山縣文治編『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。

参考文献

柏女霊峰、他『家族援助論』ミネルヴァ書房。
畠中宗一『家族支援論　　なぜ家族は支援を必要としているか』世界思想社。
佐伯胖、他『ゆらぐ家族と地域』岩波書店。

科目コード	カリキュラム論（２単位）	登録年次	履修方法
4590/4591/4592		4590/4591：３年 4592：２年	R
教員名	坂本真理子、杉山憲江、鈴木美子、山口悠紀子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム･マネジメントを含む。)		

科目概要・到達目標

乳幼児保育における長期的見通し、保育担当者の共通認識、指導計画の重要性と計画の作成法を扱う。また、「計画・実践・反省・計画の改善」の関連性についての事例を理解するとともに、保育の省察から子ども理解と保育の見直しについて掘り下げ、一人ひとりに即した保育の実践能力を培う。

学修内容

1	幼児教育における計画の重要性を理解する ・「カリキュラム」、「教育課程」の意味することを理解する。（第１章・第２章）
2	幼児期の学習の特質を理解する ・遊び、生活を通しての学びと系統的な学習との違いと関連を理解する。（第１章）
3	経験カリキュラムと系統的カリキュラム ・カリキュラムにおける系統性と子どもの経験との関連を理解する。（第１章）
4	幼稚園における教育課程の意義と編成の基本の理解 ・教育課程に関する法律と教育課程編成のしかたを理解する。（第２章）詳しくは参考文献※を参照
5	教育課程の編成の実際 ・教育課程編成の手順、形式、記入内容について事例を通して理解する。参考文献※第９章５歳児の教育課程等を参照
6	教育課程（幼稚園）・全体的な計画（保育所・幼保連携型認定こども園）と指導計画の関係 ・指導計画の必要性。教育課程から指導計画をどうのように作成するかを理解する。（第３章・第４章）
7	長期の指導計画 ・幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における年間、期間、月の計画の目的内容を理解し、事例を参考に作成してみる。（第４章）
8	短期の指導計画 ・幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園における週案、週日案、日案の目的と内容を理解し、事例を参考に作成してみる。（第４章）
9	指導計画と保育実践 ・これまで学んだ指導計画作成上の配慮点から、計画を実践に移す際の配慮点をまとめてみる。
10	保育の記録と反省・評価 ・保育における記録の重要性と記録の仕方、計画―実践―反省―計画の関係性を、事例を通して学ぶ。（第５章）
11	保育の評価と計画の改善、カリキュラム・マネジメントの意義と実際 ・長期計画、短期計画について、計画がどのように実践されたか、そこから次の計画をどう修正するか、事例を通して学ぶ。カリキュラム・マネジメントの意義と幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園のカリキュラム・マネジメントの実際を学ぶ。（第６章）
12	教材研究 ・幼児教育の目的を達成するために適切な教材の在り方、選定の方法などを学び、さまざまな場面における教材について考える。
13	保育の自己評価 保育の質を高める自己評価の在り方について理解を深める。（第８章）
14	小学校との連携 ・指導要録等、幼児施設と小学校の連携に関する作成の在り方や方法を事例を通して学ぶ。（第７章・第９章）
15	保育の計画の展望 ・社会の保育ニーズ、保育・教育制度の変化と保育の計画の内容との関連、他国の保育の計画の考え方を考察する。（第９章・第10章）

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】幼稚園における教育課程の意義について述べよ。

＜ポイント＞
子どもの発達の連続性、保育者間の共通認識、地域や家庭との連携、小・中学校との連携視点から、教科書下記文献等を参考にし、自らの考えも加えて述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．保育における計画について
＜ポイント＞
保育における計画は、子どもの生活の流れを見通すもので、実態に即して柔軟に修正できるものであることを理解する。

２．幼児期の遊びと学びについて
＜ポイント＞
幼児の生活は遊びであり、その中に「生きる力の基礎」を含む学びがあり、子どもの主体的な経験がことのほか重要であることを理解する。

３．教育課程の実施と指導計画の作成について
＜ポイント＞
教育課程は全体計画であり、生活や子どもの育ちの方向を示すものであり、指導計画は実際に行う内容であることから、「計画」としての質が違うことを確認する。

４．指導計画作成の実際について
＜ポイント＞
指導計画作成は子どもの実際の活動、経験をイメージしながら、実践に結びつけやすく無理のないように具体的に作成することを確認し、自分で作成してみる。

５．保育における評価について
＜ポイント＞
保育の評価のためには記録が大切であり、評価は多角的に行い、結果よりも過程を重視し、子どもの立場から行うことが重要であることを理解する。

６．教育課程・保育課程の課題と展望について
＜ポイント＞
保育・教育課程は保育の場に対する社会の要求、期待、望ましい子ども像など、社会に共有されている価値観を反映しているものであり、保育制度の変化など保育の社会的役割の重要性を理解する。

教科書

北野幸子編著『保育の計画と評価』北大路書房。

参考文献

文部科学省『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』チャイルド本社。
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
川邉貴子『教育課程　保育課程論』東京書籍。
汐見稔幸・無藤 隆監修『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』
ミネルヴァ書房。

科目コード	韓国の文化と言語 / 韓国の文化と言語Ⅰ (2 単位)	登録年次	履修方法
1650/1810		1年	ＳＲ
教員名	尹文九		

科目概要

2002 年日・韓ワールドカップ共催以降、韓国ドラマやハングルに対する関心や需要が急速に高まっている。こうしたことを踏まえて、本講義ではハングルや韓国に関心がある初心者の学生を対象に基本的なハングルを学びながら、韓国のさまざまな文化について日本の文化と比較しながらその相違点や類似点について学修する。

したがって、より良い学修効果を高めるためには授業に入る前にある程度の文字を覚えることが望ましい。また、自分が関心を持っている韓国の文化、例えば、食文化、儒教文化、大衆文化（ドラマ、映画、音楽など）、家族文化、教育文化や歴史、世界遺産の中から、一つを選んでそれについて調べて授業に臨むことが必要である。

学修内容

1	科目の学修概要を、シラバスを読んで把握する。また、韓国社会について基本的なことを学修する。
2	韓国文化の理解―ハングルの特徴と構成― 文化の一つとしてハングルの特徴や基本構成について学修する。　教科書 pp.2-9
3	基本母音と子音（文字と発音） 基本母音と子音の発音を中心に学修する。　教科書 pp.10-17
4	合成母音と子音（文字と発音） 合成母音と子音の文字とバッチムについて学修する。　教科書 pp.18-27
5	韓国文化の理解 韓国の伝統文化の特徴について学修する。
6	私は○○○です（名前と職業） 初対面の相手に自分の名前、国籍や職業を紹介する会話を学修する。　教科書 pp.40-45
7	儒教文化 儒教が韓国社会や韓国人に及ぼした影響について学修する。
8	家族文化 ハングルで家族や親族の呼び方を学修した後、日本と韓国の家族制度の相違点について学修する。教科書 p.61
9	教育文化 なぜ、韓国は教育に関心が高いのかなど、韓国と日本の教育文化の相違点や類似点について学修する。
10	道を尋ねるときの言葉 位置関係の言葉と同時に、韓国旅行の際に道を尋ねる時に必要な文型や会話について学修する。教科書 pp.69-71
11	韓国の歴史と世界遺産 韓国の歴史について時代別に区分し、その大きな特徴を日本の歴史と比較しながら学修する。また、世界遺産にはどのようなものがあるのかについて学修する。
12	食文化 日本と韓国を比較しながら食文化の違いについて学修する。
13	買い物やレストランでの言葉 買い物や食事の際、日本と異なる点や必要な会話について学修する。
14	韓国の大衆文化 韓国のドラマ、映画、音楽など大衆文化の特徴や日本の文化と相違点について学修する。
15	全体まとめ ハングルで簡単な自己紹介ができるように学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 韓国文化の中から一つを選び、日本と比較して相違点や類似点について述べよ。

＜ポイント＞
文化には食文化をはじめ大衆文化など、さまざまなものがある。一般的に文化はシステム構造の特性を持っているといわれている。すなわち、欧米を基準に日本と韓国の文化を比べると類似点が多い。しかし、対象を日本と韓国と限定した場合類似点よりは相違点が多い。このように比較することによって理解しやすくなる。

科目終了試験学修のポイント

１．教科書 p.44 の文型練習を日本語で訳し、韓国語と日本語の違いについて述べよ。
＜ポイント＞
言葉は文化の一つであることを前提に、日本語と韓国語にはどのような特徴があるのかについて理解する。

２．教科書 p.60 の文型練習を日本語で訳し、また自分の家族関係を韓国語で簡単に説明せよ。
＜ポイント＞
教科書 pp.58-59,p.61 を学修し、取り組むこと。

３．韓国語で簡単に自己紹介を書け。
＜ポイント＞
名前、職業、趣味などについて簡単でもいいので自己紹介ができるように学修する。

４．儒教が韓国社会に及ぼした影響について述べよ。
＜ポイント＞
朝鮮時代の５００年は儒教の理念を基盤に社会が構築され、人々の生活様式や意識などに多大な影響を及ぼした。例えば、言葉遣いや食事のマナー、家族関係など韓国の文化は儒教を中心に形成されたのである。したがって、韓国文化を理解するためには儒教の基本的な理念を理解する必要がある。

５．韓国と日本の食文化の違いについて述べよ。
＜ポイント＞
なぜ、食事をする様子やマナーが韓国と日本では異なるのかなど、食文化のさまざまな面から類似点や相違点を比較し、まとめる。

６．韓流が日本社会に及ぼした影響について述べよ。
＜ポイント＞
経済効果や国家間の人的交流などについてまとめてもいい。

教科書

李昌圭『韓国語を学ぼう（初級）』朝日出版社。

参考文献

斉藤明美『ことばと文化の日韓比較』世界思想社。
古田博司、他『韓国学のすべて』新書館。
金真、他『韓国文化を読む』朝日出版社。
金真、他『韓国社会を読む』朝日出版社。
韓国海外文化広報院『韓国のすべて』韓国文化体育観光省。

科目コード	韓国の文化と言語Ⅱ（2 単位）	登録年次	履修方法
1820/1822		1820：２年 1822：１年	ＳＲ
教員名	尹文九		

科目概要

韓国の文化と言語Ⅰでは文化を中心としながら言語について学修し、本科目ではⅠで学んだハングルの文型や文字を復習しながら新しい会話を中心に学修する。

学修内容としては、難しい文法よりは分かりやすい日常会話、すなわち実用会話を中心に勉強する。同時に、韓国の文化や社会などについても学修し、韓国社会への理解を高める。

学修内容

1	韓国の文化と言語Ⅰの学修内容を振り返る。 文化とは何か
2	韓国現代社会の理解 政治制度など現代韓国社会全般を理解するための基本的な事項について学修する。
3	言語文化としてハングルの文字と特性 ハングルの特性と文字の発音などを学修（復習）する。
4	挨拶の言葉 訪問、お礼、謝辞、出会いと別れ、食事のときなど様々な場面での挨拶の言葉を学修する。教科書 pp.34-35
5	教室の言葉 授業の際、教室内で使用する基本的な言葉について学修する。教科書 pp.36-37
6	韓国の伝統文化 生まれてから死ぬまでの間にどのような儀式があるのかについて伝統文化を中心に学修する。
7	これは何ですか（指示代名詞、場所） 物や場所を指す指示代名詞について学修する。 教科書 pp.48-55
8	この人は誰ですか（三人称代名詞） 三人称代名詞の文法と表現について学修する。 教科書 pp.56-59
9	家族文化と家族の呼び方 日本と韓国の家族文化の違いや類似点について学修する。 教科書 pp.61-63
10	N＋が／はどこにありますか 場所や位置関係の言葉の表現について学修する。 教科書 pp.64-71
11	N＋をしますか 接続詞について文法と表現について学修する。 教科書 pp.72-75
12	N＋に／へ行きますか 曜日や時間関係の言葉について学修する。 教科書 pp.82-89
13	漢数詞と電話番号 漢数字と電話番号について学修する。 教科書 pp.100-103
14	これはいくらですか 店で買い物に必要な基本的な会話を学修する。 教科書 pp.116-119
15	漢数字と固有数字と全体のまとめ 固有数字や漢数字を学修し、全体を総括する。 教科書 p.102、p.110

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】韓国社会について調べ、まとめよ。

＜ポイント＞

韓国社会について、例えば、政治、経済、歴史、社会・文化などから自分が理解したいテーマについて調べ、まとめる。
なぜそのテーマを選んだのか、理由も述べること。一つのテーマに絞っても、幅広いテーマを総合的にまとめてもよい。

科目終了試験学修のポイント

1．自分が覚えている挨拶関連の言葉を20個以上韓国語とそれに対応する日本語で書け。
＜ポイント＞
教科書 pp.34-35 のあいさつの言葉を覚えること。

2．教科書 p.54 の活用練習1と p.55 の活用練習4を例のようにハングルで答えよ。
＜ポイント＞
教科書 pp.50-51 の基本文型を覚え、取り組むこと。

3．教科書 p.62 の活用練習1と p.63 の活用練習3を例のようにハングルで答えよ。
＜ポイント＞
教科書 pp.58-59 の基本文型及び p.61 の親族の呼び方を学修し、取り組むこと。

4．教科書 p.68 を日本語に訳せ。
＜ポイント＞
教科書 pp.66-67 の文法と表現を学修し、取り組むこと。

5．教科書 p.71 の活用練習3の図を見て、例のようにハングルで答えよ。
＜ポイント＞
教科書 p.69 の位置関係に関する言葉を覚え、取り組むこと。

6．教科書 p.106 の活用練習1を例のようにハングルで答えよ。
＜ポイント＞
教科書 p.102 の漢数字を覚え、取り組むこと。

教科書

李昌圭『韓国語を学ぼう（初級）』朝日出版社。

参考文献

斉藤明美『ことばと文化の日韓比較』世界思想社。
古田博司、他『韓国学のすべて』新書館。
金真、他『韓国文化を読む』朝日出版社。
金真、他『韓国社会を読む』朝日出版社。
韓国海外文化広報院『韓国のすべて』韓国文化体育観光省。

科目コード	基礎演習（２単位）	登録年次	履修方法
1960		１年	R
教員名	岡林純子、駒井美智子、坂本真理子、戸田大樹、中村裕、堀建治		

科目概要

本講義はこれからの社会を担う人材、特に子どもに関わる専門家（保育者・教育者）に求められる基本的な態度や行動、考え方について学習する。保育の専門スキルついて学ぶ前に社会人基礎力が身についていなければ、どんなに専門性の高いスキルを身につけても職員間の連携がとれない事や保護者との信頼感が得られず保育の向上につながらない。社会人基礎力を学ぶ中で、保育現場の上司や先輩、そして保護者との良好な信頼関係を築くことでスムーズに保育活動が展開される。受講者が将来の保育者像について練り上げていくための基盤となることをねらいとし、子どもの専門家としての職責を担うための土台をつくることを目指す。

学修内容

1	「社会人基礎力」とは何か 保育者である前に社会人であることを前提に、考え方、態度、行動を身につけ人との信頼関係を築くことが望まれる。
2	保育者に必要な「発信力」とは 現場ではチームで保育活動を行うことが多く、自分から報告、連絡、相談することが重要になってくる。
3	保育者に必要な「傾聴力」とは チームで働く力の一つで情報を正しく聴き取る力が大切で、話の内容を丁寧に理解することが信頼関係につながる。
4	保育者に必要な「柔軟性」とは 職員間での考えが違っても相手の立場に立って理解できる柔軟性が求められる。対保護者にとっても重要である。
5	保育者に必要な「状況把握力」とは 保育の仕事は事務仕事、活動の準備、掃除など多岐にわたる。優先順位をつけることは保育の仕事では重要でる。
6	保育者に必要な「規律性」とは 規律を守ることは社会人として基本である。規律を守らない事は安全管理につながり重大事故に繋がりかねない。
7	保育者に必要な「ストレスコントロール力」とは 保育の仕事は対人間の仕事である。様々なストレスを受けることになるので、ストレスレベルコントロールが重要である。
8	保育者に必要な「主体性」とは 保育者の主体性としては「進んで取り組む力」「指示待ちにならない」これが社会人としても重要である。
9	保育者に必要な「働きかけ力」とは チームで保育を行うことは上手に先輩、同僚と連携できる力が必要で、仕事をスムーズに進めるために重要である。
10	保育者に必要な「実行力」とは すぐに実行できる人は保育者だけではなく、社会人として基本的な行動である。そのことで上司の信頼感が得られる。
11	保育者に必要な「課題発見力」とは 習慣的に自分の行動を振り返り、検証することが出来るようになると、同じミスの繰り返しを防ぐ。
12	保育者に必要な「計画力」とは 保育活動は月案、週案、日案など指導計画をもとに進められている。PDCA サイクルを意識して計画する事が重要である。
13	保育者に必要な「創造力」とは 保育活動の中で疑問や考えを持ちながら保育にあたることが自分自身の成長に繋がる。
14	保育者のキャリアデザイン キャリアとキャリアデザインの違いを学び、保育者のキャリアを築く。
15	社会人基礎力のまとめ：12 項目の振り返り、各項目を再度理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「社会人基礎力」を参考に理想的な保育者を述べよ。

＜ポイント＞

「社会人基礎力」は、保育者のみならず、全ての業種や職業の人に求められる共通のルールである。このルールを身につけることで考え方や態度、行動が社会や保育現場で役に立つ。コミュニケーションもスムーズに展開することで、人間関係を上手に築くことにつながる。保育の仕事はチームを組んで行うことが多く、信頼関係の構築が重要となる。保育者同士の連携がなされれば、ミスを犯したとしても互いに助け合うことが可能になる。また、保育の仕事は対子どもと思われがちだが、最もウエイトが重いのは対保護者である。保護者との信頼関係が築ければ、ストレスを感じることなく保育活動ができる環境が整うといえる。

科目終了試験学修のポイント

1.「社会人基礎力」について

＜ポイント＞

「社会人基礎力」とはどのようなものか、教科書を熟読し、理解して自分の文章としてまとめる。

2．保育の仕事をスムーズに進めるための発信力について

＜ポイント＞

社会人として踏み出す力（アクション）、考え抜く力（シンキング）、チームで働く力（チームワーク）を確認し、理解して自分の文章としてまとめる。

3．保育の質について

＜ポイント＞

保育の質を高めるための規律性を中心に、教科書を熟読し、理解して自分の文章としてまとめる。

4.「社会人基礎力」の12項目のメリットについて

＜ポイント＞

「社会人基礎力」の12項目について1項目ずつ内容を理解し、そのメリットは何か、現場を想像して考え述べること。

5．保護者との信頼関係を築くために行ってはいけないことについて

＜ポイント＞

「社会人基礎力」の12項目をもとに（全項目ではなくてよい）、信頼関係を築くための傾聴力を理解し、信頼関係を築くために行ってはいけないことを考え、理解して自分の文章としてまとめる。

6．保育者のキャリアについて

＜ポイント＞

保育者としてのキャリアデザインについて、教科書を中心にまとめ、保育者としてのキャリアのあり方を自分の文章としてまとめる。

教科書

谷口真紀　著　『自信がもてる、成長できる！新人保育者が身につけたい社会人基礎スキル』　中央法規出版

参考文献

文部科学省 『幼稚園教育要領』 東山書房。

社会福祉法人日本保育協会 『保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 社会福祉法人日本保育協会。

東京福祉大学編 『保育児童福祉要説』 中央法規。

科目コード	基礎演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
9030/9031		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	駒井美智子		

科目概要

保育士公務員試験をはじめとする就職試験で出題される専門科目専門試験（社会福祉、児童福祉、保育原理、養護原理、教育原理、発達心理学、教育心理学、小児保健、小児栄養、精神保健、家族援助論、保育内容、乳児保育、障害児保育、保育実習）の択一試験、及び福祉系、心理系、保育系、保健系記述式試験の問題演習と作文試験に向けた傾向と対策授業を行う。

学修内容

1	保育士試験科目：社会福祉① 教科書 pp.198～206 を読み、重要ポイントについて理解する。
2	保育士試験科目：社会福祉① 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
3	保育士試験科目：児童福祉① 教科書 pp.224～231 を読み、重要ポイントについて理解する。
4	保育士試験科目：児童福祉② 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
5	保育士試験科目：発達心理① 教科書 pp.248～261 を読み、重要ポイントについて理解する。
6	保育士試験科目：発達心理② 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
7	保育士試験科目：保育原理・保育内容① 教科書 pp.278～283 を読み、重要ポイントについて理解する。
8	保育士試験科目：保育原理・保育内容② 教科書 pp.284～291 を読み、重要ポイントについて理解する。
9	保育士試験科目：保育原理・保育内容③ 教科書の問題（No.1～25）に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
10	保育士試験科目：保育原理・保育内容④ 教科書の問題（No.26～50）に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
11	保育士試験科目：保健衛生① 教科書 pp.328～346 を読み、重要ポイントについて理解する。
12	保育士試験科目：保健衛生② 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
13	幼稚園教諭独自科目：教育学 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
14	幼稚園教諭独自科目：保育原理 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。
15	幼稚園教諭独自科目：法規 教科書の問題に取り組み、間違った問題は後で再度解けるように抜き出しておく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 教科書に記載されている作文の出題を参考にして、作文課題を2つ自己出題し、それぞれの文章構成を説明し、各1,000字程度の作文を記述せよ。

＜ポイント＞
文章構成をしっかり組み立てることが、論旨の通った作文を書く条件であることを自覚し、書く前に構成をしっかり立てる訓練をすること。構成の意図をしっかり説明した後に、2つの作文をそれぞれ1,000字程度で作成すること。

科目終了試験学修のポイント

1．専門科目「社会福祉、児童福祉、養護原理」のなかの2科目を選択し、それぞれの予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

2．専門科目「発達心理学、教育心理学、精神保健」のなかの2科目を選択し、それぞれの予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

3．専門科目「家族援助論、障害児保育、教育原理」のなかの2科目を選択し、それぞれの予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

4．専門科目「保育原理、乳児保育、保育内容」のなかの2科目を選択し、それぞれの予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

5．専門科目「小児保健、小児栄養」の2科目について、それぞれの予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

6．作文試験の最近の出題傾向と対策について述べよ。

＜ポイント＞※1～6共通
教科書の問題の選択肢を変えるだけでなく、それぞれの「重要ポイント」を熟読し、その中から問題作成に挑戦すること。

教科書

保育士試験研究会『保育士・幼稚園教諭　採用試験問題集』実務教育出版。

参考文献

なし

科目コード	基礎演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
9040/9041		１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	駒井美智子		

科目概要

就職対策科目の総合演習であり、面接試験、各採用試験に合わせ、教養科目（一般知識・一般知能）、専門科目、実技科目など、実際（過去）のあるいは模擬試験問題を中心に、それまで学修してきた知識と技術を駆使して問題を解けるよう学修する。

学修内容

1	保育士・幼稚園教諭の採用について知る…保育士・幼稚園教諭が活躍する舞台 教科書 p.7～参照
2	論作文試験の出題傾向とねらい 論作文試験で何が見られるか
3	論作文試験の出題傾向とねらい 出題傾向と課題別のねらい
4	論作文の書き方＜基礎＞ 本番での手順と事前の準備、原稿用紙の使い方、言葉づかい
5	論作文の書き方＜基礎＞ 内容の組み立て方、書く「素材」の準備…実際に「素材」を集めてみる。
6	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の文例指導を読む前に、「私がめざす理想の保育士」のテーマに沿って小論文を作成する。
7	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の文例指導を読む前に、「子どもの健やかな育ちのために取り組みたいこと」のテーマに沿って小論文を作成する。
8	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の文例指導を読む前に、「子育て支援における保育士の役割」のテーマに沿って小論文を作成する。
9	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の文例指導を読む前に、「公務員に求められること」のテーマに沿って小論文を作成する。
10	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の文例指導を読む前に、「失敗や苦労から学んだこと」のテーマに沿って小論文を作成する。
11	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の文例指導を読む前に、「最近の報道から考えたこと」のテーマに沿って小論文を作成する。
12	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の「構想の立て方」「合格文例に学ぶ」を読み、6～8 で作成した小論文の改善点を確認する。
13	論作文の書き方＜文例指導＞ 教科書の「構想の立て方」「合格文例に学ぶ」を読み、9～11 で作成した小論文の改善点を確認する。
14	面接試験のねらいと基本マナー 面接で何がみられるか、面接の基本マナー
15	論作文・面接で知っておきたい重要事項 教科書 p.131～参照

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】面接試験の受験心得についてまとめ、そのなかでの自己課題について述べよ。

＜ポイント＞
教科書『保育士　就職の作文と面接』のなかの「面接試験の方法と受験心得」をよく読み、ポイントを押さえて記述し、加えて自己課題を明確にすること。

科目終了試験学修のポイント

1．自分が就職を希望する公立保育所および民営保育所の試験要領についてまとめよ。

2．今までの学修をふまえて、教養科目についての自己課題を分析せよ。

3．今までの学修をふまえて、専門科目についての自己課題を分析せよ。

4．今までの学修をふまえて、作文試験についての自己課題を分析せよ。

5．今までの学修をふまえて、公務員保育職受験に際しての自己課題を分析せよ。

6．本講座受講における学修成果を論述せよ。

＜ポイント＞※1～6共通
キャリア開発演習ⅠからⅣまでの学修内容を振り返り、自己課題を分析すること。

教科書

保育士試験研究会『保育士・幼稚園教諭　採用試験問題集』実務教育出版。
保育士試験研究会『保育士・幼稚園教諭　論作文・面接対策ブック』実務教育出版。

参考文献

なし

科目コード		登録年次	履修方法
9011/9012 9014/9015	キャリア開発演習Ⅰ（２単位）	9011/9014：２年 9012/9015：１年	9011/9012：ＳＲ 9014/9015：Ｒ
教員名	小野智一		

科目概要

公務員の保育職、（子育て支援センターなどを含めた）行政機関、保育所、各施設などの就職先をふまえ、一般教養教育と平行して、社会科学、人文科学、自然科学などの一般知識について、就職試験に向けた学修の取り組み方を学ぶ。

学修内容

1	社会科学① 政治１：日本国憲法の内容について理解する。
2	社会科学② 政治２：国際連合と、各国の政治制度について理解する。
3	社会科学③ 経済：経済学の基本的な理論と、経済史について理解する。
4	社会科学④ 社会：社会権に関する制度や社会の動向について理解する。
5	人文科学① 熟語、ことわざ、敬語の問題を解き、苦手分野を理解する。
6	人文科学② 日本史の問題を解き、苦手分野を把握する。
7	人文科学③ 世界史の問題を解き、苦手分野を把握する。
8	人文科学④ 地理の問題を解き、苦手分野を把握する。
9	人文科学⑤ 思想・文学・芸術の問題を解き、苦手分野を把握する。
10	自然科学① 数学の問題を解き、苦手分野を把握する。
11	自然科学② 物理の問題を解き、苦手分野を把握する。
12	自然科学③ 化学の問題を解き、苦手分野を把握する。
13	自然科学④ 生物の問題を解き、苦手分野を把握する。
14	自然科学⑤ 地学の問題を解き、苦手分野を把握する。
15	学修のまとめ これまでの学修を振り返り、自分の苦手な分野、出題形式を把握し、教科書以外の問題集に挑戦する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】公務員の保育職試験への応募の心構えについて、3つのポイントをまとめたうえで、それぞれの自己課題を述べよ。

＜ポイント＞
教科書『保育士　就職の作文と面接』の第1章「2 応募の心構え」をよく読み、自分の状況に当てはめて考え、自分にとっての試験に向けての課題は何かを明確にすること。

科目終了試験学修のポイント

1．一般知識「社会科学」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

2．一般知識「人文科学」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

3．一般知識「自然科学」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

4．一般知識「社会科学」、「人文科学」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

5．一般知識「人文科学」、「自然科学」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

6．一般知識「社会科学」、「自然科学」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

＜ポイント＞※1～6共通
自分が苦手な分野、出題形式の予想問題を作成すること。
予想問題を作成するためには、教科書以外の様々な問題を解くことが重要である。

教科書

保育士試験研究会『新版　保育士　就職の作文と面接』実務教育出版。
保育士試験研究会『保育士　就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

なし

科目コード	キャリア開発演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
9021/9022 9024/9025		9021/9024：３年 9022/9025：２年	9021/9022:ＳＲ 9024/9025:Ｒ
教員名	鳥越由紀子、成田成、堀肇		

科目概要

保育士公務員試験をはじめとする就職試験に備え、一般教養試験の一般知能、つまり文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈の問題演習を行う。

学修内容

1	文章理解１ 現代文①　教科書 pp.53～62 の問題を解く。問題の選択肢を確認してから問題文書を読む習慣をつけること。
2	文章理解２ 現代文②　教科書 pp.63～70 の問題を解く。特に選択肢を確認してから問題文書を読む習慣をつけること。
3	文章理解３ 英文①　教科書 pp.71～79（No.40）の問題を解く。まずは辞書を使わずに問題文を読んで、おおまかな意味をとらえること。
4	文章理解４ 英文②　教科書 pp.79（No.41）～82 の問題を解く。まずは辞書を使わずに問題文を読んで、おおまかな意味をとらえること。
5	文章理解５ 古文　教科書 pp.83~86 の問題を解く。高校の授業で使用した古文の教科書などがあれば参考にするとよい。
6	判断推理１ 文章題①　教科書 pp.87～92（No.18）までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
7	判断推理２ 文章題②　教科書 pp.92（No.19）～96 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
8	判断推理３ 図形問題　教科書 pp.97～101 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
9	数的推理１ 文章題①　教科書 pp.102～104 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
10	数的推理２ 文章題②　教科書 pp.105～108 までの問題を解く。一度解いたら、解いた過程を遡って自分で類似問題を作成してみる。
11	数的推理３ 図形問題①　教科書 pp.109～110 までの問題を解く。行き詰ったら、解答を確認してよいので、１問にあまり時間をかけすぎないこと。また、解答を確認後に、もう一度問題を解くこと。
12	数的推理４ 図形問題①　教科書 pp.111～113 までの問題を解く。行き詰ったら、解答を確認してよいので、１問にあまり時間をかけすぎないこと。また、解答を確認後に、もう一度問題を解くこと。
13	資料解釈１ 表の問題　教科書 pp.114～117 までの問題を解く。一度解いたら、保育や教育に関する表を新聞や書籍などから見つけ、その表を使って問題を作成してみる。
14	資料解釈２ 図・グラフの問題　教科書 pp.118～121 までの問題を解く。一度解いたら、保育や教育に関する図・グラフを新聞や書籍などから見つけ、その図・グラフを使って問題を作成してみる。
15	学修のまとめ これまでの学修を振り返り、自分が苦手な問題の傾向をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】一般知能「文章理解」、「判断推理」、「数的推理」、「資料解釈」の問題演習を行い、4科目それぞれについての自己課題を述べよ。

＜ポイント＞
4科目の問題演習を行い、何度も繰り返すなかで自分の得意とする分野や苦手とする分野を認識し、特に自分の弱点となる課題を分析して解決すること。

科目終了試験学修のポイント

1．一般知能「文章理解」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

2．一般知能「判断推理」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

3．一般知能「数的推理」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

4．一般知能「資料解釈」の予想問題を2つ作成し、解答とその解説を記述せよ。

5．一般知能「文章理解、数的推理」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

6．一般知能「判断推理、資料解釈」の予想問題を1つずつ作成し、解答とその解説を記述せよ。

＜ポイント＞※1～6共通
自分の苦手な分野の問題を作成すること。また、解説については、教科書の解説と同程度でかまわないが、自分が解説を読んで「分かりにくい」と感じた部分は特に注意して記述すること。

教科書

保育士試験研究会『保育士　就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

なし

科目コード	教育課程論（初等教育）（２単位）	登録年次	履修方法
4041		２年	R
教員名	大島聡、荻原邦昭、駒井隆治、篠大輔、須藤典征		

科目概要

教育課程とは、公的な教育機関である学校が、その教育目標（学校の教育目標）を達成するために幼児・児童に提供する教育内容と学習経験の学校全体の計画である。

この教育課程編成の法的な根拠となる幼稚園教育要領および小学校学習指導要領を歴史的観点から考察する。また、幼稚園教育要領および小学校学習指導要領の改訂の基本方針と改訂の要点を理解する。

併せて、学校における教育課程編成を理解し、意義や課題等を学ぶ。

学修内容

1	今なぜ「教育課程」なのか １教育課程の意義について　２学力問題と教育課程　３教育課程の拡張と深化 ・教育課程の意義、目的　・日本における教育課程の問題と改革の必要性　・学力のとらえ方の変化と様々な学力問題の考察　・教育課程の評価と改善の必要性の理解
2	現代日本の教育課程の歩み　①　１経験主義からの影響　２系統性重視への転換 ・第二次世界大戦後の日本の教育課程は経験主義的な考え方を重視　・高度経済成長政策と連動して、科学技術の人材育成のために系統性重視の教育を推進
3	現代日本の教育課程の歩み　②　３教育の現代化　４人間性重視への転換 ・人材の能力開発を求めて全国一斉の学力テストを実施　・教育の現代化推進の意義と内容の理解　・人間性重視の教育への転換による全人教育とゆとり教育の推進
4	現代日本の教育課程の歩み　③　５新学力観の追求　６生きる力と確かな学力　７生きる力と活用能力 ・新学力観の意義と改革内容の理解　・生きる力の育成と「総合的な学習の時間」の創設　・学力低下論争と確かな学力の育成　・教育基本法及び学校教育法の改正内容　・幼稚園の教育改革と、小中学校における活用能力の重視
5	現代日本の教育課程の歩み④　８主体的・対話的で深い学び　９生きる力　１０思考力・判断力・表現力等の育成 １１主体的に学習に取り組む態度　１２豊かな心や創造性の育成 ・特別の教科道徳の新設　・外国語の新設　・育成を目指す資質・能力の明確化　・カリキュラム・マネジメントの充実
6	教育課程をどう編成するか １教育課程編成の構成要件　２教育課程編成の展望 ・教育課程編成のための構成要件と主な論点の理解　・教育課程編成主体についての理解　・習得、活用、探究を図るための教育課程編成の理解　・知の構造と評価方法の対応関係の理解
7	教育課程をどう評価するか １教育課程評価　２学力評価　３入試と接続 ・学校評価、教育課程の評価、授業評価の関係　・改訂指導要録の書式と評価内容　・学力評価の様々な方法と特色の理解　・PISA 調査結果と日本の教育の課題　・6／3／3 の教育制度と学校間の接続　・選抜の多様化と多元化
8	今日的課題への挑戦 １いのち、いきることの教育　２市民性教育　３環境教育　４メディア・リテラシーの教育 ・今日的教育課題についての考察　・命の大切さを認識させるための実践　・食育教育重視の実践　・キャリア教育の重要性　・環境教育が重視される理由と実践　・TV やパソコン、スマホ等が子どもに与える影響
9	小学校学習指導要領解説　総則編　① １総説　２教育課程の基準 ・学習指導要領総則編を詳しく読み込み、改訂の経緯や改訂の基本方針を理解　・教育課程の意義や教育課程に関する法制を理解
10	小学校学習指導要領解説　総則編　② ３教育課程の編成及び実施　・教育課程編成の一般方針　・内容等の取り扱いに関する共通的事項　・授業時数 ・教育課程編成の原則、道徳教育の重視、体育・健康に関する指導の重視　・各教科等の内容の取り扱いの原則　・複式学級や特別支援学級等の教育課程編成　・各教科等の年間の授業時数及び時間割の弾力的な編成等についての理解
11	小学校学習指導要領解説　総則編　③ ３教育課程の編成及び実施　・指導計画の作成　・教育課程実施上の配慮事項 ・各学校で指導計画を作成する場合の留意事項等の理解　・教育課程実施上での 12 項目の配慮事項の理解
12	小学校教育課程の編成　・例示した学年の校時表作成 ・学年により各教科等の週時数は異なるが、例示した学年の校時表を実際に作成　・どんな校時表が良いかを検討し、成果と課題を考察　・3～6 年生の校時表は、年度途中で変更が必要なことの理解
13	小学校教育課程の編成　・例示した学年の年間指導計画作成 ・学年により各教科等の年間時数は異なるが、例示した学年の年間指導計画を実際に作成　・どんな年間指導計画が良いかを検討し、成果と課題を考察　・3～6 年生の年間指導計画は年度途中で変更が必要なことと、どの時期に時数の増減をするかの考察

14	幼稚園と小学校の教育課程の違いと接続　・幼稚園教育要領　改訂の要点 ・幼稚園の教育課程　・「幼・保」と小学校との接続の重要性の理解　・幼稚園教育要領　改訂のポイントと特色の理解
15	教育課程論のまとめ ①教育課程に関する基本的用語の理解 ②小学校（幼稚園）における教育課程の意義と役割及び教育課程改善の必要性 ・各学校は常に「新しい時代の教育課程」を編成・実施する責任がある。教育課程の意義と役割及び教育課程改善の必要性を再考し理解を深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼稚園または小学校の教育課程編成上留意すべきことについて述べよ。

＜ポイント＞

教育課程を編成するにあたって、踏まえるべき幼稚園や小学校の実態はどのようなものであり、それをどのようにして把握するのかをまとめること。また、教育課程の中核となる、幼稚園や小学校の教育活動や各教科等の学習指導の進め方（またはあり方）の押さえるべき内容について考察すること。

小学校教諭履修者は小学校の学習指導案を、幼稚園教諭履修者は幼稚園の指導案を考察すること。双方の資格課程を履修している学生は幼稚園と小学校の双方の指導案についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育課程の意義と必要性について

＜ポイント＞

・教育課程の意義については、学校において編成する教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を児童の心身の発達に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画であると言える。

・各学校は、学校教育の目的や目標を達成するために、教育基本法や学校教育法をはじめとする教育課程に関する法令に従い、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動についてそれらの目標やねらいを実現するよう教育の内容を学年に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画である教育課程を編成する必要がある。

2．幼稚園と小学校の教育課程の違いについて

＜ポイント＞

・小学校の教育課程は、各種の法令、学習指導要領等に基づいた内容を、教師がそれぞれの教科、領域等の系統性に従って易しいものから難しいものへと配列し、授業時数との関連で学習を進めるようになっている。

・幼稚園の教育課程は、幼稚園教育要領を基準としながら各園独自の教育理念を基に、保育者の人間観・児童観・保育観を十分に反映させ、入園から修了に至るまでの教育期間を見通し、幼児の生活経験や発達の過程を基に、具体的なねらいや内容を組織していくことが必要となる。

3．教育課程、保育計画と年間指導計画との関連について

＜ポイント＞

・幼稚園の教育課程や保育所の保育計画は、入園や入所から修了までの生活の大綱を示したものである。幼稚園の教育課程や保育所の保育計画は、幼稚園教育要領や保育所保育指針に基づき、各園の教育の目的や目標に向かってどのような道筋をたどって教育を進めていくかの全体計画を示したものである。

・幼稚園教育や保育実践は、各園の教育課程や保育計画そのものによって行われるのではなく、それを具体化した指導計画によって行われる。指導計画には長期を展望した年間計画の他に、学期や期、月の計画と更に具体化した週や日の計画がある。

4．年間指導計画等の作成上の留意点について

＜ポイント＞

（1）幼稚園

・幼児の発達に即して一人ひとりの幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し、必要な体験を得られるようにするために、具体的に作成する。

・具体的なねらい及び内容を明確に設定し、適切な環境を構成することなどにより、活動が選択・展開されるようにする。

・幼児の実態及び幼児を取り巻く状況の変化等に即しての反省や評価を適切に行い、常に指導計画の改善を図る。

・長期的に発達を見通した年、学期、月などにわたる指導計画や、これとの関連を保ちながら具体的な幼児の生活に即した週、日などの指導計画を作成し、適切な指導が行われるようにする。

・家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と連続性を保ちつつ展開されるようにする。

※4．の＜ポイント＞の続き

（2）小学校

・地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分に考慮して作成する。
・新学習指導要領の改訂の趣旨を生かした計画を作成する。
・小学校6年間を見通し、各学年の目標や内容を踏まえた授業時数、単元配当を適切に定め、調和のとれた計画とする。
・幼稚園や保育園との接続並びに中学校への発展を踏まえて、系統性のある指導計画を作成する。
・季節や学校・地域社会の行事との関連を考慮する。
・他教科の学習内容との関連を考える。

5．幼稚園・小学校における評価の意義と考え方について

＜ポイント＞

学校における評価の対象は、学力評価、授業評価、教育課程評価、学校評価等がある。それらの評価の中の教育課程評価の意義を考える。

・教育課程が自校・園の教育目標に向けて、幼児・児童に活動や学びを促し、成長を保証する機能を有しているか。
・評価を通して、ねらいや内容と幼児・児童の実態とにずれがないかを見極め、もしずれがあればそのずれを埋める指導支援を随時進めなければならないことをとらえる。
・幼児・児童の活動や学びに取り組んでいる過程と結果の姿や事実を評価する。
・幼児・児童の評価は、全教職員で共通理解の基に年間複数回実施し、評価・修正・改善を重視する。
・保護者や外部の人に評価結果を公開し、学校への理解と協力依頼や説明を随時行う。

6．教育課程の編成と「生きる力」の育成との関連について

＜ポイント＞

「生きる力」とは、平成8年の中央教育審議会答申において、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感謝する心などの豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などである。」と指摘された。この「生きる力」の育成は、平成１０年度版に引き続き２０年度版でも継承された。

各学校における教育課程の編成に当たっては、「生きる力」を育成するために特に以下の点を重視する必要がある。

①基礎的・基本的な知識・技能の習得、　②思考力・判断力・表現力等の育成、　③学習意欲の向上や学習習慣の確立、
④豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実　をバランス良く図る。

各学校では、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開することが出来るよう教育課程の編成実施に努めなければならない。

教科書

田中耕治、他『新しい時代の教育課程　第三版』有斐閣。
文部科学省『小学校学習指導要領　平成20年3月告示』東京書籍。
『小学校学習指導要領解説　総則編　平成20年8月』東洋館出版。
『幼稚園教育要領解説　平成20年10月』フレーベル館。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。

科目コード	教育行財政（2 単位）	登録年次	履修方法
4030/4031/4032		1 年	R
教員名	攪上哲夫		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

科目概要・到達目標

本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育行政に関する基礎的な知識を身に付け、教員採用選考試験問題を解けるようになること。そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。

そのために、以下の２つの到達目標を設定する。

1）教育行政に関する法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。

2）教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育行政に関する法的知識を理解し、重要な用語について説明することができる。

学修内容

1	Ⅰ章　教育法規のしくみと学び方 ① 国の法令 1. 教育法規とは　2. 文部科学省設置法　3. 日本国憲法　4. 教育基本法　5. 教員の資格を定める教員職員免許法
2	② 教育行政 6. 地方教育委員会の組織と役割　7. 学校と教育委員会 判例コラム①：教育内容と信教の自由
3	③ 学校教育 8. 学校教育法　9. スクールコンプライアンス　10. 私立学校　11. 義務教育学校制度　12. 中等教育学校制度 13. 学校運営協議会制度 判例コラム②：教育の機会均等と各種学校の扱い
4	Ⅱ章　学校組織と教育課程 ① 学校組織と教育活動 14. 教職員間の役割分担「校務分掌」　15. 校長と教諭の職務　16. 司書教諭の職務　17. 職員会議の性格と機能 18. 学校備付表簿　19. 進学生徒の調査書等の作成・送付義務 20. 学校評価（自己評価、関係者評価、第三者評価の３点セット）
5	②教育課程 21. 教育課程の編成　22. 教育課程の基準としての学習指導要領　23. 道徳教育の教科化―「特別の教科 道徳」 判例コラム③：教科書使用義務と学習指導要領の法的拘束力 24. 教科書使用義務と補助教材の利用　25. 教科書の無償　26. 教科書の採択権限 判例コラム④：校長の職務命令と思想および良心の自由
6	③児童・生徒と生徒指導 27. 校則　28. いじめの防止と救済　29. いじめ防止対策推進法　30. 懲戒と体罰問題　31. 児童・生徒の出席停止 32. 不登校とスクールカウンセラー　33. 進級判定 判例コラム⑤：運動部活動における体罰
7	Ⅲ章　学校運営と研修 ①教職員の職務と研修 34. 地方公務員としての教員の服務　35. 教員の分限処分　36. 教員の懲戒処分　37. 教育公務員特例法（1） 38. 教育公務員特例法（2）―教員の資質向上のための「指標策定の育成協議会」の設置　39. 教員評価
8	②教職員の職務と研修 40. 教員の勤務と週休日　41. 教員の勤務時間と時間外勤務の特例　42. 学校の組合活動　43. 個人情報保護法 44. 教職員の人事権　45. 公務上の災害と教員の労働災害補償　46. 教員免許の更新制 判例コラム⑥：公立学校教員の争議行為
9	Ⅳ章　人権教育における法規① 47. 人権をめぐる動き　48. 世界人権宣言　49. 国際人権規約 50. 「人権教育のための国連 10 年」と「人権教育のための世界プログラム」 51. あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約（人種差別撤廃条約） 52. 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）

10	Ⅳ章　人権教育における法規② 53. 子ども（児童）の権利に関する条約　54. 「同和対策審議会答申」と同和対策事業特別措置法の制定 55. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（人権教育・啓発推進法）　56. 人権教育・啓発に関する基本計画 57. 部落差別の解消推進に関する法律 判例コラム⑦：校則および退学処分の違法性
11	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規① 58. 障害児教育・特別支援教育と法規　59. 障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）　60. 障害者基本法 61. 障害者総合支援法
12	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規② 62. 特別支援教育　63. 発達障害者支援法　64. 障害者差別解消法の施行と学校 コラム：学習指導要領の用語「交流及び共同学習」は障害者基本法が基に
13	Ⅵ章　学校保健・安全と法規 65. 学校保健・安全と法規　66. 学校保健安全法　67. 安全点検と安全教育　68. 災害安全・防災教育 69. 養護教諭の職務　70. 学校事故と国家賠償法　71. 食育基本法　72. 学校給食法 判例コラム⑧：学校内での児童生徒死亡事故の責任
14	Ⅶ章　児童福祉・男女共同参画と法規 73. 児童福祉・男女共同参画と法規　74. 児童福祉法　75. 少年法　76. 児童福祉の規範としての児童憲章 77. 男女共同参画社会基本法　78. 児童虐待の防止等に関する法律 判例コラム⑨：少年法と「厳罰主義」
15	Ⅷ章　生涯学習・社会教育と法規 79. 生涯学習社会における社会教育と法　80. 社会教育法　81. スポーツ基本法　82. 生涯学習振興法　83. 図書館法 84. 学校図書館法　85. 博物館法　86. 文化芸術基本法・音楽振興法　87. 文字・活字文化振興法 88. 文化財保護法、ユネスコ活動に関する法律

学生に対する評価	
	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）　C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】地方の教育行政の組織及び運営に関する法律第１条の４に「総合教育会議」が規定されている。
この会議の構成メンバー及び話し合われる内容にはどのようなものがあるかについて述べよ。

＜ポイント＞
滋賀県大津市でのいじめによる自殺事件をきっかけに、教育についての首長の権限強化策として、総合教育会議が設けられた。そこではどのようなことが会議の議題となっているかを押さえておくことが大切である。

科目終了試験学修のポイント

１．国と地方自治体の教育行政組織について論述せよ。
＜ポイント＞
国の主な教育行政機関である文部科学省、地方自治体の主な教育行政機関である教育委員会について理解する。
その構成員や権限などを理解する。

２．学校の管理と運営について述べよ。
＜ポイント＞
学校の管理者としての教育委員会の役割。学校の管理職としての校長や副校長及び教頭の仕事内容について理解する。
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条や学校教育法第 37 条４・５・７項に関する内容を理解する。

３．教育委員会制度の意義とその役割について述べよ。
＜ポイント＞
地方教育行政の組織及び運営に関する法律第３章に規定されている教育委員会の職務権限を理解する。

４．国家賠償法の長短について述べよ。
＜ポイント＞
日本国憲法第 17 条や国家賠償法の規定の存在理由と公務員（国・公立学校の教員）による不法行為の場合と民間人（私立学校の教員）による不法行為の場合の異同を理解する。

５．教育公務員の服務に関する規定ついて具体例を挙げて述べよ。
＜ポイント＞
地方公務員法の服務に関する規定と教育公務員特例法の服務に関する規定を理解する。

６．開かれた学校づくりを推進する制度としての学校評議員制度と学校運営協議会制度（コミュニティースクール）について述べよ。
＜ポイント＞
学校評議員制度と学校運営協議会制度（コミュニティースクール）は、法律ではどのように規定されているのか、またその内容について理解する。

教科書

古川治・今西幸蔵・五百住満 編著　『教師のための教育法規・教育行政入門』　ミネルヴァ書房。

参考文献

菱村幸彦『やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所。
山本豊『有権解釈に重きを置いた　教育法規　第四版』学校図書。
山本豊『改訂新版　教育法規相談ハンドブック　３５』東京教育研究所
山本豊『書いて理解する教育法規　第二版』（株）オフィス・サウス。
解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂。

科目コード	教育原理（２単位）	登録年次	履修方法
4500/4501		4500：２年 4501：１年	R
教員名	石﨑達也、石渡宏、小田義隆、篠大輔、島雄利、金龍哲		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

科目概要・到達目標

本科目は教育という営みに関心があり、「教育とは何か」ということを考え始めている人に対し、教育（学）　の基本的な概念と基礎理論について概括することをとおして、教育の意義と目的、教育の歴史及び思想、我が国　の学校教育制度、発達段階に応じた指導原理、家庭教育及び地域教育の意義等について学ぶことを目的とする。　また、本学習をとおして、受講生一人ひとりが、教育（学）および児童福祉の観点から今日の「子ども」を取り巻く環境の変化を理解した上で、「よりよい教育とは何か」を考える力を養うことが重要である。

学修内容

1	第１章　教育とは何か―人間にとっての教育の意味を探る １．教育への問いと人間への問い　２.人間になるということ　３．人類の進化と教育　４．教育の概念 ５．狭義の教育と広義の教育
2	第２章　学校教育の制度的展開－義務教育制度を再考する １．学校制度の歴史的形成　　２．近代というシステム　　３．義務教育の基本的構造 ４．揺らぐ義務教育制度
3	第３章　教育の思想家たち－先哲の言葉を手がかりに １．古代の教育思想家たち　２．中世の教育思想家たち　３．近世から近代にかけての教育思想家たち　４．現代の教育思想家たち
4	第４章　発見された子ども－子ども観の変遷からみた教育の課題 １．「子ども」だから教育が必要？　２．子ども観をめぐる歴史的視座　３．「子ども」を観る文化の違い ４．現代社会の「子ども」をどう観るか？　５．子ども観の変遷からみた教育の課題
5	第５章　教育課程－編成の原理とカリキュラム・マネジメント １．さまざまなカリキュラムの類型　２．カリキュラム編成に影響を与えた考え方　３．教育課程編成の基本 ４．カリキュラム・マネジメントの進め方
6	第６章　21 世型学力－学力観はいかに変わってきたか １．「学力」とは何か？　２．学習指導要領からみる学力観の変遷　３．「キー・コンピテンシー」と PISA 型学力 ４．21 世紀および 2030 年に向けて求められる学力
7	第７章　教育方法の構造と探究としての学び １．教育における「目標―内容―方法―評価」の構造　２．学びの論理と探究としての学び ３．問うことによる学びの創出と教育方法の構想
8	第８章　教科としての道徳教育－日本における道徳教育の展開 １．道徳と教育をめぐる歴史的変遷　２．「特別の教科　道徳」成立の背景　３．学習指導要領における「特別の教科　道徳」　４．道徳科の授業づくり　５．これからの道徳教育
9	第９章　生徒指導の意義・原理・構造 １．生徒指導の意義　２．生徒指導の原理　　３．生徒指導の構造　４．生徒指導の方法と生徒指導体制 ５．生徒指導と教育課程
10	第 10 章　学級経営－学ぶ集団を育む １．学校教育の基礎は学級の経営にあり　　２．学級のモデルの歴史的展開　　３．学級を組織する ４．多様化する子どもたちと学級経営
11	第 11 章　学校経営－協働をつくる組織マネジメント １．学校経営とは　２．今なぜ学校経営なのか　３．学校経営はだれがするのか ４．学校経営における組織マネジメント
12	第１２章 教育行政 ―学校や地域の教育を支える役割 １.教育行政の役割と国と地方の機関　２.社会の変化に合わせた教育行政の改革 ３.教育財政 ―教育の質の維持・向上のための経済
13	第 13 章　人と社会の幸せを紡ぐ生涯学習 1. グローバルに展開する生涯学習　2. 生涯学習の３つの原理　3. 日本における生涯学習の定義と理念 4. これからの生涯学習を考える―人と社会の幸せを紡ぐ

14	第１５章　文化多様性と教育 1.グローバル化と文化多様性　2.文化多様性－共有されつつある社会理念　3.グローバル化した時代を生きる感性と資質 文化多様性と学校教育の課題
15	第16章 教育改革の動向―コロナ禍で炙り出された教育の課題から考える １．学校におけるICTの活用　２．教育における格差への対応　３．教員の不足と多忙
学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞A（100点～90点）B＋（89点～80点）B（79点～70点）C（69点～60点） F不合格（59点以下） レポートまたは科目終了試験評価のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】今日の「子ども」を取り巻く教育環境の変化をふまえた上で、「よりよい教育とは何か」という問いに対するあなたの意見を述べよ。

＜ポイント＞

１．「教育」という言葉の意味を人間の特性、発達、人間形成という観点からおさえること。

２．学校教育の歴史をふまえた上で、現代社会における制度としての学校教育の特徴をおさえること。

３．我が国の教育政策、学習指導要領改訂の動向の要点をおさえること。

科目終了試験学修のポイント

１．教育の基本原理について

＜ポイント＞

「人間がより良く生きるとは?」、「より良い人間形成あり方とは?」等の問いについて、広く教育哲学の知見から考察した上で、人間に固有の営みとしての教育の意味、教育における遺伝と環境の問題、人間の成長発達や教育の可能性・必要性についておさえること。

２．教育の制度と思想の歴史について

＜ポイント＞

教育の制度と思想の歴史について学ぶとともに、今日の我が国の学校教育制度の成立過程の経緯に着目し、その特徴を理解する。

「教育」の歴史を学習するなかで、学校の起源、さまざまな教育者の思想や教育方法の特徴について理解すること。また、日本の教育の歴史に関しても、近代から近代教育制度の確立、大正期の教育運動の特徴、戦後の民主主義・自由主義による教育理念等をおさえること。

３．子どもの発達段階に応じた教育的諸課題と発達段階ごとの教育的配慮について

＜ポイント＞

「信頼関係」の構築を目指した発達段階に即した子どもへの対応の仕方を学ぶとともに、幼児教育・保育の目指すものやモンテッソーリ教育の特徴をおさえること。

４．家庭や地域社会が子どもの育ちに果たす役割について

＜ポイント＞

現代社会における家庭や地域社会の変化、子どもの育ちの異変、養育不安、育児ストレス、親の教育力の低下等の課題と諸外国の子育て支援策をおさえること。

５．新学習指導要領の特徴について

＜ポイント＞

学習指導要領の動向を把握し、その特徴を把握すること。特に、保育所保育指針と幼稚園教育要領（幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の改訂の基本方針、要点をおさえること。

６．現代社会における教育的課題について

＜ポイント＞

現代社会における教育的課題として、我が国における教育制度の変化と特徴、教育環境の変化と課題、子どもの現状と課題、教師の課題という５つのポイントをおさえること。

教科書

金龍哲、深沢和彦 編著 『教育の原理と実践』 三恵社。
内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領』フレーベル館。
文部科学省 『幼稚園教育要領』 東山書房。

参考文献

林竹二「教えるということ」国土社。

科目コード	教育実習指導（初等）（１単位）	登録年次	履修方法
4440		２年	S
教員名	石渡宏、伊藤宗彦、坂本真理子、篠大輔、畠山むつ実		

科目概要

教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園および小学校で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。

本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園および小学校教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。

学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学修を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。

学修内容

1	講義概要　教育実習の意味 実習に向けての自己課題
2	子ども理解と援助・支援技術の理解 教育環境と子どもの実態
3	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解
4	指導案、記入に必要な事項
5	子どもの活動と教師の援助、支援
6	指導案一枚の中の関連
7	指導案の作成 題材、活動内容等の記入
8	指導案の作成 援助、支援等の工夫
9	模擬保育・授業の実施 その１
10	模擬保育・授業の実施 その２
11	模擬保育・授業の実施 その３
12	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その１
13	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その２
14	目指す授業と自己課題の再設定
15	まとめ

教科書

『教育実習（初等）の手引き』。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。

花篤實、他『造形表現　実技編』三晃書房。

科目コード	教育実習指導（初等）Ⅰ（1単位）	登録年次	履修方法
4672		2年	S
教員名	石渡宏、坂本真理子、篠大輔、畠山むつ実		

科目概要

教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。

本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。

学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。

学修内容

1	講義概要　教育実習の意味 実習に向けての自己課題
2	子ども理解と援助・支援技術の理解 教育環境と子どもの実態
3	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解
4	指導案、記入に必要な事項
5	子どもの活動と教師の援助、支援
6	指導案一枚の中の関連
7	指導案の作成 題材、活動内容等の記入
8	指導案の作成 援助、支援等の工夫
9	模擬保育・授業の実施 その1
10	模擬保育・授業の実施 その2
11	模擬保育・授業の実施 その3
12	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その1
13	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その2
14	目指す授業と自己課題の再設定
15	まとめ

教科書

『教育実習（初等）の手引き』。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。

花篤實、他『造形表現　実技編』三晃書房。

科目コード	教育実習指導（初等）Ⅱ（1単位）	登録年次	履修方法
4682		3年	S
教員名	石渡宏、加藤博子、坂本真理子、篠大輔、畠山むつ実		

科目概要

教育実習の目標は、大学で学修した知識、技術と一般的な教養を基礎とし、実際の教育現場において、経験豊かな指導教員の下で、幼児との触れ合いを通して、教員となるための基礎的な能力と態度（個別的指導、クラス指導、幼稚園行事等）を養うことにある。

本科目では、この目標を達成するために、幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達の理解、幼児の発達を促す指導の在り方（環境構成や教師の援助）についての学修を演習を通して一層深めていく。また、保育者に求められる専門的な知識の定着とともに、幼稚園教育をめぐる諸問題及び解決のための取り組み等について知見を広げ、専門性の向上を図る。

学修内容

1	教育実習の感想及び課題等をまとめる（子どもとの関係、保育者との関係、保育の展開の仕方など）。 実習日誌や指導案の書き方等についての課題を整理する。
2	実習体験を振り返りながら、『実習の手引き』を参考に、『実習について』、『実習生として』、『実習に役立つ知識・危機管理』など、幼稚園実習の基礎・基本についての要点をまとめる。
3	幼小の連携について、その考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる。 小学校以降の生活や学習の基盤とは何か、また、その育成の在り方をまとめる。
4	幼児教育をめぐる問題（少子化、核家族化、情報化、国際化、学歴社会等）について調べ、幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する。 家庭との連携や保護者の子育て支援の考え方や具体的な進め方等についてまとめる。
5	「環境を通して行う教育」の意義について復習し、理解を深める。 幼児の主体性を保障した保育はどのように展開するのかをまとめる。（計画の作成、保育実践、反省・評価）
6	3歳児～5歳児について、年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる。（事例研究）
7	実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題を明らかにする。 幼児の実態の把握の仕方、指導のねらいや内容の設定の仕方等について、教科書や参考文献等を読み、理解を深める。
8	幼稚園の一日を想像しながら、保育者（実習生）の役割や留意点等を調べる。 部分実習指導案と一日実習（責任実習指導案）違いと作成上の留意点をまとめる。 ※一日指導案の様式は『教育実習（初等）の手引き』掲載のものを使用する。
9	模擬保育（一日）指導案を作成に向けて、対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、一斉に行う活動（※）、食事の仕方、登園時刻や降園時刻、一日の時間の区切り方などを検討し決定する。 ※一斉に行う活動は、絵本や紙芝居、歌や楽器遊び、体の動き、手遊び、絵画や製作、運動遊びなどから選定する。
10	模擬保育（一日）指導案の作成と教材研究①（素材や材料の準備、教材の作成や準備、試作や実技練習） ※一日指導案の様式は『教育実習（初等）の手引き』掲載のものを使用する。
11	模擬保育（一日）指導案の作成と教材研究②（素材や材料の準備、教材の作成や準備、試作や実技練習） ※一日指導案の様式は『教育実習（初等）の手引き』掲載のものを使用する。
12	模擬保育（一日）指導案について検討会（グループ又は個々で　科目担当教員も参加）
13	模擬保育（一日）指導案の改善と教材研究③（完成させた指導案と教材研究の結果をまとめて提出する）
14	指導の改善充実に生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について調べる。 「省察」について調べる。 「幼稚園幼児指導要録」について調べ、指導要録の意義や作成の仕方について学修する。
15	保育者としての専門性をより向上させるために、今後力をいれて取り組みたいことをまとめる。

教科書

東京福祉大学『教育実習（初等）の手引き』。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成２０年１０月）フレーベル館。

参考文献

福本俊監修『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版。
関口はつ江他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。

科目コード	教育心理学（2 単位）	登録年次	履修方法
2251		2 年	R
教員名	荒井理帆、石川清子、石川美智子、酒井博美、成本忠正 橋本景子、長谷川有香、前川洋子、三井公一郎、三井三枝子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

科目概要・到達目標

教育心理学とは、子供を教育していく上で必要となる知識を身につけ、子供の成長を促すためのより良い教育とは何かを心理学的視点から探求する学問といえる。そのため、発達、学習、パーソナリティ、測定・評価の４つの領域について基礎知識が必要となってくる。本科目では、以上のような基礎的知識修得はもちろんのこと、事例にのっとり、それらの知識をいかに教育の実践に役立てていくのか検討し、教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を学ぶ。併せて、現実の教育現場で起きている問題への応用を考える。

学修内容

1	教育心理学とは 教科書 pp.9-20 を通読し、教育心理学の内容や意義、教育心理学で用いられる研究法などを理解すること。教師の役割を教育心理学の観点から考えてみるのもよい。
2	教育心理学のあゆみ 教科書 pp.12-20 を通読し、教育心理学の歴史を概観する。代表的な研究者の研究がどのような意味を持っているかを考えること。さらに詳細な研究内容や他の研究者を調べてみるのもよい。
3	子どもの発達　―遺伝と環境、レディネスの概念― 教科書 pp.21-38 を通読し、代表的な発達理論、遺伝と環境のかかわり、レディネスの概念などについて理解すること。学校現場における、これらの理論の位置づけや応用について考えてみるのもよい。
4	知能　―知能の概念の有効性と限界― 教科書 pp.121-138 を通読し、代表的な知能の理論、知能の発達、知能の規定因などについて理解すること。学校現場における知能の概念の位置づけや利用法、その限界、注意点などについて考えてみるのもよい。
5	性格（パーソナリティ）　―性格の概念と個人差― 教科書 pp.139-153 を通読し、代表的な性格の理論、性格の形成、性格の診断法などについて理解すること。学校現場における、個人差としての性格の概念の意義や利用法、その限界、注意点などを考えてみるのもよい。
6	学習のメカニズムについて 教科書 pp.60-65 および pp.70-74 を通読し、パブロフの古典的条件づけ、スキナーのオペラント条件づけ、洞察による学習など、学習のメカニズムについて整理しておくこと。
7	学ぶ意欲と授業の課程　―動機づけとさまざまな授業方法― 教科書 pp.39-58 を通読し、動機づけの概念、原因帰属などの理論、さまざまな授業方法について理解すること。学校現場において、子どもの動機づけを高める工夫や、効果的な授業方法を自分なりに考えてみるのもよい。
8	学習の評価　―教育評価の方法とテスト― 教科書 pp.97-120 を通読し、学習の評価の目的、基準などについて理解すること。統計学については基本的な部分はおさえておくこと。学校現場での実際の教育評価の方法や注意点などについて考えてみるのもよい。
9	社会性を育む 教科書 pp.155-175 を通読し、社会性（向社会性と道徳性）を理解すること。また、「愛着」、「親子関係」、「仲間関係」が社会性の発達にどのように影響するのかを考察すること。
10	集団としての子ども　―教育現場の社会心理学― 教科書 pp.177-189 を通読し、学級集団やリーダーシップなど、社会心理学的な観点からの教育活動について理解すること。学級運営における社会心理学の理論の実際の応用例などを考えてみるのもよい。
11	子どもの不適応行動１　―いじめの問題― 教科書 pp.191-204 を通読し、子どもの心の健康やストレスなどについて理解すること。特に最近問題になっている「いじめ」について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策などを考察してみること。
12	子どもの不適応行動２　―不登校、非行などの問題― 教科書 pp.204-208 を通読し、「不登校」や「非行」などの問題について、新聞や雑誌、インターネット上にある事例などをもとに問題点や対策を考察してみること。
13	子どもの不適応行動３　―現代を生きる子ども― 現代社会を生きる子どもは、それ以前の時代の子どもとどのように異なるのか。発達環境の相違や変化などを考え、それが子どもの発達に与える影響を考察してみること。
14	学校カウンセリングの基礎 教科書 pp.209-214 を通読し、学校カウンセリングの基礎的な事項について理解すること。相手がいれば、初歩的なカウンセリングの技法について実際に練習してみるのもよい。
15	障害のある子どもの理解 教科書 pp.215-232 を通読し、学校現場で出会う可能性のある各種の障害について理解すること。それぞれの障害のある子どもへの適切な対応について考えてみるのもよい。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】子ども一人ひとりの特性に応じた教育を行ううえで考慮すべきことは何かについて，個人の特性と教授法の相互作用という視点を含めて述べよ。

＜ポイント＞
発達の状況には遺伝と環境の影響があることをふまえた上で、知能やパーソナリティ、認知特性、現在の発達状況などの個人の特性に対して、子どもの発達を最大限に促すような教師の教授法とはどのようなものかを論じる。

科目終了試験学修のポイント

１．認知の発達について
＜ポイント＞
子どもがどのように身の回りの外界を認識し、物事を理解していくのかを説明する。

２．学習に関する理論と教育場面での活用について
＜ポイント＞
学習理論を説明したうえで、教育場面でどのように活用できるかを考え、論じる。

３．パーソナリティの発達と社会化・個性化について
＜ポイント＞
パーソナリティにおける遺伝と環境の影響をふまえ、その発達過程における社会性および個性の獲得について説明する。

４．教師・学級と子どもの関係について
＜ポイント＞
子どもの対人関係の広がりに基づき、クラス集団がどのように形成されるのか、また、教師の行動や言動が子どもにどのような影響をあたえるかを説明する。

５．教育における評価について
＜ポイント＞
教育評価の目的について説明し、実際の教育現場で用いる際の各種の評価方法の長所や短所について論じる。

６．心身の障害の理解と支援のあり方について
＜ポイント＞
障害における個人・環境因子の影響について述べ、現代の教育現場ではどのような取り組みが有効であるのかを論じる。

教科書

櫻井茂男『たのしく学べる最新教育心理学　教職に関わるすべての人に』図書文化。

参考文献

ウィニコット『赤ん坊と母親』岩崎学術出版社。

町沢静夫『「こころの居心地」がよくなる心理学』三笠書房。

古川聡、他『教育心理学をきわめる 10 のチカラ』福村出版。

科目コード	教育相談(カウンセリングを含む) (2 単位)	登録年次	履修方法
4091		2年	SR
教員名	荒井理帆、石川美智子、大島朗生、緒方玲子、荻原邦昭、攪上哲夫、鈴木康明 西脇雅彦、橋本景子、姫野建二、八重樫節子、八重樫幸雄、安田誠人		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

科目概要・到達目標

教育相談は、現在の学校教育のすべての活動のなかで幅広く実践されており、教師にとって不可欠な資質である。そこで、学校における教育相談とは何か、その意義と課題を理解し、教育相談にかかわる心理学の基礎的理論や概念を学ぶとともに、教育相談を進める際に必要な基礎的知識を身に着ける。また、教育相談の具体的な進め方や、組織的な取り組みや連携の必要性について理解する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	教育相談の意義（教科書 pp.2-11） ポイント：教育相談の歴史を踏まえ、教育相談の意義と役割について理解する。	教育相談とは何かを知り、教育相談の予防・開発的な面と治療・矯正的な面を把握する。教育相談の歴史を検討し、教育相談と生徒指導のあり方について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
2	来談者中心カウンセリングとカウンセリング・マインド（教科書 pp.13-21） ポイント:子どもに対する教師の態度や姿勢として必要とされるカウンセリング・マインドについて理解する。	来談者中心カウンセリングの意義を知り、受容・傾聴・共感的理解について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
3	開発的カウンセリング（教科書 pp.23-31） ポイント：問題が起こってから対応するのではなく、問題の予防や児童生徒がよりよく生きるためのカウンセリングについて理解する。	開発的カウンセリングとは何かを知り、構成的グループ・エンカウンターやアサーション・トレーニングについて学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
4	さまざまな心理療法（1）（教科書 pp.32-36） ポイント：教育相談に役立つ精神分析を基本とする心理療法について理解する。	精神分析、ユングの理論について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
5	さまざまな心理療法（2）（教科書 pp.36-40） ポイント：教育相談に役立つ行動療法、認知行動療法について理解する。	行動療法、認知行動療法について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
6	さまざまな心理療法（3）（教科書 pp.40-45） ポイント:教育相談に役立つ家族療法および短期療法について理解する。	家族療法とブリーフ・セラピーについて学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
7	パーソナリティ（教科書 pp.48-55） ポイント：パーソナリティという概念について知り、教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論についての理解を深める。	パーソナリティ理論の類型論と特性論について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
8	発達（教科書 pp.57-67） ポイント：発達とは何かを知り、発達段階についての諸理論を学ぶ。	幼児児童生徒を理解し適切にかかわるためには、発達途上にある子どもの特性を知っておく必要があることを理解する。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
9	発達障害（教科書 pp.69-78） ポイント：発達障害の特性について理解し、その特性に合った働きかけを考える。	発達障害とは何かを知り、高機能自閉症、アスペルガー症候群、AD/HD、学習障害のそれぞれの特性について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
10	心の問題（教科書 pp.79-88） ポイント：心の問題について理解することで、医療との連携が必要か否かの判断力を身に付ける。	心の問題の種類について知り、統合失調症、気分障害、摂食障害、不安障害、チック、自傷行為、心身症、緘黙症などの概略を学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
11	教育アセスメント（教科書 pp.90-109） ポイント:学校でよく使われる心理テストについて理解する。	子どものアセスメントの重要性を理解し、さまざまな心理テストの概略を知り、その活用について学ぶ。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
12	不登校・不登園（教科書 pp.112-124） ポイント:不登校不登園の幼児児童生徒の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。	不登校の定義を知り、不登校・不登園の児童幼児への対応について理解し、資料（事例）について教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について考え、ロールプレイを行い、検討する。	印刷授業及び面接授業（1 時間）
13	非行、いじめおよび虐待（教科書 pp.126-139、pp.149-162） ポイント：非行少年の理解を深めるとともに、基本的な対応について理解する。いじめのメカニズムを理解し、いじめ・いじめられ・観衆・傍観者・保護者への基本的な対応について理解する。虐待とは何かを知り、その原因論について理解する。	非行とは何かを知り、その原因論について理解する。また、いじめや虐待のメカニズムを知る。それぞれについて予防・開発的教育相談としての対策と治療・矯正的教育相談としての対策を理解し、資料（事例）について教育相談を行う際の目標の立て方や進め方について考え、ロールプレイを行い、検討する。	印刷授業及び面接授業（1 時間）

14	校内（園内）体制と組織的な取り組み （教科書 pp.176-185） ポイント：学校（幼稚園）における校内（園内）体制の整備と組織的な取り組みの必要性について理解する。	教育相談を行う際には、計画を作成し、校内（園内）体制の整備を図り、組織的に取り組むことが必要であることを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	関係機関との連携・協働（教科書 pp.186-196） ポイント：幼稚園・小学校が連携する地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り、協働の必要性について理解する。	教育相談を行う上で幼稚園・小学校が連携できる地域の医療・福祉・心理等の専門機関について知り、適切な協働を行うことの必要性と重要性について理解する。 授業のまとめを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】開発的カウンセリングの意義について述べよ。

＜ポイント＞
開発的カウンセリングは、問題が生じる前に、児童生徒の対人関係や自己意識の発達を促し、問題の生じる可能性を少しでも小さくすることを目的に生み出されたカウンセリングである。そこで、学校における担任を中心として行われる開発的カウンセリングのポイントを押さえ、この上に構成的グループ・エンカウンター、アサーションなどの実際の取り組みについて、その意義をまとめることができる。

科目終了試験学修のポイント

１．幼児児童生徒理解について
＜ポイント＞
信頼関係に基づく教育相談を可能にするには幼児児童生徒理解が大切であることを理解し、そのためにはどのような方法が望ましいのかについて考察する。

２．学校における教育相談の進め方について
＜ポイント＞
学校における教育相談の基本的姿勢、特質などを踏まえ、教育相談における面接の具体的対応について考察する。

３．不登校･不登園問題への対応について
＜ポイント＞
不登校の定義を押さえた上で、不登校に対する基本的な考え方を理解することによりその認識を深め、不登校をどう予防したらいいか考察する。

４．いじめ問題への対応について
＜ポイント＞
いじめの定義を押さえた上で、いじめに関する理論、いじめの早期発見の手立て、早期対応について理解を深め、いじめの予防について考察する。

５．クライエント中心療法について
＜ポイント＞
受容・傾聴・共感的理解について理解し、これを踏まえた上で、クライエント中心療法の特徴について考察する。

６．保護者面接のあり方について
＜ポイント＞
学校は保護者との信頼関係をどう作っていったらいいのか、また保護者と面接する際の課題や心掛ける点について整理する。

教科書

石川正一郎、他『エッセンス学校教育相談心理学』北大路書房。

参考文献

楡木満生、他『カウンセリング心理学ハンドブック　上巻』金子書房。
石隈利紀『学校心理学』誠信書房。
文部科学省『生徒指導提要』教育図書。

科目コード	教育法規（2 単位）	登録年次	履修方法
4331/4333/4334		3年/2年/1年	R
教員名	新井英男、石﨑達也、大島聡、小田義隆、姫野建二、堀建治、松村久美子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 （学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

科目概要・到達目標

本科目では、幼稚園、小学校、中学校教諭等の教員を目指す人たちが教育法規に関する基礎的な知識を身につけ、教員採用選考試験問題を解けるようになること。そして教員となった折には、その知識を用いて学校における法的な諸課題に対応できるようになることを目標とする。そのために以下の３つの到達目標を設定する。

1）教育法規を体系的に理解し、その主な内容について説明することができる。

2）教員や教員採用選考試験受験生にとって必要最低限の教育法規に関する基礎知識を理解し、重要な用語について説明することができる。

3）学校におけるさまざまな課題の中で、法的な観点から解決できる内容について根拠条文を明らかにして説明することができる。

学修内容

1	Ⅰ章　教育法規のしくみと学び方 ① 国の法令 1. 教育法規とは　2. 文部科学省設置法　3. 日本国憲法　4. 教育基本法　5. 教員の資格を定める教員職員免許法
2	② 教育行政 6. 地方教育委員会の組織と役割　7. 学校と教育委員会 判例コラム①：教育内容と信教の自由
3	③ 学校教育 8. 学校教育法　9. スクールコンプライアンス　10. 私立学校　11. 義務教育学校制度　12. 中等教育学校制度 13. 学校運営協議会制度 判例コラム②：教育の機会均等と各種学校の扱い
4	Ⅱ章　学校組織と教育課程 ① 学校組織と教育活動 14. 教職員間の役割分担「校務分掌」　15. 校長と教諭の職務　16. 司書教諭の職務　17. 職員会議の性格と機能 18. 学校備付表簿　19. 進学生徒の調査書等の作成・送付義務 20. 学校評価（自己評価、関係者評価、第三者評価の３点セット）
5	②教育課程 21. 教育課程の編成　22. 教育課程の基準としての学習指導要領　23. 道徳教育の教科化―「特別の教科 道徳」 判例コラム③：教科書使用義務と学習指導要領の法的拘束力 24. 教科書使用義務と補助教材の利用　25. 教科書の無償　26. 教科書の採択権限 判例コラム④：校長の職務命令と思想および良心の自由
6	③児童・生徒と生徒指導 27. 校則　28. いじめの防止と救済　29. いじめ防止対策推進法　30. 懲戒と体罰問題　31. 児童・生徒の出席停止 32. 不登校とスクールカウンセラー　33. 進級判定 判例コラム⑤：運動部活動における体罰
7	Ⅲ章　学校運営と研修 ①教職員の職務と研修 34. 地方公務員としての教員の服務　35. 教員の分限処分　36. 教員の懲戒処分　37. 教育公務員特例法（1） 38. 教育公務員特例法（2）―教員の資質向上のための「指標策定の育成協議会」の設置　39. 教員評価
8	②教職員の職務と研修 40. 教員の勤務と週休日　41. 教員の勤務時間と時間外勤務の特例　42. 学校の組合活動　43. 個人情報保護法 44. 教職員の人事権　45. 公務上の災害と教員の労働災害補償　46. 教員免許の更新制 判例コラム⑥：公立学校教員の争議行為
9	Ⅳ章　人権教育における法規① 47. 人権をめぐる動き　48. 世界人権宣言　49. 国際人権規約 50. 「人権教育のための国連 10 年」と「人権教育のための世界プログラム」 51. あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約（人種差別撤廃条約） 52. 女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）
10	Ⅳ章　人権教育における法規② 53. 子ども（児童）の権利に関する条約　54. 「同和対策審議会答申」と同和対策事業特別措置法の制定 55. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（人権教育・啓発推進法）　56. 人権教育・啓発に関する基本計画 57. 部落差別の解消推進に関する法律 判例コラム⑦：校則および退学処分の違法性

11	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規① 58. 障害児教育・特別支援教育と法規　59. 障害者の権利に関する条約（障害者権利条約）　60. 障害者基本法 61. 障害者総合支援法
12	Ⅴ章　障害児教育・特別支援教育と法規② 62. 特別支援教育　63. 発達障害者支援法　64. 障害者差別解消法の施行と学校 コラム：学習指導要領の用語「交流及び共同学習」は障害者基本法が基に
13	Ⅵ章　学校保健・安全と法規 65. 学校保健・安全と法規　66. 学校保健安全法　67. 安全点検と安全教育　68. 災害安全・防災教育 69. 養護教諭の職務　70. 学校事故と国家賠償法　71. 食育基本法　72. 学校給食法 判例コラム⑧：学校内での児童生徒死亡事故の責任
14	Ⅶ章　児童福祉・男女共同参画と法規 73. 児童福祉・男女共同参画と法規　74. 児童福祉法　75. 少年法　76. 児童福祉の規範としての児童憲章 77. 男女共同参画社会基本法　78. 児童虐待の防止等に関する法律 判例コラム⑨：少年法と「厳罰主義」
15	Ⅷ章　生涯学習・社会教育と法規 79. 生涯学習社会における社会教育と法　80. 社会教育法　81. スポーツ基本法　82. 生涯学習振興法　83. 図書館法 84. 学校図書館法　85. 博物館法　86. 文化芸術基本法・音楽振興法　87. 文字・活字文化振興法 88. 文化財保護法、ユネスコ活動に関する法律

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）　C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】教育公務員と一般の地方公務員との服務事項や研修に関する内容を述べよ。その際、同じところと異なるところについて整理して論述せよ。

＜ポイント＞
県庁や市役所などに勤務している者も公立学校に勤務している校長や教員等も多くは同じ地方公務員である。同じ地方公務員でも公立学校に勤務している校長や教員等は教育公務員でもある。地方公務員の服務事項や研修については地方公務員法がある。一方、教育公務員に関しては教育公務員特例法にも服務事項や研修に関する規定がある。一般法である地方公務員法と特別法である教育公務員特例法の関係を踏まえたうえで論述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．学校教育における教育法規の役割や意義について論述せよ。
＜ポイント＞
「教育法規」を「憲法」「法律」「政令」「省令」「規則」「条例」に分けて整理し、教員や児童生徒に対する教育法規の役割と意義について論述すること。

2．公立学校や私立学校における宗教教育や宗教的活動について法はどのように規定しているのか、論述せよ。
＜ポイント＞
宗教教育や宗教的活動の内容について述べるとともに、憲法第 20 条、教育基本法第 15 条そして学校教育法施行規則第 50 条などを根拠に公立学校と私立学校での宗教教育や宗教的活動の違いなどについて論述すること。

3．学齢児童又は学齢生徒に対しては、懲戒としての停学は行うことができない。一方、公立の小・中学校では性行不良行為を繰り返すことで他の児童・生徒の教育に妨げがあると認められるときは、出席停止を命ずることができるとの規定がある。それぞれ根拠条文と停学と出席停止の違いを述べよ。また、性行不良による出席停止の課題について述べよ。
＜ポイント＞
学齢児童･生徒の停学については公立学校･私立学校を問わないが、出席停止については公立学校のみである。その理由にも触れながら設問に答えること。

4．公立小学校の体育の授業である。その水泳指導中、担任の過失によって児童が水死してしまった。この場合、担任はどのような法的責任を負うか。また、被害者側の請求を確実に補償するための規定についても論述せよ。
＜ポイント＞
法的責任については、刑事法上、民事法上、公務員法上の具体的な内容を述べること。また、被害者側の請求では憲法や国家賠償法などを引用して論述すること。

5．教科書の使用義務と補助教材について法はどのように規定しているか。裁判例にも触れながら論述せよ。
＜ポイント＞
教科書使用義務の根拠や内容、補助教材についてのきまりなどについて裁判例などをも参考にしながら論述すること。

6．体罰と事実行為としての懲戒について述べよ。体罰を行った公立学校の教職員の法的責任について、具体例を挙げて述べよ。
＜ポイント＞
体罰に関する文部科学省の通知文（平成 25 年 3 月 13 日）や大阪市立桜宮高校の体罰事件についての教員の法的責任などを参考にしながら論述すること。

教科書

古川治・今西幸蔵・五百住満 編著　『教師のための教育法規・教育行政入門』　ミネルヴァ書房。

参考文献

菱村幸彦『やさしい教育法規の読み方』教育開発研究所。
山本豊『有権解釈に重きを置いた　教育法規　第四版』学校図書。
山本豊『改訂新版　教育法規相談ハンドブック　３５』東京教育研究所
山本豊『書いて理解する教育法規　第二版』（株）オフィス・サウス。
解説教育六法編修委員会『解説教育六法』三省堂。

科目コード	教育方法論（２単位）	登録年次	履修方法
4071		２年	ＳＲ
教員名	石﨑達也、垣崎授二、攪上哲夫、駒井隆治、篠大輔、杉山憲江、望月之美		

科目概要

本科目は、教育職員免許法で定められた「教育に関する科目」の一つである「教職課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。一般に教育方法とは、教授・学習の方法を意味し、学校で行う全ての教育指導が含まれる。ここでは、教育方法の原理と基本、学習指導案の意義と作成手順・教材研究などを含む授業論、学習形態や教育評価などについて学ぶ。

学修内容

1	教育方法やその原理【科目終了試験学修のポイント1】について理解する。その際、「教育」という言葉の定義を出発点とし、生涯教育の中の、学校教育における教育にかかわる理念や方法について言及できるようにする。
2	「西洋教育史」について、教科書（教育学のポイント　教育の方法と技術　）pp.7-28等で概観する。古今東西の教育思想に触れることで、多方面からの「教育」のとらえと、それを具体化する方法論を理解する。
3	「日本教育史」について、受講者同士で資料を交換し合い、理解する。この学習を「学習指導要領の歴史的変遷」につなげて考察できるようにする。
4	「学習指導要領の歴史的変遷」について、教科書pp.40-43等で理解する。その際、改訂年度を中心とした社会的背景や、教育に求められているものをおさえ、教育課程論、学力論、教育方法論、評価論等について理解する。その上で「指導と評価」の関連をとらえ、指導と支援【科目終了試験学修のポイント２】の理解につなげる。
5	「教育課程編成の原理と諸類型」について、教科書pp.34-37等で理解する。教育史や学習指導要領の変遷で学んだことを生かし、教育課程を編成することの意味と役割について理解を深める。
6	「学校の教育課程編成」について、教科書pp.38-39等で理解する。教育課程の三層構造を踏まえた上で、学習指導要領、各地域の教育委員会が示す教育課程編成のガイド、各学校が編成する教育課程、各教師が計画実践する教育課程について、互いに資料を持ち寄るなどをして理解を深める。
7	「授業の構造と意義」について、教科書pp.66-73等で理解する。授業の意義を踏まえた上で、授業の目標づくりや学習指導案の作成【レポート設題】について理解を深め、模擬授業や教育実習で生かすことができるようにする。
8	「問題解決学習」について、教科書 pp.74-79 等で理解する。その際、問題解決学習の実践例を持ち寄るなどをして考察したり、受講生自ら課題を設定し、実践、評価、改善を練ったりして実践力育成につなげる。
9	「展開のある授業」を生み出すための「教材研究」【科目終了試験学修のポイント６】について教科書 pp.80-83 等で理解する。子ども理解に始まり、教材のもつ力を把握した上で、対立を創り出す展開のある授業を構築できるようにする。
10	「授業中の発問と説明」について、教科書 pp.87-90 等で理解する。「展開のある授業」創造の核になる発問の種類と機能について、また、説明の役割と方法について深く理解する。
11	「学習活動の個別化」と「ティーム・ティーチング」【科目終了試験学修のポイント３】等の教育技術について、教科書pp.91-118等で理解する。集団での練り合いよさを図る中で、一人ひとりに応じた指導の在り方を探る。
12	「学習効率を高めるための教育技術」について、教科書 pp.119-126 等で理解する。板書・ノート指導・学び方学修・反復練習等、実践例を持ち寄ったり、演習をしたりすること等で理解を深める。
13	「学力と教育評価」【科目終了試験学修のポイント４】について、教科書 pp.131-144 等で理解する。学力とは何かをおさえた上で、相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について言及できるようにする。
14	「指導要録」【科目終了試験学修のポイント５】について、教科書 pp.119-126 等で理解する。学修内容１３の理解を踏まえ、公簿である指導要録の意義と役割、作成上の留意点の理解を深める。
15	望ましい授業の在り方を探る学習指導案の作成と模擬授業」について、教科書 pp.127-130 等で理解する。できるだけ多くの模擬授業の交換が出来るようにする。その際、授業記録の取り方やそれに基づいた授業分析の実際についての理解も深める。本講義の学修内容１～１４の集大成になるようにする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学習指導案（または指導計画）の意義と作成上留意しなければならないことについて述べよ。

＜ポイント＞

学習指導案の意義を考えることは授業の内容を考えることでもある。何をどのように指導するか。どのようなことに配慮して指導案を作成すべきかを述べることが重要であり、一人ひとりの子どもの学習状況の実態・理解度を踏まえた指導案はどのようにして作成するのかについて述べる必要がある。

※自分が取得を希望する免許課程に則して作成すること。

※保育士資格のみ取得希望者は「保育原理」の教科書なども参考とし、保育士の指導計画について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．教育方法とは何か、教育方法の原理とは何かについて

＜ポイント＞

「教育とは何か」をいくつかの参考資料から自分なりに定義することから、教育方法やその原理に迫る。

2．指導と支援について

＜ポイント＞

学習指導要領の変遷をたどる中で、教師の教育的行為を見極める。さらに、「授業中の教師の役割にはどんなものがあるか」を探る中で、指導と支援の違いについて具体的に言及できるようにする。

3．ティーム・ティーチングの内容と実施上の留意点について

＜ポイント＞

T・Tが取り入れられるようになった背景から、その内容と実施上の留意点を探る。

4．相対評価・絶対評価・自己評価・相互評価・個人内評価の意味とそれぞれの長短について

＜ポイント＞

言葉の定義にとどまらず、評価の本質的な意味をとらえてそれぞれの長短を言及する。

5．指導要録記入上の留意点について

＜ポイント＞

指導要録は公簿であり、記載内容は個人情報であることを踏まえ、「評価の意味を正しくとらえた記述とは」を熟考する。

6．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

育てたい子ども像、学習指導要領で示された指導内容、子どもと教師で創り上げる授業の創造の観点から必要性に迫る。

教科書

柴田義松、他『教育の方法と技術』学文社。

参考文献

天野正輝『教育方法の探求』晃洋書房。
金子光男、他『教育方法論』酒井書店。
多田俊文『教育の方法と技術』学芸図書。

科目コード	教職実践演習（小学校）（２単位）	登録年次	履修方法
4530		３年	S
教員名	石﨑達也、伊藤宗彦、垣崎授二、駒井隆治		

科目概要

教育実習を振り返りながら、討論、事例検討、ロールプレイ、模擬授業等を行う。
また、教育に対する使命感、責任感、子どもや保護者とのコミュニケーションや授業を行うための様々な準備について理解する。
教員として必要な資質の形成に関して、以下の４項目を具体的到達目標及びテーマとする。
１．職務に対して使命感や責任感をもち、児童に対する愛情が豊かであること。
２．教科や領域等の指導力に関して実践力を身につけること。
３．社会性や対人関係能力を適切に身につけること。
４．児童理解や学級経営等に関する基礎的な能力を身につけること。

※「教職実践演習（小学校）」（登録年次：３年次科目）は、教育実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	講義概要　望ましい教師像 教育の本質
2	授業つくり、学級つくりのステップ 学校教育の現状
3	わかる授業を成立させる条件 実習のふり返り、成果と課題
4	授業を成立させる条件 児童理解と指導力
5	学級を成立させる条件 児童理解とカウンセリング
6	授業のルール 導入と評価の工夫
7	学級のルール 教師集団の中の一つ　クラスの中の一人
8	指導案と授業 実態把握と支援方法
9	模擬授業とその検討　　その１ 気になる子への対応
10	模擬授業とその検討　　その２ 気になる子への対応
11	模擬授業とその検討　　その３ 導入の工夫、途中の評価
12	より良い教師像 保護者、地域等の連携、活用
13	模擬授業とその検討 自己の支援等の見直し　その１
14	模擬授業とその検討 自己の支援等の見直し　その２
15	まとめ

教科書

講義中に配付する資料。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領』各教科等指導書。

科目コード	教職実践演習（幼稚園）（２単位）	登録年次	履修方法
4520		３年	S
教員名	河合光利、駒井美智子、鈴木美子、持田京子		

科目概要

教育実習での体験を主たる題材として、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「こどもの専門家」としての職業意識を養う。教育実習体験での具体的な事例、課題についてグループで課題を設定し、学修を行うことを通じて問題解決の総合能力を養う。

※「教職実践演習（幼稚園）」（登録年次：３年次科目）は、教育実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	保育者の専門性とは何か
2	教育実習においての問題点と今後の課題について
3	児童福祉行政における問題点について① 児童虐待
4	児童福祉行政における問題点について② 多文化保育
5	児童福祉行政における問題点について③ 統合保育・その他
6	児童を取り巻く問題点について（教育・適正支援とは）
7	幼児文化教材の理論について（教材とは）
8	幼児文化教材の制作（興味性、教育性、児童性について）
9	幼児文化教材の制作（問題解決を備えた教材制作となるように考える）
10	幼児文化教材の制作（問題解決を備えた教材制作となるように実際に作成する）
11	幼児文化教材発表会…「演ずるとは何か」
12	保育者に求められる質とは何か 「職務に対しての使命感・責任感、社会性・対人関係能力」の観点から
13	保育者に求められる質とは何か 「幼児の理解・学級経営」の観点から
14	保育者に求められる質とは何か 「保育内容の指導力」の観点から
15	保育者の質と組織活性化とは何か。

教科書

教員の配付する資料。

参考文献

関口はつ江、岸井慶子『実践理解のための保育内容総論』大学図書出版。
駒井美智子『幼児文化教材理論と実践』大学図書出版。
佐藤達全、駒井美智子、他『幼稚園・保育園の実習パートナー』大学図書出版。

科目コード	教師論（２単位）	登録年次	履修方法
4011		１年	ＳＲ
教員名	石渡宏、垣崎授二、後藤泰博、駒井隆治、杉山憲江、西脇雅彦、松村久美子		

科目概要

変化の激しい今日の社会において、学校教育においても様々な課題が生じている。この課題を解決するために、学校教育の主たる担い手である教員の役割が今まで以上に重要になっている。本科目では、教職とは何か、これからの教員に求められる資質は何か、教員の仕事と役割はどのようなものか、教員の権利や義務（服務・研修・身分保障などを含む）はどのように規定されているのかなど、教職を志す学生があらかじめ知っておく必要のある事項について考察する。

学修内容

1	教師の歴史と教職観について　＜教科書 pp. 2-9＞ 教師と教員の相違点や共通点について理解するとともに、歴史的な経緯に注目し、広く教師という職業に対する人々のとらえ方がどのように変化していき今日に至っているのか理解する。
2	教職制度と教員に求められる資質について　＜教科書 pp.10-24，pp176-180＞ 教員養成をめぐる歴史的経緯についての大要を理解するとともに、昨今の審議会答申において見られる教員に求められている資質について理解する。
3	学校を取り巻く環境と教職の課題について　＜教科書 pp.25-34，82-90＞ 教師が直面している学校における諸問題や教師自身が抱えている諸問題について注目し、教師の職業的な役割について検討する。
4	学習指導要領について　＜教科書 pp.124-132＞ 学習指導要領とは何か、学習指導要領の変遷、学習指導要領の法的拘束力、学習指導要領と教科書の関係など、教員と学習指導要領のかかわりについて理解する。
5	教員の研修について　＜教科書 pp.104-112＞ 教員の資質能力の形成過程、初任者研修の仕組み、教員研修の実施体系、研究制度の法的根拠について注目し、教員に研修が求められる必然性を理解する。
6	教員の服務と身分保障について　＜教科書 pp.113-123＞ 教育公務員としての教員が職務を遂行する上で服さなければならない服務規程や教員の身分の法的保障の現状について理解する。
7	教員の種類と職階について　＜教科書 pp.36-40＞ 学校教育法第 37 条に規定する教員の種類や勤務形態、それぞれの立場における職務内容の概要、教員の職階の仕組みや特徴について理解する。
8	学級経営・学校経営・校務分掌について　＜教科書 pp.66-73＞ 学級経営の条件や学校経営の視点、校務分掌の組織の例について注目し、教員が学校という組織体においてどのような役割をはたしているのか理解する。
9	教科指導と教科外指導について　＜教科書 pp.41-55＞ 教科指導および教科外指導、指導計画、教材研究、教科指導の評価、教科外指導の課題など、学校の教育活動を展開する際の前提として必要な事柄を理解する。
10	教育相談・進路指導と教員について　＜教科書 pp.56-65，74-81＞ 教育相談の活動、不登校やいじめへの対処、組織的な連携の必要性の理由、進路指導の業務、進路保障の問題、ホームルームにおける指導、キャリア教育との関連について理解する。
11	保護者・地域・関係機関と教員について　＜教科書 pp.91-101＞ 学校園が保護者をはじめ、地域や関係機関との関係づくりをしていく上でのあり方やその背景にある諸事情について理解する。
12	初等教育と教員について　＜教科書 pp.134-149，169-174＞ 幼稚園教育の基本と特性、幼稚園教員の特性とあり方、小学校教育の基本と特性、小学校教員の特性とあり方、特別支援教育の教員についてそれぞれ理解する。
13	中等教育と教員について　＜教科書 pp.150-168，169-174＞ 中学校教育の基本と特性、中学校教員の特性とあり方、高等学校教育の目的と目標、中学校と高等学校の接続、高校教員としての資質、特別支援教育諸学校で学ぶ児童生徒、等について理解する。
14	教職員の法規について　＜教科書 pp.187-236＞ 教育基本法、地方公務員法、教育公務員特例法、学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、教育職員免許法などの法規の概要について理解しておく。
15	教職の適性について　＜教科書 pp.181-186＋まとめ＞ 豊かな心と専門性、職務と研修をはじめ、1 から 14 までに学修した事柄をふまえ、教職の適性にはどのようなことが考えられるか、自らの言葉で整理しておく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 これからの教員に求められる資質能力について、具体例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞

これからの教員には、教員の職務内容から必然的に求められる資質能力のほか、広い視野に立って行動するための資質能力や、教職という専門的職業に従事する社会人として必要な資質能力が求められる。これらの観点に立って、考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．教員は聖職者か、労働者か、専門職か

＜ポイント＞

教員、教師、聖職者論、労働者論、専門職論、などをめぐる内容を理解する。

2．教員の役割と職務内容について

＜ポイント＞

学級経営、学校経営、校務分掌、教科指導、教科外指導、教育相談、進路指導、などをめぐる内容を理解する。

3．教員の服務と身分保障について

＜ポイント＞

服務の根本基準、職務上の服務、身分上の服務、身分保障、などをめぐる内容を理解する。

4．教員の研修について

＜ポイント＞

教員に求められる資質能力、現職研修、などをめぐる内容を理解する。

5．教員の適性について

＜ポイント＞

豊かな心、専門性、職務、研修、などをめぐる内容を理解する。

6．教職をめぐる諸課題について

＜ポイント＞

教師の自律性・専門性・職業的社会化、燃えつき症候群、学級崩壊、教育改革、などをめぐる内容を理解する。

教科書

宮崎和夫『教職論』ミネルヴァ書房。

参考文献

岡田正章、他『教育原理・教職論』酒井書店・育英堂。
髙倉翔『これからの教師』建帛社。
田原恭藏、他『教育概論』法律文化社。

科目コード	経営学入門（２単位）	登録年次	履修方法
1930		１年	R
教員名	垉本一雄、松原健治		

科目概要

数社の経営実態に関する話を、ケーススタディーを通じて学ぶことによって、現実に起きている経営課題について考える。多くの経営課題は、経営学の理論を当てはめることによって解決できるが、教科書通りに問題が起きることはめったにないので、経営の現場では、そこで何が起きているのかを見極める力が必要になる。ケーススタディーは理論的に正しいか、ということよりも、そこで何が起きていたのか、を見極める力を身につける方法論であると考えるべきであろう。本科目では、経営学を理論的に学ぶ前に、まず経営の現場からモノを考える習慣をつけることに主眼を置き、理解を深めていく。

学修内容

教科書より取り上げる以下の事例、コラムについて、何が問題となり、それを解決するためにどのような工夫がなされたのかや、経営理念や経営方針が様々な問題に対してどのような効果を持ったのか、といった点を考え、実際に起こった事例を通じて、自分のケースに当てはめた時に何ができるのか、どうすべきか、参考にできるのはどこか、といった視点で考えること。その上で、アメリカ的な経営学とは異なる日本的中小企業経営について、著者の坂本教授の見識に基づき、批判的検討を加えていくことが重要である。

1	教科書 pp.18～42 を読み、中小企業経営の新たな視点とは何かを考え、従業員満足度の高い会社は顧客満足度の高い会社であることを確認する。
2	事例１：障害者の方々がほめられ、役立ち、必要とされる場をつくりたい。 （教科書 pp.44～71 日本理化学工業株式会社の取り組み）
3	コラム１：重度の障害をもつ彼女だからこそ、わが社が採用しなければ。 （教科書 pp.72～77 株式会社ファンケルスマイルの取り組み）
4	上記の事例１、コラム１がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の周りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
5	事例２：「社員の幸せのための経営」「戦わない経営」を貫き、48 年間増収増益。 （教科書 pp.78～112：伊那食品工業株式会社の取り組み）
6	コラム２：75 年間連続増収企業は、「社員がハッピーなら会社もハッピー」。 （教科書 pp.113～116：ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の取り組み）
7	上記の事例２、コラム２がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の周りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
8	事例３：「人を支える」会社には、日本中から社員が集まり、世界中からお客様が訪ねてくる。 （教科書 pp.117～140：中村ブレイス株式会社の取り組み）
9	コラム３：難病になった娘のためにリフト付車椅子を開発。 （教科書 pp.140～143：キシ・エンジニアリング株式会社の取り組み）
10	事例３、コラム３がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の周りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
11	事例４：地域に生き、人と人、心と心を結ぶ経営を貫いていく。 （教科書 pp.144～169：株式会社　柳月の取り組み）
12	コラム４：心のやさしい子どもたちを育てるために、50 年間詩集を発行。 （教科書 pp.169～177：柏屋の取り組み）
13	事例４、コラム４がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の周りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。
14	事例５：「あなたのお客でほんとうによかった」と言われる、光り輝く果物店。 （教科書 pp.178～200：杉山フルーツの取り組み）
15	事例５がケースとして取り上げられる意味を考え、中小企業経営に必要な考え方を整理し、自分の身の周りに起きていることや感じていることへの応用方法を検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 テキスト事例1 日本理化学工業(株)の場合に問題となった2つの経営課題を指摘し、日本理化学工業がどのように経営課題に対応し、その結果どのような経営が行われることになったかを踏まえ、同じような問題について他社に応用するための方法を考えなさい。

＜ポイント＞

社長や従業員の思いを理解した上で事例を整理し、何が問題となっているのか、その問題を解決するために必要なことは何か、それは現状の体制で可能なことなのか、現状での解決が難しいのであれば何を改善すればよいのか、等について検討すること。

科目終了試験学修のポイント

1．テキスト事例1 日本理化学工業(株)の場合に問題となった1つ目の経営課題は何か。

＜ポイント＞

日本理化学工業(株)の事例がなぜ取り上げられているのかについて理解し、問題となった最初の課題が何かを発見すること。

2．テキスト事例1 日本理化学工業(株)の場合、最初の経営課題を解決するために、どのような工夫を行ったかについて述べよ。

＜ポイント＞

問題とされた課題を解決するために、どのような取り組みがなされたのかを読み取り、理解すること。

3．テキスト事例1 日本理化学工業(株)の場合の最初の経営課題が発生した理由を述べよ。

＜ポイント＞

障害者雇用が進まない現実を踏まえ、なぜ障害者雇用が進められないのかを考えること。

4．テキスト事例1 日本理化学工業(株)の場合の2つ目の経営課題は何か。

＜ポイント＞

製品のライフサイクルが30年と言われている中で、30年、50年、100年と成長を続けるために不可欠なこの経営課題について理解すること。特に衰退産業の中で生き残るために不可欠な経営課題である。

5．テキスト事例1 日本理化学工業(株)の事例から読み取ることができる、中小企業経営に必要な考え方を整理せよ。

＜ポイント＞

日本理化学工業(株)の事例が取り上げられる理由を整理し、ファンに支えられる会社とは何か、について考えること。

6．テキスト事例1 日本理化学工業(株)の取り組みを他事例に応用できるか述べよ。

＜ポイント＞

日本理化学工業(株)のような取り組み方を、自分の身の周りに起きていることや感じていることに応用できるかを考え、応用できる点を取り組んでみる。

教科書

坂本光司『日本でいちばん大切にしたい会社1』あさ出版。

参考文献

テキストで指定したシリーズの続巻（2018年4月現在6巻まで公刊）も併せ読んで頂きたい。

科目コード	健康・スポーツ（２単位）	登録年次	履修方法
1071	（レクリエーション・インストラクター資格登録者用）	１年	S
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、清水信好、西田希、林廣子、山内洋一		

科目概要

運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。また、場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。

学修内容

1	「健康・スポーツ」の考え方とこれから必要となる健康感の大まかな把握 ・各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解
2	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解１（青年期）
3	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解２（壮年期）
4	スポーツテストの実施方法の理解 ・各テスト種目の実施方法の理解３（高齢者）
5	スポーツテストが意味するもの詳細とその意義 ・各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点
6	スポーツテストの分析① ・体力の総合的な分析（方法編）
7	分析の実際② ・体力の総合的な分析（統計処理１）＊Excel を使った統計処理の理解
8	分析の実際③ ・応用編（統計処理２）＊Excel を使った統計処理の理解
9	分析実際④ ・分析結果の考察および相互における分析（分析結果から見えてくるもの）
10	対象者（各現場の視点からによる）の体力・健康における近年の傾向 ・基礎体力から見た対象者の理解　・基本的生活習慣から見た対象者の理解
11	各種トレーニングの理解と期待される効果 ・トレーニング効果の意味するものおよびその重要性
12	近年における健康感 ・健康感の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康感の展望
13	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
14	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
15	本科目のまとめ ①基礎体力の具体的な分析能力　②基本的生活習慣の重要性　③理想的な健康感　④各現場において自分がすべきこと

教科書

大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院。

参考文献

上杉尹宏　他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版。

科目コード	健康・スポーツ（２単位）	登録年次	履修方法
1072/1073		１年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、清水信好 杉浦善次郎、西田希、仁藤喜久子、林廣子、山内洋一		

科目概要

運動やスポーツは発育段階によって質・量とも異なり、基礎体力やスキルを習得するには相応の至適時期があることを理解する。また、場や状況を考慮した各種スポーツや遊びを実践し、歩く、走る、跳ぶ、握る、ぶら下がるなど、種々の動きを促すための「運動」の重要性・必要性を理解する。さらにこれらのことを踏まえて各方面における現場での具体的な運動計画を構築できるようにし、人間の真の健康とは何かを探る。

学修内容

1	「健康・スポーツ」の考え方とこれから必要となる健康感の大まかな把握 ・各年齢層におけるスポーツテストの意味するものの概略を理解
2	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解１（青年期）
3	スポーツテストの歴史とその役割 ・各テスト種目の実施方法の理解２（壮年期）
4	スポーツテストの実施方法の理解 ・各テスト種目の実施方法の理解３（高齢者）
5	スポーツテストが意味するもの詳細とその意義 ・各種目テストと種々の基礎体力の関係と問題点
6	スポーツテストの分析① ・体力の総合的な分析（方法編）
7	分析の実際② ・体力の総合的な分析（統計処理 1）＊Excel を使った統計処理の理解
8	分析の実際③ ・応用編（統計処理 2）＊Excel を使った統計処理の理解
9	分析の実際④ ・分析結果の考察および相互における分析（分析結果から見えてくるもの）
10	対象者（各現場の視点からによる）の体力・健康における近年の傾向 ・基礎体力から見た対象者の理解　・基本的生活習慣から見た対象者の理解
11	各種トレーニングの理解と期待される効果 ・トレーニング効果の意味するものおよびその重要性
12	近年における健康感 ・健康感の変遷と「Wellness」の基本的な考え方の理解と真の健康感の展望
13	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
14	スポーツ大会の計画・運営 ・既習した各学修内容を考慮した効果的なスポーツ大会の計画（実践も含む）
15	本科目のまとめ ①基礎体力の具体的な分析能力　②基本的生活習慣の重要性　③理想的な健康感　④各現場において自分がすべきこと

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 現代日本の人々の生活習慣，運動，健康との関連性について述べよ。

＜ポイント＞

・生活習慣病がなぜ問題となるのかを明確にする。

・生活習慣病の予防・改善に運動がどのように関わるかを明確にする。

・生活習慣病にならないためにどのような健康習慣を行うかを考える。

科目終了試験学修のポイント

1．健康の定義とヘルスプロモーションについて

＜ポイント＞

・健康の定義について WHO の憲章と QOL から考える。

・QOL を維持・向上させるためにどのようにヘルスプロモーションを行うかを考える。

2．生活習慣と健康の関連性について

＜ポイント＞

・健康な生活習慣とはどのようなものかを考える。

・不適切な生活習慣により様々な疾患になることを押さえる。

3．トレーニングの原理・原則と効果について

＜ポイント＞

・トレーニングとはどういうものかを基本条件をふまえて考える。

・トレーニングの原理・原則とその効果を考える。

4．有酸素運動と無酸素運動の方法や効果について

＜ポイント＞

・有酸素運動と無酸素運動の違いを明確にする。

・それぞれの運動の負荷設定や得られる効果を明確にする。

5．運動と心拍数及び血圧の関係性について

＜ポイント＞

・運動により心拍数や血圧が変化することを理解する。

・運動時の心拍数の目安や、運動を継続することによる血圧の変化を理解する。

6．健康のための食事内容やダイエットの方法について

＜ポイント＞

・食事における三大栄養素とそのエネルギー量について理解する。

・ダイエットにおける消費エネルギー量増加の方法を理解する。

教科書

大学生の健康・スポーツ科学研究会『大学生の健康・スポーツ科学』道和書院。

参考文献

上杉尹宏、他『生涯スポーツと運動の科学』市村出版。

科目コード	健康科学（２単位）	登録年次	履修方法
1760		１年	R
教員名	石本強、澤田晋一、杉浦善次郎、西田希、前鼻啓史		

科目概要

健康づくりの第一歩は自分の身体および心理がどのような状態にあるかを正しく把握することにある。その方法を学び、どのような生活を送ることによりその身体的および心理的状態を、より健康なものにできるかを考えていく。本科目では、生活習慣病と健康、身体の構造やその機能、運動の生理や心理等についての基礎的な知識を現代社会との関わりから考え、健康で豊かな生活を送る方法を理解する。

具体的には、健康に及ぼす食事・睡眠・運動・ストレスの影響、免疫機能と感染症、嗜好品、医薬品について学び、さらに健康食品・グッズの効能についての正しい知識に基づいて、自身の身体状況を的確に把握して、問題点がある場合に改善することができる能力を身につけることを目標とする。

学修内容

1	イントロダクション：人体の生理機能と健康・病気の定義 WHO の健康定義（身体的、心理的、社会的に健全）をもとに、身体活動の基本と、健康およびその対極にある病気とは何かについて考える。
2	身体活動と食事・栄養 身体活動のエネルギー源は栄養素の摂取、すなわち食事を介して供給される。五大栄養素（炭水化物、たんぱく質、脂質、ビタミン、ミネラル）の機能と過不足の影響について理解する。
3	運動の効能 運動は骨格筋の働きで行われる。筋運動の調節機構および心身に及ぼす影響について、運動不足の問題や過剰運動の影響などを含めて理解する。
4	睡眠・日周リズムの意義 睡眠は大脳機能に休息を与えるための生理的欲求で、規則的な 24 時間周期のパターンを描く必要がある。人の睡眠について、睡眠パターンの特徴、睡眠不足の影響、睡眠障害の概要について学ぶ。
5	ストレス刺激とストレス病 ストレス刺激によって引き起こされる様ざまな生理的・心理的機能変化がストレスで、現代人は各種ストレス刺激の影響にさらされている。ストレスの段階と疾病との関連、ストレス解消法について理解する。
6	免疫と生体防御機構 人体に脅威となる病原体（細菌・ウイルスなど）や各種物資に対処するため、人体は免疫機能を駆使している。免疫の基本的メカニズム、免疫不全・異常の影響などについて学ぶ。
7	感染症と対策 病原体は身の回りに常に存在しており、経口、空気、接触を介して侵入してくるが、多くの場合は免疫力を駆使して排除され、感染症の発生は防止される。感染症発症の３原則（感染源、感染ルート、個人の感受性）をもとに、感染症対策について理解する。
8	快・不快と意欲 人の行動の大部分はオペラント行動で成り立っており、その行動は、快刺激の増加（正強化）、不快刺激の減少（負強化）、不快刺激の増加（罰）で制御される。快・不快刺激と意欲との関係について理解する。
9	医薬品の正しい使用法 医薬品は人体にとって異物であるが、疾病の治療や予防、診断にとって欠かせない。しかし、使用を誤れば副作用の発生や、医薬品事故につながる。医薬品を使用する際の留意点について理解する。
10	薬物乱用と防止対策 大脳に作用して快楽感をもたらす薬物を、悪いと知りながら自己投与する行為が薬物乱用である。乱用薬物を分類し、それぞれの特徴と乱用の有害性について学ぶ。
11	飲酒の功罪 人は約 1.5 万年前にアルコールを発見し、生活の中で利用してきた。身体および社会に及ぼす飲酒の功罪を含めた影響について、アルコールの薬理作用をふまえて理解する。
12	喫煙の問題 喫煙は人の長い歴史の中で行われてきたが、最近はその有害性が強調されている。心身に及ぼす喫煙の影響について、ニコチン、タール、一酸化炭素の三大成分の薬理作用から理解する。
13	サプリメントと健康グッズの正しい認識 最近の健康ブームを反映して、サプリメントや健康グッズの使用が流行している。しかし、それらの効果については、多くが疑似科学やプラセボ効果の段階にとどまっている。サプリメントや健康グッズの本質について、人の生理機能をもとに正しく理解する。
14	妊娠と出産 生殖は種の命を継続させるための基本行動である。妊娠、胎児の成長、出産の生理機能について学び、生殖について正しく理解するとともに、奇形発生リスクの軽減について考える。
15	健康維持・増進の総括 1～14 回の授業内容を総括して、受精から、成長、成熟、老化にいたる全過程において、いかにしたら健康状態を高め、疾病リスクを軽減することができるか考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】健康を維持するための食事について述べよ。

＜ポイント＞

身体を健康的に活動させるためには、基礎代謝量に加えて、活動に必要なエネルギー源を摂取し、さらに、身体を構成する細胞の形成、情報伝達、生理活動を維持するための栄養素を、適切に摂取しなければならない。必要な栄養素について述べ、その不足、過剰摂取の影響について論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．生活習慣（食事、運動、睡眠）の重要性について

＜ポイント＞

適切な栄養摂取、活動、休息は健康的な生活を送る上で必須の条件である。これら基本的生活習慣の身体面・精神面に及ぼす効能、および過不足時の影響について考察する。

2．ストレス刺激とストレス病について

＜ポイント＞

ストレスとは、体内外の刺激（ストレス刺激）に対する生理的反応を意味している。ストレス刺激にはどのようなものがあるのか、また、ストレスの段階と疾病について考察する。

3．免疫力と感染症について

＜ポイント＞

免疫は病原体に対する防御機能であり、先天的な自然免疫と、後天的な獲得免疫がある。病原体に対する免疫反応の機序、免疫力の低下による感染症リスクについて考察する。

4．肥満と痩せの健康影響について

＜ポイント＞

体格指数（BMI）でみると、18.5未満が痩せ、25以上が肥満である。痩せと肥満に起因する代表的な症状を挙げて、健康に及ぼす悪影響について考察する

5．医薬品の正しい使い方について

＜ポイント＞

医薬品は病気の治療、予防、診断に適正量を使うべきものであるが、処方された医薬品を正確に使っている割合は3割以下とされている。医薬品をいつ、どういう目的で、どのように使用すべきであるか考察する。

6．飲酒・喫煙の健康に及ぼす影響について

＜ポイント＞

飲酒・喫煙は、何千年にもわたって続けられた嗜好品使用であるが、健康に及ぼす功罪が論議されている。飲酒・喫煙の身体面、精神面に及ぼす影響について考察する。

教科書

佐藤祐造、他『テキスト健康科学』南江堂。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

小田裕昭、他『健康栄養学』共立出版。

科目コード	現代女性論 / ジェンダー論（２単位）	登録年次	履修方法
1560/1291		２年/１年	R
教員名	小笠原眞紀		

科目概要

現代社会では性別役割の境目が不明瞭になってきている。どこまでが生物学的に決定された性であり、どこまでが社会的に規定された性(ジェンダー)であるかは、今後の社会を考える上で大きな問題となりうる。他の先進国における今日の男女間における価値観やライフスタイル（結婚、出産育児、労働問題など）と比較しながら、日本社会の今後の変遷を予測し、望ましい社会様式を模索する。また、ゲイなどのマイノリティのセクシャリティー問題や、シングルマザーなどの人々の問題にもアプローチを試みる。

学修内容

1	ジェンダーと社会学の視点（ジェンダーの視点から見る社会問題）： 生物学的な性差「セックス」に対し、1970～80 年代にかけて登場した「社会的に作られた性別」を示すジェンダーの言葉の意味や概念が登場した背景について学ぶ。現代社会における問題は、ジェンダーによる性別にかかわる枠づけが、差別や排除に結びつきやすいという点である。男性・女性それぞれの立場からのジェンダーの視点、社会学におけるジェンダー研究など、科目の全体像を概観する。
2	生物学的性差とジェンダー（生物学的性差、ジェンダーが意味するもの）： ジェンダーの視点を生物学的性差であるセックスとの関係性について学ぶ。また、性の多様性をふまえた上で、生物学的性差が存在するそもそもの意味や、生物学的性差を理由とした社会的差別や偏見の問題を理解する。
3	文化の中のジェンダー（国や文化で変わるジェンダー観）： 社会的な構築物であるジェンダーは、文化の違いによって変化を見せる。文化によって男性・女性それぞれの役割が異なることを理解する。日本はジェンダーの視点から見ると、どのような社会なのか？西洋社会とそれ以外では、違いがあるのか？世界を二つに区分するという方法は、多くの文化が共通して持っていたとされているが、近代社会以降は崩れ、新たな男女の関係の構築へと向かっている。そのような国や時間軸の大きな違いや変化をふまえ、学修すること。
4	歴史の中のジェンダー（時代によって変わるジェンダー観）： ジェンダーは、歴史的変化に伴い、その様相を変化させる。前近代の日本社会のジェンダー構造や、近代社会が生み出したジェンダーの変容について学修する。前近代社会から、近代産業社会へと進み、女性は、男性労働力の再生産労働（女性たちに家事や育児を分担してもらい、健全な労働力を維持する方法）にかかわる仕組みを生み出し、「主婦」が誕生する。女性は家事・育児・介護の３つの再生産労働を無償で担う仕組み（＝アンペイド・ワーク）を、産業社会は生み出したのである。ジェンダーの仕組みは、歴史の変化に対応しながら展開してきた。新しいジェンダー観が求められていることを学修する。
5	性差別とジェンダー（ジェンダー・バイアスと性差別、性差別撤廃への動き（ジェンダー・エンパワメント指数）： 性差別とは、性別を理由に、合理的な根拠のない形で行われる差別や抑圧、社会的排除のことである。前近代社会において、社会のしくみとして組み込まれていた性差別は、1970 年代以降急激にフランス革命を皮切りに、女性解放運動など急激に性差別の撤廃の動きが世界の国々で広がった経緯を学修すること。性差別解消の一つの指標として国連のジェンダー・エンパワーメント指数（ＧＥＭ）を学ぶ。
6	性暴力とジェンダー（ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントなど）： ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）やセクシュアル・ハラスメントなど、性に関わる暴力に対して、新しい言葉や視点が持ち込まれる様になってきた。新しい言葉が登場することによって、問題が顕在化し新たな人権への視座がもたらされたのである。被害者が安心して声を上げられる環境作りや、加害者教育プログラム、予防プログラムの受講機会の保障が必要であり、性に関わる暴力に対し、ジェンダーの視座は多くのヒントを与えてくれる点を学修する。
7	「女らしさ」（女らしさの形成と再生産、諸問題）： 男女平等のかけ声の一方で、今日もなお性に関わるダブルスタンダード（＝二重基準）が存在する。男性・女性それぞれに適用される基準が異なっている。私たちの社会では、幼い頃から常に外側から男であるか、女であるかの区別をつけられ、その性別に見合う態度を要求され続ける。また、子どもたちを取り巻く社会環境やメディアもまた、ジェンダー化された社会の中でジェンダーが再生産されていく。女性が社会で活躍していくためには、男性側の女性に対しての古い固定的な視点だけでなく、女性自身が持つ「女らしさ」の呪縛がもたらす諸問題を学修する。
8	「男らしさ」（男らしさの形成と再生産、諸問題）： 現代社会におけるジェンダーのゆらぎの中で、男性たちも様々な問題と直面している。こういった、男性性の危機や男性問題も、ジェンダー研究の重要な課題である。女性だけが意識を変え、社会参加を広げても、もう一つの性である男性たちの意識改革がない限り、性差別の問題は解決しない。今日見られる典型的な男性問題として、急増する中高年男性の自殺、増加する定年離婚などが見られる。男性自身が、ジェンダーの視点でもう一度自分の意識や生活を問い直すことは、女性のためだけでなく、男性自身のためにも重要な意味を持つことを学修する。

9	労働とジェンダー（労働の場における男女間格差、男性の長時間労働、ワーク・ライフ・バランス）： 現代社会におけるジェンダー問題にとって、労働は極めて重要なテーマである。労働の場における男女間格差の問題や、男性の長時間労働の問題などを分析しながら、男女ともに社会参画と家庭参画が可能なワーク・ライフ・バランスが実現できる社会づくりを学修する。わが国を支えた高度経済成長は、家庭に女性をとどめる一方で、男性主導社会の中で、男性たちは長時間労働を強いられた結果、今もなお女性の社会参加を阻害する力や、賃金における男女格差が続く結果となった。今後、少子高齢社会を前に、男性女性それぞれにとってのワーク・ライフ・バランスが保障される社会が求められることを学修する。
10	家族の中のジェンダー（戦後の変容する家族と、家族問題）： 家族というテーマにジェンダーの視点から光を当て、多様な家族の形態や近代家族の成り立ち、現代社会における家族の変化や家族が抱えている諸問題について学修する。戦後まもない時代の日本社会は、三世代同居の家族が主流であった。その後経済成長を経て、サラリーマンの夫と専業主婦の妻と子どもの核家族が主流化する。また現在、共働き世帯が全世帯の半数を超える中で、育児や介護、離婚といった家族の抱える課題が浮上してきている現状を学ぶ。
11	教育とジェンダー（幼児期における男女の役割意識形成、教育の場におけるジェンダー・バイアス）： 幼児期における男女の役割意識形成や、学校教育・社会教育におけるジェンダー問題について学修する。隠れたカリキュラムの問題や女性研究者の抱えている課題など、教育の場におけるジェンダー・バイアスについて学修する。子どもたちは、教育の仕組みの中で、ジェンダーと直面することになる。見えない形で、男が主で女が従だという意識を植えつける「隠れたカリキュラム」や、ジェンダー・トラッキング（＝男女で、走るコースがあらかじめ決められている）が存在する。今日では、性教育の場にジェンダー平等の視点を積極的に導入することなど、新しい取り組みが始まっている。
12	スポーツとジェンダー（スポーツにおけるジェンダー・バイアス、ジェンダーとスポーツの未来）： 近代になって発展してきたスポーツは、基本的に「男性のもの」として作り出されてきた。その結果、女性たちは、男性主導の近代スポーツから排除され続けてきた。そうした中、スポーツにおけるジェンダー平等を求める声が国際的に大きく広がってきたことで、女性スポーツの拡大、さらにはジェンダーを超えたスポーツへと、スポーツのあり方そのものを問いかけることとなった。スポーツそのものの多様化の中で、スポーツにおけるジェンダーの課題をどう実現するかが問われている背景を学修する。
13	セクシュアリティとジェンダー（性的マイノリティの問題、セクシュアル・ライツの視点）： 性的マイノリティの問題も、現代社会の重要な人権問題である。性的指向性（＝セクシュアル・オリエンテーション：性的な関心が、異性に向かうか、同性に向くか、両性なのかに関わる概念）やトランスジェンダー（＝性別越境者：社会的に構築された性別であるジェンダーをトランスする生き方を選んだ人たち）など多様な性の視点をふまえつつ、セクシュアリティ問題を学修する。社会には、セクシュアル・マイノリティの人々が存在する。セクシュアリティをめぐる問題は、セクシュアル・ライツ（性的権利：性的平等と性をめぐる自己決定権）の視点と結びつけ考察する必要がある点を学修する。
14	国際社会とジェンダー（グローバリゼーションとジェンダー、開発におけるジェンダー）： グローバル化の時代の中で広がったジェンダー平等の動きについて、「開発におけるジェンダー問題」を軸に学修する。国際社会が抱える課題の中でも、ジェンダーにおける不平等の解決は、ほとんどの国が共通して抱えている問題であり、今日、国際的・国内的なジェンダー平等の広がりの中で、女性のエンパワメントとともに、男性の巻き込み（＝インヴォルヴメント）が必要とされている。ジェンダーと開発をめぐって、現在注目されている「エンパワメント・アプローチ」は、開発途上国の女性自身の主体性や自立を軸にしたジェンダー平等戦略として考えられている。さらに、持続可能性や戦争と平和の問題など、世界の大きな動きをジェンダーの視点からアプローチする。
15	ジェンダー政策のゆくえ（ジェンダー平等社会、男女共同参画社会）： 戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動きもふまえつつ、日本社会におけるジェンダー政策の流れを概観するとともに、今後の発展の方向性について学修する。 ジェンダー平等社会を実現するためには、国際社会においても、わが国においてもこれまで学修してきたさまざまな課題が山積している。真の意味で、男女共同参画社会を実現するための取り組みや政策がもたらす新しい社会のあり方について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】性差別と性の役割について述べよ。

＜ポイント＞
教科書をよく読んで、自分の意見を展開すること。その際、意識化されにくい性差別の問題にも十分に注意を払うこと。

科目終了試験学修のポイント

1．ジェンダーについて
＜ポイント＞
生物学的な性差であるセックスに対し、社会的に作られた性別をジェンダーと呼ぶ。現代社会においては、ジェンダーによる性別に関わる枠づけが、性別による固定的な性別役割観や、性差別や排除に結びついている身近な例があることを理解する。

2．フェミニズム運動について
＜ポイント＞
フェミニズム運動の歴史的展開について理解するとともに、今日の女性の地位向上との関連を考察すること。

3．女性の労働について
＜ポイント＞
わが国の女性の労働の特徴を示すものに、30 歳前後を境に出産・結婚のため一旦労働から離れ、子育てが一段落すると再び労働に就くというM字型曲線がある。また、「男は仕事、女は家庭と育児」の性別役割分業の意識が根強いわが国では、働く女性に何重もの負担がのしかかっている現状がある。

4．近代家族と性役割について
＜ポイント＞
戦後まもなくの三世代同居の大家族が主流の時代から、高度経済成長以降、都市化と男性のサラリーマン化、核家族化が急激に進行し、共働き世帯が増えるなか、依然として固定的な性別役割分業の意識が男性、女性それぞれを縛りつけている。近代家族から見える固定的性役割の問題に焦点をあてること。

5．アイデンティティとジェンダーについて
＜ポイント＞
今日、生物学的性差であるセックスと、社会的に作られたジェンダーとが必ずしも一致しない性同一性障害やトランスジェンダーなどのケースにおけるアイデンティティの問題、性の多様性などに触れること。

6．ジェンダー政策について
＜ポイント＞
戦後日本の男女平等理念の登場から、現代の男女共同参画政策まで、国際的な動向もふまえつつ、わが国におけるジェンダー政策の流れを概観すること。

教科書

伊藤公雄『新訂　ジェンダーの社会学』放送大学教育振興会。

参考文献

アンドレア・ドウォーキン『女たちの生と死』青土社。
上野千鶴子『近代家族の成立と終焉』岩波書店。
江原由美子、他『ジェンダーの社会学：女たち／男たちの世界』新曜社。

科目コード	国語（書写を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
7400		２年	R
教員名	石渡宏、駒井隆治、松村久美子、望月之美		

科目概要

書写を含む国語（日本語）に関する基礎的・基本的知識理解を確かにするとともに、今日の国語国字問題や国語教育及び言語生活について考える力を育てる。

あわせて、各自の言語生活の向上と世界の言語のひとつとしての認識力を持って母国語としての日本語を尊重し、良くしようとする態度と実践力を養う。

学修内容

1	日本語の特色（1）　教科書（上）1~47 頁 日本は、世界で珍しい一言語一民族の国家であり、国語としての日本語は公用語として使われている。日本語の多様性については、方言のちがい、階層によるちがい、職域によるちがい、官庁や学術用語、男女によるちがい等がある。
2	日本語の特色（2）　教科書（上）48~85 頁 世界の言語族を概観し、日本語の系統を考察する。外国語からの影響として、昔は中国語、今は外来語の氾濫がある。日本語の有力性については、世界第 6 位の使用人口の多さ、学術用語の完備、表現の自由さがある。
3	日本語の方言のちがい　教科書（上）21~25 頁 日本語の言葉の違いが激しくあらわれるのは、地域による方言である。関東と関西の方言、八丈島と沖縄の方言、未開社会の方言等、方言区画や方言の由来を考える。また、標準語の制定の意義、共通語の普及について理解する。
4	日本語の音声の特徴（1）　教科書（上）87~115 頁 日本語の発音の単位は、音声（拍）や音節、音素、母音どめ（開音節）、撥音、促音、長音があり、日本語の美しさを構成する。拍の種類や同音語、しゃれ・懸詞について理解し、拍の結びつき方の法則を学ぶ。
5	日本語の音声の特徴（2）　教科書（上）116~132 頁 日本語は、相対的な高低関係がきまっている高低アクセントの言語であり、同音語の区別に有効である。英語は拍の間の強弱関係がきまっている強弱アクセントの言語である。日本語のアクセントの特色や日本人の音感覚をまとめる。
6	日本語の語彙について（1）　教科書（上）133~161 頁 日本語の語彙の多さやその原因は、複合語を作りやすいことがある。語彙の構成として、和語、漢語、外来語、混種語について理解する。単語の形態の面から、表記や発音の不安定さ、難しい略語、単語の長さ、同音語の多さ等が課題である。
7	日本語の語彙について（2）　教科書（上）161~279 頁 日本語は、自然関係の語彙（気象・季節・地形）が多い。その他、人間関係（人体・動作）、生活関係（生業・衣食住）、社会関係（家・社交）、抽象的意味（空間・色）の語彙、一般の語彙として、擬音語や擬態語の成立を理解する。
8	日本語の文字及び表記法の問題点　教科書（下）1~46 頁 日本語は 5 種類の文字（平仮名・片仮名・漢字・ローマ字・アラビア数字）を使用し、表音文字と表意文字に分けられ、縦書きと横書きがある。漢字は表意性があり、音訓読み、多数性と多画性、字体、振り仮名や送り仮名の問題がある。
9	日本語の文法の特徴（1）　教科書（下）47~96 頁 日本語の文法の単位について、文節、単語を理解する。単語を文法上の性質で分けたものを品詞といい、名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助詞・助動詞がある。名詞の性と部類別、数詞、格を学ぶ。
10	日本語の文法の特徴（2）　教科書（下）97~130 頁 日本語の動詞の意味や形態を理解する。動詞の活用による語形変化（活用形）を考察する。動詞の分類法、動詞のテンス（時制）やアスペクト（相）の問題、ヴォイス（態）の変化による使役や受身の言い方がある。
11	日本語の文法の特徴（3）　教科書（下）131~174 頁 形容詞の語彙や語形変化を理解する。副詞の分類（状態の副詞・程度の副詞・陳述の副詞）、接続詞の役割、助詞や助動詞の種類と用法、否定表現、代名詞として人称代名詞、指示代名詞（コソアド言葉）を学ぶ。
12	日本語の文法の特徴（4）　教科書（下）209~264 頁 日本語のセンテンスの形と長さ、種類と特色について考える。文の成分として、主語と述語の関係、文末表現、語句の並べ方（語順）を学修する。また、日本語の並べ方の自由さ、修飾語や述語の位置、センテンスの結びつけ方を理解する。
13	日本語の敬語の使い方　教科書（下）174~208 頁 待遇表現として、敬語の種類と用法を理解する。敬意を向ける対象を高める尊敬語、話し手や話題の人を低めて、相手の人や聞き手を高める謙譲語、聞き手に敬意を表す丁寧語がある。現代の敬語では、丁重語や美化語を立て 5 分類とする。

14	日本語の国語国字問題　教科書（下）265~294 頁 　日本人の言語表現の特色として、日本語の簡略表現、主語・修飾語・補語の省略がある。また、正書法による表記、漢字や仮名遣い、外来語の多用、女性語や敬語の後退、若者言葉やメール依存のコミュニケーションの問題がある。
15	国語力の向上や日本語の尊重に関する言語施策＜「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」参照＞ 　国語問題への対応としては、まず日本語の体系、用法を理解することである。そして、学習指導要領に示された言語活動の充実による言語力の育成や活用を重視し、国語能力の向上、国語を尊重する態度を育てることが大切である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】身近に見られる日本語の表現や理解に関する疑問点・問題点を見つけ，その類例を集めるとともに，その原因と解決法について見解を述べよ。

＜ポイント＞

１．書写を含む国語（日本語）に関して日頃気にしていることを明確にすること。

２．国語に関することについて、母国語、公用語、書写、正書法、音声、文字、文法、語彙、文体、方言、敬語、言語施策等広い視点から捉え考えること。

３．国語力の向上や日本語の尊重に関して自分なりの実践工夫を大切にすること。

科目終了試験学修のポイント

１．子どもの母国語・国語の習得の諸相について

＜ポイント＞

母国語の獲得と言語環境、日本語の単語の多さ、和語・漢語・外来語・混種語等の特徴を捉える。

２．日本語の音声に関する基礎的知識と特徴について

＜ポイント＞

音節の構造や種類、同音異義語、日本語のアクセントの特徴について理解する。

３．日本語の文法に関する基礎的知識と特徴について

＜ポイント＞

日本語の文の単位や品詞分類、自立語と付属語のはたらき、文の成分や語の順序、言語感覚を磨くことが大切である。

４．書写を含む日本語の文字及び表記法に関する基礎的知識と問題点について

＜ポイント＞

日本語の縦書き・横書き、文字の種類、漢字の音訓読みや画数の多さ、平仮名・片仮名の使い方が課題である。

５．敬語と方言に関する基礎的知識と課題について

＜ポイント＞

待遇表現としての敬語表現の種類と用法、方言区画や標準語と共通語への理解が必要である。

６．日本語における国語国字問題について

＜ポイント＞

日本語の体系・用法の合理化と、国民の言語能力の向上を図る国語教育の充実が重要である。

教科書

金田一春彦『日本語　新版上下』岩波新書。

参考文献

大野晋『日本語の教室』岩波新書。

科目コード	国語科指導法（書写を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
4170		２年	ＳＲ
教員名	石渡宏、駒井隆治、杉山憲江、望月之美		

科目概要

子どもがすこやかに育つために基本的に必要となる、「話すこと、聞くこと」及び「書くこと」「読むこと」「書写」の力を、保育・子どもの発達支援の専門家として指導できるよう、国語科の目標や内容、指導の方法の概要について、具体的な資料を通して学修する。さらに、幼児・児童の年齢相応の言語活動を具体的に探り、効果的な指導法について考察するとともに、子どもの感性を豊かに育むより良い教材について理解を深め、国語指導に関する知識・技能の習得をめざす。

学修内容

1	・小学校学習指導要領新旧対照表をもとに、国語科の目標を比較しながら、国語科の役割について理解する。（科目終了試験学修のポイント1） ・国語教育と国語科教育についての違いを理解し、国語科とはどのような教科かについて、教科書 pp.1-7 を熟読し、その概略を把握する。
2	・「学習指導要領」による指導事項の確認と留意点について、教科書 pp.8-19 を熟読し、A「話すこと・聞くこと」B「書くこと」C「読むこと」に関する指導事項と言語活動例を理解する。（科目終了試験学修のポイント２・３）
3	・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、新学習指導要領に位置づけされた意味と定義について、教科書 pp.106-121 を参考に、学修内容と学習活動について深く理解する。 ・「伝統的な言語文化」の学年ごとの取り扱い方については、実際の教科書教材を確認し、指導の実際を理解する。
4	・A「話すこと・聞くこと」についての指導に関しては、教科書 pp.20-25、pp.100-105 を熟読し、教材研究の視点と、指導の目標設定・評価等について理解する。
5	・B「書くこと」についての指導に関しては、教科書 pp.26-31、pp.92-99 を熟読し、教材研究の視点と、「書くこと」の学習課題・形態・段階・評価等について理解する。
6	・C［読むこと］についての指導に関しては、教科書 pp.32-37、pp.60-71 を熟読し、文学的文章についての教材研究の視点と実際の指導に関しての具体的な指導展開を理解する。 ・実際の教科書教材を参考に、詩や物語等の指導過程を考える。
7	・C「読むこと」についての指導に関しては、教科書 pp.37-39、pp.72-81 を熟読し、説明的文章についての教材研究の視点と実際の指導に関しての具体的な指導展開を理解する。 ・実際の教科書教材を参考に、説明文の指導過程を考える。
8	・「学習指導の計画と評価」について、教科書 pp.40-49 を熟読し、年間の指導計画と 1 単位時間の学習指導計画について理解し、学習指導案の作成をする。 ・評価に関しては、小学校学習指導要領を参考に、「指導と評価の一体化」の重要性について確認する。
9	・「授業と指導法」について、教科書 pp.50-59 を熟読し、「学習環境の整備」「基本的な国語力・学習技能」「基本的な学習指導の知識・技能」について理解し、実際の国語科の授業に対する実践意欲を育てる。
10	・「文学的文章（詩）」についての模擬授業を実施する。 ・教科書 pp.32-34 を参考に、実際の教科書教材『いろいろな詩』の単元の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
11	・「文学的文章（物語）」についての模擬授業をする。 ・実際の教科書教材４年『ごんぎつね』の単元の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
12	・「説明的文章」についての模擬授業をする。 ・実際の教科書教材４年『アップとルーズでつたえる』の単元の学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。
13	・各模擬授業における授業評価をする。その際、授業記録の取り方やそれに基づいた授業分析の実際についての理解を深めるよう努めること。
14	・硬筆書写指導について、小学校国語科書写入門期の指導と幼稚園における文字指導との連携における課題や問題点を考える。（科目終了試験学修のポイント４・５・６） ・小学校教師として、硬筆書写指導の実際の取り組みを実施し、実践意欲を育てる。
15	・毛筆書写指導について、基本点画を中心に指導の実際を学修し、実践意欲を育てる。（教科書 pp.122-129）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児向けと児童向けの絵本をそれぞれ一冊ずつ選び、それらを幼児及び児童に国語指導教材として与えるときの、①ねらい・目標②指導方法・指導計画③教具・学習材等について考えを示すとともに、その決定までに参考にしたことや思索したことを述べよ。

＜ポイント＞

1．発達段階やねらいに合った教材の選択、研究について

2．国語科指導の目標、内容の系統性・発展性・関連性について

3．指導法、指導過程・計画設計の基本的事項について

4．教具、学習材の工夫創造について

科目終了試験学修のポイント

1．幼児児童の発達段階の国語力について

＜ポイント＞

「幼児児童の発達段階における言葉の特徴」「幼児期から児童期にかけての国語力（言葉から文へ）の変遷」等について、具体例を示しまとめること。

2．国語の表現、理解、コミュニケーション及び書写の力について

＜ポイント＞

「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」を比較し、それぞれの領域におけるねらいについてまとめること。

3．書写を含む国語科指導の内容の全体の理解と発達段階に即した系統、発展性の知識理解について

＜ポイント＞

「新学習指導要領、国語編」を参考に、1・2 年、3・4 年、5・6 年の領域における学修内容及び言語活動例についてまとめること。

4．家庭、保育園、幼稚園での国語に関する指導、連携協力について

＜ポイント＞

「乳幼児から幼児にかけての言葉の発達」、また、「それぞれに携わる指導者としての役割」等、家庭、保育園、幼稚園の連携協力についてまとめること。

5．小学校における国語指導と幼稚園との連携について

＜ポイント＞

「文字指導」に関する幼小の連携についての課題と問題点について、学習指導要領と幼稚園教育要領を比較しまとめること。

6．伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について

＜ポイント＞

「伝統的な言語文化」について、実際の教科書教材を参考に、指導内容と学習の系統性についてまとめる。また、「国語の特質に関する事項」については、言葉の特徴やきまり、「文字」「硬筆」「毛筆」の書写をどう指導するかについてまとめること。

教科書

田近洵一、他『小学校国語科授業研究　第4版』教育出版。

参考文献

大村はま『国語教室の実際』共文社。
大村はま『やさしい国語教室シリーズ』共文社。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編』東洋館出版。

科目コード	子育て支援（2単位）	登録年次	履修方法
6730/6731/6732		3年/2年	SR
教員名	岡野雅子、岡林純子、駒井美智子、坂鏡子		

科目概要

保育士の行う子育て支援の特性として、子どもの保育とともに行う保護者の支援、保護者との相互関係や信頼関係の形成、支援のニーズについての気づきと多面的理解、子どもと保護者が多様な他者とかかわる機会や場を提供することなどを理解する。支援の展開として、子どもと保護者の状況・状態の把握、支援の計画と環境の構成、支援の実践・記録、職員間、関係機関との連携・協働を学ぶ。多様な支援ニーズを抱える子どもと家族への支援の実際（内容・方法・技術）を学ぶ。

1．保育者による子育て支援が求められる社会的状況について理解する。
2．子育て支援の意義と原則について理解する。
3．保護者支援の基本を理解する。
4．子育て支援の実際について学び､内容や方法を理解する。
5．保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援の実際について理解する。

学修内容

1	オリエンテーション、子育て支援とは 〈ポイント〉子育て支援とは何かについて理解する。（第1章1）
2	子育て支援の意義 〈ポイント〉いまなぜ子育て支援が必要とされているか、その背景について考える。（第1章2.3）
3	子育て支援の基本① 子どもの最善の利益 〈ポイント〉子育て支援は「子どもの最善の利益」を目指して行う取り組みであることを理解する。（第1章4.第2章2）
4	子育て支援の基本② 保育者の専門性の活用 〈ポイント〉保育の場のもつ特性と保育の専門家である保育者の専門性を生かすことを学ぶ。（第2章1）
5	子育て支援の基本③ 保護者の養育力の向上 〈ポイント〉保護者に対する子育て支援とは、保護者の養育力の向上をめざして行う取り組みであることを理解する。（第2章3）
6	子育て支援の基本④ 保護者との信頼関係の形成―共感・受容― 〈ポイント〉保護者との関係構築のためには保護者に共感し、受容する態度が重要であることを学ぶ。（第2章4）
7	子育て支援の基本⑤ 保護者の自己決定の尊重と秘密保持 〈ポイント〉保護者自身が自分で判断し決定することを尊重するとともに、保護者からの相談のなかで知り得た個人情報等の秘密保持は専門家として必須であることを学ぶ。（第2章5.6）
8	子育て支援の基本⑥ 関係機関との連携・協力 〈ポイント〉保護者が抱えている課題に対して保育所・幼稚園・認定こども園等だけでは対応しきれない場合には、適切な関係機関と連携し協力することが必要であることを理解する。（第2章7）
9	子育て支援の実際① 子育て支援における保育環境の活用 〈ポイント〉環境構成は保育の方法であるが、子育て支援においても環境を通して保護者の子育てを支えていくことを考える。（第3章1.2.3）
10	子育て支援の実際② 相互理解や交流を深める 〈ポイント〉保育者との相互理解や保護者同士の交流を深めるための工夫について考える。（第3章4.5.6）
11	子育て支援の実際③ 安心感や親としての自尊心を支える 〈ポイント〉保護者が安心感をもち心理的ゆとりを生み出すことにより自尊心がもてるように支えるための工夫について考える。（第3章7.8.9）
12	保育者の子育て支援における葛藤① 子育て支援の困難性 〈ポイント〉子育て支援の難しさについて、保護者・子ども・保育者の三者関係および保育システムの4つの視点から整理する。（第4章1）
13	保育者の子育て支援における葛藤② 保護者の特性や子どもの発達上の課題と子育て支援 〈ポイント〉保護者のモラルの低下等や、発達上の課題をもつ子どもの保護者との関わりの難しさについて考える。（第4章2.3）

14	保育者の子育て支援における葛藤③ 保育者の援助の構えや保育システムの特性と子育て支援 〈ポイント〉保育者の援助の構えのあり方や保育システムから生じる子育て支援の難しさについて考える。(第4章4.5.6　第5章)
15	まとめ:「子どもの最善に利益」を保障する 〈ポイント〉全体を振り返り、保育の専門性を生かした子育て支援により「子どもの最善利益」を保障することに向けて考えをまとめる。(第6章)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】現代の子育て状況についての考察を踏まえて、子育て支援の必要性について述べよ。

＜ポイント＞

いま家族のあり方が変化し、就学前の乳幼児の子育ては各家庭内で、主に母親一人が孤独の中で行っている場合が多い。親戚関係や近隣関係が希薄化しているうえに、親自身のきょうだいも少ないことから、幼い子どもと接する機会をほとんど持たないままに親になっている場合も多い。このような現状についての理解のうえに、不安の中で子育てを必死に行っている親を支援することの必要性と重要性について考えてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．子育て支援と「子どもの最善の利益」の保障の関連について

＜ポイント＞

子育て支援は「子どもの最善の利益」をめざして行う取り組みであることを理解する。

2．子育て支援と保育者の専門性について

＜ポイント＞

子育て支援において保育の専門家である保育者の専門性が生かされることを理解する。

3．保護者との関係構築のための「共感」「受容」について

＜ポイント＞

保護者との信頼関係の形成のために、保護者に共感し、保護者を受容することが重要であることを理解する。

4．保護者の秘密保持について

＜ポイント＞

保護者からの相談の中で知り得た個人情報等の秘密保持は専門家としての倫理であることを学ぶ。

5．関係機関との連携・協力について

＜ポイント＞

子育て支援において関係機関と連携し協力することが必要であることを理解する。

6．子育て支援の難しさについて

＜ポイント＞

保護者の特性、子どもの特性、さらに保育者の援助の構えのあり方などにより、子育て支援が困難な場合があることを考える。

教科書

亀崎美沙子、他『保育の専門性を生かした子育て支援』わかば社。

参考文献

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。
岡野雅子他著『新保育学 改訂5版』南山堂。

科目コード	子育て支援論 / 地域子育て支援（２単位）	登録年次	履修方法
6640/6641/2740		6640/2740：３年 6641：２年	R
教員名	稲香代子、小笠原眞紀、駒井美智子、堀聡子、持田京子、山口惠美子		

科目概要

「子どもが健やかに生まれ育ち、地域で子育てを支える社会」を実践していく担い手として、就労と育児の両立支援の推進、相談支援体制の整備・充実と子育て支援情報の提供、子どもが心豊かにたくましく育つための地域における子育て支援について、現状と課題を考察し、今後の地域における子育て支援のあり方と子育て支援の実践方法を学修する。

学修内容

1	現代の子育て家庭 （現代の家族を取り巻く社会状況、少子化、子育ての負担感・育児不安の諸問題）
2	子育て支援・家族援助とは何か。 （子育て支援の多様性、子育て支援が目指すもの）
3	わが国の子育て支援の政策 （1.57 ショック以降のわが国の少子化対策の推移と、対象の拡大）
4	子育て支援事業 （子育て支援事業の概要について）
5	専門機関における子育て支援（1）：保育所 （子育て支援で保育所が果たす役割について）
6	専門機関における子育て支援（2）：幼稚園 （子育て支援で幼稚園が果たす役割について）
7	専門機関における子育て支援（3）：地域子育て支援センター （子育て支援で地域子育て支援センターが果たす役割について）
8	子育て支援における相談援助活動 （子育て支援における相談援助の内容の特徴と支援のあり方について）
9	多様な子育て支援の場 （児童館、保健センター、プレーパークなど）
10	多様な子育て支援の人 （保育ママ・ベビーシッター、民生委員・児童委員、主任児童委員、臨床心理士など）
11	多様な子育て支援の活動 （子育てサークル・子育てネットワーク、ファミリー・サポートセンター、自主保育など）
12	地域の子育てひろばの実践について （子育てひろばの形態と、地域子育て支援機能）
13	子育て支援の場における人と環境の整備 （親子が過ごす場づくりに必要な要素とは）
14	子育て支援のプログラム （子育て支援のプログラムの位置づけの理解と、子育て支援プログラムの開発、情報発信など）
15	子育て支援者の専門性と養成 （子育て支援者に求められるもの）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子育て支援者に求められるコンピテンシーについて述べよ。

＜ポイント＞

子育て支援の場、子育て支援のあり方が多様化するなか、子育て支援者はどのような知識・技術・態度を身につける必要があるかを具体的に記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．子育て支援が目指すものについて

＜ポイント＞

現在の子育てをめぐる社会環境を踏まえながら、子育て支援に必要な視点についてまとめること。

2．日本の子育て支援政策の展開について

＜ポイント＞

1990年代以降の日本の子育て支援政策の展開について、社会状況の変化を踏まえながらまとめること。

3．子ども・子育て支援新制度について

＜ポイント＞

子ども・子育て支援新制度の目的を理解し、新制度の主なポイントを整理すること。

4．子育て支援の場における人と環境について

＜ポイント＞

子育て支援の場では、その場を支える人的環境と物的環境が重要になることを理解し、具体的にどのような工夫が考えられるかをまとめること。

5．保育所・幼稚園・認定こども園における在宅子育て家庭支援について

＜ポイント＞

保育所・幼稚園・認定こども園が在宅子育て家庭支援を担う必要性を述べたうえで、それぞれの施設が担う在宅子育て家庭支援についてまとめること。

6．父親の子育て支援について

＜ポイント＞

父親の子育てへの参画が進んでいない日本の現状とその社会的背景を踏まえたうえで、現在行われている父親の子育て支援の取り組みについてまとめること。

教科書

橋本真紀・ 山縣文治編『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。

参考文献

汐見稔幸『子育て支援の潮流と課題』ぎょうせい。
無藤隆、他『子育て支援の心理学―家庭・園・地域で育てる』有斐閣。
白井千晶、他『子育て支援 制度と現場―よりよい支援への社会学的考察』新泉社。
子育て支援者コンピテンシー研究会『育つ・つながる子育て支援』チャイルド本社。
北野幸子、他『子育て支援のすすめ 施設・家庭・地域をむすぶ』ミネルヴァ書房。
伊志峰美津子、他『２１世紀の子育て支援・家庭支援』フレーベル館。

科目コード	こども家庭支援論（2 単位）	登録年次	履修方法
6751/6753		2年	R
教員名	青木正、西村彩恵、坂鏡子		

科目概要

子育て家庭に対する支援の意義と役割について理解し、保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について、子どもの育ちの喜びを保護者と共有することや保護者自身の子育て実践力の向上に資する支援の重要性、保育士に求められる倫理観や受容的・共感的関わりのあり方などについて習得する。さらに、社会資源の活用や関係諸機関との連携、子育て家庭のニーズに応じた様々な支援の展開、近年の子育て支援の体制や施策についても理解を深める。

これらの学習を通じて、保育の現場で働く者が「家庭」を理解し、子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行っていける力を養う。

学修内容

1	第 1 講　子ども家庭支援の意義と必要性（pp.1-12） 〈ポイント〉家庭による子育てを支援する制度や民間活動の概要について学び、それらを提供する意味や効果を理解する。
2	第 2 講　子ども家庭支援の目的と機能（pp.13-24） 〈ポイント〉児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。さらに、子どもと家庭を理解してかかわることの必要性を学び、保育士等が備えておくべき子ども家庭支援の専門性について理解を深める。
3	第 3 講　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進（pp.25-36） 〈ポイント〉子ども家庭福祉の施策体系やその計画的推進、子ども・子育て支援新制度創設に至る経緯と新制度の枠組み、実施体制を理解する。
4	第 4 講　子育て家庭の福祉を図るための社会資源（pp.37-48） 〈ポイント〉子育て家庭の福祉を図るために、どのような社会資源を活用して支援を行うのかを理解する。
5	第 5 講　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義（pp.49-60） 〈ポイント〉まず保育の専門性と相談援助の関連性について学ぶ。次に、保育所保育指針から子育て支援の意義を知り、学びを深める。最後に、幼保連携型認定こども園教育・保育要領から、求められている専門性を活かした子育て支援のあり方を学ぶ。
6	第 6 講　子どもの育ちの喜びの共有（pp.61-72） 〈ポイント〉まず、子どもの育ちの喜びを共有することは保護者にとってどのような意味をもつのか、保育所保育指針や幼稚園教育要領の内容を紐解きながら考える。次に、育ちの喜びを共有することに対する保育所の園長の想いから、保護者にとっての意味を改めて考えていく。
7	第 7 講　保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援（pp.73-84） 〈ポイント〉保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援を行うために、地域の子育て家庭を取り巻く環境を把握したうえで、保育士に求められる視点を整理し、理解を深める。
8	第 8 講　保育士に求められる基本的態度（pp.85-96） 〈ポイント〉保護者との信頼関係を築き、支援を行うために保育士に求められる基本的態度について学ぶ。
9	第 9 講　家庭の状況に応じた支援（pp.97-108） 〈ポイント〉まず、保育者が子どもの家庭の状況に応じた支援を行うために、保育者がかかわることが多いと思われる子どもと家族の状況について学ぶ。次に、保育者の価値観や一般的な概念にとらわれず支援を行うために意識すべき点を学ぶ。最後に、継続的に支援を必要とする家族にかかわる際、保育者に求められる役割と見落としやすい家族の状況について理解する。
10	第 10 講　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力（pp.109-120） 〈ポイント〉地域の多様な資源の活用と自治体・関連機関との連携・協力に関する基本事項と実際のあり方、さらなる展開について具体的に学ぶ。
11	第 11 講　子ども家庭支援の内容と対象（pp.121-132） 〈ポイント〉子ども家庭支援の具体的な対象、内容とアプローチの方法、そして支援の形態について理解を深める。
12	第 12 講　保育所等を利用する子どもの家庭への支援（pp.133-144） 〈ポイント〉保育にたずさわる専門職に求められる子どもの家庭への支援について、昨今その必要性が強調されている保育ソーシャルワークの視点から学ぶ。

13	第 13 講　地域の子育て家庭への支援（pp.145-156） 〈ポイント〉保育者等は地域の子育て家庭への支援を行う施設として、他の関係機関と連携しながら専門性をもって取り組むことを理解する。
14	第 14 講　要保護児童およびその家庭に対する支援（pp.157-168） 〈ポイント〉要保護児童の現状を理解し、児童・家庭への支援のあり方について学ぶ。
15	第 15 講　子育て支援に関する課題と展望（pp.169-180） 〈ポイント〉まず、子育て支援の「顕在的ニーズ」と「潜在的ニーズ」について学ぶ。次に、子育て支援における関連施設・機関との連携について学ぶ。最後に、欧米から導入された子育て支援プログラムに関する知識や技術について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】子ども家庭支援の背景と意義及び支援の内容について述べよ。

＜ポイント＞

子ども家庭支援がなぜ必要になってきたのか、①その社会的背景について説明する。また、②その意義と構造③具体的な支援内容について説明を行う。

科目終了試験学修のポイント

１．子ども・子育て関連３法について

＜ポイント＞

子ども・子育て関連３法についてまとめる。

２．子育て家庭の福祉を図るための社会資源について

＜ポイント＞

まず、社会資源とは何かについて述べる。次に、子育て家庭を支える専門機関にはどのようなものがあり、どのような職員がどのような働きをするのかについてまとめる。

３.保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について

＜ポイント＞

まず、保育の専門性と相談援助の関連性について、次に保育所保育指針から子育て支援の意義について述べる。

４．子どもの育ちの喜びの共有について

＜ポイント＞

子どもの育ちの喜びを共有することは保護者にとってどのような意味をもつのかについて述べる。

５．子ども家庭支援の対象と内容について

＜ポイント＞

子ども家庭支援の対象・アプローチ・内容についてまとめる。

６．要保護児童およびその家庭に対する支援について

＜ポイント＞

まず、要保護児童の現状について、次に要保護児童・家庭への支援のあり方について述べる。

教科書

松原康雄、他『子ども家庭支援論　新・基本保育シリーズ⑤』中央法規。

参考文献

伊藤嘉余子・野口啓示『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 10　家庭支援論』ミネルヴァ書房。
伊藤篤『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉 12　子育て支援』ミネルヴァ書房。

科目コード	こども家庭支援の心理学（2 単位）	登録年次	履修方法
6741		2年	R
教員名	橋本景子		

科目概要

こども家庭支援の心理学では、まず、乳幼児期から老年期までの人の生涯発達のプロセスや、各時期の課題について学ぶ。さらに、家族・家庭の意義や機能を学び、親子関係や家族関係等について、子どもとその家族を、発達的な視点や、包括的に捉える視点を習得する。また、現代の子育て家庭に関する社会的状況や、家庭の多様性、特別な配慮を必要とする家庭などについて学び、子どもがうける生育環境からの影響、子どもの心や健康に関わる問題について学ぶ。

①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。

②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

③子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

④子どもの精神保健とその課題について理解する。

学修内容

1	家庭支援へのアプローチ 〈ポイント〉新聞やニュースなどで、子育てや子どもを持つ家族をめぐる諸問題にはどのようなものがあるか、調べてみる。
2	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴 〈ポイント〉教科書 pp.1-11 を通読し、乳幼児期から学童期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。
3	思春期から青年期の発達の特徴 〈ポイント〉教科書 pp.12-23 を通読し、思春期から青年期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。特に発達の段階に応じた人間関係のありようを把握すること、アイデンティティの概念を理解することは重要である。
4	成人期から高齢期の発達の特徴 〈ポイント〉教科書 pp.25-35 を通読し、成人期から高齢期にかけて、それぞれの時期の発達の特徴や発達課題を理解する。特に社会的・職業的自立（キャリア）の視点からこれらの時期を考えること、またサクセイフルエイジングなどについて考察することが重要である。
5	家族システムと家族発達 〈ポイント〉教科書 pp.37-48 を通読し、理解する。また、家族をシステムとしてとらえるとは、どのようなことか理解し、時と共に変化していく家族のありようを把握する。
6	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達 〈ポイント〉教科書 pp.49-59 を通読し、理解する。親の養育スタイルがどのような要因に影響されながら形成されていくか、また、子どもの愛着にどのように影響するのか把握する。
7	子育て環境の社会状況的変化 〈ポイント〉教科書 pp.62-70 を通読し、理解する。戦後の子育て家族の変遷について知り、子どもの育ちの場としての家庭・地域社会の在り方を考える。
8	ライフコースとワーク・ライフ・バランス 〈ポイント〉教科書 pp.72-81 を通読し、理解する。子育て期における夫婦のワーク・ライフ・バランスについて把握すると共に、なぜワーク・ライフ・バランスが重要であるのか考える。
9	多様な子育て家庭への支援 〈ポイント〉教科書 pp.83-93 を通読し、理解する。育児不安、共働き家庭、孤立している家庭の事例から、このような家庭への支援の在り方を考察する。
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援１ 〈ポイント〉教科書 pp.94-98 を通読し、理解する。特に、より重篤な家庭の事例として、貧困、虐待について取り上げ、このような問題・課題を持つ家庭への支援の在り方を考察する。
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援２ 〈ポイント〉教科書 pp.98-102 を通読し、理解する。前章に引き続き重篤な家庭の事例として、保護者の精神疾患や疾病、外国にルーツを持つ家庭について取り上げ、このような問題・課題を持つ家庭への支援の在り方を考察する。
12	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康 〈ポイント〉教科書 pp.103-113 を通読し、理解する。基本的生活習慣の獲得過程、および、乳幼児期の事故防止と安全確保について把握する。

13	子どもの心と健康 〈ポイント〉教科書 pp.114-125 を通読し、理解する。子どもの心の健康の基礎知識を把握し、さらに幼児期・学童期にみられる主な精神障害について事例をもとに理解し、対応を考察する。
14	障害のある子どもの理解と対応 〈ポイント〉教科書 pp.126-135 を通読し、理解する。知的障害、自閉症スペクトラム、注意欠如・多動性障害、学習障害について、基本的な知識を把握し、保育場面での対応を考察する。
15	災害と子ども 〈ポイント〉教科書 pp.136-146 を通読し、理解する。東日本大震災からの調査などから、大きな災害と子どもの精神的健康、保護者をめぐる問題、保育者ができることなどを把握する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書き	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】育児不安、共働き家庭、孤立している家庭、貧困家庭、虐待、保護者の精神障害・疾病、外国にルーツを持つ家庭などの、「特別な配慮を必要とする家庭」の状況を1つ選び、保育園でそういった家庭を支援していく場合の具体的な方法について述べよ。

＜ポイント＞

「特別な配慮を必要とする家庭」がうまれる個人や社会の要因や、考えられる子どもへの影響、および、保育園でこういった家庭を支援していく場合の具体的な方法について、論じていく。

科目終了試験学修のポイント

1．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識について

＜ポイント＞

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題についてまとめる。

2．家族・家庭の意義や機能の理解について

＜ポイント＞

家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的に理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。

3．子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について

＜ポイント＞

子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題をまとめ、支援の方法を考える。

4．子どもの精神保健について

＜ポイント＞

子どもの心の健康の基礎知識、、および幼児期・児童期に陥りやすい精神疾患についてまとめる。

教科書

本郷一夫 、神谷哲司『シードブック　子ども家庭支援の心理学』建帛社。

参考文献

石川洋子『子育て支援カウンセリング―幼稚園・保育所で行う保護者の心のサポート』図書文化社 。
岡本祐子、深瀬裕子『シリーズ生涯発達心理学①　エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房。
滝川一廣『子どものための精神医学』医学書院。
井村圭壮、今井慶宗『保育実践と家庭支援論』勁草書房。
白幡久美子『改訂 保育士をめざす人の家庭支援 (保育士をめざす人の福祉シリーズ)』みらい。
松本園子、永田陽子、福川須美、堀口美智子『実践 家庭支援論　第3版』ななみ書房。

科目コード	こども家庭福祉／児童家庭福祉（２単位）	登録年次	履修方法
1800/1801 6760/6761		1800/6760：１年 1801/6761：２年	R
教員名	上木文夫、田中良幸、船澤修一		

科目概要

少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童・家庭福祉は、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりと家庭に対する支援を一層重視した施策の展開が求められている。

このような児童・家庭福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、児童福祉及び子ども家庭福祉の意義及び歴史的展開、法律、制度、福祉機関・施設の体系、母子保健、保育、児童虐待対策など子ども家庭にかかわる福祉・保健施策と子ども家庭への援助活動について学修する。

学修内容

1	第１章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、少子高齢化社会と次世代育成支援の視点から学びます。さらに、子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状について学修する。
2	第１章「現代社会と子ども家庭」：現代社会の子どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズについて取り上げ、それに対する支援の基本的視点について理解を深める。
3	第２章「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障につて学びます。まず、「子ども」という存在の意味、「子ども」観などを通して、「子ども」の意義を理解する。
4	第２章「子ども家庭福祉とは」：次に、子ども家庭福祉の定義を学び、児童福祉を実践する上での原理、理念を学修する。さらに、今日に至るまでの児童福祉の歴史について理解を深める。
5	第３章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：児童福祉法をはじめとする児童福祉六法や「児童虐待の防止等に関する法律」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要を学ぶ。
6	第３章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：子ども家庭福祉行政の実施主体と主な実施機関、児童福祉施設など、子ども家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源などを学ぶ。また、専門職、苦情処理について学修する。
7	第４章　「子ども家庭にかかわる福祉・保障」：（母子保健）母子保健の目的、歩み、母子保健法、母子保健施策の現状、今後の課題等について学修する。
8	(障害・難病のある子どもと家庭への支援)：障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもの支援に関する制度について学修する。
9	(児童健全育成)：時代の流れを追いながら児童健全育成施策の目的と内容を学び、児童健全育施策の現状や今後の課題について学修する。
10	(保育)：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など保育制度の概要について学修する。また、変化の激しい保育施策の現状について学ぶ。さらに、待機児童問題など今後の課題について理解を深める。
11	(子育て支援)：児童育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、子育て支援施策の動向について学修する。
12	(ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス)：母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要や近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。
13	(非行児童・情緒障害児への支援)：非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題などについて学修する。
14	(児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉)：児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待対策の課題、女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティック・バイオレンスの対応などについて学ぶ。
15	第５章「子どもと家庭への援助活動」：子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべきソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 少子化社会における児童・家庭福祉のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

①わが国の少子化社会の現状とそれが及ぼす社会経済への影響について説明をする。また、②子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障及び、③子ども家庭福祉に関わる法制度と実施体制について説明をする。

科目終了試験学修のポイント

1．現代社会と子ども家庭について

＜ポイント＞

① 少子高齢化社会において、子どもの育ちや子育てに大きな変化があり、それを受けて次世代育成支援の施策が展開されていることを理解してほしい。

② 子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状、子どもの育ち、子育てのニーズへの理解が重要である。

2．子ども家庭福祉とは何か

＜ポイント＞

① 子どもの特性と発達のニーズ、子ども家庭福祉の定義について理解を深めること。

② 子もの権利、児童の権利に関する条約児童福祉の発展（歴史）に対する理解と整理が重要である。

3．子ども家庭福祉に関わる法制度について

＜ポイント＞

① 児童福祉法及び関係する法律に対する理解が重要である。

② 国・県・市町村といった行政機関と児童相談所など関連機関の役割と機能について理解を深めること。

4．子ども・子育て支援法について

＜ポイント＞

① 子ども・子育て支援法に対する理解とその施策について整理する。

② 保育制度の概要を理解した上で、現状の施策について理解を深める。子育て支援施策の動向がポイントとなる。

5．児童虐待対策について

＜ポイント＞

① 児童虐待の定義、児童虐待の実態、今後の対策の課題について整理し、理解を確かなものにすること。

6．子ども家庭への援助活動について

＜ポイント＞

① 相談援助活動の基本的視点が重要となる。援助方法を整理すること。

② 施設ケアとネットワークについて理解を深めること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会

『社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。

参考文献

厚生労働省『厚生労働白書』。

柏女霊峰『現代児童福祉論』誠心書房。

科目コード	こどもと音楽（２単位）	登録年次	履修方法
6830		１年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、杉原由利子、高木麻衣子、花井淑、原久美子、松本岳志		
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項 ・表現		

科目概要・到達目標

本授業では、領域「表現」のなかの「音楽」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な音遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。具体的には以下の事項について学ぶ。
①乳幼児の音や音楽による表現の姿や、その発達を理解する。
②音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

到達目標は以下のとおりである。
１）乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。
２）音楽を生成する過程について理解している。
３）乳幼児の素朴な音遊びを通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。
４）様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることできる。
５）身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。
６）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。
７）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。
８）様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	領域「表現」のねらい及び内容	オリエンテーション（授業概要） 保育における「表現」とは何か 保育内容「表現」のねらいと内容	印刷授業及び面接授業１時間
2	乳幼児の表現の発達①表現の芽生え	子どもの発達と表現の捉え方について学ぶ。	印刷授業及び面接授業１時間
3	乳幼児の表現の発達②幼児の素朴な表現	リズミカルな身体を創る。（リズム遊び・リトミックの理解）	印刷授業及び面接授業２時間
4	乳幼児の表現の発達③小学校低学年「音楽」への学びの連続性		印刷授業
5	環境との対話①自然環境のなかの音に対する気づき	自然の中の、風の音、川の流れの音、鳥のさえずりなどに気づく。	印刷授業及び面接授業１時間
6	環境との対話②自らの感性を開くことによる豊かな感受性の醸成	自分に向き合って五感を研ぎ澄まして、自分の周りの音を捉える。	印刷授業及び面接授業１時間
7	音楽遊び①身の回りの素材による音遊び	自分の周りの素材を使って、様々な音を創り出して楽しむ。	印刷授業及び面接授業２時間
8	音楽遊び②自らの声や楽器による音楽遊び		印刷授業
9	音楽による豊かな表現①表情豊かな歌唱表現	子どもの歌の特徴を理解する。	印刷授業及び面接授業１時間
10	音楽による豊かな表現②合唱や合奏による協同性を伴う表現の楽しさ	一人で歌う場合と皆で一緒に歌う場合のそれぞれの楽しさを味わう。	印刷授業及び面接授業１時間

11	音楽遊びの「学び」の視点①簡易な楽器によるリズム遊びを考える	遊びと一体となったリズム遊びや歌（わらべ歌や手遊び歌など）を理解し、楽しむ。	印刷授業及び 面接授業2時間
12	音楽遊びの「学び」の視点②わらべ歌や手遊び歌を考える		印刷授業
13	イメージを音に表現する①自らの心情を声や楽器により表現する	自分で詩を作り、それを歌ったり楽器で表現して楽しむ。	印刷授業及び 面接授業1時間
14	イメージを音に表現する②言葉のイントネーションやリズムを生かして簡易な曲を創作する	詩を朗読し、歌い、感じる。	印刷授業及び 面接授業1時間
15	ICT を活用した音楽表現活動とまとめ	録音･録画機器を活用した活動について話し合う。 学んだことの全体を整理し、まとめる。	印刷授業及び 面接授業1時間
			面接授業 合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	スクーリング修了試験　　総合の５０％ 授業中の態度、積極性　　総合の５０％ 総合点　　１００点 ※ディスカッション形式で行う授業については積極的な参加態度を求めます。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞A（100 点～90 点）B＋（89 点～80 点）B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児の音楽的表現活動の具体例を挙げ、乳幼児の音楽的表現の発達について保育者はどのような視点を大切にすべきかについて述べなさい。

＜ポイント＞
領域「表現」における音楽表現の扱い・役割について理解する。

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容「表現」を捉える視点について
＜ポイント＞
保育内容「表現」の音楽的側面（音楽表現）について考察し、まとめる。

2．乳幼児の「生活」と「遊びの中の音楽」の関係について
＜ポイント＞
日常の遊びの中で、音楽に関連する遊びを挙げ、その遊びが生活とどのように関わっているのかを理解する。

3．音楽鑑賞会（参加型を含む）について
＜ポイント＞
母子ふれあいコンサート、親子リトミック教室、アウトリーチ活動などの身近な例を挙げ、それはどのような意義があるかについて理解する。

4．音楽表現による協同性や道徳性の芽生えについて
＜ポイント＞
幼児が合唱や合奏を経験することで、協同性や道徳性がどのように芽生えるのか、またその指導法について考える。

5．情報化社会と保育内容の音楽的側面の展開と工夫について
＜ポイント＞
インターネット、You Tube などで子どもが音楽動画を視聴することについての長所・短所と、それに関連する保育者の工夫について考える。

6．保育の中で子どもの発達を音楽の側面から捉える際に留意することについて
＜ポイント＞
子どもの発達について音楽的側面から理解し、保育者にとっての留意点をまとめる。

教科書

秋田喜代美･三宅茂夫監修 『子どもの姿からはじめる領域・表現』 株式会社みらい。
文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年告示）

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』（平成 29 年告示）
内閣府･文部科学省･厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育･保育要領』（平成 29 年告示）

科目コード	こどもと環境（2 単位）	登録年次	履修方法
6870		1 年	R
教員名	荒木由紀子、加藤博子、河合光利、新川朋子 仁藤喜久子、堀建治、持田京子、山崎摂史		
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項 ・環境		

科目概要・到達目標

本授業では、領域「環境」の指導に関連する、乳幼児を取り巻く環境や、乳幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。具体的には、
①乳幼児の取り巻く環境と、乳幼児の発達にとっての意義
②乳幼児期の思考・科学的概念の発達
③乳幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達
これらの事項について理解する。
到達目標は以下のとおりである。
1）乳幼児を取り巻く環境の現代的課題を理解した上で、乳幼児を取り巻く保育環境の諸側面と幼児の発達におけるそれらの重要性、及び乳幼児と環境との関わり方について、専門的概念（能動性、好奇心、探求心、有能感等）を用いて説明できる。
2）乳幼児の身近な環境とのかかわりにおける認知的発達の特徴と筋道を理解した上で、乳幼児の自然環境・社会環境に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。
3）上記専門的事項を踏まえた保育実践を展開できる。

学修内容

1	保育における「環境」の諸類型
2	子どもの発達と環境：能動性・好奇心・探求心・有能感
3	環境構成における「環境」①：人的環境としての保育者との関わり
4	環境構成における「環境」②：人的環境としての友だち・異年齢集団
5	環境構成における「環境」③：物的環境としての保育の場
6	環境構成における「環境」④：物的環境としての素材・道具
7	子どもを取り巻く環境の諸側面とその現代的課題
8	子どもの発達と自然環境①：物理的事象・数量・図形等
9	子どもの発達と自然環境②：生物・自然等
10	子どもの発達と社会環境①：標識・文字等
11	子どもの発達と社会環境②：情報・施設・地域資源等
12	子どもの発達と ESD
13	保幼小接続①：身近な環境を通した保育と小学校生活
14	保幼小接続②：領域「環境」と生活科
15	これまでの振り返りとまとめ

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】環境構成における「環境」、および保育内容の領域における「環境」それぞれについて、「環境」が意味するところと意義を述べよ。ただし引用文は最小限度に留めること。

＜ポイント＞
単に「まわりのすべてが環境になり得る」というなんとでも解釈のできる説明をするのではなく、「環境」をいくつかの型に分類し（類型化）、外界がいかにしにて「環境」となるのかを述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．環境を構成するとはいかなる実践であるのかについて
＜ポイント＞
子どもを主体と認識することが環境構成の第一歩である。

２．保育者と「人的環境」との違いについて
＜ポイント＞
「環境」概念を理解した上でまとめる。

３．領域「環境」における社会環境の意義について
＜ポイント＞
「身近な環境」、「身近な事象」、「生活」という鍵概念を用いて理解する。

４．領域「環境」における自然環境の意義について
＜ポイント＞
「身近な環境」、「身近な事象」、「生活」という鍵概念を用いて理解する。

５．領域「環境」における数、量、文字の扱いについて
＜ポイント＞
「身近な環境」、「身近な事象」、「生活」という鍵概念を用いて理解する。

６．保幼小接続（カリキュラムでの接続）と領域「環境」の関係について
＜ポイント＞
単なる保幼小連携ではなく、小学校学習指導要領に基づいたカリキュラムでの接続について理解する。

教科書

秋田喜代美ほか編 『新時代の保育双書　保育内容 環境』 株式会社みらい。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月）

参考文献

高山静子『改訂　環境構成の理論と実践　保育の専門性に基づいて』郁洋舎。
厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成 30 年 3 月）
『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育･保育要領』（平成 29 年告示） チャイルド社。
文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示）

科目コード	こどもと健康（２単位）	登録年次	履修方法
6840		１年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、加藤博子、菅家沙由梨、清水信好、西田希 仁藤喜久子、堀建治、前鼻啓史、山内健次		
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	領域に関する専門的事項 ・健康		

科目概要・到達目標

本授業では、領域「健康」の指導に関する、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。具体的には、

①乳幼児期の健康課題と健康の発達的意味
②乳幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成
③安全な生活と怪我や病気の予防
④乳幼児期の運動発達の特徴と意義
これらの事項について理解する。

到達目標は、以下のとおりである。

1）乳幼児の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。
2）健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
3）乳幼児の体の発達的特徴を説明できる。
4）乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
5）乳幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。
6）乳幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
7）危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。
8）乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。
9）乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。
10）日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	オリエンテーション 「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を読んで、科目内容を確認する。	オリエンテーション 健康の定義と乳幼児期の健康の意義	印刷授業及び 面接授業１時間
2	「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」領域「健康」のねらいと内容を整理する。	幼稚園教育要領、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領 領域「健康」のねらいと内容	印刷授業及び 面接授業１時間
3	乳幼児の身体計測の仕方と標準的な身体発育(身長・体重・頭囲等の経過)について調べて整理する。	子どもの身体的特徴と身体の発育に影響を与える要因	印刷授業及び 面接授業１時間
4	乳幼児の具体的な生活習慣(睡眠・食事・排泄・着脱衣・清潔など)を調べて整理する。	乳幼児の健康(1) 乳幼児の基本的生活習慣と健康 家庭生活と保育環境(食育を含む)	印刷授業及び 面接授業１時間
5	乳幼児の発育発達について調べ、今日的にはどのような課題があるのかまとめる。	乳幼児の健康(2) 子どもの発達過程とその特徴 健康な心と身体を育てるために望ましい環境とは	印刷授業及び 面接授業１時間
6	年齢階級別死因(0 歳・1～4 歳・5～9 歳)を調べて整理し、事故の実態と原因および保育現場における安全管理・安全教育について考える。	乳幼児の安全教育と安全管理 事故の実態と原因 保育現場における安全管理	印刷授業及び 面接授業１時間
7	感染症の予防について、感染経路とその対策について調べて整理する。	乳幼児の怪我の特徴と病気の予防	印刷授業及び 面接授業１時間
8	乳幼児期の成長にとって大切だと思う自然体験について調べて整理する。	乳幼児の心と体の発達 自然体験を通して得られる成長	印刷授業及び 面接授業１時間

9	3 歳未満児の運動遊びを調べて整理する。	乳幼児の運動機能の発達(1) 月齢と年齢の運動遊び(3 歳未満児)	印刷授業及び 面接授業 1 時間
10	3 歳児以上の運動遊びを調べて整理する。	乳幼児の運動機能の発達(2) 月齢と年齢の運動遊び(3 歳児以上)	印刷授業及び 面接授業 1 時間
11	乳幼児の健康課題(乳幼児対象)	乳幼児の健康課題(1-1) グループワーク(乳幼児対象)	印刷授業及び 面接授業 1 時間
12	乳幼児の健康課題(保護者及び地域社会対象)	乳幼児の健康課題(1-2) グループごとに全体へ発表し、その後ディスカッションをして理解を深める。	印刷授業及び 面接授業 1 時間
13	第 2 回から第 4 回までを各自でまとめ、ノート整理をする。	乳幼児の健康課題(2-1) グループワーク(保護者及び地域社会対象)	印刷授業及び 面接授業 1 時間
14	第 5 回から第 8 回までを各自でまとめ、ノート整理をする。	乳幼児の健康課題(2-2) グループごとに全体へ発表し、その後ディスカッションをして理解を深める。	印刷授業及び 面接授業 1 時間
15	第 9 回から第 12 回までを各自でまとめ、ノート整理をする。	本教科の振り返り(まとめ) 全体を通して取り扱った内容をまとめる。	印刷授業及び 面接授業 1 時間
			面接授業 合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	スクーリング修了試験　　総合の５０％ 授業中の態度、積極性　　総合の５０％ 総合点　　１００点 ※ディスカッション形式で行う授業については積極的な参加態度を求めます。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞A（100 点～90 点）B＋（89 点～80 点）B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】「こどもと健康」のねらいと内容、そして課題と重要性について述べよ。

＜ポイント＞
・健康（WHO 健康の定義）
・近年の社会環境と子どもをとりまく環境
・安全な生活と病気怪我
・乳幼児期の発育発達と運動遊びの重要性

科目終了試験学修のポイント

１．乳幼児期の健康のねらいと内容
＜ポイント＞
・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を確認する。

２．乳幼児期の発育発達
＜ポイント＞
・スキャモンの発育曲線と子どもの体力低下と問題点を学習する。

３．乳幼児期の基本的な生活習慣の形成とその意義
＜ポイント＞
・近年の社会環境、乳幼児期をとりまく環境(社会・家庭)を学習する。

４．乳幼児期の安全管理と健康教育
＜ポイント＞
・乳幼児の怪我、感染症、保育現場の安全管理を学習する。

５．乳幼児期の運動発達
＜ポイント＞
・乳幼児期の運動遊びと自然体験の重要性を学習する。

６．安全管理や緊急時の対応について
＜ポイント＞
・指導案作成時の注意点、健康チェック、予想される怪我、応急処置、緊急時の手順を学習する。

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月）
厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 30 年 3 月）
内閣府/文部科学省/厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成 30 年 3 月）

参考文献

文部科学省「幼児期運動指針」
井上勝子編著『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』 建帛社。
日本幼児体育学会編『幼児体育～専門～』 大学教育出版。
河田隆編著『幼児体育教本』 同文書院。
文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年告示）

科目コード	こどもと言葉（2 単位）	登録年次	履修方法
6880		1 年	R
教員名	浅野菜津子、岡野雅子、加藤博子、河合光利 駒井美智子、坂本真理子、戸田大樹		
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項 ・言葉		

科目概要・到達目標

本授業では、領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身につける。具体的には以下の事項について学ぶ。

①人間にとっての言葉の意義や機能を理解する。

②言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解する。

③子どもにとっての児童文化財の意義を理解する。

到達目標は、以下の通りである。

1）人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。

2）乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。

3）言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。

4）言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身につける。

5）言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。

6）児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身につける。

7）子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。

学修内容

1	領域「言葉」のねらい及び内容
2	人間にとっての言葉の意義と機能
3	言葉の 4 つの側面（聞く・話す・読む・書く）
4	乳幼児期の言葉の発達①誕生から始語まで
5	乳幼児期の言葉の発達②一語文から二語文へ
6	乳幼児期の言葉の発達③語彙の増加
7	乳幼児期の言葉の発達④複文･重文による多様な意思表現
8	言葉遊び①言葉の美しさ、楽しさへの気づき
9	言葉遊び②言葉の感覚を豊かにする実践
10	言葉遊び③様々な言葉遊びの保育への取り入れ方
11	児童文化財①乳幼児にとっての意義
12	児童文化財②種類や歴史、保育への取り入れ方
13	児童文化財③絵本についての理解と実践
14	児童文化財④紙芝居についての理解と実践
15	ICT の活用について

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 6 ～ 8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】子どもの誕生から小学校就学までの言葉の発達過程について、各段階の特徴を説明しなさい。

＜ポイント＞
0 歳期の「言葉の前のことば」の意義から取り上げて、その後の、始語（初語）、一語文、二語文、などの発達過程におけるキーワードを踏まえて述べること。また、言葉の発達には個人差が大きいことにも触れること。

科目終了試験学修のポイント

1．言葉のもつ機能について
＜ポイント＞
言葉は、思考や意思疎通などの人間の独自性を示すものであり、重要な機能をもっていることを理解する。

2．子どもが有意味語を言い始める前の「言葉の前のことば」について
＜ポイント＞
「言葉」は、「フリ」や「指さし」などと同じ象徴機能をもっていることを理解する。

3．言葉のもつ 4 つの側面について
＜ポイント＞
乳幼児期の言語活動は「聞く」「話す」（音声言語）が中心であり、話始める前には十分に聞く体験が重要であることを理解する。

4．言葉遊びについて
＜ポイント＞
言葉の楽しさや美しさなど言葉に対する感覚を豊かにする「言葉遊び」の実践について具体的に学ぶ。

5．児童文化財の意義について
＜ポイント＞
児童文化財は、言葉を育て想像する楽しさを広げる重要な教材であることを理解する。

6．児童文化財の中で、身近にある絵本、紙芝居、物語の読み聞かせについて
＜ポイント＞
絵本、紙芝居、物語の読み聞かせの際の留意点について整理し、理解する。

教科書

秋田喜代美･三宅茂夫監修 『子どもの姿からはじめる領域・言葉』 株式会社みらい。
文部科学省 『幼稚園教育要領』（平成 29 年告示）

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』（平成 29 年告示）
内閣府･文部科学省･厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育･保育要領』（平成 29 年告示）

科目コード	こどもと造形（２単位）	登録年次	履修方法
6850		１年	ＳＲ
教員名	井戸川敦、井上昌樹、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		
科　目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項 ・表現		

科目概要・到達目標

本授業では、領域「表現」のなかの「造形」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。具体的には以下の事項について学ぶ。

① 乳幼児の造形による表現の姿や、その発達を理解する。

② 造形による様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、乳幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。

到達目標は、以下のとおりである。

１）乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。

２）造形を生成する過程について理解している。

３）乳幼児の素朴な造形を通しての表現を見出し、受け止め、共感することができる。

４）様々な表現を感じる・みる・楽しむことを通してイメージを豊かにすることできる。

５）身の回りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特徴を生かした表現ができる。

６）表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。

７）協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

８）様々な造形による表現の基礎的な知識技能を生かし、乳幼児の表現活動に展開させることができる。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・【はじめに～1 章 造形表現の意義】pp.1-14 を読み理解する。 ※自分の『子どもと造形ノート』を作成しながら、学習を進めること	◇ オリエンテーション（授業概要） ・授業で使用する教科書や道具や素材などの確認 ・映像資料を利用した子どもの造形表現の鑑賞	印刷授業及び 面接授業１時間
2	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「2 章 表現を育む人になる」 【1.自分を感じる～2.感性をみがく】pp.15-22 を読み理解する。	◇ 造形表現の基礎（講義＋演習） 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「3 章 造形を楽しむための造形」 【1.点と線を遊ぶ～3.色の探検】pp.33-37 を読む。 ・実際に物を描いてみる（デッサンの考え方の実践）	印刷授業及び 面接授業２時間
3	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「2 章 表現を育む人になる」 【3.心をひらく～5.子どもの心に還る】pp.22-30 を読み理解する。	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅰ（講義＋演習） ・モダンテクニックについて（１） ・絵の具を使った製作の種類と説明	印刷授業及び 面接授業２時間
4	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「6 章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする」より 【(1)点・線・形で遊ぶ～(2)手触りと音を遊ぶ】pp.125-131 から１つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅱ（演習） ・モダンテクニックについて（２） ・絵の具を使った製作の実践	印刷授業及び 面接授業１時間
5	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「6 章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする」より 【(3)色で遊ぶ】pp.132-133 から１つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。		印刷授業

6	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「6 章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする」より 【(4)技法を楽しむ】pp.134-137 から 1 つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。		印刷授業
7	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「6 章 保育をひらく造形カタログ、1.感性・イメージを豊かにする」より 【(5)わくわく教材・素材を遊ぶ】pp.138-140 から 1 つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』(講義) ・第 4 章「子どもの造形表現の発達」を読む。 ・造形表現の発達についての説明と、映像資料の鑑賞	印刷授業及び 面接授業 2 時間
8	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「4 章 子どもの造形表現の発達」 【1.造形表現の発達論】pp.63-71 を読み理解する。	◇ オンライン美術館（講義） ・映像資料を利用した作品鑑賞 ・作家の作品から読み解く、子どもの造形表現の理解と関連性について	印刷授業及び 面接授業 1 時間
9	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「4 章 子どもの造形表現の発達」 【2.子どもの描画の特徴とその背景】pp.71-75 を読み理解する。	◇ 子どもの造形表現の研究Ⅲ（講義＋演習） ・ポップアップカードの種類と説明 ・ポップアップカードの製作の実践	印刷授業及び 面接授業 1 時間
10	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「4 章 子どもの造形表現の発達」 【3.発達に即した援助～4.発達過程に見られる個人差】pp.75-82 を読み理解する。	◇ 素材研究 Ⅰ（講義＋演習） ・造形活動で使用する、色々な素材の説明や道具の使用法の解説 ・廃材を利用した音の出るオモチャの説明と鑑賞	印刷授業及び 面接授業 2 時間
11	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「3 章 造形を楽しむための造形」より 【4.形の発見～8.紙の技】pp.38-47 から 1 つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。	◇ 素材研究 Ⅱ（演習） ・廃材を利用した音の出るオモチャの製作の実践 ・「○○シアター」の紹介	印刷授業及び 面接授業 1 時間
12	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「3 章 造形を楽しむための造形」より 【9.ビニールの技～14.自然素材のめぐみ】pp.48-59 から 1 つを選択し参考にしながら、簡略化しても構わないので工夫して取り組んでみる。		印刷授業
13	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「5 章 造形表現指導の実際」 【1.指導のねらい～2.保育者の役割】pp.83-91 を読み理解する。	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』より（講義＋演習） ・主に p.105「（３）評価」、p.107「6.模擬保育」の項の説明 ・指導計画の作成	印刷授業及び 面接授業 2 時間
14	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「5 章 造形表現指導の実際」 【3.指導形態～4.間接的な援助】pp.92-100 を読み理解する。		印刷授業
15	◇ 教科書『保育をひらく造形表現』 ・「5 章 造形表現指導の実際」 【5.直接的な援助～6.模擬保育】pp.101-112 を読み理解する。		印刷授業
			面接授業 合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	スクーリング修了試験　　総合の 40% 授業中の態度、積極性　　総合の 60% 総合点　　100 点 ※ディスカッション形式で行う授業については積極的な参加態度を求めます。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞A（100 点～90 点）B＋（89 点～80 点）B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】材料経験の重要性と子どもの主体的な製作活動を促す題材化との関係について、具体的な題材例を示し、自身の製作経験も踏まえて述べよ。

＜ポイント＞
・実際に造形材料に触れながら題材化を試み、素材や技法の特色や表現効果についての自身の気づきを踏まえながら、題材化における材料経験の重要性を考察すること。
・実践した題材について、題材名、ねらい、対象年齢、内容を具体的かつ詳細に説明すること。
・実践した題材の教育的な意義、また支援や指導、評価についても考えること。

科目終了試験学修のポイント

１．幼児期における造形表現活動について
＜ポイント＞
・幼児の表現活動の特徴・特色について調べ、実際の造形活動と幼児の作品（自身の経験や記憶、また任意の資料の利用でも構わない）に照らし合わせて考える。
・上記を踏まえ、子どもの主体的活動を促す支援について考え、その活動を支える保育者のあり方を考察する。

２．造形遊びの意義と望ましい環境づくりについて
＜ポイント＞
・子どもにとっての「遊び」の意義と、造形表現との関係について考える。
・造形遊びを豊かに展開するための支援や指導、環境などの諸要素について具体的に考察する。

３．造形を構成する諸要素について
＜ポイント＞
・歴史上の有名な美術作品や自分の好きな美術作品について調べ、自分の見方・意見なども交えながら考察する。
・造形を構成する諸要素（道具や素材、また画面構成や形態・色彩、歴史的背景など）について自分なりに考え、子どもの造形表現に生かせる要素や関連性などについて考える。

４．造形技法と活動の展開について ①
＜ポイント＞
・偶然性を生かした表現技法について調べ、実際に自ら実践し、子どもの造形活動として具体的な展開を考える。
・表現の種類としての「偶然性と写実性」ついて、子どもの成長段階毎の表現や自身の子どもの頃に照らし合わせ、教科書を参考にそれぞれの表現の特徴やその良さを考察する。

５．造形技法と活動の展開について ②
＜ポイント＞
・表現技法と造形材料との関わりについて実際に実践し、その経験から子どもの視点に立ち考える。
・上記を踏まえ任意の題材を想定し、造形活動を豊かにするためにねらいから考えその教育的な意義まで考察する。

６．あなたが保育者として何を大切にして造形活動を行いたいかについて
＜ポイント＞
・あなたの理解が学習前とどのように変化したのかを、具体例を踏まえながら考える。
・子どもの表現の「評価」について教科書からの学びを参考に、もし可能であれば自身の経験を踏まえ、保育者の理想的な言葉かけや態度について具体例を示しながら考察する。

教科書

槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年告示）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月）
厚生労働省編『保育所保育指針解説』（平成 30 年 3 月）
※授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。（面接授業）

科目コード	こどもと人間関係（2 単位）	登録年次	履修方法
6860		1 年	R
教員名	氏家博子、加藤博子、河合光利、駒井美智子、新川朋子 橋本景子、長谷川有香、三井三枝子、持田京子		
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項 ・人間関係		

科目概要・到達目標

本授業では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身につける。具体的には以下の事項について学ぶ。
①子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。
②乳幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。

到達目標は、以下のとおりである。
1）子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。
2）人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。
3）乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
4）幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、友だちとの関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
5）自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
6）協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
7）道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。
8）家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

学修内容

1	領域「人間関係」のねらい及び内容
2	現代社会における人間関係の特徴とその背景
3	乳幼児にとっての身近な人間関係
4	人間関係の発達①乳児期の人間関係
5	人間関係の発達②幼児期前期の人間関係
6	人間関係の発達③幼児期後期の人間関係（保育者との関係）
7	人間関係の発達④幼児期後期の人間関係（友だちとの関係）
8	人と関わる力の育ち①遊びや生活を通して
9	人と関わる力の育ち②他者との関係性と自立心
10	人と関わる力の育ち③他者との関係性と協同性
11	人と関わる力の育ち④他者との関係性と道徳性･規範意識
12	乳幼児期の人間関係の広がり①家庭生活
13	乳幼児期の人間関係の広がり②地域とのかかわり
14	乳幼児期から学童期以降の人と関わる力の連続性
15	まとめ

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1 題	1 題につき 6 ～ 8 枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題 1】人と関わる力の基盤として、発達段階初期の身近な大人との間の愛着の重要性について述べよ。

＜ポイント＞

乳児期及び幼児期前期の身近な大人との安定した愛着関係の形成が、その後の発達の基盤になっていることを理解する。愛着形成が不全の場合にその後の子どもの人間関係の発達にどのような影響を及ぼすかについても理解する。

科目終了試験学修のポイント

1．幼児期の人間関係の重要性について

＜ポイント＞

現在の社会的状況について整理した上で、それを踏まえて幼児期の人間関係の重要性について理解する。

2．子どもの「人と関わる力」を育てる「個」と「個」、「個」と「集団」について

＜ポイント＞

園における友だちとの関係形成において、「個」と「個」の場合、「個」と「集団」の場合など、様々な場面における関わり合いが「人と関わる力」を育てることにつながることを理解する。

3．「人と関わる力」と自立心について

＜ポイント＞

2 歳を過ぎる頃から他者と異なる自分を意識するようになり、自己主張が発達するが、3 歳頃には生活面の自立も進み、自分の力でやってみようと粘り強く取り組む姿などが現れることを理解する。

4．「人と関わる力」と協同性について

＜ポイント＞

幼児期後半になると仲間関係も発達し、他者理解も進む。それに伴い、友だちとの意思疎通や目標の共有ができるようになることを理解する。

5．「人と関わる力」と道徳性･規範意識について

＜ポイント＞

ルールのある遊びのなかで「いざこざ」が発生した場合などの例を考え、子ども自身がきまりの必要性を感じたり、自分たちでより良いルールを考えるなどの、自己主張と自己抑制のバランスを身につけることを理解する。

6．　人間関係の発達において多様な人と関わる体験について

＜ポイント＞

現代の家庭生活は家族員数が少なく、地域との関係も希薄化していて、多様な人と関わる体験がかつてに比べて乏しくなっている。多様な人と関わることが人間関係の豊かさにつながることを理解する。

教科書

秋田喜代美･三宅茂夫監修 『子どもの姿からはじめる領域・人間関係』 株式会社みらい。
文部科学省『幼稚園教育要領』（平成 29 年告示）

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』（平成 29 年告示）
内閣府･文部科学省･厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育･保育要領』（平成 29 年告示）

科目コード	こどもの音楽Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6600		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、高橋裕子、花井淑、松本岳志、村田羊子、本野洋子		

科目概要

１．音楽基礎Ⅰ、音楽基礎Ⅱで学んだ楽典および身につけた演奏技術を更に向上させつつ、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。ピアノの弾き歌いだけでなく、リズム遊びや器楽合奏などの経験を積み重ねていきながら、子どもの発達段階における音楽教育の重要性を学んでいく。
なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験が行われる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について
①ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、4 曲の中から必修曲（☆の曲）と、そのほかに1 曲選び、自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
「標準バイエルピアノ教則本」より
・78 番　ト長調　6/8 拍子
・80 番　ニ長調　3/4 拍子
・88 番　ト長調　4/4 拍子
「ブルグミュラー/25 の練習曲」より
・第2 番「アラベスク」　イ短調　2/4 拍子（☆）

●B群（ピアノ経験者）
「ブルグミュラー/25 の練習曲」より
・第2 番「アラベスク」　イ短調　2/4 拍子
・第3 番「牧歌」　ト長調　6/8 拍子
・第15 番「バラード」　ハ短調　3/8 拍子
・第25 番「貴婦人の乗馬」　ハ長調　4/4 拍子（☆）

②指定教科書（B群は「ブルグミュラー/25 の練習曲」のみ）を使用する。
③暗譜演奏する必要はない。
④必修曲と選択した１曲を演奏する。
⑤ピアノ教室等に定期的に通って、十分に練習した後にスクーリングを受講のこと。片手でしか弾けない等、練習不足でスクーリングに参加した場合、もしくはピアノ実技試験における評価が低い場合には、単位修得は不可となる。

学修内容

1	事前学習：スクーリングでは、修了試験としてバイエルまたはブルグミュラーから課題曲が指定してある。スクーリング受講にあたっては、事前にこれら課題曲を弾けるよう練習をしておくこと。スクーリングでは、演奏のポイントや表現力の向上などを学ぶレッスンを受けることになるので、ある程度弾ける状態にした上で受講しなければ意味がない。A群かB群のいずれかを選ぶことになるが、個々の実力に合わせて選択を行うこと。また、弾き歌いの実技試験が実施されるが、こちらも課題曲6 曲を両手で伴奏しつつ元気よく歌えるまで練習を積み重ねてから受講すること。
2	導入：ピアノおよび弾き歌いの演奏技術向上がスクーリングに本科目においてもっとも重要であるが、スクーリングでは集団で器楽合奏なども行う。保育や教育の場で音楽教育を行う上で必要と思われる知識や技術をできるだけ多く習得するよう努力を重ねること。自宅での個人練習とは異なり、人前でのレッスンや発表は、今後子ども達やその保護者を前にした時に堂々と弾けるようになるために良い経験となる。スクーリングでしか学べない、また体験できないことが多々あるので二日間の講義時間を有意義に過ごせるようスクーリング受講の前に準備しておくことが大切である。
3	スクーリング修了試験課題曲①： A）バイエル 78 番：左手の８分音符が乱れないよう正確に弾く練習をすること。力強く弾く小節（「f」と書かれたところ）とスラーで滑らかに弾く小節（dolce と書かれたところ）とがあるので、それらの違いが明確になるよう表現すること。 B）ブルグミュラー第2 番「アラベスク」：左手の三和音が重たくならないように気をつけること。左手はスタッカートだが右手はスラーなので、しっかり弾きわけること。中盤は両手とも強く、そして滑らかに。左手のリズムが正確に弾けるようにすること。

4	スクーリング修了試験課題曲②： A) バイエル 80 番：左手の 4 分音符を正確に弾けるように練習すること。また、強・弱・弱と 3 拍子の拍となるよう表現すること。右手は、中間部にヘ音記号があり、左手と交差するので、音の高さに注意すること。装飾音符は明るく、鋭く弾くように。 B) ブルグミュラー第 3 番「牧歌」：「dolce（甘く柔らかに）」「cantabile（歌うように）」と冒頭に指示があるように、曲全体を優しく滑らかに奏でられるように練習すること。中間部は多少力強く弾いてよい。最後の 2 小節は特に愛らしく。
5	スクーリング修了試験課題曲③： A) バイエル 88 番：左手を正確に弾けるようにまず練習すること。右手は、付点 8 分音符と 16 分音符が連続するスキップのリズムが、左手の 8 分音符とはタイミングがずれるため、いい加減にならないように気をつけること。7 小節目からの 16 分音符による音階は、指定された指使いで何度も反復練習し、滑らかに弾けるようにすること。 B) ブルグミュラー第 15 番「バラード」：♭3 つのハ短調である。♭と♮に気をつけて譜読みをすること。冒頭右手の三和音は重たくならないように。歯切れ良く弾く箇所とスラーで滑らかに弾く箇所を、明確に表現すること。
6	スクーリング修了試験課題曲④： A) ブルグミュラー第 2 番「アラベスク」：上記 3 の B) を参照のこと。 B) ブルグミュラー第 25 番「貴婦人の乗馬」：馬の足取りのように軽やかに弾き始めること。中間分の 3 連符は曲の流れが滞ることのないよう何度も反復練習し滑らかに弾けるように。強弱をはっきり明確に表現すること。
7	スクーリング修了試験について：必修曲（☆）と選択曲の 2 曲を発表する。スクーリング中のレッスンで指摘されたことを踏まえて、それぞれの曲の良さをしっかり表現できるよう練習すること。人前での発表は緊張し普段の実力を発揮するのが困難だが、それを克服するためには自信がつくまで練習するしかない。また、多少間違えることなどあまり気にすることなく、人前で弾くという経験を大切に考えること。
8	実技試験課題曲①「おべんとう」：楽譜下の※に書かれた注意事項をよく読んで、理解した上で練習すること。まずは、楽譜上に書かれた正確なリズムで弾き歌いができるようにすること。必ず、右手の練習を行う時には、早い段階から歌うことを習慣づけるとよい。
9	実技試験課題曲②「おかえりのうた」：前奏の 2 小節は、ペダルを使える者は、踏んだ方がよい。左手の三和音が重たくならないように気をつけること。右手の付点 8 分音符と 16 分音符が連続するスキップのリズムは、リズムがいい加減にならないように気をつけて練習すること。
10	実技試験課題曲③「こいのぼり」：○で囲われている音符がメロディーなので、その下の音符がメロディーよりも大きくなってしまわないように注意すること。左手の動きが難しい箇所があるので、その部分だけを何度も反復練習して手に動きを覚え込ませること。
11	実技試験課題曲④「世界中の子どもたちが」：3 連符とスキップのリズム（付点 8 分音符と 16 分音符）を明確に弾き分けること。左手の伴奏は重たくならないように注意すること。2 カッコ以降、右手に「スタッカートにしない」と注意書きがあるが、自分がその箇所を歌ってみるとよい。歌と同じように右手も表現することを心がければ、自然とスタッカートにはならないことが分かるはずである。
12	実技試験課題曲⑤「あわてん坊のサンタクロース」：冒頭の Moderato から Bright in 2 への流れが自然になるように注意すること。左手の伴奏にはスタッカートがついているので、短く歯切れ良く演奏すること。音がつながってダラダラした演奏にならないよう気をつけること。ただし、右手のメロディーは、左手のスタッカートにつられて短くなってしまわないように注意すること。曲が速いが、最初はゆっくりしたテンポで正確に弾けるよう練習し、徐々にテンポを上げていくとよい。
13	実技試験課題曲⑥「とんでったバナナ」：前奏の 3・4 小節目のリズムが非常に難しいので、ゆっくり正確に練習すること。または Coda の前 2 小節を前奏としてもよい。反復記号に気をつけること。6 番は最後に Coda に移動する。スラーのついている音符とついていない音符を明確に弾き分けること。
14	実技試験について：課題曲 6 曲の中から 1 曲を指定する。どの曲を指定されても大丈夫なように、バランスよく練習しておくこと。弾き歌いは、幼児の伴奏を想定しているので、多少間違えても絶対に止まってはならない。また、どんなに伴奏が素晴らしくても、歌が歌えていないようでは弾き歌いとは言えない。子ども達が憧れをもって一緒に歌いたいと感じられるような明るく元気な歌声を目指すように。
15	レポート課題について：乳幼児の音楽的発達段階に合っていない曲を歌わせたり楽器を演奏させたりすることは避けなければならない。そのためにも、音楽的発達段階について理解しておくことは重要と言える。様々な文献や資料を探し、熟読した上で、それぞれの観点ごとに分かりやすくまとめること。文献や資料からの引用ばかりではレポートとは言えない。自分の言葉で書くことが大切である。インターネット上に流れている情報は、誰が書いたものか分からない、いい加減な内容のものも多いため注意が必要である。また、それらをコピー・アンド・ペーストするような行為はあってはならない。そうした行いが明白な場合は、レポート課題の評価を F とする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児の音楽的能力の発達について述べよ。

＜ポイント＞

音楽的な表現活動には、「歌う」「聴く」「奏でる」「動く」「つくる」の5つがある。乳幼児期にはどのような音楽的発達があるのか、5つの活動ごとにまとめること。また、それぞれの発達過程における教材選択や指導上の留意点についても述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．スクーリング中にピアノ弾き歌いの実技試験を行う。以下の6曲のうち、試験当日に指定される1曲を演奏する。

第2章
- 「おべんとう」
- 「おかえりのうた」
- 「こいのぼり」
- 「世界中の子どもたちが」

第3章
- 「あわてん坊のサンタクロース」
- 「とんでったバナナ」

2．留意事項

①楽譜は「保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門」を使用する。
②原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。
③暗譜演奏である必要はない。
④ピアノ教室等に定期的に通って、十分に練習した後にスクーリングを受講のこと。
⑤実技試験については、「音楽基礎Ⅱ」の「実技試験について」を必ず確認すること。

教科書

石橋裕子、他『保育者・小学校教員のためのわかりやすい音楽表現入門』北大路書房。

＜楽譜＞

『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。
『ブルグミュラー/25の練習曲』全音楽譜出版社。

参考文献

植田光子『手あそび百科』ひかりのくに。
池田富造『幼児の楽器遊びと楽しい合奏　器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。
木許 隆、他『保育者のためのリズム遊び　幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。
高御堂愛子、他『幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現』圭文社。
神原雅之、他『幼児のための音楽教育』教育芸術社。
桶谷弘美、他『「音楽表現」の理論と実際』音楽之友社。
大畑祥子『保育内容　音楽表現＜第2版＞　』健帛社。
河口道朗『音楽教育入門』音楽之友社。

科目コード	こどもの音楽Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
6610		２年	ＳＲ
教員名	石田美雪、岡村弘、加藤雅子、松本岳志、本野洋子		

科目概要

１．音楽基礎Ⅰ、音楽基礎Ⅱ、こどもの音楽Ⅰで身につけた演奏技術を更に向上させ、保育士および幼稚園教諭に必要とされるレベルまで到達させる。特に、保育・教育に出て演奏しても練習の成果を出せるように、実践を意識した取り組みを行う。また、指導案を作成し、責任実習などに備えていく。
なお、スクーリング修了試験では、ピアノ実技試験が行われる。

２．スクーリング修了試験「ピアノ実技試験」について
①ピアノ実技試験では、下記A群またはB群のいずれかを選択し、4曲の中から必修曲（☆の曲）と、そのほかに1曲選び、自宅等で十分に練習すること。

●A群（ピアノ初心者）
「標準バイエルピアノ教則本」より
・91番　イ短調　2/4拍子
・94番　ヘ長調　2/4拍子
・104番　ヘ長調　3/8拍子
「ブルグミュラー/25の練習曲」より
・第15番「バラード」　ハ短調　3/8拍子（☆）

●B群（ピアノ経験）
「ブルグミュラー/25の練習曲」より
・第4番「子供の集会」　ハ長調　4/4拍子
・第7番「清い流れ」　ト長調　4/4拍子
・第9番「狩猟」　ハ長調　6/8拍子（☆）
・第19番「アベ　マリア」　イ長調　3/4拍子

②指定教科書（B群は「ブルグミュラー/25の練習曲」のみ）を使用する。
③暗譜演奏する必要はない。
④選択した曲の中から、スクーリング中に指定された1曲を演奏する。
⑤ピアノ教室等に定期的に通って、十分に練習した後にスクーリングを受講のこと。片手でしか弾けない等、練習不足でスクーリングに参加した場合、もしくはピアノ実技試験における評価が低い場合には、単位修得は不可となる。

学修内容

1	事前学習：本スクーリングでは、修了試験としてバイエルまたはブルグミュラーから課題曲が指定してある。スクーリング受講にあたっては、事前にこれら課題曲を弾けるよう練習をしておくこと。スクーリングでは、演奏のポイントや表現力の向上などを学ぶレッスンを受けることになるので、ある程度弾ける状態にした上で受講しなければ意味がない。A群かB群のいずれかを選ぶことになるが、個々の実力に合わせて選択を行うこと。また、弾き歌いの実技試験が実施されるが、こちらも課題曲6曲を両手で伴奏しつつ元気よく歌えるまで練習を積み重ねてから受講すること。
2	導入：ピアノおよび弾き歌いの演奏技術向上が本科目においてもっとも重要であるが、スクーリングでは集団で器楽合奏なども行う。保育や教育の場で音楽教育を行う上で必要と思われる知識や技術をできるだけ多く習得するよう努力を重ねること。自宅での個人練習とは異なり、人前でのレッスンや発表は、今後子ども達やその保護者を前にした時に堂々と弾けるようになるために良い経験となる。スクーリングでしか学べない、また体験できないことが多々あるので二日間の講義時間を有意義に過ごせるようスクーリング受講の前に準備しておくことが大切である。
3	スクーリング修了試験課題曲①： A）バイエル91番：右手の16分音符は焦らず、一つ一つ丁寧に弾くよう練習しておくこと。冒頭は短調でdolceだが、中間分は明るい長調でfなので、それぞれの雰囲気を表現すること。左手の2分音符は小指をしっかり残しておくように。 B）ブルグミュラー第4番「子供の集会」：曲が♩=152とかなり早いが、まずはゆっくり正確に弾くよう心がけ、徐々にテンポを上げていくとよい。右手の3度の動きが特に難しい曲だが、スタッカートで弾く箇所とスラーで弾く箇所とを明確に弾き分けられるように練習しておくように。

4	スクーリング修了試験課題曲②： A）バイエル 94 番：左手の 16 分音符を正確に legato で弾けるよう練習しておくこと。右手は dolce なので甘く滑らかな表現を目指すように。中間分は同じ事を繰り返すが、最初は p、次は f なので強弱をしっかり強調して弾くこと。 B）ブルグミュラー第 7 番「清い流れ」：曲が♩=176 とかなり早いが、まずはゆっくり正確に弾くよう心がけ、徐々にテンポを上げていくとよい。決して大きく盛り上がるところはないので、力を抜いて楽に弾くことを心がけるように。後半は左手がメロディーなので、右手が大きくなったりリズムが乱れたりしないように注意すること。
5	スクーリング修了試験課題曲③： A）バイエル 104 番：左手の 8 分音符を常に正確に弾けるようにすること。右手の 16 分音符が連続するメロディーは、ゆっくり何度も反復練習して、指の動きを手に覚え込ませるように。また、途中から楽譜上の音符より 1 オクターブ上で弾くことになるので注意すること。強弱に注意して、表情豊かになるよう表現するように。 B）ブルグミュラー第 9 番「狩猟」：左手による前奏は軽やかに始め、クレシェンドとともに力強く弾くこと。その後は、歯切れよく弾く箇所や弱く滑らかに弾く箇所など曲の雰囲気が目まぐるしく変化するので、「狩猟」のどのような場面が表現されているのか想像して演奏するとよい。
6	スクーリング修了試験課題曲④： A）ブルグミュラー第 15 番「バラード」：♭3 つのハ短調である。♭と♮に気をつけて譜読みをすること。冒頭右手の三和音は重たくならないように。歯切れ良く弾く箇所とスラーで滑らかに弾く箇所を、明確に表現すること。 B）ブルグミュラー第 19 番「アベ　マリア」：♯3 つのイ長調である。♯や♮に気をつけて譜読みをすること。両手とも流れるような曲調になるよう心がけて弾くとよい。8 分音符で動く左手は美しく重要な動きではあるが、右手よりも大きくならないように気をつけること。
7	スクーリング修了試験について：必修曲（☆）と選択曲の 2 曲を発表する。スクーリング中のレッスンで指摘されたことを踏まえて、それぞれの曲の良さをしっかり表現できるよう練習すること。人前での発表は緊張し普段の実力を発揮するのが困難だが、それを克服するためには自信がつくまで練習するしかない。また、多少間違えることなどあまり気にすることなく、人前で弾くという経験を大切に考えること。
8	実技試験課題曲①「ありがとうさようなら」：6/8 拍子を感じながら弾くこと。左手の伴奏が正確に弾けるように、指定された指使いを必ず守りながら丁寧に譜読みすること。強弱記号はないが、右手のメロディーの音が高くなるほど曲を盛り上げるように表現し、淡々と弾くことがないように。必ず右手の練習を行う時には、早い段階から歌うことを習慣づけるとよい。
9	実技試験課題曲②「おばけなんてないさ」：スキップのリズム（付点 8 分音符と 16 分音符）は 3 連符でよいとの指示があるので、そのように弾くこと。左手が 4 分音符の箇所は元気よく弾き、2 分音符の箇所は少し不安げに小さく弾くと歌詞に合った表現になる。1 カッコの左手の装飾音符は、困難な場合は省いてもよい。
10	実技試験課題曲③「小さな世界」：2 分音符を 1 拍とする 2/2 拍子なので、拍の取り方に気をつけるように。左手の 4 分音符と 4 分休符の連続した伴奏は、力強くハッキリと弾くことを心がけ、決してダラダラつながってしまわないように。右手は左手の動きにつられないようにし、美しい旋律の流れが滞らないように気をつけること。2 カッコのアクセントのついた 2 分音符は指の準備が遅れてしまわないように。
11	実技試験課題曲④「うたえバンバン」：左手の 4 分音符の伴奏は元気よくハッキリと弾くこと。13 小節目からのシンコペーションは右手と合わせ難いので、ゆっくり丁寧に反復練習を重ねてタイミングが合うようにすること。この箇所は、左右ともにのびのびと弾けるようにすること。右手のスキップのリズム（付点 8 分音符と 16 分音符）はリズムがいい加減にならないように。
12	実技試験課題曲⑤「思いでのアルバム」：6/8 拍子を感じながら弾くこと。左手の 8 分音符が流れるように弾けるまで何度も反復練習すること。指定されている指使いを参考にすること。強弱記号はないが、右手のメロディーの音が高くなるほど曲を盛り上げるように表現し、淡々と弾くことがないように。後奏も楽譜通りに弾けることが望ましいが、困難なようなら前奏と同じにしてもよい。
13	実技試験課題曲⑥「みんなともだち」：スキップのリズム（付点 8 分音符と 16 分音符）は 3 連符でよいとの指示があるので、そのように弾くこと。左手の 4 分音符が重たくならないように気をつけるように。1・2 カッコ後、メロディーが休符の時の左手 4 分音符はしっかり丁寧に弾くとよい。10 小節目の 4 分音符が 3 つで括られている箇所は、2 拍の中に 3 つの音を均等に入れるという意味である。難しいがよく練習しておくこと。次の小節「Yeah」の前の複付点は 4 分音符＋8 分音符＋16 分音符の長さであることを理解し、次の「Yeah」の入るタイミングに気をつけること。
14	実技試験について：課題曲 6 曲の中から 1 曲を指定する。どの曲を指定されても大丈夫なように、バランスよく練習しておくこと。弾き歌いは、幼児の伴奏を想定しているので、多少間違えても絶対に止まってはならない。また、どんなに伴奏が素晴らしくても、歌が歌えていないようでは弾き歌いとは言えない。子ども達が憧れをもって一緒に歌いたいと感じられるような明るく元気な歌声を目指すように。

15	レポート課題について：E. J. ダルクローズ、Z. コダーイ、C. オルフの音楽教育法は、世界中で広く実践されている。それぞれの教育理念において何が重視されているのか理解することは、これから保育や教育の場で音楽教育を施す上で重要である。様々な文献や資料を集め熟読すること。ただし、文献や資料からの引用ばかりではレポートとは言えない。自分の言葉で書くことが大切である。インターネット上に流れている情報は、誰が書いたものか分からない、いい加減な内容のものも多いため注意が必要である。また、それらをコピー・アンド・ペーストするような行為はあってはならない。そうした行いが明白な場合は、レポート課題の評価を F とする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき 6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】E. J. ダルクローズ、Z. コダーイ、C. オルフの三者が提唱した音楽教育メソッドとはどのようなものであるか、それぞれ説明せよ。

＜ポイント＞

ダルクローズ、コダーイ、オルフがそれぞれ創り上げた音楽指導法は、20 世紀の音楽教育メソッドの代表格である。それぞれの教育理念や手法などについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．スクーリング中にピアノ弾き歌いの実技試験を行う。以下の 6 曲のうち、試験当日に指定される 1 曲を演奏する。

・ありがとうさようなら　　・うたえバンバン
・おばけなんてないさ　　・思いでのアルバム
・小さな世界　　・みんなともだち

2．留意事項

①楽譜は「こどものうた 50 選」を使用する。
②原則として楽譜通りに演奏する。ただし、ピアノ伴奏については、アレンジを加えても構わない。
③暗譜演奏である必要はない。
④ピアノ教室等に定期的に通って、十分に練習した後にスクーリングを受講のこと。
⑤実技試験については、「音楽基礎Ⅱ」の「実技試験について」を必ず確認すること。

教科書

田﨑教子『こどものうた 50 選』ドレミ楽譜出版社。

＜楽譜＞

『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版社。
『ブルグミュラー/25 の練習曲』全音楽譜出版社。

参考文献

植田光子『手あそび百科』ひかりのくに。
池田富造『幼児の楽器遊びと楽しい合奏　器楽/合奏/鼓隊の指導』ひかりのくに。
木許 隆、他『保育者のためのリズム遊び　幼児・小学校低学年の器楽指導』音楽之友社。
高御堂愛子、他『幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現』圭文社。
神原雅之、他『幼児のための音楽教育』教育芸術社。
桶谷弘美、他『「音楽表現」の理論と実際』音楽之友社。
大畑祥子『保育内容　音楽表現＜第2版＞』健帛社。
河口道朗『音楽教育入門』音楽之友社。

科目コード	こどもの健康と安全　(2 単位)	登録年次	履修方法
6771		2年	SR
教員名	佐野葉子、手塚和美		

科目概要

保育環境を踏まえ子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理の具体的な方法を学ぶ。衛生管理、事故の予防及び安全対策、危機管理、防災への備えについて理解する。子どもが体調不良になった場合の対処方法、救急処置と救急蘇生法などを身に付ける。また保育における保健的対応の基本的考え方や3歳未満児への対応、慢性疾患やアレルギー性疾患など個別的な配慮を必要な子どもへの対応を学ぶ。保護者や地域との連携を図る方法、保育における保健活動の計画と評価についても学ぶ。

1．子どもの発育の観察と評価方法について理解し、実施することができるようになる。
2．子どもの健康状態の観察の方法と支援について理解し、実施することができるようになる。
3．子どもの日常生活の養護の方法について理解し、実施することができるようになる。
4．子どもの一般的な症状に対する看護の方法について理解し、説明することができるようになる。
5．子どもの事故の特徴と事故防止の方法について理解し、説明することができるようになる。
6．応急手当（一次救命処置を含む）の実際を学び、実施することができるようになる。
7．集団保育における健康管理・健康教育の実際を理解し、説明することができるようになる。
8．子どもの健康と安全を守る保育者としての必要な態度を表現することができるようになる。

学修内容

1	ガイダンス：子どもの健康と安全を学ぶにあたって 〈ポイント〉健康の概念、母子保健統計、母子保健対策、健やか親子について理解する
2	妊娠、胎児期の発育、染色体異常 〈ポイント〉妊娠の成立、胎児期の発育、胎児に影響を与える要因について理解する
3	子どもの成長と発達①：子どもの身体発育 〈ポイント〉発育の原則、子どもの身体発育について理解する
4	身体発育の評価【演習】身体測定 〈ポイント〉身体測定の方法と評価について理解する
5	子どもの成長と発達②：運動機能、神経機能、精神機能 〈ポイント〉新生児の反射、粗大運動、微細運動、言葉の発達について理解する
6	健康の評価【演習】バイタルサインの測定 〈ポイント〉バイタルサインの測定方法、健康状態の評価について理解する
7	子どもの養護①：母乳栄養、人工栄養、離乳 〈ポイント〉母乳の分泌メカニズム、母乳栄養の利点、離乳について理解する
8	子どもの養護②【演習】調乳、手洗い 〈ポイント〉正しい手洗い方法、消毒方法、無菌的調乳方法について理解する
9	子どもの養護③【演習】沐浴、口腔の衛生、排泄の援助 〈ポイント〉排泄のメカニズム、沐浴の目的、方法、口腔衛生につて理解する
10	子どもの保健の年間計画 〈ポイント〉子どもの健康を守るための保健計画を立てる目的、内容を理解する
11	子どもの環境、事故の予防：環境の整備と安全教育 〈ポイント〉子どもの病気・事故特徴について理解する
12	子どもの安全教育【グループワーク：教材作り】 〈ポイント〉テーマに沿った子どもの安全教育の教材を作成する
13	子どもの安全教育発表、質疑応答 〈ポイント〉グループごとに子どもの安全教育の発表を行う
14	救急時の対応 〈ポイント〉一時救急の方法について理解する
15	病気の子ども、障害のある子どもの対応 〈ポイント〉病気の子ども、障害のある子どもの対応方法について理解する

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子どもの命、健康を守るために保育者として必要なことについて述べよ。

＜ポイント＞

小児期に多い病気や事故とその対処方法、また健康を保持増進するための方法についてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．感染症の予防と対策について

＜ポイント＞

小児期に多い感染症の病態生理（病原体、感染経路、主症状、合併症）とその予防対策について理解する。

2．排泄行動の自立と援助について

＜ポイント＞

排泄のメカニズムと子どもの排泄の援助について理解する。

3．小児期の事故の特徴とその対策について

＜ポイント＞

小児期に多い事故を年齢別にまとめ、対策についても理解する。

4．母乳の分泌メカニズムと母乳栄養について

＜ポイント＞

母乳はどのようなメカニズムで分泌するのか、また母乳栄養の利点、注意することを理解する。

5．小児の一時救急について

＜ポイント＞

小児の一時救急の方法と手順を理解する。

6．障害のある子どもへの対応について

＜ポイント＞

障害の種類とその特徴を理解し、保育者としてどのように関わるのか理解する。

教科書

中根淳子・佐藤直子編著　『子どもの健康と安全』　ななみ書房。

参考文献

今井七重編『演習　子どもの保健Ⅱ』（株）みらい。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

科目コード	こどもの食と栄養（２単位）	登録年次	履修方法
6540/6541/6542		6540：２年 6541：１年 6542：２年	6540：ＳＲ 6541：Ｒ 6542：Ｒ
教員名	浅井恭子、石本強、佐野葉子、菅沼太陽、手塚和美、橋本由利子		

科目概要

小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。

小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。ことに、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「からだ」のバランスのとれた子どもになってゆくのである。

学修内容

1	五大栄養素に栄養素を分類できる。 栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。
2	五大栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。 それぞれの栄養素（五大栄養素）について役割を構造と関連させながら説明する。
3	ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。 ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。
4	離乳の定義を説明できる。 離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。
5	離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。 離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。
6	母乳、調製粉乳について説明できる。 母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。
7	フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。 用途によって異なるミルクが存在することを理解し、それぞれのミルクの役割とともに、そのような時期の乳児へ与えるかを学修する。
8	母乳の栄養的、心理的長所を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。
9	母乳の短所を説明できる。 母乳の短所となる要因を、学修する。
10	偏食の定義を説明できる。 偏食がどのように定義できるか学修し、疾患との違いを比較する。
11	食欲不振の定義について説明できる。 食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。
12	偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。 偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。
13	熱量素、構成素、調節素について説明できる。 栄養素の役割による分類と五大栄養素との関連性について学修する。
14	初乳について説明できる。 初乳の特徴を学修する。
15	母乳の免疫について説明できる。 母乳の免疫の特徴と、どのように乳児へ与えられるかを学修する。さらに免疫のメカニズムを確認する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】各栄養素の体内での働きと多く含む食品について述べよ。

＜ポイント＞

栄養素として、糖質、脂質、たんぱく質、無機質（ミネラル）、ビタミンを取り上げ、それぞれどのような特徴をもった栄養素であるのか、体内でどのような役割を果たしているのかについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．ビタミンの生理作用と多く含まれている食品について

＜ポイント＞

水溶性と脂溶性ビタミンに分類し、各ビタミンの多く含まれている食品について説明する。

2．母乳栄養の長所と留意点について

＜ポイント＞

新生児・乳児にとっての長所・留意点だけでなく、母親にとっての長所・留意点も説明する。

3．育児用ミルクの成分について

＜ポイント＞

育児用ミルクの定義と種類、その調整内容について説明する。

4．離乳の進め方について

＜ポイント＞

初期、中期、後期、完了期に分け、それぞれの注意点を説明する。

5．幼児における遊び食いと偏食について

＜ポイント＞

幼児期に多い遊び食いと偏食について、その対応法について説明する。

6．食育の重要性とその内容について

＜ポイント＞

「保育所における食育に関する指針」をもとに、食育の重要性とその内容を説明する。

教科書

上田玲子『新版　子どもの食生活ー栄養・食育・保育―』ななみ書房。

参考文献

岡崎光子、他『子どもの食と栄養』光生館ＫＫ。
二見大介、他『保育ライブラリ　子どもを知る小児栄養』北大路書房。

科目コード	こどもの心理入門（２単位）	登録年次	履修方法
1590		１年	R
教員名	荒井理帆		

科目概要

乳児期・幼児期・児童期の発達心理学における最も基本的な概念、さらには認知、運動、言語などの発達的変化について概説する。本授業においては、とくに、子どもの発達や障害の基本知識を学びながら、確かな子ども観、発達観、教育観、保育観を築く基礎を養うことを目的とする。

学修内容

1	説題１について ①キーワード：発達とは何か　成熟と学習　遺伝と環境　発達の方向性と側面　発達段階と発達課題 発達過程の理解　（テキスト p.1~）
2	②認知とは何かを定義する：その認知にはどのような領域があるか。ピアジェの認知発達理論を理解する。　（p.82~）
3	③発達初期の知的活動：対象の永続性の理解　バウアーの研究　目的・手段の分化 対象の永続性が獲得されるのは乳幼児期のいつ頃か。それにより乳幼児の自発性と好奇心はどのように触発されるか。
4	④乳幼児の知覚の発達：知覚の特徴　直接経験の知覚　相ビョウ的知覚　アニミズム　（p.82~）
5	⑤概念の発達：概念とは　保存の概念の発達　量の概念　数の保存　概念の階層性　（p.111~）
6	⑥思考の発達：思考とは　ピアジェの思考の発達段階　自己中心性　認知のスタイルの変化　（p.121~）
7	⑦知能の発達：　知能とは　様々な知能観　知能を規定する要因とは　知能の発達と環境要因
8	ポイント１：発達初期の知覚　新生児の聴覚　コンドンとサンダーの実験　新生児の視覚　ファンツの実験 新生児の環境と相互作用する力　（p.41~）
9	ポイント２：愛着とは何か　愛着の形成過程　愛着を誰と結ぶか　愛着の形成要因　愛着と主たる養育者との関係 健康的な愛着と不健康な愛着　エインズワースの実験　内的ワーキングモデルへの発展　（p.62~）
10	ポイント３：言語の獲得　クーイング　喃語　一語発話　二語文から三語文へ　短文から複文へ　有意味語 一次的ことばから二次的ことばへ　言語獲得とコミュニケーション　母子相互作用　（p.54~・p. 95~）
11	ポイント４：こどもはなぜ遊ぶか　遊びの発達過程　象徴遊び　規則遊び　遊びとコミニュケーション能力 （p.176~・p.196~）
12	ポイント５：社会性とは　社会化とは　社会化の基礎になる親子関係　道徳の発達と社会性　向社会的行動とは （p.187~・p.208~・p.213~）　学校教育と社会性
13	ポイント６：自己とは　自己意識はいつ頃から芽生えるか　自己像の形成　形成の要因としての親の養育態度 学校環境　自己意識と自尊感情　自分を大切に思う心の発達　（p.221~）
14	著名な発達理論：フロイト　エリクソン　ピアジェ　コールバーグ　それぞれの理論の特徴とは
15	乳幼児の発達研究の方法：　主な研究方法　横断的・縦断的研究法　事例研究法　実験法　（p.23~）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児における認知機能の発達について述べよ。

＜ポイント＞
認知機能は段階を追って発達することが知られている。対象の永続性、量や数の保存、概念の階層性などについての理解が進んで行く過程を論じること。

科目終了試験学修のポイント

1．乳児のヒト刺激に対する選択的反応について
＜ポイント＞キーワード
発達初期の知覚と聴覚　コンドンとサンダー　ファンツの実験　発達初期からもつ新生児・乳幼児の他者へ働きかける力
母子相互作用を強化する赤ちゃんの力　母子相互作用と情動調律

2．愛着の形成について
＜ポイント＞キーワード
愛着とは　ボウルビー　愛着の形成過程　愛着の形成要因　愛着の質の違い（健康的な愛着と不健康な愛着）
エインズワースの実験ストレンジシチュエーション法　養育者のみから、広く他者との愛着を結ぶ力へ発展する
被虐児の愛着障害

3．子どもの言語獲得の過程について
＜ポイント＞キーワード
クーイング　喃語　一語発話　二語文　三語文　短文から複文へ　有意味語の獲得
言葉を話せることにより進むコミュニケーション能力　一次的ことばから二次的ことばへ
影響因としての母子相互作用と学校　言葉の障害とは

4．子どもの遊びについて
＜ポイント＞キーワード
遊びとは　子どもの遊びの機能　遊びの年齢的変化　一人遊びと仲間集団　遊びと創造性現代の子どもの遊びの特徴
遊ぶことは子どもの発達にどのように促進的に働くか

5．子どもの社会性について
＜ポイント＞キーワード
社会性とは　社会化するとは　社会化の基礎となる親子関係　役割取得と社会性　道徳判断と社会性
コールバーグの道徳発達理論　向社会的行動　広汎性発達障害にみられる社会性の障害

6．子どもの自己意識について
＜ポイント＞キーワード
自己とは　自己意識はいつ頃から芽生えるか　自己像の形成「私」はいつから認識されるか　親の養育態度と自己観の発達
自分を認め、大切に思う心の発達・自尊感情　学校集団の影響　教師の影響　自己同一性

教科書

塚田紘一『子どもの発達と環境－児童心理学序説』明星大学出版部。

参考文献

藤崎真知代、他『育児・保育現場での発達とその支援』ミネルヴァ書房。
吉田直子、他『子どもの発達心理学を学ぶ人のために』世界思想社。

科目コード	こどもの生活と遊び（２単位）	登録年次	履修方法
7870		１年	R
教員名	坂本真理子、戸田大樹		

科目概要

子どもの生活行動のペースを理解するとともに、子どもの生活行動の大部分を占める「遊び」に焦点をあてて学ぶ。事例を取り上げ、遊びの形態や特色、豊かな遊びを生み出すための援助、また、遊びが育つ環境と環境の再構成について考察する。

学修内容

1	科目の概要を把握する 望ましい教師像　教師の持つ目、手、声　そして心と身体
2	遊びを見つめる　教師の目
3	遊びを提供する　教師の手
4	子どもの生活・遊びをのぞく　その１ 遊びと表現活動
5	子どもの生活・遊びをのぞく　その２ 友とのかかわり　教師とのかかわり
6	子どもの生活・遊びをのぞく　その３ 子どもの特性　　かくれるなど
7	子どもの近づく　教師の心　　その１ 草遊びから
8	子どもの近づく　教師の心　　その２ 手に取ったものから　お話の誕生
9	子どもの近づく　教師の心　　その３ 生活・遊びから劇へつなぐ
10	子どもの遊び・表現を見つめて　その１ 受け止める力を磨く
11	子どもの遊び・表現を見つめて　その２ 援助方法、環境設定を考える
12	子どもの遊び・表現を見つめて　その３ 模擬保育の検討
13	子どもの遊び・表現を見つめて　その４ 模擬保育の実施
14	子どもの遊び・表現を見つめて　その５ 模擬保育の評価
15	学修内容をまとめる

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】遊びの場で、保育者は、援助、環境の構成をどのように工夫したらよいか。実践した、または、見聞きした事例を挙げて考察すること。

＜ポイント＞

①伸びる姿、培う力を思い描き、子どもの活動から発展する遊びを見つける。

②遊びが広がる、深まるための手立てを工夫し、活動の前後と途中に設定する。

③子どもが自ら遊びや環境を構成、再構成することを望ましい姿としてとらえる。

④下記の科目終了試験学修のポイントも参考になる。

科目終了試験学修のポイント

具体的な事例を挙げて、考察すること。

1．子どもにとっての遊びの必要性について

＜ポイント＞

遊びの意義と実体験等による理解。子どもの活動から遊びの発見と教師の構え。

2．子どもの遊び・活動を受け止め、働きかける援助について

＜ポイント＞

その子なり、その子どもたちなりの遊びの良さを認め、広げ、深める援助・環境設定の工夫。

3．子どもが構成、再構成していく遊びについて

＜ポイント＞

自ら遊びを広げ、深めていく子どもたちを認め、さらに豊かにするための援助等の工夫。

4．子どもが遊びに没頭できる環境の工夫について

＜ポイント＞

子どもがかかわる快い環境の分析と、教師・教師集団が動く援助・環境設定の工夫。

5．保育者が学んでおくべき自然や人へのかかわり方、態度について

＜ポイント＞

地域や自然その教材価値の入手、分析と活用。子どものモデルとして地域、自然に対応する構え。

6．保育者が保育の中で感じる喜び（心の中の遊び・生きがい）について

＜ポイント＞

子どもとともに伸びる教師の姿、構え。教材開発、援助方法の工夫と子どもの成長。

教科書

塩美佐枝『保育環境プランニングブック②　3・4・5歳児の保育環境』チャイルド本社。

参考文献

水谷光『運動と遊び』樹村房。

科目コード	こどもの保健　(2 単位)	登録年次	履修方法
6780		2年	R
教員名	石本強、佐野葉子、手塚和美		

科目概要

子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義を理解する。子どもの運動機能及び生理機能の発達と保健について理解する。また、子どもの健康状態、心身の不調時の観察方法、発育・発達の把握と健康診断を具体的に学ぶ。子どもの疾患についての病態生理、その予防方法と保育者としての適切な対処方法について学ぶ。現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を学び、虐待の防止方法、早期発見、対応方法、保護者との連携や、地域との連携を学ぶ。

1) 子どもの形態的発育、機能的発達、精神機能の発達について学び、説明することができるようになる。
2) 小児期の発育・発達に必要な栄養、ことに母乳哺育について学び、説明することができるようになる。
3) 子どもの生活リズムについて学び、説明することができるようになる。
4) 子どもによくみられる疾病とその対処法について学び、説明することができるようになる。
5) 小児期の事故と安全教育、保育環境について学び、説明することができるようになる。
6) 母子保健の現状と課題について学び、説明することができるようになる。

学修内容

1	ガイダンス：保育における子どもの保健の概要、健やか親子 〈ポイント〉小児統計、健やか親子について理解する
2	子どもの健康を守る意義：健康の概念、解剖生理の理解 〈ポイント〉健康の概念、小児の解剖生理について理解する
3	子どもの成長と発達①胎児の発育、小児期各期の身体発育 〈ポイント〉小児期各期の身体発育について理解する
4	子どもの成長と発達②運動、神経、精神、呼吸、循環器 〈ポイント〉小児期各期の運動、神経、精神発育等について理解する
5	子どもに多い病気①感染症 〈ポイント〉小児期に多い感染症の病態生理について理解する
6	子どもに多い病気②感染症 〈ポイント〉小児期に多い感染症の病態生理について理解する
7	子どもに多い病気③消化器系、呼吸器系、内分泌系 〈ポイント〉小児期に多い消化器系、呼吸器系、内分泌系の疾患の病態生理について理解する
8	子どもに多い病気④アレルギー系 〈ポイント〉小児期に多いアレルギー系の疾患について理解する
9	子どもの精神保健：子どもの環境・虐待の要因とその影響 〈ポイント〉子どもの環境要因・虐待の要因について理解し、その対策についても考察する
10	子どもの発達障害：発達障害の種類とその対応 〈ポイント〉発達障害の種類とその特徴、子どもへの対応について理解する
11	子どもの栄養：母乳栄養、人工栄養、離乳 〈ポイント〉母乳栄養、人工栄養、離乳の特徴について理解する
12	子どもの健康管理①年間計画、月間計画（お便り作成） 〈ポイント〉子どもの健康を守るために年間計画を立て、実際におたよりを作成する
13	応急処置の方法①：一時救急 〈ポイント〉小児の一時救急の方法を理解する
14	応急処置の方法②：応急手当方法 〈ポイント〉保育現場の応急処置の方法を理解する
15	まとめ 〈ポイント〉保育者として子どもの命、健康を守るために必要なことについてまとめる

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】小児期に多い感染症と感染対策について述べよ。

＜ポイント＞

小児期に多い感染症の種類、病原体、感染経路、症状、合併症、治療法と予防方法について理解する。

科目終了試験学修のポイント

１．健康の概念と現代の小児保健における問題点について

＜ポイント＞

健康の概念、現代の小児保健に関する統計や、問題点を理解する。

２．健康状態の観察について

＜ポイント＞

小児の健康状態の観察ポイントを理解する。

３．子どもの身体的、精神的発達及び運動発達について

＜ポイント＞

子どもの発育、発達の特徴を理解する。

４．小児期に多い感染症について

＜ポイント＞

小児期に多い感染症の病原体、感染経路、主症状、合併症、及び予防対策について理解する。

５．小児期に多い消化器の疾患について

＜ポイント＞

小児期に多い消化器の疾患の症状、観察ポイント、対処方法について理解する。

６．保健活動と虐待防止について

＜ポイント＞

地域社会での保健活動及び虐待の要因、対応について理解する。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

参考文献

大西文子、『子どもの保健演習』習中山書店。

科目コード	こどもの保健Ｉａ（２単位）	登録年次	履修方法
6500		２年	R
教員名	石本強、佐野葉子、手塚和美、橋本由利子		

科目概要

ヒトの一生の中で、小児期は身体的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。成長・発達を続けている小児の健康の意味を理解し、健全育成をはかることが大切である。さらに、幼稚園、保育所の連携が進んでいる今日、小児の疾病とその予防対策、事故と安全対策などの健康障害に関する知識の習得を行うと同時に、日常の保育活動の場で実践できる能力を身につけることが求められている。

こどもの保健Iaでは小児の健康と発育について学ぶ。

学修内容

1	子どもと保健：子どもの定義と範囲
2	子どもと保健：子どもの健康と保健
3	子どもの成長と発達：子どもの成長・胎生期の発育
4	子どもの成長と発達：子どもの身体発育
5	子どもの成長と発達：生理・運動機能の発達
6	子どもの成長と発達：精神機能・発達
7	子どもの精神保健：子どもの精神保健の概略と診断
8	子どもの精神保健：精神保健における治療と療育
9	子どもの精神保健：精神分析とこころの発達
10	子どもの精神保健：こころの健康と行動
11	子どもの生活と保健：保育環境・保育現場と衛生管理
12	子どもの生活と保健：保育現場における事故防止
13	子どもの食：子どもの食と栄養生理
14	子どもの食：乳児期・幼児期・学齢期の食
15	子どもの食：特別な配慮を要する子どもの食・食育

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】わが国の乳児・新生児死亡率について述べよ。

＜ポイント＞
「死亡率」は何かについて説明し、新生児および乳幼児の死亡率の推移や最近の動向、今後の小児保健上の課題などについて、諸外国と比較しながらまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．胎児・新生児の血液循環について
＜ポイント＞
循環機能の発達、胎児循環を理解する。

2．小児期の事故の特徴について
＜ポイント＞
乳幼児期における事故の特徴を理解する。

3．母乳哺育の意義について
＜ポイント＞
母乳の利点、母乳栄養などについて理解する。

4．離乳に関する最近の考え方について
＜ポイント＞
離乳の必要性、方法、進め方について理解する。

5．わが国の周産期死亡率と周産期死亡原因について
＜ポイント＞
周産期死亡率、周産期死亡原因を学ぶ。

6．小児期における各時期の特徴について
＜ポイント＞
発育の特徴、生理機能、精神機能などについて理解する。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

参考文献

鈴木路子、他『教育健康学－教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。

科目コード	こどもの保健Ｉｂ（２単位）	登録年次	履修方法
6510		２年	R
教員名	石本強、佐野葉子、手塚和美、橋本由利子		

科目概要

ヒトの一生の中で、小児期は身体的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。成長・発達を続けている小児の健康の意味を理解し、健全育成をはかることが大切である。さらに、幼稚園、保育所の連携が進んでいる今日、小児の疾病とその予防対策、事故と安全対策などの健康障害に関する知識の習得を行うと同時に、日常の保育活動の場で実践できる能力を身につけることが求められている。

こどもの保健Ｉｂでは小児の健康障害に対する知識の習得とその対策について学ぶ。

学修内容

1	保育現場での保健の実際：排泄・衣服
2	保育現場での保健の実際：清潔・抱っこ
3	保育現場での保健の実際：育児用品
4	子どもの病気と保育：健康状態の把握・主な症状
5	子どもの病気と保育：病気の予防と対応・アレルギー
6	子どもの病気と保育：感染症と予防接種・障害のある子ども
7	救急処置：意識障害・呼吸停止・心停止・ショック・けいれん
8	救急処置：切傷・捻挫・熱傷
9	救急処置：誤飲・鼻出血
10	保育所と家庭の連携：家庭・保護者とのパートナーシップ
11	保育所と家庭の連携：生活リズム
12	保育所と家庭の連携：食事・睡眠・健康教育
13	母と子どもの保健：気候風土と育児・母子保健・少子化対策
14	母と子どもの保健：保育の現状・法令と母子保健
15	母と子どもの保健：関係機関・検診診査・児童虐待

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】免疫について述べよ。

＜ポイント＞
ヒトに備わっている免疫機構についてまとめ、特に新生児で感染予防に効果をあげている母子免疫についても説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．小児期によくみられる病気とその対策について
＜ポイント＞
小児期の病気・症状とその対策を理解する。

2．救急処置について
＜ポイント＞
意識障害やショック、子どもによく見られるケガ、誤飲・誤嚥の対処法について理解する。

3．小児の予防接種について
＜ポイント＞
予防接種、制度、種類などを理解する。

4．乳幼児の体温調節について
＜ポイント＞
乳幼児の体温調節と衣類の調整などについて理解する。

5．学校感染症について
＜ポイント＞
学校において問題となる感染症について理解する。

6．子どもの健康状態の把握について
＜ポイント＞
健康と病期における状態把握について理解する。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

参考文献

鈴木路子、他『教育健康学ー教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。

科目コード	こどもの保健Ⅱ（１単位）	登録年次	履修方法
6520		２年	S
教員名	佐野葉子、手塚和美、二宮球美、橋本由利子		

科目概要

こどもの保健Ⅱは、こどもの保健Ⅰａ、こどもの保健Ⅰｂで学んだ知識を基礎として、保育の場において保育者として、実践できる応用力と指導力を養う知識と技術を習得することを目的とする。

小児の健康状態の観察、身体発育の測定方法と評価、乳幼児の養護、事故防止と安全教育、応急処置、急病の看護、包帯法、心肺蘇生法、集団保育における健康管理等の知識と技術を習得する。また、歯磨き、手洗い・うがいについて指導できる実践力を学ぶ。

学修内容

1	子どもの保健Ⅱの目的および保健活動の計画および評価：教科書 pp.1-7 を読み、子どもの保健Ⅱの目的、保育所における保健計画の意義と作成方法について理解する。
2	健康状態の観察と生理機能の評価：教科書 pp.8-22 を読み、発育・発達に応じた全身状態の観察のポイントとその意義、体温・呼吸・脈拍等生理機能の測定方法や評価方法とその意義を学修する。被虐待児の観察のポイントについても把握する。
3	身体発育の測定方法と評価：教科書 pp.23-39 を読み、発育に応じた体重・身長・胸囲・頭囲の計測方法、評価方法とその意義を学修する。パーセンタイル値やカウプ指数についても理解する。
4	精神、運動機能の発達、発育の観察とその評価：教科書 pp.40-43 を読み、新生児の諸反射運動、精神、運動機能の発達と発育順序およびその評価方法について、学修する。
5	子どもの保健と環境:教科書 pp.48-51 を読み、保育環境の重要性と保育所保育指針に基づいた保育所設備について理解する。
6	子どもの基本的生活習慣の確立過程と適切な援助方法について：教科書 pp.51-56 を読み、子どもの生活習慣（睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔等）の確立過程と適切な援助方法について理解する。
7	子どもの養護技術について：教科書 pp.57-59 を読み、乳児の抱き方、寝かせ方について学修する。また教科書ｐ76-84 を読み、排泄のさせ方や衣服の着せ方・脱がせ方について学修する。
8	子どもの養護技術について（つづき）：教科書 pp.85-91 を読み、身体（全身、口腔、手指）の清潔の方法、日光浴と外気浴の意義と方法について理解する。
9	子どもの疾病と適切な対応：教科書 pp.99-105 を読み、体調不良のときの対応、感染症の予防と対策、個別的な配慮を必要とする子ども等への適切な対応について学修する。
10	保育における看護と応急処置：教科書 pp.132-166 を読み、子どもがかかりやすい疾病とその看護方法、罨法、薬の与え方、消毒等の方法について学ぶ。
11	救急処置および心肺蘇生法について：教科書 pp.109-122 を読み、救急処置の意義、基本処置、心肺蘇生法（成人・小児・乳児の各方法）について学修する。
12	救急処置の方法（つづき）：教科書 pp.122-131 を読み、傷病児の運搬方法、包帯の目的と主な使い方について学修する。
13	子どもに起こりやすい事故の種類について：教科書 p.106 を読み、子どもの事故はどのような時におこりやすいか、それを防止するためにはどうしたらよいかを学修する。
14	安全教育について：教科書 pp.107-108 を読み、各年齢に応じた安全教育について学修する。また参考文献「保育園における危険予知トレーニング」等を読み、どのようにしたら子どもたちにわかりやすく学修させることができるか考える。
15	今まで学修したことを総合して、保育の現場において保育者として子どもの健康を守るために行う事柄について自分なりのまとめを作成する。

教科書

白野幸子『子どもの保健Ⅱ 演習』医歯薬出版株式会社。

参考文献

千羽喜代子、他『改訂　実習育児学』日本小児医事出版社。

田中哲郎『保育園における危険予知トレーニング』日本小児医事出版社。

科目コード	算数（２単位)	登録年次	履修方法
7410		２年	R
教員名	杉山憲江、土屋修		

科目概要

算数・数学科は、積み重ねの学修であるので、最も習得が難しい教科であることを認識することが必要である。同様に、指導も難しく、指導する段になって初めて、正確で広範な知識習得が必須であることに気づかされる。

この科目を学ぶことにより、指導者が必ず習得しておかなければならない①学習指導要領の重点と概要、②算数・数学科の教育内容と教育方法について高い理解に到達し、初等数学の指導にあたるための基礎を習得することができる。

学修内容

1	小学５年生終了時に求められる学力について 前年度実施「全国学力・学習状況調査算数科問題」をダウンロードし自ら解いてみることで求められる学力を認識する。
2	算数科学習指導要領における「改訂の経緯及び基本方針」と「算数科改訂の趣旨及び要点」について 教科書①　pp.1-20 を通読し、学習指導要領の重点を知る。
3	算数科学習指導要領の「算数科の目標」について 教科書①　pp. 21-32 を通読し、目標を知るとともに数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動についての理解を深める。
4	各学年の「算数科の内容」について 教科書①　pp. 33-75 を通読し、内容を知るとともに数学的活動の意義についての理解を深める。
5	学習内容１～4 を振り返り、現行の学習指導要領に至るまでの経緯と目標を理解し、まとめる。
6	第１・２学年の「目標及び内容」について 教科書①　pp.76-133 を通読し、数学的な活動に視点をあてながら学修内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント１
7	第３・４学年の「目標及び内容」について 教科書①　pp.134-231 を通読し、数学的な活動に視点をあてながら学修内容をまとめる。
8	第５・６学年の「目標及び内容」について 教科書①　pp.232-321 を通読し、数学的な活動に視点をあてながら学修内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント２
9	「指導計画作成上の配慮事項」、「内容の取扱いについての配慮事項」及び「数学的活動の取組における配慮事項」について 教科書①　pp. 322-338 を通読し、学修内容をまとめる。
10	「数と計算」領域の指導内容 教科書①　pp. 42-49　　教科書②　pp.41-105 を通読し、「数と計算」領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント３
11	「図形」領域の指導内容 教科書①　pp. 50-56　　教科書②　pp.106-143 を通読し、「図形」領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント４
12	「測定」（1～3 年）領域の指導内容 教科書①　pp. 56-61　　教科書②　pp.144-172 を通読し、「測定」（1～3 年）領域の指導内容をまとめる。
13	「変化と関係」（4～6 年）領域の指導内容 教科書①　pp. 61-66　　教科書②　pp.173-202 を通読し、「変化と関係」（4～6 年）領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント５
14	「データの活用」領域の指導内容 教科書①　pp. 67-71　　教科書②　pp.203-230 を通読し、「データの活用」領域の指導内容をまとめる。 科目終了試験学修のポイント６
15	学習内容６～14 を振り返り、小学校での初等数学の内容を理解し、まとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】『学習指導要領』における数学的活動について、導入の経緯とその充実や内容に関して述べよ。

＜ポイント＞
数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現させるためには、どのような点に留意することが必要か考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．第1・2学年での数学的活動を通した学習活動について
＜ポイント＞
・第1学年　教科書①　pp.96-101
・第2学年　教科書①　pp.127-133　の内容をまとめる。

2．第3～6学年での数学的活動を通した学習活動について
＜ポイント＞
・第3学年　教科書①　pp.172-178
・第4学年　教科書①　pp. 224-231
・第5学年　教科書①　pp.276-283
・第6学年　教科書①　pp.314-321　の内容をまとめる。

3．「数と計算」領域の指導内容について
＜ポイント＞
・教科書②　pp.104-105 の【課題 4－1】～【課題 4－9】を行う。

4．「図形」領域の指導内容について
＜ポイント＞
・教科書②　p.142 の【課題 5－1】～【課題 5－6】を行う。

5．「測定」（1～3 年）、「変化と関係」（4～6 年）領域の指導内容について
＜ポイント＞
・教科書②　pp .171-172 の【課題 6－1】～【課題 6－6】、及び pp .200-201 の【課題 7－1】～【課題 7－6】を行う。

6．「データの活用」領域の指導の内容について
＜ポイント＞
・教科書②　pp.229-230 の【課題 8－1】～【課題 8－6】を行う。

教科書

①文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説算数編』日本文教出版。
②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社。

参考文献

算数科教科書(自分が受験する自治体が採用しているもの)。
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示)』東洋館出版社。

科目コード	算数科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4180		２年	ＳＲ
教員名	杉山憲江、土屋修		
教職区分	「教科及び教科の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報の機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

本科目は，教育職員免許法で定められた「教職に関する科目」の一つである「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。この科目は小学校での算数科の指導法について学習する。小学校学習指導要領算数科の目標及び内容を踏まえるとともに，算数科において目指す資質・能力を身につけさせるための不断の授業改善に取り組むことが求められている。この科目を学ぶことにより，授業のための教材研究，下位目標行動の分析，児童の実態調査，学習指導案の作成，模擬授業，評価などを内容とし，研究授業の初歩を習得することができる。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	前年度実施「全国・学力学習状況調査算数科問題」の中で，正答率を上げたい問題を選ぶ。 13回までに指導案を完成し，14回に模擬授業を行う。着目した問題が，何年生のどの目標・どの単元に照応するかを調べる。また、その単元の模擬授業を行う場合、どのような数学的活動が効果的であるか考える。 教科書①pp.71-75，教科書②pp.12-18 を参照する。	・これからの算数数学科教育で求められているもの （目標と内容、数学的活動、数学的な見方・考え方）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
2	授業をする単元が，前の学年のどの単元と関連するか，また，後の学年のどの単元と関わっていくかを調べる。 教科書①pp.33-75 を参照し，着目した問題を解決するために，どのような既習の知識・技能が必要かについて，下位目標を分析する。(その問題を解くために，下学年で学んだどの学年の知識・技能が必要かを最低限把握すること)	・算数科の指導の実際 （子どものつまずきとそれを踏まえた指導上の留意点）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
3	学習評価に関する基本的な考え方を知る。 前時で設定した下位目標に照らして、その実現状況をみるための具体的な子どもの姿を明らかにすることを通して、学習評価の基本的な在り方や評価規準の設定方法等について知る。	・算数科の学習評価に関する基本的な考え方 （評価の観点等及びその趣旨と方法）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
4	教材研究を中心に指導案を作成するための方法を知る。 教科書②pp.257-283 を通読し，指導案作成の流れを知る。　科目終了試験学修のポイント１	・算数科の教材の捉え方 （教材研究の意義とその方法）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
5	授業づくりに必要な技術を知る。 教科書②pp.284-309 を通読し，授業に必要な技術を知る。	・算数科の学習指導の技術 （教育効果を高める ICT の活用法と教材づくり）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
6	模擬授業と同じ単元の指導案を，書籍やインターネット等で探し，先行実践事例を把握する。 教科書①pp.76-321，教科書②pp.41-230 を参照する。	・算数科における学びの質を向上させる授業展開 （主体的・対話的で深い学びの在り方）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
7	1 時～6 時の学習を振り返り、算数科の授業づくりのポイントと手順，実態把握の方法について理解し，レポートにまとめる。 【レポート課題】	・算数科の基本的な授業展開 （子どもの実態を捉えた学習指導のポイント）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	基本的な様式に従い，指導案の「目標」から，「指導方針」までを作成する。 教科書②pp.272-278 を参照し，指導案の前 1/3 を作成する。 科目終了試験学修のポイント２	・算数科の学習指導案の作成（１） （単元の目標、評価規準、考察（教材観、児童の実態、指導方針））	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
9	指導計画の作成と内容の取扱いについて知る。 教科書①pp.322-338　を通読，教科書②pp.257-265 を参照する。 科目終了試験学修のポイント３		印刷授業

10	基本的な様式に従い，指導案の「単元の指導計画と評価計画」を作成する。 教科書②p.279 を参照し，指導案の前 2/3 までを作成する。	・算数科の学習指導案の作成（2） （単元の指導及び評価計画、本時の展開と板書計画）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
11	基本的な様式に従い，指導案の「本時の指導」と「板書計画」を作成する。 教科書②pp.279-281 を参照し，指導案の最後までを作成する。 科目終了試験学修のポイント 4		印刷授業
12	指導案の全体を通し不具合な点を修正し，教材を作成する。 教科書②pp.273-281 を参照し，目標・評価等に一貫性があるか，また特に，本時の発問・指示等を検討する。	・模擬授業と模擬授業研究会（1） （A「数と計算」、B「図形」、C「測定（1～3 年)」領域の指導のポイント）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
13	授業のリハーサルを通し，本時の指導の展開の改善を図る。 指導者の言葉遣いや動き，評価，子供の支援，教具の見易さなどについて改善を図る。 科目終了試験学修のポイント 5		印刷授業
14	ビデオを使い模擬授業を行う。 模擬授業(15 分)を行い，ビデオカメラで撮影する。ビデオを再生し，自他の模擬授業の成果と課題をまとめる。	・模擬授業と模擬授業研究会（2） （C「変化と関係（4～6 年)」、D「データの活用」領域の指導のポイント） （模擬授業と模擬授業研究会のまとめ）	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	算数科指導法で学んだこと全体に関する疑問点，成果と課題をまとめる。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】算数科の授業づくりのポイントと手順，実態把握の方法について述べよ。

＜ポイント＞
小学校学習指導要領算数科において重視されている，数学的活動を通して基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力、表現力、学習意欲というポイントを押さえる。また，指導案作成の基本的な手順と子供の実態調査の方法についてまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．指導案の作成の流れについて
＜ポイント＞
算数科の教材研究の大切な点についてまとめる。
2．算数科の授業の組み立てについて
＜ポイント＞
教科書②p.265 の課題を行い，要所を押さえる。
3．指導計画と評価計画について
＜ポイント＞
教科書②pp.257-265 を参照し，児童の実態に応じた指導計画・評価計画作成の要所を押さえる。
4．本時の指導と板書計画の作成について
＜ポイント＞
問題提示の工夫，課題・まとめの照応と分かりやすい表現，評価方法の記載方法，ノート筆記が向上する板書計画等についてまとめる。
5．本時の指導の展開について
＜ポイント＞
本時の指導の中に含まれる多くの配慮事項について，まとめる。

教科書

①文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 算数編』日本文教出版。
②土屋修・佐々木隆宏『算数教育の基礎がわかる本』学術図書出版社。

参考文献

算数科教科書(自分が受験する自治体が採用しているもの)。
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示)』東洋館出版社。

科目コード	自然科学の基礎（２単位）	登録年次	履修方法
1491		１年	R
教員名	有働文雄、成田成、松崎茂		

科目概要

目まぐるしく進化する科学技術の基礎的な概念やしくみを理解し、短期大学程度の一般教養を養うとともに、就職や採用試験などで課される自然科学の領域（物理、化学、生物、地学など）の必要な知識を身につける。

学修内容

1	イントロダクション：自然科学で取り扱う分野 自然科学は大きく、物理、化学、生物、地学の４分野に分類される。しかし、最近の自然科学では、それぞれの分野について厳密な境界を設けるのが困難である。授業のイントロダクションとして、自然科学が扱う分野について学修する。
2	物理学①　力の釣り合い 物体の間に存在する相互作用につき、ニュートン力学を中心に学ぶ。特に、てこの原理、滑車、ばね（フックの法則）、浮力（アルキメデスの原理）などについて、具体例をあげて学修する。
3	物理学②　運動とエネルギー ニュートン力学をもとに、速度と加速度、等速度直線運動、加速度運動などについて学ぶ。運動方程式から運動軌跡を求める。運動エネルギー、位置エネルギー、熱エネルギーとの関係、運動量保存の法則などについても学ぶ。
4	物理学③　原子・分子 物質の基本を構成する原子の構造（原子核中の陽子・中性子、電子）と原子核崩壊・核分裂、電離放射線（ガンマ線、X線）の発生メカニズムについて学ぶ。
5	化学①　物質の三態 物質は、気体、液体、固体の三態からなるが、それぞれの状態の特性について、温度と圧力との関係を中心に学ぶ。 気体ではボイル・シャルルの法則、液体では溶解度、固体では結晶と原子・分子間力との関係について学ぶ。
6	化学②　周期律表と原子の性質 周期律表とはどのように作成されたのか、また配置されている原子の特性について理解する。特に、第1～第3周期の原子についてはイオンの形成について学ぶ。
7	化学③　化学反応 化学反応は、原子・分子の結合を変化させてエネルギーレベルの異なる状態に変化することであるが、反応前後で質量は変化しない。代表的な化学反応として酸化・還元反応があり、電池や電気分解を例にして学修する。
8	生物学①　細胞の構造 生命体の基本構造である細胞について、細胞膜、細胞内小器官（ミトコンドリア、ゴルジ体、リボゾームなど）、核とＤＮＡについて、構造と機能について学ぶ。さらに、遺伝の法則についても学ぶ。
9	生物学②　光合成、呼吸 細胞が活動するためのエネルギーは、動物細胞、植物細胞のいずれもエネルギー源を酸化させることによって産生している。一方、植物は葉緑体において光エネルギーと水、二酸化炭素から炭水化物を産生する。動物・植物の相違点・類似点について、呼吸・光合成を踏まえて学修する。
10	生物学③　エコシステム 地球上に生命が維持されるためには、動物・植物を含めた生物多様性が必須の要件である。生産者、消費者、分解者の関係について理解し、生物多様性や環境保全の重要さについて学ぶ。
11	地学①　太陽系と惑星 太陽系は太陽と８個の惑星、多数の小惑星や準惑星、衛星などから構成されている。惑星は、構成成分と構造から、地球型、木星型、天王星型に分類されている。太陽、惑星の特徴、惑星の自転と公転について学ぶ。
12	地学②　大気と海流、天気 地球は大きく、大気圏、水圏、地圏の３圏に分類される。ここでは、大気圏と水圏について、気象現象、海洋現象について、両者の関連を考慮しながら学ぶ。また、大気汚染、海洋汚染、温室効果の生態系への影響についても学ぶ。
13	地学③　地質と地殻変動 ここでは地圏を取り上げる。岩石（火成岩、堆積岩、変成岩）、火山、地殻変動と地震・津波について学ぶ。地球の内部構造についても学ぶ。
14	自然科学総合①　宇宙の歴史と構造 現在の宇宙は137億年間に起こったビッグバンに始まるとされている。星雲の構造、恒星の誕生と爆発、原子の形成、45億年前の地球の誕生までの歴史などについて学ぶ。
15	自然科学総合②　生物進化の歴史 地球が誕生してから約5億年経過した40億年前に、生命が誕生したと考えられている。原始生命体から人に至るまでの生物進化の歴史について、形態的変化に加えて、最新の分子生物進化の概念を含めて学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】プレートと地震の発生について述べよ。

＜ポイント＞

日本付近では、海洋プレート（太平洋プレート、フィリピン海プレート）と大陸プレート（北米プレート、ユーラシアプレート）が接しており、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込んでいる。まず、プレートの形成と性質について述べる。次に、プレートの移動とプレート境界型および内陸型地震の発生メカニズムを述べ、災害について考察する。

科目終了試験学修のポイント

1．水力発電における発電量と水量、落差の関係について

＜ポイント＞

水力発電では水の位置エネルギーを運動エネルギーに変換し、それをさらに電気エネルギーに変換する。

位置エネルギー（ｍｇｈ＝ジュール）から電気エネルギー（ジュール→ワット）の算出を、具体例を挙げて説明する。

2．原子核崩壊と放射線、半減期について

＜ポイント＞

原子核が不安定な場合、自然と崩壊する。崩壊時に放出される粒子、形成される原子核、電磁波によるエネルギーの放出について考察する。また、原子核の崩壊スピードについても、具体的な核種を挙げて説明する。

3．周期律と元素の性質について

＜ポイント＞

原子は、最外側を回る電子数によって化学的特徴が決まっている。周期律表の1族（H、Li）～18族（He，Ne）の原子について、性質を解説する。

4．地球温暖化の原因と環境への影響について

＜ポイント＞

温室効果ガスとして二酸化炭素やメタンが注目されている。これらの化合物の発生原因と、環境温の上昇が気象や生物に及ぼす影響について考察する。

5．日本における植物群落の垂直分布について

＜ポイント＞

日本の気候は基本的には温帯に属すが、南西諸島は亜熱帯、北海道は亜寒帯に属す。また、平均気温は標高が100m高くなると0.6℃低下するので、高所では寒帯に属す地域がある。日本各地について、標高ゼロからに高地に至るまでの植物分布の特徴について説明する。

6．火山の形とマグマの性質について

＜ポイント＞

地下のマグマが地表に噴出したものが溶岩であり、粘性が低ければ薄く広がり、高ければ盛り上がる。マグマの温度・粘性によってどのような形の火山が作られるか考察する。

教科書

資格試験研究会『光速マスター　自然科学』実務教育出版。

参考文献

杵島正洋、他『新しい高校地学の教科書』講談社ブルーバックス。
左巻健男、他『新しい高校化学の教科書』講談社ブルーバックス。
栃内新、他『新しい高校生物の教科書』講談社ブルーバックス。
山本明利、他『新しい高校物理の教科書』講談社ブルーバックス。

科目コード	児童生徒指導論（進路指導を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
4080		２年	R
教員名	大島聡、攪上哲夫		

科目概要

学校の本来的な中心任務は「教科指導」にあるが、その前提となる、あるいはそれと並行しての、生徒指導ないし生活指導の重要性も否定しえず、むしろ今日、学校においてはその意義はますます大きくなっている。ここでは、こうした事情を踏まえて、生徒指導における幾つかの場面に関して重点的に、理論と実践を概説しようとするのである。主な内容は、生徒指導の本来的な目的及びガイダンスの機能の充実による生徒指導の意義、いじめや不登校・児童生徒懲戒などの諸問題、更に教育相談、進路指導、学級経営の問題を扱う。

学修内容

1	生徒指導の理論と方法① ・直面する学校不適応及び問題行動 ・増加する不登校の児童生徒　・いじめのとらえ方の変遷といじめの発生状況の分析　・校内暴力の実態
2	生徒指導の理論と方法② ・生徒指導の意義・ねらいと性格　・ガイダンス機能の充実と生徒指導 ・生徒指導の意義とねらいを学習指導要領から考察 ・学習指導要領に示されている「ガイダンス機能の充実」の視点と今後の生徒指導の一層の充実
3	生徒指導の理論と方法③ ・生徒指導の歴史と理論　・生徒指導と法制 ・戦後の我が国の生徒指導の歴史　・生徒指導に関する主な法令についての考察
4	生徒指導の理論と方法④ ・生徒指導の方法(進め方)　～人間関係づくり、自己指導能力の育成、児童･生徒理解 ・教師と子ども、子ども相互の人間関係づくり　・自己指導能力育成の重要性 ・児童生徒理解の基本と児童生徒理解のための資料収集の仕方
5	生徒指導の理論と方法⑤ ・生徒指導の方法(進め方)　～生徒指導の進め方や生かし方、問題行動の理解と指導 ・集団場面における生徒指導の進め方　・教育課程の各教科、領域等における生徒指導の生かし方 ・学校不適応、不登校、いじめ問題等の問題行動の理解と適切な指導のあり方
6	生徒指導の事例研究 ・ゆるすな　いじめ ・いじめの定義といじめ発見件数　・いじめる側といじめられる側との関係　・いじめと不登校との関係 ・大人たちの責任　・いじめ対策への提言　・いまだに頻発するいじめと自殺問題
7	教育相談の理論と方法① ・教育相談の意義とねらい　・教育相談の進め方 ・学校教育相談と教育との関係　・学校教育相談の特質　・教育相談の場と機会　・教育相談の形態とその場面 ・演習
8	教育相談の理論と方法② ・教育相談の技法と実際　・教育相談を進める上での配慮事項 教育相談の実際～　・不登校の理解と対応　・いじめ、非行の理解と対応 教員の資質向上のためのスキル～　・子どもの話の聞き方　・ほめ方、しかり方　・教師が行うカウンセリングの基本
9	進路指導の理論と方法① ・進路指導の意義と性格　・進路指導の歴史と理論 ・進路指導の定義　・進路指導の教育的・社会的意義　・進路指導の目標と性格　・進路指導の法制
10	進路指導の理論と方法② ・キャリア教育の意義と実際 ・キャリア教育が求められる背景・経緯　・キャリア教育の教育課程への位置付けと進路指導の改善・充実
11	進路指導の理論と方法③ ・進路指導の組織と計画　・進路指導の課題と展望 ・校内組織、指導体制　・小中高における進路指導の指導計画　・学校観、進路指導観の転換 ・能力、適性選抜システムの改善　・物質、人的条件の拡充整備　・学校外教育との連携強化 ・生涯学習社会への移行
12	学級経営の理論と方法① ・学級経営の基本課題　・学級経営の意義、ねらい、役割　・学級は教育活動の母体　・学級における個人と集団 ・学級の人間化　・子どものつまずきは教師のつまずき　・教師と子どもの人間関係の確立 ・学級経営の法的背景　・学級経営の理念は管理でなく理解　・学級経営の内容

13	学級経営の理論と方法② ・学級経営の方法、進め方　・学級経営の組織と計画　・学級崩壊の事例検討 ・集団経営　・教室経営　・事務経営　・連携経営　・適応指導教室　・学級の組織と編成 ・保護者との連携　・学級経営案　・学級崩壊とは　・学級崩壊の類別　・学級崩壊の実際 ・学級崩壊からの再生
14	学級経営の理論と方法③ ・特別支援教育の理解と対応　・軽度発達障害児支援への事例検討　・ADHD、 LD、高機能自閉症の理解と対応 ・軽度発達障害による二次障害　・特別支援教育の推進　・ビデオ視聴を通しての事例研究
15	児童生徒指導論のまとめ ・期末レポートを基にしてのグループワーク

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】学校教育における生徒指導の意義や役割及びガイダンスの機能の充実によるこれからの生徒指導のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

生徒指導は、本来的に教師と生徒、生徒同士の好ましい人間関係上で生徒の自己実現を支援する働きであり、「生き方」の指導である。また、新学習指導要領で示された「ガイダンスの機能の充実」は、生徒指導の新しい視点として今後の方向を示唆している。これらを前提にして、具体例を挙げながら説述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．ガイダンスの機能の充実を図ったこれからの生徒指導について

＜ポイント＞

・平成１０年度の学習指導要領改訂時に中学・高校の「総則」と「特別活動」に「ガイダンスの機能の充実」という言葉が登場した。内容は(5)に「 生徒が学校や学級での生活によりよく適応するとともに、現在及び将来の生き方を考え行動する態度や能力を育成する事が出来るよう、学校の教育活動全体を通じ、ガイダンスの機能の充実を図ること」とある。

・小学校においては「ガイダンス」の言葉は用いられていないが、ほぼそれに相当する言葉が、総則の指導計画作成上の配慮するべき事項(5) に、「各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題や活動を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けたりするなど工夫すること」とある。

・近年の児童生徒の実態から、不登校、いじめ、学校不適応、高校中退等が増加傾向にあり、また「生きる力」の育成を一層重視する立場から、生徒指導の改善充実を図るために、「ガイダンス」の機能の充実が導入されたのである。

２．ガイダンスの機能の充実と進路指導について

＜ポイント＞

・「ガイダンスの機能の充実」に関しては、「特別活動」の内容として、「学級活動」の中で、「将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」を指導することとされ、その具体的な内容として、①進路適性の吟味と進路情報の活用、②望ましい職業観・勤労観の形成、③主体的な進路の選択と将来設計などが明示されている。

・生徒が多様な進路の選択、将来の生き方、あるいは各教科の学習内容を理解できるように工夫し、ガイダンスの機能の充実が図られるようにしなければならない。

・近年は、進路指導はキャリア教育の推進の中に位置づけられ、キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導が系統的に展開され、幅広い能力の形成を目指して行われている。

３．生徒指導を実践するにあたり考慮すべき基本事項について

＜ポイント＞

・生徒指導の究極の目的は、自己指導能力の育成である。自己指導能力は、学習指導要領の総則の「生徒指導」に示されているように「自主的に判断行動し、積極的に自己を生かしていく」ことである。

・自己指導能力の育成のためには、①児童生徒に自己存在感を与える。②共感的な人間関係を育成する。③できるだけ多く自己決定の場を与え、自己の可能性を援助するである。

・生徒指導を行うための前提条件は、教師と児童徒との信頼関係である。生徒指導を効果的に行うために、教師は児童生徒の行動や背景を正しく、客観的に理解する必要がある。教師は常に事実にあった適切な指導を心掛けなければならない。

４．いじめ・不登校・暴力行為等の指導及びＬＤ児・ＡＤＨＤ児の理解について

＜ポイント＞

・いじめや不登校、暴力行為等は、学校教育の根幹を揺るがす重大な問題であり、学校関係者は、日頃から家庭をはじめ、地域の民生・児童委員や児童相談所、警察などの関係機関との連携を密にして、速やかな解決に努めなければならない。

・いじめ　～学校はいじめを発見しやすい立場にあり、児童生徒の学校生活のみならず日常生活にも注意を払い、早期発見とその解決に努めなければならない。

・不登校　～「不登校は誰にでも起こりうること」の認識が大切である。不登校児童生徒の再登校に目を向けるだけでなく、児童生徒の自主性や社会性の伸長、登校意欲の回復、家庭機能の回復と言った対応を取ることが特に大切である。

・校内暴力　～対教師暴力、生徒間暴力、器物破損に分類される。学校は組織の機能を十分に生かし、関係団体や機関と連携を図りながら、将来のある一人ひとりの児童生徒が良さや可能性を精一杯伸ばせるよう指導と援助を推進しなければならない。

・ＬＤ児・ＡＤＨＤ児の理解　～中枢神経系に何らかの機能障害などがあり、学習上困難を有する児童生徒のことである。教師は、対象児童生徒に対する正しい理解と専門的な知識・理解を持つことが求められる。特別支援教育の理念に基づき、教師は障害児と障害をもたない児童生徒との共修や保護者の理解と協力を得て、適切な学級経営を推進しなければならない。

５．学級集団に適応できない児童生徒の指導と特別活動の役割について

＜ポイント＞

・コーディネーターを中心とした校内体制を確立し、不適応児童生徒の学習面、心理面、社会面、進路面、健康面などについて多面的に児童生徒の理解を深め、学校と家庭で信頼関係の構築に努め、情報を共有することが重要である。

・学校で出来ること、家庭で出来ることの意見を出し合って役割分担をすることで、指導・援助出来ることが増えていく。

・不適応の解決に向けた個別的かつ具体的な指導・援助計画として短期の目標、長期の目標を作成することが大切である。

・必要に応じて、病院や相談機関、教育相談室等と協力して、組織的な指導・援助を進めることも大切である。

６．生徒指導上の諸課題と「生きる力」の育成との関連について

＜ポイント＞

・　生徒指導は、人間形成の場としての学校教育において、学習指導と共に心を育てる主要な教育活動である。しかし、今までの生徒指導においては、問題行動そのものへの対応といった消極的な面（消極的な生徒指導）のみがクローズアップされがちであった。しかし、問題行動を自らが未然に防止することができる心を育てる指導(積極的な生徒指導)こそが本来の生徒指導の在り方と言える。

・　生徒指導上の諸問題であるいじめ、暴力行為、不登校等は必ずしも減少傾向に有るとは言えず、依然として厳しい状況が継続している。生徒指導上の諸課題を解決するためには、全ての児童生徒を対象にした積極的な生徒指導を重視し、児童生徒の生きる力を育む生徒指導がますます重要となっていると言える。

・　これからの生徒指導は、児童生徒の「生きる力」の育成をより重視する必要がある。そのためには、集団への適応能力の育成、人間関係を上手に結ぶ能力の育成、人間としての在り方・生き方を考え、行動する能力・態度の育成等の指導、つまり、ガイダンスの機能の充実を図ることに重なってくる。

教科書

高橋哲夫、 他『生徒指導の研究　第三版』教育出版。

東京福祉大学編『教職科目要説　初等教育編』ミネルヴァ書房。

参考文献

高橋哲夫、他『「ガイダンスの機能の充実」によるこれからの生徒指導、特別活動』教育出版。

文部科学省『小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説』特別活動編。

文部科学省『生徒指導提要』。

科目コード	児童福祉（２単位）	登録年次	履修方法
1600		１年	R
教員名	黒木豊域、堀肇		

科目概要

少子高齢社会の進行、家庭や地域における子育て機能の変化など児童や家庭をめぐる環境が著しく変化するなかで、これからの児童福祉には、子どもを健やかに生み育てられる環境づくりを重視した展開が求められている。

このような児童福祉をめぐる環境の変化を踏まえて、児童福祉の理念、児童の権利保障のあゆみ、子育て支援の意義、児童福祉法改正の動向、児童虐待やドメスティック・バイオレンス（DV）への対応、児童福祉援助活動などについて習得するとともに、国際的動向について理解を深める。

学修内容

1	第１章「現代社会と子ども家庭」：子ども家庭福祉を取り巻く現状について、少子高齢化社会と次世代育成支援の視点から学ぶ。さらに、子育てをめぐる現状、子どもの成長・発達の現状について学修する。
2	第１章「現代社会と子ども家庭」：現代社会の子どもの育ちと子育てに関するさまざまな福祉ニーズについて取り上げ、それに対する支援の基本的視点について理解を深める。
3	第２章「子ども家庭福祉とは」：子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障につて学ぶ。まず、「子ども」という存在の意味、「子ども」観などを通して、「子ども」の意義を理解する。さらに、子どもの権利の特徴について学修する。
4	第２章「子ども家庭福祉とは」：次に、子ども家庭福祉の定義を学び、児童福祉を実践する上での原理、理念を学修する。さらに、今日に至るまでの児童福祉の歴史について理解を深める。児童福祉の三原則についても学修する。
5	第３章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：児童福祉法をはじめとする児童福祉六法や「児童虐待の防止等に関する法律」など、子ども家庭福祉に深く関連する法律の概要を学ぶ。児童福祉法の改正についても理解を深める。
6	第３章　「子ども家庭福祉にかかわる法制度」：子ども家庭福祉行政の実施主体と主な実施機関、児童福祉施設など、子ども家庭福祉サービス体系、サービス利用の方法、財源などを学ぶ。また、専門職、苦情処理について学修する。
7	第４章　「子ども家庭にかかわる福祉・保障」：（母子保健）母子保健の目的、歩み、母子保健法、母子保健施策の現状、今後の課題等について学修する。
8	(障害・難病のある子どもと家庭への支援）：障害児および家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、難病の子どもの支援に関する制度について学修する。措置制度から利用契約制度への移行についても学修する。
9	(児童健全育成)：時代の流れを追いながら児童健全育成施策の目的と内容を学び、児童健全育施策の現状や今後の課題について学修する。地域における児童の健全育成についても学ぶ。
10	(保育)：保育の実施体制、保育の対象、保育制度の変遷など保育制度の概要について学修する。また、変化の激しい保育施策の現状について学ぶ。さらに、待機児童問題など今後の課題について理解を深める。
11	(子育て支援)：児童育成の責任と子育て支援に対する社会的支援について理解し、「エンゼルプラン」～子ども子育て応援プランまで、子育て支援施策の動向について学修する。
12	(ひとり親家庭の福祉、児童の社会的擁護サービス)：母子家庭等自立支援策大綱の制定と関連法規の改正、ひとり親家庭の福祉施策の概要や近年の社会的擁護の考え方、社会的養護にかかわる機関・施設などについて学修する。
13	(非行児童・情緒障害児への支援)：非行と情緒障害、非行の動向と非行についての理解、非行児童とその家族への支援に関する制度、情緒障害の内容とそれへの支援、情緒障害児とその家族への支援の課題などについて学修する。
14	(児童虐待対策、子ども家庭にかかわる女性福祉)：児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、児童虐待対策の課題、女性福祉の歴史的経緯と婦人保護事業、ドメスティク・バイオレンスの対応などについて学ぶ。
15	第５章「子どもと家庭への援助活動」：子ども家庭福祉の理念及び制度を踏まえながら、子ども家庭福祉分野における留意すべきソーシャルワーカー実践上のポイントを体系的に学修する。児童福祉専門職の必要性についても学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】「少子化」の要因と児童に及ぼす影響について述べよ。

＜ポイント＞

わが国の少子化問題について、その背景を説明するとともに、少子化が社会経済に及ぼす影響、とりわけ児童の健全育成にどのような影響をもたらすかについて考察すること。また、わが国の少子化対策と次世代育成支援対策についても言及すること。

科目終了試験学修のポイント

1．児童福祉の法体系と実施体制について

＜ポイント＞

①児童福祉法及び関係する法律に対する理解が重要である。

②国・県・市町村といった行政機関と児童相談所など関連機関の役割と機能について理解を深めること。

2．「児童福祉法」改正の動向について

＜ポイント＞

平成9年、13年、16年及び最近の法改正の内容について整理して、理解を深める。

3．児童虐待について

＜ポイント＞

①児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを保護する仕組みについて整理する。

②今後の対策の課題について整理して、理解を確かなものにすること。

4．子育て支援策について

＜ポイント＞

子育て支援施策の流れ、動向について時代を追って整理し、理解すること。

5．児童福祉施設について

＜ポイント＞

児童福祉施設の種類、定義、機能と役割について理解すること。

6．子ども家庭への相談援助活動について

＜ポイント＞

①相談援助活動の基本的視点が重要になります。援助方法を整理する。

②施設ケアとネットワークについて理解を深める。

教科書

（平成20年度までの配本）

福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座4　児童福祉論』中央法規。

（平成21年度以降の配本）

社会福祉士養成講座編集委員会

『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中法法規。

参考文献

『児童厚生労働白書』厚生労働省。

童虐待防止制度研究会『子どもの虐待防止』朱雀書房。

児童養護研究会『養護施設と子どもたち』朱雀書房。

増山均他『子どもの世界と福祉』ミネルヴァ書房。

松原康雄、他『社会福祉士養成テキストブック8 児童福祉論』ミネルヴァ書房。

科目コード	社会（２単位）	登録年次	履修方法
4290		２年	R
教員名	荻原邦昭、小野智一、若狭清紀		

科目概要

小学校社会科の目標と内容について、新学習指導要領を手がかりに検討する。特に、今回の学習指導要領の改訂における小学校社会科の改訂のねらいと目標及び各学年の目標と指導内容の特色等について具体的に検討する。また、学び方や調べ方を身につける学習や体験的な学習、問題解決的な学習を一層重視する社会科学習のあり方について学修する。

学修内容

1	課題：「社会科」に期待されていることは何だろう。 教科書 pp.1-9 を読み、改訂された学習指導要領の性格をまとめよう。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１
2	課題①：教育基本法より、社会科に関係する箇所・条文を見つけよう。 課題②：戦後に登場した社会科はどのような内容であったのか。 関連…【設題１】　関連…科目終了試験学修のポイント１
3	課題：各学年の目標のうち、「理解に関する目標」「態度に関する目標」「能力に関する目標」について注目し、学年を追ってどのような発達を子どもに期待しているのか説明してみよう。教科書 pp.10-17 を参照するとよい。 関連…科目終了試験学修のポイント２
4	課題①：指導計画を作成する上での配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 課題②：各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の配慮事項にはどのようなものがあるのか。要点をまとめよう。 教科書 pp.100-107 を参照するとよい。 関連…科目終了試験学修のポイント６
5	課題：学習指導案作成にあたってのポイントを整理しよう。 授業の時に大切にすることは何か。その根拠も含めて各々リストアップしてみよう。 関連…【設題１】
6	課題：社会科における「言語活動」はどうあるべきか。具体的な指導方法を取り上げ、どう評価するのか説明しよう。 言語活動は例えば実践としてはレポート作成や新聞づくりなどの形で現れる。その成果をどのような観点で評価するべきか考える。 関連…【設題１】
7	第３・４学年の地域学習① 課題：「地域における社会的事象を観察や調査する」にあたり具体的に取り組ませる時のポイントを指摘しよう。 見学活動指導での注意点をリストアップしてみる。 関連…科目終了試験学修のポイント３
8	第３・４学年の地域学習② 課題：地形図から「地形」「土地利用の様子」を読み取ろう。 地元や実習先の学区、または大学付近の地形図を見て気になった場所をリストアップしてみる。 関連…科目終了試験学修のポイント３
9	第３・４学年の地域学習③ 課題：地域巡検を実践しよう。教科書 pp.20-24 を参照し、身近な地域の探検・見学コース案を考えてみる。 関連…科目終了試験学修のポイント３
10	第５学年の国土学習 課題：我が国の位置と領土について調べる際の留意点について説明しよう。教科書 pp.51-52 を参照。 関連…科目終了試験学修のポイント４
11	第６学年の歴史学習① 課題：先人の業績や文化遺産について興味関心をもたせ理解を深めるための指導をする上でのポイントは何か、指摘してみよう。教科書 pp.75-87 を参照。　関連…科目終了試験学修のポイント５
12	第６学年の歴史学習② 課題：社会科と道徳教育の関係について、学習指導要領ではどのように説明されているか。指摘してみよう。教科書 p.104, pp.138-139 を参照。　関連…科目終了試験学修のポイント５
13	第６学年の政治学習 課題：「災害復旧の取り組み」を事例として政治の働きについての学習を進める上でのポイントを指摘してみよう。教科書 pp.88-93 を参照し、教材案を考えてみる。　関連…科目終了試験学修のポイント５

14	第６学年の国際理解学習 課題：「異なる文化や習慣の違い」に触れる学習について、「食文化」を事例として教材を探してみよう。教科書 pp.94-99 を参照し、教材案を考えてみる。　関連…科目終了試験学修のポイント５
15	第６学年の歴史学習① 課題：先人の業績や文化遺産について興味関心をもたせ理解を深めるための指導をする上でのポイントは何か、指摘してみよう。教科書 pp.75-87 を参照。　関連…科目終了試験学修のポイント５

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】小学校学習指導要領社会の目標・内容の具体化を図る視点・方法について、教科書を根拠にしながら具体的に述べよ。

＜ポイント＞

小学校社会科の目標・内容が具体化される場は授業である。そこで、学習指導要領に示された各学年の目標・内容のうち、どれか一つを取り上げ、その内容について児童が興味・関心をもって主体的に取り組めるようにするための内容の具体化について述べる。特に内容の具体化を図る教材研究の仕方や、具体化した教材の作成・提示について着目したい。

科目終了試験の各ポイントについて学修を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。

科目終了試験学修のポイント

１．小学校社会科の目標の特色と学年の目標の構造及び系統について
＜ポイント＞
教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

２．小学校３年生の目標と内容の特色について
＜ポイント＞
教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

３．小学校４年生の目標と内容の特色について
＜ポイント＞
教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

４．小学校５年生の目標と内容の特色について
＜ポイント＞
教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

５．小学校６年生の目標と内容の特色について
＜ポイント＞
教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

６．指導計画の作成と内容の取扱いについて
＜ポイント＞
教科書『小学校学習指導要領解説　社会編』を参照し要旨をまとめること。

教科書

①北俊夫、加藤寿朗　編『小学校新学習指導要領の展開　社会科編』明治図書。
②文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編』東洋館出版。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。

科目コード	社会科学の基礎（２単位）	登録年次	履修方法
1471		１年	R
教員名	松崎茂		

科目概要

現代社会のさまざまな重要事項・問題や社会の仕組みを総合的に理解し、短期大学程度の一般教養を身につけるとともに、就職試験などで課される社会科学の領域（政治・法律、経済、社会・労働・時事問題、思想など）に関する重要概念を学修する。

学修内容　（以下の記述は、本科目のテキストとなっている朝日キーワード2013を基にしたものである）

1	東日本大震災 巨大地震とそれに続く巨大津波は、大きな被害をもたらした。地域の復興や原発事故への対応も課題となっているが、単に東日本大震災が問題を引き起こしただけではなく、それまですでに存在していた課題を震災が顕在化させたという面も考えられる。被害地域だけの問題としてではなく、日本全体の問題としてとらえたい。
2	福島第一原発事故・再生可能エネルギー 東日本大震災のもたらした被害の中でも、原発事故は大きなもののひとつであった。これまでの日本の経済社会の発展における、原子力の功罪や、今後エネルギーをどう確保していくかという観点からもこの問題をとらえる必要がある。
3	政治 3年余りの民主党政権が終焉し、再び自民党中心の政権へと交代がなされたが、この2回の政権交代はどのような背景があったのか。また、地域主権改革は引き続き国と地方の関係で大きな課題であり続けている。選挙における「一票の格差」についても、裁判で争われている。
4	国際問題 「アラブの春」とは、中東地域で民衆のデモによって、独裁政権が次々に倒れていったことを指す。2012年の米大統領選挙では、オバマ大統領が再選を果たした。東アジア情勢も、領土問題を含めて様々な不安定要素がある。
5	経済 ギリシャから始まった欧州金融不安は、世界経済にも大きな影響を及ぼした。環境との関連では、震災後の電力不足との関連で、スマートコミュニティーが注目されている。TPP（環太平洋経済連携協定）の交渉も大詰めを迎えているが、これが何をもたらすか。
6	社会 2009年から裁判員裁判が行われているが、なぜこのような制度が作られたのか。地域では、「孤族化」「孤立化」などの問題が大きくなっている。児童虐待も、児童相談所の対応件数が増加しているが、この背景も多角的にとらえていく必要がある。
7	医療・福祉 年金制度の今後については、不安を持っている人が多いが、政府はこれに対してどのように取り組んでいるか。障害者総合支援法は、2013年から施行されているが、それまでの障害者自立支援法とはどのような違いがあるか。「5疾病」として精神疾患が含まれることになったが、なぜか。
8	情報通信・交通 スマートフォン・タブレット端末が普及しているが、我々の生活をどのように変えていくか。交通では、LCCと呼ばれる低価格の航空会社が運航を開始しているが、競争環境は厳しい。また、リニア中央新幹線が開業に向けて進んでいるが、その目的とは何か。
9	科学・技術 ISS（国際宇宙ステーション）には、日本の実験棟もあり、様々な実験が行われている。iPS細胞と呼ばれる万能細胞は、今後の医学などの発展につながることが期待されている。スーパーコンピューターは、より速い速度を求めて、各国で開発競争が行われている。
10	教育 大学全入時代を迎えたが、今後の大学に何を求めるか。国際的な学習到達度調査（PISA）における日本の順位が度々話題になるが、この調査で評価される力とは何か。民主党政権下で実施された高校無償化は、政権交代によって見直されることとなった。
11	労働 2011年から「第二のセーフティネット」として求職者支援制度が実施されたが、なぜそのような制度が求められたのか。労働市場では「非正社員」の増加が続いているが、どのような問題があるか。職場でも国際化が進み、英語を公用語にする会社まで生まれている。
12	文化 日本の世界遺産登録件数は着々と増えており、2013年には富士山が登録された。インターネット上ではニコニコ動画等の動画投稿・共有サイト、ソーシャルゲームなどが人気であり、人と人とのつながりの在り方にも影響を及ぼしている。

13	くらし 2012 年に「子ども・子育て関連三法」が成立したが、これまでの制度をどう変えていくのか。消費者被害に対する消費者庁の役割は大きく、独居高齢者の増加も大きな課題である。生活保護制度は受給者が増加し、2013 年には生活保護法の改正が行われた。
14	スポーツ 「なでしこジャパン」の活躍に代表されるように、女性のスポーツ分野での活躍も目覚ましいものがある。2011 年にスポーツ基本法が成立したが、何が変わったか。各地で市民マラソンが多く開催されるようになっている。
15	マスコミ・広告 ウィキリークスは世界外交にも影響を及ぼした。日本のテレビは「地デジ化」が行われたが、これによって視聴者はどういうメリットを得たか。多くのソーシャルメディアの登場が、人のつながりの在り方を変えている。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】現代議会制民主主義の特徴と問題点をまとめ、現代社会において民主主義を再活性化するための方法について述べよ。

＜ポイント＞

特徴としては、議員を国民が選挙で選ぶ間接民主主義であること、限界としては、国民の政治意識の低下などが挙げられる。再活性化の方法としては、市民が直接政治に参加する機会を増やすことなどが挙げられる。

科目終了試験学修のポイント

1．大きな政府と小さな政府のそれぞれの利点と欠点について

＜ポイント＞

それぞれどのような政府のことを言うのかを示したうえで、利点と欠点を具体的に示すこと。

2．議院内閣制と大統領制の違いについて

＜ポイント＞

議院内閣制と大統領制をとる国を具体的に挙げた上で、その違いを述べること。

3．日本国憲法の基本原理について

＜ポイント＞

基本原理とよばれるものは3つある。その3つの内容についても説明すること。

4．市場のはたらきと市場の失敗について

＜ポイント＞

「市場の失敗」については、事例も挙げながら説明すること。

5．国際連合の仕組みについて

＜ポイント＞

国際連合を構成する主要な機関についても触れること。

6．雇用環境の変化について

＜ポイント＞

雇用形態や失業（率）の変化に加え、その変化の背景についても触れること。

教科書

朝日新聞社『朝日キーワード』朝日新聞社。

参考文献

伊藤正己、他『現代法学入門』有斐閣。
伊藤元重『はじめての経済学（上・下)』日経文庫。
久米郁男、他『政治学』有斐閣。

科目コード	社会科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4190		２年	ＳＲ
教員名	荻原邦昭、小野智一、若狭清紀		

科目概要

小学校社会科の指導方法について具体的な資料等を通して学び、実践的な指導力を身につける。そのために、まず小学校社会科及び学年の目標と内容について再確認する。次に、各学年の年間計画と各単元の指導計画の作成について具体的に学修する。そして、これらの学修を踏まえ、児童が社会的事象に興味・関心をもって主体的に社会科の授業に取り組み、確かな学力を身につける問題（課題）解決学習などの指導法に重点を置いて学修する。また、総合的な学習の時間との関連についても学ぶ。

学修内容

1	「小学校社会科でねらう公民としての資質・能力の基礎」【科目終了試験学修のポイント１】【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.10-11、pp.18-22 等で確認し理解する。
2	小学校社会科第３学年・第４学年の目標について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.24-25、42-43 で確認し理解する。
3	小学校社会科第５学年・第６学年の目標について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp64-65、pp.86-87 で確認し理解する。
4	小学校社会科第３学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」等から確認し理解する。あわせて今回の改訂で明示された「身近な地域や市の様子」、「地域の生産や販売の仕事」、「地域の安全を守る働き」、「市の様子の移り変わり」等についてその指導方法を理解する。
5	小学校社会科第４学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」等から確認し理解する。あわせて今回の改訂で明示された「自分たちの県の様子」、「人々の健康や生活環境を支える事業」、「自然災害から人々を守る活動」、「県内の伝統や文化、年中行事」、「県内の特色ある地域の様子」等についてその指導方法を理解する。
6	小学校社会科第５学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」等から確認し理解する。あわせて今回の改訂で明示された「我が国の国土の様子と国民生活」、「我が国の農業や水産業における食料生産」、「我が国の工業生産」、「我が国の産業と情報とのかかわり」、「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」等についてその指導方法を理解する。
7	小学校社会科第６学年の内容【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」及び「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」等から確認し理解する。あわせて今回の改訂で明示された「我が国の政治の働き」、「我が国の歴史上の主な事象」、「グローバル化する世界と日本の役割」等についてその指導方法を理解する。
8	「主体的・対話的で深い学びの実現」【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」の改訂の趣旨や「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.126-128 から、「資質・能力」を確認しながら理解する。
9	「社会的な見方や考え方」【レポート設題】について、「小学校学習指導要領解説　社会編」pp.105-106、pp.3-5、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.10-11、pp.18-20 等から確認し理解する。
10	「社会科における言語活動の充実」【レポート課題】について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.135-136、「学習指導要領解説　社会編」p.4 等から確認し理解する。
11	「問題解決的学習」【科目終了試験学修のポイント４】について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.19-20、pp.126-128 等から理解する。
12	「体験を伴う学習と表現活動」【科目終了試験学修のポイント５】について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.134-135 から理解する。
13	「図書館やコンピュータ、地図帳の活用」【科目終了試験学修のポイント２】について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.136-137 から理解する。
14	「単元の指導計画作成のポイント」【科目終了試験学修のポイント３】について、単元の目標や指導計画、単元の展開のポイント等について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」p.140-175 からポイントを整理し確認する。
15	「社会科と道徳教育との関連」【科目終了試験学修のポイント６】について、「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」pp.85-.86、p.89、pp.100-101 等から確認し理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】社会的事象に興味・関心をもって取り組み、確かな学力を身につける社会科授業のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

小学校社会の学習では、公民としての資質・能力の基礎を育成することが重視されなければならない。

地域社会や我が国の国土、産業、歴史などに目を向け、知識偏重、暗記重視の社会科授業から脱却し、社会的な見方や考え方を養うとともに、問題解決的な学習を一層充実させるための、児童が主体的に取り組む社会科授業のあり方について考える。特に、「小学校学習指導要領解説　社会編」や「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」等を手がかりに、具体的な指導方法に着目したい。科目終了試験の各ポイントについて学習を進めた上で、レポート作成にとりかかると、より理解しやすい。

科目終了試験学修のポイント

1．小学校社会科でねらう公民としての資質・能力の基礎について

＜ポイント＞

小・中学校社会科、高校地理歴史科、公民科の目指す「公民的資質」について、その述べられている意味をよく理解し、小学校段階ではどんな学習を前提にし「公民としての資質・能力」の基礎を養うのかをまとめる。

2．図書館やコンピュータ、地図帳の活用のポイントについて

＜ポイント＞

問題解決的学習を進めるうえで、地球儀や地図帳、資料のある図書館などの施設、さらにコンピュータは欠かせない。この教材・教具の活用や施設やICTを効果的に活用し、子どもの主体的な学習を保障するにはどのような工夫が必要か考える。

3．小学校社会科における単元の指導計画作成のポイントについて

＜ポイント＞

指導計画については、単元など内容や時間のまとまりを見通し、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、「問題解決への見通しをもつこと」こと、「事象の特色や意味などを考え、概念などに関する知識を獲得する」こと、「学習の過程や成果を振り返り学んだことを活用する」ことなどを大切にして指導計画を作成する。

4．社会科における問題解決的学習について

＜ポイント＞

社会科の学習では知識・技能の習得・活用が強調されている。「活用」して新たな課題を解決するには、問題意識を明確にもつとともに、思考力、判断力、表現力などの様々な力を発揮することが求められている。これらの学習の流れを前提に探究も加え具体的に問題解決学習の進め方についてまとめる。

5．体験的な学習と表現活動について

＜ポイント＞

児童が興味・関心をもって学習に取り組めるよう体験的な活動を効果的に行うことは、社会科指導では大切なことである。体験的な学習を行うとき、事前事後や現地での指導、実物や本物を見たり触れたりさせるときの工夫や、指導計画にどう位置づけるかなどについてまとめる。あわせて学習結果を適切に表現する方法についてもまとめる。

6．小学校社会科と道徳教育との関連について

＜ポイント＞

子どもたちが問題としてとらえた内容をさらに追究するためには、社会科の指導時間だけでは不十分なことも予想される。そこで「道徳科」のねらいや指導内容を整理し、「道徳科」を社会科とどう関連させて活用するかまとめる。

教科書

文部科学省「小学校学習指導要領」東京書籍。

文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」東洋館出版。

北俊夫、他「小学校新学習指導要領の展開　社会科編」明治図書。

参考文献

なし

科目コード	社会的養護Ⅰ／社会的養護（２単位）	登録年次	履修方法
6800/6460		２年	R
教員名	齋藤厚子、田中利則		

科目概要

児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、社会的養護及び児童養護に関する考え方や理念、児童養護の歴史、児童養護の制度など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。

学修内容

1	現代社会の環境や家庭の機能の変容 ＜家族のカプセル化や家族員のコミュニケーションの希薄化、近隣住民との交流の欠如、親戚関係の希薄化が進むなかで、女性の社会進出が促進され、家庭機能の重要項目である児童の養育や高齢者の介護、家事の外部委託化がなされるなかで、家庭の機能や役割が変化したり、家族員の人間関係がゆらいだり破綻したりする事態を迎えている。＞
2	現代社会の現状と課題 ＜少子高齢化や地域格差、グローバリゼーション等が進展する中で、競争社会、経済格差、学歴格差、ニートの増加、結婚年齢の高齢化や結婚しない若者の増加、自殺者の増加、生活保護家庭の増加、生活環境の変化、労働環境の悪化、地域社会の崩壊等、大人や子どもの生活や未来に多様な影響を与えかねない状況が散見されている。＞
3	現代社会における児童及び母子・父子家庭が抱える問題 ＜児童の養育機能や教育機能の低下、ひとり親家庭の増加、貧困家庭等の増加、児童の不登校や非行、ひきこもり、児童虐待の増加、DV の増加、、離婚の増加（母子家庭・・父子家庭の増加）等の問題が生じ、福祉的支援の必要性が高まってきている。＞
4	現代社会における社会的養護の意義 ＜家族関係や親戚関係、近隣住民同士の交流の減少、友人・知人の関係等が希薄化してゆく中で、これらに代わる公的・私的な福祉サービス、あるいは福祉ネットワークの構築が必要となりつつある。加えて、福祉施設における養護ばかりではなく、家庭養護や家庭的養護の充実や新たな開発の必要性に迫られている。＞
5	社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 ＜社会的養護の充実のために、法制度やサービス自体は随時改善が実施されている。これらの状況の中で、国家財政の不安定さや経済状況、社会情勢、雇用や就労条件が不安定になることにより、家庭経済や家族員の人間関係はゆらぎ、そのために家庭や子どものニーズは多様化し、且つ増大しやすくなっている。＞
6	社会的養護の制度と実施体系 ＜社会的養護の制度を推進する柱となっているのは児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、総合障害者支援法等である。これらの法律に規定されている実施体系は、主に福祉施設や家庭養護、家庭的養護に分けられている。＞
7	児童の権利擁護 ＜児童は生まれながらにして、健全な保護者(親権者)の庇護の下で大人と同様に人間として有する多様な権利を有している。その中で、彼等の権利を擁護するための専門機関（児童相談所や保健所・警察の生活安全課）や専門職（社会福祉士や精神保健福祉士・保育士等）の充実が必要とされている。＞
8	施設養護の理念と施設養護の原理と援助 ＜施設養護は要保護児童や保護者（親）を入所させて養育・支援し、且つ彼等に必要な支援を行い、児童の最善利益や安全・安心の保障、ニーズを的確に把握する等の原理を背景とした、養育や教育、治療、家族の再統合等を実現するための取り組み、社会生活に適応するために就労支援やアフターケア等を行っている。＞
9	社会的養護の領域（家庭養護） ＜一般家庭と同等の機能や役割を果たすために、家庭養護として要保護児童を受け入れ、家庭の代替としての里親やファミリーホーム等の機能を活用し、当該児童の心身の成長や感情を豊かにする試み、学習指導、進路指導、相談援助、アフターケア等を実施している。＞
10	社会的養護の領域（施設養護） ＜施設養護には 24 時間 365 日養護を実施する入所施設（生活施設）や一般家庭をイメージしたグループホーム、自宅から通いデイケアを施す通所施設等がある。その中で、近年は施設規模の縮小化や通所施設の開設に力が注がれている。＞
11	施設養護の実態 ＜施設養護は、施設形態の小規模化を促進し、可能な限り家庭の代替機能を果たすことを目的とした活動を推進している。また、それぞれの利用者のニーズに相応する施設やサービス、専門性の高いスタッフ、設備、建物が整えられるように努めている。加えて、近年は地域住民の相談援助や退所者のアフターケアの機能も拡充している。＞
12	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術① ＜社会的養護を実践するスタッフには、豊かな人間性や多様な利用者とかかわる力、適切な倫理感の獲得が期待されているが、同時に、社会常識やエチケット、マナー及び隣接分野に関する知識や技術に関しても関心を持つ必要がある。＞

13	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術② ＜社会的養護の実践者は、利用者に対して日常的に行うケアワークや保護者や家族も含めて行うソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ファミリーソーシャルワーク等を用いて支援する。＞
14	施設運営管理及び経営 ＜施設は利用者に必要な福祉サービスを組織体として適切、且つ効果的、あるいは健全に提供するための適切な運営管理が必要不可欠であるとともに、リスク管理や福祉サービスの向上を目指した内容や質の管理等が求められている。＞
15	理想とする社会的養護と支援の内容や質 ＜近年、ノーマライゼーション理念の浸透が図られる中で、施設機能のネットワーク化が促進されるとともに、施設環境や設備、雰囲気、人間関係、近隣住民との交流、社会への参加、利用者の多様な進路の選択と支援、アフターケア等に力が注がれている。＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】現代社会の子どもや家庭の状況と社会的養護の必要性及び基本的な原理について述べよ。

＜ポイント＞

現代社会は、都市化・産業化・核家族化が進展するなかで、家庭の位置づけが不安定となり、家族員の関係も希薄化してきている。これらの状況のなかで、長期不況が継続し、児童の環境が劣化してきている。その中で、社会的養護の必要性が高まり、支援の内容や質の向上や環境の整備が求められている。また、充実した支援を児童に提供する際には、児童養護の基本原理を踏まえながら、対象児童に相応することが求められる。さらに、支援職員は日常生活のなかで、児童の何に着目し、どのような基本原理に基づいて、如何なる支援を実施しているのか、加えて、課題となるものは何なのかなどについて注目して考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．児童養護の意義と基本原理について

＜ポイント＞

社会の状況・家庭のゆらぎ・児童の発達成長の歪曲化・社会的養護の必要性・児童養護の意義と必要性

２．社会的養護の制度と特質について

＜ポイント＞

我が国における制度上の分類・施設系養護の概要・家庭的養護の概要

３．社会的養護の日常生活及び自立支援について

＜ポイント＞

我が国における社会的養護の方向性・小規模化・自立支援の理念・自立支援の具体的な目的

４．社会的養護における親子・地域との関係調整について

＜ポイント＞

社会的養護における子どもと家庭の調整方法(面会・通信連絡・外出・帰省)

５．社会的養護に関わる職員の資質について

＜ポイント＞

ヒューマニズム・専門的知識・専門技術・ネットワークの創出及び充実

６．子どもの支援におけるチームワークについて

＜ポイント＞

社会的養護の施設における専門職間のチームワーク・生活場面における支援(個別支援・集団支援)

教科書

小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

山縣文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。
新社会福祉士養成講座編集員会『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』中央法規。
片山義弘『相談援助』北大路書房。

科目コード	社会的養護Ⅱ/社会的養護内容（２単位）	登録年次	履修方法
6810/6550		２年	ＳＲ
教員名	齋藤厚子、田中利則		

科目概要

学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割について学ぶ。さらに、児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学修する。加えて、地域社会と居住型児童福祉施設の関係性についても理解する。

学修内容

1	社会的養護内容とは何か ＜社会的養護内容とは、家庭の代替として、児童の最善の利益を保護・増進するために、要保護児童を対象として社会の公的な責任で保護養育し、児童が心身共に健康に育つように保障するための実践分野のことである。＞
2	社会的養護内容の基本的視点 ＜社会的養護内容の基本的な視点として重要視する必要があるのは、権利擁護のための取り組みや施設利用者からの苦情解決の取り組み、利用者の課題の解決・緩和、支援者としての倫理・責務等である。＞
3	社会的養護内容を進める際の基本的方向性 ＜社会的養護内容を進める際の基本的方向性としては、家庭養護・家庭的養護の推進、専門的ケアの充実、自立支援の充実、家族支援・地域支援の充実、相談支援・アフターケア、その他による予防ケアの充実である。＞
4	施設養護の現状と課題① ＜施設養護の現状と課題については、施設内における暴力や虐待が近年一層問題視されていることを背景として、あらためて利用者の人権擁護に向けたスーパービジョンの活用等の取り組みは欠かせない。＞
5	施設養護の現状と課題② ＜施設養護の今一つの現状と課題は、施設退所後のリービングケア（生活力や社会力の強化）や進路の拡充、相談援助あるいはアフターケアの充実は必要不可欠である。＞
6	施設における支援の実際① ＜利用者の状況やニーズの分析、支援計画作成、支援の実際、支援の評価等の流れを理解することは重要。＞
7	施設における支援の実際② ＜施設の小規模化や職員の労働状況の内容および質の変化が進んだ中での利用者のアメニティの推進やインターンシップ体制の確立、就労支援と自立等の理解は重要な事柄。＞
8	児童福祉施設・機関における支援の実際① ＜児童施設の支援の実際の中で必要とされるのは、利用者に寄り添う支援や成長・発達を促進するための支援、退所や自宅へ向けての準備、社会活動の参加に向けての支援を重要視するとともに、関係機関とのつながりを強めておく必要がある。＞
9	児童福祉施設・機関における支援の実際② ＜施設の支援の実際では、保護者や家族とのつながりを再構築したり、ADL や IADL の獲得は当然のこと、日常の生活日課や行事、利用者個々に応じた個別指導にも力を注いだりしていく必要性がある。＞
10	社会的養護内容の実践を行うための専門的技術 ＜適切な社会的養護内容の実践を行うために、スタッフの技術や知識、専門性、一般常識、福祉観、価値観、隣接分野に関する知識を日常的に身につけたり磨いたりすることは必要不可欠である。＞
11	社会的養護内容の実践を行うための専門的技術の応用 ＜社会的養護内容の充実（利用者の QOL の向上）を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクレーション等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品の提供等に関する工夫は必要不可欠である。＞
12	利用者支援とリスク管理 ＜施設において利用者の権利擁護に力を注ぐための一環として、支援する際に彼等の心身を傷つけたり、人権を侵害する危険性は多分に生じやすかったりしやすいので、これらの事態を回避するためにリスクの管理は重要である。＞
13	社会的養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理のあり方 ＜社会的養護内容を受け持つ施設の役割は、基本的には、家庭の代替を務め、要保護児童の現実的な問題や将来に向けての課題を克服するために継続的な支援を実施する。その中で重要視したいのは、組織の健全化とスタッフ間のコミュニケーションの適切な管理である。＞

14	施設実習に向けて必要とする知識 ＜施設実習に向けて必要とする知識は、当該施設に関する情報や一般社会常識、施設で日常的に必要とされる知識、そして利用者・保護者に関する情報、利用に至る家庭背景や障害・難病等に関する情報、データ等である。＞
15	今後の展望と課題 ＜国家や社会が安定していることは、社会的養護内容の充実を図る上においては重要な課題である。その中で、現在、社会福祉の制度の脆弱化や職員不足、職員の質の低下が問題視されている。加えて、一般社会においては、利用者の権利擁護の問題が一層着目されるようになってきている。これらを背景として、施設養護内容の適正化や維持・向上は欠かせないものとなってきている。＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】児童福祉施設を1つ選び，その目的及び利用者の状況，支援の実際と課題について述べよ。

＜ポイント＞

それぞれの児童福祉施設について、どのような対象者が施設を利用者し、如何なる支援が提供されていて、当該施設が抱えている問題や課題はどのようなものかについて着目して説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．養護実践の基本的な考え方について

＜ポイント＞

社会的養護・児童施設の必要性と基本的な理念・社会的養護の実施体制

2．児童福祉施設の種類とその目的について

＜ポイント＞

養護系施設(家庭養護・家庭的養護・施設養護)・障害系施設（(医療系施設・福祉系施設)・情緒行動系施設

3．児童福祉施設における利用者の入所理由について

＜ポイント＞

家庭の破綻・家庭の代替・養育困難・虐待・非行・障害

4．児童福祉施設における職員の支援内容について

＜ポイント＞

支援・相談支援・集団支援・家庭支援・地域支援・就労支援・アフターケア

5．児童福祉施設と地域社会について

＜ポイント＞

ノーマライゼーション・エンパワメント・ストレングス・コミュニティ・ソーシャルワーク

6．児童福祉施設と社会資源との連携について

＜ポイント＞

児童委員（民生委員）・児童相談所・福祉事務所・保健所・社会福祉協議会・ハローワーク・警察（生活安全課）・大学病院

教科書

小野澤昇、田中利則、他『子どもの生活を支える社会的養護内容』ミネルヴァ書房。

参考文献

「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会『子どもが語る施設の暮らし』明石書店。

長谷川眞人『児童養護施設の子どもたちはいまー過去・現在・未来を語るー』三学出版。

科目コード	社会福祉（２単位）	登録年次	履修方法
1610/1611		２年/１年	R
教員名	北爪克洋、柳澤利之		

科目概要

社会福祉に関する基礎知識の体系的な習得をめざす。具体的には、現代社会において社会福祉が果たしている役割や機能、福祉専門職としての資格である社会福祉士として活躍するために必要な基礎知識、社会福祉の歴史（社会事業成立以前、社会事業成立期、戦後）、社会福祉の法体系と運営実施体制、社会福祉の財源と費用負担、民間社会福祉の組織と活動、日本の社会福祉の動向と今後の課題などについて学修する。

学修内容

1	社会福祉の概念と枠組み 社会福祉は人間の生老病死とその課題を取り扱い、負担の軽減や減少を図る。
2	社会福祉と関連諸施策 社会福祉の思想と倫理 所得維持、教育、雇用、住宅などの関連諸施策を含めた福祉倫理を学ぶ。
3	日本における社会福祉の史的展開：わが国の近代、現代の社会福祉 欧米における社会福祉の史的展開：イギリスなどの社会福祉史について 明治時代以降の日本の社会福祉の歴史と、それらに影響を与えたイギリスの社会福祉の関係を学ぶ。
4	社会福祉の援助対象　社会福祉のニーズ 社会福祉の援助対象は、貧困、疾病などの現象であったが、次第にそれらを担う人びとに焦点化されていった。 ニーズは、必要性、需要、欲求、要求、要件などと訳されることが多いが、それらを担っている人びとへのサービスと関係づけられる。
5	社会福祉政策と制度体系 社会福祉の法制度 社会福祉政策の制度は、憲法を法源とし、社会福祉六法として展開されている。
6	社会福祉の行政 社会福祉の財政 社会福祉の行財政は、国と地方自治体の関連した枠組みによって構成されている。
7	社会福祉と民間福祉活動 社会福祉法人、NPO 法人、ボランティアなどの民間福祉活動がある。
8	社会福祉援助の意味（相談援助） 当事者である利用者主体によって、基本的には相談援助が進められる。
9	社会福祉援助の方法 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術に分けられる。
10	関連諸サービスとの連携 保健、医療と社会福祉とが連携していく必要がある。
11	社会福祉機関の組織と運営 福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所などの機関がある。
12	社会福祉援助の利用と支援 利用者主体を尊重しながら、適切に支援（サポート）していくことになる。
13	社会福祉援助の評価システム 社会福祉の専門性：社会福祉専門職の諸資格、社会福祉士 社会福祉援助の有効性をアセスメントし、専門的に援助していく。
14	戦後社会福祉の展開とこれからの社会福祉政策の方向性 社会福祉の国際動向（1）イギリス、アメリカの社会福祉の動向 社会福祉の国際動向（2）ドイツ、北欧、アジアの社会福祉の動向 社会福祉に関する国際協力が行われているが、なかなか国連だけでは進まず、国際的ＮＰＯ、国際的ＮＧＯの活動もある。
15	21 世紀の社会福祉の展望 21 世紀には、多くの国々が少子高齢化の問題をかかえており、それらへの対処が大きな課題である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】　わが国の第2次世界大戦後の社会福祉の歩みについて述べよ。

＜ポイント＞

わが国の社会福祉の歩みや歴史は、非常に長いものがあるが、第二次世界大戦以後においても大きく変化してきている。21世紀においても色々な課題を抱えているが、それらを時代背景とともにしっかりと把握すること。

科目終了試験学修のポイント

1．措置制度から契約制度への変遷について

＜ポイント＞

契約制度になった時点で何が変わったのか、その理由も含めて述べよ。

2．わが国における少子高齢化の現状と課題について

＜ポイント＞

日本における少子高齢化による問題点と今後の課題について把握する。

3．地域福祉について

＜ポイント＞

在宅福祉サービスの概要だけではなく、地域社会において課題となっていることをおさえておく。

4．現代の貧困の問題について

＜ポイント＞

ひとり親、子ども、高齢者などの貧困における背景を検討すること。

5．諸外国の社会福祉の歩みや歴史について

＜ポイント＞

イギリス、アメリカ、スウェーデンにおける福祉制度の特徴について把握しておく。

6．相談援助（ソーシャルワーク）について

＜ポイント＞

相談援助の定義とそのプロセスについて把握しておく。

教科書

(平成20年度までの配本)

福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座1　社会福祉原論』中央法規。

(平成21年度以降の配本)

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座4　現代社会と福祉』中央法規。

参考文献

今村理一『新しい時代の社会福祉サービス論』ミネルヴァ書房。
京極高宣『改訂社会福祉学とは何か』全国社会福祉協議会。
ミネルヴァ書房編集部『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房。

科目コード	社会福祉援助技術（２単位）	登録年次	履修方法
2730		３年	ＳＲ
教員名	柳澤利之、吉岡英雄		

科目概要

社会福祉援助技術は、社会福祉専門職の中核をなす対人援助技術である。また、個人、家族、グループ、地域社会を対象とした、対人援助、地域向上の援助方法などを含む。本科目ではまず、社会福祉サービスと社会福祉援助技術との関係から、社会福祉援助技術の体系として、社会福祉援助の構造を明らかにする。そして、直接援助技術であるケースワークとグループワーク、間接援助技術であるコミュニティワークやソーシャルリサーチについて学ぶ。さらに、援助の展開過程について事例を用いながら理解し、社会福祉実践の全体系を総合的に学修する。

学修内容

1	○社会福祉士の役割と意義 国家資格である社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。
2	○相談援助の定義と構成要素 国際ソーシャルワーカー連盟の定義（国際定義）と日本社会福祉士会の倫理綱領を中心に、ニーズの発見から相談面接、援助計画の策定と社会資源の活用等について学ぶ。
3	○社会福祉援助活動における倫理 福祉倫理、専門知識、専門技術という「専門性の三要素」について、実際の援助活動に即した倫理性について学ぶ。
4	○専門職倫理と倫理的ジレンマ 援助活動で直面する倫理的ジレンマについて、その倫理的判断過程と解決方法について学ぶ。
5	○社会福祉援助技術の歴史的展開 イギリスにおける社会改良運動（青少年団体の運動、慈善組織協会の活動、セツルメント運動）から、アメリカにおける専門化の展開（リッチモンドやパールマンの貢献）について学ぶ。
6	○ソーシャルワークの形成過程 ケースワーク・グループワーク・コミュニティーワークの形成過程と特徴について学ぶ。
7	○ケースワークにおける援助の展開過程 インテーク・アセスメント・プランニング・インターベンション・モニタリング・エバリュエーション・ターミネーションの各展開過程の特徴について学ぶ。
8	○ソーシャルサポート・ネットワーク 総合的な支援体制や援助組織等の構築の重要性と、フォーマル（専門的）なサポートとインフォーマル（非専門的）なサポートの内容について学ぶ。
9	○社会福祉援助技術の共通概念 国際ソーシャルワーカー連盟の定義（国際定義）が指摘している、人間の福利（ウェルビーイング）の増進、人間関係における問題解決、エンパワーメントと解放等について学ぶ。
10	○社会福祉援助技術の独自な社会的機能 総合的かつ包括的な相談援助の５つの社会的機能、地域を基盤としたソーシャルワークの８つ社会的機能、ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について、その関連性と意義について学ぶ。
11	○総合的かつ包括的な相談援助（予防機能・新しいニーズへの対応機能） 第１次予防から第３次予防の特徴、エイズ患者や発達障害者等への支援の方法等について学ぶ。
12	○総合的かつ包括的な相談援助（総合的支援機能） エコシステムを活用して行われる重層的な総合的な支援方法とチームアプローチの重要性について学ぶ。
13	○総合的かつ包括的な相談援助（権利擁護機能・社会資源開発機能） 利用者や家族の権利や主張を支持・代弁・弁護するケースアドボカシーと、社会資源の発展・創造・開発の重要性について学ぶ。
14	○地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座 ソーシャルリサーチ活用の重要性とソーシャルアクションの意義、権利擁護活動等の８つの機能について学ぶ。
15	○ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点 多方面にわたる知識や多様な介入方法を用い、複数の分野や幅広い問題を対象に、総合的な援助を目指すジェネラリスト・ソーシャルワークの特質について学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】社会福祉援助活動の意義と社会的機能について述べよ。

＜ポイント＞
社会福祉サービスと社会福祉援助活動との関係、社会福祉援助活動の概念と内容についてよく理解した上で、社会福祉援助技術の意義とその働きについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1. 社会福祉援助活動における倫理について
＜ポイント＞
「専門性の構成要素」（福祉倫理、専門知識、専門技術）と倫理性の重要について述べ、日本社会福祉士会の倫理綱領における「原則と価値」の内容を実践の基盤として述べる。

2. 社会福祉援助技術の歴史的展開について
＜ポイント＞
イギリスにおける社会改良運動（青少年団体の運動、慈善組織協会の活動、セツルメント運動）について述べ、アメリカにおける専門化の展開とリッチモンドやパールマンの役割について述べる。

3. ソーシャルサポート・ネットワークについて
＜ポイント＞
総合的な支援体制や援助組織等の構築についてその重要性を述べ、フォーマル（専門的）なサポートとインフォーマル（非専門的）なサポートの内容について述べる。

4. 社会福祉援助技術の共通概念について
＜ポイント＞
国際ソーシャルワーカー連盟の定義（国際定義）が指摘している、人間の福利（ウェルビーイング）の増進、人間関係における問題解決、エンパワーメントと解放等について述べる。

5. 社会福祉援助技術の独自な社会的機能について
＜ポイント＞
総合的かつ包括的な相談援助の5つの社会的機能（予防機能・新しいニーズへの対応機能・総合的支援機能・権利擁護機能・社会資源開発機能）について述べる。

6. 社会福祉における援助の展開過程について
＜ポイント＞
ケースワークの展開過程として、インテーク・アセスメント・プランニング・インターベンション・モニタリング・エバリュエーション・ターミネーションの各展開過程の特徴について述べる。

教科書

（平成20年度までの配本）
福祉士養成講座編集委員会『社会福祉士養成講座８　社会福祉援助技術論Ⅰ』中央法規。
『社会福祉士養成講座９　社会福祉援助技術論Ⅱ』中央法規。
（平成21年度以降の配本）
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座６　相談援助の基盤と専門職』中央法規。

参考文献

ゾフィア・Ｔ・ブトゥリム『ソーシャルワークとは何か』川島書店。

科目コード	障害児保育（２単位）	登録年次	履修方法
2720/2721		２年	2720：ＳＲ 2721：Ｒ
教員名	李玄玉、上田征三、加藤洋子、齋藤厚子、須藤典征、西脇雅彦、三原芙美子		

科目概要

近年、個のニーズや生活様式の多様化とともに、療育における支援のあり方も多様化している。そのような中で統合保育の効果が実証されつつあり、障害のある子どもの療育の場として統合保育を希望する保護者は多い。一方、明確な診断はないがトラブルの目立つ「気になる」子どもの報告が増え、今やこれらの子どもに対する専門的知識と対応力の向上は必須となっている。

本科目では、乳幼児の定型発達に関する基本的な知識をふまえながら、特別なニーズのある子どもへの対応、障害の受容期にある保護者への支援のあり方、保育所の職員間や外部専門機関との連携等に視点をおきながら、障害児療育の理論と実践について学ぶ。

学修内容

1	療育・発達支援とは何か１ Key words：「障害の概念」、ICIDH、ICF、療育
2	療育・発達支援とは何か２ Key words：知的障害、学習障害、注意欠如多動症、自閉症スペクトラム症
3	療育・発達支援とは何か３ Key words： 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、重症心身障害
4	療育・発達支援に必要なアセスメントの基本とチームアプローチ Key words：アセスメント、チームアプローチ
5	療育・発達支援に関わる職種とその役割 Key words：心理職、作業療法士、言語聴覚士、理学療法士、視能訓練士、医師、社会福祉士
6	アセスメントから個別の児童発達支援計画 Key words：児童発達支援計画、集団支援、グループ支援
7	様々な支援技法 Key words：TEACCH プログラム、感覚統合理論、拡大・代替コミュニケーション、SST
8	よりよい療育実践のために Key words：モンテッソーリ教育
9	保育士・児童指導員の専門性と生活場面・遊び場面での療育・発達支援１ Key words：療育・発達支援の専門性、集団の場面における役割
10	保育士・児童指導員の専門性と生活場面・遊び場面での療育・発達支援２ Key words：集団での療育・発達支援
11	療育・発達支援における家族支援 Key words：親の障害がある子の受容、保護者支援・家族支援、親子通所
12	療育・発達支援機関における就学支援 Key words：就学支援
13	他機関連携と地域支援 Key words：インクルージョン、地域の他機能機関
14	おわりに-定型発達児も視野に入れた療育・発達支援のために- Key words：個に応じた発達支援、インクルーシブ保育、専門職の支援の実際
15	まとめ Key words：ノーマライゼーション、インクルージョン、障害者の権利条約、多様性

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保育の場で出会う可能性のある障害について，いくつかの例を挙げ，それぞれの特徴を示すとともに起こりうる生活上の困難さと支援のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

障害のある子どもが日常生活や保育の現場で遭遇する困難性について、本人や保護者の側に立って考えること。

科目終了試験学修のポイント

1．早期発見・早期療育について

＜ポイント＞

①早期発見の重要性について2次障害の観点から理解を深める。

②保護者支援の視点から早期発見・早期療育の意義について理解を深める。

2．保育所における「気になる」子への支援について

＜ポイント＞

①「気になる子」の行動が保育士や保護者にどのような影響を与えるかについて理解する。

②「気になる子」への支援における保育園内外の連携のあり方について理解を深める。

3．療育における専門性と地域支援に求められる役割について

＜ポイント＞

①児童福祉法に示されている障害児支援体系をふまえ地域支援における専門職の役割について理解する。

②障害を抱える子どもへの虐待予防においてどのように療育の専門性が生かされているのかについて理解を深める。

4．療育におけるチームアプローチについて

＜ポイント＞

①療育に関わる専門職それぞれの専門性と役割について理解を深める。

②チームアプローチで活用されるケース会議（支援会議）について理解する。

5．発達障害における2次障害について

＜ポイント＞

①1次障害と2次障害の違いについて理解する。

②2次障害出現の背景を理解し、さらに予防のためのに周囲ができることについての理解を深める。

6．障害児保育の変遷と課題について

＜ポイント＞

①「統合保育」（インテグレーション）と「包括教育」（インクルージョン）の違いについて理解を深める。」

②「障害者差別解消法」の施行により求められる保育現場の課題について理解する。

教科書

市川奈緒子・岡本仁美編著「発達が気になる子どもの療育・発達支援入門」金子書房。

参考文献

田中千穂子、他『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ。
本郷一夫『保育の場における「気になる子ども」の理解と対応ー特別支援教育への接続ー』ブレーン出版。
内閣府『子ども・若者白書』http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h24honpenpdf/index_pdf.html
内閣府『障害者白書』http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/index-w.html
厚生労働省『障害者総合支援法』http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/sougoushien/
全国発達障害福祉連盟『発達障害白書2021』明石書店。

科目コード	小児栄養（２単位）	登録年次	履修方法
6121		１年	ＳＲ
教員名	浅井恭子、石本強、菅沼太陽、手塚和美		

科目概要

小児期の栄養と食生活との関係を学び、一生涯の食生活の意義を理解する。また、保育者として、保育の食生活、「こころ」の健康について理解を深め、食生活の望ましいあり方と生活全般の関連性について広い視野に立って考察する力を養う。小児の特徴は、成人と違って常に発育・発達していることである。子どもは新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期と変化しながら成人になるが、この発育・発達の各段階によって栄養要求量や摂取方法が異なってくる。ことに、新生児期、乳児期は著しく発育・発達をとげるので、この時期に最も優れた栄養としての「母乳」を与えることによって、「こころ」と「からだ」のバランスのとれた子どもになってゆくのである。

学修内容

1	五大栄養素に栄養素を分類できる。 栄養素を五大栄養素に分類するため、五大栄養素の構造的な違いを説明する。
2	五大栄養素の体内でのそれぞれの役割を説明できる。 それぞれの栄養素（五大栄養素）について役割を構造と関連させながら説明する。
3	ビタミンの多く含まれる食品を列挙できる。 ビタミンの体内での役割、ビタミンの構造を理解し、多く含まれる食品について学ぶ。
4	離乳の定義を説明できる。 離乳とはどのようなことを示すかを理解し、母子、乳児との関連性について学修する。
5	離乳の進行と、初期、前期、中期、後期、完了期に分けて、注意点を説明できる。 離乳の期間を明確にし、それぞれの時期についての注意点を学修する。
6	母乳、調製粉乳について説明できる。 母乳に含まれている成分を列挙し、その成分の乳児への役割を理解する。
7	フォローアップミルク、ペプチドミルクを説明できる。 用途によって異なるミルクが存在することを理解し、それぞれのミルクの役割とともに、どのような時期の乳児へ与えるかを学修する。
8	母乳栄養の栄養的、心理的長所を説明できる。 母乳の長所を栄養学だけでなく、心理学的な部分を学修する。
9	母乳栄養の短所を説明できる。 母乳の短所となる要因を、学修する。
10	偏食の定義を説明できる。 偏食がどのように定義できるか学修し、疾患との違いを比較する。
11	食欲不振の定義について説明できる。 食欲不振の定義について学修し、疾患との違いを比較する。
12	偏食・食欲不振の食事指導法を説明できる。 偏食・食欲不振の食事指導法を学修し、指導内容について確認する。
13	食育の基本と内容 食育の内容と計画および評価について学修する。
14	児童福祉施設における食事と栄養 児童福祉施設ごとの食事の役割について学ぶ。
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 疾病および体調不良の子どもへの対応、食物アレルギーのある子どもへの対応を学修する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】栄養素の体内での働きについて述べよ。

＜ポイント＞

栄養素として、糖質、脂質、たんぱく質、無機質（ミネラル）、ビタミンを取り上げ、それぞれどのような特徴をもった栄養素であるのか、体内でどのような役割を果たしているのかについてまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．離乳を進めるうえでの注意事項

＜ポイント＞

初期、前期、中期、後期、完了期に分け、それぞれの注意点を説明する。

２．ビタミンの生理作用と多く含まれている食品について

＜ポイント＞

水溶性と脂溶性ビタミンに分類し、各ビタミンの多く含まれている食品について説明する。

３．乳幼児における偏食と食欲不振の指導法について

＜ポイント＞

偏食、食欲不振の定義を説明し、その指導法について説明する。

４．新生児期・乳児期の栄養と食生活について

＜ポイント＞

母乳、調製粉乳の役割について説明する。

５．調製粉乳の成分について

＜ポイント＞

フォローアップミルク、ペプチドミルクについて説明し、それぞれの特徴を挙げる。

６．母乳栄養の長所と短所について

＜ポイント＞

新生児・乳児にとっての長所、短所だけでなく、母親にとっての長所短所も説明する。

教科書

新 保育士養成講座編纂委員会『新 保育士養成講座　子どもの食と栄養』社会福祉法人全国社会福祉協議会。

参考文献

岡崎光子、他『子どもの食と栄養』光生館ＫＫ。
二見大介、他『保育ライブラリ　子どもを知る小児栄養』北大路書房。

科目コード	小児保健（講義）（４単位）	登録年次	履修方法
7020		２年	R
教員名	石本強、菅沼太陽、泉二奈緒美		

科目概要

ヒトの一生の中で、小児期は身体的にも機能的にも最も激しい変化のみられる時期である。しかも、この時期に「こころ」と「からだ」の基礎の大部分が出来上がってくる。成長・発達を続けている小児の健康の意味を理解し、健全育成をはかることが大切である。さらに、幼稚園、保育所の連携が進んでいる今日、小児の疾病とその予防対策、事故と安全対策などの健康障害に関する知識の習得を行うと同時に、日常の保育活動の場で実践できる能力を身につけることが求められている。

学修内容

1	「子どもの保健」の概論 ①子どもの定義と範囲と区分　②保育における子どもの健康と保健（健康の定義、健康状態の評価）（教科書　第１章）
2	子どもの成長と発達 ①子どもの身体発育（体重、身長、頭囲、胸囲、大泉門、発育の評価） ②精神運動機能の発達（粗大運動と微細運動、原始反射、精神機能の発達）
3	子どもの成長と発達 ③子どもの生理機能の発達（呼吸機能、循環機能、消化機能、腎臓機能、視覚、聴覚）
4	子どもの精神保健 ①子どもの精神保健　②治療と療育　③精神分析の歴史　④心の発達を理解するための理論 ⑤心の健康や行動の問題（愛着の障害、摂食障害、不安障害、ストレス関連性疾患）
5	子どもの生活と保健 ①保育現場における衛生管理（消毒薬と消毒法、手洗い、汚物の処理） ②保育現場における事故防止及び危機管理・安全対策（年齢別にみた事故の特徴、事故防止対策、安全教育）
6	子どもの食 ①子どもの食の特徴　②子どもの栄養生理（消化器系の発達、食べる機能の発達、食行動の変化、三大栄養素の消化・吸収） ③乳児期の食（母乳哺育、育児用粉乳、離乳の定義、授乳・離乳の支援ガイド）④幼児期の食　⑤学童期の食 ⑥特別な配慮を要する子どもの食（体調不良の子ども、食物アレルギーを持っている子ども、障害を持っている子ども）
7	保育現場での保健の実際 ①排泄（排泄行動、排泄機能の発達、排泄の自立の援助）　②衣服（衣服の調節、衣服着脱の自立過程、衣服の着せ方） ③清潔（手洗い、入浴・沐浴、うがい、歯みがき）　④抱っこ、おんぶ、ベビーカー、チャイルドシート
8	子どもの病気と保育 ①子どもの健康状態の把握　②おもな症状の見方と対応（発熱、せき、嘔吐・下痢、けいれん、発疹）
9	子どもの病気と保育 ③代表的な病気｛アレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、気管支喘息、食物アレルギー）、感染症、心身症｝
10	子どもの病気と保育 ④発疹を伴う病気とその対処法
11	子どもの病気と保育 ⑤子どもの病気の予防と対応（予防接種とは？　定期予防接種と任意予防接種、予防接種の種類と接種間隔）
12	子どもの病気と保育 ⑥障害を持っている子ども｛障害の定義、障害の原因、発達障害（広汎性発達障害、注意欠陥/多動性障害、学習障害）｝
13	子どもに対する救急処置 ①意識障害、呼吸停止、心停止　②心肺蘇生法（気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ）、③ショック、④けいれん ⑤頭部打撲、⑥やけど、⑦異物誤嚥、⑧異物誤飲、⑨捻挫、脱臼、骨折
14	保育所と家庭の連携（家庭との連携方法、生活リズム、食事、睡眠）
15	母と子どもの保健 ①母子保健の歴史　②保育の現状と対策 ③乳幼児健康診査をはじめとする母子保健対策（健康診査、保健指導、療養援護、医療対策）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】わが国の乳児・新生児死亡率について述べよ。

＜ポイント＞

「死亡率」は何かについて説明し、新生児および乳幼児の死亡率の推移や最近の動向、今後の小児保健上の課題などについて、諸外国と比較しながらまとめること。

【設題2】「離乳」に関する最近の考え方について述べよ。

＜ポイント＞

「離乳」とは何か、その必要性について簡潔にまとめ、その一方で近年見直されつつある「母乳哺育」について、「離乳」に対する考え方と比較しながら自分の意見をまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．胎児・新生児の血液循環について

＜ポイント＞

出生後の外界への適応、ことに「呼吸と循環」について述べる。

2．乳幼児の体温調節について

＜ポイント＞

体温発生のメカニズム、およびそれを調節する中枢の働きについて解説する。

3．小児期によくみられる病気とその対策について

＜ポイント＞

小児期区分ごとにみられる代表的な病気を挙げ、その治療法、予防法について述べる。

4．小児期の事故の特徴について

＜ポイント＞

発育・発達によって発生する事故の種類を列記して、小児期における事故の特徴をまとめる。

5．小児期における各時期の特徴について

＜ポイント＞

小児期の範囲を説明し、各時期の特徴を挙げて述べる。

6．母乳哺育の意義について

＜ポイント＞

母乳哺育（Breastfeeding）の定義とその意義について述べる。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

参考文献

鈴木路子、他『教育健康学ー教育と医療の接点を求めて』ぎょうせい。

科目コード	小児保健（実習）（１単位）	登録年次	履修方法
7030		３年	S
教員名	石本強、二宮球美、橋本由利子		

科目概要

小児保健（実習）は、小児保健で学んだ知識を基礎として、保育の場において保育者として、実践できる応用力と指導力を養う知識と技術を習得することを目的とする。

小児の健康状態の観察、身体発育の測定方法と評価、乳幼児の養護、事故防止と安全教育、応急処置、急病の看護、包帯法、心肺蘇生法、集団保育における健康管理等の知識と技術を習得する。また、歯磨き、手洗い・うがいについて指導できる実践力を学ぶ。

学修内容

1	子どもの保健Ⅱの目的および保健活動の計画および評価：教科書 pp.1-7 を読み、子どもの保健Ⅱの目的、保育所における保健計画の意義と作成方法について理解する。
2	健康状態の観察と生理機能の評価：教科書 pp.8-22 を読み、発育・発達に応じた全身状態の観察のポイントとその意義、体温・呼吸・脈拍等生理機能の測定方法や評価方法とその意義を学修する。被虐待児の観察のポイントについても把握する。
3	身体発育の測定方法と評価：教科書 pp.23-39 を読み、発育に応じた体重・身長・胸囲・頭囲の計測方法、評価方法とその意義を学修する。パーセンタイル値やカウプ指数についても理解する。
4	精神、運動機能の発達、発育の観察とその評価：教科書 pp.40-43 を読み、新生児の諸反射運動、精神、運動機能の発達と発育順序およびその評価方法について、学修する。
5	子どもの保健と環境:教科書 pp.48-51 を読み、保育環境の重要性と保育所保育指針に基づいた保育所設備について理解する。
6	子どもの基本的生活習慣の確立過程と適切な援助方法について：教科書 pp.51-56 を読み、子どもの生活習慣（睡眠、食事、排泄、衣服の着脱、清潔等）の確立過程と適切な援助方法について理解する。
7	子どもの養護技術について：教科書 pp.57-59 を読み、乳児の抱き方、寝かせ方について学修する。また教科書ｐ76-84 を読み、排泄のさせ方や衣服の着せ方・脱がせ方について学修する。
8	子どもの養護技術について（つづき）：教科書 pp.85-91 を読み、身体（全身、口腔、手指）の清潔の方法、日光浴と外気浴の意義と方法について理解する。
9	子どもの疾病と適切な対応：教科書 pp.99-105 を読み、体調不良のときの対応、感染症の予防と対策、個別的な配慮を必要とする子ども等への適切な対応について学修する。
10	保育における看護と応急処置：教科書 pp.132-166 を読み、子どもがかかりやすい疾病とその看護方法、罨法、薬の与え方、消毒等の方法について学ぶ。
11	救急処置および心肺蘇生法について：教科書 pp.109-122 を読み、救急処置の意義、基本処置、心肺蘇生法（成人・小児・乳児の各方法）について学修する。
12	救急処置の方法（つづき）：教科書 pp.122-131 を読み、傷病児の運搬方法、包帯の目的と主な使い方について学修する。
13	子どもに起こりやすい事故の種類について：教科書 p.106 を読み、子どもの事故はどのような時におこりやすいか、それを防止するためにはどうしたらよいかを学修する。
14	安全教育について：教科書 pp.107-108 を読み、各年齢に応じた安全教育について学修する。また参考文献「保育園における危険予知トレーニング」等を読み、どのようにしたら子どもたちにわかりやすく学習させることができるか考える。
15	今まで学修したことを総合して、保育の現場において保育者として子どもの健康を守るために行う事柄について自分なりのまとめを作成する。

教科書

白野幸子『子どもの保健Ⅱ 演習』医歯薬出版株式会社。

参考文献

千羽喜代子、他『改訂　実習育児学』日本小児医事出版社。

田中哲郎『保育園における危険予知トレーニング』日本小児医事出版社。

科目コード	少年と犯罪（２単位）	登録年次	履修方法
1172/1174		２年/1 年	R
教員名	梶原洋生、久保貴、高木俊彦		

科目概要

日本は犯罪発生率の低い治安の良好な国として世界に知られているが、次代を担う少年によるいじめ、非行や犯罪の発生状況とその様態にはかなりの問題があり、福祉国家を標榜するわが国の将来にとって深刻な社会問題となっている。そこで、少年による犯罪・非行の現状と時代による変化の様相、少年非行に対する警察・裁判の取り組み、児童福祉・少年院・保護観察所などの諸機関における各処遇システムについて理解を深め、更には犯罪・非行の発生機序について素質と環境の両面から解明を試みる。また効果的な治療、処遇の方法、犯罪・非行の被害者支援等についても考察する。

学修内容

1	少年非行・犯罪に対する基礎知識の確認（刑罰や犯罪・非行対策の歴史を含む） 近代の罪刑法定主義など犯罪と刑罰の歴史について学ぶ。次に、心理学や生理学の発達過程で、犯罪に関する成人と子どもの取扱いの違いが主張され、大人の犯罪・刑罰と子どもの非行・保護処分の異なった制度が確立される過程について学ぶ。
2	少年非行の定義、非行少年に対する手続きの流れと少年非行の最近の動向 少年非行の定義について学んだのち、犯罪少年、触法少年、ぐ犯少年等の非行少年に対する取扱いの手続きの流れについて概観。その後、家庭裁判所における非行少年の取扱いについて理解するとともに、少年非行の最近の動向とその背景、少年非行率の変遷について学ぶ。
3	少年非行の原因と説明理論（非行原因論等） 少年非行の関連要因・危険因子として、本人の特性、家庭、学校、友人、地域社会における諸要因について考察。次いで、緊張理論、サザーランドの分化的接触理論、ゴットフレッドソンとハーシーの統制理論、社会的反作用理論（ラベリング理論）など少年非行の説明理論（過去の代表的非行理論）、発達犯罪学や発達精神病理学を中心とする非行理論の新動向について学ぶ。
4	少年非行の諸相①　凶悪・粗暴な非行 凶悪・粗暴な非行に関し、「人を死に至らしめる犯罪」の少年被疑者に関する科学警察研究所の調査結果で示された、①非行歴・補導歴のない（「いきなり型」）群、②「殺人願望」群、③「快感追求」群の分類について学ぶ。その他、少年による殺人に関する欧米の知見、虐待の連鎖や暴力の連鎖などの研究、少年による殺人の前兆把握と予防のための対応策等について学ぶ。
5	少年非行の諸相②　暴走族など非行集団 非行集団の定義と我が国における非行集団の現状について学んだのち、非行集団に関する行動科学的研究や科学警察研究所の調査に基づく知見、非行集団に加入する理由と暴走族や学校の校内粗暴集団、地域の不良集団等、我が国における具体的犯罪・非行集団の実情について概観する。
6	少年非行の諸相③　女子非行、性非行、ネット犯罪 女子非行の発生状況とその動向について概観したのち、思春期発達と女子非行を身体的成熟の加速、学業達成へのプレッシャー等の観点から考察。次いで、出会い系サイト、性非行、ネット犯罪の問題について、出会い系サイトの利用実態、地域社会との関わり、架空請求詐欺の実例などの問題の所在について学ぶ。
7	少年非行の諸相④　いじめ、学校内暴力、家庭内暴力　（ストローク理論） 家庭と学校における非行として、いじめ、家庭内暴力、学校内暴力を取り挙げ、その実態と発生のメカニズムについて、ニワトリ社会のイジメ現象（Pecking Order）の研究などから考察する。また、そのような問題行動の克服策として、アサーション・トレーニングやストローク理論からのアプローチを学ぶ。
8	少年非行の諸相⑤　万引き、薬物非行、交通非行 万引の全体的状況、少年による万引きの実態を理解する。万引きは弱者の犯罪であると言われるがすべての犯罪・非行への入り口とも言われ、軽視できない点を確認する。次に、薬物犯罪について、薬物依存の蔓延状況、シンナー（吸入剤）や覚せい剤、違法薬物等の薬理作用とその危険性について学ぶ。最後に、交通犯罪の一般的動向を紹介するとともに暴走族や危険運転など違法な交通行動について学ぶ。
9	虐待や暴力にみる被害から加害への転化と暴力の連鎖 虐待や暴力の転化と連鎖のメカニズムについて考察する。特に、被害が与える影響、児童虐待と非行との関連、学校や地域における暴力の被害と非行との関連、被害と加害の双方向性等について学ぶ。被害から加害への転化に関する理論的背景として、社会的学習理論、社会的情報処理モデル、トラウマモデルなどの理論を概観する。
10	非行を未然に防止する活動（地域の非行防止活動と警察における少年相談） 非行防止の種類に一次的予防、二次的予防、三次的予防の３種類があること、地域の非行防止活動として、内的非行抑制因子を育むための活動と青少年が非行を行う機会を除去する二つの方向の活動があることを学ぶ。次いで、警察における非行防止活動を、街頭補導や少年相談などの少年の非行防止および健全育成活動等少年サポートセンターの活動を通して学ぶ。最後に、修復的司法（restorative justice ）について学ぶ。

11	少年事件の法的手続き―家庭裁判所 　少年事件の全件を受理し審理する（全件送致主義）家庭裁判所の役割と機能の概要、家庭裁判所における少年事件手続きについて概観し、家庭裁判所調査官による社会調査（記録調査・照会調査、面接調査、心理テスト等、環境調査）、審判出席、試験観察といった諸過程、家庭裁判所における非行理解の方法や最近における保護的措置の多様化について学ぶ。
12	非行少年の処遇①　児童相談所と少年鑑別所 　最初に児童相談所の機能と業務内容の概要を、①相談機能、②一時保護機能、③措置機能のいわゆる三大機能を中心に学ぶ。また、相談業務の種類と内容として、養護相談、保護相談、障がい相談、非行相談、育成相談、その他の相談があることを理解する。次いで、家庭裁判所により観護措置の決定がなされた者を収容する少年鑑別所の役割と機能を、鑑別面接、心理検査、行動観察などの過程、収容して鑑別を行う意義について学ぶ。
13	非行少年の処遇②　少年院 　少年院は国の施設で全国に４９庁あり、第一種、第二種、第三種、第四種の４種類に分けられている。第三種の少年院を除けば、それぞれに男子と女子に別々の施設が設けられること、少年院における矯正教育の特色として、教育と生活の場で、「生活指導」「職業指導」「教科指導」「体育指導」「特別活動指導」の５つの領域での教育活動（矯正教育）が行われていること、処遇を行う場として、個別指導と集団指導の方法で様々な働きかけが行われていることを学ぶ。
14	非行少年の処遇③　保護観察所（少年に対する処遇施策、保護司との協働態勢等） 　保護観察所の役割と機能について概観する。そのうち、少年の保護観察対象者である保護観察処分少年（１号観察）と少年院仮退院者（２号観察）の保護観察については詳しく学ぶ。また、少年対象者に対するケースワーク的処遇やカウンセリングの実施、類型別処遇や段階別処遇についても理解する。加えて、我が国の保護観察の特色である保護観察官と保護司の協働態勢について概観する。
15	犯罪・非行の被害者支援 　犯罪・非行の被害者支援としては、①被害回復・経済的支援等の取組、②精神的・身体的被害の回復・防止の取組、③刑事手続への関与拡充の取組、④支援等のための体制整備の取組、⑤国民の理解の増進と配慮・協力の確保の５分野で制度整備が進められた。うち④の取組みの例として、保護観察所における「被害者担当官」および「被害者担当保護司」の設置・指名と犯罪被害者等基本法の制定を受け実施された更生保護における犯罪被害者等施策について詳しく学ぶほか、修復的司法観に基づく実践形態の一つとしての「被害者と加害者の対話（VOM：Victim Offender Mediation）」などについて学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 我が国における少年非行の特徴とその対策について述べよ。

＜ポイント＞

我が国における犯罪・非行の量的及び質的変化、犯罪者・非行少年対策の歴史的推移について理解すること。犯罪・非行の現状、犯罪者・非行少年がどのように処遇され、そこにはどのような機関、人々が関わっているのかを理解すること。

科目終了試験学修のポイント

1．家庭内暴力・学校内暴力について
＜ポイント＞
少年の暴力の背景として、親による虐待や暴力の連鎖が主張されることが少なくない。ストローク理論や発達障害、不登校、引きこもりなど今日の子どもをめぐる諸現象と関連づけながら理解すること。

2．少年非行の定義について
＜ポイント＞
少年法における少年の定義、非行少年の種類とその対応の違い等について正確に理解すること。

3．少年非行とマスメディア、ネット社会について
＜ポイント＞
少年非行に与えるマスメディアやネット社会の影響には看過できないものがある。少年非行の報道の仕方も併せて、少年非行とマスメディア・ネット社会の関係について考察、理解しておくこと。

4．少年審判について
＜ポイント＞
非行少年に対する家庭裁判所の審判の仕組みと審判により決定される保護処分の種類とその執行機関等について理解しておくこと。

5．少年の矯正・更生保護について
＜ポイント＞
少年院における非行少年の矯正教育や、保護観察所が地域社会において実施する保護観察など、少年の矯正・更生保護の措置について理解しておくこと。

6．少年法改正について
＜ポイント＞
近年における少年による凶悪事件の発生を受け、厳罰化の方向で少年法が改正されてきた。その経緯と改正の内容等について正確に理解しておくこと。

教科書

鮎川潤　『少年非行　社会はどう処遇しているか』　左右社（放送大学叢書025）

参考文献

鮎川潤『新版　少年非行の社会学』、世界思想社、2002年。
伊藤冨士江『司法福祉入門　第2版＜増補＞』、上智大学出版・発行（ぎょうせい製作・発売）、2015年。
河原俊也編著『ケースから読み解く少年事件　実務の技』、青林書院、2017年。
澤登俊雄『少年法入門　第6版』、有斐閣、2015年。
須藤明『少年はどのように裁かれるのか。　成人犯罪への道をたどらせないために』、合同出版、2019年。
日本司法福祉学会編『改訂新版　司法福祉』、生活書院、2017年。
藤川洋子『「非行」は語る　一家裁調査官の事例ファイル一』、新潮社（新潮選書）、2002年。
法務省法務総合研究所『令和元年版　犯罪白書』、昭和情報プロセス株式会社、2019年。

科目コード	情報機器の操作Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1770		１年	ＳＲ
教員名	阿布都乃比吾不力、加藤由樹、鈴木茂樹、竹内俊彦 舘秀典、松崎茂、森正人、ロペス・ルイス・ミゲル		

科目概要

コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。

学修内容

1	「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。
2	「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。
3	「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。
4	「著作権について」 文化庁の Web 等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。
5	「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
6	「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。
7	「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
8	「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。
9	「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身につける。
10	「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。
11	「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
12	「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。
13	「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。
14	「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。
15	「総合演習」 本演習で利用したソフトウェアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】最近一ヶ月以内にインターネット上で起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

・レポートの最初にその事件の発生日と概要を、引用元を示しつつ300字程度で書くこと。

・その事件についてあなたはどう思うか、今後、そのような事件は増えると思うか減ると思うか、効果的な対策や今後の展望について述べること。

・客観的な統計データを示しつつ論じることが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1.Microsoft Wordの基本操作（罫線、図形描画など）

2.Microsoft Excelの基本操作（グラフ、関数など）

3.Microsoft Power Pointの基本操作（アニメーションなど）

4.Microsoft Word、Excel、Power Pointの総合的な利用
（データの分析から、報告書の作成、プレゼンテーションまで）

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

FOM出版『情報リテラシーWindows 10/Office 2019対応』。
戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHK出版。
藤井直弥、他『Excel 最強の教科書』SBクリエイティブ。
吉藤智広、他『伝わるプレゼンの法則100』大和書房。
松上純一郎『PowerPoint資料作成　プロフェッショナルの大原則』技術評論社

科目コード	情報機器の操作Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1780		２年	ＳＲ
教員名	阿布都乃比吾不力、加藤由樹、鈴木茂樹、竹内俊彦、舘秀典、松崎茂、森正人		

科目概要

情報処理演習Ⅰの内容は、情報の利用者側（受け手）の観点の内容が主であったが、本講義では、情報の作成、加工、発信に関する内容を取り扱う。

マルチメディア情報の作成や、Web 技術等は、現代社会の様々な局面で必要とされており、かつ、一部の専門家が、これを担うのではなく、広く一般の人々が行うようになってきている。講義では、実習等を通して、情報発信者、あるいはコンテンツの作成者としての基礎的な素養を身につける。

学修内容

1	HTML の歴史～現状について学ぶ Web サービスはいつ頃からどのようにして始まったのか、また現代社会におけるインターネットの位置づけを理解し、最近のインターネットに関するニュース等をまとめる。
2	基礎的な HTML の演習、Web ページを作成するツールの調査 Web ページはどのような仕組みでできているのか、またどのような文法で書かれているのか理解する。 Web ページを記述する言語である HTML を編集するためのエディタについて調べて使う。HTML の骨格を記述する。
3	HTML リファレンスを見る、HTML タグ・属性について学ぶ HTML リファレンスの使い方を学習する。よく使うタグの意味を理解する。 メディアを挿入するタグ、ハイパーリンクのタグなど、よく使うタグを記述する。
4	その他 さまざまな HTML タグ・属性を利用した演習 HTML にはさまざまな要素が定義されている。それらについて理解し記述して試してみる。
5	スタイルシートの基礎・概要について学ぶ、スタイルシートを実装する Web ページのデザインは主に CSS で行う。CSS とは何かを理解する。 スタイルシートの記述方法やさまざまなセレクタについて学習する。
6	ビジュアルコンテンツの作成、画像処理ソフト・ツールの利用 ビジュアルコンテンツを作成することで、情報発信の可能性は大きく高まる。画像処理ソフトや様々なツールを使って静止画像を作るスキルを学習する。
7	ビジュアルコンテンツの作成、動画編集ソフト・ツールの利用 動画編集ソフトや様々なツールを使って動画を作るスキルを学習する。
8	Web のユーザビリティについて考える 見やすい Web、使いやすい Web とはどのようなものだろうか。ユーザビリティの観点から考え、説明できるようになる。
9	Web サイトを設計する 情報を発信するための Web サイトはユーザビリティの観点から、情報を整理し、見つけやすくするための設計が必要である。 ページデザイン、サイトマップや競合サイトの調査など具体的なサイトの構成を考える方法を学習する。
10	テーマを決めて HTML、CSS を利用した Web ページを作成する 検討したサイトデザインを元に、実際に HTML,CSS を利用してサイトを構築する。
11	HTML・CSS 作成演習(1)
12	HTML・CSS 作成演習(2)
13	作成した Web の相互評価 完成したサイトをピアレビューし、より良いものにするにはどうしたら良いのか検討する。
14	JavaScript とは、簡単な JavaScript の演習 JavaScript とは何かを理解し、JavaScript を利用した簡単なページを作成してみる。
15	Web サービスの今後の展望について Web は社会の中で今後どのような役割を担っていくだろうか。スマートフォンの普及、HTML5 にも触れ展望を検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】情報化社会におけるコンピュータについて述べ、今後の電子メディアの展望について述べよ。

＜ポイント＞

ネットワークの基本構成とコンピュータ通信の仕組みをよく理解すること。インターネットの普及に伴って電子メール・ホームページ・SNS など新しい電子メディアが発展し活用されている。社会福祉・教育・ビジネスなどさまざまな分野への情報化の進展と影響を述べること。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1．HTML 言語による基本的な Web ページの作成
2．スタイルシートを利用した Web ページの作成
3．JavaScript 言語による対話型の Web ページの作成

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

千貫りこ『デザインの学校 これからはじめる HTML & CSS の本』技術評論社。
Mana『1 冊ですべて身につく HTML & CSS と Web デザイン入門講座』SB クリエイティブ。
狩野祐東『確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第 2 版』SB クリエイティブ。

科目コード	情報処理演習（２単位）	登録年次	履修方法
1044		１年	ＳＲ
教員名	阿布都乃比吾不力、加藤由樹、鈴木茂樹、竹内俊彦 舘秀典、松崎茂、森正人、ロペス・ルイス・ミゲル		

科目概要

コンピュータの基本操作・基礎知識について学ぶ。図表を含む文章の作成・表計算等ソフトウェアの基礎知識やネットワークの考え方、ブラウザや電子メールソフトの使い方の習得を目的とする。具体的には、国内外のホームページを閲覧したり、電子メールを使用し、情報の収集・加工をするなどコンピュータ・コミュニケーションの能力向上を図る。

学修内容

1	「コンピュータとは何か、仕組み、基本的な操作、歴史等について」 コンピュータの発達の歴史・機能等について理解を深める。
2	「インターネットの歴史、サービスについて」 インターネットはどのようにして生まれたのか、インターネットを利用したさまざまなサービスについて理解を深める。
3	「コンピュータ・ネットワークを利用する上でのマナーについて」 情報の受信者、消費者ではなく、発信者としての心構えも身につける。
4	「著作権について」 文化庁の Web 等を参照し著作権制度および著作権について最近の知識を身につける。
5	「ワープロソフトとは・基本的な利用方法」 ワードプロセッサソフトでは何ができるのか、ワードプロセッサソフトを用いるメリットについて理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
6	「さまざまな機能を用いたレポート文書の作成」 ワープロソフトにはさまざまな機能が備わっている。これらの機能を実際の文章を作成しながら試してみる。
7	「表計算ソフトとは・基本的な利用方法」 表計算ソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
8	「関数の利用」 表計算ソフトに備わっている関数の概念および、よく利用される関数を実際に試してみる。
9	「グラフの作成」 データをもとにしたグラフを作成する技術を身につける。
10	「データの処理、並べ替え、フィルタリングなど」 表計算ソフトに備わっているデータ処理機能について学ぶ。
11	「プレゼンテーションソフトとは・基本的な利用方法」 プレゼンテーションソフトは何ができるのか、どのような時に利用すると有効であるか理解するとともに、基本的な利用方法に慣れる。
12	「プレゼンテーションをするにあたっての注意点」 資料作成の際に気をつけること、発表の際の注意事項について学ぶ。
13	「プレゼンテーション実習」 実際にプレゼンテーションを行い、課題を見つける。
14	「総合演習」 本演習で学んだ知識、演習で学んだことを再度見直す。
15	「総合演習」 本演習で利用したソフトウエアは、実生活においてどのように利用すると有効であるか考え、実際に導入してみる。

レポート設題

設題数	設題数	設題数	設題数
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】最近一ヶ月以内にインターネット上で起きた事件のうち、興味があるものを1～2つ選び、効果的な対策と自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

・レポートの最初にその事件の発生日と概要を、引用元を示しつつ300字程度で書くこと。

・その事件についてあなたはどう思うか、今後、そのような事件は増えると思うか減ると思うか、効果的な対策や今後の展望について述べること。

・客観的な統計データを示しつつ論じることが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

スクーリング終了時にコンピュータを使用した実技試験を行う。

1.Microsoft Wordの基本操作（罫線、図形描画など）

2.Microsoft Excelの基本操作（グラフ、関数など）

3.Microsoft Power Pointの基本操作（アニメーションなど）

4.Microsoft Word、Excel、Power Pointの総合的な利用
（データの分析から、報告書の作成、プレゼンテーションまで）

※来場論述試験（科目終了試験）は実施されません。

教科書

奥村晴彦、他『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。

参考文献

FOM出版『情報リテラシーWindows 10/Office 2019対応』。
戸田山和久『新版　論文の教室　レポートから卒論まで』NHK出版。
藤井直弥、他『Excel 最強の教科書』SBクリエイティブ。
吉藤智広、他『伝わるプレゼンの法則100』大和書房。
松上純一郎『PowerPoint資料作成　プロフェッショナルの大原則』技術評論社

科目コード	資料解釈（２単位）	登録年次	履修方法
1510		１年	R
教員名	成田成		

科目概要

数的資料は適切に整理し、数表あるいはグラフの形で表現することにより、その意味することが理解しやすくなる。
短期大学での学修を進めていく上で必要な数表やグラフの資料から、社会問題や時事問題などを的確に把握し理解する能力を養う。そのためにも、過去問題や予想問題などを解くのはもちろんであるが、出題者側の意図を理解しながら、実際に自分で例題や模範解答を作成するところまで学修する。

学修内容

1	イントロダクション：数的資料とはどういうものか 調査によって得られる数情報にはどのようなものがあり、またその数値は何を意味しようとしているのか、具体例を挙げて理解する。
2	資料源と採集の方法 数的資料は調査によって得ることができるが、その手続きにはインタビュー、書面、その他がある。それぞれの資料採集方法の特性と解析可能な内容について理解する。
3	度数分布表の作成 調査によって得られた数値について度数分布表（ある範囲内に含まれる数をまとめた表）の作成と、その意味することを、具体例を挙げて理解する。
4	度数分布の比較 作成した度数分布表から、グループ間の差異について比較する。また、サンプル数が違う度数分布を比較する際の注意点についても理解する。
5	頻度割合表の作成 度数分布表を基に頻度割合表（ある範囲内に含まれる数の割合をまとめた表）を作成し、その意味することを、具体例を挙げて理解する。
6	頻度割合の比較 頻度割合表から、グループ間の差異について比較する。また、サンプル数が違う頻度分布を比較する際の注意点についても理解する。
7	指数表の作成 ある値を基準とした場合の数値を指数という。調査資料から指数表を作成し、その意味することを把握する際の注意点について理解する。
8	指数の比較 指数表に示された数値の差異から、グループ間の比較や変化について把握する方法を理解する。また、指数による比較の際の注意点についても学ぶ。
9	指数と実数の関係 指数は実数をもとに、計算によって変換された値である。調査資料に含まれる情報を読み解く際に注意すべき、実数と指数の関係、およびそれぞれの数値が意味することを理解する。
10	数表から円グラフの作成 数的資料の表現方法の一つである円グラフについて、どのような資料が表現に適しているのか、また示されたグラフから何が読み取れるかを理解する。
11	数表から棒グラフの作成 数的資料の表現方法の一つである棒グラフについて、どのような資料が表現に適しているのか、また示されたグラフから何が読み取れるかを理解する。
12	数表から折れ線グラフの作成 数的資料の表現方法の一つである折れ線グラフについて、どのような資料が表現に適しているのか、また示されたグラフから何が読み取れるかを理解する。
13	グラフの理解 数的資料を視覚的に早く理解するのに、グラフの作成は適している。円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフそれぞれの特徴と理解の仕方について理解する。
14	数的資料の解釈時の注意点 数表やグラフで表現される数的資料をどのように解釈し、その意味することを把握する際の注意点について学ぶ。また、グラフによる数的資料の表現の特徴と注意点について理解する。
15	総括 実際に資料を集め、数表とグラフを作成して解釈を行う。また、その結果を文章によって説明する。

レポート設題

設題数	設題数	設題数	設題数
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】短期大学生として「資料解釈」を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞
過去の経験を踏まえた上で、超高齢化、少子化、情報化、不登校、いじめ、教員の能力不足などと関連させながら、自分の将来につながるような内容の濃いレポートを期待している。

科目終了試験学修のポイント

1.「教育」に関する内容の数表を1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
教育現場では、成績、生活、友人関係、家庭環境などについて様々な調査が行われており、数的資料が発表されている。これらのテーマに関連する具体的な数表を作成し、その意味することを5択の設問にして、模範解答の解説をする。

2.「福祉」に関する内容のグラフを1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
数的資料を視覚的に表現する場合、円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフなどが使われる。福祉関連の数的資料を表現する際にどのグラフが最も適しているか考慮しながら作成する。グラフの解釈について5択の設問を作成し、模範解答の解説をする。

3.「学生」に関する内容の数表を1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
学生の学習・生活などに関する数的資料を数表にまとめ、その意味することを5択の設問にして、模範解答の解説をする。

4.「大学入試」に関するグラフを1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
大学志願者数、合格者数、学部・専攻の入学者数など、大学入試に関連する数的資料について実数あるいは頻度割合を使って円グラフ、棒グラフまたは折れ線グラフを作成し、グラフの解釈について5択の設問を作成し、模範解答の解説をする。

5.「就職」に関する内容の数表を1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
職種別就職者数、就職率、男女差など就職に関する数的資料を数表にまとめ、その意味することを5択の設問にして、模範解答の解説をする。

6.「教員」に関する内容のグラフを1つ作って資料解釈の小問題を5つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
男女の教員数、小学校・中学校・高等学校の教員数、教科別教員数など、教員に関連する数的資料について円グラフ、棒グラフまたは折れ線グラフを作成し、グラフの解釈について5択の設問を作成し、模範解答の解説をする。

※科目終了試験では、定規の持ち込みは可とする。

教科書

保育士研究会『保育士 就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

中学・高校の参考書や問題集など。

科目コード	人権教育（こどもの人権を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
1451/1452		1451：１年 1452：２年	R
教員名	上木文夫、須藤典征、鳥越由紀子、西村明子		

科目概要

子どもは人権の主体である。わが国においても、子どもの最善の利益の確保、差別の禁止、子どもの意見の尊重などの国際的な原則のもとで、その権利が現実に保障されるようになることが大切である。この講座では、これらの子どもの権利がどのように擁護されているのか、法令などの内容や社会、学校、家庭などの実態に即しながら考察を深める。

学修内容

1	人権教育について自身の体験について想起し整理する。
2	「憲法」および「世界人権宣言」にみられる基本的人権について整理する。
3	「人権教育・啓発に関する法律」及び、その基本計画について、その制定の経緯や関連について整理する。
4	子どもの人権について、特に「子どもの権利に関する条約」について理解を深める。
5	「子どもの権利に関する条約」の中で、子どもの「最善の利益」がどのように捉えられているか、整理する。
6	「子どもの権利に関する条約」の中で、子どもの「意見表明権」がどのように捉えられているか、また日常的にみられる子どもの意見の扱いについて整理する。
7	「子どもの権利に関する条約」の中で、子どもの「ゆとりや遊びの権利」がどのように捉えられているか、また、日常的にみられる子どもの遊びの扱いについて整理する。
8	「子どもの権利に関する条約」や「民法」などにみられる、「親の権利義務と子どもの権利義務」について整理する。（虐待などについても考察を広める）
9	高齢者、障害者など、今日的課題をも含めて、日常的にみられる、人権障害の事例を見いだし自分の考えを整理する。
10	わが国の人権教育の歩みと「同和教育」との関連を整備理する。
11	わが国の人権教育の歩みと「アイヌの人びと、外国人」の人権侵害・保障について整理する。
12	学校における人権教育の実際について、指導方法を含めて事例的に調査し自分なりの考えを整理する。
13	幼保および小学校の人権教育の実際について調査し、特に人権感覚の育成について考察し整理する。
14	中学校における人権教育の日常化についての在り方を考える。（いじめのない学校に向かって）
15	人権尊重の文化を築くために、（共生社会の実現のために）学校教育の果たす役割について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙(マス目)

【設題1】人権教育の現状と課題について考察し，学校での人権教育のあり方について考えを述べよ。

＜ポイント＞

「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成14年3月15日閣議決定）などを参考にして、国の動向をも踏まえて自分の考えを構築することが大切である。

科目終了試験学修のポイント

1．「世界人権宣言」と憲法の「基本的人権」について

＜ポイント＞

法的拘束力を持たない「世界人権宣言」が、世界的に大切にされていること。また、わが国の「憲法」と基本的人権の尊重において一致していること。

2．「児童の権利に関する条約」について

＜ポイント＞

子どもは一人の人間として権利の主体であるという条約の考え方を理解することが重要である。

3．学校教育における人権教育について

＜ポイント＞

学校は子どもの人権保障の一環として存在すること。発達段階に即した教育が重要であること。

4．教科等の学習における人権教育について

＜ポイント＞

特に知的な教科は点数により子どもの価値を決めてしまいがち。子ども一人ひとりの存在が大切にされる学習の在り方が重要になってくる。

5．わが国の人権問題の現状と課題について

＜ポイント＞

ハード面や法の整備に比べて、ソフト面の遅れ、人権感覚の問題など、また、国際的な視野も大切にする。

6．わが国の人権問題（課題）の解決について

＜ポイント＞

21世紀が「人権の世紀」と言われるように、人権尊重、共生社会の実現が望まれていること。人権尊重の文化を築くため人権尊重の日常化を図ること。

教科書

中野光、他『子どもの権利条約』岩波書店。

中野陸夫『早わかり人権教育小事典』明治図書。

参考文献

内山一雄『人権教育の基礎理論』明石書店。

ラルフ・ペットマン、内田多美『幼児からの人権教育』明石書店。

科目コード	人文科学の基礎（２単位）	登録年次	履修方法
1481		１年	R
教員名	小野智一		

科目概要

文化や歴史など人間の思想や行動に深くかかわる人文科学の領域（日本史、世界史、地理、倫理、国語・芸術など）を総合的に学び、大学程度の一般教養を身につけるとともに、就職試験などで課される重要概念を理解し、必要な知識を修得する。

また、本講では読書を通じて人文科学についての見方考え方を養うことも目的としている。

学修内容

1	読書を通じて人文科学の見方を養う―日本史、世界史、地理、倫理、国語・芸術などを事例として― 福沢諭吉『学問のすゝめ』教科書『日本の名著』pp.2-10.テキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「１．福沢諭吉『学問のすゝめ』の論点と影響について」
2	時代を見る視点～北村透谷『徳川氏時代の平民的理想』～ 教科書『日本の名著』pp.23-28.テキスト該当ページを読んで「国民」イメージの形成について、北村透谷の視点を整理する。
3	明治期における欧米コンプレックスとの対峙～志賀重昂『日本風景論』～ 教科書『日本の名著』pp.41-60. 志賀の日本の風土と西欧の風土を比較する視点についてテキストを読んでまとめる。 関連…科目終了試験学修のポイント「２．志賀重昂『日本風景論』の論点と影響について」
4	EU 理念にも連なる思想を築く～岡倉天心『東洋の思想』～ 教科書『日本の名著』pp.61-77. 天心の「アジアは一つ」についてテキスト該当ページを読んでまとめる。 関連…科目終了試験学修のポイント「３．岡倉天心『東洋の思想』の論点と影響について」
5	求道の精神～河口慧海『西蔵旅行記』～ 教科書『日本の名著』pp.77-82. 慧海のエピソードについてテキスト該当ページを読んでまとめる。
6	近代的自我の確立～夏目漱石『文学論』～ 教科書『日本の名著』pp.95-100. 夏目の考える文学的内容の形式についてテキストを読んでまとめる。
7	日本最初の独走哲学～西田幾多郎『善の研究』～ 教科書『日本の名著』pp.107-112. 西田の提示する「純粋経験」についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「４．西田幾多郎『善の研究』における「純粋経験」について」
8	環境と民族性～和辻哲郎『風土』～ 教科書『日本の名著』pp.227-232.和辻の風土論についてテキストを読んでまとめる。 関連…科目終了試験学修のポイント「５．和辻哲郎『風土』の論点と影響について」
9	西洋は「模範」か「外圧」か～大塚久雄『近代欧洲経済史序説』～ 教科書『日本の名著』pp.251-256.大塚の西欧社会についての考えをテキストからまとめる。
10	外交実務に携わった政治家が見た国際関係～陸奥宗光『蹇蹇録』～ 教科書『日本の名著』pp.47-52.陸奥が「国益」をどのようにとらえたかについてテキストを読んでまとめをする。 関連…科目終了試験学修のポイント「6. 陸奥宗光『蹇蹇録』 から読み取れる陸奥宗光の政治家としての「柔軟性」について」
11	日本文化の底流「いき」を西洋哲学で分析すると～九鬼周造『「いき」の構造』～ 教科書『日本の名著』pp.185-190.日本人の精神構造を分析する哲学実践についてテキストを読んで項目のまとめをする。
12	社会における科学の重要性とは～小倉金之助『日本の数学』～ 教科書『日本の名著』pp.263-268.科学史を学ぶ意義についてテキストを読んでまとめをする。
13	日本文化を日常目線でとらえると～坂口安吾『日本文化私観』～ 教科書『日本の名著』pp.275-280. 坂口安吾の文化観についてテキストを読んでまとめをする。
14	日本の社会科教育に影響を与えた民俗学の視点～柳田国男『先祖の話』～ 教科書『日本の名著』pp.293-298.柳田の描く民族文化についてテキストを読んでまとめをする。
15	日本社会・日本思想の近代化のパターンとは～丸山眞男『日本政治思想史研究』～ 教科書『日本の名著』pp.299-304.江戸時代の儒教はその後の日本にどんな影響をもたらしたか、テキストを読んでまとめをする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 明治期日本の文化人の気質について述べよ。

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』では、明治期日本を代表する文化人についての著作とともにエピソードがまとめられている。さまざまな分野の人物の著作とその意義を様々な角度からの分析をすることを推奨する。解答にあたっては、受講生自身が関心ある人物を3～4人取り上げ、主要著作の意義と気になったエピソードを取り上げながら論述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．福沢諭吉『学問のすゝめ』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.2-10.を読み、要点をまとめること。

2．志賀重昂『日本風景論』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.41-60.を読み、要点をまとめること。

3．岡倉天心『東洋の思想』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.61-77.を読み、要点をまとめること。

4．西田幾多郎『善の研究』における「純粋経験」について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.107-112.を読み、要点をまとめること。

5．和辻哲郎『風土』の論点と影響について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp.227-232.を読み、要点をまとめること。

6．陸奥宗光『蹇蹇録』 から読み取れる陸奥宗光の政治家としての「柔軟性」について

＜ポイント＞

教科書『日本の名著』pp. 47-52.を読み、日清戦争開戦から終結に至るまでの過程で陸奥の「柔軟性」が日本と外国との国際政治の場でどう発揮されたのか事例を挙げること。そしてその事例についてあなたの意見ををまとめること。

教科書

桑原武夫『日本の名著−近代の思想−』中央公論社。

参考文献

A.ハミルトン、他『ザ・フェデラリスト』岩波文庫。
佐々木毅『政治学の名著30』ちくま新書。
山内昌之『歴史学の名著30』ちくま新書。
日本経済新聞社編『経済学名著と現代』日本経済新聞社。
林敏彦『市民と社会を知るために』放送大学教育振興会。

科目コード	図画工作Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
7131		１年	ＳＲ
教員名	井戸川敦、井上昌樹、片岡浩、武本大志、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		

科目概要

造形教育を通しての教育は、子どもたちの創造性や個性・情操をバランスよく養うなど、望ましい人間的な資質の形成に深くかかわっている。本講義においては、造形教育の目的の理解と併せて保育内容（表現）や図画工作科の内容を理解し展開するために必要とされる多様な材料体験や造形表現体験を通して造形表現活動の経験を豊かにし、造形教育において必要な基本的な知識や技術を体験的に理解し習得する場とする。

また、本講義においては、多様な材料経験や造形における基礎的な実習等、指導者として求められる豊かな造形表現活動の体験に主眼をおく。

学修内容

1	第１章　造形教育の目的と内容 １．造形を学ぶねらいー美術教育に生かす　p.10～15
2	２．幼少接続ー学びの連続・幼少期の終わりまでに育ってほしい姿　p.16～17 ３．表現活動と鑑賞活動（えがく・つくる・みる活動）の内容と方法　p.18～21
3	４．他教科との連携による造形教育　p.22～23 ５．子どもの表現と大学での実技体験　p.24～25
4	第２章　絵画 ①　p.27～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
5	第２章　絵画 ②　p.27～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
6	第３章　版画 ①　p.69～ 1.~4.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
7	第３章　版画 ②　p.69～ 1.~4.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
8	第４章　彫刻 ①　p.79～ 1.~1.2 について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。 もし難しいと感じたら興味のあることについて調べたり、作品鑑賞を行うこと。
9	第４章　彫刻 ②　p.79～ 1.~1.2 について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。 もし難しいと感じたら興味のあることについて調べたり、作品鑑賞を行うこと。
10	第５章　デザイン・映像メディア表現 ①　p.105～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
11	第５章　デザイン・映像メディア表現 ②　　p.105～ 1.~18.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
12	第６章　工作・工芸 ①　p.143～ 1.~22.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
13	第６章　工作・工芸 ②　p.143～ 1.~22.について教科書を参考にしつつ、簡単な作業でもいいので興味のあることに工夫して取り組んでみよう。
14	第７章　鑑賞　p.195～
15	第８章　社会への広がり　p.211～

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】材料経験の重要性と，子どもの主体的な制作活動を促す題材化との関係について，具体的な題材例を示し，自身の制作経験もふまえて述べよ。

＜ポイント＞

・実際に造形材料に触れながら題材化を試み、素材や技法の特色・表現効果についての自身の気づきを踏まえながら、題材化における材料経験の重要性を考察すること
・実践した題材について、題材名、ねらい、対象年齢、内容を具体的かつ詳細に説明すること
・実践した題材の教育的な意義についても考えること

科目終了試験学修のポイント

1．幼児期における造形表現活動について

＜ポイント＞

・子どもの主体的活動を促す支援について考え、その活動を支える保育者のあり方を考察すること
・幼児の表現活動の特色について考え、造形活動と作品の関係について考えること

2．造形遊びの意義と望ましい環境づくりについて

＜ポイント＞

・子どもにとっての「遊び」の意義と造形表現との関係について考えること
・造形遊びを豊かに展開するための要素について考察すること

3．造形の要素について

＜ポイント＞

・造形を構成する諸要素について学びを深め、子どもの造形表現との結びつきについて考えること

4．造形技法と活動の展開について①

＜ポイント＞

・造形活動における偶然性を生かした表現について考えること
・表現技法と造形材料の関わりについて考えること

5．造形技法と活動の展開について②

＜ポイント＞

・造形活動を豊かに展開するための題材のねらいについて考えること
・表現技法と造形材料の関わりについて考えること

6．素材と表現の関わりについて

＜ポイント＞

・造形素材の分類やその特性について考えること
・素材体験や材料経験の重要性について考え、制作活動の展開に及ぼす素材の影響について考察すること

教科書

樋口一成：編著『小学校図画工作の基礎』萌文書林。

参考文献

花篤實、他『新造形表現　理論・実技編』三晃書房。

科目コード	図画工作Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7141/7142		1年/2年	ＳＲ
教員名	井戸川敦、井上昌樹、片岡浩、武本大志、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		

科目概要

保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。

学修内容

1	第１章　領域「表現」のねらいと内容　　pp.1~4 １．表現の本質 ２．幼児期と表現の教育 ３．領域「表現」のねらいと内容
2	第２章　造形表現の特質　pp.5~7 １．表現の分類 ２．造形表現の特質 第３章　幼児期と造形表現の特質　pp.8~10 １．幼児期と造形表現 ２．造形表現の指導のねらい
3	第４章　子どもの造形表現能力の発達　pp.11~24 １．幼児の成長発達と造形表現 ２．造形表現能力の発達段階について ３．外国における児童画の研究
4・5	第５章　造形表現の内容と指導　p.25 （第５章の各項目について各自で興味のある実技研修に取り組む。） （造形的な遊び）　pp.26~37 1. 砂遊び 2. 積み木で 3. 自然物で遊ぶ 4. 紙で遊ぶ 5. 空き箱，空容器などで
6・7・8	（絵で表わす）　pp.38~63 ①自身の絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵を理解する。 ②自由にのびのびと楽しむことを大切にして取り組んでみる。 ③様々な成果を記録し保管しておくとよい。6. 好きな動物 7. お話の絵（絵の具・コンテ） 8. 生活の中から（コンテ） 9. 線で描く 10. ゆび絵（フィンガーペインティング） 11. あわせ絵（デカルコマニー） 12.にじみ絵 13.型押し版画 14.スチレン版画 15.はじき絵 16.吹き散らし 17.紙版画
9	（いろいろな飾り）　pp.64~73 18.石や貝を並べて 19.おめん 20.吊るす飾り 21.身につける飾り 22.箱やかんを飾る

10 ・ 11	（作る）　pp.74~95 ①様々な素材の特性を活かしながら自由に表現してみる。 ②安全面に配慮すること。 ③様々な成果や工夫点について、写真や映像等も含め記録し、保管しておくとよい。23.粘土を使って 24.いろいろな動物（粘土を主に） 25.紙粘土 26.新聞紙などを使って 27.紙の袋を使って 28.空箱の利用 29.身の回りの材料を使って 30.こいのぼり 31.手さげ袋やかご 32.動くおもちゃ
12	（みんなで力をあわせて）　pp.96~105 33.大きな絵を描く 34.大きなものを空箱で作る 35.園行事の中で
13	第６章　指導の計画・方法・留意点　pp.106~116 現場の環境や状況、児童の発育段階を意識・イメージしながら様々な課題に取り組む。 １．指導計画の必要性とその意義 ２．指導計画の基本 ３．望ましい指導のあり方 ４．指導の過程（指導の段階） ５．個人製作と共同製作
14	第７章　材料・用具の種類と扱い方　pp.117~122 １．造形表現の材料・用具について ２．絵の具類 ３．紙類 ４．粘土類 ５．木材・その他
15	これまでのまとめと今後の課題 ①美術・造形というと苦手意識を持つ人もいるが、気にせず興味のあること・楽しそうなことに取り組んでみる。 ②NHK 日曜美術館などのメディアや美術館等の企画展示を鑑賞し、美術・造形を身近に感じてみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを，制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。

＜ポイント＞

1．「指導者の役割」とその重要性を説明できる。

2．指導の過程4段階を構想することができる。

3．構想した環境で想定される「指導の過程」について、具体例を挙げながら留意点を説明することができる。

科目終了試験学修のポイント

1．領域〈表現〉における造形活動の指導について

＜ポイント＞

幼児期と造形表現とはどのようなものかを理解し、造形表現指導のねらいを理解する。

2．幼児の成長発達と造形表現について

＜ポイント＞

造形表現能力の発達段階の特色を理解した上で、どのような題材を設定するのかを考えられるようにする。

3．指導計画の必要性とその意義について

＜ポイント＞

幼児の活動と実態を踏まえて、弾力的指導計画の実施に取り組むことが出来る。

4．望ましい指導のあり方について

＜ポイント＞

指導者の果たす役割と指導の留意点について具体的に考えることができる。

5．指導の過程（指導の段階）について

＜ポイント＞

事前の準備・動機付け・展開・まとめの4段階について、具体的な活動の展開と評価を構想することができる。

6．造形表現と材料・用具について

＜ポイント＞

材料・用具の種類と扱い方について、具体的に述べるとともに、それぞれの注意点について考えられるようにする。

教科書

村内哲二、他『保育内容　造形表現の指導』建帛社。

参考文献

樋口一成『小学校図画工作の基礎』萌文書林。

科目コード	図画工作科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4230		２年	ＳＲ
教員名	井戸川敦、井上昌樹、片岡浩、手塚千尋、畑山未央		

科目概要

この指導法の学修では、図画工作科の目標、内容、指導法を教科書や参考文献などから読み取り、理解する。また、子どもの発達段階や実態に応じた、具体的な展開例を通して、造形的な創造活動の基本的な能力や豊かな情操を養うための、適切な援助方法を考えていく。

学修内容

1	図画工作科の性格と目標について　教科書 pp.8-17 から読み取り、図画工作科で大切にすべき表現の楽しさ、創造性、造形性等について理解する。
2	図画工作科教育のあゆみについて参考資料等から読み取り、図画工作科教育の変遷を理解する。 それぞれの時代で大切にされてきた考え方を理解し、今後の指導のあり方を確立する。
3	子どもの成長発達と造形表現の発達について　教科書 p.44・p.72・p.98 から読み取り、それぞれの発達段階で特徴のある造形表現があることを理解し、指導に生かす。
4	内容構成・指導計画について教科書 pp.18-21 から読み取り、内容のそれぞれのねらいや指導計画作成の方法、手順を確認する。
5	造形遊び　学習のねらいと内容・指導のあり方について　教科書 pp.24-25 から読み取り、A表現（1）との違いや指導する際の注意事項等について理解する。
6	絵（版を含む）や立体・工作に表す　学習のねらいと内容・指導のあり方　について教科書 pp.26-27 から読み取り、ある目的をもって表現する楽しさ、おもしろさ、また創造性を生かすよさを味わえるように指導する。 【レポート設題１】について教科書 pp.26-27 等で理解し、A表現（2）のねらいを正しくとらえる。
7	鑑賞の学習の指導のあり方　について教科書 pp.28-29 から読み取り、鑑賞のねらいや表現と鑑賞のかかわりについて理解を深める。また図画工作科の中で鑑賞学習が重要視されていることを理解し、指導のあり方を考える。
8	共通事項について　教科書 pp.22-23 から読み取り、共通事項を設けた理由やその意義を理解する。また共通事項の内容を把握し、実際の指導に役立たせるようにする。
9	図画工作科における評価と方法について教科書 pp.30-33 から読み取り、評価の意義や目的を理解する。また図画工作科独自の評価のあり方について認識を深める。図画工作科に限らず学習評価はすべて目標に準拠したものであり、図画工作の場合〇造形への関心・意欲・態度　〇発想や構想の能力　〇創造的な技能　〇鑑賞の能力の４観点で行うことを理解する。
10	図画工作科の教材研究について　教科書 pp.34-42 から読み取り、教材研究の重要性や方法、注意点等の理解を深める。 特に図画工作の場合、授業で児童がすることを実際に自分で試してみることで問題点が分かるので、そうしたことを意識して学修をすすめる。 【レポート設題１】について、教科書 pp.34-42 等で教材研究の重要性について理解する。
11	材料・用具の扱い方について教科書 pp.34-42 を読み取り、図画工作の授業で扱う材料や、それに伴う用具について理解を深めると共に、実際に自分の手で扱ってみることで工夫すべき点や安全面の指導に役立てるようにする。
12	図画工作科と他教科等との関連づけについて教科書 pp.40-42 を読み取り、各教科や総合的な学習の時間・特別活動等と密接な関連があることを理解する。また幼稚園教育（表現）や中学校教育（美術）との関連も考慮する必要がある。ただし図画工作科の本来の目的があいまいになることも考えられるので、図画工作科の独自性を大切にすることを理解する。
13	低学年の指導・学習指導案について教科書 pp.44-71 を参照して理解する。 その上で、「モコモコ　ふわふわ」の授業を担当するものとして、その指導案（１単位時間）を書く。
14	中学年の指導・学習指導案について教科書 pp.72-97 を参照して理解する。 その上で、「わたしの〇〇な花」の授業を担当するものとして、その指導案（１単位時間）を書く。
15	高学年の指導・学習指導案について教科書 pp.98-129 を参照して理解する。 その上で、「木工作　動く仕組みでバンザイマン」の授業を担当するものとして、その指導案（１単位時間）を書く。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】表現の内容「感じたことや想像したことを絵や立体に表す」で、対象学年と題材を決め、具体的な展開例をもとに、「その子なりの多様な表現を保障する」教師の支援について述べよ。

＜ポイント＞

1．実際に、かいたりつくったりし、子どもの側から題材を理解する。

2．題材が持っている内容、造形的な価値を分析する。

3．指導過程で、個や全体に対し、どこで、どのような手だてが適切であるか組み立ててみる。

科目終了試験学修のポイント

具体的な展開例をもとに、述べよ。

1．表現活動と鑑賞活動とのかかわりについて

＜ポイント＞

表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、お互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら高まっていくものである。

2．造形遊びの価値について

＜ポイント＞

「何かをつくる」ことにとらわれず、材料やその形・色など造形要素にかかわりながら発想したり創造性を発揮する行為そのものに価値をおく。

3．評価方法の工夫について

＜ポイント＞

図画工作科の評価の意義を捉らえ、自主的、意欲的に造形表現をに取り組めるような評価のあり方を工夫する。また、評価は目標に準拠したものであることを踏まえ、4つの観点からすすめる。

4．教材研究の必要性について

＜ポイント＞

図工の教材研究は、子どもの立場に立って「実際に描いてみる、作ってみる」ことである。そのことにより材料・用具を知り、安全面や子どもが困るところが分かったり表現に関わる時間を予想したりする。また、指導に必要な掲示物・参考資料等も準備することになる。そのため、授業準備に欠かせないものである。

5．他教科等との関連について

＜ポイント＞

生活科、総合的な学習の時間、特別活動等と密接な関連がある。また、幼稚園教育（表現）との関連も重要なものである。しかし、あくまでも図工本来の目標を見失わないよう指導する必要がある。

6．「共通事項」の捉え方とその重要性について

＜ポイント＞

共通事項は「A表現」「B鑑賞」に共通して働いている子どもの資質や能力である。造形要素である形や色をもとに創造性や造形性を発揮して楽しく表現することが重要となる。

教科書

藤江充、他『これからの図画工作』日本文教出版。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』日本文教出版。

科目コード	生活（２単位）	登録年次	履修方法
7420		２年	R
教員名	坂本史生、杉山憲江		

科目概要

幼児期から児童期へのスムーズな活動の移行を意図して、教科「生活」が設定された。「生活」では、幼児からの連続を踏まえて、具体的な活動や体験を通して自分と身近な環境とのかかわりを大切にしながら実感的に学んで知的な気づきを深めたり、自分自身や自分の生活について考えたり、基本的な生活習慣を身につけたりする。したがって、本科目では、「生活」の趣旨や目標および内容について学ぶ際に、幼児保育との関連を重視する。

学修内容

1	各自の生活科の学習体験を想起する。生活科の子ども観を考える。 生活科学習のイメージが持てるように、各自の生活科の学習体験を想起する。それらを通して、低学年児童が具体的な体験を通して学ぶことの意義を理解する。
2	生活科誕生の背景と経緯を整理する。幼児教育と生活科の共通するところを整理する。 生活科は、低学年児童の学習のあり方を問うところから発想して誕生した教科である。その一つである幼児教育との関連を把握しておくことが必要である。
3	生活科の教科目標と体験とのつながりを整理する。学年目標と（4）生活科の遊び方について整理する。 教科目標では、体験を目標の一環として含む。学年目標では自分自身への気付き、生活科の学び方を示しているところに生活科としての特徴がある。
4	生活科の三層の内容構成とその特色について整理する。 第１の階層は児童の生活圏としての内容、第２の階層は児童が自らの生活を豊かにしていくために体験させておきたい内容、第３の階層は自分自身の生活や成長に関する内容である。
5	生活科の内容 1～3（学校、家庭、地域）について、子どもの生活環境との関係で整理する。 低学年児童の生活圏はおよそ学校、家庭、地域である。児童は普段無意識に生活していることが多い。児童が環境に意識的に、積極的に働きかけていくことにより、生活圏と自分とのかかわりを発見し愛着を深める学習を重視していく。
6	生活科の内容について 4～8（公共物、季節、自然、動植物、交流）について、子どもの生活との関係で整理する。 自分たちの生活を豊かにしていくために、低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容である。内容の（8）では身の回りの人との積極的な交流を目指していて、他の内容との関連が深いことを明確にしておくことが必要である。
7	生活科の内容９（自分自身）について、子どもの成長との関係で整理する。 自分の成長を多面的に振り返り、過去の自分と現在の自分を比較する。その際重要なことは児童が自分の成長を実感できることである。そのためには、児童一人ひとりの具体的な手掛かりが必要になる。
8	生活科の指導計画作成上の配慮事項と内容の取り扱いについての配慮事項について整理する。 特に郊外での活動を積極的に取り入れること、動植物の飼育栽培に関しては２学年にわたって取り扱うこと、他教科等との関連を積極的に図ることなどを確認しておくことが重要である。
9	生活科の内容と単元構成の関連について整理する。 生活科の内容は単一で、単元が構成されることは少ないと捉えておくことが重要である。しかし、複数の内容で単元を構成する場合、それぞれの内容の重点が曖昧にならないように配慮する必要がある。
10	生活科の学習指導の特徴と、指導案の特徴との関連について整理する。 生活科の学習指導は、地域や学校、また児童の実態に即して展開される。したがって、指導案にそれらの実態が指導の内容に即して明確に示される必要がある。このような実態把握が、実感のある学習に不可欠であることを確認する。
11	生活科の体験を重視した学習と、教科書との関連を考える。 生活科の教科書は、そのまま学習の内容や順序を示すのではない。学習のきっかけを見出したり、学習のステップを考えたり、学習対象の事例を参考にしたりすることに活用するものであることを理解する。
12	生活科の学習指導の実際を、教育実習などを活用して、できるだけ直接授業に触れ実感を持つ。 実際の授業を参観したり、ビデオ等の映像にふれる機会を持ったりして、生活科の授業についての実感を得たい。特に体験を重視する生活科においては、感性から理解することが多い。
13	生活科と他教科等、総合的な学習の時間とのつながりを整理する。 体験的な学習は総合的になる。したがって生活科の学習では、自然に他教科との関連が生まれてくる。また、3 年生以上の総合的な学習の時間への接続も検討しておく必要がある。

14	幼保との連携と生活科のスタートカリキュラムの特色とのつながりを考える。 特に入学当初に設定される単元は、学習環境の設定について幼保との関連を図ったり、具体的な活動を総合的に展開したりできるよう、他の単元以上に生活科を中心にした合科的な指導を工夫することが必要である。
15	生活科の特質に即した評価のあり方について整理する。 児童の実態に即して体験的に学習する生活科は、相対的に数量的に評価するのではなく、個々の児童の学習状況に応じて評価する必要がある。指導と評価の一体化を他教科以上に重視する必要がある。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児保育の基本と，教科「生活」の目標や内容との関連や連続について具体的に考察して述べよ。

＜ポイント＞

「生活」は子どもの実感を伴った気づきを重視する。したがって、子どもの身近な環境との情緒的なかかわりが学びの第一歩となる。子どもの心と頭と身体活動が一体となった学びの姿を見出すようにすること。

科目終了試験学修のポイント

1．教科「生活」の内容の特色について

＜ポイント＞

「生活」の内容の特色について、生活科の教科目標にも触れつつ考察する。

2．目標や内容が2学年まとめて示されることについて

＜ポイント＞

体験学習の特性、児童の関心、地域の特性、2年にまたがる単元など、生活科の学習特性との関連で考察する。

3．幼児の集団保育と「生活」の基本的な生活習慣を重視することの関連について

＜ポイント＞

幼児は外発的動機が大きく作用するが、生活科ではできるだけ児童の内発的動機をもって主体的に身に付けていくことを重視する。

4．幼児の「探検遊び」と「生活」の学習の関連について

＜ポイント＞

生活科の学年目標（4）の、生活科の学び方の特徴を踏まえて考察する。特に、振り返り重視に着目する。

5．「生活」と他教科等の学習との関連について

＜ポイント＞

体験を重視する生活科の学習では必然的に他教科等の内容が関連してくる。具体的な学習を想定して考察する。

6．「生活」の特質と気付きの質を高めることの関連について

＜ポイント＞

体験の中から生まれる気づきや感動を、意識化し、言語化などによって明確にして、学びあいや考えることに役立つ知恵に高めることを実践的に考察する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版。

参考文献

高浦勝義、他『生活科の理論』黎明書房。
高浦勝義、他『生活科の授業づくりと評価』黎明書房。
有田和正『生活科の授業づくりと技術』教育出版。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

科目コード	生活科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4240		２年	ＳＲ
教員名	坂本史生、杉山憲江		

科目概要

生活科の目標と内容について具体的な資料を通して学修する。本科目では児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動や体験の中で生まれる気づきの重要性を理解し、それらを活かした指導を行うことができるようにする。また、地域の環境や児童の発達段階に応じた教育活動が展開できるよう、実践事例を参考としながら生活科についての理解を深め、児童への指導法を学修する。さらに、生活科の事例検討や教材研究を通して、教育実践に関する知識・技術の習得をめざす。

学修内容

1	各自の生活科学習の経験を想起する。 生活科は体験的な学習である。自身の学習体験の中で印象に残っているものの中に、生活科学習のあり方に通じる大切な内容がある。情意を伴う学習体験である。
2	小学校教育課程における生活科の位置づけを確認し、体験重視の学習であることを明確にする。 具体的な体験を通して児童の生活を豊かにすることを、生活科は重視する。したがって、文化の伝承を重視する知的な学習が先行するのではなく、児童の生活そのものが学習の対象となる。
3	生活科学習の基本過程と各単元の特徴との関連について理解を深める。 学習の発端を児童の生活や関心に求める。探検活動、飼育栽培活動など各単元の特性に応じて、各単元の展開計画を工夫することが重要である。
4	児童の生活環境の地域的特徴や行事等の特徴の理解の必要性について整理する。 児童の生活する地域には、社会的・自然的な特徴がある。教師はあらかじめそれらを把握して生活科の学習指導に生かすようにする必要がある。加えて、教師の地域とのかかわりが強く求められる。
5	各自の地域において、生活科の内容に関連した地域マップを作成し、実際の学習とのつながりを整理する。 地域の実態を季節暦や行事、子どもの遊びなどと関連させた資料を作成し、指導計画や学習指導に生かすことが必要である。
6	生活科の指導計画を、地域の学校を想定した作成を試みる。 年間学習指導計画を、具体的な地域を想定してたてる試みをする。それによって、地域や学校のどのようなことを理解しておくことが必要であるかが把握できる。地域や各学校の実態を生かした学習指導計画が児童に実感のある学習を生み出すことに通じる。
7	教科書等を参考にして指導計画を具体化すると共に学習内容との関連を吟味する。 教科書に即した学習指導計画を参考にし、自身の作成した学習指導計画を吟味する。それによって、地域の実態に即しながら、生活科の目標や内容から逸脱しない学習指導計画が編成される。
8	6、7で作成した指導計画に従って学習指導案の作成を試みる（地域の特性を活かした単元）。 一単元の作成を試みる。その際、地域の事態、児童の実態、学修内容、教師の願い等を明確にすることを試みる。それによって単元目標、本時目標、本時の展開が想定できてくる。
9	6、7で作成した指導計画に従って学習指導案の作成を試みる（学校生活に関連する単元）。 特に、1 年生を対象とする。まず学校の施設や人々が自分とのかかわりにおいて理解され、自分の居場所として愛着を持つことができるように探検を通して学んでいけるように工夫する。
10	6、7で作成した指導計画に従って学習指導案の作成を試みる（入学当初のスタートカリキュラムとなる単元）。 4 月当初の単元である。幼児教育から小学校教育への円滑な接続を図るために、内容や活動を限定しすぎない緩やかな複線化された学習指導案とする。
11	6、7で作成した指導計画に従って学習指導案の作成を試みる（動植物の飼育栽培に関連する単元）。 動植物の飼育栽培は、長期にわたる活動となる。したがって、生活科の学習として活動する内容を焦点化しておくことと、常時活動をして児童が主体的に活動するところを明確にしておくことが重要である。
12	6、7で作成した指導計画に従って学習指導案の作成を試みる（自分の成長に関連する単元）。 自分の成長への気付きを促す単元である。したがって、生活科の他の単元や他の教科等の学習が関連してくる。特に一般的な成長単元にならないようにすると同時に、個人のプライバシーへの配慮が欠かせない単元であることに留意する。
13	6、7で作成した指導計画に従って学習指導案の作成を試みる（季節の変化や、自然を生かした活動に関する単元）。 それぞれの季節に親しみながら学習する。その際、楽しかったことや気づいたことを振り返り、伝えたり比べて考えたりできるように計画する。大単元と小単元として年間を通して季節感が得られるように配慮する。

14	体験を重視した生活科に即した評価の観点や方法について整理する。 特に個々の児童に即しながら、関心・意欲、思考・表現、気付きを大切にしていく。児童の活動に対する教師の共感の姿勢が大切になる。同時に、教師の指導の改善に生かすことを重視する。
15	生活科と他教科等を一体的に捉えた総合的な学習の重要性について考察し整理する。 総合的な学習は、未分化の児童に即した学習であると同時に、身につけた学習力を総動員して学習対象を一体的に学習するものである。生活科では、未分化から分化した学習への方向をとりながら、総合的な学習の大切さを児童に実感として残すことも同時に重視する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 学年を特定して「生活」の単元を、一つ具体的に作成せよ。

＜ポイント＞

教科書「教職科目要説　初等教育編」を参考にして作成すること。

その際に、単元構成の考え方、評価および展開上の留意事項、学習展開上の留意事項について十分検討し、単元展開計画例および指導細案例に活かすこと。

科目終了試験学修のポイント

1．「生活」の目標、内容と単元構成との関連について

＜ポイント＞

直接学習に関する経験のまとまりである単元は、いくつかの目標や内容が関連してくる。それを踏まえて考察する。

2．指導計画作成上の要点について

＜ポイント＞

目標や内容を考慮するのは当然であるが、体験を重視する生活科においては環境の実態や児童の興味関心など主体的な学習を支える配慮が欠かせないことに留意する。

3．子どもの思いや願いと教師の指導意図との接近を図ることについて

＜ポイント＞

子どもの実態把握が弱いと子どもの主体的で意欲的な学習が期待できない。教師の指導意図と子どもの意欲的な学習を近づける手立てについて考察する。

4．家庭や地域および幼保との連携を重視した指導について

＜ポイント＞

身近な環境を通して体験的に学ぶ生活科は児童にとっては生活そのものであることを踏まえて考察する。

5．「生活」の学習と他教科や総合的な学習の時間との関連について

＜ポイント＞

具体的に活動したり、体験の振り返りを意識化したり明確にしたりするためには、他教科等の力が欠かせないことを実践的、具体的に考察する。

6．動物や植物へのかかわり方が深まる指導の工夫について

＜ポイント＞

かかわる活動のきっかけについて、児童の実態を重視した無理のない接触と、継続的かかわり、心情的に愛着の深まる指導を具体的に考察する。

教科書

木村吉彦、他『小学校新学習指導要領の展開　生活科編』明治図書。

東京福祉大学編『教職科目要説・初等教育編』ミネルヴァ書房。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編』日本文教出版。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

科目コード	生活の中の福祉（２単位）	登録年次	履修方法
1940		１年	R
教員名	北爪克洋、水島正浩		

科目概要

近年急速に進展する少子高齢化など社会構造の変化に伴い、わが国はますます福祉重視型の社会をめざしている。本科目では、こうした社会で必要な生活の中の福祉とは何か、その考え方や対象となる様々な人々に必要な福祉にはどのようなものがあるのかなどについて、基本的な学びを深める。

学修内容

1	福祉を学ぶ意義について 教科書の冒頭にある「はじめに」を中心に読み、理解を深める。
2	生活と福祉（ライフサイクルと福祉） 教科書の第１章(pp.8～9）を中心に読み、理解を深める。
3	生活と福祉（高齢化と福祉） 教科書の第２章(pp.24～25）を中心に読み、理解を深める。
4	生活と福祉（少子化と福祉） 教科書の第２章（pp.22～23）を中心に読み、理解を深める。
5	少子高齢社会における福祉のあり方について 1～4 までの学修内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる。
6	福祉の考え方（福祉の捉え方） 教科書の第１章（pp.2～3）を中心に読み、理解を深める。
7	福祉の考え方（福祉と援助） 教科書の第１章（pp.4～5）を中心に読み、理解を深める。
8	福祉の考え方（ナショナルミニマム） 教科書の第７章（pp.108～109）を中心に読み、理解を深める。
9	福祉の考え方（ノーマライゼーション） 教科書の第１章（pp 20～21）を中心に読み、理解を深める。
10	福祉の考え方について 6～9 までの学修内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる。
11	対象となる人々と福祉（子どもと福祉） 教科書の第８章（pp.122～123）を中心に読み、理解を深める。
12	対象となる人々と福祉（高齢者と福祉） 教科書の第９章（pp.144～145）を中心に読み、理解を深める。
13	対象となる人々と福祉（障がい者と福祉） 教科書の第 10 章（pp.168～169）を中心に読み、理解を深める。
14	対象となる人々と福祉（低所得者と福祉） 教科書の第７章（pp.114～115）を中心に読み、理解を深める。
15	これからの福祉のあり方について 11～14 までの学修内容を踏まえて、自分なりの考えをまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】少子高齢化と福祉についてまとめ、今後の福祉のあり方について述べよ。

＜ポイント＞
少子高齢化の状況について整理し、高齢者に対する福祉、子どもや家庭に対する福祉について、その仕組みや現状、課題等を踏まえた上で、今後の福祉のあり方について自分なりの考えを述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．ライフサイクルと福祉について
＜ポイント＞
ライフサイクルの変化を踏まえ、その特徴に応じた福祉について述べること。

2．福祉の捉え方と援助について
＜ポイント＞
福祉の捉え方や援助に関する様々な考え方を整理し、その特徴について述べること。

3．ナショナルミニマムについて
＜ポイント＞
ナショナルミニマムの考え方を踏まえ、現在の福祉制度への影響について述べること。

4．ノーマライゼーションについて
＜ポイント＞
ノーマライゼーションの考え方を踏まえ、現在の福祉援助への影響ついて述べること。

5．障がい者と福祉について
＜ポイント＞
障がい者に対する福祉について、その仕組みや現状、課題について述べること。

6．低所得者と福祉について
＜ポイント＞
低所得者に対する福祉について、その仕組みや現状、課題について述べること。

教科書

山縣文治・岡田忠克編　『よくわかる社会福祉』　ミネルヴァ書房。

参考文献

大久保秀子著　『新・社会福祉とは何か』　中央法規出版。

科目コード	精神保健（２単位）	登録年次	履修方法
2225		３年	R
教員名	岡田良浩、三井三枝子		

科目概要

精神保健とは、精神的健康に関する公衆衛生であり、精神障害の予防・治療、リハビリテーションから、精神的健康の保持・増進を図るための諸活動までも含んでいる。このような精神保健の基本的視点や基礎知識を学び、現代における精神保健の意義や課題について考える。また、乳幼児から児童期・思春期までのそれぞれのライフステージにおける精神保健、及び、精神保健における個別課題、子どもの虐待、いじめ、不登校などへの取り組みについても検討していく。特に、本科目では、メンタルヘルスとストレス、子どもの問題行動を中心課題として考えていく。

学修内容

1	精神保健とは何か、教科書 pp.1-2 の定義を確認する。教科書 pp.2-6 を読み、精神障害者の処遇の歴史と精神衛生運動の発生、精神保健への発展の流れを学ぶ。日本の精神保健の歴史について知る。
2	教科書 pp.5-6 を読み、精神保健の背景となるフロイトの理論、エリクソンの発達理論（p.33）、ビアーズの精神衛生運動について確認する。
3	教科書 pp.6-11 を参考に、精神保健の対象と実践活動について知る。ライフサイクル（発達段階）からみた精神保健と生活の場（家庭、学校、職場、地域）からみた精神保健の２つの側面がある。
4	「乳幼児における精神保健」子どもにとって母親などの養育者の影響は大である。現代社会の少子化、核家族化、共働きの増加で、家庭の機能の変化やそのなかで生じる精神保健上の問題について考える。（教科書 pp.11-13）
5	教科書 pp.14-19 を読み、子どもの問題の現れ方ととらえ方、子どものサインや症状や問題のもつ意味を考える重要性を知り保育者の役割を考える。
6	「子どもの発達ごとの精神保健の特徴」教科書 pp.21-39 までを読み、それぞれの発達段階ごとの子どもの特徴を整理し、そこに生じる精神保健の問題についてまとめる。キーワード・・・愛着、基本的信頼感の形成
7	乳幼児期から児童期、青年期への発達を学び、個人差があること、発達のつまずきについて考える。（教科書 pp. 21-39）
8	「心の問題の理解と対応について」教科書 pp.49-99 を読み、子どもの問題としてあげられている愛着障害、心身症、習癖、乱暴、盗みについて項目別に整理する。
9	教科書 pp.99-126 を読み、子どもの心の問題として、緘黙、ひきこもり、児童虐待について理解する。さらに、子どもの心の問題への指導上の留意点、適切な対応について考える。
10	「発達障害について」教科書 pp. 127-192 の発達障害について、項目別に内容を理解する。言語障害、知的障害、身体障害、の特徴と配慮事項について学ぶ。
11	「発達障害について」教科書 pp.155-184 を読み、学習障害（LD）、注意欠陥/多動性障害（ADHD）、自閉症について理解を深め、具体像を知り、対応や配慮事項について学ぶ。
12	「慢性疾患の理解と対応について」教科書 pp.193-207 を読み、てんかんの症状や分類、治療、日常生活、保育上の留意点について学ぶ。
13	教科書 pp.207-213 を読み、小児慢性疾患の症状、治療がもたらす苦痛、親子関係、ケアの留意点、保育者の役割、親へのサポートについて学ぶ。
14	「発達の環境と精神保健について」教科書 pp.39-49 を読み、子どもを取り巻く現代の社会環境について考える。疲れている子どもが増え、子どものうつ病や自殺も注目されるようになった。人間関係も希薄になっている原因についても考える。
15	母親の育児不安の原因やその影響（児童虐待など）について検討し、保育に期待されるものは何か考える。子どもの心身の健全な発達にとって適切な環境はどのようなものか考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児における精神保健について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の子どもの精神保健の重要性についてまとめ、さらに発達障害についても考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．精神保健の意味及び基礎的な理論について

＜ポイント＞

精神保健の意義について述べ、精神保健の基本的な考え方の背景になる理論について述べる。

2．子どもの発達ごとの精神保健の特徴について

＜ポイント＞

子どもはそれぞれの発達段階で課題があり、それを解決できず、つまずきがみられることがある。
母子の愛着関係や基本的信頼感をもとに乗り越えていくが、心の問題を抱えるケースがあることをまとめよう。

3．心の問題の理解と対応について

＜ポイント＞

ストレス社会の中で多くの子どもが心の問題を抱えている。虐待、心身症、いじめ、不登校、ひきこもりなど
心の問題の特徴を示し、予防や対応について述べる。

4．発達障害について

＜ポイント＞

発達障害にはどのようなものがあるか示し、その特徴について整理し、早期療育の必要性や援助について述べる。

5．慢性疾患の理解と対応について

＜ポイント＞

てんかんや小児慢性疾患、難病をもつ子どもの心理について理解し、病苦や治療の辛さ、行動の制限による影響
を考え、心身両面からのケアの必要性と保育者の役割について述べる。

6．発達の環境と精神保健について

＜ポイント＞

少子化、核家族化、人間関係の希薄化など、子どもを取り巻く環境が子どもの発達に影響していることから、
精神保健活動に何ができるか、また、どう進めたらよいか述べる。

教科書

品川浩三『教育・保育双書10　精神保健』北大路書房。

参考文献

若林慎一郎、本城秀次編『保育・看護・福祉プリマーズ⑨　精神保健』ミネルヴァ書房。

科目コード	専門演習（２単位）	登録年次	履修方法
4611/4612		4611：3年 4612：2年	R
教員名	小野孝美、駒井美智子、坂本真理子、手塚千尋、戸田大樹、山口惠美子		

科目概要

これまでの学修や実習体験を振り返り、「子どもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例・課題について学修を行うことを通じて問題解決能力を養い、現代社会のニーズにかなった「子どもの専門家」としての専門性を高めることを目的とする。

学修内容

1	保育実習の意義 ・なぜ保育実習が必要かを考察し、実習施設について理解を深める。
2	保育の専門家としての知識と問題意識 ・今日の保育問題について調べ問題意識を持つ。
3	福祉職としての保育士 ・理解しておくべき職務内容や理念について理解を深める。
4	保育実習の心構えと準備 ・事前準備やマナー、留意点を理解する。
5	保育実習の記録 ・記録の意義や記入方法を理解する。
6	保育所の役割と機能 ・保育所の役割と責任、今日的な課題について理解を深める。
7	保育所における子ども理解 ・子どもの発達過程や遊びの実態を、こころの育ちに焦点をあてながら理解する。理解を深める観察の重要性と視点について考える。個別配慮の必要な子ども理解について学びを深める。
8	保育所保育士の職務理解 ・保育士が業務として何を行っているのかを学び、職務を理解していく。
9	子育て支援 ・保護者とともに子どもの育ちを喜び合える必要なことは何かを考えていく。
10	保育環境と安全 ・安全な環境を確保するためにどのような知識が必要かを学ぶ。感染予防や避難訓練について知り、子どもの命をどのように守っていくかについて考える。
11	施設で暮らす子どもや利用者の理解 ・施設で暮らす子どもや利用者の生活と、入所に至る理由や家族との関係について理解する。
12	施設保育士の役割 ・施設保育士が関わっている業務や、家庭支援、自立支援のための取り組みについて学ぶ。
13	施設における養護内容 ・様々な支援の実際や生活の質を高めるための支援の工夫、養護形態、退所後の支援等について学ぶ。
14	施設内の生活環境、衛生、安全管理 ・児童福祉施設生活で注意すべき事柄について学ぶ。
15	障害児者施設等における実習の留意点 ・障害児者施設等に共通した留意点と、各々施設に応じた実習上の留意点を学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 実習時における子どもや利用者への理解と援助について述べよ。

＜ポイント＞

・実習時の体験を基に、発達過程や特性を踏まえる。

・観察の重要性と視点について考察する。

・遊びや心の育ちに焦点をあて、援助の理解を深める。

科目終了試験学修のポイント

1． 保育所における子ども理解について

＜ポイント＞

発達過程や遊び、こころの育ち、観察の重要性、個別配慮の必要な子どもへの理解を深める。

2． 専門職として子どもを保育するということについて

＜ポイント＞

子どもの命を預かる、保育の環境について考察する。

3． 実習課題について

＜ポイント＞

実習課題の設定、実践、考察の重要さを考察する。

4． 実習生として保育にどのようにかかわるのかについて

＜ポイント＞

1日の流れ、子どもの生活や姿をイメージ、遊びについて具体的にまとめる。

5． 保育現場での安全について

＜ポイント＞

安心な保育環境、感染予防、点検、防犯対策、保育者の役割についてまとめる。

6． 保育者として仕事をするということについて

＜ポイント＞

実習経験から自己課題を明確にし、社会人としての意識、心構えなど考察する。

教科書

公益財団法人児童育成協会＝監修／近喰晴子・他 『新・基本保育シリーズ 20 保育実習』 中央法規。

参考文献

子どもの各保育内容などで使用した教科書全て。

科目コード	専門演習Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
4410/4411 4412/4413		4411/4412：３年 4410/4413：２年	4410/4411：ＳＲ 4412/4413：Ｒ
教員名	駒井美智子、坂本真理子、手塚千尋、戸田大樹		

科目概要

保育・子育て支援について具体的な事例、課題を取り上げながら演習形式にて、調査・分析、問題点整理の方法を学ぶ。また、それらを有機的に関連づけることによって実習にも備える。保育の現場で「保育」「子育て支援」「他文化の理解」の３つの視点を学生同士で、調べたり討論を交えたりしながら学修していく。

学修内容

1	現代社会と子どもの育ち　pp. 4-13 参照 社会変化が及ぼす子どもと保護者への影響を学修し、現代における保育・教育のあり方を考察する。
2	幼児期の発達と遊び　pp. 14-26 参照 幼児期の子どもの発達と遊びの特徴を押さえる。
3	レポート対策１　【設題】子どもの心を知ることについて述べよ（6 枚-8 枚）。 ＜ポイント＞　導入として学修内容１・2 を要約し、保育者が子どもの心を知ることの意義についてまとめる。
4	レポート対策２　子どもの心を理解するための臨床心理学的な視点と方法について（pp. 28-46 参照） ＜ポイント＞　別紙「科目終了試験学修のポイント」の設題１を参照してほしい。
5	レポート対策３　子どもの心を知る方法としての観察、また、実践改善における記録の重要性について（pp.47-61 参照） ＜ポイント＞　別紙「科目終了試験学修のポイント」の設題２を参照してほしい。
6	レポート対策４　子どもの心を理解するための基本的な考え「カウンセリングマインド」について ＜ポイント＞　参考文献を調べて「カウンセリングとカウンセリングマインドの関係性」についてまとめる。
7	レポート対策５　保育におけるカウンセリングマインドの重要性について ＜ポイント＞　レポート対策４を踏まえ、カウンセリングマインドを実習でどのように生かすかについてふれる。
8	レポート対策６　考察のまとめ ＜ポイント＞　レポート対策１～6 を踏まえ、子どもの心を知ることについて自分独自の考えを根拠づけてまとめる。
9	実践編１　保育者による保育の組み立てについて（pp.76-82 参照） ＜ポイント＞　Ｑ and Ａ を学修し、実習に向けてその他考えられる質問を書き出す。
10	実践編２　保育者によるこどもへの対応について（pp.83-97 参照） ＜ポイント＞　別紙「科目終了試験学修のポイント」の設題３のポイントを参照してほしい。
11	実践編３　保育者による保護者への対応及び保護者からの質問について（pp.98-115 参照） ＜ポイント＞　別紙「科目終了試験学修のポイント」の設題４のポイントを参照してほしい。
12	実践編４　　実習中の指導・援助について（pp.118-126 参照） ＜ポイント＞　Ｑ and Ａ を学修し、実習に向けて自らの実習課題を発見して対策を考えてほしい。
13	実践編５　　実習生・初任者が抱えるこどもへの対応のわからなさについて（pp.127-137 参照） ＜ポイント＞　別紙「科目終了試験学修のポイント」の設題５のポイントを参照してほしい。
14	実践編６　　実習生・初任者における園や保育者とのかかわりについて（pp.138-142 参照） ＜ポイント＞　別紙「科目終了試験学修のポイント」の設題６のポイントを参照してほしい。
15	総まとめ　保育における保育臨床相談について ＜ポイント＞　学修内容 1～14 を踏まえ、保育における保育臨床相談の有効性を考察してほしい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子どもの心を知ることについて述べよ。

＜ポイント＞

子どもの心を知る方法としての観察法などについてまとめ、さらに、その際の基本的な考えとなるカウンセリングマインドについても考察し、それを保育園や幼稚園での実習でどのように生かすかについてもふれること。

科目終了試験学修のポイント

1．子どもを理解するための臨床心理学的な視点と方法について

＜ポイント＞

子どもに寄り添っていく姿勢を基本とし、来談者中心療法及び遊戯療法について理解する必要がある。

2．観察と記録の重要性について

＜ポイント＞

日々の保育を改善するとの視点から、観察して記録することの意義について省察も含めて深く学修する必要がある。

3．保育現場における子どもの問題とその対応について

＜ポイント＞

キレる子どもなどの問題背景を読み取り、保育者の個々及び集団に適した子どもへの対応について理解する必要がある。

4．保護者の抱える問題とその対応について

＜ポイント＞

個々の保護者が抱える問題の質を捉え、保護者に寄り添いながら対応する保育者について具体的に学修する必要がある。

5．実習生としての子どもへのかかわりについて

＜ポイント＞

実習は短期間であるが、個々の子どもに寄り添いながら信頼関係を結べるようなかかわりが重要である。

6．実習生としての保育者へのかかわりについて

＜ポイント＞

保育者への礼儀やマナーは基本とし、子どもの発達や援助などの疑問点を積極的に質問するといった姿勢が大切である。

教科書

小田豊、他『保育臨床相談』北大路書房。

参考文献

子どもの心理入門や各保育内容などで使用した教科書全て。

科目コード	専門演習Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
4420/4421/4422		4420/4421：３年 4422：２年	4420：ＳＲ 4421/4422：Ｒ
教員名	小野孝美、駒井美智子、坂本真理子、手塚千尋、戸田大樹、山口惠美子		

科目概要

これまでの学修や実習体験を振り返り、子育て支援のあり方の幅広い可能性に重点を置いて「こどもの専門家」としての職業意識を養う。保育・子育て支援の具体的な事例・課題について学修を行うことを通じて問題解決能力を養い、現代社会のニーズにかなった「こどもの専門家」としての専門性を高めることを目的とする。

学修内容

1	実習施設の理解 保育所やさまざまな施設の役割と機能について理解を深める。
2	子どもを観察する視点と方法① 年齢別の子どもの発達段階を知る。
3	子どもを観察する視点と方法② 記録をすることの重要性
4	実習時や保育現場における子どもへの対応① 子どもを受け入れ、子どもの気持ちを知る。
5	実習時や保育現場における子どもへの対応② 葛藤場面での対応を考察する。
6	実習時や保育現場における保護者への対応① 保護者との出会い、保護者を知るということ
7	実習時や保育現場における保護者への対応② 実習生、保育者としてのふさわしい態度と姿勢 (自分の長所・短所を知る)
8	子育て支援について① 家庭、地域、子ども社会の変化と子育て支援の重要性
9	子育て支援について② 支援の基本姿勢、具体的な方法
10	実習中に学ぶ保育現場での支援① 園の基本的な一日の流れ
11	実習中に学ぶ保育現場での支援② 保育をする上で指導計画を作成する意義
12	保育環境 保育における環境構成のあり方
13	児童文化教材 絵本、紙芝居、ペープサート、手あそびなどに触れ習得する。
14	保育者の資質向上のために 保育職につく専門家としての心構え
15	実習や保育現場で学ぶことは 子ども理解、子どもとのかかわり、保育援助の仕方、保育者同士の連携、保育後の活動

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】実習を踏まえて、実習の注意点や問題点およびその対応法について述べよ。

＜ポイント＞

実習で記載した実習日誌などを参考に実習における注意点や問題点をまとめ、その対応法について考察をすること。

科目終了試験学修のポイント

1．実習時における子どもを観察する方法について

＜ポイント＞

年齢別の子どもの発達段階について理解する(心、体、社会性など)。

2．実習時における子どもの問題について

＜ポイント＞

子ども理解、子どもの受け入れ、子どもの気持ちを理解する。葛藤場面（ケンカ）を想定し対応を考察する。

3．実習時における保護者などの問題について

＜ポイント＞

保護者との出会い、保護者を知る中で実習生としてふさわしい態度について理解する。

4．保育における子育て支援の役割について

＜ポイント＞

子ども社会、家庭、地域の変化をかんがみて子育て支援の重要性を理解する。園の特徴を生かした支援とはどのような事か、まとめる。

5．保育現場での支援について

＜ポイント＞

基本的な一日の流れを理解し指導計画を作成する意義、保育における環境構成のあり方など保育者の仕事、役割をまとめる。

6．資質向上のための保育者同士の相互支援について

＜ポイント＞

保育職につく専門家として準備すること、心構えについて理解する。保育者同士が連携することの大切さについてまとめる。

教科書

関口はつ江『自分をいかす保育実習ハンドブック』大学図書出版。

参考文献

子どもの心理入門や各保育内容などで使用した教科書全て。

科目コード	造形演習（２単位）	登録年次	履修方法
6920		２年	ＳＲ
教員名	井戸川敦、井上昌樹、片岡浩、武本大志、手塚千尋、畑山未央、三沢幸彦		

科目概要

保育内容を展開する上で必要とされる、保育における造形活動の事例を例証・傍証して取り上げ、具体的な考察を行い、造形活動の題材系列や指導・援助に必要な個人の素養と、保育実践に必要な知識や技能を習得する。

学修内容

1	第１章　領域「表現」のねらいと内容 １．表現の本質 ２．幼児期と表現の教育 ３．領域「表現」のねらいと内容
2	第２章　造形表現の特質 １．表現の分類 ２．造形表現の特質 第３章　幼児期と造形表現の特質 １．幼児期と造形表現 ２．造形表現の指導のねらい
3	第４章　子どもの造形表現能力の発達 １．幼児の成長発達と造形表現 ２．造形表現能力の発達段階について ３．外国における児童画の研究
4・5	第５章　造形表現の内容と指導 （第５章の各項目について各自で興味のある実技研修に取り組む。） （造形的な遊び） 1. 砂遊び 2. 積み木で 3. 自然物で遊ぶ 4. 紙で遊ぶ 5. 空き箱，空容器などで
6・7・8	（絵で表わす） ①自身の絵描き経験に照らし合わせながら幼児の絵を理解する。 ②自由にのびのびと楽しむことを大切にして取り組んでみる。 ③様々な成果を記録し保管しておくとよい。6. 好きな動物 7. お話の絵（絵の具・コンテ） 8. 生活の中から（コンテ） 9. 線で描く 10. ゆび絵（フィンガーペインティング） 11. あわせ絵（デカルコマニー） 12.にじみ絵 13.型押し版画 14.スチレン版画 15.はじき絵 16.吹き散らし 17.紙版画
9	（いろいろな飾り） 18.石や貝を並べて 19.おめん 20.吊るす飾り 21.身につける飾り 22.箱やかんを飾る

10 ・ 11	（作る） ①様々な素材の特性を活かしながら自由に表現してみる。 ②安全面に配慮すること。 ③様々な成果や工夫点について、写真や映像等も含め記録し、保管しておくとよい。23.粘土を使って 24.いろいろな動物（粘土を主に） 25.紙粘土 26.新聞紙などを使って 27.紙の袋を使って 28.空箱の利用 29.身の回りの材料を使って 30.こいのぼり 31.手さげ袋やかご 32.動くおもちゃ
12	（みんなで力をあわせて） 33.大きな絵を描く 34.大きなものを空箱で作る 35.園行事の中で
13	第６章　指導の計画・方法・留意点 現場の環境や状況、児童の発育段階を意識・イメージしながら様々な課題に取り組む。 １．指導計画の必要性とその意義 ２．指導計画の基本 ３．望ましい指導のあり方 ４．指導の過程（指導の段階） ５．個人製作と共同製作
14	第７章　材料・用具の種類と扱い方 １．造形表現の材料・用具について ２．絵の具類 ３．紙類 ４．粘土類 ５．木材・その他
15	これまでのまとめと今後の課題 ①美術・造形というと苦手意識を持つ人もいるが、気にせず興味のあること・楽しそうなことに取り組んでみる。 ②NHK 日曜美術館などのメディアや美術館等の企画展示を鑑賞し、美術・造形を身近に感じてみる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児の生き生きとした造形活動を促すための「指導者の役割」と「指導過程」のポイントを，制作の実体験を踏まえ具体例を交えながら述べよ。

＜ポイント＞

1．「指導者の役割」とその重要性を説明できる。

2．指導の過程4段階を構想することができる。

3．構想した環境で想定される「指導の過程」について、具体例を挙げながら留意点を説明することができる。

科目終了試験学修のポイント

1．領域〈表現〉における造形活動の指導について

＜ポイント＞

幼児期と造形表現とはどのようなものかを理解し、造形表現指導のねらいを理解する。

2．幼児の成長発達と造形表現について

＜ポイント＞

造形表現能力の発達段階の特色を理解した上で、どのような題材を設定するのかを考えられるようにする。

3．指導計画の必要性とその意義について

＜ポイント＞

幼児の活動と実態を踏まえて、弾力的指導計画の実施に取り組むことが出来る。

4．望ましい指導のあり方について

＜ポイント＞

指導者の果たす役割と指導の留意点について具体的に考えることができる。

5．指導の過程（指導の段階）について

＜ポイント＞

事前の準備・動機付け・展開・まとめの4段階について、具体的な活動の展開と評価を構想することができる。

6．造形表現と材料・用具について

＜ポイント＞

材料・用具の種類と扱い方について、具体的に述べるとともに、それぞれの注意点について考えられるようにする。

教科書

村内哲二、他『保育内容　造形表現の指導』建帛社。

参考文献

樋口一成『小学校図画工作の基礎』萌文書林。

科目コード	総合演習（２単位）	登録年次	履修方法
1341		２年	ＳＲ
教員名	小笠原眞紀、菅沼太陽、竹内俊彦、泉二奈緒美		

科目概要

子どもの生命を守り、よりよい子育て支援を行うために、身近な衣食住環境とのかかわりから、地域、国、国際、地球レベルでの環境保全に至るまでの視点を導入し、人間社会環境間の相互作用を人間環境・教育福祉システムとして考え、課題発見および課題解決学習を行う。児童の人権と健やかな成長を育むための人的物的資源のあり方を人間環境科学（自然科学的方法）及び人間社会環境科学（社会科学的方法）等を総合して考え、問題解決能力を培うためのプロジェクト学習科目である。

学修内容

1	**発育の一般原則の理解** 子ども達の成長と各発育発達段階においてみられる環境について考える。具体的には、胎児の時期における体内環境因子、発育における生物学的発育現象と生活環境因子との相互作用、生育環境の違い（自然環境に恵まれた農山村と都市部）による発育の違いなどについて学ぶ。 (教科書『人間環境･教育福祉論』pp.2-5)
2	**子ども達の未来を考える** 失われていく自然環境とテクノストレスのなかで、子ども達が未来に向けてどのように変化することが予測されるかについて考える。具体的には、発育期における子どもの生理的、心理的、社会的不適応現象や発育異常、各種アレルギー疾患の急激な増加などについて学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.6-12)
3	**乳幼児期の発達を支える環境刺激** 人類にとっての環境を理解し、胎児期を経て出生後、乳幼児はどのように環境との関わりを通して発達していくか、また発達における環境刺激の重要性について学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.15-29)
4	**ムーブメント教育を例とした教育環境** 乳幼児期の子ども達にとって、遊びは毎日の生活の中で一番に大切なものであり、発育発達の源泉である。子どもの発達支援を目的とした運動遊びからなる教育的支援方法の１つにムーブメント教育がある。ムーブメント教育の最大の特徴である発達に遅れのある子ども達１人ひとりの発達段階に応じた支援プログラムが提供できることを具体例から学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.29-39)
5	**乳幼児期の発達を支える地域福祉環境** 子どもの発達に影響を及ぼす環境として、人的環境、物的環境といった子ども達が日々の生活の中で直接関わることのできる環境以外にも、家庭と保育園の連携や近所の人と学校との連携、子どもが住む自治体の母子保健、社会福祉のあり方、まちの産業構造など子どもが育つ地域や社会を特徴づけるものがある。このような地域福祉環境について学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.40-51)
6	**現代の学校教育の原点を探る** 学校教育における健康教育は、それまでの病気の危険因子となる行動変容の手段となる予防に関する学習中心のものから、人々が自らの行動と努力による健康的なライフスタイル形成に重きを置くものとなっている。個々の健康に対する考え方を「何のための健康か」という原点から考えることを学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.54-60)
7	**児童･生徒の発達課題と学校教育** 小中学校と高等学校の２つの段階について、健康という視点からその特徴と課題について理解し、学校教育との関わりの中での解決方法について学ぶ。具体的には、「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21)」で挙げられた具体的な目標等について発達課題に応じた検討を行う。特にアレルギー疾患の増加については、教育現場で大きな問題と考えられていることからも、詳しく取り上げる。 (『人間環境･教育福祉論』pp.60-67　『国民衛生の動向 2013/2014』pp.175-176)
8	**教育健康学と学校教育における課題解決** 現在の学校教育における健康教育について、小学校・中学校・高等学校の各学習指導要領でどのように取り上げられているかを比較し、教育健康学の視点で学校教育を取り巻く問題について考え、実現可能な解決策、予防策について学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.73-79)
9	**学校保健と保健教育** 学校保健と保健教育について整理し、保健に関連する学習指導要領の変遷を比較する中で、その改訂のポイントを現場の状況を踏まえながら、子ども達の心身の健康を保持増進させるための知識や技術を学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.126-133　『国民衛生の動向 2013/2014』pp.372-374)
10	**保健学習で育む資質と能力** 保健学習を通して、子ども達に何を学んでもらいたいのか、どのような能力を身につけて欲しいのか（学習目標)、学習目標を達成するために用いられる方法（学修内容）は何か、について、現行の学習指導要領から学ぶ。 (『人間環境･教育福祉論』pp.133-137)
11	**人間環境・教育福祉の原点** 教育の原点を、育児、育児行動の観察に意義を求め、よりよい地球環境の存続に人間を含めた生態系を維持することからの学びを教育に原点におくべきであることを学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.166-175)

12	**乳幼児の鍛錬保育と自然環境** 各種環境刺激を受けて、生体側が反応する能力、すなわち生体内部での調整力を発達させることを目的とした保育の方法は「鍛錬保育」といわれるが、応用展開例としてぜん息やアトピーなどアレルギー反応を持つ乳幼児への対応を学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.175-182)
13	**成長過程と人間環境・教育福祉** ポートマンのいう「生理的早産」で生まれたヒト（個体）が人、そして人間となる上で必要不可欠な教育過程を経て、社会的存在となるために、心身ともに健康な国民の育成に力を入れていることを学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.182-183)
14	**人間の心と身体と生活を支援する「臨床の知」** 「臨床の知」とは、近代社会が見失ってしまった「現実」は、生命現象がもたらす意味、自律的な振る舞い、自己創造と人との交流、人間の現実の生活、関係の相互性、生態系、人間環境としての地球環境をよりよく次世代に引き継ぐために現実の生活の中で思考し、創りだし、実践することなど現場において察知できることを学ぶ。 (『人間教育･教育福祉論』pp.183-185)
15	**子どもを取り巻く社会環境と子どもの成長** 子どもの発育環境に対する問題提起は、多くの書物、新聞記事、関連資料の中で触れられている。これらの資料を各自で収集し、そこで提起されている問題を整理し、自分なりの考察をする（参考文献にあげた書籍以外でも構わない）。 (子どもの発育環境に対する問題提起がなされている資料を、各自で収集し考察する)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】小児の発育に環境が与える影響について述べよ。

＜ポイント＞
発育の一般原則を踏まえ、都市部・農山村による影響や熱帯地域、寒冷地域、山岳地域などの気候環境による影響、開発途上国の小児の発育の現状など、自然・社会・文化・経済・時代背景などにも視点をおいた小児の発育の地域（生育環境）差について自由に論究する。

科目終了試験学修のポイント

１．都市化人工化が、人間の心身状態や疾病の罹患傾向に及ぼす影響について述べよ。
＜ポイント＞
急激な都市化、人工化により、発育期における子どもは各種の生理的、心理的、社会的不適応現象を示すようになる。これらを具合的に説明すること。

２．胎児の発育と母体環境との相互作用について考察せよ。
＜ポイント＞
胎児が母体内でどのように発育していくかについて具体的に述べていく中で、胎児の発育が母体に及ぼす影響と、母体の環境が胎児に及ぼす影響の両面について考察すること。

３．アレルギー疾患の年齢的消長について述べ、近年、アレルギー疾患はなぜ増加しているのかについて考察せよ。
＜ポイント＞
アレルギー疾患の発生が年齢によりどのように変化するかを述べた上で、アレルギー疾患が増加している要因について考察すること。

４．ムーブメント教育の意義について、具体例を示して説明せよ。
＜ポイント＞
ムーブメント教育とは何か、その理念、目的、特徴を明らかにした上で、ムーブメント教育実践例について具体的に説明すること。

５．学校教育の場で、健康教育を行う必要性とその方法について説明せよ。
＜ポイント＞
今日の学校教育の現場において発生しているさまざまな教育問題に対して、保健教育に期待されている役割について述べた上で、健康教育を授業で展開していく際のポイントについて具体的に説明すること。

６．子どもを取り巻く社会環境と子どもの育ちについて考察せよ。
＜ポイント＞
子どもの生育環境がその発育にどのように影響しているかについて、多面的に考察すること。

教科書

厚生統計協会『国民衛生の動向』厚生統計協会。
鈴木路子、他『人間環境・教育福祉論』光生館。

参考文献

荒井良『胎児の環境としての母体』岩波新書。
瀧井宏臣『こどもたちのライフハザード』岩波書店。
神山潤『「夜ふかし」の脳科学ー子どもの心と体を壊すもの』中公新書ラクレ。

科目コード	相談援助演習（２単位）	登録年次	履修方法
6430		２年	ＳＲ
教員名	遠藤修正、茅野由紀、柳澤利之、吉岡英雄		

科目概要

保育者の専門的能力として、相談援助の理論と方法を理解し、ソーシャルワークの技術を有することが重要視されていることを理解し、実践の場でその技術が活用できるよう、具体的な身近な事例を取り上げる。対人援助者としての素養を培うとともに、計画、記録、評価等の具体的な方法も身につけることを目指す。

学修内容

1	第１章「社会福祉士の役割と意義」：社会福祉士は、どのような仕事をするのか、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴う社会福祉士の役割と意義について学ぶ。
2	第１章「社会福祉士の役割と意義」：地域を基盤としたソーシャルワークが必要となってきた背景を理解するために、現代社会と地域社会の概要について学修する。
3	第２章「相談援助の定義と構成要素」：ソーシャルワークの定義について学ぶことによって、ソーシャルワークの目的を理解し、さらにソーシャルワークの介入や活動範囲の広さについて認識を深める。
4	第２章「相談援助の定義と構成要素」：ソーシャルワークを構成する要素として、クライエントシステム、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源・サービス等について学ぶ。
5	第３章「相談援助の形成過程Ⅰ」：ソーシャルワークの歴史を見るにあたり、まず、宗教的な救済の歴史、産業革命とともに表面化してきた社会問題、それに対応するために展開された社会活動について学ぶ。
6	第３章「相談援助の形成過程Ⅰ」：現代のさまざまなソーシャルワーク活動の原型を形づくったソーシャルワークの源流（慈善組織協会・セツルメント・YMCA 等）について学ぶ。
7	第４章「相談援助の形成過程Ⅱ」：ソーシャルワークの発展期を学び、ソーシャルワークが専門職として確立していく過程で、個々の方法や技術をどのように位置づけたか、また、どの活動に重点を置いたかを学修する。
8	第４章「相談援助の形成過程Ⅱ」：ソーシャルワークの展開期、統合化の流れなど、ソーシャルワークのあり方について焦点となった議論や方向性を学ぶ。
9	第５章「相談援助の理念Ⅰ」：ソーシャルワークと価値との関係について学ぶ。専門職として共有する価値のなかで、最も重要な基盤となる「社会正義」「人権尊重」「権利擁護」について理解を深める。
10	第６章「相談援助の理念Ⅱ」：ソーシャルワーカーがよく理解しておくべき、クライエントの自己決定、自立支援、エンパワメント、ストレングス視点、ノーマライゼーション、社会的包摂などの理念について学ぶ。
11	第７章「専門職倫理と倫理的ジレンマ」：ソーシャルワーカーの専門職倫理について、またソーシャルワークの実践における倫理綱領の活用について理解を深め、学修する。
12	第８章「総合的かつ包括的な援助の全体像」：総合的かつ包括的な相談援助が求められる背景、基本的視座、機能について学修する。
13	第９章「総合的かつ包括的な援助を支える理論」：ジェネラリスト・ソーシャルワークを支える理論や特質について、点と面の融合、システム理論、生態学、本人主体、ストレングス視点、マルチシステムなどを学ぶ。
14	第 10 章「相談援助にかかる専門職の概念と範囲」：専門職の成立条件や、ソーシャルワーカーの専門職としての独自性、また、職能団体の役割や活動について学ぶ。
15	第 11 章「総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能」：これまで学んできた総合的かつ包括的な相談援助の各機能につて、５つの事例から学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】相談援助にかかる専門職の概念と範囲について述べよ。

＜ポイント＞

専門職の成立条件や専門領域、職能団体の役割や活動について学ぶ。さらに、相談援助専門職の活動分野について理解を深める。

科目終了試験学修のポイント

1． ソーシャルワークの源流について

＜ポイント＞

①ソーシャルワーク前史についてよく整理して理解を深める。

②慈善組織協会（COS)、セツルメント、YMCA・YWCA、ボーイスカウト・ガールスカウトはソーシャルワークの方法論の系譜になるもので、深く理解する。

2． ソーシャルワークの基礎確立期について

＜ポイント＞

（ア）ケースワークが確立する上でのリッチモンドの果たした役割について理解を深める。

（イ）同時に、ソーシャルワークが専門化する点や諸科学から影響を受ける点、時代の中で公的性格を帯びることなどを学修する。

3． ソーシャルワーク実践と権利擁護について

＜ポイント＞

①権利擁護が必要とされる背景、深刻な権利侵害の実態について理解する。

②権利擁護の定義、権利擁護の種類、権利擁護を行うシステム、実践としての権利擁護について整理する。

4． ノーマライゼーションと社会的包摂について

＜ポイント＞

①ノーマライゼーションの歴史、原理、理念の展開について理解する。

②社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の概念を理解する。

5． 専門職倫理の概念について

＜ポイント＞

専門職と倫理、専門職倫理の必要性について状況をイメージしながら理解する。

6． 倫理綱領の意義と内容について

＜ポイント＞

倫理綱領の意義、全米ソーシャルワーク協会の倫理綱領、日本社会福祉士会倫理綱領及び行動規範をよく読み、理解を深めること。

教科書

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座6　相談援助の基盤と専門職』中央法規。

参考文献

小田兼三、他『社会福祉援助技術論』勁草書房。

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座』（7・8　相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ）中央法規。

科目コード	相談支援（２単位） ※幼稚園教諭免許状既取得者のみ履修可	登録年次	履修方法
6670		１年	R
教員名	岡野雅子、齋藤厚子		

科目概要

保育士養成課程の教科「家庭支援論」「保育相談支援」の２つの科目の目標・内容をもとに、幼稚園教諭免許を有する者が幼稚園等での勤務経験により、保護者対応等の経験を一定程度積んでいることを考慮し、「家族支援・保育相談支援の意義と役割」及び「多様な支援と関係機関との連携」のほか幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心に学修する。

学修内容

1	１．家庭支援の意義と役割 ・家庭の意義と機能及び家庭支援の必要性
2	・保育士等が行う家庭支援の原理
3	・子育て家庭の福祉を図るための社会資源
4	２．多様な支援の展開と関係機関との連携 ・子育て支援サービスの概要
5	・地域の子育て家庭、要保護児童及びその家庭に対する支援
6	・子育て支援における関係機関との連携
7	３．保育相談支援の意義 ・保護者に対する保育相談支援の意義 ・保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
8	４．保育相談支援の基本 ・保護者の養育力の向上に資する支援
9	・信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
10	５．保育相談支援の実際 ・保育に関する保護者に対する指導及び支援の内容
11	・保護者支援の方法と技術
12	・保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
13	６．児童福祉施設における保育相談支援 ・保育所における保育相談支援及び特別な対応を要する家庭支援の実際
14	・児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
15	・障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 家庭支援、保育相談支援の意義と役割、及び多様な支援と関係機関との連携について述べよ。

＜ポイント＞

家庭支援や保育相談支援がなぜ必要になってきたのか、その社会的背景について説明する。また、具体的な支援内容について説明するとともに、関係機関との連携がなぜ必要であるかについて述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．家庭の意義と機能及び家庭支援の必要性について

＜ポイント＞

家庭とは本来どのような意義や機能をもっているのか。また、近年それが変化するなかで、家庭支援がなぜ必要になってきたかについて考察する。

2．地域の子育て家庭、要保護児童及びその家庭に対する支援について

＜ポイント＞

地域の子育て家庭に対する支援や、要保護児童とその家庭に対する支援の必要性について考察するとともに、関係機関との連携の必要性について述べる。

3．保育の特性と保育士の専門性を生かした支援について

＜ポイント＞

保育とは何か。また、保育士の専門性と家庭支援の関係について述べる。

4．保育相談支援の基本について

＜ポイント＞

子どもの発達を支えるための保護者に対する支援のあり方について、信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重等についてまとめる。

5．保育相談支援の実際について

＜ポイント＞

保護者に対する支援の内容や方法、技術、そして計画、記録等についてまとめる。

6．児童福祉施設における保育相談支援について

＜ポイント＞

さまざまな児童福祉施設における保育相談支援についてまとめる。

教科書

山縣文治、他『よくわかる家庭支援論』ミネルヴァ書房。

柏女霊峰、他『保育相談支援』ミネルヴァ書房。

参考文献

小林育子『演習保育相談支援』萌文書林。

科目コード	体育（２単位）	登録年次	履修方法
4310		２年	ＳＲ
教員名	清水信好、西田希、仁藤喜久子、前鼻啓史		

科目概要

小学校教育課程における体育授業の基本的考え方や運動指導に必要な基本的知識を理解し（R）、各領域（体つくり運動、器械運動、陸上運動、ゲーム・ボール運動、表現運動、保健学習等）の特性を踏まえ実技を行う（S）。スクーリングについては実技中心の授業であり、適宜講義とディスカッション形式を取り入れる。

学修内容

1	体育科の他教科にはない特性及び学習指導要領に示される目標について教科書をもとに整理する。
2	体育科の領域構成について教科書をもとに理解する。
3	技能差のはっきりする体育学習において「できないこと」を「できるようにする」ための指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。(鉄棒運動「さかあがり」を中心として)
4	技能差のはっきりする体育学習において「できないこと」を「できるようにする」ための指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。 (跳び箱運動「開脚跳び」を中心として)
5	技能差のはっきりする体育学習において「できないこと」を「できるようにする」ための指導のポイントを教科書等の実践例をもとに整理する。(水泳「水に恐怖心を持つ児童について」)
6	全学年で取り上げられた「体つくり運動」の特性と教材価値(期待できる児童の変容)について教科書等の実践例をもとに整理する。
7	「ボール運動」(ゴール型)の典型教材を例示し、児童に身につけさせたい技能や態度の内容について教科書等の実践例をもとに整理する。
8	「ボール運動」(ネット型)の典型教材を例示し、児童に身につけさせたい技能や態度の内容について教科書等の実践例をもとに整理する。
9	「ボール運動」(ベースボール型)の典型教材を例示し、児童に身につけさせたい技能や態度の内容について教科書等の実践例をもとに整理する。
10	「表現運動」や「ダンス」の教材やその指導法について教科書等を参考にしながら整理する。
11	「陸上運動」のリレーやハードル走の教材づくりについて教科書等を参考にしながら整理する。
12	「器械運動」の技の系統性や安全面の配慮事項について教科書等を参考にしながら整理する。
13	スクーリングに備え、近隣の公園などを利用して、「さかあがり」「リフティング(サッカー)」「縄跳び」などの身近な運動を実践する。(実技)
14	スクーリングに備え、近隣の公園などを利用して、「さかあがり」「リフティング(サッカー)」「縄跳び」などの身近な運動を実践する。(実技)
15	「保健学習」の教材配列を整理し、指導法について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 体育の目標，特性，領域を整理し，体育学習において子どもに身につけさせたい内容について述べよ。

＜ポイント＞

・学習指導要領（体育）の目標を的確に把握する。

・他教科には無い体育科の特性を整理する。

・特性を踏まえ、体育学習で期待できる子どもたちの変容について具体的に記述する。

科目終了試験学修のポイント

1．現代日本における体育科教育の重要性について

＜ポイント＞

・体育の目標を理解するとともに、その目標の変遷の内容を理解する。

・現代における体育科の抱える課題を明確にするとともに、それを理解する。

2．新体力テストの目的と，子どもの体力との関連性について

＜ポイント＞

・新体力テストの目的を理解するとともに、子どもの体力低下の要因を考える。

・新体力テストの項目とそれぞれの運動特性を理解する。

3．体つくり運動の内容と指導方法について

＜ポイント＞

・小学校現場で行われる体つくり運動の各学年での内容を理解する。

・それぞれの体つくり運動の目的や効果の内容を把握する。

4．器械運動領域における段階的な指導について

＜ポイント＞

・器械運動の種目と、学年が上がるに連れて難易度が高まることを知る。

・各学年での技の展開や指導のポイントを理解する。

5．小学校体育におけるボールゲームの指導方法について

＜ポイント＞

・ボールゲームの種類と、生涯スポーツになる要因について理解する。

・ボールゲームの展開について段階的な授業計画により行うことを理解する。

6．小学校体育における保健学習の指導について

＜ポイント＞

・小学校体育における保健領域の学習のねらいについて理解する。

・中～高学年での保健領域の内容を理解する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領　体育編』東洋館出版。

参考文献

高橋健夫『新版　体育科教育学入門』大修館書店。

科目コード	体育科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4210		２年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、沖雅美、小谷川元一、清水信好、西田希、仁藤喜久子、前鼻啓史		

科目概要

体育を指導する上での基本的な知識・技能を身につけ、各領域の教材づくりと指導のポイントについて学修する。

スクーリングは実技中心の授業であり、体育の模擬授業形式で授業を進める。部分的には講義やディスカッション形式で授業を行う。

学修内容

1	体育科の特性及び目標を整理し、体育科とはどのような教科なのかについて理解を深める。 （スポーツと学校体育の違いについても見解をまとめる。）
2	体育の学習の主体である子どもはどのような性質を持つのかについて自身の経験などをもとに考える。 （社会的背景に起因する最近の子ども像を経験の中からまとめる。）
3	体育の領域と単元構成について教科書等をもとに整理する。 （低・中・高学年の領域構成と単元の組み立て方について事例をもとに整理する。）
4	体育科の教材・教具論について教科書等をもとに整理する。 （中学校での種目主義と小学校の教材主義の違いについても関連付けてまとめる。）
5	典型教材を作成する。 （資料等を参考にしながら、児童に学習させたい教材を考案する。）
6	人間関係を構築する体育学習について教科書等をもとに整理する。 （希薄な人間関係の社会背景についても考察する。）
7	いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について、参考書の具体事例などをもとに整理する。 （今日の時代的要請であることも踏まえ、報道記事なども参考にしながらまとめる。）
8	体育学習において教師が特に配慮すべきことについて、自身の経験をもとにまとめる。 （安全面の配慮については必ずおさえながらまとめる。）
9	体育科学習指導案の作成のポイントについて参考書の具体事例などをもとに整理する。 （児童の実態把握→教材づくり→単元計画と目標設定→学習過程→評価の流れをもとに）
10	体育科学習指導案を作成する。 「体つくり運動系教材」
11	体育科学習指導案を作成する。 「器械運動系教材」
12	体育科学習指導案を作成する。 「ボール運動系教材」
13	体育科学習指導案を作成する。 「保健学習系教材」
14	体育科学習指導案を作成する。 （「陸上運動系教材」「水泳系教材」「表現運動系教材」の中から一つを選ぶ。）
15	良い体育授業の条件についてまとめ、学修のまとめをする。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 体育学修のポイントを整理し、具体事例をもとにより良い体育授業について述べよ。

＜ポイント＞

・「わかる」「できる」「かかわる」が両立する体育授業とは何か把握する。

・体育の特性を整理し、人間関係構築のために体育の果たす役割を理解する。

・子どもが伸びる具体的な教材を示し、授業のポイントを整理する。

科目終了試験学修のポイント

1．体育とは子どもたちにどのような影響を与える教科なのか

＜ポイント＞

・現代の子ども像を分析し、不足している力を整理する。

・体育の特性を他教科と比較し、学習効果により獲得が可能な能力を具体的に記述する。

2．人間関係を構築する体育学習とはどのようなものか

＜ポイント＞

・人間関係の希薄化が指摘される今日の社会情勢を考察する。

・体育学習によって醸成できる強固な人間関係について教科書のポイントを踏まえて記述する。

3．体育の教材づくりについて、具体的な事例をもとに述べよ。

＜ポイント＞

・体育における教材づくりの必要性をまとめる。

・教科書を参考にしながら具体的教材を取り上げ、その指導観について事例とともに記述する。

4．体育科学習指導案作成上の留意点について

＜ポイント＞

・体育科の学習指導案と他教科との根本的差異についてまとめる。

・児童の実態と取り上げる教材の関連性を指導案の形式に則って記述する。

5．いじめ・学級崩壊を防ぐために体育学習が果たす役割について

＜ポイント＞

・参考書などの文献をもとにいじめ・学級崩壊のメカニズムを整理する。

・体育学習における達成・葛藤・感動場面が子どもや教師との関係性にもたらす効果について記述する。

6．体育の授業場面において教師が特に配慮すべきことについて

＜ポイント＞

・他教科にはない体育学習における配慮事項について整理する。

・その配慮事項に対する具体的な教師行動についてのポイントを記述する。

教科書

高橋健夫『新版　体育科教育学入門』大修館書店。

参考文献

小谷川元一『教師と親の「共育」で防ぐ　いじめ・学級崩壊』大修館書店。

科目コード	多文化理解入門（２単位）	登録年次	履修方法
1880		１年	R
教員名	小笠原眞紀、内藤伊都子、野口生也		

科目概要

現代はグローバル化の影響で以前にもまして人やモノが国境を越え移動するようになり、文化背景が異なる他者が日常の中で身近に存在している。その一方、文化を共有している人々の間では常識であることも、文化背景が異なると相手は自分と同じ考え方をするとは限らないし、自分とは異なった行動をすることもある。そのような文化の違いにより誤解などが生じることもあるため、「文化」の影響について知ることは多文化共生のために特に大切である。

本講座では、異文化理解の入門書をテキストとして使用する。確認チェックやワーク、解説などが付記されているため、自主学習をしながら進めていける。各テーマを通して、異なる文化背景を持つ様々な他者への理解を深めると共に、自文化、つまりは自分について理解していく。自分とは異なる文化背景を持つ他者に向かい合うことで、自分と自分が属する文化への理解を深めていく。

学修内容

1	異文化を理解する：教科書 pp.19-26。異文化コミュニケーション教育における「異文化」とはどういうものか、なぜ異文化コミュニケーションを教育し、異文化を理解する必要があるのかなど、異文化交流の歴史とともに異文化理解の意義について考察していく。
2	文化とはなにか：教科書 pp.29-38。異文化とは簡単にいえば文化が異なることである。したがって、異文化のもととなるそれぞれの文化とはなにか、異文化理解の基本となる「文化」について、氷山モデルや常識の視点から考察していく。
3	文化の特徴：教科書 pp.41-54。自身が所属している文化は、国籍や民族的な違いだけによるものではない。トータルカルチャーとサブカルチャー、文化の特徴、文化的側面に対する個人的側面と普遍的側面等の視点を通して、身近に存在する文化について考察していく。
4	異文化適応：教科書 pp.57-68。異文化に適応するとはどういうことか、人生において海外で暮らすこと以外にも大学に入学したり引っ越したり、新しい職場に就いたりするなどの環境の変化を経験し、異文化適応が必要な状況が生じる。異文化に適応していくプロセスについて考察していく。
5	シミュレーション：教科書 pp.71-76。異文化コミュニケーションの研究領域では、異文化理解を促進するためのさまざまなトレーニングが考案されている。シミュレーションはそのうちの一つであり、異文化における軋轢や葛藤を実際に感じ取ることができる体験型のトレーニング方法である。シミュレーションにもいくつかの種類があり、バーンガというシミュレーションについて概観していく。
6	違いに気づく：教科書 pp.79-89。異文化理解にとって異なる文化の存在に気づくことは重要である。「行動」「視点」「環境」という 3 つの要素から生じる文化の違いに焦点を当てながら、人はだれでも同じように物事を見たり考えたりするわけではないことを確認していく。
7	異文化の認識：教科書 pp.93-101。ある文化に対して繰り返し生起するイメージや認識は、ステレオタイプによって説明される。異文化に対するイメージはどのように形成されどのような認知プロセスを経るのか、認識のメカニズムについて考察していく。
8	差別を考える：教科書 pp.105-113。異文化の対人関係においては、しばしば偏見や差別が問題となる。異なる者の存在を認めず、否定し、自分たちだけの価値観を押しつけることで起こる問題である。異質な存在として排斥しようとする差別の意識について考察していく。
9	世界の価値観：教科書 pp.117-128。世界には多くの文化が存在し、同様に多くの価値観が存在する。従来の異文化コミュニケーションの研究から多様な文化の価値観を 2 つの対立する考え方で説明する立場もある。自分自身の考え方を確認しながら、文化的価値観に対する理解を深めていく。
10	異文化とトレーニング：教科書 pp.131-140。異文化コミュニケーションの教育の一つに、異文化トレーニングがある。異文化トレーニングは主に知識学習と体験学習に大別されるが、円滑で効果的な異文化コミュニケーションを行うための能力養成としての体験学習の一部を概観していく。
11	異文化受容：教科書 pp.143-152。異文化に接触し、自分とは異なる考え方の存在に気づき、価値観を認め尊重し、受け入れていくことで、新たなアイデンティティの創造へと向かっていく。異文化を受容しながらマルチカルチュラルな人間へと成長するプロセスを探求していく。
12	自分を知る：教科書 pp.155-165。異文化コミュニケーションでは、自文化とは異なる文化を理解するために、自分が所属する文化についても客観的に認識する必要がある。自文化を知るためには自分自身についても理解する必要があるため、自文化の原点である自分について分析していく。
13	非言語コミュニケーション：教科書 pp.169-178。異文化コミュニケーションでは、言語の問題が注目されやすいため、非言語に依存する傾向がある。しかし、非言語コミュニケーション行動にも文化差は存在する。無意識に表出されることもある非言語コミュニケーションの重要性について考察していく。

14	アサーティブ・コミュニケーション：教科書 pp.181-190。異文化環境下や異文化の対人関係においては、自身の目的を達成したり欲求を満たしたりするためにアサーティブ、すなわち主張的なコミュニケーションが必要になってくる。相手を尊重しながらのアサーティブなコミュニケーション・スタイルの方法について概観していく。
15	多文化共生社会の実現に向けて：教科書 pp.193-199。日本国内においても共生社会の問題が考究されている。多文化と共存する社会の実現に向けて、異文化コミュニケーションの視点からなにができるかについて探求していく。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 異なる文化を理解するうえでもっとも必要であること、あるいはもっとも重要であることはどのような要因であると思うか、自身の考えを述べよ。

＜ポイント＞

各テーマで扱った内容を踏まえ、具体的な要因について触れること。なぜもっとも必要、もっとも重要であると考えるのか、他の要因と比較しながら自分の考えや意見をまとめること。

教科書以外の書籍文献やネット等の情報を参考にしたり引用したりする場合は、盗用はせず、必ず出典（書籍名、編著者名、出版社、出版年、URL　等）を明らかにし、レポート内に記載すること。

科目終了試験学修のポイント

１．トータルカルチャーとサブカルチャーについて説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.29-54 を振り返っておく。文化の特徴にも触れながら説明すること。具体例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

２．異文化適応のＵ字曲線とＷ曲線について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.57-68 を振り返っておく。適応の各ステージの説明も含めること。具体的な例をあげながら自分の考えや意見とあわせてまとめていくこと。

３．差別を減らすためにはどうしたらよいと思うか具体的な例をあげながら自身の意見を述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.105-113 を振り返っておく。差別が生まれる背景について考えてみる。具体例とともになぜそれが差別を減らすことに繋がるのかという理由も含めて考えや意見をまとめていくこと。

４．価値観が異なる人同士が共生するとどのような問題が起こると思うか、具体的な例をあげながら自身の意見を述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.118-126 を振り返っておく。自分の価値観の傾向を分析してみる。自分とは異なる価値観をもつ相手とどのように接したらよいか考え意見をまとめていくこと。

５．異文化トレーニングの種類と方法について具体的な例をあげながら説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.71-74，pp.131-138 を振り返っておく。なぜ異文化トレーニングが必要なのかについてもあわせて述べること。また、具体例とともに自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

６．非言語コミュニケーションの重要性について説明せよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.169-178 を振り返っておく。なぜ重要なのかその理由を明確に述べること。具体的な例をあげながら自分の考えや意見も含めてまとめていくこと。

教科書

原沢伊都夫 著『異文化理解入門』研究社，2013。

参考文献

石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。

科目コード	多文化保育・子育て演習 / 多文化理解と子育てワークショップ （2単位）	登録年次	履修方法
6630/6631/2750		6630/2750：3年 6631：2年	SR
教員名	駒井美智子、志村なぎさ		

科目概要

国籍、宗教、人種、性別、障害、経済的事情などの背景が交じり合って形成されるのが「文化」であるという理解のもとに、それらの違いを子育ての場面で専門家としてどのように扱い、親たちを平等に支えていくかをテーマに演習形態で学修する。また、現場実習を通して外国籍の子どもや保護者への対応を学んでいく。

学修内容

1	第1章　多文化保育・教育とは何か。・1節　多文化共生社会の必要性
2	第1章　多文化保育・教育とは何か。・2節多文化保育・教育の必要性と意義 第2章　在日外国人等の動向と福祉ニーズ・1節　在日外国人等の人口的動向・2節　多文化共生の視点と外国人等の福祉ニーズ
3	第3章　外国につながる子どもへの保育・教育と保護者への支援　1節　母語を生かした保育・保護者との関わりについて 2節　食事に関する事例・保育活動
4	第3章　外国につながる子どもへの保育・教育と保護者への支援　3節　保護者の支援の事例・支援 4節　入学に関する事例・小学校
5	第3章　外国につながる子どもへの保育・教育と保護者への支援　5節　授業・学力に関する事例・小学校 6節　保護者への支援の事例・小学校
6	第4章　多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割　1節　多文化保育・教育のめざすもの
7	第4章　多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割　2節　多様性に応じた保育・教育に必要な知識 第4章　多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割　3節　保育者・教師の専門性としての省察力と多様性の応答的対応
8	第4章　多文化保育・教育における保育者・教師の専門性と役割　4節　保育者・教師の姿が子どもを育てる
9	第5章　行政の多文化共生への取り組み　1節　1戸町の国際交流　2節　多文化共生への取り組み3節今後の課題
10	第6章　海外の子育て　①ノルウェーの子育て支援の現状　②フィンランドの子育て支援の現状
11	第6章　海外の子育て　③アメリカの子育て支援の現状　④中国の子育て支援の現状　⑤韓国の子育て支援の現状
12	第7章　今後の多文化保育・教育の課題
13	第7章　今後の多文化保育・教育の展望
14	まとめ　①多文化保育についての理解を深める。
15	まとめ　②多文化保育についての今後の問題点と課題についてまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育形態には何があるか挙げ、またそれを説明せよ。

＜ポイント＞

子どもたちは、登園してから降園するまでの時間、様々な活動を一人ひとりで、あるいは先生や仲間と一緒など、いろいろな形で行う。子どもが活動に参加する形を保育の形態という。保育形態には何があるか挙げ、またそれを説明せよ（保育形態を基に具体的事例を入れること）。

科目終了試験学修のポイント

1．保育実践の基盤となる「保育観とは何か」、「児童観とは何か」について理解を深める。
（自分の「保育観」「児童観」についてまとめる。）
＜ポイント＞
・保育者になるためには保育観をもつことが重要である。
・自分で「どんな保育者になりたいのか」望ましい保育者像を考えること。
・自分で「どんな子どもに形成していきたいのか」望ましい子ども像を考えること。
・「良いモデルの保育者とは」何かまとめる。

2．多様な子育て支援ニーズの実際についてまとめる。
＜ポイント＞
・社会には様々な子育ての支援があるので、調べること。
・社会にとって今必要な子育て支援とは何かまとめる。

3．児童福祉行政の問題点や課題について具体的に1つ挙げて述べよ。
＜ポイント＞
・児童福祉行政とは何か、調べる。
・現在の児童福祉行政の問題点を探りその課題を記述する。
・課題を1つ挙げて問題解決方法を考える。

4．「多文化保育」の問題点と今後の課題について述べよ。
＜ポイント＞
・多文化保の定義を確認する。
・多文化保育の現状を調べる。
・多文化保育の課題を挙げあなたなりに問題解決方法を記述する。

5．「多文化保育」「異文化保育」における保育の配慮点・留意点について
＜ポイント＞
・多文化保育・異文化保育の定義を確認する。
・保育者は多文化保育・異文化保育をするにあたりどんなことに配慮すれば良いか。
・保育形態を調べてそれぞれの特徴と配慮点を確認する。

6．「多文化保育」と「統合保育」の違いについて述べよ
＜ポイント＞
・多文化保育と統合保育の定義を調べる。
・多文化保育の特徴と保育者の配慮点を考える。
・統合保育の特徴と保育者の配慮点を調べる。

教科書

咲間まり子編『多文化保育・教育論』株式会社みらい。

参考文献

駒井美智子編『保育をめざす人の保育内容「言葉」』株式会社みらい。

科目コード	地域ボランティア論 / ボランティア論（２単位）	登録年次	履修方法
1540/1153		２年	R
教員名	川野祐二、大門俊樹、辻本理絵子、坂鏡子、柳澤利之		

科目概要

「何か自分たちにもできることがあるに違いない」、「他者や社会の助けになりたい」という内的動機に支えられた活動には、そのための準備、トレーニング、実践体験の裏づけが必要である。ボランティアについての基礎理論を学習した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を、様々な過去のボランティア活動例（災害援助活動、国際交流、社会福祉活動等）を基に学修する。また、ボランティア活動を実際に体験し、その経験をもとに、より効果的なボランティア活動を行うために必要なことを考察していく。

学修内容

1	ボランティアとは何か： 身近にある様々なボランティアを概観しつつ、自発性、無償性といったボランティアの特徴を理解し、ボランティアのあるべき姿について考察する。
2	ボランティア活動の歴史（1）ボランティア活動の起源： 自警団、義勇兵、COS、セツルメントなどの活動について概観し、ボランティアがどのように歴史的に発生し、発展を遂げてきたか、理解する。
3	ボランティア活動の歴史（2）日本におけるボランティア活動： 石井十次、留岡幸助、片山潜、BBS、VYS、善意銀行などの活動を概観し、日本においてボランティアがどのように発生し、発展を遂げてきたか、理解する。
4	ボランティア活動の歴史（3）日本におけるボランティア活動： ノーマライゼーション、ボランティアセンター、ボラントピア構想、阪神淡路大震災などの活動を概観し、日本においてボランティアがどのように発生し、発展を遂げてきたか、理解する。
5	ＮＰＯについて： 特定非営利活動法人の成立の背景や特徴について理解した上で、わが国における NPO の法制度、実態について学ぶ。ボランティアとの関連についても考察する。
6	高齢者問題とボランティア： ゴールドプラン、新ゴールドプラン、介護の社会化、介護保険制度等のキーワードに基づき、高齢者福祉の現状や政策について整理する。その上で、高齢者問題とボランティアの関連について考察する。
7	障害者問題とボランティア： 青い芝の会、自立生活運動、全国障害者運動連絡会議などの活動について概観し、障害者問題とボランティアの関連について理解する。
8	児童問題とボランティア： 核家族化、少子化、いじめ、不登校、ひきこもり、校内暴力、虐待、発達障害等、児童問題について概観した上で、ボランティアとの関連について理解する。
9	災害とボランティア： 阪神淡路大震災、中越大地震、東日本大震災におけるボランティア活動の事例を基に、わが国において災害ボランティアがどのように発生し、発展して来たのか理解し、災害におけるボランティアの意義と役割について考察する。
10	環境問題とボランティア： エコロジー運動、リサイクル、環境保全、グリーンコンシューマー等の活動を概観した上で、環境問題におけるボランティアの関連について理解する。
11	国際問題と国際ボランティア： 貧困、人権問題、紛争、難民等、山積する国際問題について概観した上で、国際問題におけるボランティアの意義と役割について理解する。NGO の活動についても具体的事例を踏まえて学ぶ。
12	行政とボランティア： 行政とボランティアのそれぞれの特徴を整理した上で、それらが有機的に連携することによって地域における様々な問題にいかに効果的に対処すべきか考察する。

13	福祉施設職員とボランティア： 福祉教育の意義を理解した上で、福祉施設職員とボランティアの関連について理解する。また、ボランティアを導入することによって得ることのできる様々なメリットについても考察する。
14	ボランティアと人権の視点： 人権についての概念を理解した上で、ボランティア活動の場において人権が尊重される必要性について、具体的な事例をあげて学ぶ。
15	ボランティア活動を行う際の留意点 これまで学んできたことをもとに、自分自身がボランティア活動を行う際の留意点について具体的に考察し、実践できる能力を養う。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 ボランティア活動の自発性とボランティア活動を推進するＮＰＯの関係について述べよ。

＜ポイント＞

ボランティア活動の歴史的展開についても触れ、ボランタリズムを支える自発性に加え自由性についても考察すること。また、現代社会においてＮＰＯが担う役割、意義を明確にしながら、自己の体験や考えについて述べること。なお、テキストの丸写しや、単なる感想文にならないよう注意すること。

科目終了試験学修のポイント

１．障害者とボランティアの関係について

＜ポイント＞

障害者運動について理解した上で、障害者に対するボランティアと障害者によるボランティアの両方を理解する必要がある。

２．高齢者とボランティアの関係について

＜ポイント＞

高齢者問題について理解した上で、高齢者に対するボランティアと高齢者によるボランティアの両方を理解する必要がある。

３．ボランティアと行政の関係について

＜ポイント＞

ボランティアと行政の性格を比較し、その違いと両者の関係性について理解する必要がある。

４．施設職員とボランティアの関係について

＜ポイント＞

施設にとってのボランティアの意義について理解する必要がある。

５．児童とボランティアの関係について

＜ポイント＞

児童問題について理解した上で、児童に対するボランティアと児童によるボランティアの両方を理解する必要がある。

６．ボランティア活動を行う際の留意点について

＜ポイント＞

受け手を主体として考え、具体的な留意点について理解する必要がある。

教科書

巡静一、他『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規。

参考文献

安藤雄太『まるごとガイドシリーズ⑩　ボランティアまるごとガイド』ミネルヴァ書房。
大阪ボランティア協会編『ボランティアー参加する福祉』ミネルヴァ書房。
金子郁容『ボランティアーもうひとつの情報社会』岩波書店。
巡静一『在宅福祉とボランティアーふくしのまちづくり』勁草書房。

科目コード	中国の文化と言語Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1111		１年	ＳＲ
教員名	岡安栄子		

科目概要

初心者を対象に、中国語の基礎を学修する。やさしく正確に、しかも気軽に話せるように、まず簡単な会話を理解する。同時に、古来より日本にはかりしれない影響を与え続けてきた、「隣の国」中国の文化と歴史についても学修していく。国連公用語に指定されている、国際語としての中国語の言語的特徴（リズミカルな美しい音調等）を理解し、簡単な会話であれば、気軽に正確に使えるようになることをめざし、学修を進めていく。

学修内容

1	５千年といわれる長い歴史の中で培われた文化と、表意文字である漢字を使う中国語の学修を通して、中国を理解して行く科目である。教科書は『入門・北京カタログ』（朝日出版社）を使用する。イラストや写真が多く、独習者が楽しめる構成になっている。春・夏・秋・冬の４章に分かれていて、「中国の文化と言語Ⅰ」では、春の章、夏の章、秋の章（一部）を学ぶ。 教科書の春の章は中国語の発音について説明している。スクーリングで実際の音声で学ぶ前に、イラストを眺めながら、中国語はどんな言語であるかを想像してみるのもよい。２日間のスクーリングで中国語をどのように読み、発音するかを理解し、文型、日本語との違いを学ぶことができる。その上で、科目終了試験の中国語会話文を読み、日本語に訳す。文章題については、コピー教材やディスカッションを通して理解する。事前に何か読んでおきたい、という受講生には、教科書の著者、相原茂著『はじめての中国語』講談社現代新書、がある。中国語がどんな言語であるかが易しく解説されている。
2	【レポート設題、科目終了試験で求められる記述について】 長い、短いに関わらず、学習レポートは論説文であり、客観視した表現が求められる。段落を用いて話題の展開を明示し、テーマに添った内容で構成していく。文章は基本的に書き手の考えや思いを書くものであり、「～と考える」「～と思う」の多用を避けて具体的な表現にする。また、ラブレターは誰をも名文家にするというように、書きたいこと、論じてみたいことをテーマにすることによって、文章は書きやすくなる。レポート作成も例外ではない。当科目設題のテーマは広い選択幅があり、自分が興味をもつテーマを探してレポートを作成し、科目終了試験の文章題を考えて試験に備えてほしい。
3	【レポート設題について】 長い中国の歴史から自由にテーマを選んで論述する。興味のある分野、事柄を中国史のなかで考察してみよう。 歴史は繰り返し、継続し、そして発展していく。紀元前に統一王朝ができてから今日の中華人民共和国まで、多くの王朝や国の興亡があった。文化、民族、風習、政治、経済、芸術の歴史があり、物語に残る人物がいる。その中から、語りたい事、物、人を選び、語りやすい２つの時代、国、王朝で対比させる。
4	【レポート設題のポイントについて】 例として、王朝の歴史や制度を語る場合、王朝全体を概説するのではなく、例えば、２つの王朝・国の成り立ちの違い、人口や面積を対比してみる、など、テーマを絞って具体的に論じるとよい。同じ時代の日本の状況も語ってみるのも興味深い。宦官、纏足など中国独自の風俗習慣はどのように引き継がれてきたのか、日本にも違う形で行われたのではないか、と、日本の歴史に思いを馳せてみる。漢字、陶磁器、服装の歴史、人物では、始皇帝とラストエンペラー、民族の異なる皇帝、賢帝と愚帝、美女と悪女、烈女。取り上げるテーマは広く、多い。
5	【レポート設題のまとめ方】 すべての文章がそうであるように、何を書くかを明示することが大切である。どんなテーマで論じるか、どの王朝・国について述べるかを最初に提示する。選んだ理由も加える。 最後のまとめとして、レポート作成を通して学んだこと、そこから広がる興味、客観的な観察、等を加える。
6	【科目終了試験学修のポイント１】その１ 「覇王別姫」は元来、京劇の題目である。京劇は日本の歌舞伎と同じく、代表的な中国の伝統芸能として、現在も演じられている。覇王とは漢の劉邦に破れた項羽で、姫は愛妾虞姫である。四面楚歌で有名な項羽の最期を題材にして、京劇の名優、梅蘭芳が創作し、虞姫を演じた。
7	【科目終了試験学修のポイント１】その２ 第７課の会話に出て来る「覇王別姫」は映画で、日本では「さらば、わが愛」として上映され、ロングランとなった。京劇「覇王別姫」を演じる２人の京劇役者が、辛い修行を経て有名な役者になり、現代中国の激しい時代の流れの中で翻弄されていく運命を描いている。説明には、京劇と映画の区別を明示してほしい。
8	【科目終了試験学修のポイント１】その３ スクーリング授業では、長い映画だが、受講生に観てもらうことにしている。清朝が倒れ中華民国になった時代から、文化大革命が終わる激動の時代を背景にしているので、中国の現代史が理解できる映画である。また、主人公の成長過程で京劇「覇王別姫」の各場面が演じられ、全編を通じての京劇が鑑賞できるので、中国の伝統芸能への理解が深まることを願っている。
9	【科目終了試験学修のポイント２】 世界遺産に登録されている万里の長城は、中国では「長城」と呼ばれる。会話文は万里の長城に行く相談をしている場面である。中国の１里は日本と違い、500 メートルであり、１万里というと、だいたい５千キロになる。 紀元前から作られていた長城がどのように形や場所を変えて現代に残って来たのかを理解する。万里の長城についてのコピー教材をスクーリングで配付するが、興味のある場合は、『馬と黄河と長城の中国史』西野広祥著・PHP 文庫を読んでみるのもよい。

10	【科目終了試験学修のポイント３】その１ ９課は「小芳」という歌のテープについての会話である。「小芳」は、中国では始めてのシンガーソングライターとしてデビューした李春波氏の歌で、当時大ヒットした。文化大革命時代に青春を過ごした中国の若者の気持ちが代弁され、同じ体験をした人々の心の琴線に触れたのである。スクーリング授業で歌を聴いてみよう。
11	【科目終了試験学修のポイント３】その２ 文章題は北京について語る。北京の地が歴史に現れるのは紀元前のことである。教科書の第１０課は北京概況で、プロフィールに簡単な説明が載っている。教科書の初版は１９９６年で、上水道普及率やデータ、写真は古く、現在と大きく違っている。スクーリング授業では新しい資料を配るつもりだが、ニュースなどで見聞きする北京を我々の首都東京と対比させるのもよいし、北京の歴史を述べてもよい。参考文献にもあげている『北京』竹内実著・文藝春秋、にも詳しい。
12	【科目終了試験学修のポイント４】 １１課はタクシーの中での客と運転手の会話である。「いくらですか」や、お金の言い方など、旅行や買い物には欠かせない表現が出てくる。教科書の pp.124 には、中国の紙幣・貨幣の写真がある。この会話に出て来る「燕京ホテル」は、北京では古いホテルで、北京が燕の都であることから名付けられた。 文章題は簡体字の成り立ちを説明する。中華人民共和国成立前の繁体字は日本の旧字と共通点が多いが、戦後、中国は簡体字に、日本は当用漢字を定め、両国の漢字はだいぶ違ってきた。中国はなぜ簡体字という思い切った漢字の簡略化を実施したのか、また、どのように簡体字を作ったのか、日本の漢字との違いはどうか、などを説明するとよい。
13	【科目終了試験学修のポイント５】 天安門についての散文である。祝祭日には祝賀行事が行われると書かれていて、次のページには中国の祝祭日が説明されている。経済成長を遂げた中国は豊かさを反映して、休日になる期間が変わってきている。スクーリング授業で新しい資料を配布するが、インターネットでも情報が得られる。記念日は中国の社会体制から定められたものがあり、調べてみるのも興味深い。旧暦の祭りの中には、中国から伝わった行事も多く、時代とともに違った祝い方をしていることを対比させてみる。
14	【科目終了試験学修のポイント６について】その１ 第１３課は、北京城外の前門街にシュウマイを食べに行く会話である。日本人にも有名な北京ダックも出てくる。教科書には北京の町中で見かける店や点心（軽食）がイラストで描かれていて、発音記号がついているので、中国語で練習してみるとよい。「都一處」と書かれた看板の写真が載っている。賢帝として歴史に残る清朝６代皇帝、乾隆帝が名付けたと伝えられている。清朝時代から続く老舗は北京には多くあり、１４課にも看板の写真と地図が紹介されている。
15	【科目終了試験学修のポイント６について】その２ 四大中華料理として、北京・上海・広東・四川の各料理が有名だが、広い中国には地方料理が豊かである。中国を訪ねて食べた料理について書くのも楽しいし、好きな中華料理を語ってもよい。食事は文化である。食事の作法、料理の特色、食生活の変化、伝統的な料理、宮廷料理などテーマは広い。来日して長い中国人が久しぶりに帰国して書いた『中華料理の文化史』張競著・ちくま新書、は中華料理の歴史にも触れていて興味深い内容である。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 テーマをひとつ提示し、中国の二つの国・王朝を対比させて述べよ。

＜ポイント＞

テーマは政治・経済・文化・民族・風習から、何を取り上げてもよい。例えば、王朝の規模や制度、皇帝（始皇帝とラストエンペラーなど)、女性史、服装など、自分が関心を持てるテーマを選んで述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．第7課の本文を日本語に訳し、『覇王別姫』を説明せよ。

＜ポイント＞

「覇王別姫」は、京劇の題目であり、また、映画「さらば、わが愛」の中国語原題名でもある。その違いを明確にして、説明する。

2．第8課の会話を日本語に訳し、万里の長城について述べよ。

＜ポイント＞

万里の長城と呼ばれる由来、歴史的な変遷、長城が築かれている地域性、遊覧した経験などを加えながら説明する。

3．第9課の会話を日本語に訳し、首都北京について述べよ。

＜ポイント＞

首都北京は、いつ頃から中国史に現れてきたのか、いつ首都になったのか、などの歴史を考察したり、どんな都市であるかを東京と比較して説明する。

4．第11課の会話を日本語に訳し、中国語の簡体字の成り立ちを説明せよ。

＜ポイント＞

現在、中国で使われている漢字には簡体字が多い。簡体字とは何か、なぜ使われるようになったか、どのように作られたのか、日本の当用漢字との対比、などを説明する。

5．第12課の散文を日本語に訳し、中国の祝祭日を一つ取り上げて説明せよ。

＜ポイント＞

どの国にも祝祭日がある。日本の昔から伝わる習慣には、中国から伝わってきたものが多い。また、それぞれの国の体制の違いで、祝日の決め方も違う。そんな視点で祝祭日を一つ取り上げ、日本との違いなどを加えて説明できるとよい。

6．第13課の会話を日本語に訳し、中国の食文化について述べよ。

＜ポイント＞

会話文は、北京で有名な北京ダックとシュウマイを食べにいく話である。中華料理は豊かである。広い中国には地方を代表する料理があり、食に対する中国人のこだわりは強い。食に関わる文化的な背景を考察する。食事作法などを日本と比較してもよい。

教科書

相原茂　他『入門・北京カタログ（中国文化・中国事情)』朝日出版社。

参考文献

竹内実『北京』文芸春秋。

竹内実『現代中国の展開』NHK ブックス。

鳥山喜一『中国小史　黄河の水』角川文庫。

科目コード	中国の文化と言語Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
1121/1123		1121：２年 1123：１年	ＳＲ
教員名	岡安栄子		

科目概要

中国語の文型を基礎にして、文章を読み、日常会話を学修していく。同じように漢字を使いながら、意味や用法が異なる中国語を学ぶ中で、漢字の広く深い意味をたどってみる。中国の文学や映画、伝統芸術に触れ、人々の日常生活の暮らしや習慣を取り上げた教材を用い、言語を学びながら、その背景となる中国の文化を学修する。「中国の文化と言語Ⅰ」の既習者、あるいは中国語の発音記号が読める受講生を対象にする。

学修内容

1	教科書は「中国の文化と言語Ⅰ」で使った『入門・北京カタログ』を使い、秋の章、冬の章に進む。スクーリング授業では、初めに発音記号、四声の復習をするが、予め基本音節表をチェックして、発音の難しい箇所を質問できるとよい。 当科目においても、レポート、科目終了試験の文章題における記述は、論説文としての文章表現で、独創性のある内容を期待する。
2	【レポート設題について】その１ 「中国の小説を読んで、その時代背景を考察し、考えたことを述べる」という設題である。 中国の人々、社会、文化について、小説を通して理解する。「中国の小説」というと、中国人が書いた小説が主になる。現代作家も多く、地方の図書館にも何冊かは並べられている。ノーベル文学賞を受賞した莫言、来日して芥川賞を受賞した楊逸の著書もある。
3	【レポート設題について】その２ 日本人が書いた中国の小説でもよい。井上靖の『敦煌』『蒼き狼』、中島敦の『山月記』などの愛読者も多い。好きな小説を選んでほしい。古典・現代など時代は問わないが、特に古典文学に多い要約や解説書は不可とする。中国の古典文学は長編小説が多いので、好きな一章を選んで論じてもよい。
4	【レポート設題のポイントについて】 まず、著書名・著者名（翻訳者名）・出版社名・出版年度を明記する。著者について簡単に紹介する。 段落をかえて、小説の内容を要約する。 次の段落で、小説がどの地域を舞台にし、何年頃に、どんな社会を背景に描いているのかを説明する。中国の時代の流れ、社会の変化は激しい。社会性の強い中国文学に触れる中で、描かれた時代や社会の背景を理解する。 最後の段落で、小説を読んで、何を考えたかを記述する。感想文ではなく、自分の感想を具体的な内容で述べるようにする。日本と対比させて語るのもよい。「～と思う」「～と感じた」という主観表現を多用せずに、客観視した文章を書く。
5	【科目終了試験学修のポイント１について】その１ 第１４課は、薬の老舗、同仁堂への行き方を尋ねる会話である。中国を旅行したり、中国人に道を尋ねる時に使える文型である。同仁堂などの老舗は、清朝時代に庶民の街だった城外に多い。この付近には「胡同」と呼ばれる横丁が縦横に広がり、伝統的な家屋である「四合院」があって、古い中国の町並みがあった。経済成長に伴う都市開発、オリンピック開催での建設ラッシュで、横丁の風景は失われてきている。
6	【科目終了試験学修のポイント１について】その２ 「胡同」という名前の由来、たくさんの「胡同」の名称、そこに暮らす人びとの昔からの営みの風景などについては、世界の都市の物語『北京』竹内実著・文藝春秋、に詳しい。スクーリング授業でも一部コピーして配付する。
7	【科目終了試験学修のポイント２について】その１ 第１５課は、自己紹介の会話である。教科書の内容に合わせたビデオ教材で実際の会話を聞いてみるが、大学の先生の家に留学生を含む学生が集まり、餃子を作る。新しく入って来た学生を紹介し、それぞれが自己紹介する場面である。参考に留学情報が載っているが、１９９５年の資料として参考にしてほしい。
8	【科目終了試験学修のポイント２について】その２ 中国語と日本語は同じような漢字でも、点が多かったり、横線が短かったり、一本すくなかったりと、よく見ると違っている。また、同じ漢字でも意味がまったく違うものもある。漢字の違い、考え方の違い、習慣の違い、国土の違い、音楽の違い、楽譜の違い、などなど、日本と中国の違いで興味深いことがらを選んで述べる。テーマは自由である。
9	【科目終了試験学修のポイント３について】 第１６課は、市民生活小景と題して，北京に住む若い夫婦と子どもの会話を取り上げている。この家族の住む「四合院」は一軒の屋敷だったが、今は数家族で住み、庭を共有して暮らしている。近代化の中で、こうした旧い住宅が壊され、近代的なビルや住宅の建設ラッシュが続いている。 文章題は、中国の高齢者について述べる。日本では、高度経済成長を遂げた後、バブル時代を迎え，今、超高齢社会となっている。中国はどうなのだろうか。統計資料を参考にして考えてみたい。

10	【科目終了試験学修のポイント４について】その１ 第１７課は京劇を観に行った会話である。教科書には美を創る人々、として、中国の映画、京劇、民間工芸品が紹介されている。映画は今、新しい作品が次々に創られているが、この時代の映画には創成期の監督の意気込みが感じられる作品が多い。当科目のスクーリング授業では、中国の障碍児福祉を考える映画を観る予定にしている。
11	【科目終了試験学修のポイント４について】その２ 文章題は京劇についての説明を求めている。「中国の文化と言語Ｉ」で、映画のなかで、「覇王別姫」の京劇が演じられていた。京劇の衣装、隈取り、発声、所作などは、日本の歌舞伎と似ているところが多く、歌舞伎役者の猿之助や玉三郎が京劇風に演じたり、中国の京劇に出演するなどの交流が深まっている。京劇については、資料は多いが、参考文献とした『北京』（世界の都市の物語）に分かりやすい解説がある。スクーリング授業で配付する。
12	【科目終了試験学修のポイント５について】 第１８課の会話文はお土産のお酒を買う場面である。急速な経済発展途上の中国では、お酒の値段も上がっている。豊かになった中国は、一方で日本の高度経済成長期と同じような問題を抱えている。大気汚染、公害、物価の高騰貧富の格差など、興味を持った話題を糸口に、中国と日本の今を論じる。
13	【科目終了試験学修のポイント６について】その１ 第２０課は結婚をする２人へのインタビューの会話である。男の子が欲しいか、女の子が欲しいか、と聞かれて、どちらでもよい、と答える若い世代には、「家」の観念が薄れている。老舎著『四世同堂』の小説にもあるように、大家族で暮らすのが中国の伝統だった。今では一人っ子政策による少子化と高齢化が進み、都市部に増える高齢者世帯、農村では若い世代が出稼ぎに行き、残される高齢者などの課題は日本と共通している。
14	【科目終了試験学修のポイント６について】その２ 中国人の家族観は変化しているのだろうか。親子の関係、高齢となった親への対応など、中国の家族についてまとめてみる。藩充康著・園田茂人監訳『変貌する中国の家族』岩波書店、などの参考文献があるが、身近な中国人にインタビューしてみてもよい。「ある中国人の家族観」として述べても興味深い文章になる。
15	【スクーリングの授業について】 「中国の文化と言語Ⅱ」のスクーリング授業では、対人援助に関わる仕事に就く受講生であることから、中国における社会福祉に関わる映画を観る。自閉症の息子を持つ父親を描いた「海洋天堂」である。カンフー映画で有名なジェット・リーが父親を好演している。息子と父親の二人暮らしの家族がどのように過ごし、父親は息子にどのように対していくか、家族の思いが胸に響く映画である。障碍児施設、職員の対応など、中国の障碍児・障碍者福祉の現状についても触れていきたい。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 中国の小説を読んで内容を要約し、その時代背景を考察して考えたことを述べよ。

＜ポイント＞
古典・現代など時代は問わない。著書名・著者名（翻訳者名）・出版社を明記し、著者の略歴、物語のあらすじをまとめる。時代背景を考察しながら、考えたことを書くこと。

科目終了試験学修のポイント

１．第１４課の会話を日本語に訳し、北京の庶民生活の場である「胡同」について説明せよ。
＜ポイント＞
北京の清朝から続く老舗の薬局を訪ねる会話である。この付近には「胡同」と呼ばれる横丁が多い。「胡同」の歴史、北京に散在する「胡同」の名前や、そこで暮らす人々の生活風景などをまとめる。

２．第１５課の会話を日本語に訳し、日本と中国の違いで興味深い事柄を取り上げて論ぜよ（言語・文化）。
＜ポイント＞
会話文は、中国の大学での自己紹介の風景である。日本語の「紹介」が中国語では逆になっているように、言語だけでなく、中国と日本は同じようで違うことが少なくない。一つ取り上げて論じる。

３．第１６課の会話を日本語に訳し、日本と中国の高齢者についてテーマを決めて、対比させて述べよ。
＜ポイント＞
会話文は、子どものいる核家族の風景である。都市部では老夫婦世帯が増えている。高齢になった中国の人びとの暮らしを考えてみる。高齢者数の違い，老後の暮らし方，介護について等、話題を一つに絞って日中両国を対比して述べる。

４．第１７課の会話を日本語に訳し、京劇について説明を加えよ。
＜ポイント＞
会話は京劇の話題である。京劇については、「中国の文化と言語Ⅰ」で、映画を通して学んだ。衣装、隈取り、台詞など、興味のある題材を選んで述べる。日本の歌舞伎との違いを論じるのも興味深い。

５．第１８課の会話を日本語に訳し、中国の経済・政治事情で、興味ある話題を取り上げて論じる。
＜ポイント＞
会話文は、お土産の酒を買う場面である。急速な経済成長途上の中国では、お酒の値段も上がった．経済成長から見える中国について述べる。興味を持った話題に関連したニュース、統計数などを書き留め、終了試験に備えるとよい。

６．第２０課の会話を日本語に訳し、中国人の家族観について述べよ。
＜ポイント＞
会話文は、結婚をした２人へのインタビューである。一人っ子政策が続く中国での家族観を考察する。経済成長を遂げた都市部では、日本と同じように高齢者世帯が増えている。社会の変化は、中国の人びとの家族に対する考え方、状況を変えたのか。
また、身近な中国人の家族観を聞いて、日本人との共通点や違いを述べるのもよい。

※各論題は教科書の内容に限らない。

教科書

相原茂　他『入門・北京カタログ（中国文化・中国事情）』朝日出版社。

参考文献

鐘ヶ江信光『中国語のすすめ』講談社現代新書。
竹内実『北京』文芸春秋。

科目コード	道徳教育の研究（2 単位）	登録年次	履修方法
4130		3 年	R
教員名	黒田智隆、篠大輔、若狭清紀		

科目概要・到達目標

道徳は個人の内面の形成に直接的に関わるために、どのような道徳教育をどのようなかたちで学校教育の中で行うかについては、多くの議論がなされてきており、実際にめまぐるしい歴史的変遷をたどってきた。特に新学習指導要領では特別の教科「道徳」となり、道徳教育に対する理解はこれまで以上に重要性が高まってきている。このような道徳教育の理解に向けて、道徳教育の改訂の経緯、道徳教育の基本的なあり方、目標と内容、指導計画、道徳の時間の指導、全教育活動における指導、家庭・地域社会との連携、道徳教育における児童理解と評価の意義について学修する。そして道徳教育の授業理論や発達段階に応じた授業実践について学修し、道徳の学習指導案を作成できる能力を養う。

学修内容

1	道徳教育の基礎理論（教科書：第 1 部第 1 章） ポイント： 現代社会における道徳教育の諸問題に対する理解を深め、道徳教育の定義について考える。
2	道徳性とは何か（教科書：第 1 部第 2 章） ポイント： 道徳性とは何かについて理解を深め、道徳性の発達をどのように把握することができるかについて考察する。
3	道徳の目標（教科書：第 1 部第 3 章） ポイント： 新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標をよく理解し、それを踏まえて子どもの発達段階に応じた指導について考察する。
4	道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育（教科書：第 1 部第 4、5 章） ポイント：様々な道徳性の発達理論についての理解を深め、それに基づいた道徳教育の実践について考察する。
5	日本における道徳教育の歴史（教科書：第 1 部第 6 章） ポイント：戦前の修身教育と戦後の道徳教育の相違点と類似点を比較し、それを踏まえて現在の道徳教育のあり方について考えを深める。
6	諸外国の道徳教育（教科書：第 1 部第 7 章） ポイント： 各国の道徳教育のあり方との比較を通して、日本の道徳教育のあり方を再検討する。
7	道徳教育の計画（教科書：第 2 部第 1 章） ポイント：道徳教育の全体計画、道徳科の年間指導計画の役割を理解し、それらを改善・充実するために必要なことを考察する。
8	道徳科の基本方針（教科書：第 2 部第 2 章） ポイント： 「主体的・対話的で深い学び」に対応した道徳科の授業のあり方についての理解を深め、「考え議論する道徳」の実現に向けた取り組みについて考察する。
9	道徳科の学習指導の展開（教科書：第 2 部第 3 章） ポイント：道徳科の学習指導案における「主題設定の理由」「ねらい」「子どもの実態」「学習指導過程」「発問」に関して、どう構想するかについて理解を深める。
10	道徳教材の活用（教科書：第 2 部第 4 章） ポイント： 道徳教材の類型、自作教材の作成方法、学習ノート・ワークシートの作成方法について理解を深め、児童生徒の心に残る道徳教材とは何かについて考える。
11	道徳科における問題解決的な学習（教科書：第 2 部第 5 章） ポイント：問題解決的な学習を道徳科で行う上で押さえておくべき重要な点をまとめる。
12	道徳科における体験的な学習（教科書：第 2 部第 6 章） ポイント：体験的な学習を道徳科で行う上で押さえておくべき重要な点をまとめる。
13	道徳科の多様な授業展開例（教科書：第 2 部第 7 章） ポイント： 紹介されている授業展開例を参考にして、同じ教材で自分なりの学習指導案を作成する。
14	教師に求められる道徳的指導力とは（教科書：第 2 部第 8 章） ポイント：教師に求められる道徳的指導力とは何かについて重要な点をまとめ、それらを教育実践の場面でどのように活用することができるのかについて考察する。
15	道徳の評価（教科書：第 2 部第 9 章） ポイント： 適切な道徳の評価を行うために必要なポイントをまとめ、評価を行う意義について考えを深める。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】道徳の時間において、主題をどのように設定し、どのような授業を行っていくかという指導の構想を述べよ。

＜ポイント＞

他教科の授業と比較して、道徳科の授業が児童生徒にとって効果のあるものになっているかを評価することは難しい。その点を踏まえた上で、どうすれば児童生徒の成長を実感することができるのかについてよく検討し、授業を構想すること。また以下の点を踏まえること。

1．対象学年や教材等は各自で選択してよいが、その学年の発達段階を踏まえて授業を構想すること。

2．新学習指導要領における道徳教育の目標、道徳科の目標を踏まえること。

3．選択した主題は道徳科の内容項目のどれに該当するのかを明示すること。（例：中学校　B－(7)　礼儀）

4．授業を実施した後に、授業に対する評価をどのように行うのかを検討すること。

科目終了試験学修のポイント

1．道徳教育における「特別の教科　道徳」の果たすべき役割について

＜ポイント＞

道徳教育とは何かについてまとめ、道徳教育の目標と道徳科の目標を比較検討することを通して、両者の共通点と相違点を整理する。それを踏まえて「特別の教科　道徳」の果たすべき役割について論じること。

2．道徳性の発達理論とそれに基づく道徳教育について

＜ポイント＞

道徳性の発達理論の変遷を整理し、それに基づいた道徳教育の実践例を示した上で道徳性の発達理論を実際の授業に活用する際の留意点を理解すること。

3．1958（昭和33）年の学習指導要領改訂により「道徳の時間」が特設されることになった経緯について

＜ポイント＞

戦前の修身教育との類似点と相違点について整理すること。それを踏まえて戦後の道徳教育が「道徳の時間」特設の前後でどのように変化していったのかについて理解すること。

4．道徳教育の計画について

＜ポイント＞

道徳教育の全体計画と道徳科の年間指導計画を作成する際の留意点や創意工夫等についてまとめ、それらがどうすれば実際に有効に機能するのかについて理解すること。

5．道徳教材の活用と道徳科における学習法について

＜ポイント＞

道徳科の授業を構想する段階において「主題」や「ねらい」をどのように設定し、それに適した教材をどのように検索、もしくは作成するのかについて理解すること。そして「ねらい」を達成するために最適な学習法を選択するために、道徳科の様々な学習法の長所・短所について整理すること。

6．教師に求められる道徳的指導力と道徳の評価について

＜ポイント＞

教師に求められる道徳的指導力とは何かについてまとめ、それを道徳の評価にどう結びつけていくかについて理解すること。道徳科の評価をする際のポイント、留意事項を理解し、評価の観点を踏まえて適切に評価していくためには何が大切なのかについて論じること。

教科書

柳沼良太 『道徳の理論と指導法 - 「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む - 』 図書文化社。

参考文献

文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　廣済堂あかつき。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』　教育出版。
文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版。
文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』ぎょうせい。
中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
生徒指導提要（平成22年3月告示　文部科学省）

科目コード	特別活動の指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4060		３年	R
教員名	安次嶺隆幸、石﨑達也、石渡宏、坂本史生		

科目概要

学校の教育活動の中で、特別活動は、自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としてのあり方や生き方についての自覚を深めることをねらいとし、教科、道徳のそれとは明確に相違がある。ここでは、現今の教育課題と特別活動、教育内容としての特別活動の特質、特別活動の歴史、特別活動の内容ごとの特質、学校の教育課程の編成・実施と特別活動、特別活動の実際の指導等について学修していく。

学修内容

1	特別活動とは何か（1） （特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格）
2	特別活動とは何か（2） （特別活動の歴史からみた特質、他の教育内容との関連）
3	教育課程の編成と特別活動 （教育課程の意義と三要素、教育課程における特別活動の位置づけ）
4	特別活動の各内容ごとの特質 （学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事）
5	特別活動の評価　教科書 （特別活動の評価の意義、評価の計画と方法、評価結果の活用と指導要録）
6	特別活動の指導（1） （特別活動の全体指導計画の作成、各内容ごとの年間指導計画の作成）
7	特別活動の指導（2） （学級活動・ホームルーム活動の指導過程と「学級活動指導案」）
8	特別活動の指導の実際 （指導原理の基本と形態や方法の工夫、各内容の指導上の留意事項と担当教師）
9	生徒指導の機能と生かし方 （生徒指導の意義と役割、自己指導能力の育成、いじめ問題への対応）
10	学級経営・ホームルーム経営の機能と生かし方 （学級経営・ホームルーム経営の機能と構造、果たす役割）
11	特別活動を推進する指導体制 （学校の教育目標達成のための指導体制、学級・ホームルーム担任・学年の協力体制）
12	体験的な活動の展開 （新教育課程における体験的な活動の重視、体験学習の展開上の留意点）
13	自己の生き方、人間としての生き方の指導 （特別活動の目標に即した指導、学級・ホームルーム活動の役割、キャリア教育）
14	特別活動の研究・研修 （教師の特別活動観、特別活動の研究・研修内容）
15	特別活動と地域社会との連携 （地域の特色を生かす特別活動、学校と地域社会・諸機関との連携、ボランティア活動）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 特別活動の歴史からみた特質について、小学校、中学校いずれかについてその変遷を概観するとともに、平成29年3月告示の改訂学習指導要領の特別活動に関する「改訂の要点」を述べよ。

＜ポイント＞

特別活動は、歴史が浅く、学校においても、授業時数が減少している、教科書がないなどの理由によって、多くの学校で量（時数）、質（内容）の管理が不十分な傾向にある。しかしながら、昨今のいじめ、校内暴力、不登校などの問題行動を見ると、特別活動を学校教育の中核に据えての学校運営が必要である。

そこで、温故知新ともいうので、わが国の特別活動発足以来の歴史的な経緯について、小学校か中学校のいずれかに絞り込んで概観するとともに、平成29年3月告示の学習指導要領について特別活動の改訂の要点を述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．特別活動の目標とその特質及び教育的意義

＜ポイント＞

各活動の目標を規定し、よりよい人間関係を築こうとする自主的・実践的な態度の育成を図る。

2．教育課程の編成・実施と特別活動の充実

＜ポイント＞

教育課程編成における特別活動の学校教育活動全体との関連、特色ある学校づくり、開かれた学校の推進に努める。

3．小学校学級活動における集団決定と自己決定

＜ポイント＞

意見をまとめるなどの話し合い活動や自分たちで決まりを作って守る活動を通し、状況を正確に判断し、適切な行動を決定していく能力を養う。

4．中学校生徒会活動の目標・内容

＜ポイント＞

異年齢集団による交流を通して、集団の一員として生徒会の計画や運営など、よりよい学校生活づくりに参画することである。

5．小学校クラブ活動の目標・内容と計画

＜ポイント＞

同好の児童をもって、異年齢集団の交流を深め、クラブの計画や運営、クラブを楽しむ活動、クラブの成果の発表を行う。

6．小学校学校行事の目標・内容と留意事項

＜ポイント＞

集団への連帯感や公共の精神を養う。文化や芸術に親しむ「文化的行事」（変更）、自然の中での集団宿泊活動、体験後のまとめや発表活動などを充実する。

教科書

高橋哲夫、井田延夫、他『特別活動研究』教育出版。

参考文献

文部科学省『小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　特別活動編』。
文部科学省『小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説　総則編』。
高橋哲夫、他『「ガイダンスの機能の充実」によるこれからの生徒指導、特別活動』教育出版。

科目コード	特別ニーズ教育論（２単位）	登録年次	履修方法
4750		2	ＳＲ
教員名	工藤傑史、須藤典征、柳本雄次		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

科目概要・到達目標

障害の有無に関わらず特別の教育的ニーズのある児童を理解するために、(1) インクルーシブ教育の理念とシステム構築の具体化の模索、(2)わが国の特別支援教育の理念、制度及び展開、(3)特別支援学校や特別支援学級、通級による指導、地域連携支援などの特別支援教育の各形態の現状と課題、についてそれぞれ講述する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	第５章　特別支援教育の歴史 障害児教育の歴史と戦後障害児教育までの変遷について読解し、現在の特別支援教育の視点から相違点及び、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズについてまとめておくこと。また、母国語や貧困等の問題から教育的ニーズを抱えた児童への対応について、インクルーシブ教育の理念からまとめておくこと。	障害児教育の歴史と戦後障害児教育までの変遷について解説する。あわせて、重要度を増す特別支援教育について、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズ（母国語や貧困等の問題など）を抱えた児童への対応について、インクルーシブ教育の理念から討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
2	第１章　インクルーシブ教育への転換 インクルーシブ教育の国際動向を読解し、サラマンカ声明と障害者の差別、合理的配慮についてまとめておくこと。	サラマンカ声明にみる特別な教育的ニーズと障害者権利条約、合理的配慮について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
3	第１章　インクルーシブ教育への転換 特別支援教育とインクルーシブ教育を読解し、わが国の特別支援教育の理念と制度、交流及び共同学習について整理する。	わが国の特別支援教育の理念と制度、役割と機能について、交流及び共同学習の視点から整理する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
4	第１章　インクルーシブ教育への転換 特別支援教育とインクルーシブ教育を読解し、通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について整理する。	通常学級における合理的配慮とユニバーサルデザイン教育について解説する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
5	第２章　障害児の教育課程と方法 特別支援教育の学習指導要領と教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画について確認しておくこと。	特別支援教育の教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画について解説する。あわせて、通常学級における個別の指導計画の意義と運用事例について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
6	第２章　障害児の教育課程と方法 教育内容について読解し、特別支援学級や通級指導教室の教科指導（読み・書き）と作業学習、自立活動についてまとめておくこと。	教育内容として、特別支援学級や通級指導教室の教科指導（読み・書き）と生活単元学習、作業学習、自立活動について意義の確認をした上で、特別支援学校における授業事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
7	第２章　障害児の教育課程と方法 授業づくりを読解し、発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割についてまとめておくこと。	発達障害や軽度の知的障害を抱える児童を含む通常学級での授業づくりの手法として、授業のユニバーサルデザイン化とその視点、教材教具の心理的な役割について事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
8	第２章　障害児の教育課程と方法 指導の方法を読解し、ICT を用いたコミュニケーションの光と影、発達障害や軽度知的障害を抱えた児童に対するソーシャルスキルトレーニング（SST）と、問題行動への対応の観点から整理しておくこと。	ICT を用いたコミュニケーションの光と影を理解した上で、発達障害や軽度知的障害を抱えた児童に対するソーシャルスキルトレーニング（SST）と、問題行動への対応について事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
9	第２章　障害児の教育課程と方法 特別支援学校の制度を読解し、視覚障害教育と聴覚障害教育、病弱教育について整理した上で、障害を合わせ有する重複障害児童の教育課程編成についてまとめておくこと。	学校制度上の視覚障害・聴覚障害・病弱・肢体不自由の各教育課程について、知的障害と対比させながら解説する。あわせて、障害を合わせ有する重複障害児童の教育課程編成について討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
10	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害と発達の基礎概念を読解し、発達保障の考え方、障害者の自立、発達と教育の関係について整理・確認してまとめておくこと。	個人の発達と集団、社会の発展、障害者の自立、発達と教育の関係について、文化的発達の一般的発生法則の視点から討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)
11	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害と発達の基礎概念を読解し、いじめや非行、不登校と障害の関連、QOL を高めるための教育的な支援についてまとめておくこと。	いじめや非行、不登校と障害の関連、QOL を高めるための教育的な支援について事例をもとに討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
12	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害の診断・判断・支援を読解し、ウェクスラー式知能検査を整理した上で、ダウン症の行動特性の観点から課題と支援についてまとめておくこと。		印刷授業
13	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害の診断・判断・支援を読解し、読み書き障害、ADHD、自閉症スペクトラムについてまとめておくこと。	読み書き障害（ディスクレシア）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）について事例をもとに教育的な支援を討論する。	印刷授業 及び 面接授業 (1 時間)

14	第３章　障害児者の発達・障害・生活 障害の診断・判断・支援を読解し、弱視、難聴、ろう文化と手話についてまとめておくこと。	通常学級における弱視と難聴の児童への教育的な支援について事例をもとに討論する。あわせて、ろう文化と手話について解説を加える。意見発表	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	第４章　障害者のライフステージと教育・福祉 就学前から就学へ、そして青年期から成人へを読解し、児童発達支援、障害児と学童保育、相談事業についてまとめておくこと。 まとめとして特別ニーズ教育論のノートを整理する。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】　現代の学校は、発達障害・母国語・貧困などの問題への様々な教育的ニーズに対応しなければならない。現在の学校教育が抱える課題について、インクルーシブ教育の視点から整理し、その解決についてのあなたの考える方策を述べよ。

＜ポイント＞

・インクルーシブ教育は通常教育の改革であるという視点から考察する。
・小学校には発達障害を抱えているであろう児童が 6.5%存在する。それ以外に教育的ニーズを抱えている児童も存在する事まで考えを広げ、その教育的ニーズの具体例を文献や新聞などで調べる。
・様々な教育的ニーズへの対応策について文献や新聞などで調べる。
・調べた具体例と対応策について自己の経験や思いと重ね合わせて、自分の考えとして文章化する。

科目終了試験学修のポイント

１．インクルーシブ教育の理念について
＜ポイント＞
インクルーシブ教育、国連・障害者の権利に関する条約、サラマンカ声明、特別な教育的ニーズ、インテグレーションについて学習する。

２．特別支援教育とインクルーシブ教育について
＜ポイント＞
通常学級における合理的配慮、ユニバーサルデザイン教育、母語が日本語でない児童への学習支援、貧困家庭の抱える教育的ニーズへの社会的・教育的な支援について学習する。

３．障害の理解について
＜ポイント＞
視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱の医学的・教育的な定義について学習する。また、読み書き障害（ディスクレシア）、注意欠陥多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）などの発達障害について学習する。

４．特別支援学校の学習指導要領と教育課程について
＜ポイント＞
知的障害の学習指導要領と教育課程、特別支援学校の準ずる教育課程、教育方法、個別の指導計画について学習する。

５．障害児の教育課程について
＜ポイント＞
教科指導の特徴、作業学習、自立活動について学習する

６．特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりについて
＜ポイント＞
障害の有無に関わらず、すべての児童が「わかる・できる」が実感できる授業づくりとして、通常学級でできる授業のユニバーサルデザイン化について学習する。

教科書

玉村公二彦、他『新版　キーワードブック　特別支援教育』クリエイツかもがわ。

参考文献

特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）

科目コード	日本の文化と言語Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
1710		１年	ＳＲ
教員名	山口雅代		

科目概要

日本語を学ぶ外国人にとって、ことばを聞く、話す、文章を読む、書くといった技能は大変難しいものである。その一番のハードルになっているのが、語彙の問題と日本語独特の文脈の理解であると考えられる。

日本の文化を理解するためには、日本語の文章の理解（読解）が最も重要である。ましてや、通訳を志望する学生には、母語と日本語の相互のことばでの理解が必要不可欠となる。従って、本講義においては、日本の文化について、調べたことを文章にまとめたり、発表したりして、学生全員の知識として定着させるとともに、日本語独特の文章の理解（読解）や、日本語の語彙量の増加の一助とする。

学修内容

1	旅行について話し合う。さらに、自国での体験についてもまとめ、発表する
2	手紙の書き方を理解し、自分の家族に手紙を書く。日本社会における、手紙やはがきの書式を理解する。
3	日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
4	日本における買い物体験について話し合う。さらに、自国での体験についてもまとめ、発表する。
5	なじみの深い「コンビニ」について、その仕組みについて理解する。
6	日本の祭りについて理解する。さらに、日本での祭り体験についても話し合い、それぞれの祭りの意味について理解する。
7	「祇園祭」を含む日本の祭りの原点について理解する。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
8	自国の祭りについて調べ、祭の意味や特別な風習等具体的にまとめ発表する。
9	日本社会における贈り物の習慣について理解する。
10	贈り物のタブーについて、自国の風習と比較しながら日本社会の風習を理解する。
11	「プレゼント」の意味について理解する。さらに、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
12	自国の教育制度と比較しながら、日本の教育制度について理解する。
13	日本の教育の原点である「寺子屋式教育」について理解する。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
14	どんな昔話を知っているかについて話し合う。日本の昔話だけでなく、自国の昔話についても発表させる。また、日本語表現について理解し、実際にその表現を使って文章を作成する。
15	昔話の構成要素・話の種類について理解する。さらに、日本の代表的な昔話を紹介し、お互いにその昔話を味わう。(かぐや姫、一寸法師等)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】日本を深く理解するために必要な情報や、日本の社会生活を知る上で必要な情報等、具体的な項目をあげ説明せよ。

＜ポイント＞
日本の生活習慣や伝統芸能、衣食住等の文化について項目ごとにまとめること。

科目終了試験学修のポイント

1．旅行について
＜ポイント＞
今までに経験した旅行についてまとめ、日本国内でどんな旅行がしたいか考える。また、旅先からの自分の家族に手紙を書けるように、日本の手紙・はがきの書き方について理解する。

2．買い物について
＜ポイント＞
日本における買い物の経験について振り返り、どこでどんな買い物をするのかをまとめる。自分にとって日常の使用頻度の高い店（コンビニやスーパー）についても考察する。

3．祭について
＜ポイント＞
日本のお祭りについて調べるとともに、自国の伝統的なお祭りについてまとめる。

4．贈り物について
＜ポイント＞
日本における贈り物の習慣を理解し、自国の習慣と比較しながら贈り物についてまとめる。また、日本の社会における「贈り物のタブー」について理解し、自国の習慣と比較する。

5．教育について
＜ポイント＞
日本の教育制度について理解し、自国の教育制度と比較しながら、その特徴についてまとめる。

6．昔話について
＜ポイント＞
自分の知っている日本の昔話についてまとめる。さらに、自国に伝わる昔話についても調べる。

教科書

佐々木薫・赤木浩文　他　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　中級前期』　スリーエーネットワーク。
佐々木薫・赤木浩文　他　『新訂版　トピックによる日本語総合演習　中級後期』　スリーエーネットワーク。

参考文献

科目コード	乳児保育（２単位）	登録年次	履修方法
7040		２年	ＳＲ
教員名	稲香代子、岡林純子、加藤博子、駒井美智子、手塚和美、戸田大樹、山口悠紀子		

科目概要

わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。

学修内容

1	○日本の子育て環境と乳児保育の実態 ・母親の就労と子育て支援、待機児童の実態等を理解する。
2	○乳児保育の発展の経緯と政策の変遷 ・児童福祉法制定から現代にいたる乳児保育の政策の変遷と課題について理解する。
3	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね６か月未満> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (首が据わる、寝返り、笑い声の獲得等)
4	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね６か月から１歳３か月> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (はいはい、人見知り、つかまり立ち、一人立ち、歩行、いたずら等)
5	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね１歳３か月から２歳未満> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (歩行の確立、言葉の獲得、排泄、食事等)
6	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね２歳> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (自我の確立、言語認識の発達等)
7	○乳児の生活と健康 ・乳幼児期における感染症とその対策について理解する。
8	○乳児の生活と健康 ・乳幼児期の起きやすい事故とその対策と、子どもを健康に育てるための留意点を学ぶ。
9	○乳児の基本的生活と健康 〈科目終了試験学修のポイント２〉 ・だっこ、おんぶ、おむつ替えへなどの援助を通して、情緒の育ちを理解する。
10	○乳児期の基本的生活 ・乳児期の生活リズム（授乳・食事・睡）について理解する。
11	○乳児の遊びと対人関係 ・言語・遊びの発達過程と対人関係について理解する。 〈科目終了試験学修のポイント３〉
12	○乳児の遊びと対人関係 ・友達関係の広がりと援助について理解する。 〈科目終了試験学修のポイント３〉
13	○保育計画の立て方 ・計画の意義、立案、記録の取り方、評価について学ぶ。
14	○乳児保育における現代的な課題 〈科目終了試験学修のポイント４〉 ・子育て支援と保育所の役割について理解する。
15	○乳児保育の担当者として求められる役割と資質 〈科目終了試験学修のポイント５・６〉 ・発達や理論、技術の基本的理解・育児の孤立化と子育て不安への対応・子育て家庭への情報提供　等を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】乳児保育の担当保育者としての資質について述べよ。

＜ポイント＞

乳児期の発達の特徴に即した保育環境とは何かをおさえることが大切である。乳児がそれらの環境と応答的に関わり、望ましい発達へ向かうために必要とされる保育者の資質について述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について

＜ポイント＞

新生児の原始反射と感覚の発達、乳児期の身体発達の順序と方向性について理解する。身体発達や運動発達とともに、言語・認識の発達も視野に学ぶ。

２．乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について

＜ポイント＞

特定の大人が、応答的・積極的に乳児に働きかけ続けることにより、信頼感が芽生え、愛着が形成される過程での基本的な生理的欲求や依存の欲求を満たすスキンシップの重要性について理解する。

３．乳児の集団保育の意義について

＜ポイント＞

特定の保育者との継続的なかかわりから、人への基本的信頼感を形成し、それを基盤に成長とともに周囲の友達とのかかわりが広がり、遊びが豊かになる。また言葉の発達や社会性の発達も促されるなどの集団保育の利点を理解する。

４．乳児保育のもつ現代的な課題について

＜ポイント＞

保育所保育指針第１章総則より保育所の役割を理解する。保護者の就労と子育ての両立を支援し、育児不安を解消するなどの役割を理解し、支援の方法について考察する。

５．乳児院と保育所の制度について

＜ポイント＞

児童福祉法に規定された、保育所と乳児院それぞれの施設の役割や利用対象について理解する。

６．乳児保育における保育者の配慮または留意点について

＜ポイント＞

保健的で、安全でしかも家庭的な環境を用意する。個人差に配慮し、基本的欲求十分に満たすよう、スキンシップをとるなど養護的かかわりを中心に、教育との一体性を理解して保育に取り組むなどの保育実践上の配慮事項を熟知しておく。また、保護者の就労と子育ての両立を支援し、育児不安などを軽減するよう信頼関係のもと対応していくよう留意しなければならない。

教科書

大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。

科目コード	乳児保育Ⅰ（２単位）	登録年次	履修方法
6620/6621/6622 6623/6624/6625		２年/１年	ＳＲ/Ｒ
教員名	稲香代子、駒井美智子、手塚和美、戸田大樹、山口惠美子、山口悠紀子、山崎摂史		

科目概要

わが国における乳児保育の発展の経緯と現状を確認し、保育所や乳児院の役割を理解する。また乳児の発達・発育を留意した、乳児保育の担当者として求められる役割および理論や知識・技術の基本を理解し、保育現場での課題解決方法を理解する。

学修内容

1	○日本の子育て環境と乳児保育の実態 ・母親の就労と子育て支援、待機児童の実態等を理解する。
2	○乳児保育の発展の経緯と政策の変遷 ・児童福祉法制定から現代にいたる乳児保育の政策の変遷と課題について理解する。
3	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね６か月未満> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (首が据わる、寝返り、笑い声の獲得等)
4	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね６か月から１歳３か月> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (はいはい、人見知り、つかまり立ち、一人立ち、歩行、いたずら等)
5	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね１歳３か月から２歳未満> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (歩行の確立、言葉の獲得、排泄、食事等)
6	○乳児の身体の発育と運動面の発達理解<おおむね２歳> 〈科目終了試験学修のポイント１〉 ・特徴の理解と配慮について学ぶ。 (自我の確立、言語認識の発達等)
7	○乳児の生活と健康 ・乳幼児期における感染症とその対策について理解する。
8	○乳児の生活と健康 ・乳幼児期の起きやすい事故とその対策と、子どもを健康に育てるための留意点を学ぶ。
9	○乳児の基本的生活と健康 〈科目終了試験学修のポイント２〉 ・だっこ、おんぶ、おむつ替えへなどの援助を通して、情緒の育ちを理解する。
10	○乳児期の基本的生活 ・乳児期の生活リズム（授乳・食事・睡）について理解する。
11	○乳児の遊びと対人関係 ・言語・遊びの発達過程と対人関係について理解する。 〈科目終了試験学修のポイント３〉
12	○乳児の遊びと対人関係 ・友達関係の広がりと援助について理解する。 〈科目終了試験学修のポイント３〉
13	○保育計画の立て方 ・計画の意義、立案、記録の取り方、評価について学ぶ。
14	○乳児保育における現代的な課題 〈科目終了試験学修のポイント４〉 ・子育て支援と保育所の役割について理解する。
15	○乳児保育の担当者として求められる役割と資質 〈科目終了試験学修のポイント５・６〉 ・発達や理論、技術の基本的理解・育児の孤立化と子育て不安への対応・子育て家庭への情報提供等を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】乳児保育の担当保育者としての資質について述べよ。

＜ポイント＞
乳児期の発達の特徴に即した保育環境とは何かをおさえることが大切である。乳児がそれらの環境と応答的に関わり、望ましい発達へ向かうために必要とされる保育者の資質について述べること。

科目終了試験学修のポイント

１．乳幼児期における身体の発育と運動面の発達について
＜ポイント＞
新生児の原始反射と感覚の発達、乳児期の身体発達の順序と方向性について理解する。身体発達や運動発達とともに、言語・認識の発達も視野に学ぶ。

２．乳児の情緒安定と「抱っこ」の関係について
＜ポイント＞
特定の大人が、応答的・積極的に乳児に働きかけ続けることにより、信頼感が芽生え、愛着が形成される過程での基本的な生理的欲求や依存の欲求を満たすスキンシップ重要性について理解する。

３．乳児の集団保育の意義について
＜ポイント＞
特定の保育者との継続的なかかわりから、人への基本的信頼感を形成し、それを基盤に成長とともに周囲の友達とのかかわりが広がり、遊びが豊かになる。また言葉の発達や社会性の発達も促されるなどの集団保育の利点を理解する。

４．乳児保育のもつ現代的な課題について
＜ポイント＞
保育所保育指針第１章総則より保育所の役割を理解する。保護者の就労と子育ての両立を支援し、育児不安を解消するなどの役割を理解し、支援の方法について考察する。

５．乳児院と保育所の制度について
＜ポイント＞
児童福祉法に規定された、保育所と乳児院それぞれの施設の役割や利用対象について理解する。

６．乳児保育における保育者の配慮または留意点について
＜ポイント＞
保健的で、安全でしかも家庭的な環境を用意する。個人差に配慮し、基本的欲求十分に満たすよう、スキンシップをとるなど養護的かかわりを中心に、教育との一体性を理解して保育に取り組むなどの保育実践上の配慮事項を熟知しておく。また、保護者の就労と子育ての両立を支援し、育児不安などを軽減するよう信頼関係のもと対応していくよう留意しなければならない。

教科書

大阪保育研究所『テキスト乳児保育』フォーラム・A。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館。

科目コード	乳児保育Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
7051/7053/7054		２年	R/SR
教員名	稲香代子、岡林純子、加藤博子、駒井美智子、戸田大樹、戸次佳子、山口悠紀子		

科目概要

乳児保育Ⅰで学んだことを基礎として、保育を実践するために必要となる乳児あるいは低年齢児にかかわる保育内容について、実践的な視点から具体的かつ総合的に理解する。

学修内容

1	乳児保育の基本となる考え ・乳児保育の意義を考察し、理解する。
2	乳児の生活　日課　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・子どもの生活と保育者の配慮や保育者同士の連携について理解する。
3	乳児の生活　遊ぶ　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・乳児にとっての遊ぶことの意義を知る。・発達と遊び、保育者のかかわり方などを理解する。
4	乳児の生活　食事　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・授乳・離乳・幼児食へのすすめ方、食べ方　楽しく、美味しく食べられる条件について理解する。
5	乳児の生活　睡眠　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・乳児期の睡眠リズム、睡眠に適した環境づくりや援助について理解する。
6	乳児の生活　排泄　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・自立への過程を理解するとともに、援助方法を理解する。
7	乳児の生活　安全　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・日常の健康管理と事故防止対策を理解する。
8	乳児の生活　健康　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・感染症の種類と予防対策、発生した場合の対応を理解する。
9	乳児の生活　保育室　〈科目終了試験学修のポイント１・３〉 ・親しみとくつろぎの場としての保育室の在り方を理解する。
10	家庭とのつながり―連携の方法と支援について理解する。　〈科目終了試験学修のポイント４・５・６〉
11	保育所での環境と生活の仕方 ・保育環境としての人的、物的、自然・社会的環境と、保育所での生活の仕方を理解する。
12	生活を支える保育者の役割 ・保育の計画・実践・記録・評価について理解する。
13	子どもと生活を共にする保育者の役割 ・職員間の連携や、他機関との連携の重要性を理解する。
14	日々の生活の中から見えてくる子どもの姿 ・乳幼児の生活経験と育ちについて関連性と重要性を理解する。
15	乳児が生活する場所の問題　現状と制度と今後の課題について〈科目終了試験学修のポイント２〉 ・子育て支援センター事業や待機児童問題、幼保一元化の動向について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保育所における乳児保育の課題について述べよ。

＜ポイント＞

保育のあり方は、社会の変化と密接に関係している。今日の地域社会の弱体化から浮かび上がる子育て中の親の孤立感や育児不安等の状況に目を向け、様々な個性をもつ乳児への保育や様々な状況を抱える保護者への支援について考え、論述する。

科目終了試験学修のポイント

1．乳児期における「運動遊び」の大切さについて

＜ポイント＞

乳児期の身体的発達の特徴を理解し、多様な運動遊びを必要とする意味を考察する。

2．離乳の進め方について

＜ポイント＞

成長・発達の著しい乳児期には、それぞれの発達段階に即した離乳の進め方が求められる。心身の発達と離乳との関係について理解する。

3．むずかる乳児への対応について

＜ポイント＞

乳児がむずかることには意味があることを理解する。その意味がどのような発達へと繋がるのかを考え、望ましい対応について理解する。

4．乳児の保育内容を考える視点について

＜ポイント＞

保育内容の構造を理解し、養護と教育の内容を考える時、乳児の場合に必要とされる視点について考察する。

5．乳児期の「探索活動」や「模倣」の意義について

＜ポイント＞

探索活動や模倣を通して、乳児がそれぞれの機能をどのように発達させていくのかを理解し、そこで求められる大人の役割を理解する。

6．乳児へのおもちゃの与え方について

＜ポイント＞

乳児の発達的特徴と興味・関心を理解したうえで、おもちゃの与え方について考察する。

教科書

阿部和子『乳児保育の基本』萌文書林。

参考文献

高野清純、深谷和子『乳幼児心理学を学ぶ』有斐閣選書。

深谷和子『子どもを支える～子どもの発達臨床の今とこれから』北大路書房。

科目コード	乳幼児の脳機能（２単位）	登録年次	履修方法
1790		２年	R
教員名	石本強、澤田晋一		

科目概要

脳は不思議な器官で、脊椎動物なら脳は必ず頭に１個あり、身体各所の機能をコントロールしている。最近は心臓死だけでなく、脳死の概念が受け入れられ、脳死者からの臓器移植手術が実施されている。地球上に生命が誕生してから約 40 億年の長い時間を経てヒト（現生人類）に到達した。この進化の歴史は、神経回路の発達、すなわち脳の形成と発達の過程にほかならない。脳はうまく使えば無限の可能性があるすばらしい器官である。

本科目の目標は、乳幼児・小児の成長と脳の機能向上は直接関係していることから、脳を正しく発達させ、育てることを理解することにある。

学修内容

1	イントロダクション：脳の構造 脳は身体・精神機能を調節する最高機関である。大脳、脳幹、小脳の基本的構造と、それぞれの大まかな機能について理解する。
2	動物の進化と脳の進化、人体機能のコントロール 原索動物に始まる脊椎動物の進化と並行して脳は発達し、各種機能が獲得された。動物進化の過程について、脊髄、脳幹、大脳の形成・発達と関連づけて理解する。
3	脳の機能分化・刺激に対する高感受性期 大脳新皮質には感覚、運動、思考の機能が存在するが、それぞれの機能には部位による分化がみられる。機能分化の開始時期と刺激に対する機能解発期（高感受性期）の関連について理解する。
4	脳の活動と栄養 脳の活動の栄養源はブドウ糖のみで、大量の酸素を消費するが、貯蔵はできない。脳の形成と活動に必要な栄養素の不足の影響について理解する。
5	胎児期における脳の形成 胎児期の脳は、脊椎動物の進化の歴史を忠実にたどって発達する。受精からの週齢と脳の形態について、胎芽期と胎児期に分けて学ぶ。
6	胎児期の脳形成に対する危険因子 胎児期の脳では、神経管から神経細胞の形成と増加、および脊髄、中脳、終脳の形成が行われ、それぞれの基本的機能が開始される時期である。どのような因子が胎児脳の形成に悪影響を及ぼすのか、胎芽期、胎児期、周生期に分けて理解する。
7	乳児の脳の発達 新生児は、身体的には成熟しているが、脳機能は未完成の胎外胎児（ネオテニー）の状態で出生する。出生後１年以内の乳児期における脳機能の発達について、行動変化と関連づけながら理解する。
8	乳児期の脳発達に対する危険因子 乳児期は、神経細胞を連絡する神経線維の成長が急速に行われ、学習・記憶が始まる。乳児の脳機能、特に神経線維の成長に悪影響を及ぼす各種因子について理解する。
9	幼児期における脳の形成 幼児期、特に３歳の段階でシナプスの刈り込みが行われ、様々な刺激に対して高感受性である。1～5 歳の間における脳機能の分化・発達と心身の活動との関連を理解する。
10	幼児期の脳発達に対する危険因子 幼児期の脳機能の分化・発達は、栄養摂取と適切な刺激の提示が必要である。どのような因子が幼児の脳機能の発達に悪影響を及ぼすか理解する。
11	小児期の脳 5 歳以降の小児期は、大脳新皮質・前頭前野の発達が行われる時期であり、人としての心理的機能の形成が行われる。刺激感受－思考・判断－運動出力の機構について理解する。
12	小児期の脳発達に対する危険因子 小児期は人としての心理的機能が完成する時期である。その中心となる前頭前野の機能の発達にどのような因子が悪影響を及ぼすのか理解する。
13	乳幼児期・小児期の学習と記憶 記憶は、主として刺激提示による神経細胞の活動変化（短期記憶）と神経回路の形成（長期記憶）によって行われる。乳幼児期、小児期の学習・記憶の特徴について理解する。
14	乳幼児期・小児期における脳による感覚刺激の処理 感覚刺激に対する反応について、脳の感覚系への情報入力、処理、対処行動の発現という一連の過程について、年齢に応じた発達について理解する。
15	総括：脳機能の発達に効果的な刺激提示 胎児期～乳幼児期、小児期にわたり、それぞれの年齢に応じた、脳機能の発達をもっとも効果的に行う方法について考察する。また、脳機能の障害についても理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児期における脳の発達と刺激提示の重要性について述べよ。

＜学修のポイント＞

乳幼児期は脳の基本形成に、幼児期は脳機能の発達に重要な時期であり、適切な刺激の提示と栄養素の供給が欠かせない。人体の大部分の機能をコントロールする脳について、その構造と機能分化について述べ、機能獲得に必要な刺激、特に話し言葉について、また過剰な刺激提示の悪影響について述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．進化の過程の中で、ヒトはどのように脳を巨大化させたのか

＜ポイント＞

ヒトの巨大な脳を維持する栄養摂取、脳を発達させた行動上の要因について考察する。

2．ヒトの脳の構造と機能分化について

＜ポイント＞

大脳（大脳新皮質、辺縁系、間脳）、脳幹の構造と、それぞれの部位の機能から、損傷時の症状を考察する。

3．脳の神経細胞の形成および活動に必要な栄養について

＜ポイント＞

身体各部の細胞と異なり、脳を形成する神経細胞はブドウ糖しかエネルギー源として利用できない。神経細胞の特性、活動を維持する支持細胞群、栄養・酸素消費の特徴、不足時の症状を考察する。

4．脳機能の獲得における高感受性期について

＜ポイント＞

乳・幼児期は成長途中にあり、刺激が適切に提示されることで、脳機能の形成・発達が行われる。乳・幼児期のどの段階で、どのような刺激を提示すべきか考察する。

5．乳・幼児期における母子接触の重要性について

＜ポイント＞

乳・幼児期は母子接触、とくに乳・幼児の行為に対する母親の返答が重要であると考えられている。なぜそれが有効なのか、また、母子接触が不足した場合の影響について考察する。

6．乳・幼児期の脳発達における危険因子について

＜ポイント＞

乳・幼児期の脳発達には適切な栄養素と刺激の提示が必要である。逆に、どのような事象が脳発達の危険因子になるか、例を挙げて考察する。

教科書

乾敏郎『脳科学からみる子どもの心の育ち』ミネルヴァ書房。

参考文献

岩田誠『発達と脳』医学書院。
栗原久『脳 ―創り・育て・守り・輝かせる』圭文社。
後藤和宏『よくわかる 最新「脳」の基本としくみ』秀和システム。
フロイド・ブルーム『脳の探検　上下』ブルーバックス。

科目コード	ノーマライゼーション論（２単位）	登録年次	履修方法
1550		２年	R
教員名	柳澤利之		

科目概要

日本のノーマライゼーションは、障害者の生涯のすべての段階において全人間的復権をめざすリハビリテーションの理念と、障害者が障害のない人と同等に生活し、活動する社会をめざすという理念の２つの柱をもつ。本講義では、障害児者の自立と豊かな生活を保障するノーマライゼーションに関する政策や地域社会の動きについて、教育・福祉・労働の視点から学ぶ。

学修内容	
1	ノーマライゼーションの起源とその理念 （バンク・ミケルセン、隔離施設、地域社会、共生）
2	ノーマライゼーションの原理 （ニィリエによるノーマライゼーションの原理）
3	ノーマライゼーションに関する政策(1) （国際障害者年行動計画、国連障害者の 10 年・障害者に関する世界行動計画、完全参加と平等）
4	ノーマライゼーションに関する政策(2) （国際障害分類（ICIDH）、国際生活機能分類（ICF）、障害者権利条約）
5	日本におけるノーマライゼーション(1) （障害者対策に関する長期計画、障害者対策に関する新長期計画、障害者基本法）
6	日本におけるノーマライゼーション(2) （障害者プラン、支援費制度、障害者自立支援法、障害者総合支援法）
7	ノーマライゼーションに基づく障害児の教育 （養護学校、特別支援教育、統合教育、インクルージョン教育）
8	バリアフリーについて （ユニバーサルデザイン、アクセシビリティ、バリアフリー新法、）
9	雇用・就労におけるノーマライゼーション （障害者雇用促進法、障害者雇用率制度、就労支援、ジョブコーチ、トライアル雇用）
10	セクシュアリティとノーマライゼーション （セクシュアリティ、結婚）
11	障害の理解とノーマライゼーション(1) （視覚障害、聴覚障害）
12	障害の理解とノーマライゼーション(2) （肢体不自由）
13	障害の理解とノーマライゼーション(3) （知的障害、発達障害）
14	障害の理解とノーマライゼーション(4) （重度重複障害・その他）
15	ノーマライゼーションに関する地域社会の動き （先進事例の研究）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】ノーマライゼーションの理念に基づき、障害児者が地域でより豊かに生活するための現代社会のあり方について述べよ。

＜ポイント＞

ノーマライゼーションの理念について示した上で、わが国では、その理念の下に、障害者が地域でより豊かな生活が営めているのかどうか、身近な問題としてとらえ、どのような課題があるか、またその課題はどうすれば解決に導くことができるのか、論じるとよい。

科目終了試験学修のポイント

1．ノーマライゼーションの原理について

＜ポイント＞

バンク・ミケルセンによる8つの原理について理解することが必要である。

2．日本のノーマライゼーションの理念について

＜ポイント＞

日本における障害児（者）対策の変遷・動向について理解する必要がある。

3．ノーマライゼーションに関する政策について

＜ポイント＞

国際障害者年以降のノーマライゼーションに関する国際的な動向について理解する必要がある。

4．ノーマライゼーションに関する地域社会の動きについて

＜ポイント＞

先進地域における事例について研究した上で考察する必要がある。

5．ノーマライゼーションに基づく障害児の教育について

＜ポイント＞

日本における障害児教育の変遷・動向について理解する必要がある。

6．バリアフリーについて

＜ポイント＞

バリアフリー、ユニバーサルデザインに関する理念に加え、日本における動向を理解する必要がある。

教科書

石部元雄、他『ノーマライゼーション時代における障害学』福村出版。

参考文献

山本和儀『ともに学び、ともに生きる』朱鷺書房。

科目コード	発達心理学（2 単位）	登録年次	履修方法
2202		2年	R
教員名	荒井理帆、酒井博美、永田愛、中山麻子、西脇雅彦、長谷川有香、前川洋子		

科目概要

従来、発達とは、乳児が成人に至るまでの心身の変化と捉えられてきた。しかし、今日では、死ぬまでを発達の過程と捉える生涯発達の視点から、老年期の発達も注目され始めている。また、高齢者だけでなく障害児（者）の発達も考えていく必要があり、精神医学や福祉など周辺分野との連携の必要性も高まっている。そこで、本科目では、各ライフステージにおける発達課題や、障害や虐待など発達を阻害する要因について学び、生涯を見通した支援ができるようになることを目標とする。

学修内容

1	エリクソンの生涯発達理論について学ぶ （該当箇所：pp.24-25, pp.122-123, pp.142-143, p.149, p.156, pp.186-189, p.200） エリクソンの提唱した人の一生涯にわたる発達過程および発達課題について理解を深める。
2	ピアジェの認知発達理論における知的発達のありさまを捉える　（該当箇所：p.51, pp.62-63） ピアジェが提唱した認知発達理論を学ぶ。感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、保存などが主要なキーワードとしてあげられる。
3	ボウルヴィを中心とした愛着理論を学ぶ　（該当箇所：p.23, pp.24-25, pp.56-57） 愛着の基盤となる養育者と子どもの情緒的な交流をふまえながら、愛着理論の発展についてとらえる。
4	胎児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.2-21） 胎児期における能力のうち、聴覚を中心に理解を深め、また胎児に与えるアルコールやたばこの影響について学ぶ。
5	乳児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.14-41） 新生児期の諸能力のうち、視覚や聴覚、記憶や人に対する興味関心など、実証研究が明らかにしてきた知見を学ぶ。また乳児期における言葉の獲得過程や感情・乗除の発達を理解する。
6	幼児期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.42-81） 見立て遊びにみられる対象表象の発達から共同遊びまで、遊びの過程から見る発達や幼児期の言葉の獲得過程、知的能力（数概念や自己中心性の脱却）の発達などについて理解する。
7	児童期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.82-101） 文字の読み書きや計算能力といった学習能力の発達に加えて、仲間関係の発達を遂げていく。社会的スキルの高まりとともにいじめや劣等感といった問題についても理解を深める。
8	思春期～青年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.102-121） 第二次性徴に伴う身体変化と心理的変化、自己同一性の確立、道徳性の発達、といった点をキーワードとして理解を深める。
9	成人期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.122-141） エリクソンのいう「親密性 VS 孤立」を引き合いに出すまでもなく、恋愛や性、結婚や子育て、働くといった過程を経る成人期であるが、現代ではこの発達過程には個人差が大きくなっている。近年的動向も併せて理解する。
10	壮年期～老年期　の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.142-161） 夫婦をめぐる心理（婚姻関係の継続と破綻）や子離れの心理やインターネットを介したコミュニケーション（SNS）について学ぶ。
11	老年期の特徴を捉える　（該当箇所：テキスト pp.148-162） 退職後の生活や祖父母として子や孫へのかかわりを考える中で、高齢者の問題としてあげられる介護や健康について理解を深める。
12	発達の障害　（該当箇所：テキスト p.168） 発達障害と狭義の発達障害との違いを捉えながら、どのような支援が必要か考えてみる。
13	子ども虐待　（該当箇所：テキスト p.162） 子ども虐待の種別や近年的傾向を押さえながら、虐待の要因についてとらえる。
14	現代の発達環境、発達上の諸問題について理解を深める　（該当箇所：テキスト pp.162-181） 子どもをめぐる臨床的問題として不登校や摂食障害、無気力、自殺やうつなどがあげられる。その特徴と背景について学び、支援について考える。
15	発達心理学における発達を考える　（該当箇所：テキスト pp.189-190,pp.192-199） 今あらためて発達とは何かについて再考する。生涯発達という視点を考慮に入れる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】エリクソンの発達段階のうちどれかを選び，その特徴をまとめ，その段階に起こりがちな危機を1つ挙げて，その対応について述べよ。

＜ポイント＞

乳児期から老年期までの 8 つの発達段階のうち 1 つ時期の特徴を説明したうえで、その時期に生じる危機の内容や原因などを具体的に述べ、対応について自分の意見を含めて論じる。

科目終了試験学修のポイント

1．「発達」の今日的意味について

＜ポイント＞

「発達」の概念がどのように変化してきたかをまとめ、「発達」の今日的な意味を考える。

2．発達を規定する要因について

＜ポイント＞

発達を規定する要因として、遺伝と環境をとりあげ、それがどのように位置づけられているか考える。

3．各発達段階の特徴とエリクソンの心理社会的危機について

＜ポイント＞

エリクソンの生涯発達の理論を簡単にまとめ、それぞれの段階の発達課題と心理社会的危機をまとめる。

4．身体・運動の発達について

＜ポイント＞

運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相をまとめる。また、現代における運動発達の問題点についても触れるとよい。

5．認知・言語・感情の発達について

＜ポイント＞

それぞれの発達段階における認知、言語、感情の発達の様相をまとめる。

6．子どもの発達における今日的課題について

＜ポイント＞

それ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、様々な観点から考察する。

教科書

無藤隆、他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房。

参考文献

井上健治、他『子どもの社会的発達』東京大学出版会。
内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣双書。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床①ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床②脳科学から見た機能の発達』ミネルヴァ書房。

科目コード	発達心理学Ⅰ（2単位）	登録年次	履修方法
2850		1年	R
教員名	荒井理帆、酒井博美、中山麻子、西脇雅彦、長谷川有香、前川洋子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

科目概要・到達目標

心の機能は、感覚・知覚・認知、社会性、気質・性格、感情などさまざまな側面を見せながら、人の一生を通じて変化していく。発達は、個々に異なる様相をみせると同時に、乳児期、幼児期、学童期、青年期などの各ライフステージにおける普遍的な特徴をもつ。

本科目では、発達の概念および各ライフステージにおける心理及び行動の特長について学び、また，発達における環境の影響として学習や動機づけの理論について学ぶ。こうした学びによって，子どもの発達過程をふまえて，主体的学習を支える援助のあり方について，理論的に説明できるようになることを目指す。

学修内容

1	子どもの発達を理解することの意義 教科書 pp.1-9 を通読し、発達の概念、発達を規定する要因、発達のメカニズムなどについて理解する。
2	子ども観と保育観の変遷 教科書 pp.10-19 を通読し、子ども観や保育観の変遷、それに応じた制度の変化などについて理解する。
3	胎児期・新生児期の発達の特徴 教科書 pp.20-29 を通読し、胎児期・新生児期の発達の特徴と問題点について理解する。
4	乳幼児期の発達の特徴 教科書 pp.30-40 を通読し、乳幼児期の発達の特徴と問題点について理解する。特に初期経験の重要性について押さえておく。
5	児童期の発達の特徴 教科書 pp.42-49 を通読し、児童期の発達の特徴と問題点について理解する。
6	青年期の発達の特徴 教科書 pp.51-56 を通読し、青年期の発達の特徴と問題点について理解する。特に、エリクソンのアイデンティティの概念について押さえておく。
7	身体・運動の発達 教科書 pp.61-71 を通読し、運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相などについて理解する。
8	認知の発達 教科書 pp.73-81 を通読し、それぞれの発達段階の認知発達の様相などについて理解する。特にピアジェの発達理論を押さえておく。
9	言語の発達 教科書 pp.83-92 を通読し、言語発達の様相について理解する。また、子どもの言語発達における養育者・保育者の役割について押さえておく。
10	感情の発達 教科書 pp.93-102 を通読し、感情の発達の様相について理解する。また、感情の表出における問題点について押さえておく。
11	気質・性格の発達 教科書 pp.103-111 を通読し、気質・性格の基本的理論について理解する。気質・性格の測定方法やその問題点についても押さえておく。
12	学習理論 参考文献をもとに，学習理論について学ぶ。行動理論（レスポンデント条件付け，オペラント条件付け），認知理論（観察学習，洞察学習）について調べ，理解する。その上で，保育における学習理論の応用，評価の与え方について考察する。
13	動機づけ 参考文献をもとに，動機づけ理論として，外発的動機づけ・内発的動機づけ，自己決定理論，原因帰属について調べ，理解する。その上で，保育における動機づけ理論の応用について考察する。
14	心身の発達をふまえた保育者の指導 教科書 pp.113-122 を通読し，発達のアセスメントの視点とその活用について理解する。子どもの強みに着目して，主体的な学習活動を支える指導のあり方について考察する。
15	心身の発達をふまえた集団作り 教科書 pp.167-189 を通読し，集団生活や仲間との遊びを通じた発達の重要性について理解する。その上で，子どもの主体的な学習活動を支える保育者の仲間集団の形成の援助について考察する。

学生に対する評価

レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価
＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点）
C（69 点～60 点）
F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】胎児期・乳幼児期から老年期に至るまでのライフステージのどれかを選んで発達的な特徴をまとめ、その段階に起こりがちな危機を１つ挙げて、その対応について考察せよ。

＜ポイント＞
危機の例　胎児期：喫煙や飲酒の害など
乳幼児期：第一反抗期、転落による事故など
児童期：劣等感など
思春期・青年期：思春期やせ症など

科目終了試験学修のポイント

１．「発達」の今日的意味について
＜ポイント＞
「発達」の概念がどのように変化してきたかをまとめ、「発達」の今日的な意味を考える。

２．発達を規定する要因について
＜ポイント＞
発達を規定する要因として、遺伝と環境をとりあげ、それがどのように位置づけられているか考える。

３．各ライフステージの特徴とエリクソンの心理社会的危機について
＜ポイント＞
エリクソンの生涯発達の理論を簡単にまとめ、それぞれの段階の発達課題と心理社会的危機をまとめる。

４．身体・運動の発達について
＜ポイント＞
運動発達の分類や方向性、それぞれの発達段階の運動発達の様相をまとめる。また、現代における運動発達の問題点についても触れるとよい。

５．認知・言語・感情の発達について
＜ポイント＞
それぞれの発達段階における認知、言語、感情の発達の様相をまとめる。

６．子どもの発達における今日的課題について
＜ポイント＞
それ以前の時代とは異なる、現代に生きる子どもの発達上の問題点について、様々な観点から考察する。

教科書

本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』建帛社。

参考文献

内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床１　ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床２　脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床３　発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。

科目コード	発達心理学Ⅱ（２単位）	登録年次	履修方法
2860		２年	ＳＲ
教員名	荒井理帆、酒井博美、中山麻子、西脇雅彦、前川洋子		

科目概要

発達心理学Ⅰで基礎的知識を学修するため、ここでは保育実践に活かせる発達理解をすすめる。遊びや生活の活動の具体的な姿に表れる発達の姿を扱い、発達課題に即した教育的環境構成ができるようにする。子どもを総合的に捉え、環境との主体的な相互作用の意義、現代社会における子どもの問題等を具体的に考察する。

学修内容

1	子どもの発達理解の方法 教科書 pp.113-122 を通読し、発達検査や知能検査の種類や実施法、行動観察などについて理解する。また子どもの発達理解に関して、それらの技法を利用することの利点や問題点、限界などについても考察する。
2	子どもの精神的健康と障害 教科書 pp.123-133 を通読し、各種の発達障害、虐待との関連などについて理解する。
3	園内研修を通した子どもの発達理解 教科書 pp.134-142 を通読し、園内研修の様子や、その在り方について理解する。
4	他機関との連携を通した子どもの理解 教科書 pp.144-153 を通読し、連携の重要性やその在り方について理解する。
5	親子関係の発達と支援の実際 教科書 pp.154-164 を通読し、親子関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。
6	仲間関係の発達と支援の実際 教科書 pp.167-176 を通読し、仲間関係の発達について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。
7	遊びの発達と支援の実際 教科書 pp.178-189 を通読し、遊びの種類や発達の様相について理解し、保育現場での支援の事例を検討する。
8	自己の発達と支援の実際 教科書 pp.190-199 を通読し、自己の形成や発達について理解する。
9	認知発達への支援の実際 教科書 pp.201-212 を通読し、認知発達に応じた支援の事例を検討する。
10	言語・コミュニケーションへの支援の実際 教科書 pp.213-228 を通読し、言語やコミュニケーション行動の発達に応じた支援について理解する。
11	演習課題１ 教科書 p.164 の親子関係の発達と支援に関する演習１、２、３、および、教科書 p.177 の仲間関係の発達と支援に関する演習１、２、３を行い、簡単にまとめてみる。
12	演習課題２ 教科書 p.189 の遊びの発達と支援に関する演習１、２、および、教科書 p.199 の自己の発達と支援に関する演習１、２を行い、簡単にまとめてみる。
13	演習課題３ 教科書 p.212 の認知発達への支援に関する演習１、２、および、教科書 p.228 の言語・コミュニケーションへの支援に関する演習１、２、３を行い、簡単にまとめてみる。
14	発達障害について 発達障害に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。
15	虐待について 虐待に関する事例をとりあげ、それに伴うトラブルの要因と、自分なりの対処法について考察する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】発達障害や虐待に関する記事やニュースを参考に，それらに伴うトラブルの要因と対処法について述べよ。

＜ポイント＞
発達障害や虐待に関する記事やニュースを読み、その記事についてまず要約したうえで、その記事やニュースが生じた要因を分析し、問題への対応や予防について論じる。

科目終了試験学修のポイント

1．子どもの発達理解の方法について
＜ポイント＞
発達検査や知能検査の種類や方法、行動観察などについて簡単にまとめ、その利点や問題点、限界などについて考察する。

2．発達障害と虐待・PTSD・愛着障害について
＜ポイント＞
各種の発達障害の種類と特徴をまとめ、虐待と発達障害・PTSD・愛着障害との関連について考察する。

3．園内研修と他機関との連携について
＜ポイント＞
園内研修の様子や在り方、他機関との連携の重要性や在り方についてまとめる。

4．親子関係への支援について
＜ポイント＞
親子関係の発達についてまとめ、それにもとづいた適切な支援について考察する。

5．遊びの支援について
＜ポイント＞
遊びの発達の様相や種類についてまとめ、それにもとづいた適切な支援について考察する。

6．言語・コミュニケーションへの支援について
＜ポイント＞
言語やコミュニケーションの発達の様相についてまとめ、それにもとづいた適切な支援について考察する。

教科書

本郷一夫『シードブック保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』健帛社。

参考文献

内田伸子『発達心理学キーワード』有斐閣。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床1 ライフサイクルからみた発達の基礎』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床2 脳科学からみた機能の発達』ミネルヴァ書房。
平山諭、他『発達心理学の基礎と臨床3 発達の臨床からみた心の教育相談』ミネルヴァ書房。

科目コード	判断推理と数的推理（２単位）	登録年次	履修方法
1500		１年	R
教員名	成田成		

科目概要

短期大学生としての教養を高めるための一環として、論理や平面の分割・構成などに関する「判断推理」の能力と、整数問題、連立方程式、順列・組み合わせ、場合の数、確率などに関する「数的推理」の能力を養う。そのためにも、過去問題や予想問題などを解くのはもちろんであるが、出題者側の意図を理解しながら、実際に自分で例題や模範解答を作成するところまで学修する。

学修内容

1	イントロダクション：命題 判断推理の問題を解決する際は、仮定をもとにした証明が行われるが、証明されるべきものが仮定と矛盾しないことが必須の要件である。命題の中で、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味について、集合の考え方をもとに理解する。
2	真実と嘘の解釈 問題文の中に正しい内容と誤った内容が混在する場合、それらを整理して一定の結論を導く手順について、具体例を挙げて理解する。
3	トーナメントとリーグ戦の結果の推理 競技にはトーナメント制とリーグ制があり、勝負の結果、勝者と敗者が出現する。グループの勝敗の結果をもとに、一定の結論を導き出す手順について、具体例を挙げて理解する。
4	数値の推理 問題文の内容と文中に提示されている数値を整理して式を作り、どのような数的結論が導き出せるか、具体例を挙げて理解する。
5	順位の推理 問題文の内容と文中に提示されている数値を整理して式を作り、得られる値をもとに、大・小（多・少）の順位がどのようになっていると導き出せるか、具体例を挙げて理解する。
6	順列 あるグループの並び順の個数について、順列の式（パーミテーション：P）を適応してその数を出す。そして、条件に適合する順番を導きだす手順を理解する。
7	組み合わせ あるグループの組み合わせの個数について、組み合わせの式（コンビネーション：C）を適応してその数を出す。そして、条件に適合する組み合わせを導き出す手順を理解する。
8	確率 順列や組み合わせの個数をもとに、該当するものの個数を計算し、確率を推計する手順について、具体例を挙げて理解する。
9	集合 集合はあるグループの所属を規定するものであり、集合に含まれるものと、含まれないものに分類される。それをもとに、各集合の構成要素を明確化する手順を学ぶ。
10	暗号解釈 暗号は、ある情報の組み合わせに対して、一定の規則にしたがって別の情報に変換することを意味する符号である。ここでは、数値やアルファベットから、その意味することを解読する手順について、具体例を挙げて理解する。
11	代数問題 問題文の内容と文中に提示されている数値を整理して式を作り、得られる値をもとに、求める数値を確定させる手順について、具体例によって理解する。
12	軌跡 ある種の図形が移動した際、特定部分がどのような空間位置を移動したか、その軌跡について理解する。ここでは、平面図形を中心に、具体例を挙げて理解する。
13	平面図形 平面図形の分割法、作成される図の形、個数などについて、具体例を挙げて理解する。ここでは、組み合わせの応用としての理解が求められる。
14	立体図形 立体図形、特に長方形や立方体の分割法、展開図の形、個数などについて、具体例を挙げて理解する。ここでは、組み合わせの応用としての理解が求められる。
15	総括 1～14回の授業の総括として、問題文に含まれる数値から特定の値を推理する代数学、図形を理解する幾何学といった分野を統合した総合的な問題について、具体例を挙げて理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】短期大学生として「判断推理と数的推理」を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞
過去の経験を踏まえた上で、現在の「判断推理と数的推理」の利用価値や、自分の将来を考えた場合の重要度などと関連させながら、わかりやすく説得力のあるレポートを期待している。

科目終了試験学修のポイント

1.「教育」に関する内容で判断推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
成績順、欠席日数など、教育や成績と関係が深い内容について虚実混合の文章から、正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

2.「福祉」に関する内容で数的推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
親と子の年齢差、施設入居者数などについて、経年変化、施設間の差などを考慮した文章から正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

3.「学生」に関する内容で判断推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
学生の学習状況（座席などを含む）、生活状況（クラブ活動を含む）について虚実混合の虚実混合の文章から、正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

4.「大学入試」に関する内容で数的推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
学部・専攻の合格者数、入学者数、成績順などについて、集合を考慮した文章から正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

5.「就職」に関する内容で数的推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
職種別就職者数、就職率、男女数などについて虚実混合の虚実混合の文章から、正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

6.「教員」に関する内容で判断推理の問題文を2つ作成せよ。また、わかりやすい解説をつけて模範解答も記載せよ。
＜ポイント＞
男女別教員数、教科別教員数などについて集合を考慮した文章から正解を導き出す5択問題を作成し、正解に至るまでの解説をする。問題文は2種類作成すること。

教科書

保育士試験研究会編『保育士 就職試験問題集』実務教育出版。

参考文献

中学・高校の参考書や問題集など。

科目コード	福祉と教育（２単位）	登録年次	履修方法
1331		１年	ＳＲ
教員名	河野等、佐藤友樹、篠大輔、永澤護、成田成、堀建治		

科目概要

東京福祉大学は「理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力のある人材を育成する」ことを建学の精神としている。この精神の下、学生が主体となった教育の基礎である「読み、書き」を鍛錬する。福祉、教育、保育、心理、医療などを学ぶ基礎的な力を身に付けることを目指すとともに、社会における様々な課題に理解を深め、現代で新たに求められている能力とは何かを探求する。本講義は現代社会の諸問題を題材として「読み、書き」のトレーニングおよび教科書の「ワーク」を活用した考察を行う。「ワーク」でグループ活動が設定されている際は自身で調べ、考察し、文章にまとめること。

学修内容

1	「はじめに」を熟読し、老老介護と障害者虐待、孤独死の事件について調べる。その際、事件の原因や背景について考察し、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
2	序章「『いきづらさ』とは何か」を熟読し、重要概念である社会学福祉学、生きづらさ、ソーシャルワークについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
3	第 1 章「夏休みにやせる子がいるのはなぜ?」を熟読し、重要概念である子どもの権利、格差、子どもの貧困について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
4	第 2 章「集落に住みつづけるのはなぜ難しい?」を熟読し、重要概念であるコンパクトシティ、周縁化集落、地域住民のエンパワメントについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
5	第 3 章「認知症になると何もわからなくなるの?」を熟読し、重要概念である認知症、意思決定支援、権利擁護について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
6	第 4 章「なぜ人がもののように売られるの?」を熟読し、重要概念である人身取引、児童労働、外国人労働者の搾取について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
7	第 5 章「なぜ路上でクラス人がいるの?」を熟読し、重要概念である居住、貧困、社会的排除について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
8	第 6 章「障害者はなぜ施設に住んでいるの?」を熟読し、重要概念である優生思想、出生前診断、脱施設化について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
9	第 7 章「好きなる性は異性だけなの?」を熟読し、重要概念である性的マイノリティ、異性愛主義、パートナーシップ制度について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
10	第 8 章「虐待された子どもはどうなるの?」を熟読し、重要概念である社会的養護、子ども虐待、ライフチャンスについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
11	第 9 章「罪を犯した人は幸せになっていいの?」を熟読し、重要概念である地域生活定着促進事業、ソーシャル・スキルズ・トレーニング、幸福追求権について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
12	第 10 章「被災者の命と暮らしをどう支えるか?」を熟読し、重要概念である被災者支援、危機介入、レジリエンスについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
13	第 11 章「難民の暮らしは誰が支えるの?」を熟読し、重要概念である在留資格、人間の安全保障、グローバル・イシューについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
14	第 12 章「多文化共生社会にどう向き合うべきか?」を熟読し、重要概念であるマイノリティ、同化政策、脱植民地化思考について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
15	終章「これからの社会福祉学はどうなるの?」を熟読し、重要概念である Society 5.0、新しい社会福祉学、SDGs について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】教科書と「ワーク」を通して学んだこと、及び社会福祉を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞

「生きづらさ」および「排除」を扱った各章の内容と重要概念を述べること。具体的には、「生きづらさ」という観点から第1章から第4章の各事例についてそれぞれ述べ、その際に「子どもの貧困」や「周縁化集落」「認知症」「人身取引」の各概念について説明すること。また、「排除」という観点から第5章から第8章について各章の内容をまとめ、その際に「社会的排除」「優生思想」「性的マイノリティ」「社会的養護」の各概念について説明すること。その上で、社会福祉を学ぶことの意義について第9章から第12章の内容を参考に「支える」という視点から自分の将来と関連させながら考えをまとめて欲しい。

科目終了試験学修のポイント

1．社会的排除について

＜ポイント＞

社会的排除について、その概念の内容だけでなく具体例を挙げて説明できるようにする。

2．子どもの貧困について

＜ポイント＞

子どもの貧困の定義について述べられるようになるとともに、子どもの貧困の原因について説明できるようにする。

3．子どもの保護について

＜ポイント＞

子どもの保護が必要となる原因と社会的養護について説明できるようになる。

4．多文化共生社会について

＜ポイント＞

日本の植民地化・同化政策について説明できるようになるとともに、その支援のあり方について考える。

5．コンパクトシティについて

＜ポイント＞

コンパクトシティと周縁化集落について、具体的な例を挙げて分かりやすく説明できるようにする。

6．性的マイノリティについて

＜ポイント＞

性的マイノリティと異性愛主義、パートナーシップ制度について、具体的な例を挙げて分かりやすく説明できるようにする。

教科書

與那嶺司ら編 『基礎ゼミ　社会福祉学』 世界思想社。

参考文献

科目コード	福祉と教育（２単位）	登録年次	履修方法
1332		２年	R
教員名	河野等、佐藤友樹、篠大輔、永澤護、成田成、堀建治		

科目概要

東京福祉大学は「理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力のある人材を育成する」ことを建学の精神としている。この精神の下、学生が主体となった教育の基礎である「読み、書き」を鍛錬する。福祉、教育、保育、心理、医療などを学ぶ基礎的な力を身に付けることを目指すとともに、社会における様々な課題に理解を深め、現代で新たに求められている能力とは何かを探求する。本講義は現代社会の諸問題を題材として「読み、書き」のトレーニングおよび教科書の「ワーク」を活用した考察を行う。「ワーク」でグループ活動が設定されている際は自身で調べ、考察し、文章にまとめること。

学修内容

1	「はじめに」を熟読し、老老介護と障害者虐待、孤独死の事件について調べる。その際、事件の原因や背景について考察し、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
2	序章「『いきづらさ』とは何か」を熟読し、重要概念である社会学福祉学、生きづらさ、ソーシャルワークについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
3	第 1 章「夏休みにやせる子がいるのはなぜ？」を熟読し、重要概念である子どもの権利、格差、子どもの貧困について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
4	第 2 章「集落に住みつづけるのはなぜ難しい？」を熟読し、重要概念であるコンパクトシティ、周縁化集落、地域住民のエンパワメントについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
5	第 3 章「認知症になると何もわからなくなるの？」を熟読し、重要概念である認知症、意思決定支援、権利擁護について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
6	第 4 章「なぜ人がもののように売られるの？」を熟読し、重要概念である人身取引、児童労働、外国人労働者の搾取について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
7	第 5 章「なぜ路上でクラス人がいるの？」を熟読し、重要概念である居住、貧困、社会的排除について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
8	第 6 章「障害者はなぜ施設に住んでいるの？」を熟読し、重要概念である優生思想、出生前診断、脱施設化について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
9	第 7 章「好きなる性は異性だけなの？」を熟読し、重要概念である性的マイノリティ、異性愛主義、パートナーシップ制度について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
10	第 8 章「虐待された子どもはどうなるの？」を熟読し、重要概念である社会的養護、子ども虐待、ライフチャンスについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
11	第 9 章「罪を犯した人は幸せになっていいの？」を熟読し、重要概念である地域生活定着促進事業、ソーシャル・スキルズ・トレーニング、幸福追求権について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
12	第 10 章「被災者の命と暮らしをどう支えるか？」を熟読し、重要概念である被災者支援、危機介入、レジリエンスについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
13	第 11 章「難民の暮らしは誰が支えるの？」を熟読し、重要概念である在留資格、人間の安全保障、グローバル・イシューについて理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
14	第 12 章「多文化共生社会にどう向き合うべきか？」を熟読し、重要概念であるマイノリティ、同化政策、脱植民地化思考について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。
15	終章「これからの社会福祉学はどうなるの？」を熟読し、重要概念である Society 5.0、新しい社会福祉学、SDGs について理解を深める。その際、巻末のワークシートを使用して、ワークの１、2、3 を行う。また、自分の考えを整理し、文章にまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】教科書と「ワーク」を通して学んだこと、及び社会福祉を学ぶことの意義について述べよ。

＜ポイント＞

「生きづらさ」および「排除」を扱った各章の内容と重要概念を述べること。具体的には、「生きづらさ」という観点から第1章から第4章の各事例についてそれぞれ述べ、その際に「子どもの貧困」や「周縁化集落」「認知症」「人身取引」の各概念について説明すること。また、「排除」という観点から第5章から第8章について各章の内容をまとめ、その際に「社会的排除」「優生思想」「性的マイノリティ」「社会的養護」の各概念について説明すること。その上で、社会福祉を学ぶことの意義について第9章から第12章の内容を参考に「支える」という視点から自分の将来と関連させながら考えをまとめて欲しい。

科目終了試験学修のポイント

1．社会的排除について

＜ポイント＞

社会的排除について、その概念の内容だけでなく具体例を挙げて説明できるようにする。

2．子どもの貧困について

＜ポイント＞

子どもの貧困の定義について述べられるようになるとともに、子どもの貧困の原因について説明できるようにする。

3．子どもの保護について

＜ポイント＞

子どもの保護が必要となる原因と社会的養護について説明できるようになる。

4．多文化共生社会について

＜ポイント＞

日本の植民地化・同化政策について説明できるようになるとともに、その支援のあり方について考える。

5．コンパクトシティについて

＜ポイント＞

コンパクトシティと周縁化集落について、具体的な例を挙げて分かりやすく説明できるようにする。

6．性的マイノリティについて

＜ポイント＞

性的マイノリティと異性愛主義、パートナーシップ制度について、具体的な例を挙げて分かりやすく説明できるようにする。

教科書

與那嶺司ら編 『基礎ゼミ　社会福祉学』 世界思想社。

参考文献

科目コード	福祉と養護（２単位）	登録年次	履修方法
6660	※幼稚園教諭免許状既取得者のみ履修可	１年	R
教員名	田中利則		

科目概要

保育士養成課程の教科「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」の３つの科目の目標・内容をもとに、幼稚園教諭免許を有する者が幼稚園等での勤務経験により、子育て支援機関や家庭との連携については一定の経験を積んでいることを考慮し、「社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系等」及び「施設養護の実際」のほか幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心に学修する。

学修内容

1	１．現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷 ・理念と概念及び歴史的変遷
2	・現代社会と児童家庭福祉
3	２．社会福祉と児童家庭福祉の役割 ・社会福祉の一分野としての児童家庭福祉
4	・児童家庭福祉の一分野としての保育と社会的養護 ・児童の権利擁護
5	・家庭支援と社会福祉
6	３．社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の制度と実施体系 ・各制度の法体系、行財政と実施機関 ・各制度を担う専門職、実施者
7	・社会的養護の仕組みと実施体系（利用者保護及び評価等を含む）
8	・社会福祉施設等と児童福祉施設等、家庭的養護と施設養護
9	４．児童家庭福祉のサービスと施策 ・母子保健と児童の健全育成
10	・児童虐待防止、ドメスティックバイオレンス
11	・社会的養護、障害のある児童への対応
12	５．施設養護の実際 ・施設養護の基本原理
13	・施設養護の実施　－日常生活支援、治療的支援、自己実現・自立支援等
14	６．社会福祉及び児童福祉の動向 ・少子高齢化社会への対応
15	・次世代育成支援と児童家庭福祉の推進

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系等について述べよ。

＜ポイント＞

学修内容1～15を踏まえて、①社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と概要について理解する。②児童福祉の役割、とりわけ保育と社会的養護の機能・役割についてまとめる。③それぞれの制度と実施体制について簡潔に紹介する。以上3点をまとめて記述すること。

科目終了試験学修のポイント

1．社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の理念と概念及び歴史的変遷について

＜ポイント＞

社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の理念と概念について基本的な考え方を整理しておくことが重要である。また歴史的変遷については、時代の経過と変化、人物と実績についてまとめること。

2．児童家庭福祉の一分野としての保育と社会的養護について

＜ポイント＞

保育においては児童福祉法第2条及び第24条の規程について理解を深めることが重要である。また、社会的養護については、同じ児童福祉法6条の3の8項について理解を深め、位置づけを明確にすること。

3．社会的養護の仕組みと実施体系（利用者保護及び評価等を含む）について

＜ポイント＞

社会的養護とはなにかを理解した上で、公的責任下での保護の仕組み、国、県、市町村、さらに各行政機関のつながり、体系を理解することが大切である。

4．社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等、家庭的養護と施設養護について

＜ポイント＞

社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等の具体的な個別施設について理解と知識を深めること。また、里親制度にある家庭的養護と児童養護施設などの施設養護の違いを体系的に理解すること。

5．児童家庭福祉のサービスと施策および施設養護の実際について

＜ポイント＞

母子保健、児童の健全育成、児童虐待防止対策などの具体的な施策について、法的根拠、基本的な考え方、施設、事業などを理解すること。また、施設養護については、施設での実践に注目すること。

6．社会福祉及び児童福祉の動向について

＜ポイント＞

少子高齢化を背景に、急速に変化する社会福祉や児童福祉のニーズに対して、法律の改正や施策がどのように対応しているか、その動向に注意すること。

教科書

小田兼三、杉本敏夫『社会福祉概論：現代社会と福祉』勁草書房。

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規。

小野澤昇、田中利則、大塚良一『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

ミネルヴァ書房編集部『社会福祉六法（最新版）』ミネルヴァ書房。

厚生労働省『厚生労働白書』。

小木曽宏、宮本秀樹、鈴木崇之『編著　よくわかる社会的養護』ミネルヴァ書房。

科目コード	文章の理解と表現 / 文章表現（２単位）	登録年次	履修方法
1530/1022		１年	R
教員名	新井英男、上木文夫、小笠原眞紀、岡安栄子、川村晃市、黒田智隆、駒井美智子、戸田大樹		

科目概要

通信教育では、レポートを書くための表現力が要求される。本科目では、レポート作成に必要な「書く」技術の基礎訓練を行う。したがって、目標とされるのは、文学的表現や美文調の修辞等ではなく、むしろ簡潔で明快な表現法である。

文法・文字表記の正しさ、語彙選択の適切さ、表現の適切さ・わかりやすさ、文章構成の明確さ、論理の一貫性などに重点をおいて学修していく。

学修内容

1	レポートとは何かを知り、レポートの形式を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第１課　この授業で何を学ぶかを知る・第２課　レポートの形式を知り、アイデアを練る。）
2	レポートで必要とされる文章を知る。（論文・レポートの文章作法　第１章　文章のよしあし）
3	レポートで求められる文章の構造を理解する。（論文・レポートの文章作法　第２章　文を書く技術）
4	レポートの主題を設定する。（論文・レポートの文章作法　第４章　文の作法）
5	レポートを設計する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－１＆２　練る）
6	情報を集める。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第３課－３＆４＆５　調べる）
7	必要な情報を整理し、要約する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第４課　テーマを絞り込み、目標を設定する）
8	レポートにおける段落の役割と構造を知る。（論文・レポートの文章作法　第３章　段落を書く技術）
9	レポートを組み立てる。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第６課　組み立てを再検討する）
10	引用方法を知る。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
11	ポイントを押さえてレポートを作成する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第８課　本文を書きこんでいく）
12	参考文献リストの書き方を理解する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第９課　引用しながら書く）
13	レポートの表記の方法を知る。（論文・レポートの文章作法　第５章　表記の方法）
14	文章・表現・形式を点検する。（ピアで学ぶ大学生の日本語表現　第10課　文章・表現・形式を点検する）
15	レポートを自己評価する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育者に求められる資質について述べよ。

＜ポイント＞

このレポートは論文であるから、それにふさわしい文体で書くこと。また、指定された教科書（『保育児童福祉要説』を熟読して、段落や文章構成に気を配りながら文章を書くこと。

科目終了試験学修のポイント

1．「バリアフリー」と町の景観について
2．少年犯罪について
3．IT社会化について
4．環境破壊について
5．リサイクルについて
6．自殺の予防対策について

＜ポイント＞※1～6共通

各テーマで、自分の主張を絞り、構成を十分に考えてから作成に取り組むこと。一般論に止まらず、自分の主張を裏付けする情報などを引用することで、自分の主張に説得力を持たせるようにする。また、論理展開として、主張に一貫性があるかどうかにも気を付けて書き、書き終わったら必ず読み返して、自己点検することも忘れないこと。

教科書

古郡延治『論文・レポートの文章作法』有斐閣新書。
大島弥生、他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現：プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

参考文献

科目コード	文章表現Ⅱ（4単位）	登録年次	履修方法
1860		2年	R
教員名	上木文夫、小笠原眞紀、岡林純子、望月之美		

科目概要

学術的な考え方や文章について楽しく学ぶまた興味を持ってもらえるように、基本的な日本語の記述に関する学修から始まって、日本人が陥りやすい、「あいまいな文章」「長い区切りの少ない文章」「主語と述語のねじれ」などの修正について自分で気づくことができるようにするための学修を前半部分で行う。

後半では「データの解釈」「文献の検索」「レポートの作成」「調査の概要」「調査結果と考察」「結論と今後の課題」などについて、学修できるように、教科書とシートの両方がセットになっている教材を使い、わかりやすく「アカデミックな文章」を書く。

学修内容

1	アカデミックワードと日常語　仮名遣い・送り仮名　ドリル編 pp.1-5
2	句読点・四字熟語・ことわざ・慣用句　ドリル編 pp9-13.
3	漢字の使い分け　　見やすい表記　ドリル編 pp.17-21
4	敬語・手紙の書き方　ドリル編 pp.23-27
5	E メールなどの基本と常識　ドリル編 pp.31-34
6	あいまいな文章・わかりやすい語順　ドリル編 pp.35-38
7	長文を分ける・文章のねじれ　ドリル編 pp. 39-44
8	接続表現の使い方・結論の述べ方　ドリル編 pp.45-50
9	事実と意見の違い・データの解釈　ドリル編 pp.51-58
10	レポート内容と執筆スケジュール・文献の検索　ドリル編 pp.59-62
11	調査課題の設定・レポートの構成　ドリル編 pp.63-66
12	注の書き方・参考文献の書き方・引用の仕方　ドリル編 pp.67-74
13	体裁・書式・レポート課題に合ったレポートを書く順序　ドリル編 pp.75-78
14	先行研究について・調査の概要・調査結果と考察の書き方　ドリル編 pp.79-92
15	結論と今後の課題・「はじめに」の意味と位置　ドリル編 pp.97-107

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「学校といじめ問題」について

＜ポイント＞

新聞記事や図書などを参考に書く。アカデミックワードを使って、ねじれのない、正しい接続後の文章を書く。

【設題2】 「認定子ども園」「幼稚園」「保育園」の違いと全国分布の様子と地域性に関してのレポート

＜ポイント＞

データの正しい解釈・調査・調査結果と考察を正しいレポートの形式で書く。文部科学省のホームページを参考にする。

科目終了試験学修のポイント

1． 異常気象とゲリラ豪雨についてその関連について学術用語を用いて書く。

＜ポイント＞

気象庁ホームページなど参考にする。一般語彙とアカデミックワードの違いをつかみ、正しく使用することができるかどうか。

2．日本語の乱れと、若者言葉について四字熟語や慣用句を2つ以上入れて書く。

＜ポイント＞

四字熟語や社会での頻出漢字などの使い分けが正しくできるかどうか。

3．日常の出来事の中から、接続表現（テキストpp.31の①②③からそれぞれ一つずつ）を使って、論理的な文章を書く。

＜ポイント＞

接続表現に気をつけて、整合性のある「文章構造」で文章が書けるかどうか。

4．テレビのニュースや新聞のニュースなどから感じたことを事実と感想に分けて書く。

＜ポイント＞

テキストpp.32-35を参考にして、さらに文献検索の方法や引用の方法を使って表記ができるかどうか。

5．調査結果と考察をテキストp.58の表と図から書く。

＜ポイント＞

非連続テキストのデータを読み、解釈と考察を行うことができるかどうか。

6．「分の長さとわかりやすさ」ということについて、自分の考えを書く。

＜ポイント＞

テキストpp.108-112の文章を読み、レポートの形であなたの考えを記述する。

教科書

安部朋世、福崎健伸、橋本　修　編著『大学生のための日本語表現トレーニング』ドリル編　三省堂。

参考文献

安部朋世、福崎健伸、橋本　修　編著『大学生のための日本語表現トレーニング』実践編　三省堂。

科目コード	文章表現Ⅲ（４単位）	登録年次	履修方法
1870/1871		1870：３年 1871：２年	R
教員名	上木文夫、小笠原眞紀、岡林純子		

科目概要

大学生活に必要な日本語表現、仮名遣い、送り仮名、四字熟語などの日本語表現の基礎となる内容と敬語や手紙、Ｅメールといった社会人として必要な日本語表現の知識、分かりやすく正しい日本語を書くためのポイントを学ぶ。さらに、実際にレポートを書く際に必要となる文献の検索や課題の設定について学ぶ。テキストは書き込むことで学ぶようにできているので、学修の流れは「トレーニングシート」を解く、「テキストで解答を確認する」、「テキストでポイントを学ぶ」という手順で行う。

学修内容

1	アカデミックワードと日常語　　トレーニングシート pp.1-8　テキスト p.4-7 レポートや論文では、特有な表現（アカデミックワード）と日常語の違いについて学ぶ。
2	句読点、慣用句、四字熟語　　トレーニングシート pp.9-16　　テキスト p.8-11 句読点の打ち方について考える。また、四字熟語・ことわざ・慣用句についての知識を確認する。
3	漢字の使い分け・見やすい表記　　トレーニングシート pp.17-22　　テキスト p.12-15 漢字の使い分けやそのままでは視覚的に分かりにくい表記を、分かりやすくする工夫について学ぶ。
4	:敬語・手紙　　トレーニングシート pp.23-30　　テキスト p.16-19 基本的な敬語の知識・敬語の使い方、フォーマルな手紙の書き方について学ぶ。
5	Ｅメール・あいまいな文　　トレーニングシート pp.31-36　テキスト p.20-23 先生との連絡手段としてメールを使用する時、あいまいな文を書かない、失礼にならない書き方を学ぶ。
6	分かりやすい語順・長い文を分ける　　トレーニングシート pp.37-42　テキスト p.24-27 分かりやすい文章のための語順や、文を分ける際の接続表現について学ぶ。
7	文のねじれ・接続表現の使い方　　トレーニングシート pp.43-48　　テキスト p.28-31 主語と述語の適切なかかりうけ、不適切な接続表現の修正の仕方について学ぶ。
8	結論を先に述べる・事実か意見か　　トレーニングシート pp.49-54　　テキスト p.24-27 結論を先に書き、理由や論証の過程をその後に配置する書き方、「事実」と「意見」の書き分けについて学ぶ。
9	データの解釈・レポート内容と執筆スケジュール　　トレーニングシート pp.55-60　　テキスト p.36-39 データの収集方法や解釈について、誤りを発見し、適切に直すことやレポートの内容や計画の立て方を学ぶ。
10	文献の検索・調査課題の設定　　トレーニングシート pp.61-64　　テキスト p.40-43 インターネットや図書館を効果的に利用することや、レポートを書く際の調査課題の設定の仕方を学ぶ。
11	レポートの構成　　トレーニングシート pp.65-70　　テキスト p.44-47 レポートや論文での適切な注の付け方、レポートの構成について学ぶ。
12	参考文献の書き方・引用の方法・体裁・書式　　トレーニングシート pp.71-76　テキスト p.48-51 参考文献の示し方、引用の仕方、レポートや論文の体裁・書式について学ぶ。
13	レポート課題とレポートを書く順序　　トレーニングシート pp.77-84　テキスト p.52-55 「スロット型教材」という教材を用いて、実際にレポートを書くことで書く手順を学ぶ。
14	調査結果と考察　　トレーニングシート pp.85-92　　テキスト p.56-59 調査結果と考察をどのように書けばよいのかを学ぶ。
15	結論と今後の課題　　トレーニングシート pp.93-100　　テキスト p.60-63 分かりやすい「はじめに」から始まり、結論、課題の書き方を学ぶ。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】 レポートを書くときに「事実」か「意見」か読み手が分かるように書く必要性について、教科書ドリル５３ページの文章を使って述べよ。

＜ポイント＞

「事実」を述べる文と「意見」を述べる文を書くときに文末の表現がキーポイント。

【設題２】「文のねじれ」について、どのような文がねじれを起こしやすいのか、また、主語ー述語間以外のかかりうけに不適切な箇所が生じやすいのはどのようなところか、例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞

文のねじれは主語と述語に同じような語句を繰り返したりすることで起きやすい。

科目終了試験学修のポイント

１．次の設定でＥメールの文章を書け。また、どのような観点から書いたのか、理由も述べよ。

設定：インフルエンザにかかってしまい、定期試験が受けられなくなった。どうすればよいか指示を仰ぐメール

＜ポイント＞

メールを送る時に注意すべき点は何かを確認する。

２．データの収集方法や解釈についてはどのようにしなければならないのか、例を挙げて述べよ。

＜ポイント＞

調査した対象集団を明らかにする場合は、単純な数値でなく何が必要であるのか確認する。

３．お世話になった恩師に手紙を書け。また、どのような観点から手紙を書いたのか、理由も述べよ。

＜ポイント＞

手紙文面の基本的な要素とレイアウト、時候の挨拶は、日付の季節にあったものになっているのか確認する。

４．注の書き方はどうすればよいか述べよ。

＜ポイント＞

丁寧な説明をするためには、細かな説明はかえって分かりづらくなってしまうことを考える。

５．レポートを書く手順はどのようにするのがよいか述べよ。

＜ポイント＞

「書きやすい文章」「分かりやすい文章」を、書く順序から考える。

６．分かりやすい語順について述べよ。

＜ポイント＞

語順が異なると意味が変わってしまうこともあることや、複数の解釈が生じるのはどのような場合か確認する。

教科書

安部朋世　他　『大学生のための日本語表現トレーニング　ドリル編』　三省堂。

参考文献

大島弥生　他　『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』　ひつし書房。

科目コード	保育・教職実践演習（２単位）	登録年次	履修方法
6650/6652		6650：3年 6652：2年	ＳＲ
教員名	岡野雅子、岡林純子、河合光利、駒井美智子、坂本真理子 戸田大樹、畠山むつ実、持田京子、八重樫幸雄		

科目概要

本科目は、これまで修得した保育の専門知識の振り返りによって保育の専門的基礎力の定着を図ること、及び専門的知識技能の実践への応用、課題解決能力を高めることの二点が目標になっている。ここでは前者を踏まえながらも後者を中心に現在の保育実践上の課題、子どもや子育てに関わる環境上の諸問題を自ら発見し、その改善に向けての方策を考え、実行することができるよう、問題発見能力、課題解決能力、実践への積極的態度を養う。そのために現在の保育問題（少子化、保育制度、子育て支援、幼小連携等）についてよく調べ、身近な具体的課題を設定し、テーマ毎に研究、グループ討議、研究発表を行う。

◎保育教諭とは何か。保育士と幼稚園教諭を学ぶ。

※「幼稚園教諭二種免許状」取得希望者のスクーリング受講にあたっては、教育実習実施済（実施中を含む）の方のみ、スクーリングの受講が可能となります。教育実習未実施の場合、受講は許可されませんのでご注意ください。

学修内容

1	保育をするとはどのようなことか、保育実践の特殊性と保育者に必要な専門的技能とはどのようなことかをまとめる。保育者の責任と倫理を理解する。
2	子どもの最善の利益を考慮した保育：現在は「子どもの最善の利益を考慮した保育」がキーワードであるが、その意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。
3	幼児教育者に求められているもの①日本の子育て環境の問題点について：少子高齢化社会、学歴社会、伝統的な子育て観、ライフワークバランス問題等)を新聞、雑誌その他の最新資料から集めて、整理する。
4	幼児教育者に求められているもの②日本の保育制度の問題点について：保育経営者、保育者、保護者の立場から考えたり、意見交換をする。
5	幼児教育者に求められているもの③保育環境の問題点を補うための方策：現在の問題点を政治的、経済的立場、保護者の立場、子どもの立場から考える。
6	保育環境の改善①子どもの安全と安心のための環境：乳児保育における保育者の気配り、保育の時間的空間的死角、安全確保のための心構え、保育者の連携等についてまとめる。
7	保育環境の改善②子どもの活動発展のための環境：子どもの自発的活動を発展させるための環境構成を考える。
8	保育環境の改善③地域との連携協力：日頃地域の人とどのような関係を作るか、互いに協力して地域の子どもを育てる意識をつくるための保育者としての工夫を考える。地域行事への参加、地域の人の保育参加の例などを集める。
9	総合的な実践の結びつき①保育者としての基本的なふるまい方（公平性、真実性、相手の尊重、社会的マナー、生活習慣、言葉遣い等）：保育場面を限定してロールプレイをし、自己反省をする。
10	総合的な実践の結びつき②子どもの内面理解と受容：信頼関係の形成の重要性を確認し、かかわりの実際事例を幾通りも考え、その効果を考察する。
11	総合的な実践の結びつき③子どもの活動発展のためのかかわり：物の活用、共感、参加、誘導などを、具体的場面を想定して考え、多様な観点から考察する。
12	総合的な実践の結びつき④保護者とのかかわり：支援の仕方、保育者のニーズにどう応えるか。事例を出してロールプレイを行う。
13	総合的な実践の結びつき⑤保育教材の創意工夫：身近な材料を用いて手作り教材を手軽に作成する習慣をつくる。(子どもと一緒に作るもの、遊びの媒介になるもの、絵本やパネルシアターなど児童文化教材など)
14	保育者としての向上①：保育者の振り返り、保育カンファレンス、相互評価から、常に他に対して開放的、建設的な態度、向上心を形成する。
15	保育者としての向上②：保育の世界の動向、重要性の確認から、保育者としての自己課題、互いの長所短所の整理などを通して、保育者としての自覚を促す。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】次のような観点から，自分で具体的な課題を設定し，レポートを作成する。

① 最近の子どもの育ち（しつけ等も含めて）に対する家庭、社会環境の影響。

② 現行保育制度度（保育園、幼稚園、認定子ども園）の問題点。

＜ポイント＞

課題は具体的であること。

例）○○市における子育て支援センターの活動実態と課題

異年齢クラスの保育効果～少子化時代の保育として～

レポートには必ず次の４点を含めること

①課題選択の理由、動機を述べる。②文献や資料（教科書、参考書、新聞、保育関連雑誌等）、または実地調査により実態を明らかにする（図表の使用等）。③その問題に対してこれまでの考え方、識者の意見などを述べる。④自分の解釈、意見を述べる。

科目終了試験学修のポイント

１．日本における少子化現象と保育上の課題について

＜ポイント＞

日本の人口動態、出生率、地域の子どものための環境、人間関係などの具体例から子どもの育ちに影響があると考えられることをまとめる。

２．現代の保護者の子育て意識と保育施設，保育者の役割について

＜ポイント＞

現代人のライフワークバランス、子育て観、保育施設の入所率、保育時間、保育内容などを調べ、保育ニーズを理解し保育に求められている役割を考察する。

３．都市化現象が子どもの生活と発達に及ぼす影響について

＜ポイント＞

幼児期は「遊びの生活」であるといわれることの意味、健康で安全な生活の保障、基本的生活習慣の習得の観点から、現代の生活スタイルの問題点をまとめる。

４．保護者支援の方法について

＜ポイント＞

保護者が抱える問題を調べ、保育の場の提供、子育て相談活動等子育ての拠点としてどのようなことができるかをまとめる。

５．子どもの遊びを豊かにする環境構成，材料，保育者の関わりについて

＜ポイント＞

自分が得意とする保育分野（身体表現、児童文化、音楽活動、自然物による遊びなど）について、保育材料の研究を行い、材料の創作、活動の展開法等を考える。

６．保育における地域との連携について

＜ポイント＞

自分が住んでいる地域を例として、保育所、幼稚園と地域が協力して子どもの生活を充実させるためにできそうなことを具体的に考える。

教科書

横山文樹、駒井美智子編著『保育・教職実践演習』大学図書出版。

社会福祉法人日本保育協会『保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』。

文部科学省『幼稚園教育要領 解説』フレーベル館。

駒井美智子編著『保育者のための保育実習対応ガイドブック』大学図書出版。

中田範子・齋藤義雄編著『幼稚園・小学校教育実習』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針』。

文部科学省『幼稚園教育要領』。

科目コード	保育原理（４単位）	登録年次	履修方法
2400		1年	R
教員名	岡林純子、加藤博子、駒井美智子、坂本真理子、戸田大樹、堀建治、山口悠紀子		

科目概要

乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあっては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならない。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか目的をしっかり持つことが重要である。本科目では、保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達観を築く。

学修内容

1	シラバスの確認 学修内容の１～15 及びレポート設題・科目終了試験学修のポイントを確認する。「保育原理」の全体像を理解する。
2	保育とは 自分自身が考える保育とは何か？ノートにまとめてみる。
3	保育の歴史について学ぶ（1）西洋近代の保育思想 西洋近代保育思想家やその思想をノートにまとめる。
4	保育の歴史について学ぶ（2）保育施設のはじまり 保育施設の変遷についてノートにまとめる。
5	保育所・幼稚園・認定こども園の歩み 保育所・幼稚園・認定こども園を表に書いてまとめる。
6	乳幼児期の発達と子どもの生活 乳幼児の発達過程について。乳幼児期の発達と子どもの生活について整理し、まとめる。
7	保育の計画及び評価 保育計画・指導計画とは何か？ポイントを整理する。
8	これからの保育者①これからの保育者 保育者の役割について考えてみる。保育者の機能・役割について大切なポイントをまとめる。
9	これからの保育者②バランスのとれた管理と支援 保育者の課題について考えてみる。管理と支援についてまとめる。
10	子育て支援①子育て支援が求められるのはなぜか 子育て支援について考える。
11	子育て支援②地域の子育て支援の役割 地域の子育て支援には何があるのか、子育てと地域の関係を整理する。
12	子育て支援③保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援 各保育施設における子育て支援の特徴を整理し、まとめる。
13	これからの保育の課題①多様な保育ニーズに対する国の施策②延長保育・一時保育 保育における社会情勢を考える。保育の課題を整理し、まとめる。
14	保育形態について調べまとめる 例：統合保育、自由保育、縦割り保育、僻地保育の保育活動
15	現代社会での子どもを取り巻く環境についての問題点を取り上げ、その解決について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】「保育」とは何かについて論ぜよ。

＜ポイント＞

保育の捉え方や保育の専門性などにも言及し、現代における保育のあり方をあなたなりに考察すること。

【設題2】保育の現状と課題について述べよ。

＜ポイント＞

社会の変化により様々な形態の保育へのニーズが高まってきている。社会的背景や現状における問題点を具体的に挙げて述べること。その上で、保育者に求められることは何かを考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育の歴史的変遷について

＜ポイント＞

保育はいつ誕生したのか、そしてどのような変遷を経て現代の保育体制になったのか。

2．保育の基本と保育内容・方法について

＜ポイント＞

保育の基本とは何か。保育者の保育行為、保育内容、保育活動とは。

3．保育における「教育」と「養護」の機能について

＜ポイント＞

養護と教育の一体化とは何を意味するのか。

4．幼稚園と保育所・認定こども園の相違について

＜ポイント＞

幼稚園の特徴・保育所の特徴および認定こども園の特徴を整理する。それぞれの管轄を把握する。

5．保育内容の「5領域」とは

＜ポイント＞

保育内容の各領域について理解する。また、どのような観点から「5領域」となったのか理解する。

6．保育者の専門性とは

＜ポイント＞

保育者が保育者であるためにはどのような専門性を持てばよいのか。

教科書

佐藤康富『新しい保育原理』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針　平成29年告示』。
文部科学省『幼稚園教育要領　平成29年告示』。
柴崎正行『保育方法の探求』建帛社。
待井和江『現代の保育学④　保育原理』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育原理（２単位）	登録年次	履修方法
2402		１年	R
教員名	岡林純子、加藤博子、駒井美智子、坂本真理子、戸田大樹、堀建治、山口悠紀子		

科目概要

乳幼児期が人間形成の基礎としてきわめて重要な意味を持つことは、諸科学の進歩とともにますます強調されている。特に自己を主張し始める乳幼児期にあっては、保育者の側に乳幼児に対する十分な理解と洞察がなければならない。そして保育者が保育実践の中で何をめざしているのか、目的をしっかり持つことが重要である。本科目では、保育の歴史と現状、意義、課題、基本的原理、さまざまな保育思想などの基本知識を学びながら、確かな保育観、子ども観、あるいは発達観を築く。

学修内容

1	シラバスの確認 学修内容の１～15 及びレポート設題・科目終了試験学修のポイントを確認する。「保育原理」の全体像を理解する。
2	保育とは 自分自身が考える保育とは何か？ノートにまとめてみる。
3	保育の歴史について学ぶ（1）西洋近代の保育思想 西洋近代保育思想家やその思想をノートにまとめる。
4	保育の歴史について学ぶ（2）保育施設のはじまり 保育施設の変遷についてノートにまとめる。
5	保育所・幼稚園・認定こども園の歩み 保育所・幼稚園・認定こども園を表に書いてまとめる。
6	乳幼児期の発達と子どもの生活 乳幼児の発達過程について。乳幼児期の発達と子どもの生活について整理し、まとめる。
7	保育の計画及び評価 保育計画・指導計画とは何か？ポイントを整理する。
8	これからの保育者①これからの保育者 保育者の役割について考えてみる。保育者の機能・役割について大切なポイントをまとめる。
9	これからの保育者②バランスのとれた管理と支援 保育者の課題について考えてみる。管理と支援についてまとめる。
10	子育て支援①子育て支援が求められるのはなぜか 子育て支援について考える。
11	子育て支援②地域の子育て支援の役割 地域の子育て支援には何があるのか、子育てと地域の関係を整理する。
12	子育て支援③保育所・幼稚園・認定こども園における子育て支援 各保育施設における子育て支援の特徴を整理し、まとめる。
13	これからの保育の課題①多様な保育ニーズに対する国の施策②延長保育・一時保育 保育における社会情勢を考える。保育の課題を整理し、まとめる。
14	保育形態について調べまとめる 例：統合保育、自由保育、縦割り保育、僻地保育の保育活動
15	現代社会での子どもを取り巻く環境についての問題点を取り上げ、その解決について考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 保育における遊びの重要性について述べよ。

＜ポイント＞

遊びは課題活動や仕事とどう違うのか。なぜ「子どもの生活は遊びである」と言われるのかなど、子どもの遊びの特質を明らかにする。また、子どもが遊びの中で体験、学習している事をとらえ、その上で保育が「遊びを通して行われること」の大切さを述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．保育の歴史的変遷について

＜ポイント＞

保育はいつ誕生したのか、そしてどのような変遷を経て現代の保育体制になったのか。

2．フレーベルの思想について

＜ポイント＞

フレーベルの子ども（人間）についての考え方、及び幼稚園の創設、恩物の考案などの実践から思想の内容を具体的にとらえる。

3．わが国の現行保育制度の概要について

＜ポイント＞

「子ども子育て支援新制度」によって施行されている保育施設を整理する。保育所、幼稚園、認定こども園のほか、諸地域型保育施設の対象年齢、目的等制度の全体像を理解する。

4．保育における養護と教育について

＜ポイント＞

養護と教育の違いと関連は保育所保育指針に示されている。要点と共に具体例で説明する。

5．環境を通しての教育とは

＜ポイント＞

幼稚園教育要領総則の内容を理解し、子どもの発達的特徴から環境の役割、保育の計画における環境の設定の重要性などを述べる。

6．保育における人的環境について

＜ポイント＞

人的環境は保育者（おとな）、クラス集団（子ども）、その他保育を取りまく人々を含む。保育者の役割の多面性や相互関係が個人に及ぼす影響などから人間関係の重要性を考える。

教科書

佐藤康富『［新版］新しい保育原理』大学図書出版。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針　平成29年告示』。
文部科学省『幼稚園教育要領　平成29年告示』。
柴崎正行『保育方法の探求』建帛社。
待井和江『現代の保育学④　保育原理』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育士・教師論（２単位）	登録年次	履修方法
4580/4581/4582		4580/4581：２年 4582：１年	R
教員名	加藤博子、駒井美智子、戸田大樹、山口悠紀子		

科目概要

保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学修とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学修を行う。

学修内容

1	保育の意味（子どもを育てる二つのコースと制度としての保育）　意図的保育・教育と無意図的保育・教育。保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化。
2	保育の現状理解（社会の変化と保育ニーズ）　現在の保護者がどのような悩みを持ち、保育の場を求めているか、それへの社会の対応など現在の保育問題について、制度の問題、行政の問題、保育現場の問題を参考資料、マスコミ情報などからまとめ、保育者の立場から今後の保育の在り方について自分なりに考える。
3	子ども観、保育観の重要性①　保育は保育者の人間性を通して行われるため、保育者の子どもの見方、保育観が重要であること、先達に学ぶことの重要性を理解する。
4	子ども観、保育観の重要性②　西欧の思想に学ぶ。現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質と保育者の在り方を考える。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オーエン等の思想と現代への家教をまとめる。
5	子ども観、保育観の重要性③　日本の思想の流れを理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。中村正直、和田実、倉橋惣三、赤沢鐘美、野口幽香等
6	保育者と制度①保育者の制度的地位　我が国の保育制度をまとめ、児童福祉法に基づく保育所、学校教育法に基づく幼稚園の役割を理解する。それぞれの根拠法令、所管、目的、対象児、公的負担、行政の仕組みなどを理解する。
7	保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園教免許取得の要件　保育士資格、幼稚園教諭（1種、2種、専修）の資格、免許取得の方法、学修内容、学習課程、修得すべき専門的能力の内容を理解する。
8	保育者の役割と専門性①幼稚園教諭　幼稚園教育要領に記載されている保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者の資質、能力、技術を理解する。
9	保育者の役割と専門性②保育士　保育所保育指針に記載されている保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者の資質、能力、技術を理解する。
10	保育者の役割と専門性③保育者として望ましい資質　保育の専門家としてどのような保育の場にあっても共通に必要とされる人間的素養（感性、判断力、応用力、共感性など）、専門的知識、専門的態度　実践技術などをまとめる。
11	保育者に求められる専門性④保護者支援　保護者支援のために必要とされる態度、知識、技能をまとめる。
12	期待される保育者①成長する保育者　保育における自己反省、カンファレンス、第三者評価、他の専門分野との連携など保育者自身の向上のための方法を理解する。
13	期待される保育者②社会のニーズへ対応　第２回で保育の現状を捉えたが、教科書を手掛かりに、我が国の子育ての現状をまとめ、と保育ニーズの現状を整理し、解決の方向（ライフワークバランス、保育の質的向上、保育制度の改正等）について考察する
14	保育者の職務と倫理　全国保育士会倫理綱領の内容を調べ保育者の職と求められる倫理とを理解する。
15	今後の保育制度の動向と保育者の在り方　新しい保育制度（認定こども園、保育教諭）について調べ、我が国が目指している保育制度と新しく求められる専門的役割、資質、能力をまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育者の専門性について，他の専門分野との違い及び専門性向上のための具体的な方法について述べよ。

＜ポイント＞
保育者の専門性は他の分野の専門性と異なる特性があるので、それを整理する。また、社会的変化や子どもの発達的変化などに伴う保育ニーズに対応するために、専門性を向上させるためにはどのような方法があるかをまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．現代社会において求められる保育者像について
＜ポイント＞
現代の子育て状況（少子化、核家族化、地域の保育力の低下その他）をまとめ、社会全体が必要としている保育の場、保護者に求められる保育者のあり方を考える。

2．保育者の仕事と役割について
＜ポイント＞
幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設、地域の子育て支援などの保育者の仕事を理解し、保育士の役割について考える。

3．保育者の人間的な関わりについて
＜ポイント＞
保育者の一瞬一瞬のかかわり方によって子どもの気持ちや行動は変化することを理解し、子どもの心に響く人間的なかかわりについて理論的に把握する。

4．発達にふさわしい関わりについて
＜ポイント＞
発達のそれぞれに時期にふさわしいかかわり方があることを理解し、乳幼児期のかかわりが人間形成の基盤にあることを考える。

5．集団と個の関係を捉えた子どもへの配慮について
＜ポイント＞
子ども一人ひとりが、集団に生かされ育ちあえる集団づくりに必要な理論と方法を理解し、具体的な実践場面を考える。

6．保育における省察の重要性について
＜ポイント＞
一日の子どもとのかかわりを振り返ること、さらに「今、ここで」子どもと向き合っている瞬間の自分を見つめられることの重要性を理解し、実践し気づいたことをまとめる。

教科書

民秋言 他『保育者論』建帛社。

参考文献

武藤安子、他『発達支援　－豊かな保育実践に向けて－』ななみ書房。
吉川晴美、他『共に育つ　－人間探求の児童学』宣協社。

科目コード	保育実習事後指導Ⅰ（保育所・施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7901		２年	S
教員名	小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子、齋藤厚子、三原芙美子、山崎摂史		

科目概要

保育実習Ⅰでの総括・評価を行い、それを踏まえて保育実習Ⅱ（Ⅲ）に向けた学修目標・課題を明確化する。

１．保育実習Ⅰで生じた疑問点を解消する。

２．保育実習Ⅰの反省と自己課題を明確にする。

３．保育者に求められる資質・能力について理解する。

※本スクーリングは、保育実習Ⅰの実施後、保育実習Ⅱ（Ⅲ）の実施前に受講すること。

学修内容

1	保育所実習の目的、意義を再確認する
2	自己の実習を振り返る（保育所実習）…実習記録から 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。
3	部分実習・責任実習の指導案の実践について振り返る
4	施設概要をふまえ、施設実習の目的、意義を再確認する
5	自己の実習を振り返る（施設実習）…実習記録から 課題の達成状況、印象に残った出来事・体験を整理する。
6	自己の保育技術についての反省・考察 次回の実習への準備…実習後の自己課題について
7	１～６の学修内容について、スクーリング時に発表できるようにまとめを行う。
8	保育現場に関する視聴覚教材を参考に、保育環境、子どもの人間関係、保育者の援助について学ぶ。 また、子どもを理解する大切さを知る。
9	子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する（０～２歳）
10	子どもの発達に応じた保育のあり方を理解する（３～５歳）
11	保育技術の修得 教材研究（絵本、紙芝居、折り紙、手遊び等）
12	保育士の専門性について考察する（１） 保育士の専門性とは何か。
13	保育士の専門性について考察する（２） これからの保育者に求められるものとは何か。
14	保育士をとりまく今後の課題について 子育て支援・家庭支援、地域に根ざした保育所とは。
15	実習現場から得られた学びと、この科目の学習で得た新たな保育観についてまとめ、次回の実習における課題を明確にする。

教科書

関口はつ江『自分をいかす保育実習ハンドブック』大学図書出版。

駒井美智子『施設実習ガイドー保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。

森上史朗、他『新・保育講座１２　幼稚園実習 保育所・施設実習』ミネルヴァ書房。

科目コード	保育実習事後指導Ⅱ（保育所）（１単位）	登録年次	履修方法
7920		３年	S
教員名	氏家博子、小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子、山崎摂史		

科目概要

保育実習Ⅱでの総括・評価を行い、それを踏まえて今後の学習目標・課題を明確化する。

※本スクーリングは、保育実習Ⅱ（保育所）を実施した後に受講すること。

学修内容

1	保育実習による総合的な学び（1） 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
2	保育実習による総合的な学び（2） 子どもの保育と保護者支援
3	保育実習による総合的な学び（3） 保育所施設の特徴
4	保育実践力の育成（1） 子どもの状態に応じた適切なかかわり
5	保育実践力の育成（2） 保育の表現技術の応用
6	保育実践力の育成（3） 特別な配慮を必要とする子どもへの保育の実際
7	実習施設における指導（1） 保育士が果たす役割の理解
8	実習施設における指導（2） 利用する子どもの特徴の理解とかかわりの検討
9	保育実習からの学びと課題（1） 子どもの姿・保育者の仕事
10	保育実習からの学びと課題（2） 基本的側面・事実の記録・考察の深まりから
11	保育実習からの学びと課題（3） 子育て支援 - 延長保育・一時保育等 -
12	事後指導における実習の総括と評価（1） 実習の総括と自己評価
13	事後指導における実習の総括と評価（2）保育現場に求められるもの 生活に関する技術について
14	事後指導における実習の総括と評価（3）保育現場に求められるもの グループディスカッションによる課題の整理
15	事後指導における実習の総括と評価（4）保育現場に求められるもの グループディスカッションによる課題の整理及び発表

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき１枚	横書	指定書式（実習報告書）

【設題１】自分の実習の体験を振り返って、実習報告書を作成せよ。

＜注意事項＞
- 本科目のスクーリング課題は、スクーリング中に作成・提出すること。草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて原稿を完成させること。
- スクーリング課題が提出されない場合、実習の単位認定は行われない。
- 指定書式「実習報告書」を使用すること。
- 作成・提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を丁寧に読み参照すること。

教科書

関口はつ江　監修・太田節子　編集『Q&A で学ぶ保育・教育実習』サンウェイ出版。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。
青木久子『子どもに生きる』萌文書林。

科目コード	保育実習事後指導Ⅲ（施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7940		３年	S
教員名	小野孝美、駒井美智子、齋藤厚子		

科目概要

保育実習Ⅲでの総括・評価を行い、それを踏まえて今後の学修目標・課題を明確化する。
１．保育実習Ⅲで生じた疑問点を解消する。
２．保育実習Ⅲの反省と自己課題を明確にする。
３．利用者への理解と援助技術について理解する。
４．保育者論について学ぶ。

※本スクーリングは、保育実習Ⅲ（施設）を実施した後に受講すること。

学修内容

1	保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕の反省と課題
2	保育所実習Ⅲの目的 福祉施設実習の意義・福祉施設実習の意義の確認
3	福祉施設実習の保育士の役割・福祉施設の専門職について
4	福祉施設実習の実習生の立場と心構えについて
5	事前の施設訪問・施設見学について・実習計画
6	実習期間中の流れ・観察実習の内容
7	参加実習の内容・指導実習の内容・記録の意味の確認
8	実習日誌の書き方・実習施設での問題点と課題
9	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）①・・保育者の機能について
10	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）②・・保育者の役割について
11	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）③・・子どもと利用者との関わりと職員の関わりについて
12	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①（各自）・・観察実習の課題
13	各福祉施設実習での指導実習企画・計画①（各自）・・部分実習の課題
14	各福祉施設実習での指導実習企画･計画①(各自･発表)･･保育者としての「良いモデルとは」受容と傾聴
15	施設別の実習の内容と問題点と課題（各自）まとめ・・今後の問題点と課題についてまとめる。

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき１枚	横書	指定書式（実習報告書）

【設題１】自分の実習の体験を振り返って、実習報告書を作成せよ。

＜注意事項＞
・本科目のスクーリング課題は、スクーリング中に作成・提出すること。草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導や実習の振り返りを具体的に反映させて原稿を完成させること。
・スクーリング課題が提出されない場合、実習の単位認定は行われない。
・指定書式「実習報告書」を使用すること。
・作成、提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を丁寧に読み参照すること。

教科書

駒井美智子『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

岡本幹彦『福祉施設実習ハンドブック』みらい社。

科目コード	保育実習事前指導Ⅰ（保育所・施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7890		２年	S
教員名	氏家博子、岡林純子、小野孝美、加藤博子、駒井美智子 齋藤厚子、堀建治、三原芙美子、山崎摂史		

科目概要

保育実習の意義･目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意するべき事柄を確認する。

１．保育実習の意義・目的を理解する。
２．保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。
３．保育者としての心構えや態度を学ぶ。
４．保育技術を習得する。
５．実習記録の記入方法・内容を理解する。
６．指導案を理解し、立案する（主として部分実習）。

学修内容

1	『保育実習の学習ガイド』をよく読み、保育実習の意義・目的を理解する。 実習事前に提出すべき申請書類、実習施設についての情報等を確認する。
2	保育所をはじめとする児童福祉施設における保育士の役割を理解する。 実習に向けて、日常生活における挨拶や言葉遣いなど、望まれる基本的態度を実践できるようにする。
3	施設実習を行う施設の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、施設のホームページ等から確認する。 施設の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。
4	保育所実習を行う保育所の機能、社会的役割、一日の流れなどを教科書や参考書、保育所のホームページ等から確認する。 保育所の実習日誌を確認し、事前に書くべき箇所はすべて記入し、オリエンテーションで確認する事柄を記録しておく。 実習の自己課題を明確にし、１２日間の前半、中間、後半に分けてそれぞれの実習のねらいを複数立てる。
5	施設及び保育所の実習日誌の書き方や記録する際に必要な留意点について学ぶ。 保育課程、指導計画の意義・目的を復習し、指導案の書き方について学ぶ。
6	実際に指導案を作成する。複数の年齢、テーマ毎に作成し、望ましい書き方を学ぶ。
7	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。（1）
8	保育に必要な技術を練習し、自分のものにする。 手遊び、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等を演じて、他者に見てもらい、技術の向上を図る。（2）
9	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。（1）
10	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。（2）
11	自身の立てた指導案をもとに実際に模擬保育を行い、実践に必要とされる導入の方法、子どもの姿の予測や言葉かけ、個人差への対応、まとめの言葉かけなどの演習をする。（3）
12	模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。（1）
13	模擬保育演習を振り返り、子どもの発達の姿や保育技術に関する知識や理解が不足している分野の学修をする。（2）
14	これまでの学修を総点検し、いつでも自身の力を十分発揮できるよう準備をしておく。
15	実習直前に向けて、実習施設の情報、提出書類、持参すべき持ち物を確認し、体調管理を完璧にし、実習への準備を万全にする。

教科書

関口はつ江『自分をいかす保育実習ハンドブック』大学図書出版。
駒井美智子『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。
鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごと Book』小学館。
久富陽子『幼稚園・保育所実習　指導計画の考え方・立て方』萌文書林。

科目コード	保育実習事前指導Ⅱ（保育所）（１単位）	登録年次	履修方法
7911		２年	S
教員名	氏家博子、大塚絹子、小野孝美、加藤博子、河合光利、駒井美智子、堀建治、山崎摂史		

科目概要

保育実習の意義･目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意するべき事柄を確認する。

※本スクーリングは、実習施設決定後、保育実習Ⅰ（保育所・施設）の実施前に受講すること。

※保育実習Ⅱ（保育所）を選択した学生のみ、本スクーリングを受講すること。

学修内容

1	授業の概要と学習態度について・保育実習の時期及び準備等〔実習の手引き〕
2	どうして実習が必要なのか。 実習を通して学ぶ・目的と確認
3	実習生とは - ワークシートを通して - 実習生の心得・実習生の基本的マナー
4	幼稚園・保育園 保育内容の違い・一日の流れの違い・共通点
5	保育者に望まれる資質とは - ワークシートを通して - 子どもの心を支える保育者・生活文化を伝達する保育者
6	実習日誌（1） 実習日誌の必要性・作成のポイント
7	実習日誌（2） - ワークシートを通して - 形式と内容・記録の取り方
8	実習日誌（3） 実践に備えて、手書きに慣れる
9	部分実習と責任実習の違い 指導計画の理解と記述方法
10	部分実習に備えて（1） 部分実習指導案作成のポイント・環境構成図等
11	部分実習に備えて（2） 指導案の作成の実際
12	部分実習に備えて（3） 指導案の基，模擬保育・振り返りと課題
13	責任実習に備えて（4） 模擬保育・振り返りと課題
14	責任実習に備えて（5） 模擬保育・振り返りと課題
15	まとめ 振り返り，グループディスカッションによる自己課題の抽出

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1施設につき2枚	横書	指定書式 (保育所概要、学習課題・実習計画)

【設題1】自分が実習を予定している保育所について、それぞれ「保育所概要」「実習課題・実習計画」をまとめ、実習生として保育所で自分が何を学ぶか、これまでの学修や自分の体験もふまえて、具体的に述べよ。

＜注意事項＞

・**スクーリング受講後から実習開始2週間前を目安に提出すること。**スクーリング課題が提出されない場合、実習の実施は認められない。なお、草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導を具体的に反映させて原稿を完成させること。
・実習予定施設への訪問等によって得た資料をもとに作成し、資料は添付すること。
・指定書式「保育所概要」「実習課題・実習計画」を使用すること。
・作成、提出にあたっては、別途配付する『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。

教科書

関口はつ江　監修・太田節子　編集『Q&Aで学ぶ保育・教育実習』サンウェイ出版。

参考文献

河邉貴子、他『保育・教育実習　フィールドで遊ぼう』同文書院。
鈴木みゆき、他『最新・保育実習まるごとBook』小学館。
久富陽子『幼稚園・保育所実習　指導計画の考え方・立て方』萌文書林。

科目コード	保育実習事前指導Ⅲ（施設）（１単位）	登録年次	履修方法
7931		２年	S
教員名	小野孝美、河合光利、駒井美智子、齋藤厚子、堀建治		

科目概要

保育実習の意義･目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法の理解、実習施設の理解を図る。保育演習を通して、保育場面のなかでの留意するべき事柄を確認する。

※本スクーリングは、実習施設決定後、保育実習Ⅰ（保育所・施設）実施前に受講すること。
※保育実習Ⅲ（施設）を選択した学生のみ、本スクーリングを受講すること。

学修内容

1	施設の概要と学習態度について ・保育実習授業の時期及び準備等〔実習の手引き〕
2	第１章　福祉施設実習とは ①実習の意義　②実習の目的　③実習の理解
3	第１章　福祉施設実習とは・　④福祉施設の子どもたち・⑤福祉施設保育士の役割⑥専門職とは
4	第２章　福祉施設実習への事前学習・①子どもに対する態度・行動・②施設の職員に対する態度・行動 ③プライバシーの厳守　④電話の基本マナーと実際の流れ
5	第２章　福祉施設実習への事前学習・⑤実習事前訪問⑥実習計画⑦基本的な生活習慣
6	第３章保育士と権利保障、ソーシャルワーク・①家庭の権利保障②・ソーシャルワークとは
7	第４施設別の実習内容・③実習記録の意味　④実習日誌の書き方
8	第４章　施設別の実習の内容・①乳児院の実習　②児童養護施設の実習 ③母子生活支援での実習④児童自立支援施設での実習
9	第４章　施設別の実習の内容・⑤児童相談所での実習⑥知的障がい施設での実習⑦視覚・聴覚施設での実習
10	第４章　施設別の実習の内容 ⑧肢体不自由児施設での実習⑨重症心身障がい施設での実習⑩情緒障がい施設での実習
11	第５章児童福祉施設実習事後の振り返り
12	―部分実習・責任実習への対応― 保育力とは何かを学習する。幼児文化教材を実践する。(ペープサート・絵本等)
13	施設実習に行く心構えについて（目標・目的の確認）①
14	施設実習に行く心構えについて(目標･目的の確認)②
15	施設実習に行く前の準備確認と意欲のありかたについて確認。

スクーリング課題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１施設につき２枚	横書	指定書式 (施設概要、学習課題・実習計画)

【設題１】自分が実習を予定している施設について、それぞれ「施設概要」「実習課題・実習計画」をまとめ、実習生として施設で自分が何を学ぶか、これまでの学修や自分の体験もふまえて、具体的に述べよ。

＜注意事項＞

- **スクーリング受講後から実習開始２週間前を目安に提出すること。**スクーリング課題が提出されない場合、実習の実施は認められない。なお、草稿の準備はスクーリング前に行い、スクーリング中の指導を具体的に反映させて原稿を完成させること。
- 実習予定施設への訪問等によって得た資料をもとに作成し、資料は添付すること。
- 指定書式「施設概要」「実習課題・実習計画」を使用すること。
- 作成、提出にあたっては、別途配布する『福祉・保育実習の手引き』を参照すること。

教科書

駒井美智子『施設実習ガイド―保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林。

参考文献

岡本幹彦『福祉施設実習ハンドブック』みらい社。

科目コード	保育児童学概論（２単位）	登録年次	履修方法
7011		１年	R
教員名	岡野雅子、加藤博子、駒井美智子、坂本真理子		

科目概要

人間の生涯発達のなかの初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめさまざまな環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自律」の観点から考える。また、子どもは生活のなかで育つことから、今日の生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達のしかたの実情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。これらの学習を通して、保育の重要性についての認識を確かなものにする。

学修内容

1	シラバスの確認 シラバスを読み、レポート設題及び科目終了試験学修のポイントを把握する。
2	1-1「保育」とは何か 「子どもを育てること」「子どもが育つこと」を包括的な視点で捉えて、保育の基本的意味について理解する。
3	1-2　子どもという存在 子どもは「私的な存在」であるとともに「社会的存在」であることを理解するとともに、わが国の子ども観の変遷についてまとめる。
4	2-1　生涯発達のなかの乳幼児期 ヒトの発達の特殊性である「生理的早産」について学び、人間は「外界に開かれた存在」であることから教育の可能性が大きいことについて理解する。
5	2-2　人間発達の方向付けとして重要な乳幼児期 人間の出生から死に至る生涯発達の中の初期である乳幼児期は、発達の方向付けとなる重要な時期であることについて理解し、まとめる。
6	3-1　子どもの発育・発達について 子どもの発育・発達には個人差があること、および人間の発達過程には個人差を超えて共通する法則性があることについて理解し、まとめる。
7	3-2　子どもの発育・発達の共通性 発達の法則性として、発育のタイプ（Scammon の４つの型）、方向性と順序性、素質と環境がともに作用すること、などを理解し、まとめる。
8	4-1　愛着とは何か 乳幼児期の特徴的行動である愛着について理解し、その様々な様相についてまとめる。
9	4-2　愛着の重要性 特定の他者との深い情緒的な関わりである愛着は「人への信頼感」の基礎となることについて理解する。
10	4-3　愛着とその後の発達との関係 特定の人との深い絆が形成されることにより、その人が「こころの安全基地」となることについて理解する。
11	4-4　愛着から自律へ 「こころの安全基地」が形成されると子どもは興味深い外界へ探索に出かけて行き、基地に戻り、を繰り返しながら、次第に自律へと向かうことを理解する。
12	5-1　家庭における保育・教育 家庭における保育・教育の特徴として、「家庭における生活」（無意図的な形成作用）と「しつけ」（意図的な形成作用）の二重の形成作用があることを理解する。
13	5-2　父親・母親の保育責任および子育てには「喜び」と「苦労」の両方があること 子育てに対して第一義的責任を有する者は保護者であること、子育てには「喜び」と「苦労」の両方があることを理解する。
14	1～５を整理する。 人間の生涯発達のなかの初期段階である乳幼児期について、その発達の様相についてまとめるとともに、子どもが育つことの本質を考え、子どもを育てることの意義について整理する。
15	保育児童学概論のまとめ ノートにまとめる。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】乳幼児期（誕生から小学校就学まで）の発達における人間関係の側面または言葉の側面を取り上げ，発達の様相と保育者としての配慮について述べよ。

＜ポイント＞

乳幼児期の子どもの発達はめざましいが、①現代社会のなかで育つ子どもは人間関係の形成が苦手な子どもがしばしば見受けられることから、人間関係の側面の発達の様相について及び保育者としての配慮について、②言葉を身につけることは人間の大きな特徴と言えるが、生後数年間の言葉の発達の様相について及び保育者としての配慮について、以上の①または②について取り上げて述べる。

科目終了試験学修のポイント

1．保育とは何か

＜ポイント＞

保育の基本的な意味について述べるとともに、保育は人類の歴史とともに営まれてきたことであるが近年では「子ども」が育つことにかかわる状況が複雑になっていることから、保育の専門家としての保育者の重要性についても述べる。

2．人間の誕生時の姿の特殊性について

＜ポイント＞

人間を生物学的に見ると誕生時のすがたは特殊で「生理的早産」といわれており、生後数年間の周囲の人々との相互作用が重要であること、すなわち人間は「外界に開かれた存在」であることを述べ、それゆえに人間は学習の可能性が大きいこと、つまり保育・教育が重要であることについて述べる。

3．人間の発達過程における乳幼児期の重要性について

＜ポイント＞

人間の出生から死に至る生涯発達の中で初期である乳幼児期は、発達の方向付けとなる重要な時期であることについて述べる。

4．乳幼児期の愛着について

＜ポイント＞

乳幼児期の特徴的行動である愛着について説明し、そのさまざまな様相について述べる。

5．愛着の重要性について

＜ポイント＞

乳幼児期の特定の他者（多くの場合に母親）との深い情緒的なかかわりである愛着は「人への信頼感」の基礎となることについて述べる。

6．愛着とその後の自律との関係について

＜ポイント＞

愛着とその対象である特定の人（多くの場合に母親）との深い絆が形成されることにより、その人が「こころの安全基地」となり、そこを基地として子どもは興味深い外界へ探索に出かけて行き、また基地に戻りを繰り返しながら、次第に自律へと向かうことについて述べる。

教科書

岡野雅子、他『新保育学』南山堂。

参考文献

咲間まり子、他『保育原理』大学図書出版。
関口はつ江、他『実践理解のための「保育内容総論」』大学図書出版。
厚生労働省『保育所保育指針』。
文部科学省『幼稚園教育要領』。

科目コード	保育者・教師論（２単位）	登録年次	履修方法
4760/4761/4762		１年/２年	R
教員名	加藤博子、戸田大樹、山口悠紀子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の意義及び教員の役割･職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		

科目概要・到達目標

保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割・職務内容と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。

学修内容

1	保育の意味（子どもを育てる二つのコースと制度としての保育）　意図的保育・教育と無意図的保育・教育。保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化。(教科書第１章)
2	保育の現状理解（社会の変化と保育ニーズ）　現在の保護者がどのような悩みを持ち、保育の場を求めているか、それへの社会の対応など現在の保育問題について、制度の問題、行政の問題、保育現場の問題を参考資料、マスコミ情報などからまとめ、保育者の立場から今後の保育の在り方について自分なりに考える。
3	子ども観、保育観の重要性①　保育は保育者の人間性を通して行われるため、保育者の子どもの見方、保育観が重要であること、先達に学ぶことの重要性を理解する。(教科書第３章)
4	子ども観、保育観の重要性②　西欧の思想に学ぶ。現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質と保育者の在り方を考える。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オーエン等の思想と現代への家教をまとめる。(教科書第３章)
5	子ども観、保育観の重要性③　日本の思想の流れを理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。中村正直、和田実、倉橋惣三、赤沢鐘美、野口幽香等（教科書第３章他参考文献）
6	保育者と制度①保育者の制度的地位　我が国の保育制度をまとめ、児童福祉法に基づく保育所、学校教育法に基づく幼稚園の役割を理解する。それぞれの根拠法令、所管、目的、対象児、公的負担、行政の仕組みなどを理解する。(教科書第２章、その他の参考資料)
7	保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園教免許取得の要件を確認し、保育士資格、幼稚園教諭（１種、２種、専修）の資格、免許取得の方法、学修内容、学習課程、修得すべき専門的能力の内容を理解する。(教科書第２章) 保育士や幼稚園教諭の資格を取得後、どのような職種・進路に就くことが考えられるか、教科書（第２章）や参考文献で詳しく調べる。(・認定こども園、・幼稚園、・保育園、・児童擁護施設、・障害児施設等)
8	幼稚園教諭に求められる能力と職務内容の概要 学校教育法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている教育の基本、ねらい及び内容をまとめ、その趣旨に即応するための教師の資質、能力、技術を理解する。(教科書第４章　1、2、3節、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説)
9	保育士（保育所保育士、施設保育士、児童福祉施設、保育所等）に求められる能力と職務内容の概要 保育士　保育所保育指針に記載されている保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者の資質、能力、技術を理解する。(教科書第５章　1、2節、保育所保育指針解説)
10	保育者の役割と専門性①保育者として望ましい資質　保育の専門家としてどのような保育の場にあっても共通に必要とされる人間的素養（感性、判断力、応用力、共感性など）、専門的知識、専門的態度　実践技術などをまとめる。 （教科書第４章　4節　他）
11	保育者に求められる専門性②保護者支援　保護者支援のために必要とされる態度、知識、技能をまとめる。 （教科書第５章　3、4節）
12	期待される保育者①成長する保育者　保育における自己反省、カンファレンス、チームで行う保育、第三者評価など保育者自身の向上のための方法を理解する。(教科書第６章)
13	期待される保育者②社会のニーズへ対応　第２回で保育の現状を捉えたが、教科書を手掛かりに、我が国の子育ての現状と保育ニーズの現状を整理し、解決の方向（ライフワークバランス、保育の質的向上、他の専門機関との連携、保育制度の改正等）について考察する（教科書第７章）
14	保育者の職務と倫理　全国保育士会倫理綱領の内容を調べ保育者の職と求められる倫理とを理解する。(教科書第２章)
15	今後の保育制度の動向と保育者の在り方　幼保小の連携の視点から保育者に求められてきた役割や資質・能力の変遷について調べ、我が国が目指している保育制度と新しく求められる専門的役割、資質・能力をまとめる。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点） F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育者の専門性について、他の専門分野との違い及び専門性向上のための具体的な方法を述べよ。

＜ポイント＞
保育者の専門性は他の分野の専門性と異なる特性があるので、それを整理する。また、社会的変化や子どもの発達的変化などに伴う保育ニーズに対応するために、専門性を向上させるためにはどのような方法があるかをまとめる。

科目終了試験学修のポイント

1．現代社会において求められる保育者像について
＜ポイント＞
現代の子育て状況（少子化、核家族化、地域の保育力の低下その他）をまとめ、社会全体が必要としている保育の場、保護者が必要としている保育者の役割、求めているかかわりを考える。

2．保育士資格、幼稚園教諭の制度上の定義、職務上の役割や内容について
＜ポイント＞
現在の保育制度（保育所、幼稚園、認定こども園）を整理し、それぞれの関係法令の中で保育者の職務上の役割や内容がどのように規定されているかを正確に理解しておく。

3．保育者の倫理とはどのような内容を含むか
＜ポイント＞
全国保育士会倫理綱領の全項目をしっかり理解し、その意味することをまとめておく。

4．次の人物の、業績、思想等について（特に自分が興味のある1名について調べる）
ルソー、ロバート・オーエン、フレーベル、倉橋惣三、野口幽香、赤沢鍾美
＜ポイント＞
それぞれの人物の活躍した時代背景、子ども観（人間観、教育観）、活動内容を理解し、保育の進歩に貢献した点をまとめる。

5．子どもの豊かな生活のための保育者の在り方や子どもへの配慮について
＜ポイント＞
「環境を通しての保育」「幼児の主体的な活動が確保されるよう」「現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」という保育の基本をふまえ、子どもが豊かに活動できるようにするには何が大切かを考える。

6．保育における省察の重要性について
＜ポイント＞
保育活動が対象、状況に即応するよう柔軟に実践されるものであること、原則やマニュアルの応用範囲が広いこと、実践者の裁量（主体性）に任せられる部分は大きいこと等の保育活動の特殊性をふまえた上で、保育の省察とはどのようなことか、なぜ重要かを考える。

教科書

民秋言編『保育者論』建帛社。
文部科学省『幼稚園教育要領』
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考文献

田中亨胤、他『保育者の職能論』ミネルヴァ書房。
『発達』（特集　今、保育者と言う仕事は）No.118, Vo.30　2009、ミネルヴァ書房。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

科目コード	保育者論（2 単位）	登録年次	履修方法
7950/7952		7952：こども教育・保育専攻：2 年 7950：幼児教育専攻　　：1 年	R
教員名	荒木由紀子、岡野雅子、加藤博子、鈴木美子		
教職区分	「教育の基礎的理解に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		

科目概要・到達目標

保育士・幼稚園教諭の制度的位置づけ、社会的役割と必要とされる専門的能力を理解し、保育者にふさわしい資質を自ら養おうとする態度を養う。社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎的知識・技能、保護者支援の方法、実践的学習とともに、世界的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習する。

学修内容

1	保育の意味（子どもを育てる二つのコースと制度としての保育）学校教育法、児童福祉法、認定こども園法等における教諭、保育士、保育教諭の役割を知る。また、意図的保育・教育と無意図的保育・教育、保育者による計画的働きかけによる教育と保育者をモデルとした子どもの同一視などによる社会化の過程を理解し、保育者の役割の重要性を理解する。
2	保育の現状理解と保育者の社会的役割（社会の変化と保育ニーズ）　保育者の子育て支援者としての役割を幼稚園教育要領、保育所保育指針等で学び、現在の保護者がどのような悩みを持ち、保育の場を求めているか、それへの社会の対応など現在の保育問題について、制度の問題、行政の問題、保育現場の問題を参考資料、マスコミ情報などからまとめ、保育専門職者として果たすべき役割を考える。
3	子ども観、保育観の重要性①　保育は保育者の人間性を通して行われるため、保育者の子どもの見方、保育観が重要であること、先達に学ぶことの重要性を理解する。
4	子ども観、保育観の重要性②　西欧の思想に学ぶ。現代の保育に影響を与えた思想の流れを理解し、保育観の源流、人間教育としての保育の本質と保育者の在り方を考える。ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、オーエン等の思想と現代への家教をまとめる。
5	子ども観、保育観の重要性③　日本の保育制度、思想の流れの中での保育者の役割を理解する。明治以降の幼稚園保育所の制度の変遷をまとめ、キーパーソンについて理解する。中村正直、和田実、倉橋惣三、赤沢鐘美、野口幽香等
6	保育者と制度①保育者の制度的地位　我が国の保育制度をまとめ、児童福祉法に基づく保育所、学校教育法に基づく幼稚園の役割を理解する。それぞれの根拠法令、所管、目的、対象児、公的負担、行政の仕組みなどを理解する。
7	保育者と制度②保育士資格取得の要件・幼稚園教免許取得の要件　保育士資格、幼稚園教諭（1 種、2 種、専修）の資格、免許取得の方法、学修内容、学習課程、修得すべき専門的能力の内容を理解する。
8	保育者の役割と専門性①幼稚園教諭　幼稚園教育要領に記載されている教育目的、方針、教諭の役割をまとめ、その趣旨に即応するための幼児教育者としての資質、能力、技術を理解する。
9	保育者の役割と専門性②保育士・保育教諭　保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている教育・保育目的、方針、保育者の役割をまとめ、その趣旨に即応するための保育者としての資質、能力、技術を理解する。）
10	保育者の役割と専門性③保育者として望ましい資質　保育の専門家としてどのような保育の場にあっても共通に必要とされる人間的素養（感性、判断力、応用力、共感性など）、専門的知識、専門的態度　実践技術などをまとめる。
11	保育者に求められる専門性④保護者支援　保護者支援のために必要とされる態度、知識、技能、及び施設内の職員間の協力の仕方、他の専門機関との連携の仕方などをまとめる。（教科書第 5 章　3，4 節）
12	期待される保育者①成長する保育者　保育における自己反省、職員同士によるカンファレンス、第三者評価、他の専門分野との連携など保育者自身の向上のための方法を理解する。
13	期待される保育者②社会のニーズへ対応　第 2 回で保育の現状を捉えたが、教科書を手掛かりに、我が国の子育ての現状をまとめ、保育ニーズの現状を整理し、解決の方向（職員組織の改善、チームとして職員間の連携強化、ライフワークバランス、他の専門機関間との協力）について考察する。
14	保育者の職務と倫理　全国保育士会倫理綱領の内容を調べ保育者の職と求められる倫理とを理解する。
15	今後の保育制度の動向と保育者の在り方　新しい保育制度（認定こども園、保育教諭）について調べ、我が国が目指している保育制度と新しく求められる専門的役割、資質、能力をまとめる。

学生に対する評価	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点） F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】保育者の専門性について、他の専門分野との違い、及び専門性向上のための具体的な方法を述べよ。

＜ポイント＞
保育者の専門性は他の分野の専門性と異なる特性があるので、それを整理する。また、社会的変化や子どもの発達的変化などに伴う保育ニーズに対応するために、専門性を向上させるためにはどのような方法があるかをまとめる。

科目終了試験学修のポイント

１．現代社会において求められる保育者像について
＜ポイント＞
現代の子育て状況（少子化、核家族化、地域の保育力の低下その他）をまとめ、社会全体が必要としている保育の場、保護者が必要としている保育者の役割、求めているかかわりを考える。

２．保育士資格、幼稚園教諭の制度上の定義、職務上の役割について
＜ポイント＞
現在の保育制度（保育所、幼稚園、認定こども園）を整理し、それぞれの関係法令の中で保育者の職務がどのように規定されているかを正確に理解しておく。

３．保育者の倫理とはどのような内容を含むか
＜ポイント＞
全国保育士会倫理綱領の全項目をしっかり理解し、その意味することをまとめておく。

４．次の人物の、業績、思想等について（特に自分が興味のある１名について調べる）
ルソー、ロバート・オーエン、フレーベル、倉橋惣三、野口幽香、赤沢鍾美
＜ポイント＞
それぞれの人物の活躍した時代背景、子ども観（人間観、教育観）、活動内容、を理解し、保育の進歩に貢献した点をまとめる。

５．子どもの豊かな生活のための保育者の在り方や子どもへの配慮について
＜ポイント＞
「環境を通しての保育」「幼児の主体的な活動が確保されるよう」「現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う」という保育の基本をふまえ、子どもが豊かに活動できるようにするには何が大切かを考える。

６．保育における省察の重要性について
＜ポイント＞
保育活動が対象、状況に即応するよう柔軟に実践されるものであること、原則やマニュアルの応用範囲が広いこと、実践者の裁量（主体性）に任せられる部分は大きいこと等の保育活動の特殊性をふまえた上で、保育の省察とはどのようなことか、なぜ重要かを考える。

教科書

民秋言『保育者論』建帛社。

参考文献

武藤安子、他『発達支援　ー豊かな保育実践に向けてー』ななみ書房。
吉川晴美、他『共に育つ　ー人間探求の児童学』宣協社。

科目コード	保育相談支援演習（２単位）	登録年次	履修方法
7960/7961		7960：３年 7961：２年	ＳＲ
教員名	石渡宏、岡林純子、駒井美智子、齋藤厚子、坂鏡子、堀建治、堀聡子		

科目概要

保護者に対する相談支援がなぜ必要か、保育士の専門性を生かした支援の特徴を考え、子どもの利益を守り、保護者の問題解決を図る支援の実際を知る。保護者と信頼関係を結びながら、ともに育てる関係作りや地域の関係諸機関との連携の仕方などを学修し、児童福祉施設全般の保育相談への対応、展開ができるようにする。

学修内容

1	保育相談支援について 保育相談支援の定義・学ぶ内容
2	保育士の業務と保育相談支援 保育士資格法定化・保育士資格法定化の意義と保護者支援
3	保育相談支援の原理 子ども家庭福祉の原理と保育士の役割・原則と基本
4	保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係 保育相談支援の構造と展開・保育相談支援と相談援助
5	保育相談支援の価値と倫理 保育相談支援における倫理・保育所保育指針における保護者支援の価値と倫理
6	信頼関係を築く受容と自己決定の尊重 保護者を受け止める・自己決定の尊重・信頼関係の捉え方
7	他の社会的資源との連携・協力 連携・協力の必要性・保育相談支援の特性と限界・地域資源や関係機関
8	保育を基盤とした保育相談支援 専門的援助である保育相談支援・保育の特性に基づく保育相談支援
9	保育相談支援の方法と技術 保育相談支援で活用される保育技術・保育相談支援の技術
10	保育相談支援の展開過程 保育相談支援の展開過程について・保育相談支援の展開過程の実際
11	環境を通した保育と保育相談支援（１） 保護者との信頼関係を形成する環境・保護者の日常生活を支える環境
12	環境を通した保育と保育相談支援（２） 保護者の子ども理解を促す環境・家庭の暮らしを支える環境
13	保育所入所児童の保護者への保育相談支援 保育相談支援の手段・保育相談支援の評価・特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
14	保育所の地域子育て支援における保育相談支援 地域子育て支援の特性と限界・保育相談支援の手段・評価
15	児童福祉施設における保育相談支援 施設機能に即した保育相談支援の特性・施設を利用する保護者の特性

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】社会の変化に伴う現代の子育ての特徴について説明し，それをふまえて保育の特性と専門性を生かした保護者支援について述べよ。

＜ポイント＞

①家庭の変容と保育相談支援の変遷を踏まえること。

②保育士の専門性を生かした保護者支援について確認すること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育相談支援の対象者について

＜ポイント＞

多様な対象者を、社会的背景と関連づけながらまとめる。

2．保育相談支援のねらいについて

＜ポイント＞

保育相談支援の目的と概要を理解し、家庭や地域における子育て支援の現状に触れながらまとめる。

3．保育相談支援の基盤となる保育技術について

＜ポイント＞

保育を基盤とした専門的援助技術を理解し、その内容をまとめる。

4．面接の技法と配慮点について

＜ポイント＞

保育士が保護者や子ども・家族への安定した発達を支えるための基本的相談姿勢を示す。

5．環境を通した保育相談支援について

＜ポイント＞

環境を通した保育相談を理解し、園環境が保護者に与える様々な影響をまとめる。

6．保育相談の具体的な流れについて

＜ポイント＞

組織的に連携を図りながら、保育相談支援の展開過程に基づいた保護者支援を展開する重要性を示す。

教科書

大嶋恭二・金子恵美 編著 『保育相談支援』建帛社。

参考文献

厚生労働省『保育所保育指針　平成29年告示』。
柏女霊峰、他『保育相談支援』ミネルヴァ書房。
小林育子『演習保育相談支援』萌文書林。

科目コード	保育内容（環境）（２単位）	登録年次	履修方法
7092/7093		7092：１年 7093：２年	ＳＲ
教員名	浅野菜津子、氏家博子、大塚絹子、加藤博子、河合光利、坂本真理子、仁藤喜久子、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

保育内容を構成する「環境」のねらいと内容について理解し、子どもを取り巻く環境について学び、環境と子どもの活動・保育における環境及び環境設定について理解する。保育の全体構造における環境に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。また、演習形式で学ぶことにより、「環境」で習得した理論や知識への理解をさらに深め、実際の保育現場での指導につながる実践力を養う。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	保育の基本と領域「環境」について 環境を通して行う保育の基本を理解するとともに領域について理解する	保育の基本及び領域「環境」の意義について理解するとともに、自分の幼児期を振り返って資料とし、育ってきた環境について様々な側面から考えてまとめる。	印刷授業 及び 面接授業 (3時間)
2	領域「環境」をさらに深く理解する さまざまな環境（物的環境・人的環境・自然環境・雰囲気的環境）について理解する		印刷授業
3	幼児の成長発達の特徴を知る ０－５歳児の成長発達の姿を理解する		印刷授業
4	保育者の感性と保育デザイン 情報機器及び教材を活用した、環境設定の仕方を理解する		印刷授業
5	保育環境とはどのようなものか理解する 保育の場、幼児の自己形成空間を考える		印刷授業
6	子どもの育ちを支える園環境（1）園舎 保育室等、生活空間を考える （適切な環境を構成する多様な視点）	幼稚園生活の基本である園舎の適切な活用について意見交換を行い、多様な視点があることを理解する。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
7	子どもの育ちを支える園環境(2) 園庭 園庭及び地域資源の活用 （環境適応能力の向上）	幼稚園全体の適切な環境について園庭及び地域資源（地域の公園等）の活用など、子どもの視点から意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
8	自然環境を考える（1） 人と植物のかかわりを知る	子どもにとって自然とかかわることの意義について理解するとともに、子どもの知的好奇心にそったかかわりができるよう保育者の役割について考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
9	自然環境を考える（2） 人と動物のかかわりを知る	子どもにとって動物とかかわることの意義について理解するとともに、子どもの知的好奇心にそったかかわりができるよう保育者の役割について考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
10	領域「環境」の内容及び対象を理解するため情報機器及び教材特性の理解や保育者の価値観、生活観が反映された教材研究を行う		印刷授業
11	模擬保育による検討（1）（ディスカッション及び発表）季節や自然を感じる環境構成及び指導計画を考える	実際の保育を想定して、季節や自然を感じることができる環境構成及び指導計画をディスカッションを通して考え、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)
12	模擬保育による検討（2）（ディスカッション及び発表）安全・安心な環境のための学安全計画及び指導計画を作成する	実際の保育を想定して、日常保育における安全・安心な保育環境の構成及び指導計画を作成し、ディスカッションを通して考えを深め、発表する。	印刷授業 及び 面接授業 (2時間)

13	幼児の科学的態度の育成について 幼児の知的好奇心、探求心を育む援助を考える		印刷授業
14	幼児の文字・数量・記号等の援助について 保育の中での文字、数量、記号等の援助を考える		
15	幼児の環境教育について 情報端末を使用し、ESD について調べ、その具体的な活動展開を指導計画として展開できるようにする		印刷授業
		面接授業：合計 15 時間	

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の 50%、参加態度・課題提出　総合点の 50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】保育内容を構成する環境のねらいの意義をふまえ、保育者の援助および環境構成のあり方について述べよ。

＜ポイント＞
環境のねらいについてふれながら、実際に具体的な例を挙げて援助のあり方を示すとよい。

科目終了試験学修のポイント

１．保育内容を構成する環境について
＜ポイント＞
保育内容「環境」において子どもの育てたい方向性を明示しながらまとめていく。

２．「積極的にかかわる」「生活に取り入れる」などの活動への援助について
＜ポイント＞
保育者の専門性を明確にし、子どもが遊びを生活に取り入れていく過程を示す。

３．子どもにとって自然とかかわることの意義について
＜ポイント＞
自然環境の意味を踏まえながら、身近な自然とのかかわりを通して、子どもの内面に育って欲しい事柄をまとめる。

４．保育における環境構成とは
＜ポイント＞
子どもの環境への積極的な働きかけを重視し、好奇心・探究心を刺激するような内容や方法をまとめる。

５．子どもを取り巻く身近な環境について理解する
＜ポイント＞
子どもにとっての「身近な環境」を整理したうえで、子ども特有の学び方を示す。

６．乳幼児の安全な環境について
＜ポイント＞
安全教育の基本を示しながら、生活安全・交通安全などの視点から捉えてまとめる。

教科書

谷田貝公昭『コンパクト版 保育内容シリーズ３　環境』一藝社。

参考文献

柴崎正行、他『保育内容　環境』光生館。
文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館
厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館

科目コード	保育内容（健康）（２単位）	登録年次	履修方法
7072/7073		7072：１年 7073：２年	ＳＲ
教員名	沖雅美、小野孝美、駒井美智子、清水信好、中村裕、西田希、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園・保育要領における健康領域のねらいと内容について理解、習得することで、幼児期の発育・発達を理解し、子どもが自ら考えて行動し、問題解決できるように育む保育者を目指す。また、保育者として子どもの健康な心と体を育てることができるよう自ら健康的な生活を実践し、子どもが健康で安全な生活を作り出す力を支援できるようにする。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	健康の概念に関する理解 健康に関する諸定義（WHO定義ほか）や体力の概念について整理し、子どもにとって望ましい「健康」とはどのような状態をいうかについてまとめる。	「健康」についての基本的な定義を学び、子どもにとって望ましい「健康」な状態について考えをまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	領域「健康」のねらいと内容について 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「健康」のねらいと内容を理解した上で、乳幼児の「健康な心身の発達」を支える者として保育者が意識すべき健康観についてまとめる。	領域「健康」のねらいと内容について理解するとともに、保育者の「健康」に対する意識について意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	心身の発達について（1） 発育発達の概念について整理し、スキャモンの成長曲線のリンパ型と神経型について理解した上で、適切な時期に健康な心身の発達を促す適切な援助・指導を行う意義についてまとめる。	スキャモンの成長曲線（４タイプ）を学び、特にリンパ型と神経型は幼児期の心身の発達に関連が深いことを理解して、適切な援助を行う意義についてまとめ、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	心身の発達について（2） 乳幼児期における子どもの身体の発育や身体諸機能の発達、心身の発達特性を踏まえることは発達段階を理解し学童期の発達の目安となる。乳幼児の各発達段階における保育者の関わり方や配慮、留意点を考察する。	子どもの心身の発達特性の観点から発達段階別に保育者のかかわり方についてまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	基本的生活習慣の形成について（1） 基本的生活習慣とは何か、その内容を整理し、基本的生活習慣形成の必要性について理解する。ビデオ教材の視聴により園生活の１日の流れを把握し、デイリープログラムの作成練習を行う。その際、集団保育における援助・指導の際の配慮と留意点について考察する。	子どもにとって基本的生活習慣（食事・睡眠・排泄・清潔・着脱衣）の形成の必要性と重要性について理解するとともに、ビデオ視聴を通して幼稚園生活の流れを把握して、デイリープログラムを作成し、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	基本的生活習慣の形成について（2） 食習慣や食文化を育む上での「食育」の重要性を食育基本法、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領によって確認し、園生活における食育の具体的事例から乳幼児期における援助・指導の際の配慮と留意点について学ぶ。また、「孤食・個食・固食」や朝食の欠食によって子どもの育ちにどのような影響が生じるのか問題点を検討し、家庭との連携や保護者指導について考える。	「食育」の重要性について様々な資料を基に理解し、幼稚園における食育の具体的事例について知るとともに、今日的問題である「孤食・個食・固食」や朝食の欠食が子どもの育ちに及ぼす影響についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
7	基本的生活習慣の形成について（3） 睡眠の習慣（就床と起床、睡眠時間と午睡、サーカディアンリズム）について理解し、１日の生活リズムを整える上での睡眠の重要性について考えをまとめる。また、現代における子どもたちの睡眠事情について問題点を検討し、家庭との連携や保護者指導について考える。	子どもにとって適切な睡眠の習慣形成が重要であることを理解するとともに、夜型生活の子どもが増えている背景について考え、家庭との連携等について意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

8	基本的生活習慣の形成について（4） 排泄、身の回りの清潔、衣服の着脱等の習慣化の意義を理解し、子どもの自立を促す援助・指導について考察する。これら基本的生活習慣は学童期にも継続する意味を理解した上で家庭との連携の重要性を把握し、具体的な連携の方法について検討する。	子どもにとって排泄・清潔・着脱衣（基本的生活習慣の食事・睡眠以外の 3 項目）の習慣形成が重要であることを理解するとともに、自立に向けての「しつけ」について家庭との連携等の具体的な方法を考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	遊びと健康について（1） 乳幼児期の子どもにとっての「遊び」の重要性を理解する。また、遊びによって育まれるものを身体的側面、精神的側面、社会的側面からまとめる。乳幼児期の子どもの遊びに参与する保育者として、求められる資質と役割について考察する。	保育は「遊び」を通しての指導を中心として行うものであることから、遊びの重要性を理解するとともに、遊びを育むための保育者の資質と役割について考えをまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	遊びと健康について（2） 子どもの遊びの現状（子どもを取り巻く生活環境の変化、戸外遊びの衰退など）と健康に関する諸問題（学童期の体力・運動能力低下、健康阻害など）は幼児期に経験した楽しく体を動かす遊びに関連するとし、具体的な方策について考察する。また、スポーツ等習い事の早期化の傾向についてメリット・デメリットを検討する。	子どもの遊びの現状と問題点について様々な資料から理解するとともに、その改善のための具体的な方策について考えをまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	遊びと健康について（3） 健康増進に資する「運動遊び」とは何かを理解し、発達段階別に具体的な運動あそびの例を調べる。また、運動あそびを実施する上で援助・指導の際の配慮と留意点について理解する。	「運動遊び」について発達段階別に具体的な例を挙げ、それぞれの遊びを行う上での配慮と留意点についてまとめ、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	遊びと健康について（4） 「運動遊び」の指導案作成と模擬保育の実施により、具体的な援助・指導の際の配慮と留意点について理解する。	実際の保育状況を想定して、「運動遊び」の保育指導案を作成し、配慮と留意点について意見交換を行う。また、現場において情報機器や教材の効果的な活用について考察する。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	健康と安全について（1） 幼稚園・保育所等における事故の実態を教科書の図表やデータから把握する。実際の事故事例を検討し、事故を未然に防止する観点（危機管理）を学ぶ。また、乳幼児期における身体的特性や精神的特性から園生活の様々な場面においてどのような事故が起こり得るのか考察する。	園生活における子どもの事故について様々な資料から把握するとともに、事例を通して事故を予防する方策について考え、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	健康と安全について（2） 安全教育の必要性を理解し、安全に対する構えを育成するための具体的な安全教育の方法を発達段階別に考察し幼児が理解できるような方策を演習形式で実践する。園における事故防止の取り組み（環境の整備、危機管理体制の構築など）や事故発生時の対応（ファーストエイド、医療機関との連携など）映像形式で理解する。	子どもにとって安全教育が重要であることを理解するとともに、発達段階別に安全教育の具体的な方法について考え、発表しあう。	印刷授業 及び 面接授業 （2 時間）
15	授業総括 第 1 回から第 14 回の講義を振り返り、子どもの健康な心身の発達を支える保育者の役割と責務、家庭や地域との連携について考えをまとめる。		印刷授業
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	スクーリング修了試験　　総合の５０％ 授業中の態度、積極性　　総合の５０％ 総合点　　１００点 ※ディスカッション形式で行う授業については積極的な参加態度を求めます。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】幼稚園や認定こども園等における集団生活において、乳幼児の健康な心身の発達を助長するため保育者が行う援助や指導について発達段階毎の特徴とそれに応じて配慮すべき事柄や留意点に言及しながら述べよ。

＜ポイント＞

1．集団生活における保育者の役割と位置づけ
2．乳幼児の心身の発達に対する理解
3．「基本的生活習慣」の形成と自立
4．子どもにとっての遊び、とりわけ「運動遊び」の意義
5．危機管理と安全教育

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容「健康」の意義について

＜ポイント＞

幼稚園、保育所における領域「健康」のねらいと内容をしっかりと理解しておくこと。

2．幼児期における遊びと健康の関係について

＜ポイント＞

運動あそびと発育・発達との関係性、身体に及ぼす効果、代表的なあそびの説明ができること。

3．幼児の安全教育と安全管理について

＜ポイント＞

事故、ケガの発生状況の把握、安全教育の必要性、安全管理の重要性はしっかり説明できること。

4．幼児期の基本的生活習慣における保育者の役割について

＜ポイント＞

保育者としての位置づけ、基本姿勢を認識したうえで、具体的な生活習慣形成のための役割を論述する。

5．幼児の生活と遊びについて

＜ポイント＞

生活リズム、生活習慣と運動あそびを一体として捉えた幼児の生活を意識する。
運動あそびの重要性、近年の子どもが抱える運動量不足の問題や課題についても理解しておく。

6．幼児の心身の健康と発達について

＜ポイント＞

幼児期の身体の発達、運動機能の発達、精神発達特性、心とからだの関係等を理解しておく。

教科書

茗井香保里・宮下恭子・平山素子 『乳幼児の健康』 大学図書出版。

参考文献

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
厚生労働省『保育所保育指針』日本保育協会。

科目コード	保育内容（言葉）（２単位）	登録年次	履修方法
7102/7103		7102：１年 7103：２年	ＳＲ
教員名	浅野菜津子、氏家博子、岡野雅子、駒井美智子、坂本真理子、戸田大樹、濱崎幸夫、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身につけ、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身につける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識、技術を習得する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	シラバスを確認し、保育内容「言葉」の学修内容を整理・確認する。	シラバスの理解と授業及び学習方法を確認するとともに、実際の幼稚園における保育者と子どものやり取りのビデオ視聴により言葉指導の実態を知り、意見交換を行う。	印刷授業及び面接授業（2時間）
2	第１章　保育内容「言葉」の意義 言葉の意義について理解する。		印刷授業
3	第２章　「言葉」のねらいと内容 「ねらい」とは何か？　テキストを読解し、「ねらい」と「内容」の関係を整理してまとめる。		印刷授業
4	第３章　子どもの言葉の発達 ０歳～６歳の子どもの発達のプロセスについて、テキスト付録により調べて理解する。		印刷授業
5	第４章　子どもの言葉と環境 言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考える。		印刷授業
6	第５章　保育者の指導・支援（援助） 言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考える。		印刷授業
7	第６章　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもの援助・指導・評価 保育者の言葉が配慮を必要とする子どもに及ぼす作用について学習する。管理・支援・援助の文言をまとめ、整理する。		印刷授業
8	第７章　保育者の言葉 保育者にとって子どもに対する言葉かけの重要性について理解する。		印刷授業
9	第８章　言葉と児童文化財（教材研究） 絵本、紙芝居、パネルシアターなど、子どもの言葉を育む教材について理解する。	児童文化財を活用する保育実践の場面について、情報機器を活用して事例を検討し、言葉を育む観点についてグループディスカッションをする。代表的な児童文化教材である絵本･紙芝居を取り上げ、歴史・特徴を踏まえ、その選び方の基本を理解し、保育における活用について留意点等、具体例について意見交換を行う。	印刷授業及び面接授業（3時間）
10	第９章　言葉あそび（模擬保育） 伝承あそびを調べる。言葉あそびを収集する。その結果を発表して共有する。	情報機器を活用し、伝承遊びや言葉遊びを調べ、習得する。基礎的な言葉遊びの具体例をまとめた結果を発表しあうとともに、その価値や活用についての理解を深め、言葉遊びのレパートリーを広げる。	印刷授業及び面接授業（2時間）
11	第10章　実技の方法（模擬保育と評価） それぞれの児童文化教材にはそれにふさわしい方法があることを理解する。	情報機器を活用し、保育実践の具体的場面を理解する。代表的な児童文化教材である絵本と紙芝居について実演を行うことにより、それぞれの価値を理解し実践力を身に付ける。	印刷授業及び面接授業（2時間）
12	第11章　「言葉」の指導計画 指導計画とは何かを調べ、指導計画を作成する。	指導計画の作成の基本を理解するとともに、学年（発達段階）を決めてそれにふさわしい指導計画を実際に作成して、意見交換を行う。	印刷授業及び面接授業（2時間）
13	第12章　発展事例－保育内容「言葉」のまとめ 第13章　言葉と国語教育		印刷授業

14	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）の準備 ①わらべうた・言葉あそび	実際の保育状況を想定して、わらべうたや言葉遊びの実際について発表しあって、ディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）の準備 ②児童文化財を活用した発表	実際の保育状況を想定して、児童文化財（絵本・紙芝居・エプロンシアター・パネルシアターなど）の実際について発表しあって、ディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	・スクーリング修了試験　　総合の５０％ ・授業中の態度・積極性・提出物の状況　　総合の５０％ ・総合点　　１００点 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】乳幼児期における言語発達段階の特徴を挙げ、その時期の保育者の支援・援助との関連について述べよ。

＜ポイント＞
1．「一語文」「質問期」等の専門用語の語彙を踏まえること。
2．乳幼児期の心身の発達を確認すること。
3．乳幼児期の言語発達の特徴を調べること。
4．言葉の遅れのある乳幼児にも目を向け調べること。

科目終了試験学修のポイント

1．保育内容「言葉」の観点・ねらい・方法内容について
＜ポイント＞
保育内容「言葉」の観点を学ぶ。

2．０歳から６歳までの乳幼児の言葉習得の特徴について
＜ポイント＞
乳幼児の言葉の発達について学ぶ。

3．幼児文化教材（絵本・紙芝居等）はなぜ幼児に必要か
＜ポイント＞
絵本・紙芝居等の特徴を理解する。

4．言葉の発達を支援する保育者の「言葉」について
＜ポイント＞
保育者は乳幼児にとってモデルとなる存在であることを理解する。

5．子どもにとって「良いモデル」となる保育者の言葉遣いについて
＜ポイント＞
模倣と成長について学習する。子どもにとって人的環境としての保育者について理解する。

6．模倣と成長と「言葉」について
＜ポイント＞
言葉を習得する乳幼児に及ぼす保育者の影響について学習する。

教科書

駒井美智子『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』株式会社みらい

参考文献

幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示　厚生労働省）

科目コード	保育内容（人間関係）（２単位）	登録年次	履修方法
7082/7083		7082：１年 7083：２年	ＳＲ
教員名	氏家博子、大塚絹子、岡野雅子、加藤博子、河合光利、駒井美智子 新川朋子、橋本景子、畠山むつ実、松本秀藏、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

保育内容を構成する人間関係について理解する。子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。保育における子ども、保育者、家庭、地域を含めた人とのかかわりについて理解し、保育の全体構造における人間関係に関して総合的に指導・援助が行えるような理論や知識を習得する。その上で、子どもの発達に即した人間関係を育む援助や活動を構想できるようになることを目指す。

学修内容	印刷授業	面接授業	授業方法
1	教科書第 3 章を読み、乳幼児を取りまく人間環境について理解する。子どもが育つ環境は、家庭、地域社会、保育･教育機関等であり、それぞれの人間環境から様々な影響を受けながら他者との関係を学んでいく。幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された「小学校入学までに育みたい姿」をふまえた上で、現代社会における人間環境をしっかり捉え、子どもが人とかかわる力を育てるうえで必要なことについて検証する。	乳幼児を取りまく人間環境の基本について理解するとともに、現代社会において子どもが人とかかわる力を育てるうえで必要なことは何かについて考え、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
2	乳児期の「人との関わり」に関する発達の過程を教科書第 4 章や発達心理学の教科書・文献等から整理し、0～2 歳までの幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針のねらい及び内容を理解する。乳児期には人に対する基本的信頼感を獲得することが必須である。そのためにまず愛着関係の形成、自己肯定感、自己主張や自己発揮等が求められる。それに向けて養育者にはどのように子どもとのかかわりが求められるかを学ぶ。		印刷授業
3	幼児期の「人との関わり」に関する発達の過程を教科書第 6、7 章や発達心理学の教科書・文献等から理解し、3 歳児以降の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針のねらい及び内容を理解する。幼児期にはほとんどの子どもが集団生活を経験する。そこでは、様々な仲間と出会い、葛藤やつまずきを経験し、相手の気持ちを理解し、共感しあう喜びも味わう。その過程を大切にすることが人間関係を育てるということを理解する。		印刷授業
4	パーテンによる「遊びの発達段階」について教科書第 5 章や文献を調べて、理解する。パーテンは、子どもの社会性の発達に視点をおいて、その発達が子ども達の遊びの変化と連動していることを多くの子どもを観察しながら検証した。一人遊び、傍観遊び、平行遊び、連合遊び、協同遊びなど、子どもの遊びの基本的な形を学ぶ。		印刷授業
5	パーテンによる「遊びの発達段階」の各段階における保育者の望ましい援助について考察する。遊びの変化は、子どもの人とかかわる力の発達を象徴している。したがって、それぞれの遊びの段階と人とかかわる力との関係を検証し、各段階で保育者はどのような教材を活用し、援助すべきかを考察する。		印刷授業
6	0～2 歳児の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。保育者との信頼関係を基盤として 2 歳以降ごろから仲間との関係が徐々に形成されていく姿を理解し、その時期に必要な保育者の指導・援助を考察する。	0～2 歳児の園生活のビデオ視聴により実際の子どもと保育者の姿を理解し、保育者の援助のあり方についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (3 時間)

7	3 歳以上の保育者と子どもの人間関係における留意点を理解する。保育者との関係から徐々に仲間関係を築く力が育まれていく子どもの姿を理解する。5 歳児後半には仲間関係から学びあう内容が増える。保育者は子ども達とどのような距離感をもちつつ援助をしていくことが適切であるかを考察する。また子ども同士の関係、遊び方、保育教材の有効性を理解する。	3～5 歳児のビデオ視聴により実際の子どもと保育者の姿を理解し、仲間関係を築く力を育てるうえでの保育者の援助のあり方についてディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
8	教科書の第 9 章を読む。園生活に焦点を当てて、子どもの自立心や自律心がどのように育つかについて理解する。また単なる子どもの集まりから互いに支えあい分かち合う意味ある集団に育つ過程を理解する。		印刷授業
9	教科書の第 10 章を読む。園生活のなかでの子ども同士の活動を通して、子ども達が自分の役割や立場に責任を持ち、主体的に行動するための援助を学ぶ。どの子どもも仲間同士の関係のなかでで互いに認め合い、自己発揮できる機会をもつような保育者の援助を考える。		印刷授業
10	教科書の第 8 を読み、理解する。子ども達が人との関係を育てていくなかで必要なポイントを知る。特に主体性・自発性、自立性、協同性、創造性等、一人ひとりの子どもに保障されるべき活動や育ちが保育のなかで実現されているかを検証するための評価の視点を学ぶ。		印刷授業
11	現代の保護者を取りまく状況を理解し、子育て支援を考える。保護者がおかれている状況や生育歴を理解し、保護者の子育てを支えるためには、保護者理解から始める必要があることを学ぶ。子どもの健全な成長・発達を願う大人同士として、保護者と保育者が共に協力関係を築いていく重要性を理解する。	保育者とかかわるなかでの保護者の行動事例を取り上げ、望ましい支援の方法を習得する。保護者支援の実際では、どのような言葉かけや支援の方法があるのかを保護者の心理を読み取りながら、望ましい対応の仕方を知る。実際にロールプレイを行い、意見交換を行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
12	小学校との連携における「人間関係」の課題を、文献や教科書第 11 章等を読み、理解する。幼児期と学童期の育ちの連続性の視点から、幼児期以降の子どもの人とのかかわりに必要な学びを考え、その学びが幼児期の学びの何が基盤となっているかを考察する。		印刷授業
13	子どもの人間関係の力を育む指導案の構成および作成について理解する。実際の保育場面を想定し、子どもの人間関係の姿をみとり、ねらいを設定し、具体的な活動と援助のあり方を含めた指導案を作成する。	子どもの人間関係の力を育む指導案を作成する。グループディスカッションを行い、指導案作成における留意点を理解し、改善する。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
14	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）を行うために、人とかかわる力を育てる環境構成について考察する。	実際の保育状況を想定して、人とかかわる力を育てる観点から環境構成を考え、発表しあいディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
15	模擬保育による検討（発表およびディスカッション）を行うために、「人とかかわる力を育てる保育者のかかわり方」について考察する。	実際の保育状況を想定して、人とかかわる力を育てることに向けての保育者のかかわり方を考え、発表しあい、ディスカッションを行う。	印刷授業 及び 面接授業 (2 時間)
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	スクーリング修了試験　　５０％ 授業中の課題への取り組み　　５０％ 総合点　　１００点 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
１題	１題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】園生活において、子どもひとりひとりが大切にされながら豊かな人とのつながりが保障されるために、保育者としてどのような支援が必要か述べよ。

＜ポイント＞
子どもはさまざまな大人とのかかわりや子ども同士のかかわりのなかでどのように育つのか、発達段階ごとの特徴を説明したうえで、園生活において、どの子どももひとりひとりが大切にされながら豊かな人とのつながりが保障されるために、保育者としてどのような支援が必要か記述すること。

科目終了試験学修のポイント

１．子どもの社会化について
＜ポイント＞
社会的存在としての人間・子どもの意味と、そのために求められる資質・能力について考える。

２．「仲間」から「集団」について
＜ポイント＞
「仲間」から「集団」が形成される過程で、保育者が留意する点について理解する。

３．領域「人間関係」の「ねらい」と「内容」について
＜ポイント＞
「ねらい」と「内容」の意味を正確に捉えて、そこで重視されている点についてまとめる。

４．人とのかかわりの育ちと言葉について
＜ポイント＞
自己表現、自己抑制、他者受容、葛藤体験の意味を捉えて、その際に言葉が果たす役割について考察する。

５．保育者と子どものかかわりについて
＜ポイント＞
子どもの「人とかかわる力」を育成する際の保育者の指導・援助の留意点について考える。

６．園のなかでの子ども同士の関わりについて
＜ポイント＞
子ども同士の関わりの特徴を捉えて、園での望ましい活動の内容についてまとめる。

教科書

岸井慶子・酒井真由子　編著　『コンパス　保育内容　人間関係』　建帛社。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領』
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』厚生労働省『保育所保育指針』

科目コード	保育内容（表現）（２単位）	登録年次	履修方法
1222/1224		1222：１年 1224：２年	ＳＲ
教員名	岡林純子、岡村弘、加藤雅子、駒井美智子、仁藤喜久子、畠山むつ実、林麻由美、持田京子		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

科目概要

乳幼児は日常生活や遊びの中で、イメージを自由に膨らませながら豊かな表現を見せてくれる。保育者には、そのような乳幼児一人ひとりのあるがままの姿を捉え、意志のある「表」と無意識のうちに現れる内的変化である「現」をそれぞれ大切に受け止めるための理解力を身につけることが必要である。

本講義では、講義と演習を通して、乳幼児における表現の意味を理解し、表現の萌芽に気づき、その表現に対し、適切に対応できる応答力を身につける。

到達目標

1. 保育内容「表現」のねらいと内容について理解し、説明することができる。
2. 乳幼児の発達段階による「表現」の違いを理解し、説明することができる。
3. 自ら表現することにより、自己発見、自己認識を経て、保育者自身が豊かな表現者となるよう、自己表現力を高める。
4. 乳幼児の「表現」を支える保育者の役割について理解し、説明することができる。
5. 乳幼児の「表現」を援助するための方法を身につける。

学修内容

	印刷授業	面接授業	授業方法
1	保育内容「表現」の歴史的変遷について調べまとめる。 ・保育内容「表現」となった背景を知ることで、保育の中で捉えられる「表現」の特殊性を理解する。「表現」する以前にある、諸感覚を駆使しての諸々との出会いのために、五感と保育との関わりについて調べる。	オリエンテーション（授業概要） 保育における「表現」とは何か 五感を研ぎ澄まし表現する身体の準備	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
2	領域「表現」のねらいと内容の意味を理解する ・現在の幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育所保育指針における、領域「表現」の考え方，それらの評価の仕方はどのようなことか。領域「表現」のねらいと内容をよく読み、その考え方，評価方法を理解する。	保育内容「表現」のねらいと内容，子どもの発達と表現の捉え方について学ぶ。 自分に向き合い自己表現	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
3	表現する身体の獲得のため、バランスのとれた身体とはどのようなものか理解する。 ・世界がリズミカルな調和のとれたものであることを理解し、そのリズムに反応できる身体を作るため、保育でどのようなリズム活動が行われているか調べる。	リズミカルな身体を創る　（リズム遊び・リトミックの理解）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
4	表現する身体は、音楽に合わせた遊びを通して獲得される。 ・わらべうた等、遊びと一体となった歌について調べる。遊びという動作を伴うことでリズム感が育ち、複数で遊ぶことで人間関係や社会性が育まれることを理解する。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽，生活，道徳につながる力を育む。	身体遊びと音楽　（わらべうた遊び等）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
5	子どもの歌を分析することで、特徴と魅力を理解する。 ・歌は詩であるので、まず朗読によって詩の世界を理解する。言葉にどんな特徴があり、何が歌われ、どのように音楽がつけられているか調べる。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽，国語につながる力を育む。	子どもの歌の特徴と魅力　（詩を朗読し歌い感じ考える。） 子どもが歌うということはどのようなことか	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
6	季節に着目することで、行事やそれに関わるあらゆること、動植物や自然、命について観察し、感じ、考える。 ・保育で大切にされる行事は、それを通して季節の特徴やその移り変わりに伴って起こる様々な変化、命の移ろいに気づく機会となる。行事を軸にそれぞれの季節で注目すべき事象を調べる。さらにこれらを通じて小学校教育における生活につながる力を育む。	季節を感じて伝える（絵，写真，実物を見て語る）	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）

7	造形に対する感性と表現について理解する。 ・保育現場で、子どもが豊かな造形活動を経験するために、まず既成の概念を捨ててものに出会い、その造形的表現の可能性について試行する。さらにこれらを通じて小学校教育における図画工作につながる力を育む。	素材との出会い①（素材～水，紙，石，ひも，葉等を使っての色，形の表現探索）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
8	造形に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・様々な素材による様々な表現について知り、造形的思考力と「表現」について理解することで保育現場での造形的表現を育むにはどのような指導方法があるか調べて、実践できるようにする。さらにこれらを通じて小学校教育における図画工作につながる力を育む。	素材との出会い②（色，形の表現発表，鑑賞，意見交換，振り返り）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
9	音・音楽に対する感性と表現について理解する。 ・保育現場で、子どもが豊かな音や音楽を経験するために、まず既成の概念を捨ててものに出会い、その音による表現の可能性について試行する。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽につながる力を育む。	素材との出会い③（素材～水，紙，石，ひも等を使っての音の表現探索，個々の素材の音の紹介）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
10	音・音楽に対する感性と表現について、保育現場での指導方法を考察する ・様々な素材による音の表現を集合体にすることで音楽となる過程を考え、保育現場で音の表現、音楽的表現を育むにはどのような指導方法があるか調べて、実践できるようにする。さらにこれらを通じて小学校教育における音楽につながる育ちを育む。	素材との出会い④（音の発表，いくつかの素材の音を重ねる，鑑賞，意見交換，振り返り）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
11	子どもの豊かな感性と表現を育むために、どのような環境を整えるべきなのか、環境と表現の関わりについて理解する。 ・子どもの豊かな感性を育む環境とはどのような環境であるか、様々な視点から考えられるように調べる。時間、空間、人間関係、健康状態も考慮すべき点である。様々な園での環境設定の取り組み（情報機器を含む）も調べる。	中間のまとめ（表現のコアとなる体験の振り返り，他領域との関連）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
12	表現を育てる保育者の役割と保育教材について考察する。 ・子どもたちが楽しみながら表現技術を身につけるには、日々の生活の中でどのような指導が求められるか。 道具（身体も含む）を使った具体的な表現技術の指導方法，情報機器の併用及び教材としての可能性についても取り上げ、その方法と留意点を考察する。	保育指導と教材	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
13	領域「表現」のねらいや内容を参考に、「表現」を育む指導案を立案し実践する。 ・領域「表現」のねらいや内容を参考に、指導案を自分なりに「環境構成」「子どもの動き」「保育者の援助」を考えて作成してみる。	指導案を作成する	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
14	模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける。 ・模擬保育の事例の分析を行うために、保育者としてどうあるべきか、保育集団のありようについて調べる。	事例の分析から改善点を見つける	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
15	保育内容「表現」のこれまでと今後の課題について考察する ・保育内容「表現」の学びを振り返った上で、今後、保育者が考えるべき課題についてまとめる。	まとめ（保育内容「表現」における今後の課題）	印刷授業 及び 面接授業 （1 時間）
			面接授業：合計 15 時間

学生に対する評価		
	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	授業へ参加意欲・態度、表現演技・文章　　総合点の５０％ スクーリング修了試験　　総合点の５０％ 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100 点～90 点）　B+（89 点～80 点）　B（79 点～70 点） C（69 点～60 点）　F 不合格（59 点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】表現を育てる保育者の役割について、テキストの内容を参考に自分の考えを述べよ。

＜ポイント＞
領域「表現」のこれまでとこれからをまとめること。それをもとに、現代社会で必要となる、保育者の具体的な役割や指導方法などのアイデアを自分なりにまとめること。

科目終了試験学修のポイント

１．日常生活のなかの私たちの表現について
＜ポイント＞
表現は特別の活動に限定されるものでなく、日々の保育の中の普通の行為であることに留意する。

２．領域「表現」の意味について
＜ポイント＞
「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」の領域「表現」のねらいと内容を、よく読み理解することが必要である。

３．乳幼児の「表現」と発達について
＜ポイント＞
保育において乳幼児の「表現」とその発達をどのような視点から見ることが必要かを理解する。

４．表現を育てる保育者の役割について
＜ポイント＞
領域「表現」の考え方を基に具体的に自分の言葉で考察する。

５．領域「表現」のこれまでとこれからについて
＜ポイント＞
これまでの「表現」の指導とその結果起きた問題点も含め、今後の保育現場で求められる「表現」の指導を考察する。

６．保育者自身の感性を磨くためにはどうしたらよいか
＜ポイント＞
保育者自身も自分の身体を知り表現すること、さらに幼児の表現にかかわる文化をどのように学び伝えるかを具体的に考察する。

教科書

小林紀子・砂上史子・刑部育子 『新しい保育講座　保育内容「表現」』 ミネルヴァ書房。

参考文献

無藤隆　監修『事例で学ぶ保育内容　領域表現』萌文書林。
佐伯胖/藤田英典/佐藤学 編『シリーズ学びと文化⑤表現者として育つ』東京大学出版会。
東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。
井口佳子『幼児期を考える―ある園の生活より―』相川書房。
萩原元昭『幼児の保育と教育』学文社。
幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）

科目コード	保育内容総論（2単位）	登録年次	履修方法
7391/7392/7393		2年/1年	SR
教員名	氏家博子、大塚絹子、岡林純子、加藤博子、河合光利、駒井美智子 坂本真理子、戸田大樹、持田京子、山口悠紀子、山崎摂史		
教職区分	「領域及び保育内容の指導法に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		

科目概要・到達目標

保育内容の５つの領域(保育所は「養護」的内容が加わる)は保育実践では分断されて行われるものではない。具体的な生活や遊びの中では、それらが丸ごと含まれているので、実践の中で総合的に捉える視点をもてるようにし、保育を進めていけるように学ぶ。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	「保育内容総論」とはなにか 教科書を読んで、科目全体の内容を確認する。	保育者養成課程の「保育内容総論」	印刷授業及び面接授業（1時間）
2	第1章　保育と保育内容（生活と遊びの関係） 保育とは何か、第1章を読解し内容を整理する。	子どもの発達と保育内容―幼稚園教育要領、保育所保育指針における各領域のねらい、内容、指導上の留意点をふまえて―	印刷授業及び面接授業（1時間）
3	第2章　乳幼児期の発達の特徴と保育内容 第 2 章を読解し、乳幼児期の発達について確認し、整理する。	子ども理解・保育理解と保育内容 －子ども観と保育観の理解－	印刷授業及び面接授業（1時間）
4	第3章　乳幼児の発達と保育内容の実際（0から2歳） 第 3 章を読解し、乳幼児の発達と保育内容について整理する。	子ども理解・保育理解と保育内容－子ども観・保育観と保育内容－	印刷授業及び面接授業（1時間）
5	第4章　3歳児以降の保育内容 第4章を読解し、3歳児以降の保育内容を整理する。	保育所保育指針の理解、及び保育所における幼児の経験と発達に即した保育と、小学校における教科とのつながりを考える	印刷授業及び面接授業（1時間）
6	第5章　保育内容と保育形態 第5章を読解し、保育形態について考える。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び幼稚園における幼児の経験と発達に即した保育と、小学校における教科とのつながりを考える	印刷授業及び面接授業（1時間）
7	第6章　保育内容の歴史変容 第6章を読解し、内容を整理する。	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解、及び認定こども園法・制度の理解と保育内容	印刷授業及び面接授業（1時間）
8	第 7 章　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領との違い 第7章を読解し、内容を整理する。幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領も見ておく。	情報化社会における保育の課題―情報機器や教材の望ましい活用法とは―	印刷授業及び面接授業（1時間）
9	第8章　乳幼児の環境と保育教材について 第 8 章を読解し、乳幼児の環境と保育教材についてポイントを確認しておく。	教育課程・保育の全体計画と指導計画、及び指導案の作成	印刷授業及び面接授業（1時間）
10	第9章　学校教育の基礎とする幼児教育 第9章を読解し、学校教育の基礎を調べ、まとめる。	指導案の作成をふまえた模擬保育（乳児対象）と保育の評価	印刷授業及び面接授業（1時間）
11	第10章　保育者の専門性 第10章を読解し、保育者の専門性を調べ、まとめる。	指導案の作成をふまえた模擬保育（幼児対象）と保育の評価（1） ―保育者の子どもへの関わりを中心として―	印刷授業及び面接授業（1時間）
12	第11章　「保育内容総論」の学び 第 11 章を読解し、「保育内容総論」の全体像をまとめ、整理する。	指導案の作成をふまえた模擬保育（幼児対象）と保育の評価（2） ―保育実践における環境の再構成を中心として－	印刷授業及び面接授業（1時間）
13	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読解し、各要領のポイントをまとめる。	保育内容の歴史的変遷	印刷授業及び面接授業（1時間）
14	第2回から第6回までのまとめ 第 1 章～第 5 章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。	乳幼児の環境と保育教材	印刷授業及び面接授業（1時間）

15	第6回から第12回までのまとめ 第6章～第11章について確認・整理して保育内容総論のまとめを各自でする。 保育内容総論についてのノート整理をする。	授業内容のまとめとポイントの検証	印刷授業及び面接授業 （1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】なぜ、子どもの活動を総合的活動として5領域から捉えるのか，その意義と問題について述べよ。

＜ポイント＞
子どもの意識や構え等に着目すること。活動の中に含まれる５領域のあり方、相互性等に着目すること。

科目終了試験学修のポイント

１．保育内容を捉える視点「領域」について
＜ポイント＞
保育内容とは何か確認する。

２．生活と遊びの関係について
＜ポイント＞
子どもの生活は遊びである。遊びから学ぶものは何かを学ぶ。

３．保育教材の活用について
＜ポイント＞
保育教材の種類と目的について学ぶ。

４．保育形態について
＜ポイント＞
多様な保育形態と保育内容について学ぶ。

５．保育の指導計画について
＜ポイント＞
子どもの発達に即した指導計画のあり方について学ぶ。

６．保育の中で子どもの発達を捉える際の留意点について
＜ポイント＞
子どもの発達について確認し学修する。

教科書

横山文樹・駒井美智子 編著 『保育を学ぶシリーズ2　保育内容総論』 大学図書出版。

参考文献

保育所保育指針（平成29年3月告示　厚生労働省）（必携）
幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）（必携）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』ひかりのくに。

科目コード	保育表現技術演習（２単位）	登録年次	履修方法
7990		３年	ＳＲ
教員名	氏家博子、岡林純子、駒井美智子、林麻由美、持田京子		

科目概要

本教科は保育における言語的な表現技術を学修し、保育に関する基礎理論、保育内容、保育技能等、学修した知識・技能をこの保育表現技術の中で活かし、それらの体験を通して、保育における表現技術をスキルアップし、総合的に深めていくことを目的としている。同時に保育者に求められる人間性の醸成をはかっていくものである。

学修内容

1	シラバスの確認・授業展開及び期末課題の確認 保育とは何か、確認する。
2	保育とは何か・意義と目的（保育の質と組織活性化について）
3	保育教材の意義と保育活動における教材の必要性について
4	保育教材の三機能について（教育性・興味性・児童性）
5	保育教材の支援と援助について（二重の支援について）
6	保育教材の必要性について 何故保育教材は必要なのか、保育者の表現力について考える。 （おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本等）
7	保育教材の作成企画 おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本等　実際に作成企画案をたてよう。
8	保育教材の作成① おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等　実際に作成しよう。
9	保育教材の作成② おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等　実際に作成しよう。
10	保育教材の実践 おはなし・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・絵本・手遊び等　実践しよう。
11	保育教材の実践の反省と課題① 保育教材の効果と今後の課題について整理しまとめる。
12	保育教材の実践の反省と課題② 現代社会の子どもを取り巻く環境において保育教材の効果を考える。
13	保育教材の実践の反省と課題③ 現代社会の子どもを取り巻く環境において保育教材の効果を考える。
14	幼児の発達段階に即した保育教材とは何か、整理しまとめる。 統合保育・多文化保育等についても考える。 日常保育活動の中での保育教材を考え整理する。
15	保育者の表現力を育てるにはどうしたらよいか。 身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現　自分自身の自己点検をし、課題をみつけよう。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】保育者が総合的な表現を身につけるためには日常的にどんな事に心がけたらよいのか述べよ。

＜ポイント＞

次の点を踏まえて述べること。

1．保育者には総合的な表現力（身体表現・言語表現・音楽表現・造形表現）が要求される。

2．子どもにとって「良いモデル」になる保育者となるためにはどうすればよいか。

3．保育者は受容することが大切である。

科目終了試験学修のポイント

1．保育者が表現力・発表力（プレゼンテーション能力）を身につけるにはどうしたらよいか述べよ。

＜ポイント＞

保育内容を進める上で、保育者自身の表現力・発表力の向上は最も重要であるから、自分自身のこととして具体的に考えること。

2．子どもの表現力を高めるために保育者に必要なことについて

＜ポイント＞

上記1．とも関連付けて考える。保育者自らが表現しない限り子どもの表現は育たない（模倣・成長）。

3．子どもに表現力が必要なのはなぜか

＜ポイント＞

人間関係を築くためには表現が必要である。表現力はコミュニケーションの道具であることを考える。

4．日常保育の中で子どもが表現力を高める保育内容について

＜ポイント＞

表現活動には、言語表現・音楽表現・身体表現・造形表現がある。

5．保育者に「豊かな表現力」が必要なのは何故か。自分の言葉で表現すること。

＜ポイント＞

幼児期の形成はやがて人間が人間として生きていくための基礎となる。

6．保育園や幼稚園の行事における「おゆうぎ会」の必要性について

＜ポイント＞

行事を行うことの意味について考える。「おゆうぎ会」は発表することで表現力への自信を育てる。

教科書

駒井美智子、他『すぐに使える笑顔いっぱいあそびのレシピ』大学図書出版。

参考文献

咲間まり子『保育原理』大学図書出版。
関口はつ江、他『実践理解のための「保育内容総論」』大学図書出版。
駒井美智子、他『保育者をめざす人のの保育内容「言葉」』みらい社。
厚生労働省『保育所保育指針』。
文部科学省『幼稚園教育要領』。

科目コード	法学（憲法を含む）（４単位）	登録年次	履修方法
1185		１年	R
教員名	梶原洋生、鳥越由紀子、永井紹裕		

科目概要

憲法第２５条は「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)を保障しているが、この実現のためには、様々な社会保障、社会福祉の諸制度やそれに関わる行政機関への手続きが必要となる。そのため社会福祉の専門家にとって、憲法、民法、行政法（特に生活保護法や児童福祉法など社会福祉に密接に関連する法律）の基礎知識を学ぶことは重要である。この科目では、社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法(中でも親族法、相続法)、行政法については、条文や判例の検討なども含めて研究する。

学修内容

1	法の本質と目的（テキスト 1 頁～） 社会生活の秩序の維持を図ることが法の本質であると理解する。 社会には、構成員が、守らなければならない規範がある。道徳、しきたり、習俗、法などがその例であるが、法は、その中で国家権力が保障する強制力を有する規範である。法の目的、法と道徳のちがいについて理解すること。
2	法源（テキスト 7 頁～） 成文法と不文法という法の存在形式（法源）を学修する。 法の存在形式である法源は、成文法としては、制定法（憲法・条約・法律・政令・省令・規則・条例など）がある。不文法としては、慣習法・判例法・条理法があることを理解する。
3	慣習法と判例法（テキスト 10 頁～） 不文法の中の慣習法と判例法の重要性を把握する。 慣習法とは、何か、慣習法の成立要件について理解する。判例法とは、何か、判例の拘束力について理解する。学説や条理についても理解する。
4	法の体系（テキスト 14 頁～） 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称することを覚える。 法は、憲法を頂点として、法律、政令、省令、規則のほか、地方の条例・規則が存在し、段階的構造を構成している。これらの法は、①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類されることを理解する。
5	法の効力（テキスト 18 頁～） 法の妥当性と実効性を考察する。 法の実質的効力、法の妥当性と実効性、法の効力の範囲（時間的効力の範囲、場所的効力の範囲）、法律不遡及の原則などについて理解する。
6	法の適用と解釈（テキスト 21 頁～） 法の解釈方法の違いを見きわめる。 法の適用とは、具体的事実に対して法をあてはめることをいう。法の適用にあたり、法の解釈が行われる。法の解釈として、まず、有権解釈として、立法解釈・行政解釈・司法解釈があることを理解する。つぎに学理解釈として、文理解釈と論理解釈があり、論理解釈は、さらに拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、反対解釈，勿論解釈、歴史解釈などがあることを理解する。
7	憲法の基礎（テキスト 26 頁～） 憲法の意味とその基本原理を学修する。 憲法の意味については、実質的意味の憲法と形式的意味の憲法があることについて、理解する。大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程も理解すること。また、日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について、理解すること。
8	立法と国会（テキスト 39 頁～） 国会の権限を知る。 国会は、国民の代表機関であること、国権の最高機関であること、唯一の立法機関であることを理解する。二院制、両議院の任期、衆議院の優越、参議院の緊急集会、会期、会議の原則、国会議員の身分と特権、国会の権能，議院の機能について理解する。
9	行政と内閣（テキスト 50 頁～） 内閣の機能を考える。 行政の概念と内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任などについて理解する。
10	司法と裁判所（テキスト 60 頁～） 裁判所の役割をつかむ。 司法権は、民事事件、刑事事件、行政事件の裁判をすべて行うことを理解する。裁判所の構成としては、最高裁判所、高等裁判所、地方裁判所、簡易裁判所、家庭裁判所があることを理解する。司法権の独立、違憲立法審査権について理解する。
11	人権の概念とその限界（テキスト 65 頁～） 基本的人権の思想史とその種類を学修する。 新しい人権（プライバシーの権利、知る権利、環境権、平和的生存権）を理解する。外国人の人権、教育の義務・納税の義務・勤労の義務について理解する。公共の福祉と人権制約、法の下の平等について理解する。

12	自由権（テキスト 83 頁～） 自由権の種類とその内容を研究する。 精神的自由（思想及び良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由）について理解する。経済的自由（居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障）について理解する。人身の自由（奴隷的拘束及び苦役からの自由、適正手続の保障、刑事手続における自由）について理解する。
13	社会権（テキスト 96 頁） 社会権の種類とその存在価値を検討する。 プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説について理解する。教育を受ける権利について理解する。労働基本権について理解する。
14	受益権（テキスト 108 頁～） 受益権の種類とその事例を考察する。 請願権、賠償請求権、裁判請求権、刑事補償請求権について理解する。
15	参政権（テキスト 112 頁～） 参政権の種類とその意義を理解する。 参政権の法的性格として、公務員の任命権、選挙権について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
2題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】憲法の定める自由権（特に精神的自由）について述べよ。
＜ポイント＞
精神的自由の意義について考えること。その上で、思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由、表現の自由、それぞれについて論述すること（代表的な判例が一部含まれていることが望ましい）。

【設題２】環境権について論ぜよ。
＜ポイント＞
環境権の法的位置づけや内容、性格について、具体例を挙げながら考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．法と道徳との違いについて
＜ポイント＞
①法の概念、②法と道徳の関係、③法と道徳の差異

２．日本国憲法の基本原理について
＜ポイント＞
①日本国憲法の制定、②基本的人権の尊重、③国民主権、④平和主義

３．国会の権能について
＜ポイント＞
①憲法改正の発議、②法律の議決、③内閣総理大臣の指名、④予算の議決、⑤条約の承認、⑥弾劾裁判所の設置

４．法の下の平等について
＜ポイント＞
①明治憲法下での不平等、②法の下の平等の意義、③不合理な差別、④他の平等規定

５．社会権について
＜ポイント＞
①社会的弱者の救済、②生存権（25 条）、③教育を受ける権利（26 条）、④勤労の権利（27 条）と労働基本権（28 条）

６．新しい人権について
＜ポイント＞
①新しい人権の登場、②プライバシーの権利、③知る権利、④環境権、⑤平和的生存権

教科書

三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。

参考文献

『図解による法律用語辞典』自由国民社。
丹羽重博『やさしい法学・第３版 』法学書院。
伊藤正己『憲法入門・第４補訂版』有斐閣。
山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

科目コード	法学（憲法を含む）（２単位）	登録年次	履修方法
1186/1188		1186：２年 1188：１年	R
教員名	有働文雄、梶原洋生、鳥越由紀子、永井紹裕		

科目概要

憲法第２５条は「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)を保障しているが、この実現のためには、様々な社会保障、社会福祉の諸制度やそれに関わる行政機関への手続きが必要となる。そのため社会福祉の専門家にとって、憲法、民法、行政法（特に生活保護法や児童福祉法など社会福祉に密接に関連する法律）の基礎知識を学ぶことは重要である。この科目では、社会福祉における法の作用や役割を学び、社会福祉の専門家として必要とされる法律の基本的知識を習得する。また、憲法、民法(中でも親族法、相続法)、行政法については、条文や判例の検討なども含めて研究する。

学修内容

1	法の本質と目的（テキスト１頁～） 社会生活の秩序の維持を図ることが法の本質であると理解する。 社会には、構成員が、守らなければならない規範がある。道徳、しきたり、習俗、法などがその例であるが、法は、その中で国家権力が保障する強制力を有する規範である。法の目的、法と道徳のちがいについて理解すること。
2	法源（テキスト7頁～） 成文法と不文法という法の存在形式（法源）を学修する。 法の存在形式である法源は、成文法としては、制定法（憲法・条約・法律・政令・省令・規則・条例など）がある。不文法としては、慣習法・判例法・条理法があることを理解する。
3	慣習法と判例法（テキスト10頁～） 不文法の中の慣習法と判例法の重要性を把握すとる。 慣習法とは、何か、慣習法の成立要件について理解する。判例法とは、何か、判例の拘束力について理解する。学説や条理についても理解する。
4	法の体系（テキスト14頁～） 国会が制定するものを法律と呼び、行政機関が制定するものを命令と称することを覚える。 法は、憲法を頂点として、法律、政令、省令、規則のほか、地方の条例・規則が存在し、段階的構造を構成している。これらの法は、①公法と私法②一般法と特別法③実体法と手続法などに分類されることを理解する。
5	法の効力（テキスト18頁～） 法の妥当性と実効性を考察する。 法の実質的効力、法の妥当性と実効性、法の効力の範囲（時間的効力の範囲、場所的効力の範囲）、法律不遡及の原則などについて理解する。
6	法の適用と解釈（テキスト21頁～） 法の解釈方法の違いを見きわめる。 法の適用とは、具体的事実に対して法をあてはめることをいう。法の適用にあたり、法の解釈が行われる。法の解釈として、まず、有権解釈として、立法解釈・行政解釈・司法解釈があることを理解する。つぎに学理解釈として、文理解釈と論理解釈があり、論理解釈は、さらに拡張解釈、縮小解釈、類推解釈、反対解釈，勿論解釈、歴史解釈などがあることを理解する。
7	憲法の基礎（テキスト26頁～） 憲法の意味とその基本原理を学修する。 憲法の意味については、実質的意味の憲法と形式的意味の憲法があることについて、理解する。大日本帝国憲法と日本国憲法の制定過程も理解すること。また、日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について、理解すること。
8	立法と国会（テキスト39頁～） 国会の権限を知る。 国会は、国民の代表機関であること、国権の最高機関であること、唯一の立法機関であることを理解する。二院制、両議院の任期、衆議院の優越、参議院の緊急集会、会期、会議の原則、国会議員の身分と特権、国会の権能，議院の機能について理解する。
9	行政と内閣（テキスト50頁～） 内閣の機能を考える。 行政の概念と内閣の地位、議院内閣制、内閣の組織、内閣の権能、内閣の意思決定、内閣の責任などについて理解する。
10	司法と裁判所（テキスト60頁～） 裁判所の役割をつかむ。 司法権は、民事事件、刑事事件、行政事件の裁判をすべて行うことを理解する。裁判所の構成としては、最高裁判所、高等裁判所、地方裁判所、簡易裁判所、家庭裁判所があることを理解する。司法権の独立、違憲立法審査権について理解する。
11	人権の概念とその限界（テキスト65頁～） 基本的人権の思想史とその種類を学修する。 新しい人権（プライバシーの権利、知る権利、環境権、平和的生存権）を理解する。外国人の人権、教育の義務・納税の義務・勤労の義務について理解する。公共の福祉と人権制約、法の下の平等について理解する。

12	自由権（テキスト83頁～） 自由権の種類とその内容を研究する。 精神的自由（思想及び良心の自由、信教の自由、表現の自由、集会・結社の自由、学問の自由）について理解する。経済的自由（居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由、職業選択の自由、財産権の保障）について理解する。人身の自由（奴隷的拘束及び苦役からの自由、適正手続の保障、刑事手続における自由）について理解する。
13	社会権（テキスト96頁） 社会権の種類とその存在価値を検討する。 プログラム規定説・抽象的権利説・具体的権利説について理解する。教育を受ける権利について理解する。労働基本権について理解する。
14	受益権（テキスト108頁～） 受益権の種類とその事例を考察する。 請願権、賠償請求権、裁判請求権、刑事補償請求権について理解する。
15	参政権（テキスト112頁～） 参政権の種類とその意義を理解する。 参政権の法的性格として、公務員の任命権、選挙権について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 日本国憲法に定める自由権，とりわけ精神的自由権について詳述せよ。

＜ポイント＞
自由権にはどのようなものがあるか。精神的自由権の内容について詳述せよ。

科目終了試験学修のポイント

1．日本国憲法の法の下の平等について
＜ポイント＞
法の下の具体的内容について述べよ。

2．日本国憲法の基本原理について
＜ポイント＞
①日本国憲法の制定、②基本的人権の尊重、③国民主権、④平和主義

3．日本国憲法が規定する国会の権能について
＜ポイント＞
①憲法改正の発議、②法律の議決、③内閣総理大臣の指名、④予算の議決、⑤条約の承認、⑥弾劾裁判所の設置

4．日本国憲法における生存権と教育を受ける権利について
＜ポイント＞
生存権の法的性格及び教育を受ける権利の内容について述べよ。

5．日本国憲法が規定する議院内閣制について
＜ポイント＞
議院内閣制の意義及び特徴と日本国憲法に規定されている議院内閣制を述べよ。

6．日本国憲法における司法権独立について
＜ポイント＞
司法権独立の意義とその内容及び裁判官の職権の独立との関係について述べよ。

教科書

三好充、他『ポイント法学』嵯峨野書院。

参考文献

『図解による法律用語辞典』自由国民社。
丹羽重博『やさしい法学・第3版』法学書院。
伊藤正己『憲法入門・第4補訂版』有斐閣。
山本豊『判例・通説を基調とした法学・憲法』学校図書。

科目コード	保健と食と栄養（２単位）	登録年次	履修方法
6680	※幼稚園教諭免許状既取得者のみ履修可	１年	R
教員名	石本強、菅沼太陽、橋本由利子		

科目概要

幼稚園教諭免許を有する者が保育士資格を取得するために新たに作られた教科目で、保育士養成課程の教科「子どもの保健Ⅰ」と「子どもの食と栄養」の２つの科目の要素を含んでいる。したがって、幼稚園等での勤務経験により一定の経験を積んでいることを考慮し、「子どもの疾病と保育」、「安全管理」及び「食育の基本と内容」のほか、幼稚園等での勤務経験では得られない内容等を中心に学修し、知識を深める必要がある。さらに、保育現場において実践できる能力を身につけることが求められている。

学修内容

1	子どもの疾病と保育 ① 子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴及び予防と適切な対応
2	子どもの疾病と保育 ② 子どもの生活環境と精神保健・子どもの心の健康とその課題
3	栄養に関する基本的知識 ① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	栄養に関する基本的知識 ② 食事摂取基準と献立作成・調理の基本
5	子どもの発育・発達と食生活 ① 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活、母乳哺育の意義
6	子どもの発育・発達と食生活 ② 幼児期・学童期の心身の発達と食生活
7	食育の基本と内容 ① 食育における養護と教育の一体性
8	食育の基本と内容 ② 食育の内容と計画・評価及び環境
9	食育の基本と内容 ③ 地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援
10	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ① 疾病及び体調不良・障害のある子どもへの対応
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ② 食物アレルギーのある子どもへの対応
12	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ① 保育環境整備と保健
13	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ② 母子保健対策と保育
14	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ③ 保育現場における自然環境及び施設の衛生管理
15	保育環境の保健・衛生管理と安全管理 ④ 保育現場における事故防止と安全対策・危機管理

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 小児期区分ごとの発育・発達と食生活について述べよ。

＜ポイント＞

小児期は新生児期、乳児期、幼児期、学童期、青少年期に分けられる。その各々の区分ごとの発育・発達と食生活について整理してみよう。

科目終了試験学修のポイント

1．子どもの健康状態の把握と主な症状のみかたと対応について

＜ポイント＞

健康であることの意味を理解し、発熱、発疹、意識障害、嘔吐、下痢などの症状の見方と対応について代表的な症状についてまとめてみよう。

2．子どもの生活環境と精神保健・子どもの心の健康と課題について

＜ポイント＞

家族関係、文化・教育環境、社会環境について理解を深めると同時に、小児期区分ごとにみられる精神保健についてまとめてみよう。さらに、虐待や発達障害についてもまとめてみよう。

3．栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能について

＜ポイント＞

栄養素の種類について学修すると同時に、三大栄養素の体内での消化および吸収についてまとめてみよう。

4．食育における養護と教育の一体性について

＜ポイント＞

給食のときに、子ども達に食材、調理方法、献立についての知識を深めさせ、同時に味覚を発達させよう。

5．食物アレルギーのある子どもへの対応について

＜ポイント＞

食物アレルギーによって惹き起こされる症状、食物によるアナフィラキシーの臨床的重症度アナフィラキシー・ショックへの対応、保育所における食物アレルギーへの対応についてまとめてみよう。

6．保育現場における事故防止と安全対策・危機管理について

＜ポイント＞

事故について理解を深めると同時に、発達段階ごとにみられる事故と対応、安全教育、危機管理救急救命法について整理しておこう。

教科書

岩田力、前澤眞理子　他『子どもの保健・健康と安全　―理論と実際―』同文書院。

上田玲子編著『子どもの食生活』ななみ書房。

東京福祉大学編『保育児童福祉要説』中央法規。

参考文献

巷野悟郎、他『子どもの保健ー理論と実際ー』同文書院。

科目コード	養護原理（２単位）	登録年次	履修方法
2381		２年	R
教員名	氏家博子、田中利則		

科目概要

児童養護は、一度だけの相談、助言、指導や治療によって終わるものではなく、ある一定の期間にわたって、意図的・継続的に展開される日々の活動を通じて行われるものであることを認識する必要がある。そこで本科目では、児童養護に関する理念と考え方、児童養護の役割や形態、児童養護の歴史的変遷など、基礎的知識を学修する。そして、実際に福祉現場に出たときに必要な知識・技術を身につけるために、児童養護に関する事例ケースを基に、ケースワークやグループワークなどの方法について分析する。

学修内容

1	現代社会の環境や家庭の機能の変容 ＜経済不況が続き、同時に核家族化が進むなかで、女性の社会進出が促進され、家庭機能が外部委託化される中で、家庭の機能や役割が変化したり、破綻したりする事態を迎えている。＞
2	現代社会の現状と課題 ＜少子高齢化やグローバリゼーションが進む中で、競争社会、経済格差、高学格差、自殺者の増加、生活保護家庭の増加、生活環境の変化、労働環境の悪化、地域社会の崩壊等、大人や子どもの生活や心身に多様な影響を与えかねない状況が散見されている。＞
3	現代社会における児童及び母子・父子家庭が抱える問題 ＜児童の養育機能や教育機能の低下、不登校、非行、ひきこもり、児童虐待、DV の増加、、離婚の増加（母子家庭・父子家庭の増加）、等の問題が生じ、福祉的支援の必要性が高まってきている。＞
4	現代社会における社会的養護に意義 ＜近隣住民とのコミュニケーションや親戚関係、友人・知人の関係が希薄化してゆく中で、これらに代わる公的・私的な福祉サービスや取り組みが必要となりつつある。加えて、家庭や福祉施設における支援ばかりではなく、家庭養護や家庭的養護等の家庭の代替となる支援システムの充実の必要性に迫られている。＞
5	社会的養護の歴史的変遷と今日的課題 ＜社会的養護の充実のために、法制度やサービス自体は随時改善が実施されてきた。これらの状況の中で、国家財政の不安定さや経済状況、社会情勢、雇用や就労条件が不安定になることにより、家庭の状況はゆらぎ、保護者や子どものニーズは増大しやすくなっている。＞
6	社会的養護の制度と実施体系 ＜社会的養護の制度を推進する柱となっているのは児童福祉法及び児童福祉施設最低基準、総合障害者支援法などである。これらに基づいた実施体系は、福祉施設や家庭養護、家庭的養護に分けられ、それぞれの要支援児童や保護者の支援を実施している。＞
7	児童の権利擁護 ＜児童は生まれながらにして、健全な保護者(親)の庇護（親権）の下で大人と同様に多様な人間としての権利を有している。その中で彼等の権利を擁護するための専門機関（児童相談所や保健所・警察の生活安全課等）や専門職（社会福祉士や精神保健福祉士・保育士等）が支援を実施している。＞
8	施設養護の理念と施設養護の原理と援助 ＜施設養護は要保護児童を入所させて養育し、且つ彼等に必要な支援を行い、同時に家庭や児童の幸福に寄与することを目指しており、児童の最善利益や安全・安心の保障、ニーズを的確に把握する等の原理を背景とした養育や教育、治療、家族の再統合等を実現するための取り組みが行われている。＞
9	社会的養護の領域（家庭養護） ＜一般家庭と同等の機能や役割を果たすために、家庭養護として要保護児童を受け入れ、家庭の代替としての里親やファミリーホーム等の機能を活用し、当該児童の心身の成長や感情を豊かにする試み、学習支援、進路指導等を実施している。＞
10	社会的養護の領域（施設養護） ＜施設養護には、24 時間 365 日養護を実施する入所施設やグループホーム、ディケアを行う通所施設等がある。その中で、近年は入所施設の小規模化や通所施設の充実に力が注がれている。＞
11	施設養護の実践 ＜施設養護は、施設の小規模化を促進し、可能な限り家庭の代替機能を果たすことを目的として活動を推進している。また、それぞれの利用者のニーズに応じた施設やサービス、専門性の高いスタッフや設備、建物が整えるように努めている。加えて、近年は地域住民の相談援助にも機能を拡充している。＞

12	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術① ＜社会的養護を実践するスタッフには、豊かな人間性や多様な利用者とかかわる力、適切な倫理感の獲得が期待されているが、同時に、一般社会人に勝るとも劣らない社会常識やエチケット、マナーを身につけることも欠かせない。＞
13	社会的養護の実践者に求められる専門性と援助技術② ＜社会的養護にかかわるスタッフは、ケアワークやソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ファミリーソーシャルワーク、看護技術等を用いて利用者の支援を実施する。＞
14	施設運営管理及び経営 ＜施設は利用者に必要な福祉サービスを組織体として適切、且つ効果的に機能するために健全な運営管理が期待されるとともに、リスク管理や福祉サービスの内容や質の管理等も求められている。＞
15	理想とする社会的養護と支援の内容や質 ＜近年、ノーマライゼーション理念の浸透が図られる中で、一般家庭と同様の環境や設備、雰囲気、人間関係、近隣住民との交流、社会への参加、利用者の多様な進路の選択と支援等に力が注がれている。＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】児童養護の意義と基本原理について述べよ。

＜ポイント＞

施設養護では、児童のためにいろいろな働きかけをしているが、その意義は児童の基本的な権利に基づき児童の成長・発達や社会的自立等を支援することにあり、支援に当たっては、施設養護の基本原理を踏まえる必要がある。施設職員は日常生活の中で、児童の何に着目し、どのような基本原理に基づいて指導をしているか、基本原理の1つを挙げながら、その実践内容について考察すること。

科目終了試験学修のポイント

1．社会的養護及び児童養護の意義と基本原理について

＜ポイント＞

社会の状況・家庭のゆらぎ・児童の発達成長の歪曲化・社会的養護の必要性・児童養護の意義と必要性

2．児童養護の制度と社会的養護の特質について

＜ポイント＞

児童憲章や児童福祉法の願い・社会的養護の必要性及び有効性・家庭養護及び家庭的養護の充実

3．社会的養護と日常生活及び自立支援について

＜ポイント＞

養育に欠ける児童と社会的養護の意義や役割・日常生活及び余暇などの支援・自立及び就労支援・アフターケア

4．社会的養護と親子・地域との関係調整について

＜ポイント＞

親子の日常支援・親子の関係調整・地域社会での親子の生活の再構築

5．社会的養護に関わる職員の資質について

＜ポイント＞

ヒューマニズム・専門的知識・専門技術・ネットワークの創出及び充実

6．児童支援におけるチームワークについて

＜ポイント＞

社会資源の充実・社会資源の開発・人材の育成・多様なチームアプローチ網の創出及び充実

教科書

小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

山縣文治、他『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房。
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座15　児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度』中央法規。
片山義弘『相談援助』北大路書房。

科目コード	養護内容（２単位）	登録年次	履修方法
7111		３年	ＳＲ
教員名	田中利則、姫野建二		

科目概要

学生は、居住型児童福祉施設の創設の意図や目的について、座学や演習を通して学ぶ。また、同時に施設を利用する子どもへの理解を深めるとともに、福祉施設が内在する機能や役割、サービスの内容について学ぶ。さらに、児童の心身の成長や発達を保障し支援するために必要な知識や技術、環境について学修し、適切な児童観を育て、かつ施設養護の有効性について学修する。加えて、地域社会と居住型児童福祉施設の関係性についても理解する。

学修内容

1	養護内容とは何か ＜養護内容とは、家庭の代替として、児童の最善の利益を最優先課題として保護・増進するために、要保護児童を対象として社会の公的な責任で保護し、当該児童の状況に相応する養育を行い、児童が心身共に健康に育つように保障するための実践分野のことである。＞
2	養護内容の基本的視点 ＜養護内容の基本的な視点として重要視する必要があるのは、対象児童の心身の安全や権利擁護のための取り組み、利用者や保護者からの苦情解決の取り組み、支援者としての倫理や責務等である。＞
3	養護内容を進める際の基本的方向性 ＜養護内容の基本的方向性としては、家庭養護・家庭的養護の推進、専門的ケアの充実、自立支援の充実、家族支援・地域支援の充実、リービングケア、相談支援・アフターケア等による予防ケアの充実等である。＞
4	施設養護の現状と課題① ＜施設養護の現状と課題については、施設内における暴力や虐待が近年、一層問題視されていることを背景として、あらためて利用者の人権擁護に向けた援助技術の向上のためのスーパービジョンの活用や倫理観を意図した研修・取り組み、研修等が必要不可欠となってきている。＞
5	施設養護の現状と課題② ＜利用者自身や家庭の状況、利用者のニーズの把握・分析、支援計画の作成、支援の実際、支援の評価、フィードバック等の流れを理解する必要がある。＞
6	施設における支援の実際① ＜法制度の改正に伴い、施設の小規模化や職員の労働状況の内容や質の変化が進んでいる中で、利用者のアメニティの推進やインターンシップ体制の確立、就労支援と自立するための支援、相談支援、アフターケア等の理解が必要である。＞
7	施設における支援の実際② ＜施設支援において実際の中で必要とされるのは、利用者に寄り添う支援や成長・発達を促進するための支援、退所や自宅での生活のシミュレーション、社会活動の参加に向けた支援を重要視するとともに、関係機関とのつながりを強めておく必要がある。＞
8	児童福祉施設・機関における支援の実際① ＜施設支援の実際においては、ADL や IADL の獲得は当然のこと、保護者や家族とのつながりを再構築したり、日常の生活日課や行事、利用者個々に応じた個別指導、余暇指導にも力を注いだりしていく必要性がある。＞
9	児童福祉施設・機関における支援の実際② ＜適切な養護内容の実践を行うためには、スタッフの技術や知識、専門性、一般常識、福祉観、価値観、隣接分野に関する知識を日常的に身につけたり磨いたり、あるいは接遇やマナー、エチケット等に関する知識や技術の獲得は必要不可欠である。＞
10	養護内容の実践を行うための専門的技術① ＜養護内容の充実を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクレーションやグループワーク等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品、生活のリズムの提供等に関する工夫は必要不可欠である。＞
11	養護内容の実践を行うための専門的技術② ＜養護内容の充実（利用 QOL）を図るためには、施設の住環境の整備に関する考え方や建物の設計・施工・設備面から考えた整備に関する工夫の方向性、ケアや支援・レクリエーション等に関する工夫、それぞれの利用者のニーズに合わせた住環境や設備、嗜好品の提供等に関する工夫は重要である。＞
12	利用者支援とリスク管理 ＜施設において利用者の権利擁護に力を注ぐための一環として、スタッフが支援する際に利用者の心身を傷つけたり、人権を侵害する危険性は多分に生じやすい。また、利用者・保護者（親）のプライバシーの厳守は欠かせない。そのために、これらの事態を回避するためのリスクの徹底した管理は大切な事柄である。＞

13	養護内容を受け持つ施設の役割と運営管理にあり方 ＜養護内容は受け持つ施設の役割は、基本的には、家庭の代替を務め、要保護児童の現在、抱えている問題や将来に向けて考えられる課題などを克服するために継続的な支援を実施する必要がある。その中で重要視したいのは、組織の健全化とスタッフ間のコミュニケーションの適切な管理である。＞
14	施設実習に向けて必要とする知識 ＜施設実習に向けて必要とする知識は、当該施設に関する法制度や関連情報、一般社会常識、施設での支援で必要とされる知識、そして利用者の家庭背景や主訴、障害や難病に関する情報、データ等である。＞
15	今後の展望と課題 ＜社会や経済財政の安定化は、社会的養護内容の充実にとっては重要な問題である。その中で、社会福祉の制度の脆弱化や職員不足やモチベーションの低下が問題視される中で、利用者の権利擁護の問題が一層着目されるようになってきている。これらを背景として、施設養護の適正化や維持・向上は欠かせないものとなってきている。＞

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】あなたの関心のある児童福祉施設を1つ選んで、その目的および利用者の状況、支援の実際と課題について、あなたの意見を記述してください。

＜ポイント＞
それぞれの児童福祉施設について、どのような対象者が施設を利用者し、如何なる支援が提供されていて、当該施設が抱えている問題や課題はどのようなものかについて着目して説明すること。

科目終了試験学修のポイント

1．養護実践の基本的な考え方について
＜ポイント＞
社会的養護・児童施設の必要性と基本的な理念・社会的養護の実施体制

2．児童福祉施設の種類や利用者の状況について
＜ポイント＞
養護系施設(家庭養護・家庭的養護・施設養護)・障害系施設（医療系施設・福祉系施設)・情緒行動系施設

3．児童福祉施設における利用者の入所理由について
＜ポイント＞
家庭の破綻・家庭の代替・養育困難・虐待・非行・障害

4．児童福祉施設における職員の支援内容について
＜ポイント＞
支援・相談支援・集団支援・家庭支援・地域支援・就労支援・アフターケア

5．児童福祉施設と地域社会
＜ポイント＞
ノーマライゼーション・エンパワメント・ストレングス・コミュニティ・ソーシャルワーク

6．児童福祉施設と社会資源との連携について
＜ポイント＞
児童委員（民生委員)・児童相談所・福祉事務所・保健所・社会福祉協議会・ハローワーク・警察（生活安全課)・大学病院

教科書

小野澤昇、他『子どもの生活を支える社会的養護』ミネルヴァ書房。

参考文献

小木曽宏、他『よくわかる社会的養護』ミネルヴァ書房。
「子どもが語る施設の暮らし」編集委員会『子どもが語る施設の暮らし』明石書店。

科目コード	幼児教育方法論（２単位）	登録年次	履修方法
4470/4471/4472		4470/4471 ２年 4472：１年	ＳＲ
教員名	浅野菜津子、大塚絹子、岡林純子、駒井美智子、坂本真理子 杉山憲江、鈴木美子、戸田大樹、堀建治、持田京子		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		

科目概要・到達目標

本科目では、幼児期における保育方法の基礎的な理論と実践について学修する。また実際の保育の場で必要とされる「環境の構成」及び「活動の状況や一人一人の幼児に応じた援助」について理解し身につけるとともに、教材研究、活動の展開、保育形態、評価の在り方などを学び、指導案の作成方法を理解する。さらに情報機器を使用した教材の作成や活用に関する基礎的知識、幼児の情報活用能力（情報モラルを含む）の芽生えを培う指導法等を学修する。

学修内容			授業方法
	印刷授業	面接授業	
1	保育方法の基本、保育方法の原理について（テキスト第１章）(科目終了試験学修のポイント　1) 保育の基本的理念､子ども観や保育観についての理解を深める。	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の確認。－幼児教育の目的と方法の関係理解	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
2	環境を通しての教育とは（テキスト第１章）(科目終了試験学修のポイント　1) 幼児期にふさわしい教育の基本としての「環境」について､その意義と環境構成の方法について具体的に学ぶ。	幼児にとっての環境（環境の種類）－具体的な事例から相互作用を理解	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
3	遊びを通しての教育とは（テキスト第１章）(科目終了試験学修のポイント　1) 幼児期にふさわしい生活をとらえる視点としての「遊び」について、特性、遊びのなかの学び、総合的な指導について学ぶ。	子どもの発達段階と遊び―同種の遊びにおける遊び方の違いと保育上の配慮について理解する。	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
4	幼児の主体性の育成について（テキスト第２章）(科目終了試験学修のポイント　2) 幼児期の特徴としての主体性について考える。 子どもの主体性と保育者の意図、計画性、役割について考える。	遊びにおける子どもの自発的な行動―　遊びの事例毎に環境構成, 保育者のかかわり等を考え、グループで検討	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
5	学びをはぐくむ遊びの内容（テキスト第３章）(科目終了試験学修のポイント　3) 遊びに含まれる「感じる・気づく・試す」という視点で遊びをとらえたとき､どのような学びの可能性があるか考える。	砂・泥・水・光・風にかかわって感じたりしながら子どもが遊びを生み出していく DVD を視聴－、	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
6	「環境を通しての教育」を展開するために、幼児の興味・関心、自発的な活動を引き出す遊具、材料、場や空間の構成、雰囲気等の具体的な理解を深め、カウンセリングマインドを生かした援助についても理解を深め、実践力を身に付ける。	環境の構成の具体例を検討するとともに､子どもが伸びようとする方向の把握と必要な援助の判断, ポイントなど保育者の援助についての討論､ロールプレイなど	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
7	さまざまな保育形態（テキスト第４章）(科目終了試験学修のポイント　4) 一斉保育、自由保育、異年齢保育、プロジェクト・アプローチ、ティーム保育等さまざまな保育形態の意義、メリットとデメリット、保育者の留意点などについて考える。	多様な保育形態について調べて発表	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)
8	保育における指導計画の基本的事項―幼児の心身の発達、保育のねらいや内容、活動の選定、生活の流れに沿った保育者の援助や留意点等―についての理解を深め、指導案計画の作成に活かす。	保育のねらいや内容、環境の構成と幼児の活動、保育者の援助などを理解し一日の生活の指導計画を作成	印刷授業 及び 面接授業 (１時間)

9	保育における省察と記録、実践と評価（テキスト第5章）（科目終了試験学修のポイント　5）　について学ぶ。 保育における省察と効果的な記録のあり方、保育の評価と計画のかかわりについて理解を深める。	様々な保育記録の事例を通して効果的な記録のあり方を検討する。 指導と評価の一体化について理解する。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
10	今日の電子機器及び教材の急速な進展を考慮に入れて、乳幼児期の情報機器利用状況について学び、個に応じた教育・保育の観点からをどのように取り入れることができるかについて、さらに情報モラルの芽生えをどのように育てていくかについて考える。	保育者としての役割を適切に果たすために、「メディアの受信者」「メディアの活用者」「発信者」としての乳幼児期の能力の発達について知識や意識を高める	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
11	幼児理解や保護者との連携、幼稚園の運営等への情報機器の効果的な活用の仕方について学ぶ。	保護者との信頼関係を築いたり、保育者相互の協力関係を深めたりするための情報機器の活用について考える。	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
12	幼児期の教育と小学校教育との接続・連携（テキスト第6章））（科目終了試験学修のポイント　6） 幼稚園や保育所と小学校における連続性、保育者や小学校教師との連携について学ぶ。	幼稚園・保育所における子どもの活動の様子と就学後の小学校での様子の映像による理解	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
13	家庭との連携を生かした保育（テキスト第7章）（科目終了試験学修のポイント　6） 家庭と園、保護者と保育者など相互に役割を補完し合うトータルな保育環境作りや援助について考える。	多様な連携の方法―面談の方法、便りの事例などを具体的に理解	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
14	地域との連携を活かした保育（テキスト第7章）（科目終了試験学修のポイント　6） 地域のさまざまな資源や教育力を活用する保育のあり方について考える。	身近な地域の資源の活用例の情報交換―保育展開における位置づけの確認	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
15	保育のボーダレス化と多様な保育形態（テキスト第8章）（科目終了試験学修のポイント　4）　統合保育、多文化保育についての意義、方法、配慮事項について幼児を取り巻く社会変化と関連づけて学ぶ。	近年の子育て環境の変化、保育者の役割、今後の向けての保育理念等について―発表と意見交換	印刷授業 及び 面接授業 （1時間）
			面接授業：合計15時間

学生に対する評価	面接授業（スクーリング）の評価と印刷授業（レポート、科目終了試験）の総合評価 （面接授業または印刷授業のどちらかに不合格がある場合、単位は付与されない）	
	面接授業 評価基準	総合点１００点：スクーリング修了試験　総合点の50%、参加態度・課題提出　総合点の50% ■居眠りなどで、授業・作業に非協力的な場合は、退出してもらい、その時間は欠席とします。 欠席の場合、再受講が必要となります。
	印刷授業 評価基準	レポートの評価と科目終了試験の評価の総合評価 ＜評価点＞　A（100点～90点）　B+（89点～80点）　B（79点～70点） C（69点～60点）　F不合格（59点以下）

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児とともに生活をつくっていく保育者の役割について、具体的な事例（個及び集団）を取り上げながら述べよ。

＜ポイント＞
幼児期には幼児の主体性をはぐくむために、保育者の深い幼児理解、確かな発達観が保育者には求められる。
幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に述べられている保育者の役割、日々の保育における記録の意味や省察・評価にも着目すること。
事例は自分自身がかかわったものについては年齢・時期・場所を、文献から取り上げる場合は参考文献名を記載すること。

科目終了試験学修のポイント

1．幼児期にふさわしい教育の方法について
＜ポイント＞
環境を通しての教育、遊びを通しての指導など、幼児にふさわしい教育の方法について考察する。

2．幼児の主体性をはぐくむ保育について
＜ポイント＞
子どもの主体性、保育者の意図、保育における保育者の役割について考察する。

3．遊びのなかの学びをはぐくむための援助について
＜ポイント＞
遊びと学びの関係、遊びを規定する要因、遊びのなかでの幼児の気づき、友だちとのかかわりについて考察する。

4．保育方法としての保育形態について
＜ポイント＞
一斉保育、自由保育、統合保育など、保育の様々な形態についてその内容と特性について理解する。

5．保育の評価について
＜ポイント＞
保育における評価の意義、省察と記録の重要性について、保育とのかかわりのなかからどのようにとらえていくべきか、考察する。

6．家庭、地域社会や小学校との連携が生かされる保育について
＜ポイント＞
地域での子育て支援、幼保小（保幼小）連携など、園が地域や他の機関と連携しあって保育することの意義について考察する。

教科書

小田豊、他『保育の方法・内容を知る　幼児教育の方法』北大路書房。

参考文献

幼稚園教育要領（平成29年3月告示　文部科学省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示　内閣府・文部科学省・厚生労働省）
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。
文部科学省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館。
文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』ぎょうせい。

科目コード	幼児体育（２単位）	登録年次	履修方法
7122		１年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、大塚絹子、沖雅美、菅家沙由梨、佐藤友樹 清水信好、西田希、仁藤喜久子、濵野ゆうり、山内健次		

科目概要

保育士・幼稚園教諭は、子どもたちの運動遊びや身体表現の場において、言葉による指導・助言のみに頼るのではなく、保育者自身が視覚教材となり得るような動作やしぐさを身につけなければならないことを理解してほしい。したがって、身体運動に関する基本的な知識（幼児期に体得すべき基礎的動作・基本的運動を含む）の理解を深めるとともに、自身の運動能力を高めるためのプログラム、遊びの要素を取り入れながら幼児体育で取り扱う運動遊び・ゲーム・身体表現等に関する教材研究を行う必要がある。また、運動遊びにおける安全管理および安全教育に必要な知識を学修する。

学修内容

1	幼児体育の意義について 幼児体育の必要性、スキャモンの発育曲線 現代社会におかれている子どもたちを取り巻く環境を理解し、また、スキャモンの発育曲線を理解することにより幼児期の遊びの必要性を確認する。
2	幼児期の運動遊びについて 特に昭和初期から戦後、現代社会の乳幼児の生活から児童期へ 歴史的な動向を深めるとともに、昔の遊びと現代の遊びの特徴を考える。また、遊びによって人間関係構築への影響にも検討する。
3	遊びの必要性について① 遊びが乳幼児へ与える影響、運動能力測定とその活用 昔の遊びと現代の遊びを検討しつつ、乳幼児への発育発達（走る・跳ぶ・投げる・バランス等）への影響を学ぶ。
4	遊びの必要性について② 固定遊具の遊び方を考える、幼児への影響、安全指導 固定遊具の特徴の理解を深め、遊び方を工夫してみる。また、子ども自ら危険を察知できるように指導方法を考える。
5	指導計画① 対象に合わせた指導案作成（体育的遊び） 年齢・障がいに合わせた指導案を作成する。注意する点は、子どもが楽しみながら行えるようにすること。また、無理はさせないように計画すること。
6	指導計画② 対象に合わせた指導案作成（マット・鉄棒・跳び箱遊びなど） 年齢・障がいに合わせた指導案を作成する。注意する点は、子どもが楽しみながら行えるようにすること。また、無理はさせないように計画すること。
7	模擬保育① 対象に合わせた指導案の実践 計画した指導案を実践する。ロールプレイングにより実施し、終了後、振り返りを行う。
8	模擬保育② 対象に合わせた指導案の実践 計画した指導案を実践する。ロールプレイングにより実施し、終了後、振り返りを行う。
9	乳幼児の安全教育 事故の実態と原因、安全管理、安全教育 園内・園外においての事故について学修する。そして、事故を起こさないための方法を検討し、事故が起きてしまった後の対応についても検討する。
10	乳幼児の運動遊びの実際① 人と関わる・自然と関わる 乳幼児の運動遊びは、親・保育者・友だちとの関係で行われる。その中で自我がめざめたり社会性が育まれることを理解する。また、自然と触れ合うことの重要性も理解する。
11	乳幼児の運動遊びの実際② 物と関わる・遊具と関わる 乳幼児の運動遊びにおいて、砂・土などいろいろな物と関わりあいながら感性を育むことの大切さを理解する。また、遊具に触れながらその特徴と危険を回避できる能力を育てる点も重要である。
12	乳幼児の運動遊びの実際③ 素材と関わる 乳幼児の運動遊びにおいて、新聞紙・粘土・折り紙などの素材を通して遊びを工夫させたりし創造力や感性を育む方法を学ぶ。

13	表現遊び 　リズム遊び、音楽を使った遊び 　乳幼児は音楽を聴くと自然と手足などリズムを取り始める。その音楽を使ってリズム遊びやリズム運動につなげ運動能力を高めたい。
14	創作リズム体操 　創作・練習・発表会リハーサル・発表会 　運動会・リズム発表会などで使用するリズム体操を創作し、発表する。リズム体操を創作する手順や動きを学修し、現場で実践できるように学修する。
15	学修内容の振り返りとこれからの幼児体育 　子どもたちを取りまく現代において、子どもたちの将来、自ら考え、行動する能力を育むために、幼児体育を通して何ができるのか、また、どのように保育者が考えておかなければならないのかを検討する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児期の運動遊びの必要性について述べよ。

＜ポイント＞

次の点を踏まえて述べること。

・スキャモンの発育曲線から何を読み取るか

・幼児期から児童期のあそびとその効果

・体力の分類

科目終了試験学修のポイント

1．幼児体育の必要性について

＜ポイント＞

スキャモンの発育曲線、幼児の運動能力、子どもの体力低下

2．伝承遊びの種類とその効果について

＜ポイント＞

伝承あそびとは、体力の分類

3．鉄棒・跳び箱・マット遊びの指導とその効果及び注意点について

＜ポイント＞

それぞれの特徴、体力の分類、幼児の運動能力

4．縄遊びの指導とその効果及び注意点について

＜ポイント＞

縄跳びの特徴、体力の分類、幼児の運動能力

5．リズム運動の効果について

＜ポイント＞

リズム運動の特徴、表現力、幼児の運動能力

6．安全管理や緊急時の対応について

＜ポイント＞

指導案作成時の注意点、健康チェック、予想されるケガ、応急処置、緊急時の手順

教科書

井上勝子『すこやかな子どもの心と体を育む運動遊び』建帛社。

参考文献

河田隆編著『幼児体育教本』同文書院。
山口智之著『幼児体育～応用編～』タイケン出版。
日本幼児体育学会編『幼児体育～専門～』大学教育出版。
柴岡三千夫著『幼児体育指導教範』日本幼少年体育振興協会。
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』

科目コード	幼児理解（２単位）	登録年次	履修方法
7251/7252/7253 7254/7255/7256		１年/２年	R/SR
教員名	稲香代子、岡林純子、坂本真理子、戸田大樹、持田京子		
教職区分	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」 各科目に含めることが必要な事項：幼児理解の理論及び方法		

科目概要・到達目標

保育は、幼児一人ひとりの発達の特性に応じ、発達の課題に即した指導、援助を行うことが重要である。そこで、本科目では、幼児一人ひとりの行動や内面の理解、発達を適切に把握できるよう、ビデオ等も利用し保育の基本のあり方、幼児の生活の実際、指導、援助方法、留意する点、保育記録の意味等について学ぶ。

学修内容

1	保育方法の基本、保育方法の原理について（科目終了試験学修のポイント１） 幼児をとらえる保育者としての基本的な姿勢についての理解を深める。
2	乳幼児の理解と保育方法（科目終了試験学修のポイント１と６） 幼児をとらえる視点としての内面の理解、発達理解について学ぶ。
3	環境による保育とは 保育における「環境」という概念について学び、環境を構成することの重要性を考える。
4	環境による保育とは 保育における効果的な環境構成と保育実践について考える。
5	遊びによる総合的指導とは（科目終了試験学修のポイント２） 子どもや保育にとって「遊び」とはどのような意味を持つのか考える。
6	遊びにおける総合的指導とは（科目終了試験学修のポイント２） 保育における遊びを通じた総合的指導とは何かについて考える。
7	保育における個と集団とは 集団で生活する中での育ちの特徴、集団の中で育つ個人の育ちについて考える。
8	子どもにふさわしい園生活の展開とは（科目終了試験学修のポイント３） 保育集団の作り方や一日の過ごし方など、保育形態について学ぶ。
9	発達の時期に応じた保育のあり方（科目終了試験学修のポイント６） 入園当初の時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。
10	発達の時期に応じた保育のあり方（科目終了試験学修のポイント６） 仲間と協力し合い、学びあう時期の発達の特性や発達に応じた援助、配慮について学ぶ。
11	保育の計画と実践 保育における指導計画やその実際、効果的な記録について学ぶ。
12	行事を生かした保育の展開（科目終了試験学修のポイント４） 保育における様々な行事を行う目的と保育の中での活かし方について学ぶ。
13	家庭・地域・小学校との連携を生かした保育（科目終了試験学修のポイント５） 様々な機関や人と連携しながら子どもの育ちを援助することについて考える。
14	さまざまな工夫が求められる保育 障害や文化の違いなど、違いを受け入れながら共に育つための保育について考える。
15	保育者の成長と保育実践の深まり 保育者としての成長や子ども理解、実践の深まりとはどのようなものか考える。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】なぜ環境による保育が幼児教育では求められるのか述べよ。

＜ポイント＞

幼稚園教育要領や保育所保育指針にふれ、幼児期の特性や幼児の生活と学びの特性などに着目すること。

科目終了試験学修のポイント

1．幼児の姿をより深くとらえるための保育者の姿勢について

＜ポイント＞

共感的理解、カウンセリングマインド、保育観など、子どもを見つめる保育者のまなざしについて考える。

2．遊びを通しての総合的指導について

＜ポイント＞

遊びの意味、総合的指導、保育の5領域など、子どもの育ちにおける遊びと学びについて考える。

3．保育形態について

＜ポイント＞

縦割り保育、自由保育など、保育の様々な形態についてその内容と特性について考える。

4．行事を生かした保育の展開について

＜ポイント＞

行事を行う意味と意義、行事を保育に活かすとはどのようなことか、考えること。

5．地域や小学校との連携が生かされる保育について

＜ポイント＞

地域の子育て支援、幼保小（保幼小）連携など、園が地域や他の機関と連携しあって保育することの意義について考えること。

6．保育者に求められる発達的理解について

＜ポイント＞

発達段階、発達課題など、子どもの育ちを保育の中でどうとらえていくべきか、考えること。

教科書

大豆生田啓友・渡邉英則　編著　『新しい保育講座6　保育方法・指導法』　ミネルヴァ書房。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館。

文部科学省『幼稚園教育指導資料第3集「幼児理解と評価」』ぎょうせい。

高嶋景子、砂上史子、森上史朗編『最新保育講座3　こども理解と援助』ミネルヴァ書房。

科目コード	幼稚園教育実習指導Ⅰ（１単位）	登録年次	履修方法
4670/4671		4670：２年 4671：１年	S
教員名	石渡宏、坂本真理子、篠大輔、畠山むつ実		

科目概要

教育実習は、大学で習得した知識や理論を、幼稚園で実際に体験することにより、教育の理解を深め、実践力と教師の使命感を身につけ、教育職としての資質を向上させることを目的とする。

本授業では、実習の目的達成のための基礎知識や心構えを身につける。具体的には管理運営の理解（教育課程の管理、事務・教務、教育活動一般）、幼児および児童の発達と理解、教材研究、指導の方法、学級経営などについて講義や事例検討を通して学ぶ。また、教育実習における日誌や個人記録の取り方を体得し、このことを通して幼稚園教育の実際や各自の教師としての能力・適性について認識を深める。

学生は実習において、幼児および児童との生活や遊び、学習を中心とする様々な教育展開の方法を観察・実習体験し、課題や問題点を細部にわたって反省評価し、指導教師に指導・助言を受ける。その際、幼児および児童の一人ひとりの発達の状況や、家庭との連携の必要とその方法についても認識を広げる。

学修内容

1	講義概要　教育実習の意味 実習に向けての自己課題
2	子ども理解と援助・支援技術の理解 教育環境と子どもの実態
3	実習に必要な心構え、マナー、資質の理解
4	指導案、記入に必要な事項
5	子どもの活動と教師の援助、支援
6	指導案一枚の中の関連
7	指導案の作成 題材、活動内容等の記入
8	指導案の作成 援助、支援等の工夫
9	模擬保育・授業の実施 その１
10	模擬保育・授業の実施 その２
11	模擬保育・授業の実施 その３
12	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その１
13	子ども理解、実態把握からねらい、活動内容の再考察 その２
14	目指す授業と自己課題の再設定
15	まとめ

教科書

『教育実習（初等）の手引き』。

参考文献

文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館。

花篤實、他『造形表現　実技編』三晃書房。

科目コード	幼稚園教育実習指導Ⅱ（１単位）	登録年次	履修方法
4680/4681		4680：３年 4681：２年	S
教員名	石渡宏、加藤博子、坂本真理子、篠大輔、畠山むつ実		

科目概要

教育実習の目標は、大学で学修した知識、技術と一般的な教養を基礎とし、実際の教育現場において、経験豊かな指導教員の下で、幼児との触れ合いを通して、教員となるための基礎的な能力と態度（個別的指導、クラス指導、幼稚園行事等）を養うことにある。

本科目では、この目標を達成するために、幼稚園教育実習の反省や評価をもとに、これまで修得した専門知識を振り返り、幼児の生活や発達の理解、幼児の発達を促す指導の在り方（環境構成や教師の援助）についての学修を演習を通して一層深めていく。また、保育者に求められる専門的な知識の定着とともに、幼稚園教育をめぐる諸問題及び解決のための取り組み等について知見を広げ、専門性の向上を図る。

学修内容

1	幼稚園教育実習の感想及び課題等をまとめる（子どもとの関係、保育者との関係、保育の展開の仕方など）。 実習日誌や指導案の書き方等についての課題を整理する。
2	実習体験を振り返りながら、『実習の手引き』を参考に、『実習について』、『実習生として』、『実習に役立つ知識・危機管理』など、幼稚園実習の基礎・基本についての要点をまとめる。
3	幼小の連携について、その考え方や検討すべき課題、具体的な連携の例について調べる。 小学校以降の生活や学習の基盤とは何か、また、その育成の在り方をまとめる。
4	幼児教育をめぐる問題（少子化、核家族化、情報化、国際化、学歴社会等）について調べ、幼児の生活や発達に及ぼす影響、また幼稚園において取り組むべき課題などについて整理する。 家庭との連携や保護者の子育て支援の考え方や具体的な進め方等についてまとめる。
5	「環境を通して行う教育」の意義について復習し、理解を深める。 幼児の主体性を保障した保育はどのように展開するのかをまとめる。（計画の作成、保育実践、反省・評価）
6	３歳児～５歳児について、年齢別の生活や発達の特徴、指導のポイントなどについてまとめる。（事例研究）
7	実習体験を振り返り、部分実習指導案の作成に関わる自身の課題を明らかにする。 幼児の実態の把握の仕方、指導のねらいや内容の設定の仕方等について、教科書や参考文献等を読み、理解を深める。
8	幼稚園の一日を想像しながら、保育者（実習生）の役割や留意点等を調べる。 部分実習指導案と一日実習（責任実習指導案）違いと作成上の留意点をまとめる。 ※一日指導案の様式は『教育実習（初等）の手引き』掲載のものを使用する。
9	模擬保育（一日）指導案を作成に向けて、対象年齢、幼児の姿、季節や時期、幼稚園の規模、一斉に行う活動（※）、食事の仕方、登園時刻や降園時刻、一日の時間の区切り方などを検討し決定する。 ※一斉に行う活動は、絵本や紙芝居、歌や楽器遊び、体の動き、手遊び、絵画や製作、運動遊びなどから選定する。
10	模擬保育（一日）指導案の作成と教材研究①（素材や材料の準備、教材の作成や準備、試作や実技練習） ※一日指導案の様式は『教育実習（初等）の手引き』掲載のものを使用する。
11	模擬保育（一日）指導案の作成と教材研究②（素材や材料の準備、教材の作成や準備、試作や実技練習） ※一日指導案の様式は『教育実習（初等）の手引き』掲載のものを使用する。
12	模擬保育（一日）指導案について検討会（グループ又は個々で　科目担当教員も参加）
13	模擬保育（一日）指導案の改善と教材研究③（完成させた指導案と教材研究の結果をまとめて提出する）
14	指導の改善充実に生きる記録の取り方や反省・評価の仕方について調べる。 「省察」について調べる。 「幼稚園幼児指導要録」について調べ、指導要録の意義や作成の仕方について学修する。
15	保育者としての専門性をより向上させるために、今後力をいれて取り組みたいことをまとめる。

教科書

東京福祉大学『教育実習（初等）の手引き』。
文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成２０年１０月）フレーベル館。

参考文献

福本俊監修『幼稚園教諭・保育士のための実習ガイドブック』大学図書出版。
関口はつ江他『保育実習ハンドブック』大学図書出版。

科目コード	理科（２単位）	登録年次	履修方法
4320		２年	R
教員名	伊藤宗彦、有働文雄		

科目概要

理科とは、宇宙がどのようにできて現在の姿になったのか、生命はどのように誕生して進化してきたのか、ということを実験あるいは調査結果をもとに、科学的に検証していく学問である。

理科は物理学、化学、生物学、地学に大きく４分野に分けられているが、この授業では明確な境界を定めずに、自然現象について総合的に学んでいく。そして、科学的な目で物事を判断する基礎能力を身につけることを目標とする。

学修内容

1	宇宙がどのようにして誕生し現在の姿になったのか、科学雑誌を読み学修する。そして、当時の姿を自分なりの考えでまとめておくこと。
2	太陽系がどのようにして誕生したのか学修する。地球型惑星や、木星型惑星の成因を調べておくこと。また、地球が誕生した頃の地球の大気の成因を調べておくこと。
3	地球に生命が誕生した当時の大気状況を学修する。生命の基である有機物がどのようにして誕生したか調べておくこと。 １年を通じて、四季が起きる原因を地球の年周運動と結びつけて学修する。地球の自転や公転について調べておくこと。
4	生物が、どのようにして現在のようにあらゆる環境に適応してきたのか学修する。当時の地球の陸や海の様子を調べておくこと。
5	動物と植物の違いを学修する。地球の環境とそれに伴い動植物がどのように適応してきたか科学雑誌を読んで調べておくこと。
6	動植物の分化について学修する。地球の環境と突然変異による動植物の絶滅と繁栄について調べ、動植物の進化に着目してまとめておくこと。
7	生物の進化について学修する。生物が、地球の歴史の中でどのように進化してきたか、進化の過程を調べておくこと。
8	大地の変化について学修する。地球は、現在も絶えず変化していることを、地球内部の様子を調べその変化をまとめておくこと。 地震が起きる原因を学修する。大地の変化とプレートテクトニクスについて、科学雑誌などで調べておくこと。地球内部は、絶えず変化していることを理解する。
9	エネルギーの変換と保存について学修する。科学雑誌などで調べておくこと。
10	原子の構造とイオンについて学修する。科学雑誌などで調べておくこと。
11	地球の熱収支について学修する。太陽による地球の熱収支だけでなく、人類の活動による熱収支についても学修し、地球環境の変化を調べておくこと。
12	人類と生態系の結びつきを学修する。人類の繁栄とそれに伴う自然破壊がもたらす生活環境の変化を学修する。実際の生活環境の変化について調べておくこと。
13	人類の繁栄と地球環境の変化を学修する。地球温暖化（気候変動）や環境破壊の原因を調べる。現在の状況で進んだときの地球の未来について自分の考えをまとめておくこと。
14	人類の繁栄と環境破壊や温暖化（気候変動）を学修する。人類が生活するうえで、排出するゴミや二酸化炭素による環境破壊や地球温暖化（気候変動）について解決策をまとめておくこと。
15	人類の繁栄と生態系の破壊について学修する。自然と共生する社会のあり方を国・自治体・企業・個人の立場で考えたことをまとめておくこと。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき６～８枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題１】生命の誕生から動物・植物への分化、および進化について述べよ。

＜ポイント＞

約 38 億年前の海の中で生命は誕生したと考えられているが、動物と植物に分化し、独自の進化を行って現在に至っている。動物と植物を分けるものは何か、また種が大きく変化し、進化が爆発的に進んだ原因などについて考察すること。

科目終了試験学修のポイント

１．現在の大気はどのように形成されたか述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp. 6-7 をよく読み、当時の環境を学修し、古代の大気を調べる。

２．エコシステム（生態系：環境と生物のつながり）について述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp.46-57 をよく読み、環境問題が自然界に与える問題について自分の課題を明確にする。

３．太陽系における地球型惑星と木星型惑星の成因を述べよ。

＜ポイント＞

現在の太陽系がどのようにしてできたのか、教科書 pp.113-131 と pp.158-161 をよく読み、惑星のでき方について調べる。

４．地震はどうして起こるのか述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp. 178-181 をよく読み、地震が起きる原因を調べる。

５．地球温暖化の原因と対策を述べよ。

＜ポイント＞

教科書 pp. 53-57 をよく読み、地球温暖化（気候変動）の原因とその対策を考える。

６．物質を構成している原子はどのように形成されたか述べよ。

＜ポイント＞

ニュートンなどの科学雑誌を読み、全ての物質を構成している原子がどのようにして誕生したのか調べる。

教科書

後藤卓也『新しい教養のための理科 応用編Ⅰ－生命と地球－』誠文堂新光社。

参考文献

『ニュートン』などの一般向け科学雑誌。

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』東洋館出版社。

科目コード	理科指導法（２単位）	登録年次	履修方法
4200		２年	ＳＲ
教員名	伊藤宗彦、有働文雄、二村泰弘		

科目概要

国際化や高度情報化が進む今日では、科学技術の進展が目覚ましく、地球温暖化（気候変動）や環境汚染への関心も高まっている。しかしながら、わが国では次世代を担う若者の理科離れが深刻な問題となっている。

この科目では、そのような状況を踏まえた上で、小学生の頃から理科に興味を持ってもらうための指導法について勉強する。また、「小学校の各学年の理科の目標と内容」や「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」についても学び、教員採用試験に合格できる実力を身につける。

学修内容

1	新学習指導要領の改訂の経緯と理科教育の目標について学修する。学習指導要領解説理科編の pp. 1-19 をよく読み、中学校との系統性の重視・主体的な深い学びについてまとめておく。新学習指導要領に目を通しておくこと。
2	理科教育が求めている物の見方・考え方を学修する。特に、各学年で育成したい能力を理解すること。各学年の目標の下に書かれているので、よく読んでまとめておくこと。
3	理科離れを解消するために、理科好きになる手立てを学修する。学習指導要領解説理科編の pp. 18-19 をよく読み、物質・エネルギーと生命・地球に新たに位置づけられたことをまとめておくこと。
4	理科では、問題解決学習を学修する。児童が課題を見つけ、仮説を立てて検証し、課題解決をする学習である。自立解決の能力を育てるために、児童の興味を引く導入の仕方を教材ごとに考えておくこと。
5	理科では、天候や季節に左右される教材が多くある。天候や季節に左右される教材を洗い出し、年間指導計画を地域の実態に合わせて編成してみること。(植物の栽培・天体観察等)
6	教材研究と教材開発について学修する。事前に必ず予備実験をする。また、教材の基礎的基本的事項を調べておくこと。(薬品の薄め方・処理の仕方・種の保存・振り子の原理等)
7	理科の指導技術を学修する。理科室の使用について学習の約束を決める。短時間で準備や後片付けができる方法を考えておくこと。(実験器具等の基本的な取り扱い等)
8	理科の授業の発問・板書の仕方・ノートの取り方・グループでの話し合い等、学習の約束についてまとめておくこと。(ノートには必ず日付・天気等を書く、板書は児童の発想を活かす等)
9	実際には、目で見ることのできない教材について、どのような方法で見ることができるか学修する。目で見ることのできない教材を洗い出しておく。(植物の根の観察・血液の流れ・放射能等)
10	実験できない教材について学修する。各教材から実際に実験できなかったり、教室で見ることのできない教材を洗い出し、校外学習の計画を作成しておくこと。(地層・天体の動き等)
11	野外学習の留意点をまとめる。教師は必ず下見をすること。ねらいを明確にすること。安全面について確認すること。(野外学習が必要な教材を洗い出しておく)
12	理科の実験中の安全指導について学修する。特に、理科の実験中に気をつけることを洗い出しておくこと。(立って実験する・ノートをしまう等)
13	環境教育について学修する。各学年の教材から環境教育に関わる教材を洗い出し、その教材の始末についてまとめておくこと。
14	理科の指導案を作成する。略案でよいから１つ教材を選び、指導案を作成する。児童の意欲を引き出して、児童が自力解決していく指導展開を作っておくこと。(インターネットで調べてもよい)
15	理科の授業評価について学修する。評価の種類について調べ、理科で育成すべき能力についてどのように評価するか教育雑誌等を読みまとめておくこと。(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力、人間性　等)

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】 「小学生の理科離れを防ぐための方法」について述べよ。

＜ポイント＞

「小学生の理科離れを防ぐための方法」について、「小学校の理科の目標と内容」を踏まえた上で論述せよ。小学生の将来を考えた内容で、独創性のあるものが望ましい。

科目終了試験学修のポイント

1.「第3学年の理科の目標と内容」の概要について

＜ポイント＞

本学年では、学習過程において、自然の事由・現象の差異点や共通点に気づいたり、比較したりする能力を育成すること。つまり授業展開をするとき観察・実験等では比較したり、共通点を見つけたりすること。

2.「第4学年の理科の目標と内容」の概要について

＜ポイント＞

本学年では、学習過程において、自然の事由・現象の変化とその要因とを関係づける能力を育成すること。つまり、授業展開をするとき観察・実験ではどうして変化したのか、その原因を考える能力を育成すること。

3.「第5学年の理科の目標と内容」の概要について

＜ポイント＞

本学年では、学習過程において観察・実験などを計画的に行っていく条件制御の能力を育成すること。つまり、授業展開では観察・実験等をするときに計画的に条件制御を行う能力を育成すること。

4.「第6学年の理科の目標と内容」の概要について

＜ポイント＞

本学年では、学習過程において、自然の事由・現象の変化や働きについてその要因や規則性、関係を推論する能力を育成する。つまり、授業展開をするとき自然の事由・現象の変化や働きについて、その原因や規則性、関係を推論する能力を育成すること。

5.「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い」の概要について

＜ポイント＞

理科の教材は季節や天候に左右されるものが多い。そこで、地域の実態を把握して、各学校の地域の実態に合わせた指導計画を作成する必要がある。例えば、ジャガイモやヘチマは、南関東地区では3月の彼岸に植える必要がある。また、メダカはゴールデンウィーク頃に卵を産むので、地域の実態を調べないと観察できなくなる。

6.「実社会・実生活との関連を重視する内容」の概要について

＜ポイント＞

各学年で扱う教材のうちで、実社会や実生活に役立っている教材を調べる。例えば、水溶液の性質では処理の仕方を考え環境問題と結びつけられる。また、電気の通り道や電気の働きなどは、日常生活のどこに使われているか考える。光電池や風の働きも、実社会と関係がある。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編』東洋館出版社。

参考文献

小学校理科実践研究会『小学校新学習指導要領の展開』明治図書。
日置光久、田村正弘、川上真哉『教職課程実践講座　理科』ぎょうせい。

科目コード	臨床心理学（２単位）	登録年次	履修方法
2232/2235		2232：３年 2235：２年	R
教員名	新井雅人、荒井理帆、石川美智子、鎌田依里、佐野友泰、橋本景子、古谷大樹、三井三枝子		

科目概要

臨床心理学は、心理的な障害や問題に悩む人の適応や発達、自己実現を専門的に援助する実践について研究する学問である。そのため、まず、発達的観点からの臨床心理学的人間理解として、乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の心理的な課題と問題について学ぶ。また、心理アセスメントの様々な側面と方法について学び、さらに、様々な臨床心理学的援助の方法についても概説する。その上で、臨床心理学的実践の様々な領域についての学修を重ねて、実践的な臨床心理学的な視点や思考方法を身につけていく。

学修内容

1	臨床心理学とは何か、教科書 pp. 2－4 を精読して、精神医学との対比から理解する。
2	臨床心理学の学問的背景について、教科書 pp. 10－17 を熟読して、歴史的観点から理解する。
3	正常と病理の概念について、教科書 pp. 20－26 を塾読して、様々な観点からの理解を深める。
4	乳幼児期から児童期までの発達特徴と臨床心理学的な発達課題について学修する。教科書 pp.27－38 を熟読して、健康な発達の様相を理解した上で、それぞれの発達期の心理的問題について学修する。
5	青年期の心理と臨床心理学的問題を学ぶ。教科書 pp.38－45 を熟読し、青年期の発達課題と現代がもつ青年期の問題について理解する。
6	成人期と老年期の心理について学ぶ。教科書 pp. 45－54 を熟読し、それぞれが持つ発達的課題と危機について理解する。
7	心理アセスメントの理解（見立てと診断の違い）とその多様性を知る。教科書 pp.56－65 を通読し、実際の心理アセスメントについて理解する。
8	心理面接によるアセスメントについて、教科書 pp.66－76 を熟読し、実践的な方法と実際場面で起こりうる問題とその対応について学修する。また、教科書 pp.84－88 を熟読し、行動観察によるアセスメントについても理解する。
9	心理テストによるアセスメントについて、教科書 pp.77－83 を熟読し、心理テストを実施するにあたっての諸問題を理解し、その多様な種類とテストバッテリーについて学ぶ。
10	臨床心理学的援助の方法として、代表的なものを学修する。教科書 pp.90－112 を通読し、精神分析療法、行動療法、クライエント中心療法の考え方を理解する。
11	臨床心理学的援助の方法として、対話以外の方法を用いた心理療法について学修する。教科書 pp.113－131 を通読し、遊戯療法、芸術療法、催眠・自律訓練法を知る。また、教科書 pp.132－146 を通読し、日本で開発された心理療法を知る。
12	臨床心理学的援助の方法として、家族・集団・地域社会へのアプローチを学修する。教科書 pp.170－173 を塾読し、家族療法を知る。教科書 pp.173－178 を塾読し、グループ・アプローチを知る。また、教科書 pp.178－182 を塾読し、コミュニティー・アプローチとは何かについて理解する。
13	教育・福祉・司法のそれぞれの領域における臨床心理学的実践について学修する。教科書 pp.184－188 を通読し、学校現場での教育相談について知る。教科書 pp.189－193 を塾読し、福祉現場の心理臨床を知る。教科書 pp.194－198 を通読し、司法・矯正の領域での様々な実践現場を知る。
14	医療の領域における臨床心理学的実践について、教科書 pp.199－203 を熟読し理解する。また、産業の領域における臨床心理学的実践について、教科書 pp.204－208 を塾読し理解する。
15	地域における臨床心理学的援助について学修する。教科書 pp.209－213 を塾読し、地域における心理臨床家の役割を理解し、他機関との連携の在り方について学ぶ。教科書 pp.214－219 を塾読し、開業心理臨床の実際について理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】子ども・子育てに関わる諸問題への対応について，臨床心理学の理論や技法を2つ以上用いて述べよ。

＜ポイント＞

子どもや子育てに関連する諸問題を一つ選び、その問題にどのように対応していけばよいのかについて臨床心理学の視点から論じる。臨床心理学で用いられる理論や技法に関する概念や用語を2つ以上用いて説明することが求められる。

科目終了試験学修のポイント

1．臨床心理学における実践活動と研究活動について

＜ポイント＞

臨床心理学の実践の側面だけではなく、研究としての側面に触れる。実践活動と研究活動の関連性について述べられるとよい。

2．臨床心理学におけるアセスメントについて

＜ポイント＞

心理学的アセスメントの目的、技法およびその実践的な活用方法について説明する。

3．クライエント中心療法について

＜ポイント＞

クライエント中心療法の基本的な方向性およびカウンセラーの姿勢について説明する。

4．認知行動療法について

＜ポイント＞

認知行動療法の理論的背景に触れた上で、問題の発生要因の分析、介入技法について説明する。

5．家族療法について

＜ポイント＞

家族療法における問題発生の捉え方の特徴を説明した上で、問題を解決していくための視点と技法について述べる。

6．コミュニティ心理学的視点からの問題予防と成長促進へのアプローチについて

＜ポイント＞

人と社会（環境）との相互作用の中で生じる問題の発生について説明し、より健全なコミュニティへと発展させていく介入・実践について論じる。

教科書

野島一彦『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房。

参考文献

高塚雄介、他『臨床心理学～やさしく学ぶ～』医学出版。
伊藤良子『いちばんはじめに読む心理学の本1　臨床心理学　全体的存在としての人間理解』ミネルヴァ書房。

科目コード	レクリエーション理論（２単位）	登録年次	履修方法
1620/1622		1620：１年 1622：２年	R
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、佐藤友樹、清水信好、中村裕、堀建治		

科目概要

レクリエーションとは、余暇時間に行われる楽しい活動・行動を通じて、何らかのベネフィット（恩恵）・効果を得て、「人々がよりいきいきとした楽しく豊かな生活の実現を追求しようとする状態（よりよく生きる）」を指す。教育・保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学修する。幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。また、レクリエーションに参加する子ども達の発達段階やさまざまな背景によって配慮するべき点などを学ぶ。

学修内容

1	レクリエーション支援 レクリエーション支援とは（pp.9-14） 心の元気づくりの大切さを理解し、レクリエーション支援について学修していく。
2	レクリエーション・インストラクターの役割 レクリエーション・インストラクターの２つの役割（pp.15-18） レクリエーション・インストラクターに期待される役割と公認指導者資格について学修していく。
3	楽しさをとおした心の元気づくり 楽しさをとおした心の元気づくりの理解（pp.19-28） レクリエーション活動の楽しさを学修していく。
4	対象者の心の元気づくり ライフステージと心の元気づくり（p.29）、子どもや高齢者の心の元気づくり（pp.30-31）、障がいのある人の心の元気づくり（p.32） ライフステージごとの心の元気づくりの課題を学修していく。
5	地域とレクリエーション 心の元気と地域のきずな（pp.33-36） 地域のきずなづくりについて学修していく。
6	コミュニケーションと信頼関係づくり コミュニケーションと信頼関係づくりの理論（pp.37-43） レクリエーション支援におけるコミュニケーション、対象者との信頼関係について学修していく。
7	良好な集団づくり 良好な集団づくりの理論（pp.44-49） レクリエーション支援における集団づくりを理解し、集団内のコミュニケーションについて学修していく。
8	楽しむ力を育む理論 自主的、主体的に楽しむ力を育む理論（pp.50-56） 対象者が楽しさを十分に味わえるレクリエーション活動の実施について学修していく。
9	信頼づくりの方法・ホスピタリティ（もてなす意識と配慮） あたたかくもてなす意識と配慮（pp.57-61） もてなしの意識と配慮について学修していく。
10	信頼づくりの方法・ホスピタリティ（コミュニケーション技術） 気持ちをひとつにするコミュニケーション技術（pp.62-65） もてなす意識を持った上でのコミュニケーション技術について学修していく。
11	アイスブレーキング 良好な集団づくりの方法・アイスブレーキング（pp.66-69） アイスブレーキングのプログラムやアイスブレーキングの効果を高める支援技術について学修していく。
12	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法（目標設定） 楽しむ力を高める目標設定の方法（pp.70 -73） 目標設定の方法や対象者に合わせるアレンジの方法について学修していく。
13	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法（アレンジ） レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ（pp.74 -77） 目標設定の方法や対象者に合わせるアレンジの方法について学修していく。
14	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法（CSS プロセス） 対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法（pp.78 -82） CSS プロセスについて学修していく。
15	まとめ 現代社会とレクリエーションの関わり レクリエーションにおける支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】現代の日本社会が抱える課題、問題点を挙げ、それらに対して、いま自分ができるレクリエーション支援の方法、企画について述べよ。

＜ポイント＞
レクリエーション支援の目的を理解し、「対象者」、「活動内容」、「働きかけ」を明らかにした上で、具体的に述べること。

科目終了試験学修のポイント

1．公認指導者資格の種類について
＜ポイント＞
公益財団法人日本レクリエーション協会が認定登録している5つの公認指導者資格を把握する。

2．レクリエーション・インストラクターの役割について
＜ポイント＞
レクリエーション・インストラクターに期待される役割を認識する。

3．地域のきずなづくりについて
＜ポイント＞
地域のきずなづくりの実態を把握し、きずなづくりに関してどのような事業があるか考える。

4．ホスピタリティについて
＜ポイント＞
もてなす意識と配慮の重要性を認識し、その上で用いるコミュニケーション技術を学修する。

5．アイスブレーキングについて
＜ポイント＞
アイスブレーキング・モデルを認識し、アイスブレーキングの効果を高める支援技術を学修する。

6．CSSプロセスについて
＜ポイント＞
CSSプロセスの原則を理解し、その留意点や実施のタイミングを学修する。

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』
日本レクリエーション協会。

参考文献

なし

科目コード	レクリエーション理論（２単位） （レクリエーション・インストラクター資格登録者用）	登録年次	履修方法
1621		１年	S
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、菅家沙由梨、佐藤友樹、清水信好、中村裕、西田希、堀建治		

科目概要

レクリエーションとは、余暇時間に行われる楽しい活動・行動を通じて、何らかのベネフィット（恩恵）・効果を得て、「人々がよりいきいきとした楽しく豊かな生活の実現を追求しようとする状態（よりよく生きる）」を指す。保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学修し、幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。また、レクリエーションに参加する子供たちの発達段階やさまざまな背景によって配慮するべき点などを学ぶ。

学修内容

1	レクリエーション支援 心の元気づくりの大切さを理解し、レクリエーション支援について学修していく。
2	レクリエーション活動 楽しさをとおした心の元気づくりを理解し、ライフステージごとの心の元気づくりの課題を学修していく。
3	様々な対象にあったレクリエーション　(アイスブレーキング、具体的な方法等の提示) アイスブレーキングの意義と基本技術、アイスブレーキングのプログラミング
4	様々な対象にあったレクリエーション　(幼児期のレクリエーション) 幼児期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
5	様々な対象にあったレクリエーション　(児童期のレクリエーション) 児童期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
6	様々な対象にあったレクリエーション　(青年期・成人期のレクリエーション) 青年期・成人期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
7	様々な対象にあったレクリエーション　(高齢期のレクリエーション) 高齢期の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
8	様々な対象にあったレクリエーション　(障がい者のレクリエーション) 障がい者の特徴、課題、個人・集団・環境への働きかけ
9	レクリエーション事業計画 事業の考え方、展開方法、プログラムの組み立て方、グループ運営、安全管理の考え方
10	レクリエーション事業計画 個人や市民を対象としたプログラム・計画（アセスメント、計画、実施、評価、記録）
11	レクリエーション事業計画 素材とアクティビティの選択、素材のアクティビティの提供と相互作用
12	レクリエーションの準備とレクリエーションのおさらい 基本技術(環境の設定、アレンジ)、段階的アレンジ法の応用
13	レクリエーション事業の実際 レクリエーションの運営方法・実践
14	レクリエーション事業の評価と反省、アセスメント・計画までの振り返り
15	レクリエーションワークのまとめ 現代社会とレクリエーションの関わり

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』

日本レクリエーション協会。

参考文献

日本レクリエーション協会『福祉レクリエーション総論』中央法規。

日本レクリエーション協会『福祉レクリエーション援助の実際』中央法規。

科目コード	レクリエーションワーク（２単位） （レクリエーション・インストラクター資格登録者用）	登録年次	履修方法
1066		１年	S
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、佐藤友樹、清水信好、中村裕、西田希		

科目概要

レクリエーション理論で学修した内容をいくつかのシチュエーションで実際に応用することを学ぶ。個別・グループ・環境を見据えた保育・福祉の課題としてのレクリエーションの援助技術を実践的に身につける。
今日的社会福祉の課題としてのレクリエーションについて学修する。まず、ライフステージ（幼児・児童・青年・老年・障害者）に対応したレクリエーション援助の意義について理解する。そして、多様な場面での、対象者にふさわしいレクリエーション援助の技術（個別・グループ・環境）を実践的に身につける。

学修内容

1	レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさ レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさについて学び、これからのレクリエーションのあり方についてディスカッションする。
2	楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさをとおした心の元気づくり、ライフステージ、地域のきずなづくり 楽しさをとおした元気づくりについて学び、ライフステージごとの課題や地域のきずなづくりについて学修する。
3	レクリエーション支援の理論 コミュニケーション、良好な集団づくり レクリエーション支援におけるコミュニケーションの捉え方を学び、集団づくりについて学修する。
4	レクリエーション支援の方法 ホスピタリティ、アイスブレーキング ホスピタリティを理解し、コミュニケーション技術について学ぶ。また、アイスブレーキングの方法や種類を実践してみる。
5	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを作成） 幼児を対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
6	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
7	レクリエーションワーク 児童への取り組み方（プログラムを作成） 児童を対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
8	レクリエーションワーク 児童への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
9	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 施設を利用している高齢者を対象にプログラムを作成する。現場経験のある方はその経験を生かして計画する。
10	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
11	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを作成） 具体的な障がいを想定して、プログラムを作成する。現場経験がある方はその経験を生かして計画する。
12	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
13	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 高齢者や家族を対象にしたプログラムを作成する。自分の住んでいる地域を想定して企画する。
14	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
15	まとめ レクリエーションワークの振り返り 幼児から高齢者、障がい者、地域住民を対象とした取り組みを振り返る。

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』
日本レクリエーション協会。

参考文献

池田勝、他『レクリエーション活動の実際』杏林書院。
池良弘、他『障害を越えて楽しいレクリエーションーバリアフリーをめざしてー』日本レクリエーション協会。

科目コード	レクリエーションワーク（２単位）	登録年次	履修方法
1064/1067		1064：１年 1067：２年	ＳＲ
教員名	浅井泰詞、飯田昌男、沖雅美、菅家沙由梨、佐藤友樹、清水信好、中村裕、西田希、堀建治		

科目概要

保育・福祉の課題として、レクリエーションについて学修する。幼児・児童に対応したレクリエーション援助の意義について理解し、個別・グループ・環境を見据えたレクリエーションの援助技術を実践的に身につける。

学修内容

1	レクリエーション概論 レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさ レクリエーション支援の目的、レクリエーション活動の楽しさについて学び、これからのレクリエーションのあり方についてディスカッションする。
2	楽しさと心の元気づくりの理論 楽しさをとおした心の元気づくり、ライフステージ、地域のきずなづくり 楽しさをとおした元気づくりについて学び、ライフステージごとの課題や地域のきずなづくりついて学修する。
3	レクリエーション支援の理論 コミュニケーション、良好な集団づくり レクリエーション支援におけるコミュニケーションの捉え方を学び、集団づくりについて学修する。
4	レクリエーション支援の方法 ホスピタリティ、アイスブレーキング ホスピタリティを理解し、コミュニケーション技術について学ぶ。また、アイスブレーキングの方法や種類を実践してみる。
5	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを作成） 幼児対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
6	レクリエーションワーク 幼児への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
7	レクリエーションワーク 児童期への取り組み方（プログラムを作成） 児童期対象にしたプログラムを作成する。自分（学生）の得意なもので作成する。
8	レクリエーションワーク 児童期への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（声の大きさ、間の取り方、説明の手順や表情など）。
9	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 施設を利用している高齢者を対象にプログラムを作成する。現場経験のある方はその経験を生かして計画する。
10	レクリエーションワーク 高齢者を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
11	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを作成） 具体的な障がいを想定して、プログラムを作成する。現場経験がある方はその経験を生かして計画する。
12	レクリエーションワーク 障がい者への取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
13	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを作成） 高齢者や家族を対象にしたプログラムを作成する。自分の住んでいる地域を想定して企画する。
14	レクリエーションワーク 地域住民を対象とした取り組み方（プログラムを実施） ロールプレイングにて実施する。終了後、振り返る（計画に無理はなかったか、説明の手順や表情など）。
15	まとめ レクリエーションワークの振り返り 幼児から高齢者、障がい者、地域住民を対象とした取り組みを振り返る。

レポート設題

設題数	枚数	形式	用紙
1題	1題につき6～8枚	横書	本学指定レポート用紙（マス目）

【設題1】幼児期、児童期のレクリエーション活動について、その内容や企画・運営について、レクリエーションを指導する上での留意点について述べよ。

＜ポイント＞

レクリエーション活動と一言でいっても、その内容選定から当日の役割分担、指導を行う上での留意すること等、様々な知識・技能が必要とされる。それらの基本を踏まえてレポートを作成すること。

科目終了試験学修のポイント

1．心の元気づくりについて
＜ポイント＞
心の元気づくりの大切さ、レクリエーション活動の楽しさ

2．良好な集団づくりについて
＜ポイント＞
共通の目標、コミュニケーション

3．乳幼児期を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
乳児期の特徴、幼児期の特徴、乳幼児期の心の元気づくりの課題

4．児童期を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
児童期の特徴、児童期の心の元気づくりの課題

5．高齢期を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
高齢期の特徴、高齢期の心の元気づくりの課題

6．障がい者を対象としたレクリエーション支援について
＜ポイント＞
障がい者への配慮、障がい者の心の元気づくりの課題

教科書

日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法』日本レクリエーション協会。

参考文献

前橋明、他『最新健康科学概論』朝倉書店。